

日本古典作者事典 け 1800 ; [目次にもどる](#)

- 1800 圭(けい・大菅おおすが、別名;白圭/公圭こうけい、宗恒男)1712/1710-7867/69 近江彦根藩士;  
 国学/歌;野村東皐門、県居門、儒;荻生徂徠門、  
 「小倉百首批釈」「国歌八論斥非」「伊勢物語抄」、「中藪詩集」「中藪漫録」著、  
 「白華漫録」「源氏桐壺抄」「日参百首」「編年和歌集」「雅筵随筆」著、「多久繩集」編、  
 歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末入、  
 [あまぎらひ雪かも降ると見るまでに大洞山にさくらばな散る](八十浦;368/花の歌)  
 [圭の字/通称/号]字;瓊美さんび、通称;精兵衛/権兵衛、号;中藪/中養父なかやぶ/芥水、
- D1831 敬(けい・藤本ふじもと、字;惟恭)1724-9875 大和新口村の郷土、詩/俳諧、  
 1780詩「大和風雅」(寺尾一純と共編)、81「和州孝子善兵衛伝」84「田居集」著、  
 [敬の通称/号]通称;庄司/庄治、号;田居、芋園うゑん(;俳名)
- D1833 敬(けい・安代あじろ、字;万世/通称;啓輔/号;杏園)1795-184955 京の医者、本願寺出仕、  
 「花園綱目」「野菜小録」著
- F1820 敬(けい・長谷川はせがわ、字;子文、昭の男)1808-8679 美濃石津郡高須藩士;1834高須藩世子の侍講、  
 1849世子松平義恕(慶勝)が尾張家を嗣;名古屋で近侍/累積した藩債を処理;藩財政改革、  
 尊攘の藩論統一/安政大獄連座;追放禁錮「禁固日課集」執筆/1862赦免;京で国事奔走、  
 1864西郷と謀り長州征討を和平処理、66藩の用人、「慶勝公履歴付録」著、  
 [敬(;名)の通称/号]通称;惣蔵、号;拙斎/是風
- D1830 溪(けい・進鴻しんこう) 1821 - 188464 儒者;山田方谷門、備中松山藩士
- D1832 啓(けい・岡田おかだ、別名;高礼/康礼、金右衛門男)1780-186081 尾張藩士/国学;地歴/物産/医方、  
 小寺王晃と同好会設立、1843藩命で地誌「尾張志」編、歌/狂歌/回文、中島友文の師、  
 1808「たく柴日記」31「卯のはなのつと」、44「尾張名所図会」編、「尾張駅道通志」編、  
 「尾張国庁誌」「尾張駅道通志」「今姫三十六番狂歌合」「回文詠」、60「新撰美濃志」著、  
 [啓の通称/号]通称;金蔵/六兵衛、号;文園/酢粕、法号;真聴院
- N1854 敬(けい・内藤ないとう/本姓;藤原)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [あまの子がかげほす網の目路ぢ遠く雪にはれたる浦の松原]、  
 (大江戸倭歌;1304雪中眺望)

恵(けい・源)	→	恵(忠ほどこす・源みなもと、廷臣/歌人)	E 3 9 7 4
恵(けい・宇佐美)	→	瀧水(しんすい・宇佐美、儒者/詩)	E 2 2 7 3
恵(けい・草野/佐藤)	→	固庵(こあん・佐藤さとう/草野、儒者)	G 1 9 2 0
恵(けい・岩原)	→	恵規(よしのり・岩原いねはら、藩士)	G 4 7 0 2
恵(けい・守安)	→	蕙子(けいこ・姫井ひめい/守安、歌人)	N 1 8 9 1
啓(けい/ひらき・藤井)	→	竹外(ちくがい・藤井、詩人)	C 2 8 7 8
啓(けい・高)	→	円陵(えんりょう・高こう、儒者)	F 1 3 4 8
啓(けい・桑原)	→	鷲峰(しゅうほう・桑原くわばら、儒者)	I 2 1 2 8
啓(けい・上柳)	→	四明(しめい・上柳うわやなぎ/柳、儒者/詩)	F 2 1 8 1
啓(けい→ひらき・佐久間)	→	象山(しょうざん・佐久間さくま、藩士/兵学)	S 2 2 5 4
啓(けい・竹内)	→	啓(ひらく・竹内たけうち/小川、医者/尊王)	K 3 7 1 7
啓(けい・田内)	→	梅軒(ばいけん・田内たうち、陶磁研究家)	B 3 6 1 0
啓(けい・鳥山)	→	啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育)	K 3 7 0 4
慶(けい・松下)	→	見林(けんりん・松下まつした、医者/史家)	D 1 8 2 6
慶(けい・森本)	→	笑(しょう・森本もりもと/川上、歌人)	V 2 2 3 8
奎(けい・山口)	→	石室(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家)	K 2 4 1 3
奎(けい・山本)	→	道斎(どうさい・山本、医者/勤王派)	E 3 1 4 5
綱(けい・加藤)	→	章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者)	G 2 2 5 5
経(けい・冢田)	→	子常(しじょう・冢田つかだ、医者)	T 2 1 7 9

継(けい・馬田/長川)	→	東明(とうめい・長川ながかわ、儒者)	H 3 1 3 8
圭(けい・松岡/小田)	→	南暎(なんがい・小田おだ、藩士/儒者)	I 3 2 7 1
圭(けい・鈴木)	→	宜山(ぎざん・鈴木すずき、藩士/儒・医者)	I 1 6 5 9
圭(けい・石坂)	→	宗珪(宗圭そうけい・石坂いしざか、医官)	H 2 5 0 0
逕(茎けい・倉成)	→	竜渚(りゅうしよ・倉成くらなり/くらし、儒者)	E 4 9 5 9
勁(けい・吉川)	→	全筋(ぜんせつ・吉川よしかわ、儒者)	M 2 4 7 9
計(けい・戸崎/崎/源)	→	淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学)	H 2 6 9 4
敬(けい・竹村)	→	梅隠(ばいん・竹村たけむら、詩歌/紀行)	3 6 5 5
敬(けい・山本)	→	霞嶽(かがく・山本やまもと、医/儒者)	H 1 5 2 2
敬(けい・竹中)	→	通庵(つうあん・竹中たけなか、医者)	2 9 1 8
敬(けい・鈴木)	→	主計(かづえ:通称・鈴木すずき、眼科医)	M 1 5 1 2
敬(けい・高島)	→	勘兵衛(かんべえ・高島たかばたけ/高畑、考証家)	R 1 5 6 2
敬(けい・伊藤)	→	驥斎(きさい・伊藤いとう、藩士/西洋兵学)	K 1 6 5 0
敬(けい・若槻)	→	幾斎(きさい・若槻わかつき/源、儒者)	I 1 6 5 3
敬(けい・賀屋)	→	澹園(たんえん・賀屋かや、藩士/医者)	T 2 6 1 9
敬(けい・原田)	→	鶴斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌)	K 2 4 0 4
敬(けい・北条)	→	香雪(こうせつ・北条ほうじょう、書家)	K 1 9 1 5
敬(けい・岡田)	→	小篁(しょうこう・岡田おかだ、藩士/儒者)	I 2 2 7 7
敬(けい・中川)	→	紫山(しざん・中川ながかわ、医者)	T 2 1 6 1
敬(けい・下条)	→	秋水(しゅうすい・下条しもじょう、医者/国学)	X 2 1 7 4
綱(敬けい・海老名)	→	翹斎(ぎょうさい・海老名えびな、儒者)	N 1 6 8 4
桂(けい・平岩)	→	仙山(せんざん・平岩/平巖/平、儒/詩人)	F 2 4 4 6
桂(けい・江馬)	→	元齡(げんれい・江馬えま、医者/詩人)	N 1 8 1 3
桂(けい・沢井)	→	鶴汀(かくてい・沢井さわい、儒/詩人)	K 1 5 2 5
桂(けい・津田/横山)	→	蘭蝶(らんちょう・横山よこやま/津田、詩人)	C 4 8 9 9
桂(けい・村井)	→	蘇山(そざん・村井むらい、医者)	J 2 5 7 5
桂(けい・鳥飼/大塚)	→	毅斎(きさい・大塚おつか、藩士/儒者)	I 1 6 5 4
桂(けい・鹿島)	→	天翁(てんおう・鹿島かしま、俳人)	D 3 0 1 7
珪(けい・渡辺)	→	竜門(りゅうもん・渡辺/源、藩士/随筆)	F 4 9 7 8
景(けい・稲津)	→	紅蘭(紅鸞こうらん・梁川/修姓;張、詩)	C 1 9 0 1
景(けい・遠山)	→	伊清(これきよ・遠山とおやま、幕臣/歌研究)	E 1 9 1 6
景(けい・介川)	→	通景(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文)	B 4 1 3 1
馨(けい・芥藤)	→	竹堂(ちくどう・芥藤さいとう、儒者)	2 8 1 0
馨(けい・湯浅/青木)	→	芳斎(ほうさい・青木あおき、蘭方医者)	3 9 8 5
馨(けい・伊藤)	→	鳳山(ほうざん・伊藤いとう、漢学者)	B 3 9 1 4
斐(けい・毛利/藤)	→	壺邱(こきゅう・毛利/藤、儒/詩文)	F 1 9 5 3
斐(けい・安田/安部井)	→	帽山(ぼうざん・安部井あべい、藩儒)	B 3 9 2 0
斐(綱けい・村瀬)	→	藤城(とうじょう・村瀬むらせ、大庄屋/儒者)	F 3 1 3 3
斐(けい・中島/木山)	→	楓溪(ふうけい・木山きやま、藩士/儒者)	3 8 4 9
斐(けい・清水/東)	→	夢亭(むてい・東ひがし、儒医/詩文)	4 2 9 3
槃(けい・本木/友沢)	→	謙助(けんすけ・友沢ともさわ、藩士/儒者)	K 1 8 3 8
瓊(けい・宮本)	→	君山(くんざん・宮本みやもと/宮、絵師)	D 1 7 6 6
瓊(けい・利光)	→	仙庵(せんあん・利光としみつ、藩医者)	L 2 4 5 7

F1821 輓(けい・栗山くりやま、通称;芳輔よしすけ) ?-? 江後期1830-47頃和歌山の国学者:本居内遠門、  
「三国武備集覽」編

輓(けい・牧)	→	百峰(ひやくほう・牧まき、儒者)	E 3 7 7 8
輓(けい・福井)	→	楓亭(ふうてい・福井/福、医者)	3 8 9 5
輓(けい・井上)	→	常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌/画)	E 2 9 1 5
芸(けい・尾見/石島)	→	筑波(つくば・石島/尾見/石、浪人/儒詩)	2 9 7 9

- 芸(げい→うん・片岡) → 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7  
芸(げい→うん・田崎) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
- 1801 敬阿(けいあ) ? - ? 江戸期読本作者、1755「化物判取帳」  
敬阿(けいあ;字) → 学信(がくしん;法諱・敬阿、浄土僧) K 1 5 0 9  
慶阿(啓阿けいあ・) → 満広(みつひろ・真下ましも、幕臣/連歌) E 4 1 6 6  
藝阿(げいあ・真芸) → 藝阿弥(げいあみ、絵師/連歌) 1 8 3 1  
慶阿上人(けいあしょうにん) → 弁玉(べんぎよく;法諱、浄土僧/歌人) B 2 7 2 0  
啓阿彌(けいあみ・木脇) → 祐業(すけなり・木脇、啓四郎/藩士/絵師) C 2 3 6 9
- 1831 藝阿彌(げいあみ;号・真藝;法名、別号;学叟、能阿弥男) 1431-8555 義満將軍同朋衆/幕府書画管理、  
絵師;水墨画「観瀑僧図」/連歌;1480將軍家連歌/82何人百韻参加、新菟2句入、相阿弥父  
敬阿弥陀仏(けいあみだぶつ) → 公慶(こうけい;法諱、三論僧/大仏修復) I 1 9 4 0
- D1834 慶安(けいあん/よしやす・青地あおち/本姓;源みなもと、青地高正男) 1648-172982歳 近江金勝こんぜ村の生?  
近江高島郡真宗大谷派の法正寺住僧/京万里小路の医者?、  
俳諧;西武門/両部神道;浅井了意門/歌;二条家学、  
1680俳論「二つ盃」(高政「中庸姿つねのすがた」と随流「破邪顕正」の論争の評論)、  
1719「両部神道口訣鈔」20「本朝天文」、歌道門人;寺田重徳・小野寺十内夫妻、  
[慶安(;名)の別名/通称/号]別名;郷高、通称;九郎/金勝入道こんぜにゅうどう(;俳話)、  
俳号;任佗にんた
- E1863 敬庵(けいあん・佐藤さとう、名;惟孝) 1683-175573 江戸の儒者、「名義録」「書集伝」「暗夜の燈」、  
「漢土易伝約説」「旧話新談」「毛詩解頤」「周易談」  
[敬庵の字/通称/別号] 字;子友/士友/経卿、通称;新介、別号;冬嶺館、法号;松雲院
- E1800 桂庵(けいあん・木村きむら、名;俊篤/通称;彦恭) ?-? 江中期18c末末期京の儒者、「百梁集」、  
1790「桂庵詩集」91「忠経精解」95「観音経国字解」著
- F1822 敬安(けいあん・岡おか、名;吉/恭、字;子順/士順) ?-1848 但馬岡の生/大阪で医者;山脇東門門、  
高麗橋東詰で開業/儒;皆川淇園門、大塩平八郎と交流、板木を多数所有;素人出版、草書、  
1830「医要略説」1831「憲治烏臬」「温疫論闕疑略説」「傷寒論闕疑略説附議註」、「薬功親験」著、  
[敬安の号] 栩峯くほう/博約堂/時狂斎
- F1823 溪庵(けいあん・鏑木かぶらき、名;徳胤/通称;卯三郎、雲潭男) 1819-70暗殺52 絵師;父門、月琴/茶道、  
1870(明治3)東京桜田の彦根藩邸付近で暗殺された、1859「清風雅譜」編
- 桂庵(けいあん;道号・玄樹) → 玄樹(げんじゅ;法諱・桂庵、臨濟僧/薩南学派祖) 1 8 1 7  
桂庵(けいあん・飯田) → 無物(むぶつ・飯田いいだ、俳人) C 4 2 9 7  
桂庵(けいあん・古林) → 見宜(けんぎ・古林ふるばやし、医者) B 1 8 3 4  
桂庵(けいあん・津島) → 恒之進(つねのしん・津島つしま、本草家) C 2 9 9 7  
桂庵(けいあん・殿村) → 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8  
桂庵(けいあん・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1  
圭庵(けいあん・三牧) → 慶五(けいご・三牧/佐藤、俳人) F 1 8 5 4  
敬庵(けいあん・堀) → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) 1 6 2 9  
敬庵(けいあん・甲賀) → 祐賢(ゆうけん・甲賀こうが、医者) B 4 6 4 3  
景安(けいあん・中原) → 景安(景康かげやす・中原、楽人) F 1 5 0 2  
景安(けいあん/かげやす・古田) → 重然(しげなり・古田ふるた、武将/茶人) 2 1 1 1  
芸庵(げいあん→うんあん・赤塚) → 正賢(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌) M 4 0 0 6
- D1835 敬以(けいい) ? - ? 撰津福原俳人、1748一葉「兔の目」入;天野社奉納  
兮矣(けいい・吉田) → 宗左衛門(そうざえもん・吉田、眼科医/詩) H 2 5 4 2  
経為(けいい・山本) → 経為(つねため・山本たまもと、神職/国学) G 2 9 6 8  
経威(けいい・岡本) → 経威(つねたけ・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 4 9  
敬意(けいい・朝日) → 重村(しげむら・朝日あさひ、藩士/神道) D 2 1 1 3  
慶意(けいい、藤原章輔男) → 慶意(きょうい、天台僧、歌人) 1 6 3 1
- E1833 景一(けいいち・浦山うらやま) ? - ? 丹波篠山藩士、歌・橘千蔭門、1804「公私要記臆」  
敬一(けいいち・長森) → 以休(いきゅう・長森ながもり、儒者) F 1 1 2 1  
敬一(けいいち・古賀) → 穀堂(こくどう・古賀こうが、藩士/儒者/詩) C 1 9 3 9

- 敬一(けいち・鹿野) → 敬一(よしかず・鹿野しかの、藩士/文筆家) C 4 7 5 3  
 敬一(けいち・小出) → 敬一(たかかず・小出こいで、神職/歌人) W 2 6 9 8  
 敬一(けいち・今) → 幹斎(かんさい・今こん、藩侍医/詩文) V 1 5 5 2  
 敬一(けいち・安田) → 敬一(あつかず・安田やすだ、本陣/国学/歌) I 1 0 6 1  
 圭一(けいち・菅波/菅) → 恥庵(ちあん・菅/菅波、儒者/詩文) 2 8 3 7  
 経一(けいち・宮川) → 経一(つねかず・宮川みやがわ/山部、神職/国学) G 2 9 5 1  
 慶一(けいち・下河) → 東里(とうり・下河しもかわ、藩士/儒者/詩) I 3 1 1 1  
 慧一(けいち・冢田) → 旭嶺(ぎよくい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4  
 圭一郎(けいちろう・高妻) → 五雲(ごうん・高妻こうつま、儒者/教育者) Q 1 9 8 1  
 桂一郎(けいちろう・鹿島) → 天翁(てんおう・鹿島かしま、俳人) D 3 0 1 7  
 敬一郎(けいちろう・藤田) → 陶庵(とうあん・藤田、儒者/教育者) 3 1 9 0  
 敬一郎(けいちろう・曾根) → 魯庵(ろあん・曾根そね、藩士/教育) 5 2 1 4  
 敬一郎(けいちろう・大和) → 篤(あつし・大和だいわ、藩士/歌人) H 1 0 9 2
- 1832 蕙逸(けいつ・山田やまだ) 1796- 1867 72 近江大津の麴商/俳人:五来門/法橋、  
 1846「夏木立集」編(:幻住庵記模刻)、48「類題名家発句集」編、  
 [蕙逸の通称/別号]通称;弥兵衛、別号;蕙布/幻住庵  
 経逸(けいつ・勸修寺) → 経逸(つねとし・勸修寺かじゅうじ/藤原、廷臣/記録) C 2 9 6 7
- F1818 溪隠(けいん) ? - ? 琉球僧、1458「首里城正殿の鐘」(万国津梁しんりょうの鐘)の銘文
- F1824 圭陰(桂陰けいん・佐藤さとう、名;養/字;君正) ?-? 江後期1830-44頃江戸の医者・詩人、  
 「直養齋一家言」著、  
 [圭陰の通称/別号]通称;虎一、別号;直養齋、  
 参考;1861「広益諸家人名録」に次のごとき人物あり;同一人か?  
 桂陰(けいん:号)[名;養正/字;聖功/通称;虎一/号;・愛蓮、詩・煎茶人をよくす]
- F1825 桂陰(けいん・棚谷たなや、名;元善/字;元卿、喬庵男) 1813-82 70 常陸笠間藩医、儒学;朝川善庵門、  
 藤田東湖・藤森弘庵と交流、藩の侍医兼顧問、「医道沿革考」「和漢治病纂論」「国史攬要」著、  
 [桂陰の通称/別号]通称;善庵、別号;鳳陽/天香齋
- 契因(けいん・榎並/貞峨庵) → 海音(かいおん・紀きの、浄瑠璃作者/狂歌) 1 5 0 1  
 経員(けいん・大中臣) → 経員(つねかず・大中臣おおなかとみ、神職/連歌) B 2 9 8 5  
 経因(けいん) → 経因(きょういん、僧/歌人) C 1 6 1 7  
 経尹(けいん・藤原) → 経尹(つねまさ/つねただ・藤原、歌人) D 2 9 6 4  
 経尹(けいん・世尊寺) → 経尹(つねまさ/つねただ・世尊寺、歌人) D 2 9 6 5  
 桂陰(けいん・出雲路) → 定信(さだのぶ・出雲路いずもじ/春原/斎部、神職/国学) L 2 0 8 6  
 桂陰(けいん・白米) → 満直(みつなお・白米はくまい、神職) K 4 1 0 6  
 桂蔭(桂陰けいん・渡/亙) → 忠秋(ただあき・渡/亙わり/鳥居、歌人) E 2 6 7 8  
 景員(けいん・朝倉) → 景員(かげかず・朝倉あさくら、藩士/国学) T 1 5 4 0  
 景胤(けいん/かげたね・山本) → 学半(がくはん・山本やまもと、儒者) K 1 5 3 9  
 敬允(けいん・松下) → 定賢(さだかた・岡本おかもと/松下、神職) O 2 0 1 9  
 慶因尼(けいんに) → 松寿院(しょうじゅいん、伊東、藩主室/藩政参加) U 2 2 8 2
- D1856 圭雨(けいう) ? - ? 江後期安藝俳人、1825蟹守「新編俳諧文集」;「名月辞」入、  
 1810玄阿「やまかつら」入
- E1864 敬宇(けいう・中村なかむら、名;正直まさなお、幼名訓太郎、武兵衛男) 1832-91 60 幕臣/1842昌平覺入、  
 儒;佐藤一斎門/蘭学;桂川甫周門、1862幕府儒官/66英国留学生派遣の取締役;欧州派遣、  
 静岡学問所教授/新政府出仕、東大教授、「西国立志編」(訳)/「百笑百妙」著、  
 [敬宇の通称/別号]通称;敬輔/敬太郎、別号;鶴鳴/梧山/無思敬人/無思陳人/無所争斎  
 敬雨(けいう・菩提庵) → 祇空(ぎくう・稲津、俳人) 1 6 9 4  
 敬宇(けいう・安田/山県) → 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3  
 景羽(けいう・高橋) → 杏村(きょうそん・高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7
- 1802 慶運(けいうん・きょううん;法諱、法印浄弁男) 1296?-? 1369存 天台僧;青蓮院尊円・尊道親王に出仕、  
 法印、1355-66祇園別当目代を3度、歌:為世門;和歌四天王の1、1315為世「花十首寄書」出詠、  
 1344「高野山金剛三昧院奉納和歌」参加/50為世十三回忌和歌出詠(権律師名)、

1352「後普光園院殿百首」に頓阿・兼好と加、慶孝の父/基運の師、  
「慶雲百首」「慶雲法印集」「浄辨並慶雲歌集」「骸骨の絵の賛」、「直幹申文絵詞」書、藤葉入、  
勅撰18首;風雅(1746)新後拾(469/641/1324/1350)新続古今(13首85/547/743/831以下)、  
[ちりの身ぞ置き所なき白雲のたなびく山の奥はあれども](風雅集;雑1746)  
[忘れずよ夢にかはらでうつりゆくうつせみの世の十とせあまりは](為世忌;126/懐旧)  
参考 **和歌四天王**(為世門弟)=浄弁・頓阿・能与(誉)・兼好[能与没後に慶雲を加える]

- E1840 **慶運**(けいうん;法諱) ? - ? 1618存 真言僧;東大寺宝輪院住、連歌;1618寿重らと百韻  
F1837 **慶雲**(けいうん;法諱) ? - ? 江中期1704-16頃天台叡山僧;安楽門?、  
1711「光明玄記随聞記」、「法華玄開講光明文記」「金光明疏記筆記」著  
F1828 **慶雲**(けいうん;法諱、通称;恢通かいつう)?-? 江中期1716-36頃真宗僧;肥前成満寺住、  
「正信偈説約」著  
F1826 **溪雲**(けいうん・狩野かのう、名;来信、共信[柳溪]男/本姓藤原)?-1806 絵師、祖父は中信(柳雪)、  
「古代行列画纂」著、法号;信良院  
F1827 **卿雲**(慶雲けいうん・矢田部やたべ/旧姓;荒井、)1820-57<sup>38</sup> 武州賀美郡勅使河原村の農家、  
1854伊豆葦山代官江川坦庵に出仕;蘭書訳方/54長崎海軍伝習に参加/55幕府鉄砲付、  
蘭書翻訳方;江戸本所江川邸で没、1845「撒氏産科書」著、「撒羅満氏産論鈔」訳、  
[卿雲(;号)の名/字/法号]名;欽/信任のぶただ?、字;英風、法号;清心院、  
息子;良吉(植物学者)  
N1848 **啓運**(けいうん;法諱・岡部おかべ)1824-1901<sup>78</sup> 江後期真宗大谷派僧;佐渡相川の称念寺住職;  
称念寺中興、1858大江戸倭歌集入集の啓運と同一?、  
☆ [松の色をよそに隔てし庭桜同じ緑の夏は来にけり]、  
(大江戸倭歌;夏400/庭新樹、僧啓運)

慶雲(けいうん・岡本七之助)	→ 慶雲(きょううん・岡本、藩士/軍記)	N 1 6 2 4
桂雲(けいうん)	→ 長孝(長好ながよし・望月、歌人)	3 2 2 2
卿雲(けいうん・狩谷)	→ 掖斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者)	1 3 0 7
啓運(けいうん;字)	→ 日澄(にっしょう・円明[妙]院、日蓮僧)	F 3 3 1 6
溪雲院(けいうんいん)	→ 通茂(みちしげ・中院、廷臣/歌人)	4 1 0 6
溪雲軒(けいうんけん)	→ 典則(つねのり・根岸/中原/岸、詩歌/禪)	D 2 9 1 7
桂雲斎(けいうんさい)	→ 月秀(つきひで・歌川うたがわ、絵師)	2 9 5 4
溪雲斎(けいうんさい)	→ 正名(まさな・水野みずの、藩士/藩政改革)	E 4 0 9 5
慶雲斎(けいうんさい)	→ 常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌/画)	E 2 9 1 5
慶雲亭(けいうんてい)	→ 中孚(ちゅうふ・加藤、俳/詩人)	G 2 8 8 1
軽雲亭(けいうんてい)	→ 国丸(くにまる・歌川うたがわ、絵師)	1 7 9 3
溪雲亭(けいうんてい)	→ 魯石(ろせき・木村きむら、商家/俳人)	5 2 0 5
景恵(けいゑ)	→ 景恵(けいけい、真言僧・連歌)	1 8 4 6
経永(けいゑい・吉川)	→ 経永(つねなが・吉川きつかわ、領主/国学)	F 2 9 6 2
敬永(けいゑい・尾池)	→ 春水(はるみ・尾池おいけ、藩士/歌人)	G 3 6 9 0
敬英(けいゑい・谷井)	→ 敬英(のりひで・谷井、医/儒者)	F 3 5 5 7
敬英(けいゑい・那須)	→ 敬英(のりひで・那須、国学者)	F 3 5 5 8
敬英(けいゑい/のりひで・安井)	→ 玉洲(ぎょくしゅう・安井やすい、漢学者)	P 1 6 0 7
景瑛(けいゑい/かげてる・西河)	→ 菊荘(きくそう・西河にしかわ、浅井、儒者)	K 1 6 1 6
慶永(けいゑい/よしなが・田安/松平)	→ 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌)	J 2 1 3 3
慶英(けいゑい・篠原)	→ 慶英(よしひで・篠原しのはら、武芸者/書画)	G 4 7 4 1
桂影舎(けいゑいしゃ)	→ 露葉(るよう・桂影舎、俳人)	C 5 2 4 8
啓益(けいえき・香月)	→ 牛山(きゅうざん/ござん・香月かつき、医者/随筆)	M 1 6 6 6
敬益(けいえき・神馬)	→ 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人)	J 2 6 1 1
景益(けいえき・かげます・里村)	→ 昌程(しょうてい・里村[南家]、幕府連歌師)	U 2 2 3 7
景益(けいえき・里村)	→ 昌伯(しょうはく・里村[北家]、幕府連歌師)	B 2 2 2 2
景易(けいえき・里村)	→ 昌建(しょうけん・里村さとむら、連歌宗匠)	R 2 2 3 5
形役庵(けいえきあん)	→ 鸞動(らんどう・古沢ふるさわ/橋川、俳人)	D 4 8 0 8

恵右衛門(けいえもん・日根野)→鏡水(きやうすい・日根野ひねの、藩士/儒者) J 1 6 1 3  
 恵右衛門(けいえもん・小豆沢)→勝貞(かつさだ・小豆沢あずきざわ、歌人) T 1 5 4 2  
 溪右衛門(けいえもん・由良)→時謹(ときざね・由良ゆら、藩士/暦算家) J 3 1 1 6  
 景右衛門(けいえもん・宮崎/秋山)→文鳥(ぶんちやう・秋山、藩士/俳人) G 3 8 1 9  
 継右衛門(けいえもん・彭城/劉)→素軒(そけん・劉りゅう/彭城/武岡、通事) J 2 5 6 0

1833 慶延(けいえん;法諱) ? - ? 平安後期真言醍醐寺僧、1158都維那/61頃知院従儀師、1178権寺主/86三宝院上座職、「醍醐雑事記」

F1829 桂園(けいえん・石原いしはら、名;亨/享、字;竜卿/竜郷)?-? 江戸後期美濃下宿の内科医、儒学、「愚得随筆」「草木彙解」「素問抄撮」著、「愚得鈔筆」著(息の東隄とうてい補)  
 [桂園の別号] 芝場庵/梓山しざん、東隄とうてい(儒者)の父

F1830 桂園(けいえん・森田もりた/旧姓;大城おおしろ、名;清行) 1812-6150 江戸四谷坂町の生/森田金助の養嗣、1818家督:幕臣/1838学問教授方出役/39学問所勤番/49小普請方/51代官;出羽・甲斐支配、1857撰津河内和泉三国支配/58勘定組頭、60渡米大使新見正興に随行、「亜行日記」「亜米利加航海出入簿」「航米雑詩」、「桂園詩稿」「桂園叢書」著、[桂園の字/通称/法号]字;士直、通称;岡太郎、法号;天香院

F1831 蕙園(けいえん・伊達だて、名;邦孚くにたか、字;子華) 1829-6234 陸前黒川郡宮床領主伊達宗賢の養嗣子、儒/詩人;松井竹山門、開国勤王論主唱、洋式銃製造、「蕙園詩集」「村居百絶」「詠物百律」

恵園(けいえん・平野) → 繁十郎(しばじゅうろう・平野ひらの、唐通事) R 2 1 0 6  
 螢園(けいえん) → 弘泰(ひろやす・山崎、国学/歌人) H 3 7 5 7  
 景婉(けいえん) → 紅蘭(こうらん・梁川、星巖妻/詩人) C 1 9 0 1  
 景延(けいえん・加藤) → 景延(かげのぶ・加藤かとう、医者/国学) U 1 5 0 7  
 桂園(けいえん) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2  
 桂園(けいえん) → 景恒(かげつね・香川、景樹男/歌人) 1 5 6 8  
 桂園(けいえん) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 桂園(けいえん) → 尚謙(しょうけん・岡村、医・本草) I 2 2 4 9  
 桂園(けいえん) → 竹溪(ちくけい・沼田ぬまた、儒者/私塾) C 2 8 8 8  
 桂園(けいえん) → 如雲(じょうん・田宮、藩士/合戦記) M 2 2 1 5  
 桂園(けいえん) → 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5  
 桂園(けいえん) → 時言(ときのみこと・伊庭いば、歌人) J 3 1 7 3  
 桂園(けいえん) → 友子(ともゆき・倉谷くらたに/藤原、医者/歌) Q 3 1 8 6  
 桂園(けいえん) → 景秀((かげひで・藤尾ふじお、官吏/国学) V 1 5 5 4  
 桂園(けいえん) → 尚謙(しょうけん・岡村おかむら、医者/本草) I 2 2 4 9  
 桂園(けいえん) → 成梁(せいりやう・島川/二見、国学者) J 2 4 8 4  
 桂園(けいえん) → 信敦(のぶあつ・下曾根、幕臣/砲術) 3 5 9 2  
 桂園(けいえん) → 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸、検校) G 3 9 2 9  
 桂園(けいえん) → 方教(よりのり・原川はらかわ、歌人) O 4 7 6 6  
 薊園(けいえん・瀬戸) → 久敬(ひさたか・瀬戸せと、藩士/歌人) B 3 7 2 5  
 経円(けいえん;法諱) → 経円(きやうえん、藤原/興福寺僧/歌人) C 1 6 2 4  
 経延(けいえん・中川) → 経冬(つねふゆ・中川/荒木田、神職/歌) D 2 9 6 1  
 経遠(けいえん・勸修寺/甘露寺) → 経遠(つねとお・甘露寺、廷臣/故実) C 2 9 6 1  
 雞園(けいえん・杉原/御巫) → 清生(きよなり・御巫みかんなぎ、神職/詩歌) P 1 6 6 2  
 慶円(けいえん) → 慶円(きやうえん・けいえん、天台座主) N 1 6 2 6  
 慶縁(けいえん;法諱) → 北山(ほくざん・勸成院、真宗大谷派僧) D 3 9 2 2  
 景延(けいえん・衣笠) → 景延(景信かげのぶ・衣笠きぬがさ、武将/藩士/歌人) U 1 5 5 1  
 景遠(けいえん/かげとお・神野) → 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) I 1 6 4 7  
 景婉(けいえん・稲津) → 紅蘭(紅鸞こうらん・梁川/修姓;張、詩) C 1 9 0 1  
 瓊垣翁(けいえんおう) → 忠栄(ただなが・元木もとき、儒/国学/神道) Z 2 6 9 5  
 桂園主人(けいえんしゅじん) → 義鳴(よしなり・大鐘おおがね、藩士/歌文) F 4 7 4 2  
 桂園与一(けいえんよいち) → 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸、検校) G 3 9 2 9  
 蕙塢(けいお・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1

- F1832 **慶往**(けいおう;法諱) ? - ? 江後期;寛政1789-1801頃大阪真宗徳竜寺住職、三業惑乱論争で功存こうぞん「願生帰命辨」を批判、1787「本願招喚義」、「攻蝠指正録」著
- D1837 **桂翁**(けいおう・山田やまだ、別号;陀仏)1760-? 1831存 幕臣、御家人?/人足寄場・医学館に勤務、1831巷談「宝暦現来ほうれきげんらい集」
- 桂翁(けいおう) → 貞兼(ていけん・藤谷、俳人) 3 0 6 6
- 桂翁(けいおう・井上) → 篤好(あつよし・井上いのうえ、神道家) E 1 0 9 5
- 桂翁(けいおう・園原) → 旧富(ひさとみ・園原/藤原、神職/童謡) B 3 7 5 5
- 兮翁(けいおう・神戸) → 習悦(しゅうえつ・神戸かんべ、医・回虫治療) W 2 1 6 9
- 敬翁(けいおう・大野) → 茂則(しげのり・大野おの、庄屋/歌人) N 2 1 8 0
- 軽鷗(けいおう) → 左明(さめい、松露庵2世、俳人) D 2 0 9 5
- 軽鷗(けいおう・小笠原) → 長常(ながつね・小笠原、幕臣/町奉行) E 3 2 5 6
- 稽翁(けいおう) → 木筋(ぼくせつ・望月、医者/俳人) D 3 9 5 7
- 景翁(けいおう) → 豊資(とよすけ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 0
- 景欧(けいおう・川島) → 蘭洲(らんしゅう・川島かわしま、農業/書家) C 4 8 6 4
- 溪旺(けいおう;法諱) → 日珥(にちがん;法諱、修験僧) B 3 3 1 7
- 溪翁(けいおう) → 雲竹(うんちく・北向きたむき/林/野田、書家) D 1 2 9 5
- 慶応(けいおう;法諱) → 慶応(きょうおう;法諱・西野にし、真宗僧) U 1 6 9 5
- 慶翁(けいおう・片桐) → 嘉保(よしやす・片桐かたぎり、藩士/暦算家) H 4 7 7 9
- 慶翁(けいおう・鷺尾) → 益敬(ますたか・鷺尾わしのお、藩士/郡奉行) J 4 0 0 6
- 1834 **溪屋**(けいおく) ? - ? 俳人、1841作法書「俳諧目廼童」著
- D1838 **桂屋**(けいおく・斎藤) ? - ? 読本作者;馬琴に私叔、1853「木石余譚」作画
- F1833 **桂屋**(けいおく・下田しもだ、名;讓、別号;緑郷)?-1862 姫路藩士/家老河合寸翁に重用;医学寮留守居、詩文/南宋画;浦上春琴門/山水画、「桂屋遺稿」
- 桂屋(けいおく・小島) → 政敏(まさとし・小島こじま、地役人/国学) P 4 0 5 9
- 桂屋(けいおく・中村) → 義芳(よしふさ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 3
- 瓊音(けいおん→ぬなど) → 千尋(ちひろ・進藤、坊官/国学/歌) F 2 8 2 6
- 経音(けいおん・大炊御門) → 経音(つねなり・大炊御門おおいみかど、記録) C 2 9 9 2
- 敬恩(けいおん) → 敬恩(きょうおん;法諱、真宗僧) N 1 6 3 6
- 慶恩(けいおん) → 慶恩(きょうおん;法諱、真宗僧) N 1 6 3 7
- F1834 **桂花**(けいか・畠山はたけやま、名;義高よしたか、光政[牛安]男/本姓源)1626-9368 常陸水戸藩医;家業、1662法橋、書画鑑定家/詩歌人、「鑑定雑記」「温知雑事」「古筆人名考」「桂花園詩集」「桂花園和歌集」「桂花園文集」著、[ふる里におもひ出でてや詠ながむらん旅寝ともなふ月のこよひは]、(茂睡[鳥の迹]雑上558/畠山牛庵随世名)、[桂花(;号)の幼名/通称/別号]幼名;長八郎、通称;牛庵/随世、別号;君水/伝庵/桂花園/即応/今牛庵
- 桂華(けいか;号) → 南麟(なんりん;法諱/高霖、本願寺派僧) I 3 2 8 2
- 瓊華(けいか・蔵田) → 花子(はなこ・蔵田くらた/泰蔵、歌人/書) K 3 6 0 9
- 景佳(けいか・早川) → 景佳(かげよし・早川はやかわ、歌人) T 1 5 1 4
- 敬窩(けいか・梅津) → 利忠(としただ・梅津うめづ、藩士兵法家) M 3 1 6 9
- 経遐(けいか・栗野) → 経麻(つねあさ・栗野/度会、神職/国学) B 2 9 6 1
- 経家(けいか) すべて → 経家(つねいえ)
- F1835 **景雅**(慶雅けいが;法諱・号;浄慶房、源みなもと頭雅男)1103-8583 華嚴;良覚門/知徳;南都北嶺に有名、真言;醍醐山・仁和寺華嚴院住、1183法橋、「華嚴論草」「金師子章勘文」著、[景雅の通称] 岡の法橋/醍醐の法橋、高弁・聖詮しょうせんの師
- F1836 **契雅**(けいが;法諱) ? - ? 肥後天台僧;阿蘇郡西巖殿寺長善坊住、法印、連歌:1552上京/近衛植家たねいえ・久我晴通・宗養・紹巴を招き「山何百韻」興行、1552阿蘇山長善坊契雅興行「山何百韻」
- 1835 **恵賀**(けいが) ? - ? 連歌師、1558「花千句」入
- D1839 **慶峨**(けいが) ? - ? 伊勢山田俳人:1633重頼「犬子えのこ集」765

[咲く花の色ぞむらさき石の竹](犬子集;765石竹)

- 1836 鶏賀(けいが) ? - ? 京の俳人、鬼貫と親交、1710「誹諧何の姿」編、  
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
[行く秋や身は持ちよふて覚束な](伊丹発句合;秋)
- 1837 慶賀(けいが・川原かはら/改姓;田口、名;種美、川原香山男)1786-1862<sup>77</sup> 肥前長崎の洋画家;父門、  
出島蘭館の絵師/動植物写生画、1826シボルトの委嘱で菓草類写生/28シボルト事件連座入牢、  
1842国禁に触れ江戸長崎払い、1818「阿蘭陀加比丹并妻子等図」画/36「慶賀写真草」著、  
1836「花実草木写真図譜」画、「草木花実写真図譜」著、  
[慶賀の通称/別号]通称;登与助、別号;聴月楼
- 経雅(けいが・中川) → 経雅(つねまさ・中川/荒木田、神職/歌) D 2 9 7 0  
敬雅(けいが;法名) → 雅俊(まさとし・飛鳥井、廷臣/蹴鞠/歌) 4 0 1 4  
敬迓(けいが・小出) → 侗斎(とうさい・小出こいで、儒者) E 3 1 1 9  
桂下庵(けいかあん) → 鯨瓢子(ねんびょうし、俳人) 3 4 6 8  
桂花庵(けいかあん) → 友扇(ゆうせん・佐藤さとう、俳人) D 4 6 2 0
- 1838 景戒(けいかい/きょうかい/きょうがい、俗姓大伴)?-? 平安初期紀伊名草僧/大和薬師寺法相僧:795伝灯住位、  
9c1810-24頃成立「日本国現報善悪霊異記(日本霊異記)」編  
[怨あた(恨)を以て怨に報ゆるは 草をもて火を滅すが如く  
慈うつくしを以て怨に報ゆるは 水をもて火を滅すが如し](長阿含教引用;日本霊異記)
- 経海(けいかい) → 経海(きょうかい;法諱、天台僧) N 1 6 3 9  
経解(けいかい・守村) → 抱篋(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人) 3 9 3 9  
桂海(けいかい) → 元瑞(げんずい・中西/小川、藩士/医者) K 1 8 3 5  
慶海(けいかい) → 慶海(きょうかい、真宗僧) N 1 6 4 0  
景海(けいかい・檜崎) → 景海(かげうみ・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) K 1 5 7 9  
恵懐(けいかい・須貝) → 恵懐(しげつね・須貝、藩士) R 2 1 6 0  
瓊海(けいかい・岡野) → 明德(めいとく・岡野/岡埜おかの、医者) 4 3 3 1
- 1840 溪崖(けいがい・原はら、別号;青雲斎/三巴)?-? 江中期華道家/宏道流;望月義想門、  
宏道流を広める;門人3千人、1770「瓶史述要」著
- 蕙崖(けいがい) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
鯨海酔侯(げいかいすいこう) → 豊信(とよしげ・山内やまのうち容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8  
桂下園(けいかえん) → 東恕(とうじよ・伊吹いぶき、医者/俳人) F 3 1 2 2  
桂花園(けいかえん) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
桂花園(けいかえん) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7  
桂花園(けいかえん) → 桂花(けいか・畠山、光政男/医/歌/鑑定) F 1 8 3 4  
桂花翁(けいかおう) → 友扇(ゆうせん・佐藤さとう、俳人) D 4 6 2 0  
瓊牙翁(げいこう) → 往次(ゆきつぐ・石川いしかわ、神道家) G 4 6 5 2
- 1839 恵覚(けいかく/えかく) ? - ? 連歌師、1385「石山百韻」連衆
- 桂閣(けいかく・大河内) → 輝声(てるな・大河内/松平、藩主/歌人) B 3 0 4 6  
経覚(けいかく) → 経覚(きょうがく;法諱、法相僧) G 1 6 6 2  
経覚(けいかく→きょうがく;号) → 師重(もろしげ・北島/源、権大納言/歌) H 4 4 2 6  
桂岳(けいがく;字) → 寂仙(じやくせん;法諱・桂岳;字、浄土僧) W 2 1 0 3  
恵岳(けいがく) → 恵岳(えがく・俊道、真言僧/万葉学) 1 3 5 3  
慶学(けいがく;法名) → 章長(あきらなが・高辻、廷臣/漢学) F 3 5 3 3  
景岳(けいがく・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1  
稽嶽(けいがく;字) → 日耕(にっこう;法諱・恭寿院、日蓮僧) D 3 3 8 8  
芸閣(けいかく→うんかく/藝は誤) → 芸閣(うんかく・千葉、儒者/詩人) B 1 2 0 6  
桂花舎(けいかしゃ) → 友篋(ともり・岡沢たおかざわ、藩士/歌人) U 3 1 5 8  
桂花書屋(けいかしよおく) → 為政(ためまさ・神谷かみや、国学者/詩歌) S 2 6 7 8  
桂下窓(けいかそう) → 子蔵(しぞう・原はら、医者/俳人) E 2 1 4 7  
恵齋(けいかつ) → 慧齋(えかつ・鄂隠) 1 3 5 4  
桂花堂(けいかどう) → 浄月(じょうげつ;法諱、僧/歌人) G 2 2 3 7

- 瓊華堂(けいかどう) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3  
 髻華舎(けいかのや) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
- 1841 奚花坊(けいかぼう・青木) 1772-1858 美濃曾井俳人:是什坊・友左坊門/岐阜住/1838蕉風、  
 1838「つたふ梅」41「徳の余光」44「世々のほな」46「筑紫わたり」47「夢の春」著  
 [奚花坊の別号] 自然齋(じねんさい)/元白/寿石/風二/貫江夫  
 輕花坊(けいかぼう・久世) → 友輔(ともすけ・久世くぜ、心学/俳人) P 3 1 6 1  
 桂下房(けいかぼう) → 一躬(いっきく・島野、俳人) G 1 1 8 8  
 繫花廊(けいかりう) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8
- 01826 繼寛(けいかん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [思ひかねいくたのかはにしずむともかならず人のあはれとやみむ]、  
 (檜葉;恋485/思両夫恋/大和物語生田川伝説)  
 景翰(けいかん/かげふみ・長尾) → 秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7  
 景煥(けいかん・富田) → 景煥(かげあき・富田とだ、藩士/漢学/詩) E 1 5 9 0  
 景貫(けいかん・山井) → 景貫(かげつら・山井やまのい、楽人) L 1 5 0 5  
 景貫(けいかん → かげつら・山崎) → 菅江(漢江かんこう・朱楽あけら、狂歌) 1 5 4 7  
 景寛(けいかん/かげひろ・久代) → 寛齋(かんさい・久代くしろ、儒者) H 1 5 5 9  
 景寛(けいかん・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4  
 景寛(けいかん・乾) → 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人) T 1 5 7 0  
 景寛(けいかん・長尾) → 景寛(かげひろ・長尾まながお、歌学/藩士) V 1 5 2 5  
 景寛(けいかん・大原) → 景寛(かげひろ・大原おおはら、農業/国学) T 1 5 9 7  
 景寛(けいかん・高林) → 景寛(かげひろ・高林たかばやし/久津見、藩士/歌) U 1 5 9 5  
 敬簡(けいかん・木下) → 浄庵(じょうあん・木下きのした、儒者/詩人) Q 2 2 8 2  
 敬簡(けいかん・橋本) → 敬簡(ゆきやす・橋本はしもと/藤原、幕臣/随筆) F 4 6 8 9  
 慶観(けいかん) → 慶観(きょうかん;法諱、真宗僧) N 1 6 5 2
- F1838 景巖(けいがん;法諱・円照房;字) ?-? 甲斐の真言大僧正、根来寺住、  
 1574「愛染明王秘伝抄」「不動法秘伝鈔」「胎蔵界秘伝鈔」/77「御遺告勸註」著  
 桂巖(けいがん;道号・英昌) → 英昌(えいしょう;法諱・桂巖、曹洞僧) C 1 3 9 8  
 桂巖(けいがん;道号・明幢) → 明幢(みょうどう;法諱・桂巖、黄檗僧) G 4 1 6 3  
 桂巖(けいがん;道号) → 頼之(よりゆき・細川ほそかわ/源、武将/幕政/歌) J 4 7 9 2  
 桂巖(けいがん;字) → 教遵(きょうじゆん;法諱・桂巖、真宗僧) N 1 6 9 9  
 桂巖(けいがん・岩井) → 貞良(さだよし・岩井いわい、具足師/歌人) N 2 0 8 9  
 慶巖(けいがん・赤川) → 忠郷(たださと・赤川あかがわ、藩士/神職) V 2 6 1 0  
 敬岸(けいがん;名) → 蔭里(いんり;法諱、僧/国学/歌人) J 1 1 9 9
- F1839 罔鑑(げいかん;法諱・一呼;字、俗姓;松井) 1653-173280 江戸浄土僧:伝通院/増上寺で修学、  
 増上寺学寮主;後進指導/靈巖寺・光明寺檀林/1726増上寺39世;諸堂舎復興/寺領目録制定、  
 「華巖原人論読解」「華巖原人論校本」「仏像類纂」1727「一枚起請文和解」著、  
 [罔鑑の法名] 演蓮社学譽がくよ一呼いっこ西阿ゆうあ  
 鯨肝(けいかん・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
 嚙吟(けいかん・高橋) → 竜斎(りゅうさい・高橋たかはし、見聞記蒐集) E 4 9 0 8  
 鶏冠園(けいかんえん/かえでえん) → 氏曄(うじあき・丹羽にわ/近藤、国学・歌) B 1 2 6 9  
 敬簡齋(けいかんさい・奥宮) → 槌斎(ずいさい、儒者/国学/歌) B 2 5 5 8  
 溪漢仲(けいかんちゆう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 啓鑑亭(けいかんてい) → 以正(もちまさ・小野おの、里正/和算家) B 4 4 6 8
- 01833 慶基(けいき;法諱) ? - ? 平安期;法師、歌人;1165清輔[続詞花集]入、  
 [なかなかにつらくはさてもあるべきをふたたび物を思はするかな](続詞花;恋607)
- F1840 敬起(けいき・石田いしだ、通称;小左衛門、号;知白齋、岸上門造男) ?-? 江後期撰津の生/石田家養嗣、  
 京の油小路魚棚南に住/屋号;大根屋、蹴鞠・歌、西本願寺の財政再建に協力、  
 1831「改革根元録」「改革玉」「御改革附石田小左衛門扣」著  
 景規(けいき・高泉) → 景規(かげのり・高泉たかいずみ/源、藩士/和学) U 1 5 9 2

景規(けいき・佐野)	→	景規(かげのり・佐野との、藩士/歌人)	U 1 5 7 0
景熙(けいき・山岡)	→	景熙(かげひろ・山岡やまおか、幕臣/歌人)	W 1 5 0 8
景熙(けいき・梶原)	→	景熙(かげひろ・梶原かじわら、金石文学者)	E 1 5 9 9
景毅(けいき・梶原)	→	景毅(かげよし・梶原かじわら、藩士/歌)	L 1 5 5 1
景季(けいき・梶原)	→	景季(かげすえ・梶原、武将)	B 1 5 8 6
景軌(けいき・打它)	→	景軌(かげのり・打它うつだ、国学/歌人)	L 1 5 1 6
景基(けいき・津守)	→	景基(かげもと・津守つもり、神職/歌人)	B 1 5 9 8
景基(けいき/かげもと・山崎)	→	菅江(かんこう・朱楽あけら、狂歌)	1 5 4 7
景器(けいき・阿部)	→	知成(ともなり・阿部あべ、藩士/国学)	T 3 1 8 9
髻輝(けいき・定珠)	→	道宗(どうしゅう・悦山、黄檗僧)	F 3 1 0 3
慶喜(けいき・徳川/一橋)	→	慶喜(よしのぶ・徳川、最後の将軍)	F 4 7 7 4
敬季(けいき・市島)	→	岱海(たいかい・市島いちじま、医/儒/詩文)	J 2 6 4 2
敬基(けいき・上柳)	→	牧斎(ぼくさい・上柳うわやなぎ/柳、儒者)	D 3 9 1 3
敬喜(けいき・岡崎)	→	敬喜(たかよし・岡崎おがさき、代官/歌人)	W 2 6 2 7
敬達(けいき・矢野)	→	玄道(げんどう・矢野、儒/国学者)	C 1 8 8 4
敬熙(けいき・有馬)	→	正義(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王)	I 4 0 7 0
経基(けいき・源)	→	経基(つねもと・源、武将/清和源氏の祖)	D 2 9 9 6
経季(けいき) すべて	→	経季(つねすえ)	
経喜(けいき・大蔵)	→	経喜(つねよし・大蔵おおくら、幕府抱能楽師)	E 2 9 2 2
経熙(けいき/つねひろ・勸修寺)	→	経郷(つねさと・勸修寺かじゅうじ/藤原、廷臣/連歌)	C 2 9 1 6
経熙(けいき・近衛)	→	経熙(つねひろ・近衛、右大臣/日記)	D 2 9 5 5
恵規(けいき・岩原)	→	恵規(よしのり・岩原いわはら、藩士)	G 4 7 0 2
F1841 慶宜(けいぎ;法諱)	? - ?	江前期元禄1688-1704頃真言僧:六波羅蜜寺普門院住、	
		「三昧耶戒聞策」、1691「結縁灌頂式聞書」「憲深法流口説愚聞記」/96「大日経疏宗義鈔」著	
1842 奚疑(けいぎ・渡辺わたなべ)	? - ?	江前期新潟の俳人、1685風瀑「一楼賦」入、	
		1690言水「新撰都曲」3句/「勢多長橋」入、	
		[高瀬人ほたる行くらん柳魚](一楼賦;夏)	
1843 奚疑(けいぎ、別号;嵐亭2世/新月菴2世)?-1812		江戸の俳人:初世嵐亭富屋門、	
		1806「可因追善句集」、11「嵐亭富屋発句集」編、13「嵐亭俳話」著	
F1842 奚疑(けいぎ・伊東いとう、名;祐道/字;子成) 1795-1859 <sup>65</sup>		仙台藩士/郡奉行、儒/易学に精通、	
		1850「論語慎思」53「卦義」、「孝経大意」「孝経慎思」「中庸慎思」「大学慎思」「大易十翼微臭」著、	
		[奚疑の通称/別号]通称;太輔、別号;茹堂じょどう・一枝	
F1843 慶義(けいぎ;法諱)	? - ?	江後期江戸真言僧:牛込南蔵院住、	
		1847「奇瑞大聖歡喜天感応記」著	
敬義(けいぎ・中井)	→	董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌)	G 3 1 7 8
敬義(けいぎ・下村)	→	由章(よしあき・下村しもむら、藩士/詩歌)	B 4 7 8 8
敬義(けいぎ・高橋)	→	呂川(ろせん・小有軒、俳人)	C 5 2 0 6
敬義(けいぎ・江村/樋口)	→	道立(どうりゅう・樋口、儒者/俳人)	I 3 1 2 5
敬義(けいぎ・前田綱紀)	→	松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革)	F 2 2 3 2
敬義(けいぎ→もりよし・山崎)	→	闇斎(あんさい・山崎やまざき、垂加流神道)	1 0 3 7
敬義(けいぎ・建部)	→	山比子(やまひこ・建部たけべ、書家/歌人)	E 4 5 2 3
敬義(けいぎ・西村)	→	景義(かげよし・西村/井李、商家/本草家)	L 1 5 4 6
敬義(けいぎ・村井)	→	古巖(こがん・村井/邑井/邨井むらい、書賈/国学)	G 1 9 7 5
敬義(けいぎ・鏡味)	→	敬義(甲鵬たかよし・鏡味かがみ、神楽座楽人)	N 2 6 7 4
敬義(けいぎ・小槻)	→	敬義(ゆきよし・小槻おつき/壬生、廷臣)	F 4 6 9 6
敬義(けいぎ・高橋)	→	呂川(ろせん・小有軒、庄屋/俳人)	C 5 2 0 6
敬義(けいぎ・平井)	→	櫻斎(ていさい・平井/源、儒者/本草家)	3 0 8 5
敬義(けいぎ・下条)	→	敬義(たかよし・下条しもじょう、典医/歌人)	X 2 6 5 6
敬義(けいぎ/たかよし・鈴木)	→	綾雄(あやお・鈴木すずき、藩士/俳人)	H 1 0 7 6
敬義(けいぎ・久郷)	→	恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人)	Z 2 6 2 2

	敬義(けいぎ・本多)	→	敬義(たかよし・本多ほんだ/菅沼、家老/国学)	Z 2 6 4 4
	敬儀(けいぎ・田山)	→	敬儀(たかのり・田山たやま、歌人)	D 2 6 4 7
	敬儀(けいぎ・前波)	→	黙軒(もくけん・前波/前場まえば、医者/歌)	4 4 7 7
	慶義(けいぎ;法諱)	→	宗阿(そうあ;号・慶義;法諱、真言僧/詩歌)	F 2 5 8 7
	恵義(けいぎ・長島)	→	宜青(よしはる・長島ながしま、歌人)	O 4 7 2 4
	景義(けいぎ・西村)	→	景義(かげよし・西村/井李、商家/本草家)	L 1 5 4 6
	景岐(けいぎ・山本)	→	安良(あんりょう・山本、医者)	G 1 0 2 2
	景宜(けいぎ・新田)	→	景宜(かげよし・新田にた、藩士/国学)	V 1 5 3 4
	奚疑(けいぎ;号)	→	古月(こげつ;道号・禅材;法諱、臨濟僧)	M 1 9 3 4
	奚疑(けいぎ・千前軒)	→	出雲(いずも・初世竹田、浄瑠璃)	1 1 9 8
	奚疑(けいぎ・下村)	→	由章(よしあき・下村しもむら、藩士/詩歌)	B 4 7 8 8
	奚疑(けいぎ・大地、奚疑齋)	→	東川(とうせん・大地おおち、儒者)	G 3 1 1 2
	奚疑(けいぎ・細木)	→	正儼(まさたか・細木ほそき、藩士/国学)	S 4 0 4 2
	奚疑(けいぎ・奚疑庵)	→	抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者/詩)	B 3 9 1 7
	奚疑翁(けいぎおう)	→	北山(ほくざん・山本、儒者)	3 9 6 4
1844	径菊(けいきく)	? - ?	江中期俳人、1707「つげのまくら」百韻入、「栗津原」跋	
D1840	慶菊丸(けいきくまる)	? - ?	戦国期;連歌作者、1472妙春:革手城の「美濃千句」入	
	奚疑齋(けいぎさい)	→	一齋(いっさい・沢田重淵、書肆/儒者)	B 1 1 4 2
	敬義齋(けいぎさい・中西)	→	直方(なおかた・中西/度会、神道)	3 2 8 5
	敬義齋(けいぎさい)	→	連愛(つらよし・長ちよう、藩士)	E 2 9 5 3
	敬義齋(けいぎさい・九鬼)	→	隆都(たかひろ・九鬼くき、藩主/江戸開城)	N 2 6 0 9
	景義齋(けいぎさい・有賀)	→	長因(ちよういん・有賀あるが、歌学者)	H 2 8 2 4
	奚疑塾主人(けいぎじゅくしゅじん)	→	北山(ほくざん・山本、儒者/詩人)	3 9 6 4
	恵吉(けいきち・安積)	→	希斎(きさい・安積あさか、藩士/儒者)	I 1 6 5 0
	景吉(けいきち・村上)	→	景吉(かげよし・村上むらかみ、医者/僧)	L 1 5 4 8
	敬吉(けいきち・大野)	→	恥堂(ちどう・大野おの、庄屋/儒者)	F 2 8 0 0
	敬吉(けいきち・赤沢)	→	積翠(せきすい・赤沢あかさわ、国学者)	N 2 4 9 8
	敬吉(けいきち・常住)	→	長胤(ながたね・常世とこよ/常住、国学/神道)	N 3 2 9 8
	啓吉(けいきち・小沢)	→	列根(つらね・小沢こざわ、藩士/俳人)	E 2 9 4 3
	啓吉(けいきち・中島屋)	→	穂足(ほたり・原はら、庄屋/国学/歌人)	G 3 9 3 3
	慶吉(けいきち・末長/首藤)	→	允中(允仲まさなか・首藤すどう/山高、故実)	F 4 0 1 1
D1841	桂橋(けいきつ・橋本)	? - ?	書家、1769沢田東江「東江先生書話」編録	
	奚疑堂主人(けいぎどうしゅじん)	→	北山(ほくざん・山本、儒者/詩人)	3 9 6 4
F1844	景玖(けいきゅう;法諱)	? - ?	戦国期1533-55頃天台園城寺僧;南院住、 勸学院尊契門、権大僧都、1532「諸尊受法記」著	
	景久(けいきゅう・賀茂)	→	景久(かげひさ・賀茂かも、神職/歌人)	B 1 5 9 2
	景久(けいきゅう・諸岡)	→	景久(かげひさ・諸岡もろおか、武芸者)	L 1 5 2 6
	景久(けいきゅう・里村)	→	昌寅(しょういん・里村、幕府連歌師)	F 2 2 1 8
	景久(けいきゅう・大橋)	→	景久(かげひさ・大橋おおはし、藩士/歌人)	T 1 5 9 6
	景久(けいきゅう・倉沢)	→	景久(かげひさ・倉沢くらさわ、国学者)	U 1 5 5 6
	景久(けいきゅう・竹村)	→	景久(かげひさ・竹村たけむら/橘、藩士/国学)	U 1 5 9 7
	敬久(けいきゅう・堀池)	→	敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家)	M 2 6 9 6
	敬休(けいきゅう・恩田)	→	敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者)	N 2 6 5 4
	経久(けいきゅう・賀茂)	→	経久(つねひさ・賀茂かも、神職/歌人)	D 2 9 3 5
F1845	慶経(けいきょう/きょうけい/きょうぎょう;法諱、藤原忠任男?)?-?		天台僧;延暦寺阿闍梨?、歌:金葉解14、 [ゆきかかる雲ちは春もさえければ霞の衣着て帰る雁](金葉集;解;橋本公夏本拾遺14)	
	兄興(けいきょう・尾崎)	→	兄興(しげおき・尾崎、官人/歌人)	N 2 1 7 1
	景鏡(けいきょう・朝倉)	→	信鏡(のぶあきら・朝倉あさくら、武将/連歌)	3 5 8 5
	景恭(けいきょう・山岡)	→	景恭(かげやす・山岡、幕臣/記録)	L 1 5 4 0

- 景恭(けいきょう・堺) → 景恭(かげやす・堺さかい/平、歌人) T 1 5 0 9  
 景教(けいきょう・田中) → 麗山(れいざん・田中たなか/源、漢学者) 5 1 3 0  
 経教(けいきょう・九条) → 経教(つねのり・九条くじょう、関白/歌人) D 2 9 0 9  
 経教(けいきょう・遠藤) → 経教(つねのり・遠藤えんどう/藤原、神職/歌) F 2 9 3 5  
 経恭(けいきょう・篠野/難波) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7  
 経郷(けいきょう・勧修寺) → 経郷(つねさと・勧修寺かじゅうじ/万里小路/藤原、廷臣/連歌) C 2 9 1 6  
 敬恭(けいきょう・新庄) → 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6  
 敬卿(けいきょう・高橋) → 多一郎(たいちろう・高橋、藩士/尊王派) K 2 6 6 5
- F1846 **敬業**(けいぎょう・増田ますだ/初姓;松尾、名;尚正/字;久甫/屋号;吉野屋)?-? 大和葛上桶野村生、  
 幼時豪商増田家の養子/儒者;石王塞軒門;実学を修学、天明飢饉に救民活動、  
 「八条孝子伝」「増氏家訓」著
- 敬業(けいぎょう・大塚) → 水石(すいせき・大塚おおつか、藩士/儒者) E 2 3 7 4  
 継業(けいぎょう・岡本) → 継業(つぐなり・岡本おかもと、藩士/歌人) F 2 9 4 7  
 継業(けいぎょう・小亀) → 継業(つぐなり・小亀こがめ、国学者) F 2 9 6 7  
 景仰(けいぎょう・深町) → 景仰(かげすけ・深町ふかまち、藩士) K 1 5 9 1  
 景業(けいぎょう・梶谷/平地) → 景業(かげなり・梶谷かじたに/平地、医者/歌) U 1 5 2 4  
 経堯(けいぎょう) → 経堯(きょうぎょう、天台僧) N 1 6 5 8  
 経業(けいぎょう・藤原) → 経業(つねなり・藤原ふじわら、廷臣) C 2 9 8 9  
 計暁(けいぎょう・吉井) → 石亀(せつき・吉井よしい、浜主/俳人) N 2 4 4 7  
 敬興院(けいきょういん→きょうこういん) → 堯仁(ぎょうにん;法諱・光教、真宗/天台僧) O 1 6 4 3  
 敬業館主人(けいぎょうかんとしゅじん) → 芙蓉(ふよう・城戸きど、儒者) E 3 8 4 8  
 敬業舎(けいぎょうしゃ) → 乾斎(けんさい・三浦みづら、医者/詩人) I 1 8 9 1  
 景狂人(けいきょうじん) → 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) 4 1 0 3  
 敬業堂(けいぎょうどう) → 一庵(いちあん・高橋、儒者/詩文) F 1 1 9 5  
 軽拳館(けいきょうかん) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/俳人、諸芸) 3 9 1 3  
 景玉(けいぎょう・橋村) → 正環(まさあきら・橋村はむら/中山、和漢学) R 4 0 6 6  
 敬玉(けいぎょう・鈴木) → 蓼廼(りょうしよ・鈴木すずき、藩士/儒/詩) I 4 9 0 4  
 迎旭書屋(げいきよくしよおく) → 甫周(ほしゅう・桂川/4世、幕府蘭医) E 3 9 2 2  
 軽拳道人(けいきょうどうじん) → 抱一(ほういつ・酒井、俳人・絵師) 3 9 1 3  
 溪琴(けいきん) → 海荘(かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5  
 景琴(けいきん・かげこと) → 月篷(げっぽう・賀藤、文筆家) H 1 8 3 8  
 景欽(けいきん・佐々木) → 景欽(かげよし・佐々木ささき/香川、歌人) U 1 5 6 9
- 1845 **啓閻**(けいげん;法諱・春和しゅんな;道号、号;西堂/東湖)?-? 室町期臨濟僧:建仁寺東明宗晰門/嗣法、  
 近江出身?、1514嵯峨西禅寺住持/越前妙法寺住持、建仁寺大竜庵塔主/同雲軒塔主、  
 詩;1497「春和西堂駢儷」、「春和絶句集」「西堂さいどう和尚語録」著
- 景金園(けいきんえん) → 広行(ひろゆき・住吉/板谷、幕府絵師) H 3 7 6 3  
 綱錦斎(けいぎんさい) → 三近子(さんきんし・中村、儒者) F 2 0 7 7  
 溪愚(けいぐ・山本) → 章夫(しょうぶ・山本、本草家/写生画) L 2 2 4 6  
 敬遇(けいぐう・大沢) → 鼎斎(ていさい・大沢、儒者) 3 0 8 9  
 慶遇(けいぐう) → 慶遇(きょうぐう;法諱・眞弁、真宗僧) N 1 6 6 0
- B1853 **藝訓**(げいくん;法諱・教寂きょうじやく;道号)?-1700 遠江周智郡可睡斎27世/徳川綱吉に講書、  
 1700「可睡斎起立并開山中興之由来略記」著
- 1846 **景恵**(けいけい/けいゑ;法諱) ? - ?1575存 真言;石山寺世尊院僧/法印、  
 連歌:1564紹巴・元理らを招き「石山千句」張行、74「天正二年六月初何百韻」連衆参加、  
 1575「天正三年五月何人百韻」紹巴らと連衆
- E1802 **景卿**(けいけい/かげきみ?・田原)?- ? 江前期;備後福山の貞門系俳人、  
 1672種寛「続詞友俳諧集」入、1676常辰「枉木葛」入
- F1847 **計圭**(けいけい;号) ? - ? 江中期1716-81頃筑前春吉の俳人:野坡と交遊、  
 「青幣白幣」「鳥のはやし」編

- 1847 **桂谿**(けいけい・別号:白蓉軒/白容軒)?-1831 江後期;京の男山に庵住した僧/歌:日野資枝門、  
閑院宮美仁親王の歌会参加、江戸住、1807「祝言百首和歌」、「松戸詠草」「一日の柴折」著
- 1848 **鶏慶**(けいけい) ? - ? 雑俳点者、1838一声編「歌羅衣」入
- 恵経(けいけい;法諱) → 恵経(えきょう;法諱、僧/歌人) U 1 3 4 2
- 敬卿(けいけい・山本/中沢) → 東臯(とうこう・中沢なかざわ、儒者) D 3 1 9 5
- 敬卿(けいけい→けいきょう・高橋) → 多一郎(たいちろう・高橋、藩士/尊王派) K 2 6 6 5
- 経慶(けいけい・法師) → 経慶(きょうぎょう・法師/歌人) V 1 6 9 4
- 経慶(経敬けいけい・勸修寺) → 経慶(つねよし・勸修寺かじゅうじ、記録) E 2 9 2 1
- 経継(けいけい・中御門) → 経継(けいけい・中御門/吉田、廷臣/歌) C 2 9 5 1
- 経卿(けいけい・佐藤) → 敬庵(けいあん・佐藤さとう、儒者) E 1 8 6 3
- 溪卿(けいけい・野間) → 友真(ともまさ・野間のま、医者) Q 3 1 5 6
- 形卿(けいけい・板倉) → 勝彪(かつたけ・板倉いたくら、藩士/武芸者) N 1 5 5 0
- 圭卿(けいけい・南合) → 果堂(かどう・南合なんごう、藩士/儒者) H 1 5 5 1
- 景慶(けいけい・藤原) → 景慶(かげよし・藤原ふじわら、記録) L 1 5 4 5
- 景敬(けいけい・平) → 景敬(かげたか・平たいら、神職) K 1 5 9 6
- 景敬(けいけい・桜田) → 景敬(かげのり・桜田、武道家/勤王派) L 1 5 2 0
- 景形(けいけい・有川) → 景形(かげなり・有川ありかわ/源/岩根、商家/歌) T 1 5 4 7
- 景経(けいけい・村尾) → 景経(かげつね・村尾むらお、神職/国学) U 1 5 9 9
- 計恵(けいけい/かずえ・武野) → 貞孝(さだたか・武野たけの、藩士/和算家) I 2 0 3 5
- N1874 **慶藝**(けいげい・法諱) 1792 - 1850<sup>59</sup> 美濃不破郡関ヶ原村の真宗大谷派宗徳寺住職、  
歌人;香川景樹門
- 経々斎(けいさい) → 師鴻(しこう・長谷川はせがわ/源、儒者) T 2 1 3 6
- 醜鶏老人(けいけいろうじん) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2
- F1848 **溪月**(けいげつ・葵岡きこう) ? - ? 1818-30頃絵師・北溪門、「月並狂歌山の手振」画
- 契月(けいげつ・原) → 久胤(ひさたね・原はら、歌人) B 3 7 3 2
- 桂月(けいげつ・桜井) → 雪館(せつかん・桜井さくらい/桜、絵師) K 2 4 7 9
- 溪月(けいげつ・室谷) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
- 溪月庵宵眠(けいげつあんしやうみん) → 宵眠(しやうみん・溪月庵、杉岡道泰、狂歌) L 2 2 6 9
- 桂月園(けいげつえん) → 泰雅(やすまさ・吉尾よしお、華道家) C 4 5 9 6
- 迎月堂(けいげつどう) → 久澄(ひさずみ・泉/和泉いずみ、商家/歌人) B 3 7 2 0
- 桂月堂秋満(けいげつどうしゅうまん) → 静雄(しずお・小口おぐち/源、国学) N 2 1 6 4
- F1849 **慶憲**(けいけん;法諱) 1659前生- ? 天台叡山北尾華王坊住僧、「敵対問答集」「百余尊註解」著
- E1865 **桂軒**(けいけん・小宮山こみやま、名;昌嶮まさたか、峴嶽けんがく男) 1690-1734<sup>45</sup> 江戸儒者;林鳳岡門、  
1720(享保5)常陸水戸家に出仕;藩儒、[大日本史]音楽部門編纂、  
「音楽考」「楽器考」「大日本史音楽志稿」、「藤樹先生詩文類聚」「韓客唱和」著、  
1721「江戸賦」30「楽乎集」著、  
[桂軒の字/通称/別号]字;偉長、通称;本次郎/次郎衛門、別号;忍亭
- F1850 **敬軒**(けいけん・河崎/川崎かわさき、名;弼/善弼) 1780-1818<sup>39</sup> 伊勢山田の儒者;山口凹港・菅茶山門、  
1817老樗軒「墓所」跋文、1809「伊勢新名勝詩」編、「黄葉夕陽村舎紀行」「楡塾日記」著、  
「驥竈きぼう日記」「斎宮略」著、韓聯玉(山口凹巷おうこう)の師、  
[敬軒の字/通称]字;子文、通称;良佐りょうすけ
- N1872 **敬賢**(けいけん;法諱) 1781 - 1833<sup>53</sup> 近江の天台寺門宗園城寺(三井寺)の僧、  
歌人;[鳩のうみ]入
- 敬頭(けいけん → たかあき・田村) → 宗頭(むねあき・田村たむら/中村、藩主/歌) D 4 2 5 7
- 景賢(けいけん) → 景賢(かげかた、連歌師) E 1 5 9 5
- 景賢(けいけん・植田) → 景賢(かげかた・植田うえだ、儒者) K 1 5 8 4
- 景賢(けいけん・遠山) → 景賢(かげかた・遠山とおやま、幕臣) K 1 5 8 5
- 景賢(けいけん → かげかた) → 菰子(てきし・辻、藩士/俳人) B 3 0 9 6
- 景賢(けいけん・二見) → 景賢(かげかた・二見ふたみ、神職) V 1 5 5 8
- 景賢(けいけん・宮原) → 景賢(かげかた・宮原みやはら、国学/歌人) V 1 5 8 7

- 景兼(けいけん・蜷田/見坊) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7  
 景憲(けいけん・小幡) → 景憲(かげのり・小幡おぼた、幕臣/軍学者) B 1 5 8 9  
 景憲(けいけん・山崎) → 景憲(かげのり・山崎やまさき、藩士/兵法家) L 1 5 2 1  
 景見(けいけん・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、幕臣/歌人) B 1 5 9 6  
 経賢(けいけん;法諱) → 経賢(きょうけん;法諱、僧/歌人) V 1 6 8 9  
 経賢(けいけん;法諱) → 経賢(きょうけん;法諱、僧/歌人) C 1 6 4 1  
 経賢(けいけん・中川) → 経豊(つねとよ・中川/荒木田、神職/記録) C 2 9 7 5  
 経賢(けいけん・岡本) → 経賢(つねかた・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 4 8  
 経兼(けいけん・源) → 経兼(つねかね・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 9 9 8  
 経兼(けいけん・田向) → 経兼(つねかね・田向たむけ/源、廷臣/歌) G 2 9 7 9  
 経憲(けいけん・大中臣) → 経憲(つねのり・大中臣おおなかとみ、神職) D 2 9 1 1  
 経頭(けいけん)すべて → 経頭(つねあき)  
 慶憲(けいけん;法諱) → 慶憲(きょうけん;法諱、法師/歌人) V 1 6 8 3  
 慶賢(けいけん;法諱) → 慶賢(きょうけん・真言僧/高野開版) G 1 6 7 1  
 F1851 慶源(けいげん;法諱) ? - ?1547存 (国名不明)仲郡石守寺住;天台僧、  
 「草木成仏私六即義」「九品往生義尋抄五逆謗法」、1547「俱知常住」著  
 F1852 敬元(けいげん・甲賀こうが) ? - ? 江中期宝暦1751-64頃;京の医者/本草:松岡怒庵門、  
 1759師の遺稿「用薬須知後編」刊行、「大和本草記聞」著  
 慶源(けいげん) → 慶深(きょうじん;法諱、僧/歌人) C 1 6 6 9  
 慶彦(けいげん・松木) → 慶彦(よしひこ・松木まつき/度会、神職/俳人) G 4 7 1 8  
 慶言(けいげん・藤) → 慶言(きょうごん;法諱・藤ふじ、真宗僧/歌) V 1 6 1 2  
 兄彦(けいげん・加賀) → 兄彦(えいこ・加賀かが/加藤、藩士/神職) U 1 3 0 6  
 敬元(景元けいげん・荒川) → 天散(てんさん・荒川、儒者;学政参画) D 3 0 5 2  
 敬元(けいげん・窪津/窪わ) → 貞庵(ていあん・窪津/久保津/窪わ、医者) 3 0 2 4  
 敬元(けいげん・小川) → 白堂(はくどう・小川おがわ/杉山、藩医/詩) D 3 6 7 1  
 敬元(けいげん・榎本) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4  
 敬言(けいげん・山科) → 敬言(たかとき・山科、廷臣) M 2 6 4 1  
 敬彦(けいげん・実幢) → 敬彦(きょうげん;法諱・実幢じつとう、天台僧) N 1 6 6 5  
 敬彦(けいげん・河村) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9  
 敬玄(けいげん・海尾) → 惟義(これよし・蝦えび、藩医者) O 1 9 9 8  
 経元(けいげん・冷泉/甘露寺) → 経元(つねもと・甘露寺、廷臣/故実) D 2 9 9 7  
 継彦(けいげん・松木) → 継彦(つぎひこ・松木/久志本/度会、神職) 2 9 5 3  
 啓原(けいげん;法諱) → 大初(だいしよ;道号・啓原、入明臨濟僧) K 2 6 3 3  
 啓玄(啓元けいげん・見田) → 尚之(なおゆき・見田みた、国学/医) C 3 2 8 8  
 圭言(けいげん・服部) → 東洋(とうよう・服部はっとり、儒者) H 3 1 8 0  
 景彦(けいげん・津田) → 景彦(かげひこ・津田つだ、藩士/和文) L 1 5 2 5  
 桂源山人(けいげんさんじん) → 興文(おきのり・細川、藩主、詩歌) 1 4 7 6  
 慶元堂(けいげんどう、書肆) → 老泉(ろうせん・松沢) 5 2 3 5  
 慶元堂(けいげんどう、書肆) → 伊八(2世いはち・北沢/須原屋、書肆) 1 1 5 6  
 啓巖坊(けいげんぼう) → 光盛(こうせい;法諱・啓巖坊、真言僧) K 1 9 0 5  
 継彦霊神(けいげんれいしん) → 成善(なりよし・木本きもと、藩士/神道家) L 3 2 8 2  
 N1891 蕙子(けいこ・姫井ひめい、初名;恵、守安甚蔵女) 1765-1845 備中窪屋郡西郡村の生、  
 浅口郡の姫井敬叔に嫁ぐ(3番目の妻/1・2番目は早世)、夫没後育児の傍ら歌を修学;  
 木下幸文門下生歌人として頭角  
 F1853 睽孤(けいこ・篠崎しのぎ、名;英次) 1780-1848 69歳 上総山武郡平沢村の漢学者:太田錦城・晴軒門、  
 兵法;撃剣拳法、1842「孫子発微」「呉子発微」著、  
 [睽孤の字/別号]字;司直(もとなお?)/和卿、別号;国翦  
 N1849 けい子(けいこ・荒井あらい) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

- [夕されば袂たもとにかよふ秋風にかたへ涼しく夏はいぬめり](大江戸倭歌;夏682/晩夏)
- N1884 **鏡子**(けいこ・戸田とだ、稲葉正守女)1838-190871 江戸の歌人;巨勢金峰きんぼう・加藤千浪門、大垣藩10代藩主戸田氏彬うじあきらの正室、  
[鏡子(;名)の初名/法号]初名;雅子、法号;大栄院  
稽古(けいこ・田中) → 政徳(まさのり・田中、名主/文学/暦算) G 4 0 0 9  
稽古(けいこ・林) → 好雄(よしお・林はやし、国学者) O 4 7 6 1  
啓子(けいこ・牧野) → 路子(みちこ・牧野まきの、藩主室/歌人) B 4 1 4 4  
恵子(けいこ・中山/千鶴の妻/書家・歌人)→千鶴(ちづる・中山なかやま、商家/歌/書)N 2 8 1 8  
瓊子(けいこ・蔵田) → 花子(はなこ・蔵田くらた/泰蔵、歌人/書) K 3 6 0 9
- 1849 **桂悟**(けいご;法諱・了庵りょうあん;道号、俗姓三浦)1425-1514長寿90歳 伊勢岩内臨濟僧;  
安養寺大疑宝信門;大疑の嗣法/安養寺住持/1478南禅241世、  
1511寧波の遣明使内紛收拾のため遣明正使、1512渡明;育王山広利寺住持、  
1513帰国;東福寺大慈院住、詩:北斗集入、「了菴桂悟和尚語録」、「壬申入明記」著、  
[了庵桂悟の初道号/号]初道号;桃溪(桃蹊)、号;鉢袋子/伊川いせん/三浦さんぽ/仏日禪師
- 1850 **桂五**(桂吾けいご・金森かなもり、名;一繁、桂裏男)1748-181265 尾張藩士/1794家督;上有知代官、  
白鳥材木奉行/納戸役、名古屋俳人:暁台門;門下五老の1、狂歌;南畝と交流、  
1768暁台「秋の日」6句入、82「すまひ俳諧」95「かれ芦」編、父桂裏および息竹兮も俳人、  
[桂五の通称/別号]通称;百助/市之進、別号;一勺井/傘の衛守(;狂名)/潮見下
- F1854 **慶五**(けいご・三牧みまき/佐藤、通称;甚兵衛/宇吉)?-1849 筑後久留米の俳人、1818諸国周遊、  
久留米俳壇の代表;門弟多い、1819「丘象潟」編、  
[慶五の別号] 圭庵/桂窓/雨草庵
- F1855 **奎吾**(けいご・箕作みつくり、名;寧道、秋坪しゅうへい男)1852-71早世20歳 美作津山藩士、  
英語;1862中村正直門、1865幕府開成所教授手伝並出役、  
1866英国留学生;ロンドンユニバーシティ=カレッジスクール入学、1868幕府倒壊;帰国/洋学者;大学校に職、  
1869中助教/70大助教/少博士に進む;急逝、1866「英行日記」著、  
[奎吾(;通称)の法号] 満斎寧静居士  
啓吾(けいご・恩田) → 鶴城(かくじょう・恩田おんだ、藩士/儒者) H 1 5 3 2  
敬吾(けいご・高島) → 清音(きよね・高島たかぼたけ、鍼医/歌人) U 1 6 6 7  
慶五庵(けいごあん) → 法策(ほうさく・仲上/馬田江、俳人) 3 9 9 4  
慶五庵(けいごあん) → 青鯉(せいり・慶五庵、俳人) J 2 4 7 4
- 1851 **経厚**(けいこう/きょうこう;法諱、俗姓;鳥居小路/本姓高階、経柔法印男)1476-154469 代々青蓮院庁務、  
1492家督継嗣/95得度;天台僧、青蓮院尊応・尊伝・尊鎮に勤仕、大蔵卿/1525法印/27庁務、  
1634(天文3)播磨賀古庄奉行/39庁務を辞任、歌学:堯恵門;古今集秘説を伝授される、  
尊鎮親王・応全(松泉院僧都)に古今伝授、1526「伊勢物語」講義、1543「伊勢物語聞書」著、  
1540「百人一首聞書」「愚問賢註聞書」、「経厚法印日記」著
- D1843 **景洪**(けいこう;法諱・英岳;道号、英叔周洪)?-1628 臨濟僧;蕙畝景叢門、詩文、1621南禅寺272世、  
1623「翰林五鳳集」崇伝らと編、1609和漢聯句
- 1852 **荊口**(けいこう・宮崎みやざき、通称;太左衛門、別号;東于)?-1712/25? 美濃大垣藩士;御広間番;百石、  
俳人;1684頃芭蕉門、1685風瀑「一楼賦」入/94炭俵3句/98続猿蓑;3句入、  
1700杉風「冬かつら」入、1689父子で細道旅の芭蕉を大垣に迎える、  
長男宮崎此筋しきん・次男岡田千川せんせん・三男秋山文鳥も蕉門俳人、  
[あすと云ふ花見の宵の暗さ哉](炭俵;上/遅い月の出に明日の天气が気になる)  
参考 → 此筋(しきん・宮崎) B 2 1 6 7  
→ 千川(せんせん・岡田) G 2 4 2 4  
→ 文鳥(ぶんちよう・秋山) G 3 8 1 9
- F1856 **鶏口**(けいこう・谷口たにぐち) ? - ? 江戸前期俳人;1698「続猿蓑」入、  
[更くる夜よや鏡にうつる一ひとしぐれ](続猿蓑;卷下)
- 1853 **鶏口**(鶏口けいこう・谷口たにぐち、楼川/田女の養子)1718-180285 江戸の俳人;養父楼川門、  
其角座存義側点者、1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入、54竹翁「誹諧童的」点句入、  
1776「みつあくら」78「百福寿」79「由くれない」編/79「廿日の夢」81「秋けしき」著、

1789田女句集「海山」編/93楼川追善「松の葉」編/93「船のみち」97「獅子眠発句集」編、  
 [鶏口(鶏口)の別号] 獅子眠/木樨庵2世

F1857 敬光(けいこう;法諱・顕道けんどう;字、号;藕峯ぐうほう/恋西子、俗姓;伊佐)1740-9556 山城北岩倉の生、  
 天台園城寺僧:1728園城寺敬雅門/52得度;本行教院住、1770悉曇章;飲光おんこう門、  
 講説/著述/声明、1786出雲鱒淵寺住/94園城寺法明院7世、歌;[鳩のうみ]入、  
 「石欄集」1767「風藻餞言集」1775「幼学顕密初門」、「松堂月纂」「敬光著述目録」、  
 1791「和字考」94「出家洪範」外著多数

E1853 鶏告(けいこう・山東さんとう) ? - ? 江後期江戸築地の人/狂歌;竹杖為軽がる(森島中良)門、  
 戯作:山東京伝門、洒落本/黄表紙、1786「両国信田染」87「葉手嫌息子好々」88「夜半の茶漬」、  
 狂歌:1787「才蔵集」入、絵師:87京伝「古契三娼」関、「通言総籬」画、  
 [別れ路の天の川原にひれふりて今朝こそ星の石となるらめ](松浦佐用姫伝説を掛ける)  
 [山東鶏告の別号] 朱翁鶏告/山東汐風/海辺汐風

兄興(けいこう・尾崎)	→	兄興(しげおき・尾崎、官人/歌人)	N 2 1 7 1
景光(けいこう・平)	→	景光(かげみつ・平、歌人)	L 1 5 3 4
景光(けいこう・大神)	→	景光(かげみつ・大神おおが・山井、楽人)	L 1 5 3 5
景光(けいこう・保母)	→	景光(かげあき・保母ほぼ/井上、藩士/国学)	V 1 5 6 1
景晃(けいこう・香川)	→	琴山(きんざん・香川かがわ、藩家老/詩歌)	R 1 6 0 7
景高(けいこう・梶原)	→	景高(かげたか・梶原、武将/歌)	I 1 5 1 0
景高(けいこう・近藤)	→	景高(かげたか・近藤、兵法家)	K 1 5 9 5
景岡(けいこう・遠山)	→	正峯(せいほう・串原/遠山/永井、和算家)	J 2 4 6 3
景岡((けいこう・鎌田)	→	景岡(かげおか・鎌田かまた、藩士/国学)	U 1 5 3 4
景綱(けいこう・宇都宮)	→	景綱(かげつな・宇都宮、歌人)	1 5 6 7
景綱(けいこう・柴山)	→	景綱(かげつな・柴山、藩士/記録)	L 1 5 0 2
景恒(けいこう・御厨)	→	景恒(かげつね・御厨みくりや、医者)	L 1 5 0 4
景恒(けいこう・香川)	→	景恒(かげつね・香川かがわ、景樹男/歌人)	1 5 6 8
景行(けいこう・山井)	→	景貫(かげつら・山井やまのい、楽人)	L 1 5 0 5
景行(けいこう・桜田)	→	澹斎(たんさい・桜田さくらだ、儒/詩人)	I 2 6 7 0
景衡(けいこう・朝倉)	→	景衡(かげひら・朝倉あさくら、医者/和漢学)	E 1 5 9 8
景衡(けいこう・直木/佐々木)	→	向陽(こうよう・佐々木/直木、儒者)	L 1 9 5 0
景広(けいこう・村上)	→	景広(かげひろ・村上むらかみ、武将/城主)	L 1 5 2 8
景広(けいこう・松前)	→	景広(かげひろ・松前まつまえ、藩士/藩政)	L 1 5 2 9
景広(けいこう・白井)	→	華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師)	P 1 5 5 9
景康(けいこう・中原)	→	景安(景康かげやす・中原、楽人)	F 1 5 0 2
景皓(けいこう・白川)	→	芝山(しざん、白川しらかわ/白、絵師/俳人)	D 2 1 7 5
莖岡(けいこう・中西)	→	耕石(こうせき・中西なかにし、絵師)	K 1 9 1 0
経孝(けいこう)	→	経孝(きょうこう;法諱、天台僧)	N 1 6 7 2
経孝(けいこう)	→	経孝(つねたか、連歌作者)	C 2 9 4 3
経光(けいこう・大中臣)	→	経憲(つねのり・大中臣おおなかとみ、神職)	D 2 9 1 1
経光(けいこう)すべて	→	経光(つねみつ)	
経広(けいこう・勸修寺/坊城)	→	経広(つねひろ・勸修寺/藤原、歌/連歌)	D 2 9 5 4
経高(けいこう)すべて	→	経高(つねたか)	
経行(けいこう)すべて	→	経行(つねゆき)	
経香(けいこう・三宅)	→	経香(つねか・三宅みやけ/賀茂県主、神職/書・歌)	G 2 9 4 4
経晴(けいこう・中川)	→	経晴(つねあきら・中川/荒木田、神職)	B 2 9 6 0
経衡(けいこう・藤原)	→	経衡(つねひら・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	2 9 1 3
経興(けいこう・勸修寺)	→	経成(つねなり・勸修寺かじゅうじ/藤原、歌)	C 2 9 9 0
経晃(けいこう・中川)	→	経晃(つねてる・中川/荒木田、神職/歌)	C 2 9 5 6
継高(けいこう・黒田)	→	継高(つぐたか・黒田くろだ、藩主/芸能)	F 2 9 6 6
敬孝(けいこう・勸修寺)	→	高頭(たかあき・勸修寺かじゅうじ、廷臣/記録)	L 2 6 4 3

- 敬孝(けいこう/ゆきたか・武田)→ 熟軒(じゅくけん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7  
 敬公(けいこう; 諡号) → 義直(よしなお・徳川/源/松平、尾張初代藩主) 4 7 2 0  
 敬公(けいこう・大村) → 純鎮(すみやす・しげ・大村、藩主/和漢学) D 2 3 9 9  
 敬広(けいこう・堀内) → 千園(ちその・堀内ほりうち、国学者) N 2 8 4 9  
 敬皎(けいこう・久世) → 宵瑞(しょうずい・坤井堂、地誌家/狂歌) K 2 2 1 4  
 啓行(けいこう・大西) → 樹徳(じゅとく・大西おにし、医者/歌人) N 2 1 0 7  
 啓行(けいこう・原) → 光為(みつため・原はら、庄屋/歌人) K 4 1 1 5  
 慶広(けいこう・蠣崎/松前)→ 慶広(よしひろ・松前/源/蠣崎、藩主/連歌) G 4 7 5 6  
 慶行(けいこう・池田) → 慶行(よしゆき・池田いけだ、藩主/詩人) H 4 7 9 7  
 慶弘(けいこう・明石) → 慶弘(よしひろ・明石あかし、藩士/兵法家) G 4 7 6 0  
 慶孝(けいこう・小野) → 慶孝(よししたか・小野おの/宇治、神職/歌人) L 4 7 8 3  
 慶孝(慶好けいこう・高山)→ 慶孝(よししたか・高山たかやま、商家/行政/歌) N 4 7 7 6
- F1859 慶豪(けいごう; 法諱) ? - ? 僧: 法師、連歌、菟玖波1句入  
 (旅に出ぬも関をこえぬる)の付句[山中の庵にかよふ道有りて](菟玖波; 十三雑二)  
 経豪(けいごう) → 経豪(きょうごう; 法諱、俗姓五辻、曹洞僧) N 1 6 7 3  
 螢光庵(けいこうあん) → 朶年(だねん・伊藤暁応、俳人) S 2 6 1 7  
 迎光庵(げいこうあん) → 雲鼓(うんこ・堀内、俳人) B 1 2 1 3  
 景皓院(けいこういん; 法号)→ 信尚(のぶひさ・鷹司、関白/連歌) C 3 5 9 4  
 桂光院(けいこういん; 法号)→ 智仁親王(としひとしんのう・八条宮、歌/連歌) N 3 1 5 5  
 桂香堂(けいこうどう) → 宗賢(そうけん・服部はつとり、医者/藩政) H 2 5 0 6  
 桂向山人長丸(けいこうさんじんちょうまる)→ 長丸(ちょうまる・桂向亭、絵師) J 2 8 8 9  
 芸香亭(げいこうてい→うんこうてい)→ 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7  
 桂向亭長丸(けいこうていちょうまる)→ 長丸(ちょうまる、絵師) J 2 8 8 9
- 1855 景行天皇(けいこうてんのう、大足彦忍代別天皇おおたらしひにおしろわけ、垂仁天皇の皇子)?-? 紀歌謡詠者、  
 日本武尊父、記はすべて倭建命の歌/記紀の相違=記; 親子疎外対立関係、紀: 君臣忠誠関係  
 慶光天皇(けいこうてんのう; 贈)→ 典仁親王(すけひとしんのう、詩歌) C 2 3 8 9  
 慶光坊(けいこうぼう) → 兼縁(けんえん; 法諱、真宗僧/蓮如男) H 1 8 9 5
- D1844 景国(けいこく) ? - ? 平安初期薬師寺僧: 還俗、類聚国史入、靈異記の景戒と関り
- F1860 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、名; 厚あつし、蔭広男) 1835-1905 71 信濃安曇郡成相新田村の読書家、  
 相馬古処門、絵師; 古曳盤谷・村山半牧門、詩文; 山中静逸門/歌; 香川景恒門、帰郷し教育、  
 「東都紀行」著、  
 [桂谷の通称/別号]通称; 寿平、別号; 烏川うせん/莘田しんでん/蝶山/麦里/麦陵/桑溪/三泉居士  
 桂谷(けいこく・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8  
 経国(けいこく・津守) → 経国(つねくに・津守つもり、神職/歌人) C 2 9 0 3  
 景国(けいこく・加世田) → 景国(かげくに・加世田かせだ/折田、藩士/歌) U 1 5 0 5  
 鶏告(けいこく・山東/朱翁)→ 鶏告(けいこう・山東、戯作/狂歌/画) E 1 8 5 3  
 蕙谷(けいこく) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 稽古斎(けいこさい・林) → 信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官) B 3 5 6 8  
 稽古斎(けいこさい・小川) → 汶庵(ぶんあん・小川、幕府医者) E 3 8 7 6
- D1845 鯨湖山梅海(げいこさんばいかい[芸子三杯買の意])?-? 狂詩1839「一部詩集」編; 見返は軽薄山人著、  
 軽薄山人と同一? → 軽薄山人(けいはくさんじん) D 1 8 5 9  
 稽古照今書屋(けいこしょうこんしよおく)→ 美静(びせい・福羽、藩士/国学) C 3 7 4 2  
 敬五亭(けいごてい) → 随和(ずいわ・大友おとも、俳人) F 2 3 1 9  
 稽古堂(けいこどう) → 治憲(はるのり・上杉、藩主/財政改革) G 3 6 7 1  
 稽古堂(けいこどう) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3  
 稽古堂(けいこどう) → 東嶠(とうきやう・米良めら/米、藩士/漢学) C 3 1 8 1
- F1804 馨子内親王(けいこないしんのう・けいし、後一条天皇皇女) 1029-9365 母: 中宮威子(道長女)、  
 3歳の時に両親没、1031賀茂斎院卜定/36退下/1051東宮時代の後三条天皇の妃、  
 1069中宮/74皇后、皇子皇女出産するも早世(栄花物語入)/1073天皇出家に伴い落飾、  
 通称; 西院皇后宮さいいんこうごうぐう、歌人; 1053「馨子内親王歌合」催、上東門院との贈答歌、

勅撰2首;続古今1241(続詞花集647)/続後拾1101、玉葉2812詞書・新続古今911詞書入、  
[わすれてもあるべきものをなかなかにとふにつらさを思ひ出でつる](続古今:恋1241)

稽古楼(けいこう) → 真国(まくに・石橋、茶屋経営/和学者) 4 0 6 8

稽古楼(けいこう) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3

恵五郎(けいごろう・佐藤) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6

桂五郎(けいごろう・植松) → 有経(ありつね・植松うえまつ、国学/歌人) H 1 0 1 0

1856 恵佐(けいさ) ? - ? 俳人;貞門、1670「五条之百句」入

敬佐(けいさ・亀山) → 筋宇(せつう・亀山かめやま、藩儒) K 2 4 7 0

1803 綱齋(綱齋けいさい・浅見あさみ、名;順良/安正、医者高島道齋男)1652-171160 近江高島の医、  
京で医業、のち儒者;闇齋門/崎門3傑、改姓;浅見、京;錦陌きんぱく講堂を開塾、  
師の神道説に反対し義絶、尊王説を主唱、

「靖献遺言」「大学明德説」「六経編考」「さくらみの賦」「夜話語録」「易類説」著、

「愛之理心之徳説」「綱齋詩集」「綱齋和歌集」「綱齋詩集」「浅見綱齋先生文集」外著多数、

[綱齋の通称/別号]通称;重次郎、別号;望楠楼、若林強齋・三宅観瀾らの師

E1866 綱齋(けいさい・綾部あやべ、名;進平/安正、道弘男)1676-175075 豊後の儒;父門/杵築藩儒、詩/歌、  
経学;伊藤東涯・北村篤所門、鳩巢・南郭と交流、1733致仕、

「家庭指南」「反求録」著、詩;「綱齋詩文集」、歌;「綱齋和歌集」著、

[綱齋の字/諡号]字;惟木/伯章、諡号;有終先生

D1846 圭齋(けいさい・宇都宮うつのみや、名;三的さんてき、遯庵とんあん[由的ゆてき]男)1677-172953 周防岩国藩儒、  
1717「遯庵詩集」序(恕方編)

[圭齋(;号)の字/通称]字;文甫、通称;一角

F1861 敬齋(けいさい・中野なかの、名;義賢)1695-176470 伊予新谷の儒者/大阪開業医、「摘解」著

[敬齋の字/別号]字;无妄、別号;退翁

E1867 敬齋(けいさい・福井ふくい軌/軌、字;小車、幕府医官楓亭男)?-1800 幕府医官、宋学;蟹養齋門、詩文、  
1781-89頃丹波篠山藩儒;藩校拡充等、1790「学校考」91「春秋折中」、「敬遠録」「長思録」著、

[敬齋の通称/別号]通称;巖助、別号;衣笠山人

N1867 景齋(けいさい・浜崎はまさき、)? - ? 江中期;近江蒲生郡の医者、

歌人;小沢蘆庵(1723-1801)門、門阪誠愚せいぐ・島崎春景の師、

[景齋(;名)の通称/号]通称;利右衛門、号;望海/雲浜

F1862 敬齋(けいさい・林はやし、名;元隆、別号;医林)1783-183957 信州岡谷の医者/儒;寺子屋師匠、

俳人;素檠そばくと親交、1821「はなふゝき」編

F1863 敬齋(けいさい・武居たけい、名;兼吉/慶助/端、平井藤蔵男)1785-185571 母方姓を名乗る、  
信州木曾の生、1802代官所小使/06下男/儒者;渡辺方壺門/江戸で古賀清里・樺島石梁門、  
1820郷校助教、郷校菁莪館学頭/監察を兼ねる/1851隠居、「敬齋詩文稿」著、

[敬齋の字/通称]字;章甫/正甫、通称;禎助/礼助

E1868 駒齋(けいさい・海東かいとう、名;驥衡、富田重直男/海東家嗣)1793-184957 磐城中村藩儒、亀田鵬齋門、  
昌平鬻出/相馬藩校育英館儒官、折衷・経済学、「古語類摘訳解」「三封凶考」「文制示掌」著

E1869 薊齋(けいさい・沖おき・松永まつなが、竹内無因齋2男)1795-185965 越前の人/一時松永氏の養子、  
実父より儒学(家学)修学/沖家を継嗣/父の跡に武生藩儒;世子教育/1853藩校立教館教授、  
「論語註」著、竹内霞堂の弟、

[薊齋(;号)の名/通称/法号]名;共常/共平、通称;作次郎/新七郎、法号;正容院

D1847 勁齋(けいさい) ? - ? 俳人、1813奚疑「嵐亭俳話」編・跋

F1864 敬齋(けいさい・片山かたやま、字;正光/通称;瀬平、号;優々館)?-? 江後期文政1818-30頃京木屋町書家、  
1828「万蔵節用字海大全」30「大宝節用集文林蔵」編

F1865 敬哉(けいさい・増田ますだ) ? - ? 江後期故実家;和田信定門/客応接作法を伝受、  
1820「臨時客応接」信篤と共編出版

F1866 奎齋(けいさい・西宮にしのみや、名;先)1800-5354 羽後角館の儒者;糸井茅齋門/1826秋田藩校詰役、  
1839藩校明德館教授並/46教授、書;隸書/篆刻、「春風楼遺稿」、

[奎齋の字/通称/別号]字;子礼、通称;豊太、別号;仁川/春風楼

F1867 敬齋(溪齋けいさい・渡部わたなべ、名;忠恕ただゆき、別号;湖月亭)1824-190582 岩代猪苗代磐椅神社神官、

俳人：市原多代女たよよ・三森幹雄みきお門、茶道、1856「神いさめ」著

E1870 **敬齋** (けいさい・小笠原おがさわら、名；陳敬、安志藩主長武男) 1828-63<sup>36</sup> 播磨安志の生/小倉藩主棟幹弟、  
儒者；安積良齋・佐藤一齋・大橋訥庵門、1862小倉藩に招聘され藩政改革に参加；不成功、  
尊攘論；異船砲撃を主張；不成功、「強國要議」「新策辨」「擎天管語」「詩文稿」著、  
[敬齋の字/通称/別号]字；義卿、通称；敬二郎/敬次郎、別号；直方軒/白馬山人

溪齋 (けいさい・英泉)	→ 可侯 (かこう・一筆庵、絵師/戯作)	1 5 1 3
溪齋 (けいさい・英春)	→ 英春 (えいしゅん・溪齋、可侯門絵師)	C 1 3 0 1
溪齋 (けいさい・葛飾)	→ 北泉 (ほくせん・葛飾かつしか、絵師)	D 3 9 5 8
計齋 (けいさい・津田)	→ 正重 (まさしげ・津田つだ/川北、藩士)	C 4 0 7 4
景齋 (けいさい・英寿)	→ 英寿 (えいじゅ・景齋、可侯門絵師/戯作)	C 1 3 8 9
景濟 (けいさい・溝口)	→ 幽軒 (ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/詩歌)	B 4 6 4 4
蕙齋 (けいさい・鍬形)	→ 政美 (まさよし・北尾、絵師)	I 4 0 6 0
蕙齋 (けいさい・大地)	→ 文宝 (あやよし・大地おおち、藩士/詩/書)	F 1 0 1 7
恵齋 (蕙齋 けいさい)	→ 芳幾 (よしき・落合/歌川、絵師)	C 4 7 1 8
恵齋 (けいさい・矢畑)	→ 直方 (なおかた・矢畑やはた、神職/国学)	P 3 2 1 3
敬齋 (けいさい・伊藤)	→ 仁齋 (じんさい・伊藤、儒学)	2 2 2 3
敬齋 (けいさい・近藤)	→ 棠軒 (とうけん・近藤、儒者/経史)	D 3 1 3 5
敬齋 (けいさい・川路)	→ 聖謨 (としあきら・川路/内藤、幕臣/詩歌)	M 3 1 0 2
敬齋 (けいさい・萩原)	→ 緑野 (りよくや・萩原はざむら、儒/講説/詩)	J 4 9 8 2
敬齋 (けいさい・吉井)	→ 直好 (なおよし・吉井よし、藩士/礼法家)	P 3 2 2 8
敬齋 (けいさい・小原)	→ 克紹 (かつつぐ・小原おはら、儒/絵師/地誌)	N 1 5 5 3
敬齋 (けいさい・佐々木)	→ 宗六 (そうろく・佐々木/源、書家)	J 2 5 2 4
敬齋 (けいさい・若山)	→ 立意 (りゅうい・若山わかやま、藩儒医)	C 4 9 7 2
敬齋 (けいさい・中田)	→ 平山 (へいざん・中田、藩士/儒者/詩)	2 7 4 3
敬齋 (けいさい・守田)	→ 通敏 (みちとし・守田もりた、藩士)	B 4 1 9 9
敬躋 (けいさい・津軽)	→ 儼淵 (げんえん・津軽つがる、藩士/儒者)	E 1 8 8 2
敬哉 (けいさい・中沢)	→ 東臯 (とうこう・中沢/山本、儒者)	D 3 1 9 5
啓齋 (けいさい・江見)	→ 長載 (ながのり・江見えみ、神職/国学)	L 3 2 3 4
桂齋 (けいさい・鴨)	→ 祐之 (すけゆき・鴨かも/梨本、神職/国学/歌)	D 2 3 2 1
桂齋 (けいさい・石河)	→ 正基 (まさもと・石河いしかわ、藩士/歌人)	N 4 0 5 8
桂齋 (けいさい・加藤)	→ 行忠 (ゆきただ・加藤かとう、藩侍医/国学)	G 4 6 7 1
稽齋 (けいさい・熊谷)	→ 玄随 (げんずい・熊谷くまがい、本草家)	K 1 8 3 2
瓊齋 (けいさい・上月)	→ 専庵 (せんあん・上月こうつき、医者/詩賦)	L 2 4 5 0
瓊齋 (けいさい・大国)	→ 正武 (まさたけ・大国/野々口長手、国学者)	D 4 0 4 1
瓊齋 (けいさい・たまのや・衣川)	→ 長秋 (ながあき・衣川きぬがわ、藩士/国学者)	D 3 2 1 1
瓊齋 (けいさい・上月)	→ 信敬 (のぶたか・上月こうつき、儒/神道)	I 3 5 4 7
経齋 (けいさい・嘉味田親雲上 かにみだべえちん)	→ 文鳳 (ぶんぼう・楊よう、琉球漢学/詩)	H 3 8 0 0
勁齋 (けいさい・岡)	→ 了允 (りょういん・岡おか、医官)	G 4 9 2 6
卿齋 (けいさい・高野)	→ 長英 (ちやうえい・高野たかの、蘭医者)	H 2 8 3 9
慶齋 (けいさい・吉田)	→ 言倫 (こととも・吉田よしだ、史家)	N 1 9 2 8
憩齋 (けいさい)	→ 急閑 (きゅうかん・憩齋 けいさい、聯句/語学)	G 1 6 3 8
憩齋 (けいさい・会沢)	→ 正志齋 (せいしさい・会沢あいざわ、儒者/尊攘)	B 2 4 9 1
笙齋 (けいさい・宇佐美)	→ 樸仙 (ぼくせん・宇佐美うさみ、医者/儒)	D 3 9 6 5
警齋 (けいさい・杉村)	→ 健 (けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜)	H 1 8 4 7
綱齋 (けいさい・竹内)	→ 武信 (たけのぶ・竹内たけうち、和算家)	O 2 6 5 8
馨齋 (けいさい・砂川)	→ 政教 (まさのり・砂川、与力/考証家)	G 4 0 2 6

F1868 **藝齋** (げいさい・市川いちかわ) ? - ? 江戸後期儒者、高崎藩士、1849「藝齋一日百詠」

景齋英寿 (けいさいえいじゅ)	→ 英寿 (えいじゅ・景齋、可侯門絵師/戯作)	C 1 3 8 9
溪齋英春 (けいさいえいしゅん)	→ 英春 (えいしゅん・溪齋、可侯門絵師)	C 1 3 0 1
溪齋英泉 (けいさいえいせん)	→ 可侯 (かこう・一筆庵、絵師/戯作)	1 5 1 3

- 敬西房(けいさいぼう;号) → 信瑞(しんずい;法諱、敬西房、浄土僧) 2 2 3 5  
形左衛門(けいざえもん・藤) → 斉長(まさなが・藤とう、神職/藩士) F 4 0 3 1  
桂左衛門(けいざえもん・望月) → 貞明(さだあき・望月もちづき、藩士/歌人) P 2 0 5 7  
蹊左園(けいさいえん) → 冠里(かんり・神田かんだ、酒造業/俳人) R 1 5 7 7  
敬左衛門(けいざえもん・福田) → 馬了(ばりょう・福田、俳人) F 3 6 9 1  
啓作(けいさく・浅田) → 信明(のぶあき・浅田、三堂、医者) 3 5 7 6  
啓作(けいさく・菊池) → 武侯(たけよし・菊池きくち、国学者/俳人) W 2 6 7 8  
啓作(慶作けいさく・植松) → 茂岳(しげおか・植松/小林、藩士/国学者) B 2 1 9 5  
慶作(けいさく・小林) → 繁樹(しげき・小林こばやし、国学者) E 2 1 6 5  
圭三郎(けいざぶろう・小田切/日高) → 為善(ためよし・日高、幕臣/渡米欧) S 2 6 9 0  
敬三郎(けいざぶろう・長尾) → 遁翁(とんおう・長尾ながお、儒者/勤王論) S 3 1 0 6  
恵三郎(けいざぶろう・岡) → 安定(やすさだ・岡おか、商家/本草/救荒) B 4 5 5 2  
恵三郎(けいざぶろう・福島) → 義言(よしこと・福島、浅田/乙葉、幕臣/日誌) D 4 7 3 1  
馨三郎(けいざぶろう・小山) → 猷風(ゆうふう・小山おやま、春山男) D 4 6 6 6
- 1804 景三(けいさん;法諱・横川おせん;道号) 1429-93<sup>65</sup> 播磨臨濟僧;1432(4歳)相国寺英叟門/竜淵本珠門、曇仲道芳門/嗣法、1467応仁乱に永源寺避難/72帰京;相国寺住持/92相国寺鹿苑院主、五山中期代表的文筆僧、「京華集」、「横川景三百人一首」「補庵絶句」「横川詩集」著、1467-72「東遊集」著、「五家一滴」「横川拈香」「閨門集」著、「蘿蔔集」「日本考略」「小補疏」編、[横川景三の号] 小補/補庵/万年村僧/金華
- F1869 慶讚(けいさん;法諱) ? - ? 室町期文安1444-49頃天台僧、「法流相承両門訴陳記」編  
F1873 圭三(けいさん;道号・衍藍えんらん;法諱)?-? 1796存 黄檗僧;竺庵浄印門/1746嗣法、1756伏見の海宝寺住持、「圭三禅師伏水福聚山海宝禅寺語録」著
- 桂三(けいさん・岡沢) → 友儀(ともり・岡沢たおかざわ、藩士/歌人) U 3 1 5 8  
径山(けいさん;道号) → 宗模(そうも;法諱・径山、臨濟僧) I 2 5 9 8  
経竿(けいさん・中川) → 経竿(つねのり・中川なかがわ、神職/国学) G 2 9 0 5  
慶賛(けいさん→よしすけ・黒田) → 長知(ながとも・黒田/藤堂、藩主/歌) E 3 2 9 8  
慶算(けいさん;法諱) → 慶算(きょうさん/けいさん;法諱、天台僧/歌人) S 1 6 0 1  
慶算(けいさん;法諱) → 慶算(きょうさん/けいさん;法諱、江戸前期天台僧) S 1 6 2 9  
景纘(けいさん・加藤) → 景纘(かげよし・加藤かとう、儒者/詩画) L 1 5 5 0
- N1875 慶山(けいざん;法諱、) 1623 - 1696<sup>74</sup> 近江坂田郡曲谷まがたにの真宗大谷派円楽寺住職、歌;[鴉のうみ]入  
[慶山の号]号;松月/笑翁/看山軒
- 1857 景山(けいざん・堀ほり/修姓;屈、名;正超、堀玄達[蘭臯]3男/本姓菅原) 1688-1757<sup>70</sup> 京の儒医;家学、1719()安藝広島藩主浅野吉長に招聘され侍講/藩儒、京・広島を往来、詩文/国学・歌に通ず、「不尽言ふじんげん」「景山文集」「景山筆記」「教問釈義」「ぬさのにしき」「物屈論文書」著、「安積澹泊及堀景山書簡写」「逍遥篇」/1749「楽教訳解」著、  
[景山の字/通称/別号]字;君燕/彦昭、通称;禎助、別号;垂山/曠懷堂、諡号;忠靖先生
- D1848 桂山(けいざん・飯田いだ、名;正義/宜祥、専通男) 1703-60<sup>58</sup> 撰津今津の醸造業、儒;山本復斎・加藤良斎門、学舎大観楼設置;西依成斎を招聘、岡白駒と交流、詩、加藤良斎「一昔話」写、「曲江梅賓集」「東知退詩歌集」「加藤良斎集」編、  
[桂山の字/通称/別号]字;子麟、通称;徳之助/弥右衛門、別号;剛斎、屋号;米屋
- N1869 景山(けいざん・久米くめ、) 1706- 1758<sup>53</sup> 出羽庄内藩士;1721(享保6)父没;家督嗣;禄2百石、物頭/1734(享保19)山浜京田の郡奉行/河北郡奉行兼任/1742(寛保2)物頭普請奉行、1750(寛延3)郡代;精励につき褒賞を受く、漢学;荻生徂徠門/太宰春台門、国学者/歌人、  
[郡奉行にて鹿狩の督つかさとりて由良村に宿りたる夜半いと清き月のもと牡鹿鳴くを聞き、あけばまた狩りゆく峯と白雪の月に妻恋ふ棹鹿のこゑ]、  
[景山(;号)の名/字/通称/別号]名;正為/為政、字;子古、通称;五郎兵衛、別号;十三楼、法号;景山院
- 1859 桂山(けいざん・川井/川合・河合かわい、名;雍、川井立珪男、本姓;橘/辻村) 1708-66<sup>59</sup> 大阪医者;家学、

- 川井立節(医者)りつせの家を嗣ぐ、儒;五井蘭洲門/詩;梁田蛻巖門/歌;有賀長伯・香川宣阿門、  
參禪;雲門禪師門/法橋、「桂山集」(息子立斎刊)、詩「大橋集」、歌;「穎川いせん和歌集」著、  
「新題和歌百首」「和歌瑣言」「日本紀瑣言」「古史和歌通」/1755「春曙百首和歌」著、  
[桂山の字/通称/別号]字;子和、通称;立牧りゅうぼく、別号;停雲館、江隱(歌仙堂)の父、  
F1870 惠山(けいざん・南みなみ、名;静脩/通称;伊平、正則男)1709-8880 土佐高知藩士;1735家督嗣;  
儒者;宮田定則・宮地静軒・尾池存斎門、勤仕せず;江戸で学問研鑽、学事につて藩に上書、  
1764「春秋春王正月贅考」74「惠山随筆抄略」著
- F1871 慶山(けいざん) ? - ? 俳人;羅山門、1748「ひろはとり」共編;貞至・五始と  
1861 珪山(桂山けいざん・林、別号;摩訶窓/眼蔵)?-? 1793存 江戸中後期1751-1800頃俳人;蓼太門、  
俳諧中興運動に参加/論書執筆、1760俳話「通夜物語」68「俳諧江戸返事」78「鬢麓夜話」著、  
1770口述「俳諧古辞談」書堂編、73作法書「二弟準繩にいていじゅんじょう」編、93「百轉ももさえずり集」編  
1860 荆山(けいざん・鈴木すずき)1749- 182173 越後水原の俳人/晩年に詩:三浦鷗沙門、野梅の父、  
1822「猿蓑四歌仙解」著
- F1872 景山(けいざん・淵ふち、名;在寛)?-? 江中期漢学者、安永1772-81年間江戸住、  
1779「陸氏草木鳥獸虫魚疏図解」著
- F1874 荆山(けいざん・朝倉あさくら、名;璞はく/字;琢卿/通称;玄蕃)1755-181864 京の儒者、  
1817「孟子文階」著
- E1871 景山(けいざん・秋山あきやま、名;朋信ともぶ/字;子交)1758-183982 代々越後長岡藩儒;家学、  
江戸で服部白賁門/師説を捨て実践達用学を主唱、1822藩校崇徳館教授/都講、藩主に重用、  
1817「越後長岡領風俗問状答書」編(:弘賢の調査に応ず)、「易解」「景山雑著」著、友虎の父、  
[景山の通称/別号]通称;多門太たもんた、別号;(致仕後;)酔翁
- F1875 荆山(けいざん・大江おおえ、名;維緝/字;仲熙、玄圃げんぼ男)1763-181149 京の儒者;父門、  
「咏物入門」「金元清詩類選」編/1804・07「詩韻国字解」編、藍田(1757-88)・維寧の兄弟
- F1876 景山(けいざん・中沢なかざわ、名;守典/別号;九美)?-? 江後期大阪の絵師、  
1804刊「名人蘭竹画譜」、「水かゝみ」「帰厚客話」
- 1858 景山(けいざん・大野おの)1786-1864?(63没説)79?(78?) 江戸の俳人・5世桃隣(太白堂)門、  
紀行「斗藪雑記」、「花守随筆」著、  
[景山の別号] 杜格斎2世/桃翁/五象庵/岱里/沈竜/炭瓢/杜陵/二夜庵/青眼堂、  
花守/羽扇堂/冬寿庵/竜吟斎/執中庵/旭柳庵/充香
- 1862 慶山(けいざん) ? - ? 大阪噺会、1810「画ばなし当時梅」入
- 1805 荆山(けいざん・日尾ひお/魚住[魚澄]/本姓;源、町医日尾林庵男)1789-185971 秩父日尾村生、  
早く両親に死別;祖父加藤重矩に養育/儒詩;亀田鵬斎・清水浜臣門、詩/書、「荆山詩集」  
「荆山随筆」「荆山文集」「荆山抄録」「日尾子」、1835「訓点復古」37「燕居雑話」39「鶴橋随筆」、  
「至誠堂詩集」「至誠堂詩文集」「至誠堂随得録」「至誠堂随筆」「至誠堂百詠」外著多数、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[げにちちのこがねにかふるよはなれや句へる桜霞む月影](大江戸倭歌;353春夜)、  
[荆山(;号)の名/字/通称/別号]名;瑜/璞/定光/定明/政寛、字;徳光/葆光/得衆、  
通称;善司/多門/宗右衛門、  
別号;恭斎/直磨・直麻呂なおまろ/至誠堂/呉竹舎、魚澄(魚住)善司・文貞先生  
継妻は → 邦子(くに・日尾/石井、花月園、歌人)1764  
息女 → 直(なお・日尾、歌人) 3256  
婿養子 → 省斎(せいさい・日尾、直の夫/儒者)
- F1877 敬山(けいざん) ? - ? 諏訪俳人・素檠そぼくと親交、1821「はなふふき」
- F1878 景山(けいざん・中川なかがわ、名;勝定/字;子静)1807-5246 羽後秋田藩士/江戸詰、詩歌、  
1849「大学講義」著、  
[景山の通称/別号]通称;市右衛門、別号;葵園/寒松館
- E1872 桂山(けいざん・立野たての、名;元定/字;麟卿、別号;夢庵)1824-8057 肥前武雄の儒者;武雄郷校入学、  
儒;清水竜門・飯盛鳳山・草場佩川門、西洋の兵法・馬術を修学、郷校身教館教授/邑政参画、  
「孝経考合説」「左伝續考合解」「尚書考合解」著

F1879 景山(けいざん・八隅やすみ、名; 中立、別号; 立翁/蘆庵)?-? 江後期上州高崎の医者、江戸で医業、1810「旅行用心集」16「利運談」25「養生一言草初編」、「養生はなし」「生涯用心集」著

N1842 景山(けいざん・曲淵まがりぶち)?-? 幕臣; 堺町奉行(1836-41)、甲斐守/出羽守、歌; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[梓弓はるの日数はあさけれど深きみどりにかすむ松が枝](大江戸倭歌; 30初春松)、  
[景山(;名)の通称] 勝次郎

F1880 桂山(けいざん・五十嵐いがらし)?-? 江戸末期; 下野壬生の産科医、1853「産科要領」

- |                   |   |                             |           |
|-------------------|---|-----------------------------|-----------|
| 慶山(けいざん)          | → | 慶山(きやうざん、江前期真宗僧)            | N 1 6 8 7 |
| 荊山(けいざん・宮村)       | → | 貞幹(ていかん・宮村みやむら経弼、儒者)        | 3 0 4 6   |
| 荊山(けいざん・渋谷)       | → | 老驥(ろうき・渋谷しぶや、儒者)            | 5 2 2 4   |
| 荊山(けいざん; 号)       | → | 慈珉(じみん; 法諱、僧/歌人)            | O 2 1 7 2 |
| 薊山(けいざん・川谷)       | → | 致真(むねざね・川谷かわたに、藩士/暦算家)      | B 4 2 3 7 |
| 鷄山(けいざん・鷄籠山人)     | → | 尺竜(せきりゅう・吉沢、国学/俳人)          | D 2 4 9 6 |
| 径山(けいざん→けいざん; 道号) | → | 宗模(そうも; 法諱・径山、臨濟僧)          | I 2 5 9 8 |
| 啓山(けいざん・桃沢)       | → | 夢宅(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌人)        | 4 2 8 6   |
| 圭山(けいざん・朝枝)       | → | 一貫(かずつら・朝枝あさえだ、藩士/歌人)       | T 1 5 3 9 |
| 圭山(けいざん・大西)       | → | 有定(ありさだ・大西おおにし/岡本、神職/絵師)    | H 1 0 2 8 |
| 桂山(けいざん・伊達)       | → | 斉村(なりむら・伊達、仙台藩主/詩)          | I 3 2 3 1 |
| 桂山(けいざん・関)        | → | 海南(かいなん・関せき、医者/詩人)          | J 1 5 0 2 |
| 桂山(けいざん・多紀)       | → | 元簡(もとやす・多紀たき、幕臣/医者)         | E 4 4 4 9 |
| 桂山(けいざん)          | → | 林来(りんらい; 号、僧/俳人)            | K 4 9 8 2 |
| 桂山(けいざん・清岡)       | → | 正道(まさみち・清岡きよおか、郷士/国学/勤王)    | P 4 0 3 4 |
| 桂山(けいざん・栗山)       | → | 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人)       | I 3 8 1 8 |
| 桂山(けいざん; 号)       | → | 溪潭(けいたん; 法諱、真宗僧/国学/歌)       | N 1 8 7 1 |
| 桂山(けいざん・小島)       | → | 則栄(のりひで・小島こじま、幕臣/歌人)        | I 3 5 4 0 |
| 敬山(けいざん・戸田)       | → | 文鳴(ぶんめい・戸田とだ、去音門/俳人)        | G 3 8 5 0 |
| 景山(けいざん・徳川)       | → | 斉昭(なりあき・徳川、水戸藩主)            | G 3 2 9 8 |
| 景山(けいざん・秋田)       | → | 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家)          | C 3 9 4 1 |
| 景山(けいざん・溝口)       | → | 直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆)           | 3 2 5 9   |
| 景山(けいざん・藤岡)       | → | 有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量)       | F 1 0 3 4 |
| 景山(けいざん・青山)       | → | 忠与(ただとも・青山、藩主/歌人)           | F 2 6 4 1 |
| 景山(けいざん・丸田)       | → | 正通(正道まさみち・丸田、藩士/和算)         | H 4 0 6 0 |
| 馨山(けいざん・仙石)       | → | 政固(まさかた・仙石、藩知事/歌人)          | C 4 0 0 1 |
| 瓊山(けいざん・黒田)       | → | 直邦(なおくに・黒田、藩主/文筆家)          | B 3 2 1 4 |
| 瓊山(けいざん・生葉軒)      | → | 氏継(うじつぐ・森/道体どうたい、和算家)       | C 1 2 4 7 |
| 瓊山(けいざん・唐崎)       | → | 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王)        | C 3 7 6 1 |
| 溪山(けいざん・島津)       | → | 斉宣(なりのお・島津しまう、藩主/詩歌)        | H 3 2 9 4 |
| 溪山(けいざん・山本)       | → | 章夫(・山本やまもと、本草家/写生画)         | L 2 2 4 6 |
| 瑩山(けいざん; 道号)      | → | 紹瑾(しょうきん; 法諱・瑩山、曹洞僧)        | K 2 1 0 4 |
| 卿山(けいざん・水野)       | → | 廬朝(ろちよう・水野みずの/源/水、幕臣/絵師/俳人) | C 5 2 1 3 |
| 稽山(けいざん・中田)       | → | 正朔(まさもと・中田なかつ/沢潟、神職)        | R 4 0 1 3 |

F1881 鯢山(けいざん・山崎やまさき、名; 吉謙/字; 子謙) 1822-96 75 陸中津軽石村儒者; 佐藤一斎・安積良斎門、詩文; 梁川星巖門、1859盛岡藩校助教・侍講、79盛岡に集義塾を開、清人王治本と唱和、1851「魯西亜史略」57「鯢山詩稿」、「安樂窩詩題」、「馬山遊草」、「英吉利新志」訳、  
[鯢山の通称/別号] 通称; 謙蔵、別号; 無悶子

- |                      |   |                       |           |
|----------------------|---|-----------------------|-----------|
| 溪山閣(けいざんかく)          | → | 通博(みちひろ・那珂なか、儒/藩校助教)  | C 4 1 3 9 |
| 桂山桂窓(けいざんけいそう)       | → | 白翁(はくおう・笠原かさほら、医者/種痘) | C 3 6 7 7 |
| 径山子(けいざんし)           | → | 丈伯(常伯じょうはく・苗村むら、仮名草子) | B 2 2 2 3 |
| 恵山子(けいざんし)           | → | 宣明(せんみょう; 法諱、真宗大谷派僧)  | N 2 4 7 4 |
| 径山首出国師(けいざんしゅしゅつこくし) | → | 隠元(いんげん・隆琦、日本黄檗宗祖)    | C 1 1 0 3 |

- 瑩山紹瑾(けいざんしょうきん) → 紹瑾(しょうきん・鎌倉期曹洞僧) K 2 1 0 4  
 徑山宗模(けいざんそうも) → 宗模(そうも・江戸末期臨濟僧) I 2 5 9 8  
 馨山堂(けいざんどう) → 政固(まさかた・仙石、藩知事/歌人) C 4 0 0 1
- 1863 慶子(けいし・藤原、大将御息所だいらのみやすどころ、清慎公小野宮実頼女)?-951 朱雀天皇女御、正五下、  
 呼称は938父が右大将になったため、歌人;勅撰2首;後撰61/玉葉1772、  
 [咲き咲かず我にな告げそ桜花人づてにやは聞かむと思ひし](後撰;二春61:朱雀院の桜、  
 藤原能子説は誤り)、  
 高明室小野中君・弘徽殿女御と姉妹  
 → 実頼女(さねよりのむすめ、小野中君、高明室) D 2 0 7 8  
 → 弘徽殿女御(こうきでんのによご、村上天皇妃・述子) M 1 9 0 3
- F1882 計子(けいし・源みなもと、広幡御息所ひろはたのみやすどころ、広幡中納言庶明女)?-? 平安中期村上天皇更衣、  
 のち女御、理子・盛子内親王の母、歌人、村上御集・麗花集に村上天皇との贈答歌入、  
 栄花物語に逸話、梨壺五人の「万葉集訓釈」は計子の発意という(十訓抄)、  
 勅撰;拾遺集(2首810/1182)、万代集の「月影に」の歌は玉葉では源訶子作とある、同一人か、  
 [いにしへをいかでかとのみ思ふ身にこよひの夢を春になさばや](拾遺;恋十三810)、  
 (帝の寵愛の回復を願う気持ち)、  
 (本歌;後撰76読人不知;寝られぬをしひて我が寝る春の夜の夢を現になすよしもがな)  
 父 → 庶明(もろあきら・源みなもと、広幡中納言/廷臣/後撰歌人) G 4 4 9 9  
 源訶子と同一? → 訶子(かし・源、村上天皇更衣、玉葉歌人) G 1 5 7 7  
 宰相更衣と同一? → 宰相更衣(さいしょうのこうい・源、天徳歌人) G 2 0 7 6
- 01815 経子(けいし・西園寺、中御門経任女、遊義門院宣旨)?-? 鎌倉南北期;歌人、  
 遊義門院(始子内親王、後深草天皇皇女/1270-1307)に出仕;遊義門院宣旨名、  
 西園寺公衡(1264-1351)の妻、実衡(1291-1326)の母、  
 [風にちる花よりもなほうつりゆく人のこころぞとめんかたなき]、  
 (藤葉集;恋595/前大納言経任女)
- 1864 景菫(けいし;法諱・蘭坡らんぱ;道号) 1419-1501<sup>83</sup> 近江臨濟僧;南禅寺大模梵軌門/嗣法、五山文学、  
 詩人;希世靈彦・瑞巖竜惺門、1479相国寺住持/85南禅寺226世、南禅寺の仙館軒に退隠、  
 汎神論的詩論、「雪樵独唱集」「禅僧詩集」「蘭坡和尚南禅入寺法語」「仙館集」著、  
 1469「慈慧大師伝」、「北斗集」入、1463寛政四年能阿と和漢聯句  
 [蘭坡景菫の初法諱/号]初法諱;善秀、号;雪樵/子慎、諡号;仏慧円応禅師
- 1870 継之(けいし;道号・景俊けいしゆん;法諱)?-? 臨濟宗相国寺の僧、鹿苑院蔭涼軒いりょうけんの院主、  
 1552-72「鹿苑日録」中の季瓊・龜泉「蔭涼軒日録」(1435-93)の[鹿苑院古文案]筆録(1567か)
- F1883 倭志(けいし・岡田おかだ、通称;陸助/号;撰西陳人)?-? 大阪の地誌家;山川地理の研究、  
 1698「摂陽群談」、1703「公私要覧」編、「十七憲法和解俗評」著
- F1884 哇止(けいし・長谷川はせがわ、名;敬之)?-? 江前期大阪の俳人:1694洒堂「市の庵」入、  
 1698続猿蓑入、惟中「戊辰試毫」入
- F1885 軽子(けいし;号) ? - ? 京の俳人:1736?頃に江戸住;江戸座系、  
 1766「俳諧談笑随筆」著、百庵「毫の秋」/黒露「灯花三吟」入
- F1886 啓子(けいし・浪岡なみおか) ? - ? 大阪の俳人/雑俳:1757律中「耳勝手」入
- F1887 継志(けいし・呉ご、字;子善)?- ? 江後期天明寛政1781-1801頃;琉球の医者、  
 琉球屋久島の草本を写生;名称薬効を編録、1789「質問本草」、「質問草木略」著、  
 薩摩藩の村田経船が創作した架空の人物との説がある
- F1888 敬之(けいし・村瀬むらせ) ? - ? 江後期紀州の本草家:小原桃洞門、  
 1818「南海包譜」編(;桃洞門人が紀州産柑橘類50余種を収集・公開の際の図説や付図)
- N1846 継之(けいし・つぎゆき?・今井いまい)?- ? 江後期;歌人、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [立ちいでてぬれぬ朝こそなかりけれ山桜との花の朝露]、  
 (大江戸倭歌;春242/毎朝見花)
- F1889 契史(けいし・本間ほんま、通称;徳左衛門、別号;枯[古]木庵)?-? 越後水原の俳人、  
 1860「枯木集」/64「ひらかさ集」編

景之(けい)すべて → 景之(かげゆき)  
 経子(けい・藤原) → 中務内侍(なかつかさのない・伏見院) E 3 2 3 5  
 経子(けい・橋本) → 経子(つねこ・橋本、和宮母/記録) C 2 9 0 7  
 経氏(けい・細川) → 経氏(つねうじ・細川/源、武将/歌人) B 2 9 7 3  
 経之(けい/つねゆき・多田) → 海庵(かいあん・多田ただ、儒者/砲術) I 1 5 3 5  
 経之(けい・坊城/中御門) → 経之(つねゆき・中御門、廷臣/維新に功) E 2 9 1 8  
 経資(けい・岡田) → 経資(つねすけ・岡田おかだ/荒木田、神職/国学) F 2 9 4 5  
 継之(けい;道号) → 景俊(けいしゅん;法諱、臨濟僧) 1 8 7 0  
 継枝(けい・大主) → 継枝(つぐえ・大主おおぬし、書家/教育) 2 9 6 7  
 啓之(けい・高屋) → 種彦(たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3  
 恵思(蕙志/蕙思(けい)・塩路) → 鶴堂(かくどう・塩路しおじ、絵師) K 1 5 3 0  
 慶子(けい・俳号) → 富士郎(初世とみじゅうろう・中村、歌舞伎役者) 3 1 5 8  
 慶子(けい・俳号) → 富士郎(2世とみじゅうろう・中村、歌舞伎役者) O 3 1 8 3  
 慶子(けい・中山) → 慶子(よしこ・中山なかやま、明治天皇生母/歌) N 4 7 2 9  
 慶熾(けい・浅野) → 慶熾(よしてる・浅野あさの、藩主/書/歌) K 4 7 6 1  
 馨子(けい) → 馨子内親王(けいこないしんのう、後一条天皇皇女) F 1 8 0 4  
 繫子(けい) → つなこ・鷹司 → 新皇嘉門院(しんこうかもんいん、仁孝天皇女御) O 2 2 3 5  
 桂子(けい・柳川) → 耕雪亭(こうせつてい、戯作者) B 1 9 5 6  
 桂子(けい・横山) → 桂子(かつらこ・横山・大村、歌人) 1 5 7 0  
 敬子(けい・加藤) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1  
 敬子(けい) → たかこ・近衛 → 天璋院(てんしょういん、篤子、公武合体) B 3 0 7 0  
 敬止(けい・県あがた) → 信緝(のぶつぐ・県あがた、家老/日記) C 3 5 0 6  
 敬之(けい/たかゆき?・森) → 一鳳(いっぽう・森もり、絵師) H 1 1 9 3  
 敬之(けい・井田) → 敬之(たかゆき・井田いだ、書家/篆刻) E 2 6 6 8  
 敬之(けい・土田) → 蒙斎(もうさい・土田つちだ、藩医者) 4 4 5 2  
 敬之(けい・立野) → 竜貞(りゅうてい・立野たつの、古医方医者) F 4 9 2 6  
 敬之(けい・土屋) → 蕭海(しょうかい・土屋つちや、儒者/尊攘家) H 2 2 6 1  
 敬志(けい・山本) → 寅斎(いんさい・山本やまもと、儒者) I 1 1 5 6  
 敬思(けい;諡号) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0  
 経嗣(けい・二条/一条) → 経嗣(つねつぐ・一条/二条、関白/歌人) C 2 9 5 2  
 経嗣(けい・中御門なかみかど) → 経任(つねとう・中御門/吉田、廷臣/歌) C 2 9 5 9  
 罔師(けい) → 聖罔(しょうけい;法諱、浄土僧/宗学) Q 2 2 9 6  
 蕙芝(けい・青野) → 大筈(たいこう・青野あおの、酒造業/俳人) B 2 6 3 7  
 傾扨(けい・香川) → 景嗣(かげつぐ・香川、歌人) E 1 5 9 7  
 兄之(けい) → しげゆき・那波なば → 五明(ごめい・吉川きつかわ、商家/俳人) D 1 9 9 3  
 瓊芝(けい・上田) → 菊子(きくこ・上田うねだ、琴風、絵師) T 1 6 0 5  
 瓊枝(けい・根岸) → 友山(ゆうざん・根岸、農業/儒者/武術) C 4 6 0 2

F1890 **敬治**(けいじ・初岡はつおか、名;綱正、小貫頼久男) 1829-71刑死 43 秋田藩士/儒者;林方斎・白土右門門、  
 藩校明德館で修学、藩校教授/私塾開塾、1845初岡局の養嗣子、尊王を主唱、  
 明治;集議院議員/大参事、1871反政府陰謀事件に連座;斬罪、「初岡敬治日記」著、  
 [敬治(;通称)の号] 孤松/冬松/羽陰樵夫

敬二(けいじ・鳥海) → 酔車(すいしゃ・鳥海とりうみ、里正/郷土史家) E 2 3 6 2  
 敬治(けいじ) → たかはる・西井 → 桂叟(けいそう・西井にい、国学者) G 1 8 2 9  
 敬治(けいじ・村瀬) → 藤城(とうじょう・村瀬むらせ、大庄屋/儒者) F 3 1 3 3  
 敬持(けいじ・大口) → 樵翁(しょうおう・大口おおぐち、茶人/香道) H 2 2 3 7  
 敬持(けいじ・竹内) → 式部(しきぶ、竹内たけのうち、垂加神道家) B 2 1 5 4  
 敬時(けいじ・杉谷) → 雪樵(せつしょう・杉谷すぎたに、絵師) I 2 4 6 9  
 圭二(けいじ・菅) → 晋宝(しんぼう・菅かん/菅波、茶山弟/儒/詩) 2 2 7 9  
 圭次(けいじ・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつざき、儒者) 1 9 1 7  
 桂次(けいじ・岩井) → 貞良(さだよし・岩井いわい、具足師/歌人) N 2 0 8 9

慶次(けいじ・前田) → 利太(としたか・前田まただ、武将/日記) M 3 1 1 7  
 慶次(けいじ・正亀) → 慶次(よしつぐ・正亀しょうがめ、神職/俳人) E 4 7 6 5  
 慶治(けいじ・増子) → 三左衛門(さんざえもん・増子まじこ、名主/農業振興) M 2 0 2 5  
 慶字(けいじ;法諱) → 顯窓(けんそう;道号・慶字、曹洞僧) K 1 8 6 7  
 啓字(啓子けいじ・朝濤閣/浪岡/並木) → 黒蔵主(くろぞうす、浄瑠璃作者、雑俳) C 1 9 3 8  
 啓二(けいじ・丹羽) → 輔之(すけゆき・丹羽にわ、藩士/国学者) I 2 3 6 8  
 啓次(けいじ・山野) → 峻峯斎(しゅんぼうさい、山野やまの、絵師) K 2 1 4 7  
 景治(けいじ・加治) → 景治(かげはる・加治かじ、武将) L 1 5 2 2  
 景治(けいじ・里村) → 昌倪(しょうけん・里村[南家]、連歌師) G 2 2 4 2  
 景治(けいじ・小塚) → 景治(かげはる・小塚こつか、藩士/弓術) L 1 5 2 3  
 恵時(けいじ・林/飯島) → 為仙(ためり・飯島/林、名主/歌人) H 2 6 3 3

F1891 鯨思(けいし・宮崎みやざき、名;甚蔵/字;有成/別号;玉芝)1774-184370 上州境の儒者;柴野栗山門、1803私塾五惇堂創設・頭取/08私塾が郷学となる、俳諧;栗庵似鳩門、1917「綱齋先生感興詩」

芸之(げいし・良野/新名) → 華陰(かいはん・良野よしの、儒者) E 1 5 4 8  
 鯨児(けいじ・浪岡/並木) → 黒蔵主(くろぞうす、浄瑠璃作者、雑俳) C 1 9 3 8  
 景式王(けいしきおう) → 景式王(かげのりのおおきみ、平安期歌人) B 1 5 9 1  
 継志軒(けいしけん) → 道直(みちなお・野口のぐち、商家/国学者) C 4 1 0 7  
 鶏之舎(けいししゃ) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6  
 敬七郎(けいしちろう・小笠原) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0  
 源七郎(げんしちろう・狩野) → 松栄(しょうえい・狩野かのう、絵師/永徳父) F 2 2 4 1  
 桂室(けいしつ・林) → 宗二(そうじ・林りん・饅頭屋、商家/和漢学) 2 5 0 9  
 桂室(けいしつ・前田) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2  
 景質(けいしつ・桜田) → 虎門(こもん・桜田さくらだ、藩士/儒者) F 1 9 9 0  
 景質(けいしつ・長尾/股野) → 達軒(たっけん・股野またの、藩儒/詩人) G 2 6 1 9  
 景実(けいじつ・沢崎/朝倉) → 景実(かげざね・朝倉あさくら、兵法家) K 1 5 8 8  
 景実(けいじつ・大島) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6  
 経実(けいじつ・藤原) → 経実(つねざね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 9 1 7  
 恵実(けいじつ;号) → 亮雄(りょうゆう;法諱・恵実、天台僧) J 4 9 5 7  
 恵実(けいじつ;法諱) → 桑巖(そうごん;字・恵実;法諱、真宗本願寺派僧) H 2 5 3 3  
 桂実(けいじつ・多胡) → 欵治(ながはる・多胡たこ、国学/歌) N 3 2 6 9  
 慶実(けいじつ;法諱) → 慶実(きやうじつ;法諱、法橋/歌人) V 1 6 8 7  
 恵日坊(けいじつぼう/えにち-;号) → 清頭(しょうけん;法諱、天台学僧) I 2 2 4 1  
 圭実郎(けいじつろう) → 子曳(しえい、俳人) B 2 1 1 6

N1832 慧子内親王(けいしなないしんのう/あきらけいのひめみこ、文武天皇皇女)?-881 母;藤原是雄女の列子、賀茂の斎院;857斎院を廃される、古今集885詞書(敬信きやうしん尼の歌)  
 参照 → 敬信(きやうしん、尼僧) G 1 6 8 4

1867 瓊子内親王(けいしなないしんのう/たまこ-、後醍醐天皇皇女)?-1339 鎌倉南北期歌人/母;二条為世女為子、同母兄弟;尊良親王/宗良親王、1332父の隠岐配流時伯耆住;安養寺で出家(;安養比丘尼)、歌人;勅撰4首;新千載(165/1398/2062)新続古今(77)、新葉1288、  
 [ひとりのみながむる宿に散る花を扇の風のつてにだにみよ](新千載;春165/  
 桜の扇に書いて散る花を入れて瑤子内親王に贈る)、

瑤子内親王の返歌 → 瑤子内親王(瑤子ちやうしなないしんのう、後二条天皇皇女) I 2 8 6 0

馨子内親王(けいしなないしんのう) → 馨子内親王(けいしなないしんのう、後一条天皇皇女) F 1 8 0 4  
 瓊子内親王家小督(けいしなないしんのうけのこごう) → 小督(こごう、女房/歌) C 1 9 5 1  
 瓊子内親王家治部卿(けいしなないしんのうけのじぶきやう) → 治部卿(じぶきやう、女房/歌) F 2 1 5 7

1866 恵子女王(けいしにょおう/けいしじょおう・桃園宮、代明親王女)925-99268 母;藤原定方女?、藤原伊尹これまさ室、972夫没後出家尼/974息子挙賢・義孝の死、歌;963伊尹春秋歌合参:妹莊子女王と、拾遺集(1298)新古今(1238/1494)、挙賢・義孝・義懐・贈皇太后懐子の母、  
 [あまといへどいかなるあまの身なればか世に似ぬ潮を垂れ渡るらん](拾遺;哀傷1298、

二人子ども亡くなりて後のちの詠、謙徳公[藤原伊尹]の北方名、  
尼と海人/潮と涙を響かす;二人の愛児を一度に亡くした母の慟哭)

- 桂二坊(けいばう) → 沾山(せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1
- F1892 景舎(けいしゃ・近江屋おうみや、通称;佐平次)?-? 1772-89頃江戸札差/二三治「十八大通」入  
桂舎(けいしゃ・碓井) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2  
桂舎(けいしゃ/かつらのや) → 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9  
鶏舎(けいしゃ) → 斑象(2世はんぞう、俳人) I 3 6 3 3  
桂車堂(初世けいしゃどう) → 李亮(りりょう・渡辺、素封家/博学/俳人) J 4 9 9 0  
桂車堂(2世けいしゃどう) → 李郷(りきょう・渡辺、李亮男/藩士/俳人) 4 9 6 6  
桂車堂(6世けいしゃどう・右琴) → 右琴(ゆうきん・渡辺、越後俳人) B 4 6 2 9
- 1868 景趣(けいしゆ;法諱・琴叔きんしゆく;道号、号;松蔭)?-1507 近江臨濟僧;用剛乾治門・詩人;五山文学、  
1498南禅寺251世、「松蔭集」「松蔭吟藁」、1472「梅陽琴叔百絶」著
- G1805 髻珠(けいしゆ;道号・秀岳しゅうがく;法諱)?-1757 江中期曹洞僧;1744頃撰津鳳林寺7世、  
1754「読大戒訣並永平剃度文」著  
徑珠(けいしゆ;道号) → 太菴(たいりゅう;道号・禅驪;法諱、臨濟僧) L 2 6 1 8  
經種(けいしゆ/つねたね・枝吉) → 神陽(しんりやう・枝吉えだよし、藩儒/勤王派) Q 2 2 0 2  
敬首(けいしゆ) → 敬首(きやうしゆ;法諱・祖海;字、浄土僧) G 1 6 7 8  
瓊主(けいしゆ・大館) → 高門(たかかど・大館おおだち、医者/国学者) C 2 6 6 4
- F1893 圭儒(けいじゆ;法諱・惟通いつう;道号)?-1519 曹洞僧;旗雲祖旭門/嗣法、永平寺住持、  
1479武州竜淵寺3世/30年在住、武蔵常泉寺を開山:退隱、「惟通和尚語録」著  
慶受(けいじゆ) → 直隆(なおたか・栗田口あわたぐち、絵師) B 3 2 4 9  
慶寿(けいじゆ・富田) → 育斎(いくさい・富田とみだ、藩士/儒医) E 1 1 2 1  
慶寿(桂寿けいじゆ・近松) → 加造(嘉蔵/嘉造かぞう・近松、歌舞伎作者) M 1 5 7 7  
慶寿(けいじゆ・伊達) → 慶邦(よしくに・伊達だて、藩主/歌人) D 4 7 2 5  
經樹(けいじゆ・賀茂) → 經樹(つねき・賀茂/岡本、神職/日記/歌) C 2 9 0 1  
桂樹(けいじゆ・福島) → 地栄(つちひで・福島ふくしま、商家/歌人) G 2 9 2 4  
瓊樹(けいじゆ・島) → 霞ト(かほく・島、商家/俳人) P 1 5 4 0  
桂珠院(けいじゆいん) → 成子(なりこ・しげこ・堀ほり/蜂須賀、歌人) O 3 2 6 6  
慶寿院(けいじゆいん) → 長慶天皇(ちやうけいてんのう、歌人) I 2 8 0 2  
桂寿院(けいじゆいん) → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6
- F1894 慶秀(けいしゅう;法諱) 1399 - ? 1469存 天台僧;1431叡山西谷正蔵房住、  
1434播州有馬奥蔵寺多聞房住/69伝法沙門法印権大僧都、1431「三種法華円戒口決」著
- F1895 桂洲(けいしゅう;法諱) ? - ? 江戸初期;臨濟僧、天竜寺住僧、「讚一枚起請」著
- F1896 慶秀(けいしゅう;法諱、生嶋いくしま友国男) 1558-1609<sup>52</sup> 大和北葛城郡真宗大谷派長福寺開基、  
本願寺光寿(教如)に出仕/諸聖教の註釈作業、1924講師号、「和讚記」「安信決定鈔私記」、  
「正信偈私記」「三帖合註私記」「三帖和讚私記」「正像末和讚私記」「正信念仏偈私記科註」著
- E1873 桂洲(けいしゅう・蘆川あしかわ、名;正柳)?-? 江前期長門の医者/儒者;儒書の講説、1646「病名彙解」、  
1687「食用簡便」89「一日百詠」「袖珍医便」、「詩林錦繡囊」「片玉本草」「詩家必用」著、  
[桂洲の字/通称]字;道安、通称;正立
- N1836 輕舟(けいしゅう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[雪の鴈北向く寺の門寒し](丁卯集;筑波雪対寺門)
- 1865 桂州(けいしゅう;道号・道倫どうりん;法諱) 1714-94<sup>81</sup> 父;2説①京の商家松前屋主人(友仙居士)説/  
②大阪北浜の甲谷権兵衛説、京の臨濟僧;幼児期に延慶庵雲崖門/丹波法常寺大道文可門、  
延慶庵住持/1777天竜寺221世/晩年は延慶庵内枯木堂住、辞書「諸録俗語解」共編、  
「枯崖慢録別考」「大応王洲和尚行録」「夢窓国師語録事苑」「大光明蔵事苑」「続祖庭事苑」著、  
[桂州道倫の号] 来鳳軒/含旭亭/衣寶いとう道人
- F1897 桂舟(けいしゅう) ? - ? 伊勢俳人;1773几董「明鳥」76樗良「月の夜」入
- G1800 輕舟(けいしゅう) ? - ? 肥後大津の俳人、  
1793円通寺に句碑[賤家墳]建立;記念句集「賤家集」編、蝶夢「新類題発句集」入
- F1898 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、名;正澄、明澄男) 1794-1854<sup>61</sup> 伊予大洲藩医;家学/代々外科として出仕、

1812華岡清州門;5年間修業、1845刑死解剖、初の陰囊ヘルニア手術、乳癌手術の止血法創出、  
「外科便要」「外科起癢」「金創要訣」/1840「外科起癢図譜」著、  
[桂洲の字/通称]字;子等/子泉、通称;清之助/玄閑/玄台

- F1899 **桂洲**(けいしゅう・伊藤) ? - ? 江後期安政1854-60頃江戸本郷附木店の書家、  
「漢語往来」書
- G1801 **稽洲**(けいしゅう;法諱、道号;玉澗/古澗/看雲)?-? 武州玉川の臨濟僧:竹隱門、越後村上安泰寺住、  
長崎遊歴;清人と唱和、詩「看雲集」著
- G1802 **鷄周**(けいしゅう・野川のがわ、名;四方蔵よもぞう)?-? 江後期上州笛木新町河岸の俳人:長翠・道彦門、  
1816「あなうれし」26「雨夜集」、「しくれ集」著、  
[鷄周の通称/別号]通称;九右衛門、別号;叢山処
- 圭州(けいしゅう;号) → 曜慧(ようえ;法諱・圭州、真宗大谷派) 4 7 6 2  
 奎洲(けいしゅう・木沢) → 尚貞(なおさだ・木沢きざわ/並河、医者/歌) 1 3 2 8 1  
 桂洲(けいしゅう・小山) → 敬容(たかやす・小山こやま、国学者) N 2 6 5 7  
 桂洲(けいしゅう・藤塚) → 函書(ずしょ・藤塚ふじつか/源、神職) D 2 3 7 8  
 桂洲(けいしゅう・関根) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6  
 桂洲(けいしゅう・鈴木) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2  
 恵舟(けいしゅう・渡辺) → 武(たけし・渡辺わたなべ、藩士/記録) O 2 6 3 7  
 敬秀(けいしゅう→たかひで・小山) → 敬容(たかやす・小山こやま、国学者) N 2 6 5 7  
 敬秀(けいしゅう・西沢) → 敬秀(たかひで・西沢にしざわ/伊香、国学者) X 2 6 8 4  
 慶秀(けいしゅう・大坪) → 道禪(どうぜん・大坪、馬術) G 3 1 2 3  
 景秀((けいしゅう・藤尾) → 景秀((かげひで・藤尾ふじお、官吏/国学) V 1 5 5 4  
 景周(けいしゅう・筒井) → 郁(いく・筒井つひ、音楽家;明清楽) F 1 1 2 5  
 景周(けいしゅう・富田) → 景周(かげちか・富田とだ/とみた、藩士/儒者) E 1 5 9 6  
 景周(けいしゅう・深井) → 景周(かげちか・深井ふかい、武道家) L 1 5 0 0  
 景周(けいしゅう・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3  
 景周(けいしゅう・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0  
 景修(けいしゅう・里村) → 昌桂(しょうけい・里村;南、幕府連歌師) G 2 2 3 1  
 蕙洲(けいしゅう・中村) → 国香(くにか・中村、儒者/郷土史家) B 1 7 4 8  
 蕙洲(けいしゅう・楊井) → 盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者) G 4 4 8 9
- G1803 **慶什**(けいじゅう;法諱) 1499 - ? 1564存 播磨天台国刀山鶴林寺光林坊の住僧、  
1564「大般若経結願作法」著
- G1804 **恵重**(けいじゅう) ? - ? 難波桜本俳人;1690言水「新撰都曲」入
- 景住(けいじゅう・菊池) → 景住(かげすみ・菊池きくち、藩士/文筆) K 1 5 9 3  
 敬重(けいじゅう・石川) → 眞清(ますみ・源、酒造家/国学者) J 4 0 2 8  
 敬重(けいじゅう・平岡) → 敬重(たかしげ・平岡ひらおか、歌人) Z 2 6 2 4  
 経重(けいじゅう)すべて → 経重(つねしげ)  
 景充(けいじゅう・近藤) → 景充(かげみつ・近藤こんどう、兵法家) L 1 5 3 6  
 帛秀(けいしゅう・長) → 万年(まんねん・長ちよう、儒者) K 4 0 7 9  
 繫舟居(けいしゅうきよ) → 年緒(としお・菅谷[菅屋]、飛脚業/俳人) M 3 1 1 0  
 敬修斎(けいしゅうさい・小原) → 克紹(かつつぐ・小原おはら、儒/絵師/地誌) N 1 5 5 3  
 敬聚斎(けいしゅうさい・本保) → 長益(ながます・本保ほんぼ、藩士/詩人) F 3 2 8 1  
 軽舟亭(けいしゅうてい) → 直好(なおよし・熊谷、歌人) 3 2 0 4  
 敬十郎(けいじゅうろう・高橋) → 白山(はくさん・高橋たかはし、儒者) D 3 6 1 2  
 景肅(けいしゅう・肥田) → 景肅(かげたか・肥田ひだ、国学/歌人) V 1 5 4 5  
 景叔(けいしゅう・久子) → 翠峰(すいほう・久子くす、儒者/詩人) E 2 3 9 8  
 景淑(けいしゅう・大場) → 一眞斎(いっしんさい・大場おおば、藩士/歌) C 1 1 8 6  
 圭叔(けいしゅう・南合) → 果堂(かどう・南合なんごう、藩士/儒者) H 1 5 5 1  
 敬叔(けいしゅう・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9  
 敬叔(けいしゅう・古野) → 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9
- 1869 **慶舜**(けいしゆん;法諱) ? - ? 室町期1394-1441頃天台僧法印、定憲・弘範より相伝を受

近江柏原円乗寺再興2世/1435延暦椿堂の堅義、「草木成仏案立」/1425「六即義耶一念」編、  
1435「自受用所居椿堂」37「相伝法門私見聞」、「眷属妙義一仏始終」「仏土義寂光和尚」

- 1871 **恵俊**(けいしゆん/えしゆん・桂井坊/桂少坊)?-? 戦国期1486-1510頃信濃の僧:連歌作者;宗祇門、  
1483林叟元用と百韻、87「葉守千句」88「宗祇花下開百韻」参加、論書「連歌寄合」著?、  
1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(10句入)、新撰菟玖波3句入、  
[風の間まも落葉流るる秋の水](祈念百韻;二表8)  
(前句;住めばけぶりも木陰にぞ立つ;友興)  
景俊(けいしゆん;法諱) → 継之(けいし;道号・景俊、臨濟僧) 1 8 7 0  
景春(けいしゆん/かげはる・荒巻) → 青容(青蓉せいよう・荒巻、商家/俳人) J 2 4 6 8  
慶俊(けいしゆん;法諱) → 明叔(めいしゆく;道号・慶俊、臨濟僧) 4 3 2 1  
慶俊(敬俊けいしゆん) → 慶俊(敬俊きやうしゆん;法諱、三論/法相/華嚴僧) N 1 6 9 5  
慶俊(けいしゆん) → 慶俊(きやうしゆん、華嚴僧/大法房得業) S 1 6 3 0  
慶俊(けいしゆん) → 慶俊(きやうしゆん、室町期連歌) S 1 6 5 3  
慶俊(けいしゆん) → 慶俊(きやうしゆん、真言僧/戦国期連歌) N 1 6 9 7  
経春(けいしゆん・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9  
経俊(けいしゆん・吉田) → 経俊(つねとし・吉田/勸修寺/坊城、廷臣/記録) C 2 9 6 6  
経舜(けいしゆん) → 経舜(きやうしゆん;法諱・正頭、律宗真言僧) N 1 6 8 8  
G1806 **慶順**(けいじゆん;法諱・法名;聖誉/信蓮社聖誉)?-? 1482存 鎌倉浄土僧;良咩門/1455宗光明寺8世、  
1482退隱、「諸記要語類聚」著  
G1815 **慶順**(けいじゆん;法諱) 1843 - ? 美濃の天台僧、「慶順伝」著  
1872 **恵順**(けいじゆん) ? - ? 連歌、1516宗碩宅「十花千句」参加  
G1807 **慶純**(けいじゆん;号・中村なかむら、通称;橘屋)?-? 京の連歌師:紹巴門、茶道;小堀政一(遠州)門、  
1587「懐旧百韻」以後多数の連歌会参加;88宗柳等と「何木百韻」/98昌琢等と「何木百韻」、  
1613仙巖等と「何人百韻」/16玄陳等と「山何百韻」/28宗勝等と漢和聯句など  
D1849 **敬順**(けいじゆん;法諱、俗姓;津田) 1762-1832 71 江戸小日向の真宗大谷派本法寺内廓然かくねん寺4世、  
1812隱居/多芸;茶など/江戸近郊遊歴、1814-29「遊歴雜記」、「六義園記」「本朝諸国風土記」、  
「置土産形見草」「古今雅人別号撰」「武州都鄙茶人景譜」「真宗都鄙五派寺席誌」外著多数、  
[敬順の号] 大浄、(隱居後の号);十方庵/厭離斎/嘯月庵、茶人号;宗賢/宗知/以風  
圭順(けいじゆん・吉田) → 兼海(かねみ・吉田よしだ、医者/国学/歌) W 1 5 1 5  
景純(けいじゆん・朝倉) → 東軒(とうけん・朝倉、藩士/詩人) D 3 1 3 2  
景純(けいじゆん・富田) → 景純(かげずみ・富田とだ、藩士/兵法家) K 1 5 9 4  
景純(けいじゆん・春田) → 九阜(きゆうこう・春田はるた、藩士/儒者) I 1 6 7 3  
景惇(けいじゆん・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1  
景順(けいじゆん・末永) → 虚舟(きよしゆう・末永すえなが、藩士/地理) P 1 6 6 3  
景順(けいじゆん・平田) → 眠翁(みんおう・平田/小林、医者/本草家) G 4 1 7 7  
慶順(けいじゆん) → 精長(きよなが・河辺かわべ、神職) Q 1 6 0 4  
慶順(けいじゆん・高本) → 順(したごう・高本/李/原田、医/儒/国学) E 2 1 5 0  
慶純(けいじゆん・岩松) → 孝純(たかずみ・岩松いわまつ/源、幕臣/文筆) M 2 6 1 2  
稽詢齋(けいじゆんさい・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
迎春堂(げいしゆんどう) → 栄登(てるのり・奥村、医/儒詩) C 3 0 8 6  
1873 **敬所**(けいしよ・猪飼いかい、猪飼[川喜多]順彦男) 1761-1845 85 京西陣の糸商の家、  
心学;手島堵庵門/儒;宮鳳岡・岩垣竜溪門/史学;薩埵蒿川門、1791西陣で開塾;折衷学/経学、  
1831伊勢津藩に招聘;講学/津で客死、1805「逸史糾繆」、「禹貢考」「管豹録」「在津抄書」、  
「晏子春秋管窺」「論語標記」「孟子筆記」、「病間一適」「驅唾録」、「猪飼敬所筆録」外著多数  
[敬所(;)号]の名/字/通称/別号]名;安次郎/彦博よしひろ、字;希文/文卿、通称;三郎右衛門、  
別号;千一居士/洛下儒隱/贅叟、箕山(きざん/彦續げんざん)の養父  
B1800 **敬所**(けいしよ・中井なかい、幼名;資三郎/名;兼之かねゆき、森江もりえ兼行男) 1831-1909 79 江戸の人、  
1855幕府御用達飾師中井由路の養嗣子、江戸篆刻;益田遇所門、「印譜」編、  
1876篆刻会結成;「旦評戲鑄」編、「印譜考略」「日本印人伝」「皇朝印典」著、  
[敬所の字/別号]字;資同/資同父、別号;馨渚けいしよ/菡萏居かんとんきよ、法号;朗月院

- D1850 **敬所**(けいしょ・藤田ふじた、市左衛門男) 1698-1776 79 母;西郡氏、豊前中津藩の儒者;土居震発しんぼう門、新左衛門(播磨竜野藩主小笠原長次が中津藩転封に随い中津住)の孫、上京;伊藤東涯門、帰郷;私塾開設/1752(宝暦2)中津藩の儒臣となる;孟子古義等教授、十人扶持と金5両、妻;脇屋氏/息子;行義ゆきよし、三浦梅園(安貞)・倉成龍渚りゅうしよ(善卿)・賀来子登(元龍)の師、1752致仕;息子行義に家督譲渡、「文集一卷」「詩集三卷」著(散佚)、没後;「貞一先生集」倉成・賀来共編(散佚)、赤松翠陰編「敬所藤田先生遺稿」、[敬所(;号)の名/字/通称]名;順則、字;不識、通称;正蔵、諡号;貞一先生
- G1808 **敬所**(けいしょ・村内むらうち、名;政和) 1821-54 34 伊勢四日市の書家/詩に長ず、1853刊「名家墨林」著
- 敬所(けいしょ・小川) → 守中(もりなか・小川/藤原、蘭医/雅楽) G 4 4 0 6  
馨渚(けいしょ・中井) → 敬所(けいしょ・中井なかい、篆刻家) B 1 8 0 0  
桂嶼(けいしょ・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
- G1809 **景舒**(けいじよ/かげのぶ?・藤原、国章[?-985]男、元名の孫) ?-? 平安期廷臣;伊予介/従四下、歌;960内裏歌合参加
- 景徐(けいじよ:道号) → 周麟(しゅうりん:法諱・景徐、臨濟僧) P 2 1 4 5  
景恕(けいじよ;法諱) → 東海(とうかい;道号・昌峻;法諱、臨濟僧) B 3 1 9 4  
敬助(けいじよ・佐藤) → 竜谷(りゅうこく・佐藤さとう/辛島、藩士/国学) D 4 9 9 3  
慶恕(けいじよ・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1
- G1810 **契昭**(けいしょう:法諱) 1179 - ? 1230 存 天台学僧、曼殊院の写本、「合唱礼」著
- D1851 **圭承**(けいしょう) ? - ? 連歌、1453之基「小鴨千句」入
- 圭璋(けいしょう・渥美) → 忠直(ただなお・高山/渥美、幕臣/和算) Q 2 6 2 4  
慶松(けいしょう:号・友梅) → 友梅(ゆうばい:法名・慶松/小武、歌人) D 4 6 5 7  
慶勝(けいしょう・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1  
景昭(けいしょう・大田) → 蘭香(らんこう・大田おた、詩人/書) C 4 8 0 6  
景紹(けいしょう・梶原) → 景紹(かげつぐ・梶原、景惇男、地誌) E 1 5 2 2  
景照(けいしょう・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1  
景勝(けいしょう・上杉) → 景勝(かげかつ・上杉うえずぎ、武将/藩主) K 1 5 8 6  
景尚(けいしょう・沢崎/朝倉) → 景実(かげざね・朝倉あさくら、兵法家) K 1 5 8 8  
景尚(けいしょう・白浜/青方) → 繁治(しげはる・青方あおかた/白浜、藩家老) S 2 1 3 0  
景章(けいしょう・春田/曾我) → 耐軒(たいけん・曾我/春田/伊藤、儒者/詩) B 2 6 3 1  
景松(けいしょう・歌川) → 景松(かげまつ・歌川、絵師) F 1 5 0 0  
景祥(けいしょう・蓮沼) → 景祥(かげよし・蓮沼、藩士/学問興隆) L 1 5 4 7  
景韶(けいしょう・平田) → 眠翁(みんおう・平田/小林、医者/本草家) G 4 1 7 7  
経章(けいしょう・平) → 経章(つねあき・つねあき・平、廷臣/歌人) 2 9 1 0  
経章(けいしょう・山部) → 経章(つねあき・山部やまべ、神職/国学) G 2 9 6 7  
敬勝(けいしょう・菅井) → 霸陵(はりょう・菅井すがい、儒者) F 3 6 8 7  
敬勝(けいしょう・林はやし) → 立斎(りつさい・林はやし、儒者) B 4 9 8 4  
敬勝(けいしょう・長崎) → 正国(まさくに・長崎ながさき/橘、医/神職) R 4 0 2 5
- G1811 **継成**(けいじょう;法諱、号;善性/西成さいじょう) ?-1774 豊後速見郡真宗僧;覚性寺の生、豊前小倉本願寺派永照寺住職、真宗学;法霖門/1764学林の安居講師、65永照寺に戻る、1750「讚阿弥陀仏偈提釈」70「阿弥陀仏説林」73「雛僧教略」、「本尊義評」著
- N1830 **景讓**(けいじょう・頼らい、名;元鼎もとかね、春風長男) 1790-1815 早世 26 儒者;父春風門、1804山陽廢嫡のため伯父春水の養嗣子、[景讓(;号)の幼名/字/通称]幼名;熊吉、字;新甫しんぼ、通称;権二郎
- 頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0  
経乗(けいじょう;法諱) → 経乗(きやうじょう;法諱、真言僧/歌人) C 1 6 6 0  
継縄(けいじょう・藤原) → 継縄(つぐただ・藤原、平安遷都/史書編纂) 2 9 7 2  
桂城(けいじょう・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0  
桂城(けいじょう・矢島) → 作郎(さくろう・矢島やじま、藩士/実業/政治家) P 2 0 6 0

- G1812 **迎祥**(げいしょう・小林こばやし、名; 昶、別号; 言流舎/瑞翁) 1806-59 44 備後福山出身?、俳人; 何丸門、能書家、1830-44頃信州小布施に住; 俳諧と書を教授/1840頃上級郡桑原で寺子屋開設、1843(天保14)「菊の氷集」46(弘化3)「言流滴余」、「拾芳帖」著、  
 継松庵(けいしょうあん) → 長宜(ながよし・内池うちいけ、商人/歌人) G 3 2 4 3  
 勁松院(けいしょういん) → 徽子(のりこ・伊達だて、綵姫、藩主室) I 3 5 9 1  
 綱尚齋(けいしょうさい、綱尚堂) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6  
 稽繩舎(けいじょうしゃ) → 永隆(ながたか・喜多山きたやま、国学/兵学) L 3 2 8 5
- D1852 **輕少納言**(けいしょうなごん) ? - ? 狂歌師、1782橘州「若菜集」入/高彦「狂風大人墨叢」入  
 桂少坊(けいしょうぼう) → 恵俊(けいしゅん、連歌師) 1 8 7 1  
 啓書記(けいしよき) → 賢江(けんこう; 道号・祥啓、絵師/臨濟僧) I 1 8 6 3  
 鯨序齋(けいじよさい・片山) → 守春(もりはる・片山かたやま、墨随齋/絵師) K 4 4 3 0  
 奚所須窩(けいしよしゆか) → 悔齋(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
- D1853 **荆助仁**(けいじよじん) ? - ? 37歳没 藤原期・奈良期の渡来系廷臣/詩人、704?大宰少典、正六上/左大史; 懷風藻34(五言; 美人を詠む)  
 恵助親王(けいじよしのう) → 恵助法親王(えじよほつしんのう、聖護院門跡/歌) 1 3 6 3  
 啓四郎(けいしろう・木脇) → 祐業(すけなり・木脇きのわき、藩士/絵師) C 2 3 6 9  
 継四郎(けいしろう・山崎) → 茂承(しげつぐ・山崎/藤原、藩士/連歌) R 2 1 5 3
- G1813 **慶治郎**(慶次郎(けいじろう・藤岡屋) ? - ? 江後期江戸書肆/3世豊国作品版、「書府集覽」「松の寿」著  
 桂二郎(けいじろう・小金丸) → 金生(かねお・小金丸こがねまる/澄川、国学/歌) U 1 5 6 1  
 桂次郎(けいじろう・中島) → 長秋(ながあき・中島なかじま、醸造業/国学) N 3 2 9 0  
 慶次郎(けいじろう・前田) → 利太(としたか・前田、城主/日記) M 3 1 1 7  
 慶次郎(けいじろう・青野) → 大筈(たいこう・青野あおの、酒造業/俳人) B 2 6 3 7  
 慶次郎(けいじろう・島) → 天地根(あまね・橙果亭とうかてい、狂歌) F 1 0 0 6  
 慶次郎(けいじろう・八木) → 庭雅(ていが・八木やぎ、藩士/俳人) 3 0 4 4  
 慶次郎(けいじろう・南部) → 利敬(としのり・南部なんぶ、藩主) N 3 1 3 6  
 慶次郎(けいじろう・間野) → 慶明(よしあき・間野まの/小野、庄屋/歌) P 4 7 0 3  
 慶二郎(けいじろう・足代) → 弘早(ひろとし・足代/度会、神職/歌) G 3 7 5 2  
 慶二郎(けいじろう・足代) → 弘訓(ひろのり・足代/度会、弘早男/神職/国学者) 3 7 2 6  
 敬二郎(敬次郎(けいじろう・小笠原) → 敬斎(けいさい・小笠原、儒者) E 1 8 7 0  
 敬次郎(けいじろう・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F 3 5 6 6  
 啓次郎(けいじろう・杉野) → 紫山(しざん・加治かじ/杉野、儒者/兵法家) D 2 1 7 8  
 啓次郎(けいじろう・中西) → 弘繩(ひろつな・中西/度会、神職/国学) G 3 7 4 1  
 啓次郎(けいじろう・永田) → 海一(うみかず・永田ながた、国学/神職) E 1 2 8 1  
 啓治郎(けいじろう・藤井) → 竹外(ちくがい・藤井、藩士/鉄砲/詩人) C 2 8 7 8  
 啓治郎(けいじろう・藤田) → 惇斎(じゅんさい・藤田ふじた、書家) K 2 1 7 5  
 啓治郎(けいじろう・渡辺) → 慎(しん・渡辺/尾形、和算・測量家) N 2 2 2 1
- G1814 **慶信**(けいしん/きょうしん; 法諱、丹波守宮内卿藤原章信男) ? - ? 平安後期天台叡山僧; 阿闍梨、歌人; 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加; 右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、[秋来ぬとあともさやかに見えなくに蟬の声さへ涼しかるらん](賢聖院歌合; 七番右14)
- G1816 **敬親**(けいしん・馬詰うまづめ) 1647- ? 享保(1716-36)頃没 高知の儒医・小児科、「幼科新義」著
- N1873 **敬信**(けいしん/きょうしん; 法諱、) 1779-1836 58 伊予松山の浄土宗正覚寺7世、歌人
- N1845 **敬慎**(けいしん・よしちか?・石黒いしごろ/本姓; 藤原、通称; 太郎) ? - ? 江後期; 歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [霞立つ山路わらびをりをりに聞ゆる雉子きじの声ものどけし](大江戸倭歌; 春214)  
 景晋(けいしん・遠山) → 景晋(かげみち・遠山、幕臣/紀行) L 1 5 3 3  
 景新(けいしん・香川) → 景新(かげちか・香川、歌人) K 1 5 9 9  
 景信(けいしん・衣笠) → 景延(景信かげのぶ・衣笠きぬがさ、武将/藩士/歌人) U 1 5 5 1  
 景信(けいしん/かげのぶ・狩野) → 伯円(はくえん・狩野かのう、絵師) C 3 6 6 5  
 景信(けいしん・三谷) → 景信(かげのぶ・三谷、藩士/医者) L 1 5 1 5  
 景審(けいしん・梶原) → 景審(かげあきら・梶原かじわら、神職/国学) U 1 5 2 5

- 畦臣(けいしん・富田) → 畦臣(うねおみ・富田とみた、軍学者/歌) D 1 2 2 3  
 恵信(けいしん・林) → 恵信(しげのぶ・林はやし、農業/歌人) Z 2 1 7 4  
 敬信(けいしん) → 敬信(きょうしん、尼僧/歌人) G 1 6 8 4  
 敬信(けいしん・渋谷) → 老驥(ろうき・渋谷しげや、儒者) 5 2 2 4  
 敬信(けいしん・加藤) → 良斎(こんさい/ごんさい・加藤/伊丹、里正/儒) G 1 9 1 4  
 敬信(けいしん・黒沢) → 敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) W 2 6 8 2  
 敬信(けいしん・佐伯) → 淳信(あつのぶ・佐伯さえき、神職/国学/歌) H 1 0 6 2  
 敬心(けいしん) → 敬心(きょうしん、僧/連歌師) G 1 6 8 9  
 敬親(慶親けいしん) → 敬親(たかちか・毛利、藩主/討幕/維新) D 2 6 0 0  
 敬親(けいしん・藤原) → 豊前掾(初世ぶぜんのだじょう・富本、浄瑠璃太夫) 3 8 1 0  
 敬親(けいしん・目加田) → 慎憲(ちかのり・目加田[多]めかた、藩士/国学) N 2 8 6 6  
 経臣(けいしん・藤原) → 経臣(つねおみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 2 9 8 2  
 経信(けいしん・源) → 経信(つねのぶ・源みなもと、廷臣/詩歌/管絃) 2 9 1 1  
 経眞(けいしん・法諱) → 経眞(きょうしん; 法諱、僧/歌人) V 1 6 8 2  
 経深(けいしん) → 経深(きょうじん; 法諱、天台僧) C 1 6 6 7  
 経親(けいしん・平) → 経親(つねちか・平たいら、廷臣/歌人) C 2 9 4 8  
 経親(けいしん・大江) → 経親(つねちか・大江/毛利、廷臣/歌人) C 2 9 4 9  
 経晨(けいしん・中川) → 経晨(つねあき・中川/荒木田、神職/歌) B 2 9 4 9  
 継親(けいしん・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3  
 慶親(けいしん・中山) → 慶親(よしちか・中山/藤原、廷臣/歌人) E 4 7 4 7  
 慶親(けいしん→よしちか・毛利) → 敬親(たかちか・毛利もうり/大江、藩主/維新推進) D 2 6 0 0  
 慶尋(けいじん) → 慶尋(きょうじん; 法諱、平、天台僧歌人) C 1 6 6 6  
 慶深(けいじん) → 慶深(きょうじん; 法諱、僧/平安期歌人) V 1 6 8 4  
 慶深(けいじん) → 慶深(きょうじん; 法諱、僧/歌人) C 1 6 6 9  
 経尋(けいじん) → 経尋(きょうじん、九条、法相僧) C 1 6 7 1  
 経尋(けいじん) → 経尋(きょうじん、法相僧) C 1 6 7 1  
 継人(けいじん) → 継人(つぎひと・つぐひと・阿倍朝臣、遣新羅使人) 2 9 5 5  
 継塵庵(けいじんあん・内池) → 長宜(ながよし・内池、歌人) G 3 2 4 3  
 敬信院(けいしんいん) → 綱平(つなひら・二条/九条、関白/歌人) B 2 9 2 5  
 桂心居(けいしんきょ、桂心屋) → 貞之(ていし・伊藤、俳人) B 3 0 0 2  
 敬信斎(けいしんさい・吉田) → 元卓(げんたく・吉田よしだ、医者) K 1 8 9 5  
 蕙心斎(けいしんさい) → 政美(まさよし・北尾/赤羽、絵師) I 4 0 6 0  
 景進堂(けいしんどう) → 利通(としみち・丸毛まるも、幕臣/書家) W 3 1 5 0  
 慶心坊(けいしんぼう) → 慶心坊(きょうしんぼう、比丘尼/御伽草) G 1 6 9 1  
 敬水(けいすい・尾池) → 春水(はるみ・尾池おいけ、藩士/国学) G 3 6 9 0  
 D1854 鯨吹(けいすい・森もり、通称; 藤太夫) ?-? 江後期1789-1818頃信州代官所勤務/俳人、  
 1804「文化甲子春」編、  
 [鯨吹の別号] 雲浪舎/谿風舎/虎道  
 景瑞(けいずい・平) → 東江(とうこう・沢田、書家/詩人) 3 1 1 0  
 迎翠堂(げいすいどう) → 玄碩(げんせき・土生はぶ、眼科医) K 1 8 5 1  
 迎翠堂(げいすいどう) → 玄昌(げんしょう・土生、玄碩養嗣/眼科医) J 1 8 9 8  
 景崇(けいすう・中村/吉村) → 斐山(ひざん・吉村よしむら、儒者) C 3 7 2 4  
 G1818 恵助(けいすけ・玉巻たままき/玉水たまみず/菌その) ?-? 江後期歌舞伎作者:1779中村座狂言方/86森田座、  
 二枚目作者/桐座・市村座で創作協力/1794以後不明、1785「男山娘源氏」、  
 1786「女武者菊千余騎」「振袖染分道成寺」/88「高尾宮本地開帳」91「仮名書室町文談」、  
 [玉巻恵助の初称] 菌英助そのいすけ、福森久助の師  
 1879 圭介(けいすけ・伊藤いとう、初名:舜民、町医西山玄道男) 1803-1901長寿99 名古屋の医者/植物学者、  
 父の旧姓伊藤に復す、洋学; 藤林泰助門/宇田川榕庵・シボルトに師事、帰郷; 蘭法医開業、  
 日本植物学の基礎を確立/1888最初の理学博士、「泰西艸本名譜」「錦窠植物図説」、  
 「錦窠蘭譜」「遠西医範」「洋学指針」「洋学指南」「花かつみ集説」「表忠詩鈔」外著多数、

[圭介(；名)の字/通称/号]字；戴堯/清民/左仲、通称；圭介、  
号；錦窠きんか/太古山樵/花繞かじょう書屋/十二花楼/脩葉堂、大河内存真の弟

G1819 **圭介**(けいすけ・大鳥おとり、名；純彰、医者小林直輔男)1833-191179 播磨赤松村の生/儒；閑谷学校入、  
蘭学；1852緒方洪庵門/兵学；67江川英敏門/幕臣；1866開成所洋学教授/幕兵の洋式訓練指導、  
1868同志と新政府に抗戦/69降伏；のち特命全権清国駐劄公使/枢密顧問官、  
1855「日本小史」編/61「砲科新論」、65「野戦要務」訳、「歩兵程式」「万国綜覧」「泰西兵鑑」著、  
[圭介(；通称)の号] 如楓

恵介(けいすけ・宇佐美) → 瀧水(しんすい・宇佐美うさみ、儒者/詩) E 2 2 7 3  
恵助(けいすけ・毛利/武田) → 謙蔵(けんぞう・武田/毛利、歴算家) K 1 8 7 4  
恵助(けいすけ・樋野) → 桐蔭(とういん・樋野ひの、幕臣/歌) T 3 1 3 4  
啓介(けいすけ・竹村) → 好博(よひろ・竹村/武村、藩士/和算家) G 4 7 6 8  
啓輔(けいすけ・稲葉) → 蔦蹊(ちようけい・稲葉、儒者) H 2 8 9 8  
啓輔(けいすけ・安代) → 敬(けい・安代あじろ、医者) D 1 8 3 3  
啓助(けいすけ・杉山) → 勝伯(かつのり・杉山すぎやま、国学者) N 1 5 7 6  
圭輔(けいすけ・雲中) → 宜山(ぎざん・鈴木すずき、藩士/儒・医者) I 1 6 5 9  
圭輔(けいすけ・藤原) → 昌邦(まさくに・藤原ふじわら/西村、国学者) S 4 0 3 4  
圭介(慶輔けいすけ・松原) → 慶輔(けいほ・松原まつばら、医者) G 1 8 6 1  
桂助(けいすけ・色川) → 三中(さんちゆう・色川、商家/国学者) G 2 0 0 3  
桂助(けいすけ・桜井) → 光章(みつあき・桜井さくらい/桃沢、国学・歌) H 4 1 6 8  
奎輔(敬輔けいすけ・渡辺) → 蘅園(こうえん・渡辺わたなべ、医者/詩文) H 1 9 6 7  
慶輔(けいすけ・三谷) → 句仏(くぶつ・三谷、研師/俳人) D 1 7 3 9  
慶輔(けいすけ・鶴田) → 田鳳(でんぼう・鶴田、酒造業/俳人) E 3 0 3 2  
慶輔(啓輔/敬助けいすけ・岡) → 鹿門(ろくもん・岡おか、藩儒者/紀行) B 5 2 1 5  
慶輔(けいすけ・高寺) → 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6  
慶助(けいすけ・長崎) → 金城(きんじょう・長崎ながさき、儒者) J 1 6 0 2  
慶助(けいすけ・林) → 屋山(おくざん・林はやし、儒者) D 1 4 0 4  
慶助(けいすけ・渡辺) → 慎(しん・渡辺/尾形、和算・測量家) N 2 2 2 1  
慶助(けいすけ・杉本) → 幹之(みきゆき・杉本すぎもと/堀川、藩士/歌) J 4 1 3 6  
敬介(けいすけ・大泉) → 雅邦(まさくに・大泉おおいずみ、藩士/歌/書) C 4 0 4 0  
敬輔(けいすけ・勝島かつしま) → 翼斎(よくさい・勝島、儒者) B 4 7 7 1  
敬輔(けいすけ・中島) → 尚翼(なおすけ・中島なかじま、和算家) B 3 2 3 5  
敬輔(けいすけ・中村) → 敬宇(けいゆう・中村なかむら、幕臣/教育家) E 1 8 6 4  
敬輔(敬助けいすけ・勝島) → 翼斎(よくさい・勝島かつしま、儒者) B 4 7 7 1  
敬輔(けいすけ・高田) → 敬輔(敬甫けいほ・高田たかた、絵師) G 1 8 1 7  
敬輔(けいすけ・塚村) → 直(ただし・塚村つかむら、里正/歌人) W 2 6 5 9  
敬輔(けいすけ・小山) → 肆成(しせい・小山こやま、医者/牛痘接種) U 2 1 1 0  
敬助(けいすけ・桜田) → 景敬(かげのり・桜田、武道家/勤王派) L 1 5 2 0  
敬助(敬祐/啓祐けいすけ・船越) → 錦海(きんかい・船越ふなこし、医者) H 1 6 2 3  
敬助(けいすけ・落合) → 雙石(そうせき・落合おちあい、藩儒/詩人) C 2 5 3 3  
敬助(けいすけ・佐藤) → 竜谷(りゅうこく・佐藤さとう/辛島、儒者) D 4 9 9 3  
敬助(けいすけ・松岡) → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革) F 4 0 4 8  
敬助(けいすけ・三宅) → 煌(あきら・三宅みやけ、国学者/歌人) L 1 0 5 4  
形助(けいすけ・安野) → 南岳(なんがく・安野やすの、儒者/詩文) I 3 2 7 6  
綱介(けいすけ・梁田) → 葦洲(いしゅう・梁田やなだ、藩士/儒者) E 1 1 2 7  
馨助(けいすけ・花木) → 潭斎(たんさい・花木、藩士/医/儒者) I 2 6 6 9

G1820 **溪栖**(けいせい・葵岡きこう) ? - ? 1818-44頃絵師；北溪門、「狂歌作者部類」「江之嶋紀行」画、  
「彩色英雄作者部類」「手鑑画像集」画、  
[葵岡溪栖の別号] 葵園/便僊堂

1874 **景静**(けいせい) ? - ? 薬師寺僧、行基弟子、景戒と関り  
慶正(けいせい・遠藤) → 慶正(よしまさ・遠藤えんどう、歌人/勤王家) L 4 7 7 8

- 慶政(けいせい;法諱) → 慶政(きやうしやう・証月房、天台僧/歌人/説話) C 1 6 5 9
- 慶政(けいせい・檜垣) → 貞成(さだなり・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 0 8
- 継成(けいせい) → 継成(けいじやう;法諱、真宗僧) G 1 8 1 1
- 継成(けいせい・小谷) → 廉泉(れんせん・小谷こだに、藩儒) B 5 1 2 4
- 継成(けいせい・甘粕) → 継成(つぐしげ・甘粕/甘糟あまかす、藩士/史家) 2 9 7 1
- 経成(けいせい・勸修寺) → 経成(つねなり・勸修寺かじゅうじ/藤原、歌) C 2 9 9 0
- 経成(けいせい・高階) → 経成(つねなり・高階たかしな、廷臣/佳人) C 2 9 8 8
- 経成(けいせい・竹内) → 経成(つねなり・竹内たけうち/葛城/日野、藩士/勤王) F 2 9 9 7
- 経正(経政けいせい・平) → 経正(経政つねまさ・平、武将/琵琶/歌) D 2 9 6 3
- 経正(けいせい・つねまさ・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9
- 経正(けいせい・つねまさ・城戸) → 千楯(ちたて・城戸/大江/蛭子屋、書肆/国学) 2 8 1 3
- 経正(けいせい・矢吹) → 経正(つねまさ・矢吹やぶき、里正/歌人) F 2 9 1 2
- 経正(けいせい・宮川) → 経正(つねまさ・宮川みやがわ、神職/国学) G 2 9 5 6
- 経世(けいせい・宇賀/中根) → 東平(とうへい・中根/宇賀、藩士/儒者) H 3 1 0 5
- 経盛(けいせい・平) → 経盛(つねもり・平、清盛弟/武将/歌人) E 2 9 0 0
- 経盛(けいせい・中川) → 経盛(経森つねもり・中川/荒木田、神職) E 2 9 0 1
- 経清(けいせい) すべて → 経清(つねきよ)
- 景正(けいせい・加藤) → 景正(かげまさ・加藤かとう、陶工) B 1 5 9 5
- 景正(けいせい・林) → 景正(かげまさ・林はやし/藤原、神職/国学) V 1 5 4 2
- 景正(けいせい・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0
- 景正(けいせい・林) → 景正(かげまさ・林はやし/藤原、神職/国学) V 1 5 4 2
- 景正(けいせい・肥田) → 景正(かげまさ・肥田ひだ、家老/歌人) V 1 5 4 6
- 景井(けいせい・谷たに) → 景井(かげい・谷たに、医者/国学) K 1 5 7 5
- 景盛(けいせい・安達) → 景盛(かげもり・安達あだち、武将/真言僧) C 1 5 0 0
- 景盛(けいせい・芥川) → 景盛(かげもり・芥川あくたがわ、武将/連歌) L 1 5 3 9
- 景静(けいせい・喜田) → 華堂(かどう・喜田きだ、絵師) O 1 5 1 9
- 恵静(けいせい/えじやう;剃髮号) → 正子(まさこ・矢部やべ/大平、歌/書) C 4 0 4 6
- 恵成(けいせい/えじやう) → 恵定(恵成えじやう;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 9 9
- 恵盛(けいせい/えじやう;号) → 了空(りやうくう;法諱、真宗本願寺派僧) H 4 9 1 6
- 敬成(けいせい/ひろなり・入間川/渋川) → 春水(しゆんすい・渋川/入間川、藩士/天文曆算家) L 2 1 1 6
- 芸成(けいせい;号) → 了義(りやうぎ;法諱、真宗本願寺派僧) L 4 9 3 6
- 桂井坊(けいせいぼう) → 恵俊(けいしゆん、連歌師) 1 8 7 1
- 1875 溪石(けいせき) ? - ? 江前期江戸の蕉門俳人、其角と親交、  
1690「花摘」91「猿蓑」入;[鶯のはや一声のしたりがほ](猿蓑)
- 1876 桂夕(けいせき) ? - ? 江中期俳人、1689曠野2句入、  
1733「其箴そのおさ」半雪と共編:沾徳らと歌仙、  
[雪の暮なほさやけしや鷹の声](曠野)
- G1821 荊石(けいせき・山田やまだ、仁左衛門男) 1715-86 72 信州水内郡久保寺村の農業、  
宮城流和算;北沢市郎右衛門門、子弟教育、「授時今秘曆」「算法天元樵談九問答術」著、  
[荊石(;号)の通称]通称;勝吉/平右衛門、法号;釈浄嘉信士
- 圭碩(けいせき・小林) → 為邦(ためくに・小林こばやし、藩医/歌人) X 2 6 0 2
- 景迹(けいせき・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0
- 敬石(けいせき・石寺) → 直淑(なおとし・石寺いしでら、経師/歌人) L 3 2 1 5
- 鶏石(けいせき・沢井) → 慎父(しんぷ・沢井さかい、詩歌研究) P 2 2 6 9
- 慶績(けいせき・坂上/松下) → 真山(しんざん・松下/坂上、儒者/医者) E 2 2 3 3
- F1814 蛍雪(けいせつ) ? - ? 江前期俳人、1691?不角「二葉之松」4句入  
[妍哉あなにへや 陰陽めをの昔を嫁つるむ蝶](二葉之松)
- G1822 敬節(けいせつ・高根たかね、名;茂体/字;孝夫/別号;翠亭) 1718-86 69 伊勢津藩士/儒者:伊藤蘭峯門、  
古義学を修得/詩・書、「無迹集」著
- 経節(けいせつ・岡田) → 興之(おきゆき・中西なかにし、神職/国学) D 1 4 0 2

- 勁節(けいせつ・静) → 靱夫(ゆざお・静しずか/諏訪、神職/国学) G 4 6 9 2  
 慶撰(けいせん・松下) → 見林(けんりん・松下まつした、医者/史家) D 1 8 2 6  
 蛭雪庵(けいせつあん) → 村資(むらすけ・田村/坂上、藩主/茶道) 4 2 1 7  
 鶏舌齋(けいせつさい) → 徳瓶(とくべい・橋本、合巻作者) L 3 1 3 4  
 蛭雪舎(けいせつしゃ) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書家) S 4 0 7 8  
 勁節堂(けいせつどう) → 秀久(ひでひさ・菅すが、藩士/国学/歌) J 3 7 9 1
- N1853 迎接尼(げいせつに・安藤あんどう)?- ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [常磐なる松はつれなきものぞとも知らでや宿る木枯の風](大江戸倭歌;冬1142)
- 迎接房(げいせつぼう→ごうしょうぼう)→教懐(きょうかい;法諱、真言僧/高野聖祖) I 1 3 1 6  
 鶏舌楼(けいせつろう) → 茶雷(ちやらい・鹿嶋、俳/茶・琵琶) F 2 8 6 1
- 1877 慶暹(けいせん/きやうせん;法諱・号;百光房、宇佐大宮司大中臣公宣男)993-106472 伊勢の天台僧、  
 神祇伯大中臣輔親の猶子、比叡山入/明肇・明尊門、1059(康平2)園城寺権律師;翌年辞退、  
 歌/連歌、袋草紙に杖の逸話;1060師明尊90賀で竹杖を贈った藤原頼通に送る返歌を代作、  
 講説に長じ阿字観を修す/金色の阿字を前に観相すると後ろの墨阿字が金色に変る逸話、  
 勅撰8首:後拾遺(313/429/734/1180)金葉(Ⅱ662)千載(191)新古(819)続古(1521)、  
 [秋風に折れじとすまふ女郎花いくたび野辺におきふしぬらん](後拾;秋313)  
 [後一条院(1008-36)八講に菩提樹院に参り侍りけるにかぐらをかかて郭公なき侍るに、  
 古をこひつつひとりこえくればなきあふ山のほととぎすかな](御裳濯集;夏226)
- G1823 景川(けいせん;道号・宗隆そうりゅう[紹隆];法諱、俗姓;平)1425-150076 伊勢臨濟僧;円明寺で出家、  
 1443尾張の雲谷玄祥門/竜安寺雪江宗深門;嗣法、大和高市興雲寺/伊勢瑞応寺を開山、  
 妙心寺大心院開山、1475大徳寺46世、妙心寺・竜安寺・伊勢大樹寺住寺、「景川和尚語録」著、  
 [景川宗隆の諡号] 本如実性禅師
- 1878 契選(けいせん;法諱・文挙ぶんきよ;道号、号;国契)?-? 室町期曹洞僧;京建仁寺洞春安門徒?、  
 尾張光音寺及び越前弘祥寺の公帖を受、詩選集「花上集」(:1440彦竜周興の序)
- E1874 桂川(けいせん・松浦まつうら、名;守保/暢守、竜岡男)1737-9256 対馬府中藩士/儒;祖父雨森芳洲門、  
 1759父竜岡の免職により京天竜寺で五山文学修得、1762帰郷/66松浦家再興/71藩の家老、  
 藩財政再建に尽力/藩主相続問題に関与;切腹を命ぜられるが助命嘆願等により籠居、  
 「学則辨」「楚江雨」「桂川答問書」「松浦桂川先生岩崎景山への答書」著、  
 [桂川の通称] 平蔵/弾正
- G1824 溪川(けいせん・安倍あべ、名;保命/通称;勘司)?-? 江後期陸前西磐井郡赤荻村の和算家;長谷川弘門、  
 玉造郡医岩出山邑で算学を教授、1853「溪川子甲斐稿」、「数学段書利之巻」著
- 景先(けいせん) → 顕喆(けんてつ・景先、禅僧/漢学) E 1 8 4 3  
 景宣(けいせん・小槻) → 于宣(ゆきのぶ・小槻/壬生、廷臣/連歌) F 4 6 1 9  
 桂川(けいせん) → 月居(げつきよ・江森、俳人) 1 8 0 7  
 圭川(けいせん・木沢) → 尚貞(なおさだ・木沢さざわ/並河、医者/歌) 1 3 2 8 1  
 禊川(けいせん・藤波) → 教忠(のりただ・藤波/大中臣、神職) E 3 5 9 9  
 経宣(けいせん・中御門なかつみかど) → 経宣(つねのぶ・中御門/藤原、廷臣/歌) C 2 9 9 9  
 経宣(けいせん/つねのぶ?・高階) → 枳園(きえん・高階たかしな、医者) J 1 6 7 1
- G1833 慶禅(けいぜん;法諱) ? - ? 1477存 室町戦国期下野?の天台僧/法印、  
 「野州長沼宗光寺阿弥陀入仏法則」著
- G1825 慶善(けいぜん;法諱、字;積峰、俗姓;能勢のせ)1604-5855 山城久世郡御牧の浄土僧;道空・純長門、  
 南楚大江門/西山派の学究者、伊勢浄土寺住/東山禅林寺42世、「鉄空純固上人伝記」著
- 敬善(けいぜん・入江) → 東阿(とうあ・入江、和算/軍学) 3 1 7 0  
 経善(けいぜん・大蔵) → 経喜(つねよし・大蔵おおくら、能楽師) E 2 9 2 2  
 慶善(けいぜん・聖蓮社) → 了晔(りやうぎやう;法諱、浄土僧) H 4 9 0 8  
 麿川(げいせん・加古川) → 遜斎(そんさい・加古川/糟谷、医/儒者) F 2 5 3 9  
 景川齋(けいせんさい) → 親愛(ちかよし・秋保あきほ、藩士/国学/歌) L 2 8 7 6  
 蕙泉齋(けいせんさい) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7

- G1826 **慶祚**(けいそ;法諱、大外記中原なかはら師元男)955-1019<sup>65</sup> 天台園城寺僧;余慶門、  
993山門寺門争議の時弟子と岩倉大雲寺に移動/のち帰山、997宋の新書五部を勅命で論破、  
「西方要観」/999(長徳5)「法華竜女成仏権実疑難」著
- D1855 **景素**(けいそ・西村) ? - ? 江前期漢学者、1663梅盛「落穂集」漢文序
- 1880 **軽素**(けいそ) ? - ? 江中期俳人;涼袋門、  
1757「俳諧川柳」、「角あはせ」著
- 1881 **桂素**(けいそ・宮崎みやざき、通称;又兵衛)?-1878 江戸日本橋薬種・砂糖問屋大坂屋の主人、  
国学;足代弘訓門/俳諧・狂歌を嗜む/片歌を主唱、人情本、為永春水の友人、  
文政1818-30頃;文亭連を組織;春水の代作・助作に関わる、  
1827(文政10)「糸桜形見釵いとざくらかたみのかんざし」「赤縄伝えにしのかいと」著、  
[桂素の号]俳号;桂素、戯作号:**文亭綾継**ぶんていあやつぐ/寒葉斎/風解散人、狂歌名;秋光庵  
敬祖(けいそ・日下) → 誠(まこと・日下くさか、和算家) 4 0 7 8
- G1827 **景聡**(けいそう;道号・興昂こうきょう;法諱)?-? 室町期臨濟僧;妙心寺玉浦宗珉門/嗣法、  
美濃汾陽寺住寺;碧巖録研究/講義、美濃道樹寺開山、「碧巖集景聡臆断」
- 1882 **桂窓**(けいそう・小津おつ、名;久足ひさたり)1804-58<sup>55歳</sup> 伊勢松坂の富豪/国学;本居春庭門、詩文/歌、  
馬琴の読本創作を後援、蔵書家;西荘文庫、詩歌;1829「月波日記」31「花染日記」、  
1833「梅桜日記」/36「真間の口ずさみ」「斑鳩日記」/37「煙霞日記」38「ぬさ袋日記」、  
1839「浜木綿日記」40「三栗日記」/42「花衣」「青葉日記」/43「桜重日記」44「志比日記」著、  
歌;本居大平「八十浦の玉」下巻;長歌「袖岡山に登る」「辛洲浜の並木の桜」「江戸」入、  
[桂窓(;)の通称] 安吉/新五郎/与吉/与右衛門/進蔵/新蔵
- G1828 **桂叢**(けいそう・桑原くわばら、名;正望、字;三五/民之、苾堂男)1807-58<sup>52</sup> 駿河島田の絵師;勾田台嶺門、  
一時塚本家を嗣ぎ東海道の駅長/病弱のため復姓、「澹如詩稿」画、「天香堂雜記」著  
[桂叢の別号] 更幽山房/晒柯精舎べんかしょうじや、父と兄(霜涯)は書家
- G1829 **桂叟**(けいそう・西井にい、名;**敬治**たかはる/通称;長右衛門、長太夫男)1827-82<sup>56</sup> 伊勢浦口の国学者:  
足代弘訓門、歌/俳諧を能くす、「山田御神楽元出勤名前帳」著
- N1860 **桂窓**(けいそう・石山いしやま/旧姓;渋谷、名;大忠)1837-84<sup>48</sup> 備前岡山僧、  
岡山城内石山の金剛山常住寺円務院の住職、歌人;森寺美郷よしさと門
- G1830 **荆叟**(けいそう;道号・東玫とうびん;法諱)?-1886 幕末期臨濟僧;建仁寺352世、1839開帖/42再任、  
1860-64「以酌代番記案」編、「荆叟和尚詩稿」「荆叟和尚一老日記」「荆叟和尚法語稿」著
- G1831 **敬叟**(けいそう;号・山中やまなか、名;正路)?-? 江末期医者;医書の蒐集、  
1866オランダ砲術手引「砲術新編」訳(序;川本幸民)
- 慶宗(けいそう) → 慶宗(きょうそう;法諱、鎌倉期社僧/歌) C 1 6 7 5  
 慶叟(けいそう;号) → 僧鎔(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8  
 溪霜(けいそう) → 蕪村(ぶそん・与謝、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 桂窓(けいそう) → 冬映(とうえい・牧、俳人) B 3 1 2 9  
 桂窓(けいそう) → 慶五(けいご・三牧、俳人) F 1 8 5 4  
 桂窓(けいそう・岩井) → 貞良(さだよし・岩井いらい、具足師/歌人) N 2 0 8 9  
 桂荘(けいそう・越智おち/越えつ) → 高松(こうすう・越智/修姓;越、眼科医) J 1 9 9 8  
 桂叢(けいそう・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5  
 桂叢(けいそう・田宮) → 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5  
 敬宗(けいそう・宮沢) → 敬宗(たかむね・宮沢みやざわ、国学者/歌) Z 2 6 8 3  
 鷄窓(けいそう) → 篤(あつし・正木まさき、蘭学/詩) E 1 0 6 4  
 鷄窓(けいそう・寒松堂) → 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2
- G1832 **慶増**(けいそう/きょうそう;法諱・号;陰陽堂)?-? 平安中後期天台叡山僧;慶命[965-1038]門、  
阿闍梨;師より山王一心三観血脈の伝授/天台神道に精通、「日吉灌漑頂卷」著、  
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
[天の原霧し晴れずは山の端にかかる月影いかで見えまし](賢聖院歌合;五番右10)
- N1846 **桂蔵**(けいそう・榊原さかきばら、名;長河)?-? 江後期;歌人、幕臣?  
1847(弘化4)7月7日土佐守水野忠央亭五番虫合参加、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[霞みつつくるるまがきは春雨の降るが小篠の露重おるなり]、

(大江戸倭歌;春201/夕春雨)

[秋の野の花に暮らしてゆかしきはさし出ん月をまつむしの声]、

(大江戸倭歌;秋799/水野忠央亭五番虫合)

敬三(けいぞう・赤川)	→	忠郷(たださと・赤川あかがわ、藩士/神職)	V 2 6 1 0
敬造(けいぞう・酒井)	→	利亮(としすけ・酒井さかい、医者/歌人)	V 3 1 3 4
敬造(けいぞう・玉楮)	→	象谷(ぞうこく・玉楮たまかじ/藤川、漆工)	L 2 5 0 6
敬造(けいぞう・玉楮)	→	千畝(ちうね・玉楮たまかじ、象谷男/漆工)	M 2 8 8 2
敬造(けいぞう・本荘)	→	知貞(ともさだ・本荘ほんじょう、医者/国学)	W 3 1 3 6
敬蔵(けいぞう・宮坂)	→	信近(のぶちか・宮坂、藩士/文筆)	C 3 5 0 1
敬蔵(けいぞう・福原)	→	瀨水(はすい・福原ふくはら、儒者/詩歌)	E 3 6 6 6
敬蔵(けいぞう・中島)	→	九華(きゅうか・中島なかじま、儒者)	M 1 6 3 5
敬蔵(けいぞう・青木)	→	錦村(きんそん・青木あおき、儒者)	J 1 6 0 5
敬蔵(けいぞう・小寺)	→	清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌)	H 1 6 5 8
敬蔵(けいぞう・八木)	→	文琳(ぶんりん・八木やぎ、藩士/儒者)	G 3 8 7 8
敬蔵(けいぞう・川本)	→	幸民(こうみん・川本かわもと、蘭医/理化学)	L 1 9 3 0
敬蔵(けいぞう・永田)	→	桐隠(とういん・永田、藩士/儒者)	B 3 1 0 6
敬蔵(けいぞう・関谷)	→	潜(ひそむ・関谷せきや、儒者/国学者)	C 3 7 5 6
敬蔵(けいぞう・西村)	→	鹿衝(ろくがん・紀き/石、篆刻家)	5 2 7 9
敬蔵(けいぞう・宇野)	→	春溪(しゅんけい・宇野うの、商家/漢学/詩)	I 2 1 8 1
敬蔵(けいぞう・梅沢)	→	教知(のりとも・梅沢うめざわ、藩士/神職)	H 3 5 5 2
敬蔵(けいぞう・西村)	→	温(あつし・西村にしむら/日下部、蘭方医)	I 1 0 2 1
敬蔵(けいぞう・横田)	→	順宣(よりのぶ・横田よこた、書肆/尊攘)	P 4 7 9 7
圭蔵(けいぞう・山田)	→	意斎(いさい・山田、書/狂歌/戯作/浄作)	1 1 8 3
圭蔵(けいぞう・伊藤)	→	可立(かりゅう・伊藤いとう、俳人)	P 1 5 7 0
圭蔵(奎蔵けいぞう・小笠原)	→	庸昌(つねまさ・小笠原おがさわら、儒医)	D 2 9 7 5
圭蔵(けいぞう・村井)	→	鳳洲(ほうしゅう・村井、藩士/俳人)	B 3 9 5 5
桂三(けいぞう・齋藤)	→	千尋(ちひろ・齋藤さいとう、国学/歌人)	M 2 8 6 4
啓三(けいぞう・古市)	→	献(けん・古市ふるいち/千葉、絵師)	N 1 8 9 4
恵造(けいぞう・横田)	→	政徳(まさのり・横田よこた、商家/歌人)	T 4 0 6 6
慶蔵(けいぞう・葛井)	→	文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌)	F 3 8 2 9
慶蔵(けいぞう・高本)	→	順(したごう・高本/原田、医/儒/国学)	E 2 1 5 0
慶造(けいぞう・峰岸)	→	竜父(りゅうふ・峰岸、書家/朝顔栽培)	F 4 9 4 8
慶造(けいぞう・野田)	→	良久(よしひさ・野田のだ、国学/歌人)	O 4 7 4 3
芸窓(げいそう;誤読→うんそう)	→	太華(たいか・山県、儒者/詩)	B 2 6 0 8
芸窓(げいそう;誤読→うんそう)	→	常夏(つねなつ・度会/久志本、歌人)	C 2 9 8 7
桂蔵庵(けいぞうあん)	→	燕説(えんせつ、俳人)	B 1 3 1 8
鶏窓居(けいぞうきよ)	→	鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭)	3 9 5 3
慶蔵主(けいぞうしゅ)	→	宗啓(宗慶そうけい;法諱・南坊;号、臨濟僧/茶道)	B 2 5 1 7
慶蔵坊(けいぞうぼう;号)	→	盛嚴(じょうごん;法諱、天台修験僧)	I 2 2 9 1
瓊咀翁(けいそおう)	→	忠栄(ただひで・黒沢くろさわ、国学/神道)	W 2 6 9 3
経則(けいそく・中原)	→	経則(つねのり・中原、官人/歌人)	D 2 9 0 8
経則(けいそく・勸修寺)	→	経則(つねのり/つねとき・勸修寺、廷臣/記録)	D 2 9 1 9
敬則(けいそく・田村)	→	筋堂(せつどう・田村たむら、故実家)	L 2 4 3 4

1883 継尊(けいそん;法諱、藤原為継男?)?-? 鎌倉期;天台叡山僧、法印権少僧都、  
歌:新続古今集1028、

[いかにせん富士のねにこそ立てねども袖に思ひのたえぬ煙を](新続古;恋1028)

E1875 溪村(けいそん・白杵うすき、名;鎮匡、鑑古男)1772-1813<sup>42</sup> 筑前の儒者;月形鷗窠門、福岡藩儒、  
「先儒姓名録」著、  
[溪村(;号)の字/通称]字;子順/子慎、通称;辰之進

N1888 継尊(けいそん;法諱・姓;華園はなぞの、)1801-64<sup>64</sup> 越後柏崎の真宗僧/出羽酒田安祥寺住職、歌人、

後妻;西園寺福子とし(寿子/歌人;君様の称/西園寺公望の叔母/1814-73;63歳没)

[継尊の通称/法名]通称;睦丸、法名;実恵

景村(けいそん・千村)	→	景村(かげむら・千村ちむら、歌人)	L 1 5 3 7
景村(けいそん・鉤)	→	景村(かげむら・鉤いかり/河野、町年寄)	T 1 5 5 9
溪村(けいそん・江繫)	→	政陽(まさおき・江繫えつぎ、藩士/和漢学)	B 4 0 5 5
経尊(けいそん)	→	経尊(きょうそん;法諱、稻荷法橋、真言僧)	C 1 6 7 6
啓太(けいた・池部)	→	如水(じゆい・池部いけべ、藩士/砲術家)	M 2 2 6 0
経泰(けいたい・源)	→	経泰(つねやす・源、廷臣/歌人)	E 2 9 0 3
経泰(けいたい)	→	経泰(つねやす、連歌)	E 2 9 0 4
鶏沢(けいたく・熊谷/田辺)	→	簡斎(かんさい・田辺、藩士/儒者)	Q 1 5 5 4
蛭沢斎(けいたくさい)	→	正武(まさたけ・岡おか、幕臣/国学者)	D 4 0 3 9
景達(けいたつ・香川)	→	景達(かげとう・香川かがわ、藩士/国学者)	U 1 5 1 1
敬達(けいたつ・佐野)	→	尚友(しょうゆう・佐野さの、日蓮僧/国学)	U 2 2 8 6
桂大夫(けいたゆう・望月)	→	貞明(さだあき・望月もちつき、藩士/歌人)	P 2 0 5 7
敬太郎(けいたろう・安田)	→	玉海(ぎよくかい・安田やすだ、医者)	O 1 6 8 4
敬太郎(けいたろう・中村)	→	敬字(けいじゅう・中村なかむら、幕臣/教育家)	E 1 8 6 4
敬太郎(けいたろう・塙)	→	忠韶(ただつぐ・塙はなわ、国学者)	F 2 6 3 1
敬太郎(けいたろう・竹村)	→	盛行(もりゆき・竹村たけむら、国学者)	K 4 4 4 7
敬太郎(けいたろう・中村)	→	直方(なおかた・中村なかむら、国学者)	O 3 2 1 1
啓太郎(けいたろう・富永)	→	守緒(もりお・富永とみなが/源、歌人)	I 4 4 8 4
啓太郎(けいたろう・前田)	→	利保(としやす・前田、藩主/本草/歌)	O 3 1 0 1
啓太郎(けいたろう・大鳥居)	→	信臣(のぶおみ・大鳥居おとりい/真木、神職)	H 3 5 7 3
啓太郎(けいたろう・勝野)	→	秀雄(ひでお・勝野かつの/三勝、神職/歌)	J 3 7 0 6
桂太郎(けいたろう・橋本)	→	香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王)	F 1 9 3 4
慶太郎(けいたろう・荒木)	→	融思(ゆうし・石崎/荒木、目利/絵師)	C 4 6 1 3
罔太郎(けいたろう・朝香)	→	文敬(ふみたか・朝香あさか/追川、医者/国学)	H 3 8 9 1

G1834 **桂潭**(けいたん;法諱、別法諱;窪盈わえい、字;大豊/号;獅絃)1762-1821<sup>60</sup> 肥後山鹿真宗明照寺の生、1788豊後鶴崎の本願寺派福正寺の法嗣、明増門、性相に精通;俱舎桂潭と称される、1815西本願寺学林で「五事毘婆沙論」付講、「俱舎論玄談」「俱舎論正義録」「勝宗十句義玄譚」著

N1871 **溪潭**(けいたん;法諱、俗姓;能仁)1827-1900<sup>74</sup> 阿波小松島の真宗本願寺派光善寺10世、国学・歌;佐藤友信門、[溪潭(;法諱)の号]号;桂山/沐庵/春樹

景端(けいたん・森下)	→	景端(かげまさ・森下もりした/紀、藩士/宗教活動)	V 1 5 9 8
敬丹舎(けいたんしゃ)	→	雪麿(ゆきまろ・墨川亭、藩士/絵師/戯作)	4 6 1 1
雞談窓塵翁(けいだんそうじんおう)	→	未塵(みじん・堀ほり、藩士/俳人)	4 1 8 9
景知(けいち/かげとも・菅野)	→	彊斎(きょうさい・菅野すげの、医/儒者/詩)	I 1 6 7 8
経智(けいち・市岡)	→	経智(つねとも・市岡いちおか、代官/国学)	F 2 9 2 8
敬秩(けいちつ・井口)	→	敬秩(たかつぐ・井口いぐち、藩士/国学)	V 2 6 3 7

G1835 **契中**(けいちゅう;法諱・初法諱;聞朝)?-? 平安末期1161-90頃但馬出身天台叡山僧・聖昭門、穴太流台密を修学、「五論抄」「大五秘密壇私記」「舍利供」著、[契中の号/称]号;常寂房、称;但馬阿闍梨

1806 **契沖**(けいちゅう;法諱・空心くうしん;字、下川元全男)1640-1701<sup>62</sup> 摂津尼崎の武士出身、1650出家を志、1652頃真言高野山の快賢門、1662大坂生玉曼陀羅院住職;下河辺長流と知友、1663阿闍梨、今里の妙法寺住職、古典学者;国学・歌学・仏典・漢籍・悉曇学を修学、古典の実証的研究、1670頃に幽居、1690泉州高津の円珠庵円珠庵で著述活動、自撰歌集「漫吟集」著、1690「万葉代匠記」1692「古今余材抄」「勝地吐懐編」/95「和字正濫鈔」97「類字名所補翼抄」、1699「松島日記」、「続万葉集秘説」「勢語臆断」「円珠庵文集」「契沖家集」「円珠庵文集」外多数、[心ある人に一夜の宿かりてなるゝもかなしあすのふるさと]、

[香具山の岩ほにかくる白雲はあまつをとめが夏衣かも](漫吟集;四夏732/首夏)、  
[契沖(;法諱)の法号] 円珠庵契沖阿闍梨行実

1884 **敬仲**(けいちゆう・丹羽) ? - ? 平曲音曲者・荻野検校[1731-1801]門

- 恵仲(けいちゆう) → 恵仲(えちゆう、室町期歌人) E 1 3 0 6  
 恵中(けいちゆう) → 恵中(えちゆう・草庵、仮名草子) 1 3 7 5  
 恵忠(けいちゆう・林) → 恵忠(しげただ・林はやし、農業/歌人) Z 2 1 7 3  
 敬中(けいちゆう・神南) → 誠敬(のぶたか・神南かなみ、神道/国学/歌) B 3 5 7 2  
 敬中(敬仲けいちゆう・勝島) → 翼斎(よくさい・勝島かつしま、儒者) B 4 7 7 1  
 敬中(けいちゆう・六人部) → 筋篤(ときあつ・六人部むとべ/室谷、神職/歌) W 3 1 6 3  
 敬忠(けいちゆう・梅津) → 敬忠(よしただ・梅津うめづ/藤原、藩士/兵学) E 4 7 2 4  
 敬忠(けいちゆう・瀬下) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3  
 敬忠(けいちゆう・安井) → 敬忠(たかただ・安井やすい、神職/国学) M 2 6 1 9  
 敬忠(けいちゆう・伊沢) → 敬忠(のりただ・伊沢いざわ、名主/歌人) H 3 5 2 4  
 敬忠(けいちゆう・平山) → 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道) O 4 7 8 0  
 敬嘯(けいちゆう・岩谷) → 九十老(くじゅうろう・岩谷いたに、豪農/公共事業) E 1 7 0 5  
 景忠(けいちゆう・吉田寺/佐久間) → 景忠(かげただ・佐久間、兵法家) K 1 5 9 7  
 景忠(けいちゆう・大中臣/藤波) → 景忠(かげただ・藤波ふじなみ、神職) K 1 5 9 8  
 経忠(けいちゆう)すべて → 経忠(つねただ)  
 経仲(けいちゆう・藤原/源) → 経仲(つねなか・源/藤原、廷臣/歌人) C 2 9 7 9  
 継忠(けいちゆう・尾崎) → 積興(せきこう・かざおき・尾崎/伴/大伴、廷臣/故実) D 2 4 4 5  
 慶忠(けいちゆう) → 慶忠(きょうちゆう;法諱、僧/歌人) C 1 6 7 8  
 慶忠(けいちゆう・藤) → 慶忠(よしただ・藤波ふじなみ/大中臣、神職) E 4 7 2 2  
 慶忠(けいちゆう・高嶺) → 慶忠(よしただ・高嶺たかみね、藩士/地誌家) E 4 7 2 7  
 恵忠居士(けいちゆうこじ) → 祐佐(ゆうさ・伴ぼん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9  
 恵中堂(けいちゆうどう) → 水旭(すいぎよく・楓川亭、俳人) 2 3 4 0  
 桂中楼(けいちゆうろう・福智/福地/銭) → 土成(つちなり・大根おおね、絵師/狂歌) 2 9 9 3

G1836 **慶超**(けいちゆう;法諱・別法諱;信誓)?-? 伊予の真宗本願寺派常通寺住僧、  
「勸化護法編」、1759「選択章目歓喜鈔談」63「選択集応機談」68「真宗勸化信心銘」著

G1837 **敬長**(けいちゆう;法諱・智遠;字、号;越溪、俗姓:金山) 1779-1836 58 出雲循縫の天台僧:  
園城寺敬光門、1791京の仏猊門;出家/敬光に修学;跡を継嗣/宝珠山義山門;沙弥戒を受、  
敬雄の勧誘で伝法灌頂・天台法華秘訣を受、1805竜雲院守玄より比叡山の灌頂を受、  
天台教学の復興に尽力、「日進録」「空面遺芳」編、「十不二門指要鈔玄談」著、  
1823「観経疏妙宗鈔懸譚」28「法華玄談懸譚」34「本山修験勤行要集」著

G1838 **敬長**(けいちゆう;通称・安間あんま、五百枝) 1803-79 77 三河吉田藩士、歴代藩主の事跡を研究、  
1862「嵩嶽君言行録」編、「十世遺事抄」著

- 景長(けいちゆう/かげなが・加治) → 盈亮(えいりょう・加治かじ、武道家) D 1 3 4 1  
 景晃(けいちゆう・香川) → 琴山(きんざん・香川かがわ、藩家老/詩歌) R 1 6 0 7  
 景張(けいちゆう・白杵) → 横波(おうは・白杵うすき、儒者) C 1 4 1 6  
 景張(けいちゆう・野口) → 西里(せいり・野口のぐち、医者/詩) J 2 4 7 5  
 景張(けいちゆう・高橋) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4  
 景澄(けいちゆう・田付) → 景澄(かげすみ・田付たつけ、砲術家) B 1 5 8 7  
 景澄(けいちゆう・加藤) → 景澄(かげすみ・加藤かとう、地役/国学者) U 1 5 0 6  
 景朝(けいちゆう・梶) → 景朝(かげとも・梶かじ、国学者) U 1 5 2 2  
 敬長(けいちゆう・曾我) → 簡堂(かんだう、曾我そが、儒者) R 1 5 5 7  
 継長(けいちゆう・高辻) → 継長(つぐなが・高辻/菅原、廷臣/文章博士) 2 9 7 5  
 経長(けいちゆう)すべて → 経長(つねなが)  
 経朝(けいちゆう・世尊寺) → 経朝(つねとも・世尊寺/藤原、能書/歌人) C 2 9 6 9  
 慶澄(けいちゆう・遠藤) → 常友(つねとも・遠藤、藩主/歌人) C 2 9 7 0  
 景直(けいちよく・稲垣) → 景直(かげなお・稲垣、大庄屋) L 1 5 1 2  
 敬直(けいちよく・熊谷) → 敬直(のりなお・熊谷くまがい、藩士/記録) F 3 5 2 9

- 敬直(けいちよく・山田) → 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒詩) B 3 6 8 7  
敬直(けいちよく・山名) → 雲巖(うんがん・山名やまな、儒者) D 1 2 6 6  
敬直(けいちよく・加藤) → 敬直(たかなお・加藤かとう、和漢/考古学) M 2 6 5 2  
敬直(けいちよく・渋川) → 敬直(ひろなお・渋川しぶかわ、幕臣/暦算家) G 3 7 5 8  
敬直(けいちよく・木村) → 蟠山(ばんざん・木村きむら、蘭学/渡米) H 3 6 8 8  
敬直(けいちよく・早尾) → 海雄(ひろお・早尾はやお/藤原、国学/神職) K 3 7 6 6  
敬直(けいちよく・安田) → 敬直(あつなお・安田やすだ、網屋惣兵衛/本陣) I 1 0 6 0  
経直(けいちよく) すべて → 経直(つねなお)  
勁直(けいちよく・沼田) → 孤松(こしょう・沼田ぬまた、藩士/儒/詩人) M 1 9 7 7  
敬珍(けいちん・神代) → 名臣(あきおみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0  
景鎮(けいちん・森) → 景鎮(かげちか・森もり、藩士/剣術家) L 1 5 0 1  
慶槌(けいつい・森脇) → 惟良(これよし・森脇もりわき/筏、神道/歌) R 1 9 2 2  
経通(けいつう) すべて → 経通(つねみち)  
敬通(けいつう・千家) → 豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2  
景通(けいつう・稲葉) → 景通(かげみち・稲葉いなば、藩主/藩中興/歌) W 1 5 1 8  
景通(けいつう・青山) → 景通(かげみち・青山あおやま、藩士/神道家) T 1 5 3 4  
1885 敬貞(けいてい) ? - ? 俳人、去来と親交、1705玄察「誰身たがみの秋」入  
恵成(けいてい→えじょう) → 恵定(恵成えじょう;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 9 9  
圭亭(けいてい・原沢) → 文仲(ぶんちゅう・原沢はらさわ、医者) G 3 8 1 7  
莖貞(けいてい・荒木田) → 莖貞(もとさだ・荒木田あらかだ、神職) C 4 4 4 4  
桂亭(けいてい・宮永) → 嘉告(よしつぐ・宮永みやなが、藩士/郷土史) E 4 7 6 8  
敬貞(けいてい・水町/長谷川) → 里溪(りけい・長谷川はせがわ/水町、藩士/俳人) 4 9 8 9  
敬亭(けいてい・長谷川) → 杏所(きょうしょ・長谷川はせがわ、医者) O 1 6 0 2  
敬亭(けいてい・川端) → 玉章(ぎよくしょう・川端かわばた、画家) B 1 6 5 4  
敬亭(けいてい・並木) → 新作(しんさく・並木、洒落本評判記) E 2 2 3 0  
斐亭(綱亭けいてい・蒲生) → 精庵(せいあん・蒲生重章、儒者/医者) H 2 4 3 1  
景楨(けいてい・河北) → 景楨(かげえだ・河北かわきた、藩士/儒者) F 1 5 0 1  
経定(けいてい) すべて → 経定(つねさだ)  
経貞(けいてい・多賀谷) → 経貞(つねさだ・多賀谷たがや、和算家) C 2 9 1 2  
慶定(けいてい・関山) → 慶定(よしさだ・関山せきやま、里正/養蚕家) D 4 7 3 9  
芸亭(けいてい→うんてい) → 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7  
芸亭(けいてい→うんてい) → 常彰(つねあきら・渡会/久志本、神職/歌) B 2 9 5 7  
芸亭(けいてい→うんてい) → 東谿(とうけい・市川、絵師/詩歌) D 3 1 1 5  
芸亭居士(げいてい→うんていこじ) → 宅嗣(やかつぐ・石上) 4 5 0 1  
景定先生(けいていせんせい) → 玄悦(げんえつ・賀川かがわ/三浦、産科医) H 1 8 8 7  
G1839 恵迪(けいてき・菅原すがわら、通称;円次郎/号;流近舎)?-? 江後期羽前庄内の和算家;会田安明やすあき門、  
「算法切磋解義」校、後藤充豊の師  
恵迪(けいてき・山田) → 椿庭(ちんてい・山田、医者/詩) K 2 8 9 2  
恵迪(けいてき・酒泉さかはずみ) → 竹軒(ちくけん・酒泉、儒者/国史編纂) C 2 8 9 3  
恵迪(けいてき・五島) → 赤水(せきすい・五島ごとう、医者/詩文) K 2 4 2 5  
景迪(けいてき・桜田) → 簡斎(かんさい・桜田さくらだ、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1  
景的(けいてき・伊藤) → 藤景(ふじかげ・伊藤、藩士/兵法家) C 3 8 4 1  
経迪(けいてき・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9  
啓迪庵(けいてきあん・曲直瀬) → 一溪(いつけい・曲直瀬まなせ、医者) G 1 1 9 4  
啓迪院(けいてきいん) → 玄治(げんや・岡本おかもと、医者) M 1 8 5 3  
恵迪園(けいてきえん) → 善伸(よしのぶ・柴田しばた、藩士/測量術) F 4 7 6 8  
恵迪斎(けいてきさい/えてきさい) → 東海(とうかい・恵迪斎、俳人) B 3 1 8 6  
恵迪斎(けいてきさい/えてきさい;法号) → 連起(つらおき・長ちよう、藩士) E 2 9 3 9  
G1840 景轍(けいてつ;道号・玄蘇げんそ;法諱、号;仙巢/酹庵、河津隆業男) 1537-1611 75 筑前宗像郡の臨濟僧、  
永禄1558-70頃博多聖福字住寺/1580宗義調の招聘で日本国王使として渡朝鮮、

以後対馬で朝鮮外交、1599朝鮮に渡り己酉約条成立、対馬府中に「以酌庵」創設、  
「仙巢稿」著

- 1886 **慶典**(けいてん/きょうてん;法諱)?- ? 戦国安桃期;京太秦の真言広隆寺の法印、  
連歌:1573幽齋「大覚寺千句」参加、1577寿命院聖碩追善「懷旧百韻」興行;紹巴らと
- G1841 **継天**(けいてん) 1693 - ? 江中期1716-64頃天台僧;大僧正/延暦寺探題、  
1760「天台八教大意便蒙」、「凌雲院前大僧正継天消息集」著
- G1842 **敬天**(けいてん;法諱・儒童じゅうどう;字) 1758-1817<sup>60</sup> 陸中南部の天台僧:園城寺敬光門、  
1780十八契法受、1781胎蔵界護摩法・84円頓戒を受、86南部に帰郷;法門広通、  
1794「梵網菩薩戒本大義」著/「梵網宗海目録」「入真言門講演法華儀脱文」著
- 継天(けいてん;道号・寿戩)→ 寿戩(じゅせん;法諱・継天、臨濟僧;五山文学) M 2 1 8 6  
景典(けいてん・梶川) → 景典(かげのり・梶川かじかわ、藩士/儒者) L 1 5 1 8  
敬典(けいてん・梅沢) → 敬典(たかのり・梅沢うめざわ、書家) M 2 6 8 1  
敬典(けいてん・小倉) → 敬典(たかのり・小倉、郷土史家) M 2 6 8 2  
敬典(けいてん・川辺) → 敬典(たかのり・川辺かわべ、藩士/儒者) M 2 6 8 3  
敬典(けいてん・渋川) → 佑賢(すけかた・渋川しぶかわ、天文曆算家) G 2 3 2 0  
敬典(けいてん・森もり) → 敬典(たかのり・森もり/源、幕臣/歌人) U 2 6 2 5  
敬典(けいてん・尾池) → 春道(はるみち・尾池おいけ、藩士/武術/歌) J 3 6 8 3  
慧典(けいてん・向山) → 誠齋(せいさい・向山むこうやま、幕臣/歌人) B 2 4 6 2  
恵典(けいてん・須藤) → 恵典(よしのり・須藤すどう/松村、商家/国学) N 4 7 3 8  
慶伝(けいでん/きょうてん;字) → 日眞(にっしん;法諱・発星院、日蓮僧) E 3 3 4 5  
雞田(けいでん) → 文祇(ぶんぎ、戯作者/俳人) E 3 8 9 6  
敬天山人(けいてんさんじん) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1  
鶏田舎秋吉(けいでんしゃあきよし) → 千種庵(4世ちぐさあん、春告/商家/狂歌師) D 2 8 0 4
- G1843 **景桃**(けいとう・小栗栖おぐす、名;元規/祐規、俳号;示右、祐元男) 1680-? 京神職;上御霊社29代別当、  
俳人;1691(12歳)「俳諧八重桜集」編(上御霊社奉納)、1698「続猿蓑」入、景桃丸の父、  
[待宵まつよひの月にゆかしや定飛脚ぢやうびきやく](続猿蓑;卷下)
- G1844 **恵東**(けいとう・谷) ? - ? 江中期京の榊山座の歌舞伎作者、藤川茶谷と協力、  
1751「大和歌夫香具山」著
- 景東(けいとう・長尾) → 景東(かげはる・長尾ながお、幕臣/記録) J 1 5 8 5  
経冬(けいとう・中川) → 経冬(つねふゆ・中川/荒木田、神職/歌) D 2 9 6 1  
鶏頭(けいとう・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8
- G1845 **桂堂**(けいどう;道号・原佐げんざ;法諱)?-1486 曹洞僧:在仲宗宥門/嗣法、下総総寧寺6世、  
1484相模最乗寺に輪住、「桂堂禅師語録」著
- 01838 **桂堂**(けいどう;法諱) ? - ? 江中期;肥前佐賀の真宗本願寺派僧、  
顕正寺末寺の顕証寺(肥前多久)5世住職、  
1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、  
[舟よそひ影遅ければ久方の桂の棹もいかにさゝまし](追加;海上待月、  
月光射さないと出港できない;月の出が遅い/桂は月にある木/差さと射さを掛る
- G1846 **桂堂**(けいどう・岡久おかひさ、名;宗、尚修男) 1813-91<sup>79</sup> 徳島藩士/儒者;辻蘭室門、諸家の学問を折衷、  
徳島藩文学助教/大小性格、子弟教育、「興感雑記」著、  
[桂堂(:号)の字/通称]字;元岱、通称;宗十郎
- G1847 **恵堂**(けいどう・白土しらと/しらつち、名;清直) 1815-81<sup>67</sup> 秋田藩士/儒者;1833藩校明德館書記/60助教、  
1861郡奉行/64勘定奉行・銅山奉行、勤王派、詩、「対語統韻」著、  
[恵堂の字/通称/別号]字;士温、通称;右門、別号;志道館
- 1887 **奎堂**(けいどう・松本まつもと、名;孟成/衡、藩士維成男) 1831-63<sup>自刃</sup> 刈谷藩士;槍術で左眼失明、  
儒者、1852昌平黌に修学/藩の教授兼侍読;辞職/名古屋で開塾、  
岡鹿門らと大阪で双松岡塾を開設、詩人、尊攘派;藤本鉄石らと天誅組を組織し義挙、  
追討軍の銃に被弾/自刃、「奎堂文稿」、「天誅組大和日記」著、  
[奎堂の字/通称/別号]字;士権、通称;謙三郎、別号;孀川/洞仏子/三江、法号;天誅院
- 垺堂(けいどう・馬屋原) → 重帯(しげよ・馬屋原まやはら、史家) D 2 1 3 4

桂堂(けいどう・津島) → 恒之進(つねのしん・津島、本草学) C 2 9 9 7  
 桂堂(けいどう・森) → 約之(のりゆき・森、医者/本草学) G 3 5 1 5  
 桂堂(けいどう・原) → 師貞(もろさだ・原はら、医者/歌人) L 4 4 1 0  
 桂堂(けいどう・新居) → 百梅(ひゃくばい・新居にい、藩医/詩人) E 3 7 7 6  
 敬堂(けいどう・吉井) → 直好(なおよし・吉井よし、藩士/礼法家) P 3 2 2 8  
 敬道(けいどう・伊古田) → 檜陵(ゆりりょう・伊古田いこた、産科医) E 4 6 0 2  
 慶洞(けいどう・中村) → 文輔(ふみすけ・中村なかむら、藩儒/故実) I 3 8 5 4  
 蕙堂(けいどう;字) → 光闡(こうせん;法諱・法如;号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8  
 経同(けいどう・賀茂) → 経樹(つねき・賀茂/岡本、神職/日記/歌) C 2 9 0 1

E1893 魔洞(まいどう・湯川ゆかわ、名;幹/浴、医者寛仲男) 1814-7461 紀伊新宮の儒者/父と伊勢山田住、朱子学;1829塩田随斎・斎藤拙堂門、足代弘訓の紹介で大塩平八郎中斎門;陽明学修学、都講/宇津木静斎と交替で洗心洞塾長、1837大塩の乱を察知して母の実家新宮に逃亡、乱後;江戸昌平齋で朱子学修学;野田笛浦・佐藤一斎門、詩文に長ず、のち父が医師として出仕の紀伊藩新宮領主水野家の儒官/新宮藩校育英館の督学、「経書釈義」「魔洞詩文集」著、中斎「大学刮目」に訓点入/1835中斎「洗心洞節記」跋、[魔洞の幼名/字/通称/別号]幼名;民太郎字;君風、通称;新、別号;清斎/彙撰/墨撰(千)堂

芸堂(げいどう・村木) → 良広(よしひろ・村木むらき、国学者) P 4 7 5 3  
 鶏頭庵(けいとうあん) → 不転(ふてん・俳人) D 3 8 4 9  
 溪藤舎海丸(けいとうしゃかいまる) → 海丸(かいまる・溪藤舎、狂歌) J 1 5 0 7  
 鶏頭樹園(けいとうじゅえん) → 高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学) 2 6 1 3

D1857 景桃丸(けいとうまる・小栗栖おぐるす、名;元親、景桃[示右]男)?-1741 京の神職;官司、蕉門俳人、1691示右(小栗栖景桃)「俳諧八重桜集」入

参考 → 景桃(けいとう・小栗栖おぐるす、神職/俳人) G 1 8 4 3  
 鶏頭野客(けいとうやかく) → 素覧(そらん・三輪、俳人) E 2 5 4 7  
 敬徳(けいとく・薩埵さった) → 徳軒(とくけん・薩埵さった、心学者) K 3 1 6 4  
 敬徳(けいとく) → 敬徳(きょうとく;法諱・桜井、天台僧) O 1 6 3 8  
 敬徳(けいとく・住吉) → 弘貫(ひろつら・住吉すみよし、幕府絵師) G 3 7 4 5  
 敬徳(けいとく・浅野) → 敬徳(たかのり・浅野あさの、砲術家) M 2 6 8 4  
 敬恵(けいとく・大関) → 劍峰(けんぼう・大関おおせき、国学/儒者) M 1 8 3 1  
 経徳(けいとく・立入) → 経徳(つねのり・立入たてり、廷臣/記録) D 2 9 1 6  
 経徳(けいとく・高階) → 経徳(つねのり・高階たかしな、廷臣/記録) D 2 9 2 5  
 経徳(けいとく・井上/藤井) → 良節(りょうせつ・藤井ふじい/井上、藩士) I 4 9 5 1  
 景德(けいとく・荒井/奥村) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2  
 景德(けいとく・篠山) → 景德(かげのり・篠山ささやま、幕臣/記録) L 1 5 1 9  
 景德(けいとく/かげのり・中野) → 源蔵(げんざう・中野、庄屋/真宗僧) K 1 8 8 2  
 景德(けいとく/かげのり・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5  
 景德(けいとく・大庭) → 雪斎(せつさい・大庭おおば、蘭学者/翻訳) L 2 4 0 1  
 景德(けいとく・篠山/笹山) → 景德(かげのり・篠山/笹山/木村、幕臣/奉行) L 1 5 1 9  
 景德(けいとく・小俣) → 景德(かげのり・小俣おまた、幕臣/歌人) T 1 5 8 7  
 慶徳(けいとく・池田) → 慶徳(よしのり・池田いけだ、藩主/歌文) F 4 7 9 7  
 景德院(けいとくいん;法号) → 村隆(むらたか・田村/伊達、藩主) 4 2 1 8  
 景德院(けいとくいん;法号) → 元直(もとなお・島津しまう、領主/詩文) D 4 4 4 2  
 景德院(けいとくいん;法号) → 諧子(けいこともこ・前田まえだ/徳川、浴姫) W 3 1 4 4  
 桂徳院(けいとくいん;法号) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3  
 珪徳院(けいとくいん;法号) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2  
 慶得斎(けいとくさい) → 宗従(そうじゅう・守田もりた、宗俊/軍記作者) B 2 5 8 7  
 経徳堂(けいとくどう) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0  
 慶徳室(けいとくのしつ) → 慶徳室(よしのりのしつ・池田、藩主妻/歌) K 4 7 5 4

G1848 景南(けいなん;道号・英文;法諱、北酒出きたさかいで義基男) 1365-1454長寿90 美濃山口郷の臨濟僧、東福寺大方源用門/嗣法、京の万寿寺住寺/1430頃南禅寺132世、

1439將軍義教の東山常在寺住、1440義教の許可で南禅寺に寿塔東禅寺を開山、  
1448賢良[畠山匠作亭詩歌]参加、「景南和尚語録」「室町殿障子画十二月詩歌」著、  
[乾坤清氣百花魁 占得春風第一開 從此長安二三月 任他桃李興台]、  
(匠作亭詩歌;冒頭詩/新正梅/対するは祐雅[飛鳥井雅世]の歌)

- G1849 溪南(けいなん・村上むらかみ、別号;樵斎)?-? 江前期鍼医(代々)、  
1711朝鮮通信使随行医奇斗文らと問答/詩:「両東唱和後録」著(1712刊)
- E1876 桂南(けいなん・植田うねだ、名;順)1732-8857 土佐藩小吏の家/神道・儒;谷北溪真潮門、兵法/故実、  
曆算;川谷致真門/医;土井茗山門、故実に通ず、藩に出仕、「説斎録」「禦侮録」「桂南漫録」著、  
[桂南の字/通称/別号]字;子和、通称:清之丞、別号;咬菜堂
- 溪南(けいなん・浦上) → 盛栄(もりひで・浦上うらがみ、公共事業/歌) J 4 4 3 9  
 啓南(けいなん;通称) → 光泰(こうたい;法諱・高野、僧/国学) Q 1 9 7 7  
 荆南(けいなん・古林) → 正惇(まさあつ・古林ふるばやし/高松、医者/歌) S 4 0 3 8  
 圭二(けいに・菅) → 晋宝(しんぼう・菅かん/菅波、茶山弟/儒/詩) 2 2 7 9  
 桂尼(けいに) → 桂尼(かつらに、歌人) T 1 5 0 6
- G1850 慶任(けいにん/きょうにん;法諱)?-? 平安後期天台叡山僧/歌人;  
1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
[穗に出でて招く尾花も見ゆめれどさも懐かしき女郎花かな](賢聖院歌合;四番右8)
- D1858 契忍(けいにん、常陸入道)?-? 僧/歌人、1208年の歌:「明恵みょうえ上人集」入
- G1851 慶忍(けいにん;道号、介法橋)?-? 鎌倉期1249-56頃撰津住吉の絵師、慶恩きょうおんと誤読、  
「絵因果経」「灌頂巻絵詞」画、通称;介法橋(すけのほうきょう)、聖衆丸の父
- 慶忍(けいにん・田丸) → 慶忍(きょうにん;法諱・田丸たまる、真宗僧) O 1 6 4 2  
 経任(けいにん・源) → 経任(つねとう/つねのり・源みなもと、廷臣/歌) C 2 9 5 8  
 経任(けいにん・藤原) → 経任(つねとう・藤原ふじわら、大納言) Q 2 9 9 4  
 経任(けいにん・中御門なかみかど) → 経任(つねとう・中御門/吉田、廷臣/歌) C 2 9 5 9  
 景任(けいにん・林/亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0  
 荆忍子(けいにんし;号) → 閑陰(かんいん、天台僧/歌人) P 1 5 9 4  
 慶仁親王(けいにんしんのう) → 中御門天皇(なかみかどてんのう、歌人) F 3 2 8 5  
 経任母(けいにんのはは・藤原) → 経任(つねとう・藤原ふじわら、大納言) Q 2 9 9 4  
 経寧(けいねい・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9  
 慶寧(けいねい・前田) → 慶寧(よしやす・前田まえだ/藤原、藩主/歌) H 4 7 8 5
- G1852 繼然(けいねん;法諱・金剛房)?-? 鎌倉末期1312-57頃天台僧/法印;叡山法曼院8世、  
「四度行記法曼流」/1357「護摩次第息災・依十八道」著
- 景年(けいねん・歌川) → 景年(かげとし・歌川うたがわ、絵師) L 1 5 0 7  
 経年(けいねん・賀茂) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9  
 経年(けいねん・三輪) → 経年(つねとし・三輪みわ、製造業/歌人) G 2 9 5 0  
 啓之丞(敬之亟けいのじょう・加賀美) → 此一(いち・加賀美/加々美がみ/於曾おそ、藩士/俳人) P 2 1 5 8  
 敬之丞(けいのじょう・関口) → 久宣(ひさのぶ・関口せきぐち、藩士/神職) K 3 7 0 2  
 啓之進(けいのしん・杉山) → 昌雄(まさお・杉山すぎやま、詩歌/国学者) Q 4 0 3 6  
 馨之允(けいのすけ・小野) → 猷風(ゆうふう・小山おやま、春山男) D 4 6 6 6  
 繼之助(けいのすけ・河井) → 繼之助(つぐのすけ・河井、藩家老/儒者) 2 9 7 7  
 桂之助(けいのすけ・名和) → 眞民(まさたみ・名和なわ、藩儒) D 4 0 6 5  
 桂之助(けいのすけ・小野寺) → 道孝(みちたか・小野寺おのでら、藩士/歌人) I 4 1 2 8  
 桂之助(けいのすけ・菅沼) → 直槌(なおつち・菅沼すがぬま、庄屋/歌人) N 3 2 5 0  
 慶之助(けいのすけ・柴田/神野) → 曙庵(しやあん・神野じんの、美濃派俳人) G 2 2 4 3  
 慶之助(けいのすけ・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1  
 慶之助(けいのすけ・市岡) → 経智(つねとも・市岡いちおか、代官/国学) F 2 9 2 8  
 啓之助(けいのすけ・佐久間) → 象山(しょうざん・佐久間さくま、藩士/兵学) S 2 2 5 4  
 啓之助(けいのすけ・山口) → 椎陰(すいいん・山口やまぐち/山本、俳人) 2 3 2 6  
 啓之助(けいのすけ・山田) → 義忠(よしただ・山田やまだ、国学者) P 4 7 8 8

- 溪廼舎(けいのや) → 盛雄(もりたけ・堤つつみ/荒木田、神職/国学) K 4 4 6 5  
 恵白(けいはく) → 恵白(えはく:法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 2 0  
 慶博(けいはく・朝山) → 芳博(慶博よしひろ・朝山あさやま/勝部かつべ、神職) L 4 7 2 0  
 D1859 軽薄山人(けいはくさんじん) ? - ? 狂詩:1839「一部詩集」著;鯨湖山梅海編、「甲子夜話」入  
     鯨湖山梅海と同一? → 鯨湖山梅海(げいこさんばいかい) D 1 8 4 5  
 敬八郎(けいはちろう・森脇) → 惟良(これよし・森脇もりわき/筏、神道/歌) R 1 9 2 2  
 啓発(けいはつ・加藤) → 大式(だいに・加藤かとう、藩家老/儒者) B 2 6 9 7  
 啓発(けいはつ・福井) → 楓亭(ふうてい・福井/福、医者) 3 8 9 5  
 恵八(けいはち・団/松浦) → 東溪(東溪とうけい・松浦、詩/記録蒐集) D 3 1 1 2  
 1888 慶範(けいはん;法諱、藤原安隆男)997-106165 天台叡山僧;僧正/無動寺検校、今昔に逸話、  
     歌人の律師慶範と混同?→ 慶範(けいはん、中原致行男) G 1 8 5 3  
 G1853 慶範(けいはん;法諱、号;横川大供奉よかわのだいぐふ、中原致行男)?-? 平安後期1028-44頃天台叡山僧、  
     横川の律師(大供奉)/越後に旅、歌人;良暹りょうせん・永成ようじょう・伊勢大輔いせのたいふらと交流、  
     勅撰7首;後拾遺(4首179/479/1157/1181)金葉(Ⅱ534/648;連歌[Ⅲ640])千載577、  
     続詞花集入(慶範法師名)、  
     [ほとゝぎす我は待たでぞこころみる思ふことのみたがふ身なれば](後拾遺;三夏179)、  
     [なき人のわざしける導師にて諷誦文よみけるに高座よりおるとて、  
     うちならず鐘の音にや長さよもあけぬなりとは思ひしるらん](続詞花;哀傷414)  
 G1854 経範(けいはん・きょうはん;法諱、源経信男)1031-110474 真言僧;尋源門、  
     1062仁和寺性信親王門;灌頂を受、遍照寺を管領/東大寺・山階寺別当/1100権大僧都、  
     1101(康和3)法印/東寺長者法務、1089「弘法大師行状集記」著、  
     [経範の通称] 木寺法印/遍照寺法務  
 G1855 慶範(けいはん・きょうはん;法諱・号;東林坊、平たいら親範男)1155-122167 天台園城寺僧;真円門・円栄門、  
     1189真円より三部大法の職位を受/1215灌頂大阿闍梨/如意寺住、「宝秘記」「不動雑記」著  
 G1856 恵範(けいはん・えはん;法諱)1461-153777 常陸の真言僧;諸国遍歴/1495常陸栗崎仏陀院住、  
     1500山崎醍醐寺に修学/1505頃常陸六地藏寺3世、  
     「拾古鈔心車」「金剛界心車」「前方便心車」「諸草心車称」「勸進疏心車」「那韻皆抄恵範記」著、  
     「那珂湊補陀洛渡海記」「見行草」、1521「秘鍵開蔵抄心車」29「入仏表白」:外著多数  
     [恵範の号] 離[离]准房/土竜/心車  
 G1857 慶範(けいはん;法諱) 1635 - 169965 越前真言律僧;浄厳門、滝谷寺18世、のち浄厳門;安祥寺流、  
     1693伝法灌頂を受、柳沢吉保の帰依;智宝庵福勝院創建、「梵網古迹記聞書」著  
 N1833 慶範(けいはん) ? - ? 大和添上郡治道の柿本寺の住僧、  
     1776(文明8)「柿本像綵色勸進状」著[;人丸の堂修造と木像綵色のための勸進状]、  
     (群書類従和歌部283入)  
 経範(けいはん・藤原) → 経範(つねのり・藤原ふじわら、式部大輔/詩人) G 2 9 8 6  
 恵範(けいはん;法諱・心車) → 恵範(えはん、京真言六波羅密寺7世) B 1 3 6 7  
 慶範(けいはん・江戸期歌人) → 慶範(よしり、柿本寺住僧) F 4 7 8 6  
 景范(けいはん→かげのり・児島) → 天泐(てんろく・児島、儒者/詩) E 3 0 6 4  
 景範(けいはん・加藤) → 景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) B 1 5 9 0  
 景範(けいはん・長尾) → 景範(かげのり・長尾ながお、軍学/詩文) L 1 5 1 7  
 H1831 慶盤(けいはん;法諱・良深りょうしん;字、俗姓古賀)?-1745 武州真言僧;高野山竜光院の寛伝門、  
     竜光院48世、「十八道伝受聞書三宝院幸心方」著  
 G1858 溪尾(けいび・山田やまだ、通称;文右衛門、別号;西鶴庵)?-? 江中期享保1716-36頃大阪の俳人:  
     才磨門、前句付点者、1735・36「除元各詠」編  
 G1859 桂眉(けいび・服部はっとり、通称;福島屋勝七、別号;薄暮斎)?-? 江後期京三条通御幸町の商家/俳人、  
     「あさりつる」(文政1818-30頃著)  
 経美(けいび・中川) → 経美(つねはる・中川、神職/記録) D 2 9 2 8  
 景美(けいび・内藤) → 景美(かげよし・内藤、藩士) L 1 5 5 2  
 景美(けいび・里村) → 昌逸(しょういつ・里村さとむら、幕府連歌師) F 2 2 0 9  
 景美(けいび・村尾) → 景美(かげよし・村尾むらお、国学者) V 1 5 9 0

- 恵美(けいび;法諱) → 雪鼎(せつてい;号・恵美;法諱、真宗大谷派僧) E 2 4 5 7  
 敬美(けいび・内山) → 眞龍(またつ・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0  
 敬美(けいび・山田) → 鞞臣(ゆきおみ・山田やまだ、国学者) H 4 6 4 3  
 経弼(けいひつ/つねすけ・宮村) → 貞幹(ていかん・宮村みやむら、儒者/教育) 3 0 4 6  
 景浜(けいひん・勝部) → 景浜(かげはま・勝部かつべ、庄屋/歌人/画) U 1 5 2 9  
 景敏(けいびん/かげとし) → 昌琢(しょうたく・里村、連歌師) 2 2 8 6  
 景敏(けいびん・香川) → 景敏(かげとし・香川かがわ、歌人) U 1 5 1 2  
 敬敏(けいびん・広岩) → 敬敏(たかとし・広岩、神職) M 2 6 4 2  
 兄瓶(けいびん/えみか・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学者/歌) 4 4 3 5  
 敬夫(けいふ→たかお・齋藤) → 鶴磯(かくき・齋藤さいとう、儒者) H 1 5 2 4  
 敬夫(けいふ・堀) → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) 1 6 2 9  
 敬夫(けいふ・鴫田) → 魯斎(ろさい・鴫田ときた、藩儒/経史) B 5 2 5 4  
 敬夫(敬父けいふ・林) → 三洲(さんしゅう・林はやし、藩儒臣/詩人) M 2 0 3 7  
 敬夫(けいふ・中木) → 維明(これあき・中木、養蚕家/蚕種商) O 1 9 0 9  
 敬夫(けいふ・桑原) → 壽安(じゅあん・桑原くわばら、産科医) W 2 1 4 6  
 敬夫(けいふ・横山) → 政和(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆) B 4 0 8 1  
 敬夫(けいふ・山崎) → 蘭洲(らんしゅう・山崎やまさき、藩医) C 4 8 5 8  
 敬夫(けいふ・福原) → 元圃(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8  
 敬夫(けいふ・佐々木) → 景欽(かげよし・佐々木ささき/香川、歌人) U 1 5 6 9  
 敬父(敬夫けいふ・蝦) → 惟義(これよし・蝦えび、藩医者) O 1 9 9 8  
 敬父(敬夫けいふ・中根) → 東里(とうり;号・中根、儒者/教育) I 3 1 0 5  
 敬父(けいふ・前島) → 庸政(つねまさ・前島まえじま、医者/詩人) D 2 9 7 3  
 敬布(けいふ・須藤) → 神庵(しんあん・須藤すどう、儒者) N 2 2 2 9  
 敬敷(けいふ・高橋) → 元貞(もとさだ・高橋たかはし、医者) C 4 4 5 3  
 嵯父(けいふ;字・小林) → 葛古(かっこ/くずふる・小林、俳人) C 1 5 4 3  
 計富(けいふ・嶋) → 計富(かずとみ・嶋・島/角鹿、神職/古典) M 1 5 3 1  
 蹊夫(けいふ・前羽/井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3  
 溪夫(けいふ・村上) → 量敏(かずとし・村上/岡本、藩士/地誌) V 1 5 9 2  
 蕙布(けいふ・山田) → 蕙逸(けいいつ・山田、商家/俳人) 1 8 3 2  
 敬武(けいぶ・藤原) → 敬武(たかたけ・藤原ふじわら、神職) M 2 6 1 7  
 敬武(けいぶ・国田) → 敬武(たかたけ・国田くにた、国学者/神職) W 2 6 8 9  
 経武(けいぶ・吉見) → 経武(つねたけ・吉見よしみ、藩士/弓術家) C 2 9 3 9  
 景武(けいぶ・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 鯨夫(けいふ・木村) → 鯨夫(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6  
 芸舞(げいぶ・熊谷) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0  
 D1860 景風(けいふう) ? - ? 京の俳人;雑俳、1696円水「住吉おどり」入  
 兄風(けいふう・滝) → 牛郷(うしさと・滝たき/柳田、藩士・歌人) E 1 2 7 7  
 恵風(けいふう・橘/宮川) → 南谿(なんけい・橘/宮川、医者/詩歌) 3 2 3 2  
 谿風舎(けいふうしゃ) → 鯨吹(げいすい・森もり、俳人) D 1 8 5 4  
 迎風道人(げいふうどうじん) → 大筈(たいこう・青野あおの、酒造業/俳人) B 2 6 3 7  
 迎風楼(げいふうろう) → 通敏(みちとし・守田もりた、藩士) B 4 1 9 9  
 D1861 景福(けいふく・中川ながわ) ? - ? 漢学者;荻生徂徠門、1763「絶句解弁書」著  
 G1860 景福(けいふく・菊池きくち/初姓:牛丸、名;好直) 1748-181366 播州竜野の医者/播州左用で開業、  
 菊池家の女婿、1795美作代官早川正紀の招聘で美作久世の典学館都講、自宅で医業、  
 代官を援助、「佐用里談」、  
 [景福(;字)の通称/号]通称;正因、号;斜川  
 景福(けいふく・村岡) → 景福(かげとみ・村岡むらおか、商家/歌人) V 1 5 9 1  
 景福(けいふく・小嶋) → 景福(かげとみ・小嶋、武道家) L 1 5 0 8  
 景福(けいふく・長尾) → 景福(かげとみ・長尾、和算/歌) L 1 5 0 9

- 景福(けいふく・古沢/宇都木)→六之丞(ろくのじょう・宇都木うつぎ/古沢、藩士) B 5 2 0 2  
 景福(けいふく・高木) → 芳洲(芳州ほうしゅう・高木、家老/儒者) B 3 9 4 2  
 景福(けいふく・梶原) → 景福(かげとみ・梶原かじわら、藩士/歌人) U 1 5 2 6  
 景福(けいふく・長谷) → 景福(かげとみ・長谷ながたに、歌人) T 1 5 0 2  
 契復(けいふく;別法諱) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6  
 慶福(けいふく→よしとみ・徳川)→ 家茂(いえもち・徳川、14代将軍) 1 1 6 6  
 慶福院尼(けいふくもんいんのあま)→玉栄(ぎよくえい・花屋、近衛植家女/物語研究) H 1 6 1 7
- 1889 景文(けいぶん・松村まつむら/呉、初名;直治、松村匡程男)1779-1843<sup>65</sup> 京四条富小路の絵師;月溪門、  
 月溪は異母兄、円山四条派で花鳥画を得意、妙法院宮真仁親王に近侍;1805関東へ随従、  
 1832「豊公遺宝図略」画、「習画帖」画/「流芳遺事」著、  
 [景文の字/通称/号]/呉 字:士藻、通称:要人、号;華溪
- D1862 景文(けいぶん・柏田かしわだ) ? - ? 漢詩・鳴門門 1816鳴門「浪華四時雜興百首」校
- 敬文(けいぶん・新清にすが)→ 元麿(もとまる・新清/松平/谷口、国学) E 4 4 3 3  
 敬文(けいぶん・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5  
 敬文(けいぶん・土井) → 敬文(あつふみ・土井とい、国学) I 1 0 0 0  
 桂文(けいぶん;法諱) → 不鉄(ふてつ;道号・桂文、曹洞僧) H 3 8 4 8  
 景文(けいぶん・井上) → 峨山(がさん・井上いのうえ、藩士/儒者) H 1 5 4 7  
 景文(けいぶん・内藤) → 景文(かげふみ・内藤ないとう、藩士/儒者) L 1 5 3 0  
 景文(けいぶん・明石) → 景文(かげふみ・明石あかし、藩士/儒者) B 1 5 9 4  
 景文(けいぶん・三上) → 景文(かげふみ・三上、北面武士) L 1 5 3 1  
 景文(けいぶん・武元) → 登々庵(とうとうあん・武元たけもと、儒者/書) O 3 1 5 2  
 契聞(けいぶん→かいもん;法諱)→ 契聞(かいもん;法諱・不聞;道号、曹洞僧) D 1 5 8 7  
 奎文館(けいぶんかん) → 用拙斎(ようせつさい・瀬尾せお、書肆/詩文) B 4 7 3 3  
 景平(けいへい・香川) → 景平(かげひら・香川/梅月堂3世、歌) L 1 5 2 7  
 継平(けいへい・藤原) → 継平(2世つぎひら・藤原ふじわら、刀匠) 2 9 5 6  
 慶平(けいへい/きょうへい?・浮島)→ 正房(まさふさ・浮島うきしま、幕臣) H 4 0 1 1  
 経平(けいへい) すべて → 経平(つねひら)  
 継兵衛(けいべえ・平岡) → 邦勝(くにかつ・平岡ひらおか/源、藩士/国学) E 1 7 4 6  
 経弁(けいべん) → 経弁(きょうべん;法諱、華嚴僧) O 1 6 4 9
- G1817 敬輔(敬甫けいほ/けいすけ・高田たかた、名;隆久、俊隆男)1674-1755<sup>82</sup> 近江蒲生郡日野の薬種商、  
 絵師;古礪(こかき)・狩野永敬門、法眼、「竹隠画譜」「敬輔画譜」著(孫谷田輔長の編)、  
 1714「選択集十六章之図」画、  
 [敬輔(;通称)の別通称/号]別通称;徳右衛門/徳左衛門、  
 号;竹隠斎/眉間白毫翁、法眼三敬(正輔)・谷田保暲の父/谷田輔長(絵師)の祖父
- G1861 慶輔(けいほ・松原まつばら、名;維岳/圭介、惣右衛門男)1689-1765<sup>77</sup> 長門の人/京で医者;後藤良山門、  
 古医方修学/蛔虫症駆除のため海人草使用を普及、「成章堂家蔵方」「短要方」著、  
 [慶輔(;字)の通称/号]通称;才次郎/才二郎、号;一閑斎
- G1862 溪圃(けいほ・守元もりもと、名;友徳)?-? 江後期文政1818-30頃大阪の儒者、「溪圃詩草」著、  
 [溪圃(;号)の字/通称]字;脩三、通称;回蔵
- G1863 蕙畝(けいほ・小野おの、名;職孝もとたか、安部有義男)?-1852 本草家;祖父小野蘭山門/小野家継承、  
 1808美濃・京阪・白山・立山に採薬/同門で物産会開催、1803「本草綱目啓蒙」04「飲膳摘要」編、  
 1809「本草啓蒙名疏」編/27-51「蕙畝日記」、39「秘伝花鏡彙解」42「救荒野譜啓蒙」外著多数、  
 [蕙畝の字/別号]字;士徳、別号;衆芳軒、法号;大浄院、職実もとみち・職愨もとしの父
- G1864 桂圃(けいほ;号) ? - ? 江後期尾張俳人:上原村の得芝門、  
 1847「ふるふすま」編(:師13忌追善撰集)
- G1865 珪甫(けいほ;通称・藤田ふじた)?-? 江末期肥前大村藩士/蘭医:坪井信良門、  
 「産科図説毘私産科篇」訳、「施里烏斯眼科書」著
- 桂圃(けいほ・平岩) → 元珍(げんちん・平岩、藩士/儒/音楽) L 1 8 4 5  
 圭甫(瓊浦けいほ・佐々木)→ 向陽(こうよう・佐々木/直木、儒者) L 1 9 5 0  
 圭甫(けいほ・宮) → 徐々坊(じょじょぼう・宮みや、俳人) M 2 2 4 6

- 珪甫(けいほ・渡辺) → 竜門(りゅうもん・渡辺/源、藩士/随筆) F 4 9 7 8  
 景浦(けいほ・柳沢) → 維賢(これかた・柳沢やなぎさわ/鬼頭、藩士/書家) R 1 9 4 6  
 蕙畝(2世けいほ) → 職実(もとみち・小野おの、本草家) E 4 4 3 6  
 蕙畝(けいほ・菅) → 長成(ちようせい・菅、俳人) J 2 8 1 5  
 蕙圃(けいほ・塩谷) → 淳(じゆん・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 1 7 3  
 蕙圃(けいほ・近江屋/有山) → 玄統(げんとう・有山ありやま、心学者) L 1 8 8 1  
 敬甫(けいほ・中村) → 惕斎(てきさい・中村/仲邨なかむら、儒者) B 3 0 8 8  
 敬甫(けいほ・多賀) → 直方(なおかた・多賀、藩士) 3 2 8 7  
 敬甫(けいほ・竹尾) → 正躬(まさとも・竹尾/本姓;大江、神職) E 4 0 7 6  
 敬甫(けいほ・巖溪/岩) → 嵩台(すうだい・巖溪/巖/岩/岳、医/儒者) F 2 3 3 1  
 敬輔(けいほ) → 敬輔(きようほ;法諱、浄土僧) O 1 6 5 0  
 経輔(けいほ・藤原) → 経輔(つねすけ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 9 2 8  
 経輔(けいほ・宮川) → 経輔(つねすけ・宮川みやがわ/山部、神職/国学) G 2 9 5 2  
 慶輔(けいほ・鶴田) → 田鳳(でんぼう・鶴田、俳人) E 3 0 3 2  
 景保(けいほ・高橋) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文家) B 1 5 9 9  
 瓊浦(けいほ・永田) → 寿稔(じゆねん・永田ながた、篆刻家) 2 1 7 7
- I1829 **桂芳**(けいほう;道号・全久ぜんきゆう;法諱)?-? 1650存 臨濟僧;京竜安寺の塔頭愚溪院の開祖、1648「仏祖正伝宗派図」著
- F1800 **恵方**(けいほう) ? - ? 京の俳人、1689言水「前後園」「鉦始ちようなはじめ」入
- G1866 **桂鳳**(けいほう;法諱) ? - ? 堺浄土宗法行寺住僧、1734「念仏図説述賛」著、1740「現生往生伝」、「雲洞和尚行実」著
- N1818 **敬峯**(けいほう;道号・宗恭そうきよう;法諱、諡号;宣耀聖灯禪師)?-1746 京の臨濟僧;清嶽宗節門/法嗣、1717大徳寺296世、「頌古」著
- G1867 **圭峯**(けいほう・隅田すみだ、名;立/通称;莊七)?-? 幕末期津の商家隅田屋主人:豪商、詩/画/月琴、1860「観生居月琴詞譜」校、61「童観詩画譜」著
- 敬豊(けいほう・瀬下) → 敬豊(のぶとよ・瀬下せしも、国学/俳人) G 3 5 4 0  
 敬豊(けいほう・内藤) → 敬豊(たかとよ・内藤ないとう、藩士/歌人) Y 2 6 4 6  
 敬豊(けいほう・藤由) → 維清(これきよ・藤由ふじよし、国学者) R 1 9 2 5  
 景豊(けいほう・伊達) → 景豊(かげとよ・伊達だて、武家/連歌) L 1 5 1 0  
 経方(けいほう・太田) → 全斎(ぜんさい・太田、藩士/音韻研究) F 2 4 4 2  
 経豊(けいほう・勸修寺) → 経豊(つねとよ・勸修寺かじゅうじ、廷臣/歌) C 2 9 7 4  
 経豊(けいほう・中川) → 経豊(つねとよ・中川/荒木田、神職/記録) C 2 9 7 5  
 経豊(けいほう・広幡) → 経豊(つねとよ・広幡ひろはた、廷臣/日記) C 2 9 7 6  
 経邦(けいほう)すべて → 経邦(つねくに)  
 慶邦(にけいほう・伊達) → 慶邦(よしくに・伊達だて、藩主/歌人) D 4 7 2 5  
 経房(けいほう)すべて → 経房(つねふさ)  
 経望(けいほう・平) → 親時(ちかとき・平たいら、廷臣/歌人) O 2 8 0 3  
 景房(けいほう・二見) → 景房(かげふさ・二見ふたみ、神職/日記) V 1 5 5 7  
 敬房(けいほう・中西) → 敬房(たかふさ・中西、書肆/暦算) N 2 6 1 3  
 桂峯(けいほう・橋村) → 宜益(ぎえき、臨濟僧/国学) U 1 6 0 7  
 桂芳院(桂峰院けいほういん) → 安子(やすこ・柳原/正親町三条、歌人) 4 5 2 1  
 桂芳院(けいほういん) → 在子(ますこ・一橋ひとつばし、治済の妻/書) I 4 0 9 9  
 慶法院(けいほういん) → 寿仙(じゆせん・曾谷そだに/藤原、医者) Y 2 1 9 7
- N1819 **敬法門院**(けいほうもんいん、名;宗子、松木宗条女) 1657-1732?76 靈元天皇の典侍/東山天皇の実母、1689准三宮/1711院号宣下、「靈元天皇女房奉書之留」「敬法門院消息」著
- 1890 **慶卜**(けいぼく;法諱) ? - ? 戦国期;南部(or津軽)の僧、連歌作者、1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(5句入)
- 景睦(けいぼく・小池) → 池水(ちすい・柿崎/小池、医者/教育) E 2 8 5 0  
 経麻(けいま・栗野) → 経麻(つねあさ・栗野/度会、神職/国学) B 2 9 6 1

- 鶏馬(けいま・西南宮) → 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、狂歌) C 3 0 5 6  
 継麻呂(けいまる)すべて → 継麻呂(つぎまる)  
 蕙麿(けいまる・北川) → 重政(2世しげまさ・北尾、絵師) S 2 1 6 5  
 桂満(けいまん・水野) → 忠通(ただゆき・水野、幕臣/歌人) F 2 6 9 9  
 敬満(けいまん・渡辺) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1  
 経満(けいまん・鳥山) → 経満(つねみつ・鳥山とりやま、歌人) G 2 9 7 7  
 境妙院(けいみょういん) → 日宗(にっそう;法諱・叡桓、日蓮僧) E 3 3 8 7  
 敬民(けいみん;初号) → 心水(しんすい;号、俳人) 2 2 3 4  
 D1864 慶命(けいめい・けいみょう;法諱、称;無動寺座主、藤原孝友男)965-1038<sup>74</sup> 天台僧;叡山の遍救門、  
 無動寺住、1028天台座主/31大僧正、勸学会の再々興に尽力、1033「賀雨詩歌」、「拊拾鈔」著  
 G1868 慶明(景明)けいめい・疋田ひきた、通称;李兵衛もくべえ)?-? 江中期大阪呉服町の相法家、  
 1783「家相秘録」、「家相秘訣叢書」「家相手引草」著  
 N1889 敬明(けいめい;法諱・原はら、)1821-1903<sup>83</sup> 尾張名古屋の天台僧/近江滋賀郡善法院の初代、  
 歌人;[鴉のうみ]入  
 敬名(けいめい・岡) → 敬名(たかな・岡おか、藩士/歌人) W 2 6 2 4  
 敬明(けいめい・足羽) → 敬明(もりあき・足羽あすは/馬來田/渥美、神職/国学者) F 4 4 0 4  
 敬明(けいめい・安場) → 敬明(よしあき・安場やすば、藩士) C 4 7 0 1  
 敬明(けいめい・吉川) → 敬明(たかあき・吉川よしかわ、藩士/随筆) L 2 6 4 4  
 敬明(けいめい・野田) → 敬明(たかあき・野田のだ、金工家) L 2 6 4 5  
 敬明(けいめい・原) → 敬明(たかあき・原はら、国学者/歌人) Z 2 6 0 8  
 敬明(けいめい・田辺) → 百堂(ひやくどう・田辺たなべ、商家/俳人) E 3 7 6 9  
 敬明(けいめい・安場) → 敬明(よしあき・安場やすば、藩士/洋学者) C 4 7 0 1  
 敬明(けいめい・広田) → 敬明(たかあき・広田ひろた、和学者;歌・俳) Z 2 6 2 6  
 敬明(けいめい・山崎) → 敬明(たかあき・山崎やまさき、国学者) 2 7 1 2  
 景明(けいめい/かげあき・大場) → 南湖(なんこ・大場おおば、藩士/暦算) I 3 2 9 2  
 景明(けいめい/かげあき・天野) → 半醉(はんすい・天野あまの、藩士/文筆) I 3 6 1 0  
 景明(けいめい・源) → 景明(かげあきら・源みなもと、廷臣/歌人) 1 5 6 5  
 景明(けいめい・大神/多) → 景明(かげあき・大神おおが/多おおの、楽人) K 1 5 6 5  
 景明(けいめい・俣野) → 景明(かげあき・俣野またの、藩士/蘭学) K 1 5 6 8  
 景明(けいめい・河鱈) → 省斎(せいさい・河鱈かわばた、藩儒) B 2 4 6 4  
 景明(けいめい・井上) → 景明(かげあき・井上いのうえ、国学/歌人) T 1 5 4 9  
 景命(けいめい・里村) → 昌迪(しょうてき・里村[南家]、幕府連歌) B 2 2 0 3  
 景命(けいめい・金森/上林) → 清泉(せいせん・上林かんばんやし/金森、茶師) J 2 4 0 9  
 恵明(けいめい・稲垣) → 東山(とうざん・稲垣/佐久間、儒者/詩) E 3 1 6 5  
 慶明(けいめい/よしあき・野辺地) → 馬遊(ばゆう・野辺地のべち、俳人) F 3 6 7 8  
 慶明(けいめい) → よしあきら・鷺見 → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8  
 慶明(けいめい・芳賀) → 慶明(よしあき・芳賀はが、肝入/国学者) O 4 7 4 9  
 慶明(けいめい・間野) → 慶明(よしあき・間野まの/小野、庄屋/歌) P 4 7 0 3  
 慶名(けいめい・田中) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6  
 継明(けいめい/つぐあき・戸原) → 雨橋(うきつ;通称・戸原とばら、医/儒/尊王) C 1 2 0 9  
 継明(けいめい/つぐあき・小国) → 玉淵(ぎよくえん・小国おぐに、儒者) I 1 6 8 3  
 鶏鳴館(けいめいかん) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6  
 鶏鳴居主人(けいめいきよしゅじん) → 行輝(ゆきてる・河野、武芸;遊泳/砲術) E 4 6 9 6  
 鶏鳴舎(けいめいしゃ) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3  
 鶏鳴舎暁晴翁(けいめいしゃぎょうせいおう) → 鐘成(かねなり・暁、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3  
 継明先生(けいめいせんせい;諡) → 東岸(とうがん・伊藤、儒者) C 3 1 3 2  
 啓明堂(けいめいどう) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4  
 綱錦斎(けいめんさい) → 三近子(さんきんし・中村/平、儒者/教訓書) F 2 0 7 7  
 景茂(けいも・大神・山井) → 景茂(かげもち・大神おおが・山井、楽人) L 1 5 3 8

経茂(けいも・勸修寺) → 経茂(つねしげ・勸修寺かじゅうじ/藤原、連歌) C 2 9 2 2  
 経茂(けいも・大中臣) → 経茂(つねしげ・大中臣/正眞院、神職) C 2 9 2 0  
 契聞(けいもん・不聞) → 契聞(かいもん;法諱・不聞ふもん、曹洞僧) D 1 5 8 7  
 桂門三才女(けいもんさんさいじょ);香川景樹[桂園]門下の3人の女流代表歌人  
 → 古香(ひさか・江口、神方升子) 3 7 8 9  
 → 式部(しきぶ・高島) B 2 1 5 5  
 → 安子(やすこ・柳原) 4 5 2 1

桂門四天王(けいもんのしてんのう);香川景樹[桂園]門下の4人の代表歌学/歌人  
 → 直好(なおよし・熊谷) 3 2 0 4  
 → 幸文(たかぶみ・木下) 2 6 1 5  
 → 残夢(ざんむ・高橋) 2 0 5 7  
 → 斐雄(あやお・菅沼) B 1 0 5 8

桂門十哲(けいもんのじつてつ);香川景樹[桂園]門下の10人の代表歌学/歌人、  
 上記四天王の外;(ただし異説あり)  
 → 義勇(よしたけ・信田/位田) E 4 7 1 9  
 → 可官(よしたか・赤尾) E 4 7 0 3  
 → 自休(じきゅう・中川) B 2 1 6 0  
 → 紀成(のりしげ・児山) E 3 5 6 8  
 → 玄如(げんによ・善勝、僧) C 1 8 8 8  
 → 亞元(ア-/-唾-あげん、僧) 1 0 9 1

桐野(けいや、桐野亭主人) → 美備(びび・沼田ぬまた、馬術家) E 3 7 3 6

1891 慶融(けいゆう;法諱・藤原為家男)?-? 1303存 鎌倉期仁和寺法眼/歌人;1275住吉社35番歌合参加、  
 1278「続拾遺集」奏覧に故源兼氏後任として和歌開闔、歌論「追加つか」、私撰「残葉集」(散佚)、  
 関東に移住;1292「三島社奉納十首」96「俊成卿百番自歌合」撰、鎌倉の大江頼重らと交流、  
 勅撰19首;続拾(553/626/993)新後撰(6首325/739以下)玉(2254)続千(4首)新千(2首)以下  
 [ほととぎすみ山にかへる声すなり身をかくすべきことやつてまし](続拾遺;雑春553)

1892 圭祐(けいゆう) ? - ? 連歌、1472「美濃千句」参、1475「因幡千句」連衆

1893 慶祐(けいゆう;法諱) ? - ? 1532存 奥州の僧/連歌;宗祇門、1474在京(実隆公記紙背)、  
 1493何船百韻参加、60歳頃周防に旅、新菟句波1句入

G1870 景祐(けいゆう) ? - ? 1602存 近江真言宗石山寺世尊院僧/権律師、  
 連歌;紹巴らと1590「何人百韻」98「何船百韻」

G1871 慶祐(けいゆう) ? - ? 美濃天台僧、1668「経聞坊世代譜」著

G1872 慶友(けいゆう・古仙/半井なからい・和気、ト養ぼくよう、宗洙男)?-? 戦国期後期16c和泉堺の医者、俳人、  
 肖柏(1443-1527)の孫、息子;云也ト養うんやぼくよう、没後;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [これぞこのつもればひとつ老の春](俳諧師手鑑、

伊勢物語;大方は月をもめでじこれぞこの積もれば人の老となるもの)

孫;宗松そうしゅうト養の項参照 → ト養(ぼくよう・宗松[1607-78]、云也男) 3 9 6 7

D1883 溪幽(けいゆう) ? - ? 江前期甲州の俳人;1693不角「二息ふたいき」「うたたね」入、  
 [新枕にまくらおどしすかしの気草臥さくたびれ](うたたね)

J1800 契友(けいゆう・村田むらた) ? - ? 江前中期豊前小倉の狂歌作者、  
 1721「甚久法師狂歌集」編(;山田重員しげたねと甚久の狂歌を書留め甚久没後刊)

D1865 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳) 1712-8271 美濃神戸の天台叡山僧、江戸浅草寺住、  
 1741下総相馬正安寺住寺/武蔵足立吉祥寺住持/1758京神楽岡に鍊石亭創建、美濃神戸隠遁、  
 善学院で子弟教育;1780門下生が寿碑建立、詩/狂歌/俳諧/書、1757「金竜道人道楽菴夜話」、  
 1762「祇林詩裁」65「雨新菴詩集」71「天台霞標」編、73銅脈先生「吹寄蒙求」序(;瘤道人名)、  
 1773「老子玄覽」、78六林「蓬左狂者伝」序(;金竜道人名)、78「神国神字辨論」外著多数、  
 [敬雄の号] 金竜道人/瘤道人りゅうどうじん/道楽庵/雨新庵/鍊石亭/  
 義茶亭/新好亭/鶴書楼/小天台房

D1866 景雄(けいゆう・秋月庵しゅうげつあん、姓;山崎/名;愛景、画工栄春男) 1775-183460 信州力石の絵師;  
 画;父門/狩野洞春父子門、狩野洞淋と日光御用/長崎で中国人より画法修得/1816法橋、

俳人：天姥門、「曙の雲」著、

[秋月庵景雄の通称/別号]通称；嘉蔵、別号；秋月斎

- 慶有(けいゆう) → 慶有(きょうゆう、南北期僧/歌人) C 16 8 7  
慶友(けいゆう・宗松/半井・和氣) → ト養(ぼくよう・半井/和氣、医/俳/狂歌) 3 9 6 7  
慶祐(2世けいゆう・曾谷) → 寿仙(じゅせん・曾谷そだに/藤原、医者) Y 2 1 9 7  
圭雄(けいゆう・輿石) → 御夏(みなつ・輿石こいし、歌人) F 4 1 3 6  
桂雄(けいゆう・百尺楼) → 百尺楼桂雄(ひゃくせきろうけいゆう、狂歌) E 3 7 6 1  
慧勇(けいゆう・坂) → 士仏(しぶつ・坂さか、医僧/歌人) F 2 1 5 9  
景右(けいゆう・平) → 景右(かげすけ・平、連歌) K 1 5 9 0  
景佑(けいゆう・高橋/渋川) → 景佑(かげすけ・渋川しぶかわ、天文曆算家) K 1 5 9 2  
景雄(けいゆう・吉浦) → 景雄(かげお・吉浦よしうら、歌人) W 1 5 2 4  
景雄(けいゆう・三島) → 景雄(かげお・三島、商人/国学/歌) 1 5 6 6  
景雄(けいゆう・篠原) → 景雄(かげお・篠原、国学) K 1 5 8 0  
景雄(けいゆう・恵川) → 景雄(かげお・恵川えがわ、藩士/和算) K 1 5 8 1  
景雄(けいゆう・甫喜山) → 景雄(かげお・甫喜山ほきやま、国学) K 1 5 8 2  
景雄(けいゆう・油井) → 景雄(かげお・油井ゆい、藩士/国学) W 1 5 1 3  
景雄(けいゆう → かげお・下郷) → 伝芳(でんぼう・下郷/千代倉、商家/俳人) E 3 0 3 1  
景雄(けいゆう → かげお・桜田) → 贅庵(ぜいあん・桜田さくらだ、儒者) H 2 4 3 3  
経有(けいゆう) すべて → 経有(つねあり)  
経雄(けいゆう・鳥居小路) → 経雄(つねかつ・鳥居小路とりこうじ、坊官/歌) G 2 9 0 4  
経雄(けいゆう・丹治) → 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人) F 2 9 8 9  
経猶(けいゆう・宮川) → 経猶(つねなお・宮川みやがわ/山部、神職/国学) G 2 9 5 5  
軽雄(けいゆう・宮坂) → 喜昌(よしまさ・宮坂みやさか、和算家/歌) H 4 7 1 7  
敬雄(けいゆう・羽田野) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4  
慶遊斎(けいゆうさい) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1  
G1873 慶誉(けいよ) ? - ? 僧；法眼、連歌；菟玖波2句入  
敬輿(けいよ・葉室) → 黄華(こうか・葉室はむろ、藩儒) H 1 9 7 9  
携誉(けいよ；法諱・瑞巖) → 瑞巖(ずいがん；号・携誉、浄土僧) E 2 3 3 1  
景与(けいよ/かげとも？・香川) → 南洋(なんよう・香川かがわ、医/儒者) 3 2 4 3  
迎誉(けいよ・等蓮社) → 貞巖(ていごん；法諱、浄土僧、浄土僧) 3 0 7 6  
G1874 慶耀(けいよう；法諱・号；香集房) ?-? 1101存 大和の天台学僧；園城寺慶暹(けいせん門、能書家、  
1076頼毫より入壇灌頂を受、1096-97頃最勝講講師、「弥勒菩薩画像集」編/「沙門慶耀状」著  
G1875 慶養(けいよう・田辺、若松軒) ?-? 江前期俳人：1691「俳諧躍大黒」「俳諧若恵美酒」編  
桂葉(けいよう・大光院) → 尊為(たかため・役えき、修験僧/俳人) M 2 6 2 2  
圭陽(けいよう・木沢) → 尚貞(なおさだ・木沢きざわ/並河、医者/歌) 1 3 2 8 1  
敬容(けいよう・小山) → 敬容(たかやす・小山こやま、国学者) N 2 6 5 7  
敬庸(けいよう・森) → 嘉善(かぜん・森もり、医者) M 1 5 7 1  
景陽(けいよう・北条) → 霞亭(かてい・北条ほうじょう、儒者/詩人) F 1 5 5 2  
景耀(けいよう；字) → 玄智(げんち；法諱、真宗僧大谷派僧) L 1 8 1 1  
迎陽(けいよう；号) → 秀長(ひでなが・東坊城ひがしほうじょう、歌人) D 3 7 4 2  
慶陽院(けいよういん) → 日悦(にちえつ；法諱、日蓮僧) 3 3 6 8  
桂葉下(けいようか) → 白図(白兔はくと・仁木[二木]、俳人) D 3 6 6 4  
景翼(けいよく・西依) → 墨山(ぼくざん・西依にしより/西、儒者) D 3 9 2 6  
頃誉先生(けいよせんせい) → 雪汀(せつてい・樋口/菅原、藩士/儒者) E 2 4 5 9  
G1876 景雷(けいらい・国栖くず/世古せこ、別名；雷) 1747-1815 69 京の漢学者：1790「新造内裏遷幸記事」著、  
[景雷(；名)の字/通称/号]字；伯脩、通称；大和介、号；花溪  
経頼(けいらい・源) → 経頼(つねより・源、廷臣/日記) 2 9 1 4  
経頼(けいらい・冷泉) → 経頼(つねより・冷泉れいぜい、廷臣/記録) E 2 9 2 7  
景頼(けいらい・藤原) → 景頼(かげより・藤原、廷臣/歌人) L 1 5 5 3  
景頼(けいらい・桑折) → 景頼(かげより・桑折こおり/石母田、武将/藩士) U 1 5 6 0

- 景鸞(けいらん・梁田) → 蛻巖(ぜいがん・梁田やなだ、儒者/詩) 2 4 0 6  
 経覧(けいらん・阿保) → 経覧(つねみ・阿保あほ/小槻宿禰、算博士/歌) D 2 9 8 2
- G1877 慶蘭丸(けいらんまる) ? - ? 連歌;1472「美濃千句」参
- D1867 景鯉(けいり・近松、門左衛門男)?-? 浄瑠璃作者;竹本座ですべて合作、1756「平惟茂凱陣紅葉」、1757「姫小松子の日遊」「薩摩歌妓鑑さつまたげいこがみ」著、門左衛門の男で絵師多門との関係は不明(同一人説もある)
- G1878 桂里(けいり・有持ありもち、名;希藻、常元男/本姓紀)1758-183578 阿波の医者、1776上京;三角法眼門、開業/1812知恩院門跡の侍医/13法橋、「産科口訣」「腹候要訣」「毓春園方輿」著、「毓春園雑記」「方輿別集」「脈候提綱」/1829「方輿輓ほうよげい」著、[桂里の字/通称/別号]字;文磯、通称;常安、別号;毓春園いくしゅんえん/浩斎
- G1879 慶里(けいり・潤時園) ? - ? 江後期越中富山?の俳人:1859「八重すさひ」編  
 桂里(けいり・植木) → 玉厓(ぎよががい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩) C 1 6 9 8  
 桂里(けいり・長戸) → 衰斎(ほうさい・長戸ながと、儒者) 3 9 8 6  
 経理(けいり・勸修寺) → 経理(つねおさ・勸修寺かじゅうじ、廷臣/日記) 2 9 9 7  
 圭立(けいりつ;道号・法環ほうせん;法諱) → 大梅(たいばい・号、曹洞僧) C 2 6 0 8
- N1895 慶隆(けいりゅう・平敷へしき、唐名;曹範)1651-170656 琉球廷臣;今帰仁切平敷地頭、和文学者  
 景隆(けいりゅう・川野) → 景隆(かげたか・川野かわの/源、歌人) W 1 5 2 0  
 溪竜(けいりゅう) → 一馬(いちば・貞松斎、米沢、華道家/俳) G 1 1 3 7  
 恵竜(けいりゅう) → 鈍斎(どんさい・小松こまつ、和算家/天文) S 3 1 1 9  
 恵隆(けいりゅう・岩田) → 恵隆(よししたか・岩田いわた/成田、藩士/神職) L 4 7 6 7  
 経隆(けいりゅう・源) → 経隆(つねたか・源みなもと、廷臣/歌) C 2 9 3 1  
 経隆(けいりゅう・土佐) → 経隆(つねたか・土佐/春日/藤原、絵師) C 2 9 3 3  
 継隆(けいりゅう・池上) → 休柳(きゅうりゅう・池上いけがみ、紙業/絵師) M 1 6 9 7  
 慶隆院(けいりゅういん) → 日諦(にったい;法諱・聡玄、日蓮僧) E 3 3 9 8
- G1880 慶了(けいりょう;法諱・俗姓;堀江)?-1898 江後期近江真宗大谷派蓮光寺住職/贈擬講、1865「真宗経済」、「浄土論講義」「冠導増補六合釈」著  
 慶亮(けいりょう・小川) → 宜(ぎ・小川おがわ、医者/儒者) T 1 6 6 6  
 慶亮(けいりょう・山口) → 眞樹(まさき・山口やまぐち、藩士/歌人) T 4 0 4 5  
 経良(けいりょう・田向) → 経兼(つねかね・田向たむけ/源、廷臣/歌) G 2 9 7 9  
 経亮(けいりょう・橋本/橘) → 経亮(つねあきら/つねすけ・橋本/橘、神職/故実/歌) B 2 9 5 9  
 瓊陵(けいりょう・藤井) → 方亭(ほうてい・藤井ふじい、蘭方医) C 3 9 3 4  
 景良(けいりょう・山岡) → 景良(かげよし・山岡やまおか/伴、歌人) T 1 5 1 5
- G1881 桂林(けいりん;道号・徳昌とくしょう;法諱、号;松窩/武陵/葬閣)1429-? 1509存 臨濟僧:5歳で建仁寺入、伯耆安国寺和甫斎忍門/嗣法、1489建仁寺231世/近江永源寺石頭庵に退隱、「桂林疏稿」、「桂林和尚法語」「葬閣疏稿」「三体詩註」「史記提要鈔」/1502「春日社法楽詩歌」著
- 1895 恵林(けいりん) ? - ? 連歌、宗祇門、1487「葉守千句」作者  
 1896 恵倫(けいりん) ? - ? 連歌師、1558花千句入
- G1882 桂林(けいりん;道号・崇琛そうちん;法諱)1653-172876 豊後小野鶴村臨濟僧;濟宗祖雲につき出家、仙台瑞巖寺法天崇忍門、1693仙台保春院/98瑞巖寺住、1714妙心寺313世/16丹波大日寺住、丹波常楽寺・丹後観音寺・豊後報恩寺開山、1700「禅林執弊集」04「獅子一吼集辨解」著、1707「碧巖録頌古略解」、「地藏本願経会解」「地藏本願経倭漢両注撮要合解」著
- 1894 珪琳(けいりん・松木まつき、青雲男)1684-174259 江戸日本橋の商家;幕府御鷹の足組御用達、俳人:杉風門、俳諧改革運動;1731「五色墨ごしきずみ」5人;共編、37「水ぐるま」(門人十字ら編)、1816「春駒」/18「松のちから」編、19「鏡の裏」、36「茶話稿」(門人竹郎編)、1838「都菜初老賀集」編/、追善集;「蓮社燈」「万燈供」、[精出せば氷る間もなし水車](水ぐるま/門人を諷めた寓意的な句)、[珪琳(;号)の通称/別号]通称;次郎右衛門、別号;蓮之(;初号)/樽巷郎そんこうろう/卯時庵ぼうじあん  
 参照 → 五色墨の五人(ごしきずみのごにん)
- E1894 桂林(けいりん・三縄みなわ/修姓;縄じょう、名;惟直/維直)1744-180865 江戸両国の儒者・安達清河門、

詩人、1797「繩子常陽紀行」1801「桂林詩集初集」05「詩学解蔽」、「詩韻筌」著、「桂林遺稿」  
[桂林の字/通称/別号]字;温卿/繩卿、通称;準蔵/準、別号;蒲山

G1883 **荊林**(けいりん;道号・迪粋てきすい;法諱、号;天香窟、俗姓児玉)1766-1843 78 豊前佐伯臨濟僧;月山門、  
峨山慈得・隱山惟琰いん門、1798飛驒の禪正寺住持、「天香焼残稿」、「天香定余稿」著

溪隣(けいりん・足立) → 信頭(のぶあきら・足立あだち、幕臣/暦学) 3 5 8 8  
経林(けいりん・沢田/中川) → 経林(つねしげ・中川/荒木田/沢田、神職) C 2 9 2 3  
経綸(けいりん・井田) → 信斎(しんさい・井田/田、漢学者) O 2 2 5 0  
桂林(けいりん・森島) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
桂林(けいりん・東) → 吉貞(よしさだ・東ひがし/林、神職/国学) O 4 7 7 0  
景林(けいりん・賀藤) → 景林(かげしげ・賀藤かとう、文筆) K 1 5 8 9  
景林(けいりん・小泉) → 松卓(しょうたく・小泉こいずみ、和算家) K 2 2 7 5  
卿鄰(けいりん・石野) → 東陵(とうりょう・石野いしの、儒者) I 3 1 3 0  
慶林(けいりん・猪熊) → 方主(かたぬし・猪熊いのくま/卜部、神職) N 1 5 0 4  
桂林院無品法親王(けいりんいんむほんほつしんのう) → 祐助親王(ゆうじょしんのう、天台座主) C 4 6 6 5  
桂隣堂(けいりんどう) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
慶林堂知霍(けいりんどうちかく) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0  
桂林房(慶林房けいりんぼう) → 日隆(にちりゅう;法諱・精進院、日蓮僧) D 3 3 5 7  
敬礼(けいれい・野村) → 信由(のぶよし・野村、藩士/文筆) D 3 5 9 5  
景礼(けいれい・伏田/香川) → 景嗣(かげつぐ・香川、歌人) E 1 5 9 7  
瓊鈴舎(けいれいしゃ) → 久守(ひさもり・荒木田、神職/国学) C 3 7 0 7  
経歴(けいれき) → 経歴(きょうれき;法諱・十誉、浄土僧) O 1 6 6 1

N1840 **敬蓮**(けいれん・柘植つげ) ? - ? 江中期歌人、柘植知清(1687-1744)の親戚、  
1798刊石野広通「霞関集」入/1768初撰本入、  
[袖濡れてさのみは人の折らじとや露もおくらん花の山吹](霞関;春192)、  
[山深く稀まれにもたれか通ふらん苔に跡ある谷の岩橋](同初撰本;橋上苔)

経連(けいれん・宮川) → 経連(つねつら・宮川みやがわ/山部/草部、神職/国学) G 2 9 5 4  
経蓮(けいれん;法名) → 経房(つねふさ・藤原、廷臣/歌人/日記) D 2 9 5 7  
景蓮(景連けいれん・中村) → 仏庵(ぶつあん・中村、書家) D 3 8 2 4  
桂蓮院(けいれんいん;諡号) → 尊鎮親王(そんちんしんのう、天台座主/書家) E 2 5 9 7  
敬蓮社入西(けいれんしゃにゅうさい) → 入阿(にゅうあ;法諱、浄土僧) F 3 3 7 3

D1868 **軽蘆**(けいろ) ? - ? 肥後熊本の俳人:芭門彦根派、  
1704「蛙はし」06「折目高」/18里仲「鯁橋」跋

1897 **蕙楼**(けいろう・恩田おんだ、名;維周/宣充、岡田宗愛男)1743-1813 71 恩田宗致の養嗣子、尾張藩士、  
儒者;兄新川と松平君山門、国書・仏典を修得/詩文、尾張藩世子近侍/1802継述館総裁、  
明倫堂教授を兼ねる、「橋園集」「栩々園千種」「栩々園答話」「蕙楼随筆」「蕙楼閑話」、  
「蕙楼集」「蕙楼日抄」「春椿記」「白山文集」「白山詩集」「米倉閑話」「卮園集」外著多数、  
「世説音釈」著(磯谷滄洲校訂/没後1816刊)

[蕙楼の字/通称/別号]字;仲任、通称;新次郎/進治、  
別号;卮園しえん/白山/米倉/後牡丹花老人、法号;孝生院

景老(けいろう・斎木) → 瑞枝(みづえ・斎木さいき/藤原、神職/歌) 4 1 9 1  
鶏籠山人(けいろうさんじん) → 尺竜(せきりゅう・吉沢、俳人) D 2 4 9 6  
鶏肋斎(けいろくさい) → 百亀(ひゃくき・小松、喃本作者) E 3 7 9 4  
鶏肋山人(けいろくさんじん) → 彊斎(きょうさい・菅野すげの、医/儒者/詩) I 1 6 7 8

D1869 **計魯里観人**(けいろりかんじん) 1728?- ? 俳人・乾什門、好劇家、1805劇書「中古戯場説」

敬和(けいわ・松山) → 天姥(てんぼ・松山、藩士/書家) E 3 0 2 4  
敬和(けいわ・加藤) → 敬和(たかかず・加藤かとう、里正/歌人) W 2 6 4 0  
景和(けいわ・伊藤) → 若冲(じゃくちゅう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3  
華王院(けおういん) → 仏兜(ぶつげい;法諱、天台僧/教育) D 3 8 3 0  
華王道人(けおうどうじん) → 学信(がくしん;法諱、浄土僧) K 1 5 0 9  
華海(かかい;号) → 聖憲(しょうけん;法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0

下界隠士(げかいいんし) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9

G1884 家寛(げかんと;法諱、上野介源みなもと家宗男) ?-? 天台叡山僧;常楽院住/大原流声明家:良忍門、後白河法皇及び知俊の声明の師;1173法皇の要請で「魚山声明集」撰、「声明類集」著、無動寺歌合(1122[保安3]/袋草紙入)に参加の[僧 家寛]と同一?;

[しめじめと降る春雨のなかりせばいかでかみまし花のぬれいろ](無動歌;春雨右)、  
[家寛の通称/号] 通称;上野こうげの法印/瓦坂法印/壺坂法印、号;乗楽房/常楽房

G1885 外記(げき・中川なかがわ) ? - ? 江後期加賀金沢藩士/1823-28宮腰町奉行、1824「宮腰町奉行勤方帳」編、「御条目等書上帳」著

G1886 解記(げき・佐藤さとう、別名;忠助/字;子精、屋号;金沢屋) 1814-59/46 越後小千谷の縮布商;金沢屋、分家し菓種商、和算;1834山口和門/江戸の長谷川寛・内田五観門、暦学;小出兼政門、帰郷;雪山数学道場を開、「雪山算題聚解」「雪山算題集解」「算法自問自答」「通玄算法」、「佐藤解記算術集解」「算法円理軌線」「算法円理聚解」「算法率術指南」「雪山易新説」外多数、[解記の通称/号]通称;寅三郎/虎三郎/菊右衛門、号;雪山/数斎/通機堂

G1887 外記(げき;通称・永山ながやま、名;時中ときなか、号;退叟) 1816-81/66 武蔵川越の国学者、上州前橋藩士;1861藩命で前橋城再築、歌人、1863「前橋雑記」、「翠園歌集」著

外記(げき・庄田) → 安照(やすてる・庄田しょうだ、幕臣/記録) C 4 5 1 4

外記(2世げき・竹田) → 出雲(初世いずも・竹田、浄瑠璃) 1 1 9 8

外記(3世げき・竹田) → 出雲(2世いずも・竹田、浄瑠璃) 1 1 1 2

外記(げき・津田) → 重以(しげもち・津田つだ、藩士/武将) S 2 1 9 1

外記(げき・神戸) → 良政(よしまさ・神戸かべ、武家/軍記作者) G 4 7 9 9

外記(げき・山村) → 良景(たかがけ・山村やまむら、藩士/代官) L 2 6 6 7

外記(げき・長沼) → 宗敬(むねよし・長沼/津田、兵学者) C 4 2 8 5

外記(げき・中西) → 弘乗(ひろのり・中西/度会、神職) G 3 7 8 7

外記(げき・松平) → 忠根(ただね・松平まつだいら、幕臣/和学) Z 2 6 6 1

外記(げき・堀) → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) 3 9 8 8

外記(げき・堀) → 貞儀(さだのり・堀/菅原、忘斎男/藩士) J 2 0 2 4

外記(げき・井上) → 正継(まさつぐ・井上、幕臣/砲術家) D 4 0 8 9

外記(げき・戸田) → 大川(だいせん・戸田とだ、藩士/俳人) B 2 6 7 8

外記(げき・富田) → 貞武(さだたけ・富田とみた、藩士/記録) I 2 0 4 2

外記(げき・富田) → 貞直(さだなお・富田とみた、藩士/記録) J 2 0 0 1

外記(げき・富田) → 貞章(さだあき・富田とみた、藩士/書家) H 2 0 6 6

外記(げき・富田) → 貞行(さだゆき・富田とみた、藩士/記録) K 2 0 1 4

外記(げき・菅沼) → 曲翠(きよくすい・菅沼すがぬま、藩士/俳人) 1 6 4 3

外記(げき・斎藤) → 永門(ながかど・斎藤、藩士/文筆家) D 3 2 4 6

外記(げき・内藤) → 正範(まさのり・内藤、幕臣/歌人) G 4 0 0 4

外記(げき・内田) → 南山(なんざん・内田うちだ、医者/儒/詩) J 3 2 0 5

外記(げき・前田) → 貞幹(さだもと・前田まえだ、藩家老/記録) J 2 0 8 9

外記(げき・松木) → 智彦(ともひこ・松木/度会、神職/神学) Q 3 1 3 3

外記(げき・松木) → 命彦(のりひこ・松木/檜垣、神職) F 3 5 4 5

外記(げき・久志本) → 常夏(つねなつ・久志本/度会、医/国学) C 2 9 8 7

外記(げき・小出) → 英陳(ふさのぶ・小出こいで、幕臣/国学) I 3 8 2 3

外記(げき・伊能) → 穎則(ひでのり・伊能いのう、商人/国学/歌) D 3 7 6 5

外記(げき・安藤) → 為章(ためあき・安藤あんど、国学/歌人) 2 6 5 4

外記(げき・福島) → 末茂(すえしげ・福島/度会、神職/詩文) B 2 3 1 7

外記(げき・羽倉) → 簡堂(かんどう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3

外記(げき・梅津) → 忠宴(ただよし・梅津、藩家老/兵学/歌) R 2 6 2 6

外記(げき・梅津) → 其零(きてき・梅津、家老/俳人) B 1 6 5 5

外記(げき・高田) → 与清(ともきよ・小山田おやまだ、国学者) 3 1 6 0

外記(げき・河崎) → 清厚(きよあつ・河崎/度会、神職/国学) G 1 6 5 1

外記(げき・中西) → 弘令(ひろのり・中西なかにし、神職/国学) G 3 7 9 3

外記(げき・柴田/宮城) → 清行(きよゆき・宮城/柴田、和算家) Q 1 6 3 9  
 外記(げき・青柳) → 監物(けんもつ・青柳あおやぎ、武道家) M 1 8 4 8  
 外記(げき・小川) → 丹下(たんげ・小川おがわ、藩家老) T 2 6 3 0  
 外記(げき・武藤) → 昌通(まさみち・武藤むとう、神職/日記) H 4 0 5 6  
 外記(げき・谷森) → 善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者) C 4 7 4 2  
 外記(げき・夏目) → 知能(ともよし・夏目なつめ、藩士/歌人) V 3 1 9 8  
 外記(げき・中山) → 吉雄(よしお・中山なかやま/藤原、国学) O 4 7 2 4  
 外記(げき・吉村) → 宣範(のぶのり・吉村よしむら/源、家老/国学) G 3 5 7 1  
 外記(げき・小野) → 古厚(ひさあや・小野おの/松平/源、藩老/歌) I 3 7 7 2  
 外記(げき・鎌田) → 梁洲(りょうしゅう・鎌田かまた、儒官/家老) H 4 9 8 7  
 外記(げき・喜多) → 秀親(ひでちか・喜多きた/秦、神職/国学) J 3 7 2 3  
 外記(げき・上月) → 為彦(ためひこ・上月こうつき、神職/国学者) X 2 6 0 7

G1888 逆翁(げきおう;道号・宗順そうじゆん/すうじゆん/しゅうじゆん;法諱、号;蔵鷺叟、俗姓源) 1433-8856 尾張曹洞僧・遠江の川僧慧濟門/嗣法、1475尾張緒川の乾坤院開山;2世、1484大洞院住持/乾坤院退院、「点鉄集」編/「碧巖録提唱」著

関耕窠(げきこうか) → 君山(くんざん・大沢おおさわ、儒者/詩文) D 1 7 6 4  
 外記左衛門(げきざえもん・黒田) → 倫忠(のりただ・黒田/樽井、藩士/故実) E 3 5 9 6  
 撃壤(げきじょう・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
 戯場好人(げきじょうこうじん、狂歌名) → 半兵衛(はんべえ・松好斎、絵師) I 3 6 5 1

1898 撃鉦先生(げきしょうせんせい) ? - ? 洒落本作、廓内住、1728「両巴卮言」著

戟次郎(げきじろう・千村) → 政成(まさなり・千村ちむら、歌人) Q 4 0 9 0  
 劇神仙(げきしんせん・初世) → 寿来(じゅらい・宝田、歌舞伎作者) J 2 1 0 9  
 劇神仙(げきしんせん・二世) → 寿阿彌(じゅあみ・長島、浄瑠璃作者) G 2 1 6 5  
 劇神仙(げきしんせん・二世?) → 寿助(じゅすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6  
 劇神仙(げきしんせん・三世) → 拙斎(ちゅうさい・渋江、儒者/医者) G 2 8 0 9  
 外記光信(げきみつのが) → 光信(みつのが・長谷川、絵師/絵本) E 4 1 3 7  
 逆旅山人(げきりょさんじん) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8  
 逆旅主人(げきりょしゅじん) → 雅望(まさもち・石川、国学者/狂歌) 4 0 2 1  
 撃鈴亭(げきれいてい) → 雨橋(うきつ・小川おがわ、俳人) B 1 2 2 7  
 華光院(けこういん) → 日航(にちこう;法諱、慈光院、日蓮僧) B 3 3 7 8  
 華光院(けこういん) → 円解(えんげ;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 5 3  
 華巖(けごん;道号・曹海) → 曹海(そうかい;法諱・華巖、曹洞僧) G 2 5 4 6  
 華巖(けごん;道号・義曇) → 義曇(ぎどん;法諱・華巖、曹洞僧) G 1 6 0 5  
 華巖院宮僧正(けごんいんのみやそうじょう) → 寛暎(かんぎょう;法諱、真言僧) Q 1 5 1 9  
 華巖院律師(けごんいんのりっし) → 寛智(かんち;法諱・禅明房、真言僧) E 1 5 0 9  
 華巖道人(けごんどうじん) → 道実(どうじつ;法諱・惟一うい、黄檗僧) E 3 1 8 0  
 華巖老僧(けごんろうそう) → 道玄(どうげん;法諱・貞覚、華巖僧) D 3 1 5 9  
 卦斎(けさい・高橋) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4  
 戯作舎(げさくしゃ) → 三馬(さんば・式亭しまてい、戯作者) 2 0 5 5  
 今朝太郎(けさたらう・倉島) → 玄隆(げんりゅう・倉島くらしま、医者/国学) N 1 8 7 0  
 袈裟法師(けさほうし) → 泉恵(せんえ;法諱・北林房、天台学僧) L 2 4 6 8  
 下手的(げしめてき/へただ?) → 楽(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4  
 化身斎(けしんさい・大田) → 友悦(ゆうえつ・大田おおた、医者/俳人) 4 6 7 3  
 華蔵庵(けぞうあん;号) → 慧然(えねん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 1 9  
 華蔵院(けぞういん) → 濟延(さいえん;法諱・華蔵院、真言僧) G 2 0 5 3  
 華蔵院(けぞういん) → 月筈(げつせん;字・崇信、真宗僧/宗典) H 1 8 1 4  
 気大(けた) → 抜気大首(ぬきけのおおびと、万葉歌人) 3 4 0 6  
 解脱(げだつ;号) → 宗興(しゅうこう;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 2 2  
 解脱庵(げだつあん) → 観山(かんざん、茶人) Q 1 5 7 7  
 解脱院(げだついん;諡号) → 天真親王(てんしんしんのう、輪王寺門跡) D 3 0 9 1

- 解脱隠居(げだついんきょ) → 明逸(みょういつ;法諱、真宗大谷派僧) G 4 1 1 3  
解脱翁(げだつおう) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3  
解脱上人(げだつしょうにん) → 貞慶(じょうけい、法相僧/弥勒信仰/歌) S 2 2 0 5  
解脱親王守快(げだつしんのうしゅかい) → 宣存(せんそん/せんぞん;法諱、天台僧) M 2 4 8 7  
解脱坊(げだつぼう) → 貞慶(じょうけい、法相僧/弥勒信仰/歌) S 2 2 0 5  
解脱坊(げだつぼう) → 証空(しょうくう;法諱、浄土宗西山派祖) G 2 2 2 1  
解脱房(げだつぼう;字) → 良禅(りょうぜん;法諱・解脱房、真言僧/検校) I 4 9 5 8  
解脱味(げだつみ) → 竜登(りゅうとう;法諱、真言僧) M 4 9 3 4  
潔(けつ・峯) → 潔(きよし・峯みね、藩士/天文学) P 1 6 5 9  
潔(けつ・三井) → 隆斎(りゅうさい・三井みつゐ、医者/儒/詩) E 4 9 0 5  
傑(けつ・向) → 朝衛(ちやうゑい・東風平こちんだ、廷臣/琉歌) N 2 8 0 5  
軌(げつ・福井) → 敬斎(けいさい・福井ふくい、儒/幕府医官) E 1 8 6 7  
月庵(げつあん) → 直朝(なおとも・一色、城主/歌人) B 3 2 8 4  
月庵(げつあん) → 芙蓉(ふよう・城戸、儒者) E 3 8 4 8  
月庵(げつあん→げつたん) → 宗光(そうこう・月庵げつたん、臨濟僧) B 2 5 3 6  
月庵(げつあん) → くら風(くらかぜ・月庵、俳人) D 1 7 4 8  
月院社(げつゐんしゃ) → 何丸(なにまる・茂呂、医/俳人) G 3 2 8 0  
月院社2世(げつゐんしゃ) → ノ左(べっさ・丸山まるやま、農業/俳人) 2 7 9 6  
傑翁(けつおう・けつとう;道号) → 是英(ぜいゑい;法諱・臨濟僧) D 2 4 2 7  
月翁(げつおう・げつとう;道号) → 周鏡(しゅうきやう;法諱・臨濟僧) H 2 1 1 0  
月翁(げつおう) → 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人) K 1 8 9 1  
月翁(げつおう・細川) → 興文(おきのり・細川/源、藩主/詩歌人) 1 4 7 6  
月翁(げつおう・阿部) → 順二郎(じゅんじろう・阿部あべ、藩士/歌) N 2 1 0 6  
1899 月下(げつか) ? - ? 俳人、1725沾洲「百千万ひやくせんまん」編纂補助として入、  
1768芭蕉「野ざらし紀行」編;自跋[文台屋七兵衛板](1780波静が「甲子吟行」を発刊)  
B1801 月化(げつか・広瀬ひろせ、名;貞高、久兵衛男) 1747-1822 76 豊後日田豆田の三藩御用達商家の生、  
俳人;手嶋鳳水・堀舎棹しゃぼつ門、1764代官所勤務/72致仕/家督相続/82家督を弟に譲渡、  
1822「秋風庵文集」(:芭蕉画賛)、「続春雪集」著、淡窓たんそうの伯父、  
[月化の通称/別号] 通称;平八、別号;秋風庵(初世)/桃潮/静斎  
月華(げつか・稲津/梁川) → 紅蘭(こうらん・梁川/修姓;張、詩) C 1 9 0 1  
月下庵(げつかあん) → 大魯(たいろ・吉分[別]、俳人) C 2 6 3 7  
月下庵(げつかあん) → 眞篤(ますず・宮本、虎杖庵4世/俳人) J 4 0 0 5  
月海(げつかい・極楽院) → 定祐(じやうゆう・竹田/藤原、医者/歌人) I 2 2 2 6  
闕下迂夫(けつかうふ) → 櫻字(ていじう・林はやし、幕府儒官) 3 0 3 1  
月花翁(げつかおう) → 盛矩(もりり・神戸かんべ、藩士/刀剣鍛法) G 4 4 2 6  
月廓(げつかく・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7  
月下亭(げつかてい) → 梅叟(ばいそう、俳人) B 3 6 7 3  
月下亭(げつかてい) → 砧音高(きぬたおとたか、鈴木、狂歌) L 1 6 7 1  
G1889 月海(げつかい;法諱・弘秀;字、号;心蓮台) ?-1750 能登真言僧;鹿島郡山田寺で出家、顕密研修、  
越中新川郡心蓮坊・金沢明王院・大阪観音院住/観音院再建、1727「石浦山長谷寺縁起」著、  
1731「秘観心相録」37「都率往生問答訣」40「石州銀峯山清水寺縁起」、「阿字観私記」著  
G1890 月海(げつかい;道号・白明はくみやう;法諱) 1684-? 1755存 土佐宿毛の臨濟宗東福寺僧;  
赤穂事件の時に泉岳寺滞在、1754「赤穂義人遺墨記」、「白明義士話」著  
G1891 月海(げつかい;法諱・別法諱;眞澄しんちやう) ?-? 江後期土佐波川村真宗僧;高知金剛院住職、  
本草金石菟集;高知で流行の奇物会の中心、詩;日根野鏡水門、1849「百聞一見」、「草木譜」著、  
[月海の字/号]字;大阿、号;四君堂  
月海(げつかい・元昭;法諱) → 元昭(げんしょう・月海、煎茶道の祖) C 1 8 1 9  
月海(げつかい;道号) → 覚明(かくみやう;法諱・孤峰、臨濟僧) B 1 5 7 3  
G1892 月花永女(げつかえいじよ、姓;竹内、名;えい、別号春秋庵) ?-1850 錦鳳堂永雄ながお妻、江戸小網町住、  
狂歌;秋長堂社中、盆石、1828「盆画独稽古初編」著、夫も狂歌作者

- 夫 → 永雄(ながお・錦鳳堂さんぼうどう、竹内喜一郎) D 3 2 2 9  
 月廓(げっかく・越智) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7  
 月下亭(げっかてい) → 直中(なおなか・井伊い、藩主/歌人) B 3 2 9 1  
 月花亭(げっかてい) → 東漁(とうぎよ・河東かわひがし、読本作者) C 3 1 7 7  
 月華亭(げっかてい) → 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌) N 2 0 6 8  
 月下亭梅叟(げっかていばいそう) → 梅叟(ばいそう、俳人) B 3 6 7 3  
 月花堂激昂道人(げっかどうげっこうどうじん) → 諦然(たいねん、真宗僧) K 2 6 9 1
- B1803 月花門院(げっかもんいん、綜子内親王、後嵯峨天皇皇女) 1247-69 早世 23  
 母; 大宮院姞子(西園寺実氏女)、1263女院/准三宮、歌人:「月花門院百首」(散佚)、  
 勅撰21首; 続古今(8首126/209/3691以下) 続拾遺(49/488) 新後撰(108/1218)、  
 玉葉(5首805/1047以下) 新千載(45) 新拾(3首350以下)、同母兄弟; 後深草天皇/龜山天皇、  
 [契りおきし花のころしも思ふかなとしにまれなる人のつらさは](続古; 春126、  
 花の頃参らむと申しける人に遣はず歌)
- G1893 月感(げっかん: 法諱、名; 憲隆、藤原政重男) 1600-74 75 肥後真宗大谷派碧海寺の生/延寿寺で養育、  
 1611得度/加藤清正の命で熊本延寿寺住職; 加藤氏の庇護、1631上京; 建仁寺で大蔵経閲覧、  
 1649長崎で如禎より大蔵経披見を許された/1653西吟を弾劾; [西吟月感諍論]; 幕府裁定、  
 1654出雲玉造に配流/58赦免、  
 「西吟私観子」「大蔵経未渡目録」「安心決定鈔糅記」「夢想記」「曼荼羅核定記」外著多数、  
 [月感の幼名/通称] 幼名; 小次郎丸、通称; 明了/円海
- 月観(げっかん・内山) → 眞弓(まゆみ・内山うちやま、歌人) 4 0 3 3  
 月漢(げっかん・並河) → 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者) I 2 4 7 4  
 月澗(げっかん・石山) → 雅朝(まさとも・石山いしやま/毛内、絵師/歌人) N 4 0 6 1  
 傑岩(げっかん: 道号・禅偉) → 禅偉(ぜんい: 法諱・傑岩、臨濟僧) L 2 4 6 3  
 軌起(げつき・青島) → 俊蔵(しゅんぞう・青島あおしま、蝦夷地調査) L 2 1 3 4
- D1870 月休(げつきゅう) ? - ? 江中期/狂歌: 月洞軒(1661-1724) 門、月谷・月宿と同門
- 1807 月居(げつきよ・江森えもり、名; 誠/史一) 1756-1824 69 京の人/国学; 荒木田久老・村田春海門、  
 20歳頃俳人・蕪村門、放縦無頼; 師を悩ませる/師没後は雲水行脚、上方中心に活動、  
 1790二条家より花の下号、江戸の道彦・名古屋の士朗と鼎立; 三大家に数えられる、  
 連句に長ず、句風; 初めは蕪村風・のち平俗に傾く、  
 1776几董「続明鳥」23句入/1782蕪村「花鳥篇」2句入、1788「露の古道」91「日ぐらし」、  
 1791「反古合」98「山水行」1801「廿日月」04「たちえ」17「河衛」(以上1828「月居七部集」入)、  
 1822俳諧作法書「道の便たより」共編(春洞淇竹きちく・生生瑞馬[常庸]と、須原屋茂兵衛刊)  
 1824「竹巢月居翁草稿」著、「一日安居」「つゆあかり」著、  
 [朝霧にまぎれて出でむ君が門かど](たちえ)、[ほととぎす小太刀置いたる枕上]、  
 [月居の別号] 竹巢/春面しゅんめん/三巢園/三菓園/些庵/些居/角斎/任他にんた庵/豊斎/桂川
- G1894 月虚(げつきよ・水江) ? - ? 江後期1818-64頃豊後高田の俳人; 金谷弗水門、  
 「続春雪集」「続春雪集後篇」編
- G1895 月橋(げつきょう・梅津うめづ、名; 清寧) 1777-1858 82 仙台藩士; 武芸、多芸; 茶/花/彫刻、  
 絵; 荒川洞月門、1805「仙台発句撰」画。  
 [月橋の通称/別号] 通称; 勇治、別号; 梅庵、法号; 松巖尋栄居士
- 月橋(げつきょう) → 周弼(しゅうすけ・青木、蘭医) H 2 1 8 2  
 月郷(月卿げつきょう) → 直興(なおおき・熊谷/丹、絵師/勤王) 3 2 7 9
- G1896 月暁(げつぎょう: 号・栄侃えいかん: 法諱、字; 隆岳、中平正次男) 1809-62 54 土佐久万村の天台学僧、  
 常通字竜台門/天台密教; 大和長谷寺で修学/土佐長楽寺・永国寺・国分寺住寺、  
 詩人、吉田東陽・森田梅磡ばいかんと交遊、「有梅花処詩集」著
- 月喬斎(げつきょうさい) → 兼純(けんじゅん、連歌師/歌人) C 1 8 8 9  
 結句庵(けつくあん) → 為一(いいち、俳人) D 1 1 4 0  
 月空庵(げつこうあん、月空居士) → 露川(ろせん・沢さわ、商家/俳人) 5 2 0 7  
 絜矩学舎(けつこくがくしゃ) → 休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4  
 月窟(げつくつ) → 昭陽(しょうよう・亀井、南冥男/儒/詩人) B 2 2 8 5

- G1897 月溪(げっけい:道号・中珊:法諱ちゅうざん、号;道隱)1377-1434<sup>58</sup> 臨濟南禪寺僧:不遷法序門/嗣法、1429相国寺41世、「道隱集」著
- G1898 月溪(げっけい:道号・聖澄しょうじょう:法諱、号;江東、城主立入たり宗長男/宗継むねつぐ弟)1536-1615<sup>80</sup>、近江野洲臨濟:器之門/学問;惟高・策彦門/1576大友氏仕;日明書契担当、94仙台東昌寺住持、1595「謡抄うたいしょう」の宗義注釈担当、98東福寺222世、「月溪詩藁」「月溪和尚文集」著
- N1878 月溪(げっけい・佐善さぜん、松溪2男)1742-1812<sup>70</sup> 因幡鳥取藩士、儒者;父門、儒医、1772(明和9)江戸目黒行人坂の大火に罹災;蔵書すべて焼失;官を致仕、辻秀庵に移住、医学・儒学を生業とす、  
[月溪(;号)の名/法名]名;久寿/伊与田、法名;器応門量信士
- B1804 月溪(げっけい・姓;松村まつむら、名;豊昌/春、字;裕甫/伯望、匡程男)1752-1811<sup>60</sup> 尾張の生、京の金座勤務/致仕、俳人;大西酔月門/俳諧と画;蕪村門、夜半亭社中で活躍、妻を亡くす;1781-9撰津池田住;剃髪、几董と交流、俳人梅女と再婚、帰京/画;応挙門、四条派の祖となる、俳風は師風に忠実で蕪村没後に師の遺墨遺稿を整理し遺族を援助、画;「寒山拾得図」「欽慕画譜」「武陵桃源図」「立花図」「春嬌帖」など、俳;1776几董「続明烏」77蕪村「夜半楽」入/84蕪村「新花摘」跋と挿絵、「月溪句集」著、後妻;うめ女も俳人、先妻は島原筆頭太夫雛路、絵師松村景文(けいぶん)の異母兄、  
[蚊を焼くや人もなげなる丸裸](紫暁「松のそなた」入/暑い夏の夜の女房の姿)、  
[月溪の通称/別号]通称;嘉左衛門、別号;蕉雨亭/呉春/百昌堂/三菓堂、可転/允白/孫石  
参照 → うめ女(うめじよ、芸妓/俳人) B 1 2 4 9  
→ 景文(けいぶん・松村、絵師) 1 8 8 9
- G1899 月景(げっけい) ? - ? 幕末期尾張愛知郡高計の国学者:小沢列根門、「嚶々集」著  
月溪(げっけい;字) → 観信(かんしん;法諱、真宗本願寺派僧) R 1 5 1 0  
月恵堂(げっけいどう) → 右琴(ゆうきん・渡辺わたなべ、俳人/詩人) B 4 6 2 9
- O1805 月券(げっけん・青木あおき) ? - ? 江前期;京の歌人;1682[麓の塵]3首入、  
[仁和寺の花見にまかりて、  
諸人の心は花に入あひのかねてもをしきはるの行末](麓の塵;春91)  
月空庵(げっくうあん、一居士) → 露川(ろせん・沢、俳人) 5 2 0 7
- H1800 月湖(げつこ・がっこ・潤徳斎)? - ? 室町期九州の医僧:入明;李朱医学修得、明で1452「全九集」55「大徳濟陰方」著、「産科秘録」著
- H1801 月湖(げつこ・香川) ? - ? 1751-81頃筑前の俳人、「野坡吟艸後編」編  
潔興(げつこう→きよき・宮道/宮路) → 潔興(きよき・宮道/宮路、廷臣/歌) C 1 6 9 5
- B1805 月江(げつこう・明空みょうくう)? - ?1319-21没 極楽寺僧?、歌謡作者、早歌大成者、晚年月江に改名、1296?「宴曲集」「宴曲抄」「眞曲集」/1301「究百集」06「拾菓集」14「拾菓抄」19「玉林苑」編、1319「別紙追加曲」「異説秘抄」「撰歌両曲巻」撰、「撰要目録」(所収曲/作者名等)編、作詩作曲百数十曲、道阿の師  
[早歌の伝承系譜](「異説秘抄」の相伝)  
月江→1325二宮信貞[道阿]→1357坂口盛勝[坂阿]→1392平盛幸[口阿](早歌中興)  
→1425山内盛通[宗友]→1463高橋富職とみもと/とみより (数字は相伝された年)
- H1802 月航(げつこう:道号・玄津げんしん/宗津そうしん:法諱)?-1586 京の臨濟僧;妙心寺大休宗休門/嗣法、妙心寺44世、駿河清見寺/常陸禪源寺/永興寺/会津興徳寺住寺、妙心寺を再・三住寺、「月航和尚語録」、細川昭元室(信長妹)を開基とし竜安寺靈光院開/妙心寺靈雲院隱退
- H1803 月耕(げつこう:道号・道稔どうねん:法諱、俗姓太田)1628-1701<sup>74</sup> 名古屋黄檗僧:1642雲居希膺門、1661京妙心寺一座/陸前宮城の永安寺住寺、77万福寺木庵性瑠しょうとう門/97仙台満壽寺開山、「月耕禅師語録」著、  
[月耕道稔の初法諱/号]初法諱;宗親そうしん、号;亀毛子
- H1804 月江(げつこう:号・田中たなか、通称;権右衛門ごんえもん、別号;水哉)1804-59<sup>56</sup> 越中氷見の蔵宿業、屋号;田中屋/町年寄、俳人;京の十丈を接待、「応響雑記」著、1824-46「其年布里」/35「朝日抄」「霜煙集」著
- N1863 月皎(げつこう:法諱・梅森うめもり、名;交学)1838-1910<sup>73</sup> 伊勢松坂の僧;菅相寺住僧、歌人  
月鴻(げつこう・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9

- 月皎(げっこう;字) → 衆鑑(しゅうがい;法諱・月皎;字・真宗僧)W 2 1 8 1  
 月江庵(げっこうあん) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳)C 3 6 3 2  
 月光庵(げっこうあん) → 守貞(もりさだ・喜田川/北川/石原、商家/考証家)F 4 4 4 2  
 月光院(げっこういん) → 喜世(きよ・勝田、將軍家宣側室、歌人)N 1 6 0 0  
 月光園(げっこうえん) → 甘古(かんこ・平田ひらた、俳人)Q 1 5 3 4  
 月光亭(げっこうてい) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師)D 3 9 6 1  
 月光亭(げっこうてい) → 東漁(とうぎよ・河東かわひがし、読本作者)C 3 1 7 7  
 月光亭笑寿(げっこうていしょうじゅ) → 笑寿(しょうじゅ・月光亭、合巻作者)N 2 1 3 4  
 激昂道人(げっこうどうじん・月花堂) → 諦然(たいねん、真宗僧)K 2 6 9 1
- D1871 月谷(げつこく) ? - ? 江中期/狂歌:月洞軒(1661-1724)門、月休・月宿と同門
- H1805 月齋(げつさい・沼田ぬまた、名;正民/政民)1787-186478 名古屋藩士/1804大御番組/53致仕、  
 絵師;牧墨僊門・歌政名を賜、張月樵・山本梅逸・葛飾北齋門、1823「草本性譜」、  
 1825「絵本今川状」「絵本女今川」、門人;川崎美政・古田古朴・服部月真・埴腹年岬(歌政3世)、  
 [月齋(;号)の字/通称/別号]字;士彝、通称;半左衛門/半兵衛、  
 別号;凌雲/歌政2世、法号;喆性院てしやういん凌雲月齋
- 月齋(げつさい) → 峨眉丸(がびまる・月齋、絵師)P 1 5 2 1  
 月齋(げつさい) → 浜臣(はまおみ・清水、国学/歌人)3 6 2 4  
 月齋(げつさい) → 建雄(たけお・浜野、国学)O 2 6 2 8  
 傑作(けつさく・吉田) → 重勝(しげかつ・吉田よしだ、弓術家)Q 2 1 8 0  
 月左亭(げつざてい) → 歩牛(ほぎゅう・玉田/渡辺、俳人)C 3 9 8 2  
 傑山(けつざん;号) → 天海(てんかい;道号・空広;法諱、曹洞僧)D 3 0 2 0
- E1877 月山(げつざん・菱川ひしかわ/初姓;菅かん/修姓;菱りょう、名;在)1769-181648 安房儒者:菱川秦嶺門、  
 柴野栗山門、秦嶺しんれいの養嗣子;下総佐倉藩儒員、「小家珍説」「博覧一旨」著、  
 [月山の字/通称/法号]字;士崇/士宗しろう、通称;宗助、法号;秦嶺洞然居士
- 潔巳(けつし・土沢) → 沙山(しゃざん・土沢つちざわ、藩士/俳人)W 2 1 2 9  
 月之(げつし・山内) → 曲川(まげがわ・山内、商家/俳人)P 1 6 1 6  
 月之(げつし・根本) → 為胤(ためたね・根本ねもと/平、神職)Y 2 6 8 7  
 月枝(げつし) → 大潮(たいちよう;道号・元皓、黄檗僧/詩)B 2 6 8 8  
 潔樹(けつじゅ→きよき・宮道/宮路) → 潔興(きよき・宮道/宮路、廷臣/歌)C 1 6 9 5
- H1806 月珠(げつしゅ;字・覺了;法諱、俗姓小川、豊前浄光寺円然男)1795-185662 豊前真宗本願寺僧、  
 父門、本山安心教諭役/助教/1835安居講師/49司教/51勸学、豊前派形成、門弟多数、  
 「論題集」「先哲講辯叢誌」「本典敬信録」「阿弥陀経松江録」「一流安心草講義」外著多数、  
 [月珠(;字)の初法諱/号]初法諱;円鏡、号;慧日閣/不可得/蛭水/勝縁房、諡号;善通院  
 月守(げつしゅ・神田) → 月守(つきもり・神田かんだ、俳人)2 9 6 3
- H1807 月舟(げつしゅう;道号・宗林そうりん;法諱、俗姓;朝枝)1614-8774 周防岩国曹洞僧;安藝国泰寺徹洲門、  
 長崎皓台寺雪山鶴曇(or一庭融頓)門/嗣法、安藝洞雲寺住持/長崎皓台寺3世、  
 1663「一庭融頓大和尚之年譜」著、  
 [月舟宗林の諡号] 大機盤空禅師
- H1808 月舟(げつしゅう;道号・宗胡そうこ;法諱、号;可憩齋、俗姓原田)1618-9679 肥前武雄曹洞僧:  
 1629華岳門、加賀大乘寺白峯玄滴門/嗣法、1671大乘寺26世/80山城宇治禅定寺隠棲、  
 「靈堂常規」「楳樹林指南記」「十玄談註」「參同契宝鏡三昧随聞記」「月舟夜話」外著多数、  
 「月舟和尚遺録」
- E1881 月洲(げつしゅう・山田やまだ、名;有雄/君豹)1715-176854 鹿児島藩士/儒;児玉凶南・郡山員雄門、  
 江戸で朱子学;河口静齋・伊藤澹齋門、藩記録奉行/藩主侍読/詩人、  
 1774「月洲詩集」、「月洲稿」、「月洲先生詩集」著、「月洲遺文」、  
 [月洲(;号)の字/通称]字;文蔚ぶんうつ、通称;喜三右衛門きざえもん
- E1878 月洲(げつしゅう・岩垣いわがき、名;龜/通称;六蔵、岡田南涯男)1808-7366 儒者・岩垣竜溪門、  
 経済実践を主とする学問、師竜溪の息岩垣東園の跡を継嗣、講説/習学所教授、  
 「思問録批評」「國語説鈴」「西征快心編」著、「棲霞楼詩文稿」「月洲詩文稿」著、  
 若江薰子におこの師

- 月舟(げつしゅう;道号) → 寿桂(じゅけい;法諱・月舟、臨濟僧/五山文学) I 2 1 6 3  
 月秀(げつしゅう・歌川) → 月秀(つきひで・歌川うたがわ、桂雲斎、絵師) 2 9 5 4  
 月洲(げつしゅう・大槻) → 磐里(ばんり・大槻おつぎ、医/蘭学者) 3 6 6 5  
 D1872 月宿(げつしゅく) ? - ? 江中期/狂歌:月洞軒(1661-1724)門、月谷・月休と同門  
 潔女(けつじょ・大久保) → 潔女(きよじょ・大久保、歌人) T 1 6 2 7  
 H1809 月杵(げつしよ・椿つばき、通称;四郎右衛門、仲輔なかすけ男) 1822-8261 下総香取の国学者;父門、江戸住、  
 俳人:西馬門、1855「輪かさり」編  
 [月杵の別号] 柳兮舎/静堂/里椿  
 月渚(げつしよ;号) → 祐常(ゆうじょう;法諱、天台僧/画) C 4 6 6 1  
 月渚(げつしよ・田中) → 日華(にっか・田中たなか、絵師) D 3 3 7 5  
 月所(げつしよ・長島) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5  
 月杵庵(げつしよあん) → 虎角(こかく・吉田、俳人) C 1 9 2 3  
 潔常(けつじょう・豊田) → 潔常(きよつね・豊田とよた、国学者) U 1 6 8 8  
 H1810 月樵(げつしやう・張ちやう、名;行貞) 1772-183261 近江彦根職人町の人:市川君圭門、  
 上京し絵師:月溪門、寛政1789-1801頃名古屋に住/陳南溪を私淑し一家を成す、  
 尾張藩用人支配;帯刀を許可、1797「月樵画譜」98「続姑射文庫」/1817「不形画藪」画、  
 1818「新姑射文庫」「比廼喜盤志」画、  
 [月樵の字/通称/別号]字;元啓、通称;晋蔵/快助、別号;醉霞堂、法号;張山月樵  
 B1806 月照(げつしやう;字、俗名;玉井宗久/久丸、町医玉井宗江男) 1813-58入水46 讃岐生/幼時大阪移住、  
 1827(15歳)叔父蔵海に従い出家/法相僧;山城遍照院弘賢門/悉曇学・河内高貴寺宗宝門、  
 1835京清水寺成就院住職/尊攘活動;安政大獄連座/薩摩で西郷と入水;西郷は救助された、  
 歌;忠熙門、歌日記「落葉塵芥集」/家集「詠草」著(333首)  
 [月照の法諱/字/号]法諱;忍海/忍向/忍鎧/忍鏡/忍介、字;中将房、  
 号;松間亭/菩提樹園/無隠庵一鋒  
 D1873 月昴(げつしやう) ? - ? 川柳雑俳・緑亭5世川柳門、1851「柳風群燕」催主の1  
 E1879 月性(げつしやう;法諱・釈、字;知円、光福寺住職祇城男) 1817-5842 周防玖珂郡真宗僧;光福寺の生、  
 母;同郡本願寺派妙円寺謙讓女、妙円寺住職/漢学、吉田松陰・三樹三郎らと交流、  
 海防を主唱;海防僧と称される、幕府の蝦夷経営に本願寺の開教使として赴く際に病死、  
 「清狂吟稿」「内海杞憂」「南遊日記」「東北遊日記」「鳥片始末考異」「今世名家文鈔」、  
 「仏法護国論」「月性草稿」「封事草稿」「釈月性書簡」著、  
 [月性の号] 清狂/烟溪/梧堂  
 月廂(げつしやう・前田) → 水穂(みずほ・前田まへだ/夏目、国学/歌) K 4 1 5 0  
 月松軒(げつしやうけん・多武峯西院) → 紀子(きし、俳人) B 1 6 1 7  
 月松軒(げつしやうけん) → 知宜(ともよし・酒井、文筆家) Q 3 1 9 6  
 月性房(げつしやうぼう;号) → 観勇(かんのゆう;法諱、天台僧) R 1 5 7 0  
 D1874 欠申(けつしん) ? - ? 俳人、1672?重徳「俳諧塵塚」和漢8吟入  
 H1811 月心(げつしん;道号・性湛しやうたん;法諱)?-? 江前期京の臨濟僧;天竜211世、  
 1708-18朝鮮通信使と応接、1719(享保4)「星槎答響」「星槎余響」著  
 H1812 月岑(げつしん;道号・元昶げんちやう;法諱) 1723-8967 江中期日向佐土原臨濟僧;翠巖門/諸師に参禪、  
 佐土原大光寺住持、「棲雲集」  
 B1807 月岑(げつしん・斎藤さいとう、幸孝ゆきたか男) 1804-7875 江戸神田雉子町の名主;市左衛門家、  
 母;ひさ、祖父;幸雄、1818名主職継承、儒者;日尾荊山門/国学;上田八蔵門/画;谷口月窓門、  
 1834-36祖父幸雄・父幸孝編「江戸名所図絵」刊行、考証随筆;38「東都歳事記」著、  
 1844「浮世絵類考」47「声曲類纂」50「武江年表」55「東都地震記」「安政乙卯武江地動之記」著、  
 1862「睡余操觚」1830-「斎藤月岑日記」著、「蜘蛛の糸巻拾遺」「江戸名主鑑」「遠近懐宝」編外多、  
 [月岑(;号)の名/通称/別号]名;鉞三郎/幸成ゆきなり、通称;市左衛門、  
 別号;翟巢てきそう/松濤軒  
 N1856 月識(げつしん・安達あだち) 1780- 185879 相模保土ヶ谷宿の国学者/歌人・俳人、  
 寺子屋師匠として子弟教育、  
 [月識(;号)の通称/別号]通称;専之助、別号;応小(;俳号)/柳月/清墨庵、

別称;米屋の先生

月心(げっしん;号) → 良運(りょううん;法諱・自証;字、天台僧) G 4 9 3 2  
月岑(げっしん) → 言継(ときつぐ・山科、廷臣/故実/歌) 3 1 3 3  
月津(げっしん) → 薄唇(はくし、俳人) D 3 6 1 7  
月信(げっしん・島) → 高麿(たかまろ・島しま、国学者/歌人) X 2 6 5 0

B1808 月尋(げっしん・藤岡ふじおか、名;道貞)?-1715 大阪の俳人;貞悟門/京住、万葉歌学;野田忠肅門、歌人;竹内惟庸門、京岡崎/撰津伊丹住、浮世草子執筆、1692「俳諧高砂」1703「とてしも」編、「鶴の隣」編、1712「和歌俗説辨」著/14「伊丹発句合」催、1697桃隣「陸奥衛むつちどり」入、浮世草子;1708「鎌倉比事けんそうひじ」、09「子孫大黒柱」「今様廿四孝」「儻偶てれん用心記」著、「世間用心記」「近士武道三国志」著外多数、  
[木菟みみづくの啼くや木の葉の落つる度](陸奥衛)、  
[月尋の別号] 月尋堂/北京ほつきょう散人/看花斎/廉長/羅門回/霄雨軒しょううけん、瑞立斎/定延/石別子/逸士喜完/繫花廊

☆伊丹発句合;月尋が伊丹の7人相手に自句を番えた28番句合・百韻即興・四季発句、伊丹の7人とは;蘭舟・後村・花天・金風・長父(億麿)・麦秀・徳七

欠伸子(けっしん) → 江月(こうげつ;道号・宗玩;法諱、臨濟僧) I 1 9 4 8  
欠伸子(けっしん) → 風悟(ふうご・松尾/松、藩士/俳人) 3 8 5 6  
月尋堂(げっしんどう) → 月尋(げっしん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8  
月成(げっせい・朋誠堂喜三二) → 岡持(おかもち・手柄;狂歌/戯作) 1 4 0 9  
月栖(げっせい;法名) → 季国(すえくに・千秋せんしゅう、神職/連歌) F 2 3 4 0  
月霽(げっせい・初瀬) → 是教(ぜきょう・初瀬はつせ、国学者) O 2 4 4 1  
月青斎(げっせいい・菱川) → 春喬(はるたけ・勝川かつかわ、絵師) J 2 1 3 8  
碓石(づせき・浅野) → 文彦(ぶんりゅう・浅野あさの/丹羽、医者) G 3 8 6 8

B1810 月夕(げっせき・松山まつやま) ? - ? 羽前米沢の俳人、  
1713「楓の林」編(江戸土産の楓の句を収集;山夕・沾洲・棹歌・秋色・園女・仙鶴らの句入)  
月夕窓(げっせきそう) → 敵柳(こうりゅう、俳人) C 1 9 0 4

H1813 月泉(げっせん;道号・良印;法諱、熊谷直頼男) 1319-1400 陸前塩竈真言僧/のち曹洞僧;峨山韶碩門、1349羽後の補陀寺開山/陸奥黒石の正法寺住寺、「月泉禅師語録」著

F1806 月扇(げっせん、古沢/鹿島、別号;宗幽)?-? 伊丹俳人・宗旦門、1691江水「元禄百人一句」目録入

H1814 月筌(げっせん;字・崇信そうしん;法諱) 1671-1729 大阪天満の真宗本願寺派僧;1679(9歳)剃髪、1686(16歳)定専坊住職、のち知空門、1700大乘起信論を講義/宗典研究、1716退院、毎月15日に華嚴会の講説法談を主催、「起信論疏啓曜鈔」「具舍論頌疏闡幽鈔」、「高僧和讃聞記」「浄土和讃嘗解」「真宗関節」「真宗仏身問答」、1728「自照録」編、外著多数、  
[月筌の号] 難思議弗知/笛阜てきふ道人/笛峰/華蔵院げぞういん

H1815 月船(げっせん;道号・禅慧ぜんね;法諱) 1702-81 磐城小野村臨濟僧;北禅・古月門、磐城高乾院住持、武州永田で教育、「武溪集」、峨山慈棹/隠山惟琰いんの師

H1816 月船(げっせん;道号・浄潭じょうたん;法諱)?-1769 黄檗僧;百拙元養門/師に随従、1749京の法蔵寺2世、詩/書/画、伊藤若冲墨画に賛記、「百拙和尚行実」編

B1811 月儼(月仙/月儼げっせん;号・玄瑞;法諱、丹屋八左衛門男) 1741-1809 名古屋味噌商家の生、1747(7歳)円輪寺で剃髪;浄土僧/江戸増上寺修学/京知恩院の檀譽貞現門、絵師;桜井雪館門/のち応挙門、1774伊勢山田寂照寺住職;絵画収入で寺院修造・貧民救恤、1780「列儼図賛」画、「南垠雜詠」画、  
[月儼の字/別号]字;玉成、別号;浄蓮社/詳譽/祥譽/雷沢/白雲/寂照主人

月川(げっせん・堀田) → 幾千女(きちぢよ・堀田ほった/松平、歌・書) V 1 6 1 6  
月泉(げっせん;道号・祥洵) → 祥洵(しょうじゅん;法諱・月泉、臨濟僧) T 2 2 0 7  
月蟾子(げっせん) → 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5  
月船宗円(げっせんそうえん;法名) → 友益(ともます・速水はやみ、廷臣/歌/連歌) Q 3 1 5 9

B1812 月巢(げっそう・山村やまむら、名;春安) 1730-85 羽前寒河江の医者/江戸で俳人;蓼太門、駿河の時雨窓継承、東海雪門を率いる、  
1783「伊豆海つたえ」「伊豆めぐり」「端午五集」著、追善「心一」文母編、

[月巢の別号] 雪屋山人/未来坊/盤古/万古ばんこ/時雨窓2世

H1817 月窓(げつそう・佐藤さとう、名; 季昌すえまさ、金屋仁右衛門男)?-? 京の医者/1805越中富山藩御目見医格、歌人; 澄月と交流、1798「立山紀行」著、

[月窓の通称/別号]通称; 惣兵衛、別号; 松羅子

H1818 月窓(げつそう・谷口たにぐち/修姓; 谷、名; 世達、俳人谷口鶏口けいこうの女婿) 1774-1865長寿92、江戸の絵師、伊勢山田の寂照寺月儼門、1814「俳諧百面賛」画

H1819 月窓(げつそう・岸田きしだ、名; 鴻/茂元、茂篤男) 1814-34早世21 讃岐香川郡由佐の文人、詩文; 中山城山門/書; 僧吉補門/篆刻; 細川林谷門、「琴谷詩集」、「六体書苑」著、

[月窓の字/通称/別号]字; 子漸/長孺、通称; 元介、別号; 琴谷

月窓(げつそう・和知) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3 8 5 8

月窓(げつそう) → 団斎(だんさい・麦笠庵、俳人) I 2 6 7 4

月窓(月叟げつそう・田内) → 親輔(ちかすけ・田内たのうち、藩士/儒/歌) B 2 8 0 4

月窓(げつそう・鳥山) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5

月窓(げつそう・阿部) → 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5

月蔵(げつぞう; 字) → 法海(ほうかい; 法諱、真宗僧) 3 9 2 6

月叟以心(げつそういしん) → 吉保(よしやす・玉木/玉置たまき、武将) H 4 7 7 3

月巢円之(げつそうえんし) → 道斎(どうさい・高橋、儒者) E 3 1 3 7

月叟居士(げつそうこじ) → 有則(ありのり・長谷川はせがわ、歌人) I 1 0 2 7

月窓寺(げつそうじ) → 長嘯(ちやうしやう・北山、俳人) I 2 8 9 6

月蔵房(げつぞうぼう) → 仁聖(にんしやう、天台宗小坂流僧) G 3 3 4 9

月蔵房(げつぞうぼう) → 宰円(さいえん; 法諱、天台僧) G 2 0 5 4

月蔵房(げつぞうぼう) → 日祝(にっしゅう; 法諱・妙国院、日蓮僧) D 3 3 9 7

歌即道人(げつそくどうじん) → 得巖(とくがん; 法諱・惟肖、臨濟五山文学) K 3 1 5 3

H1820 月村(げつそん; 道号・元皓げんこう; 法諱、俗姓山本) 1660-173172 河内黄檗僧; 1674法雲寺慧極道明門、師に随従/嗣法、1713河内慈雲寺住持/18法雲寺住持、23毛利吉元の招聘; 萩東光寺5世、退隠; 河内眞洞庵住、「心華集」、「護国月村禅師語録」著

H1821 月村(げつそん・寺山てらやま、通称; 源十郎/別号; 白眼台)?-1854 江戸の俳人、

「月村帖」「万家発句集」編、1854「月村歳旦帖」著、寺山杉雨の一族(弟か)、

→ 杉雨(さんう・寺山てらやま、白眼台/俳人) L 2 0 7 7

月村斎(げつそんさい) → 宗碩(そうせき、宗祇門/連歌作者) 2 5 1 4

月村所(げつそんしよ) → 米仲(べいちゆう・岡田、俳人) 2 7 7 1

月村所(げつそんしよ) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/俳人; 米仲門) C 3 5 2 8

月村所(2世げつそんしよ) → 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4

H1822 月潭(げつたん; 道号・道澄どうちやう; 法諱、綺田了閑男) 1636-171378 近江彦根の黄檗僧:

1650山科で出家、嵯峨の独照性円門、渡来した隠元隆琦門/隠元に随従、1673独照に嗣法、1694直指庵2世住持; 同庵に没、

「隠元和尚耆年随録」「黄檗祖徳頌」「松隠集」「竜巖集」「峩山稿」「和讃三籟集」外多数、

[月潭道澄の初法諱/道号/別号]初法諱; 道徹、道号; 惟徹(号月潭を道号のように使用)、別号; 心華室

H1823 月湛(げつたん; 法諱・全苗ぜんみやう; 道号、号; 洞水、俗姓; 黒川) 1728-180376 越中新川郡新荘の僧;

14歳で曹洞僧; 富山清源寺胆全門; 出家、光厳寺灯外素継門; 1759嗣法/65高源寺住持、

のち雲竜寺・光厳寺・全福寺住持歴任、「洞水和尚下炬集」「洞水和尚語録」著、

「燈外素継禅師行業記」「晩録雑著」著/1800「金城余稿」編

H1824 月潭(げつたん; 道号・全竜ぜんりゆう; 法諱、号; 六湛/至游菴)?-1865 肥後曹洞僧; 黙室良要・大方義碩門、相模箱根宝珠院/小田原海蔵寺住持、「月潭和尚語録」「月潭録」著、「月潭禅師遺稿集」

月庵(げつたん; 道号) → 宗光(そうこう; 法諱、臨濟僧) B 2 5 3 6

月潭(げつたん; 道号) → 中円(ちゆうえん; 法諱、臨濟僧) F 2 8 8 0

月潭(げつたん、露滴斎) → 斉恒(なりつね・松平、藩主/茶/俳) H 3 2 6 4

月潭(げつたん) → 梅隣(ばいりん・平元、医/詩歌/俳) C 3 6 2 6

月潭無底(げつたんむてい) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4

- H1825 **月痴**(げっち・松本まつもと、名; 幸彦) 1793-? 1850存 江戸浅草の蔵書家:葛飾文庫と称す、  
読書家/天保飢饉に私財で窮民救済、1832「葛飾文庫蔵書目録」36「古板録」編、  
[月痴の字/通称/別号]字:子邦、通称:安右衛門、別号;月痴老人/鶴堤/風顛/痴庵主人  
月池(げっち・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、蘭医) E 3 9 2 2  
月池(げっち・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1  
月池(げっち・桂川) → 国興(くにおき・桂川かつらがわ/7世、幕府医官) B 1 7 4 7  
月智庵(げっちあん) → 正直(まさなお・毛利もうり、藩士/戯作者) F 4 0 0 3  
月池山人(げっちさんじん) → 伝笑(でんしょう・関亭、合巻/読本) D 3 0 8 3  
軌忠(げっちゅう・宮城) → 御楯(みたて・宮城みやぎ、藩士/国学/歌) K 4 1 7 1  
月池老人(げっちろうじん) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
月痴老人(げっちろうじん) → 月痴(げっち・松本、蔵書/窮民救済) H 1 8 2 5  
月癡老人(げっちろうじん) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2
- D1875 **月澄**(げっちよう、南亭) ? - ? 狂歌、葛飾連、1826文々舎「略画職人尽」入
- H1826 **月底**(げってい・三輪みわ) 1778 - 186083 名古屋藩大工(1795父の継承)/1811御大工与頭代、  
1820致仕/俳人:士朗門、名古屋俳壇の指導者/能書、1812「煎豆集」21「犬蓼」24「さみたれ」編、  
1841「口綱集」45「藪五徳集」編、50「月底翁句集」著、58「追福集」編、「はるの五題発句」評、  
[月底の通称/別号]通称;勝九郎/鍊蔵/喜四郎/直九郎、別号;蓼光庵りょうこうあん
- H1827 **月艇**(げってい・森井もりい、名; 以貫) 1797-185155 代々仙台藩医/医学;渡辺道可・河野緝庵門、  
仙台藩校医学館学頭/侍医兼務、詩・書:松井梅屋門、  
「月艇詩集」「徽治小成」「百一堂方函」著  
[月艇の字/通称/別号]字;子道/以一、通称;恕仙、別号;釣鼈道人ちようごうどうじん  
月亭(げってい) → 忠以(ただかね・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 0 8  
月亭可笑(げっていかしよう) → 可笑(かしょう・月亭げってい、洒落本作者) C 1 5 1 2  
傑翁(けつとう) → 是英(ぜい、臨濟僧) D 2 4 2 7
- H1828 **傑堂**(げつどう:道号・能勝のうしろう:法諱、俗名楠木正能、楠木正儀男) 1351-142373 室町期河内曹洞僧、  
楠木正成の孫、武道を捨て高瀬大雄寺古剣智納門/出家/摂津の通幻寂霊門、  
越前竜沢寺梅山開本門/嗣法、1394越後耕雲寺開山、「洞上雲月録」「五位」著  
月翁(げつとう;道号) → 周鏡(しゅうきやう;法諱・月翁、臨濟僧) H 2 1 1 0
- H1829 **月堂**(げつどう:道号・寂峰じゃくほう:法諱)?-1735 江中期筑後曹洞僧:1703千光寺光澄慧湛門/嗣法、  
1703千光寺15世/22退隠、1706「光澄禪師語録」編
- H1830 **月堂**(げつどう・榊原さかきばら/本姓:源、名;照成あきなり/照砥、松平親長男) 1798-185861 榊原照郷の養嗣、  
幕臣;大内記/越中守/1827家督;久能山惣御門番(奉行)/書家;古来の書蹟蒐集、  
「儒林墨宝」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[雪分けてとひにし跡も卯の花の今また埋む小野の山道](大江戸倭歌;夏410山家卯花)、  
[月堂(;号)の字/通称/法号]字;子成、通称;徳太郎/織部/越中守、法号;徳照院  
月堂(げつどう) → 宗規(そうき;法諱・月堂;道号、鎌倉南北期臨濟僧) 2 5 9 4  
月堂(げつどう・田内) → 親輔(ちかすけ・田内たのうち、藩士/儒者) B 2 8 0 4  
月堂(げつどう・本島) → 知辰(ちしん・本島、随筆家) E 2 8 4 9  
月堂(げつどう・吉田) → 敏成(年成としなり・吉田、国学者) N 3 1 2 6  
月堂(げつどう・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1  
月堂(げつどう・土岐) → 頼旨(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉) J 4 7 8 2
- B1814 **月洞軒**(げつどうけん・黒田くろだ、名;直常、用綱男) 1661-172464 母;都筑為次の養女、  
旗本;一歳で父の旧地千2百20石余を知行;父が徳川綱吉の家老で新采地受領のため、  
幕府寄合、妻;水野忠久女、狂歌作者:豊蔵坊信海門、狂歌自詠草「大団おうちわ」著、  
月宿・洞雪・月休らの師、  
[月洞軒の通称/別号]通称;巳之助/玄蕃/源右衛門、別号;玉雲軒月洞  
月道人(げつどうじん) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
- H1832 **月坡**(げつぱ;道号・道印;法諱、俗姓源) 1637-171680 大津曹洞僧:竜睡愚穩門/琵琶苑住、詩僧、  
1670加賀献珠寺/天徳院住、1671「菴居全集」、「月坡清吟」「月坡禪師語録」「江湖風月集」著、

[月坡道印の号] 老臥仏/臥雲叟

- H1833 **月坡**(げつぱ・三好みよし、名; 亀吉/通称; 才市) 1798-1872 75 近江甲賀大野村の魚商、俳人: 虚白門、  
隱居後京阪の俳人と交流/のち帰郷し後進指導、1849「まとあかり」51「待花園日記」著、  
1854「梅花帖」57「山東日記」著/62「蔭涼園虚白句集」編/65「竹の子集」評、  
[月坡の別号] 待花園/赤甫、法号; 海誉衆屋大道禪定門  
月波楼(げつぱろう) → 国貞(くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9  
月波楼(げつぱろう) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
月波楼(げつぱろう) → 庸成(つねなり・波多野はたの/伊藤、神職) G 2 9 1 6  
潔夫(けつぷ→さやけお・村上) → 円方(まどかた・村上、国学者/歌人) J 4 0 9 2
- H1834 **月風**(げつふう・未足斎) ? - ? 漢学; 1794「解顔新話」; 清遊戯主人「笑林広記」訳(47話)  
挈瓶(けつぺい・神河) → 渭南(いなん・神河かみかわ、医者/弓術) I 1 1 1 2
- H1835 **月浦**(げつぽ・道号・元照げんしょう; 法諱、初道号; 禪明、俗姓楠田) 1645-? 1717 存 肥前小城戸川黄檗僧、  
1653(9歳)慈雲寺入/58泰雲門/出家/62黄檗山万福寺: 隠元・木庵門、  
即非如一より月浦元照名を受、1686信州普賢寺住持/1714肥前星巖寺住/18塔頭禪林庵隱棲、  
「月浦和尚語録」著
- H1836 **月歩**(げつぽ・田中たなか、名; 東昌/字; 文和、種富男/母; 千) 1763-1838 76歳 会津高田の俳人: 洛蘭門、  
諸国を遊学; 物産/医/書/俳諧/茶/兵法など修得、随齋九淵・可都里長斎と交流、  
「訓蒙科条」「聖学摘要」「兵法秘訣」著、追善「袖塚集」門人編、  
[月歩の通称/別号] 通称; 出来蔵/友蔵/重吉/慶名/昌之進、  
別号; 叢竹庵草羅/遼来山人再児/慎、法号; 真珠院  
月甫(げつぽ・道号・清光) → 清光(せいこう; 法諱・月甫、臨濟僧) B 2 4 3 7  
月浦(げつぽ; 号) → 承允(じょうたい; 法諱・西笑; 道号、臨濟僧/詩文) U 2 2 0 8
- H1837 **月峰**(げつぽう; 道号・了然りょうねん; 法諱) ?-? 鎌倉期臨濟宗大覚派僧: 蘭溪道隆門/嗣法、  
「月峰和尚語録」
- B1809 **月峰**(げつぽう; 道号・道喜どうき; 法諱) ?-? 1696 存 江前期黄檗僧; 1681高泉性激しょうとん門/嗣法、  
1696「黄檗第五代賜紫高泉末後事実」著
- H1838 **月篷**(げつぽう・賀藤かとう、名; 景琴、景林がげしげ男) 1792-1867 76 秋田藩士/木山方吟味役、文筆/戯曲;  
幕政批判; 幽閉、親戚の平田篤胤門/勤王派、1819「楽津集略抄」49「于役集」「賀藤景琴詩稿」、  
「賀藤月篷随筆」「五山堂詩話抄」「春秋左氏伝国語」「景琴叢書」「山絵図」「景琴叢書」、  
「佐竹藩邸御雑用外諸控」「至誠堂百詠外五部撮抄」「月篷先生狂詩集」外著多数、  
[月篷の字/通称/別号] 字; 子徽、通称; 才治、別号; 製薬山人、法号; 天真院
- H1839 **月邦**(げつぱう・相沢あいざわ、名; 道隆) ? - ? 信州白田の俳人、「木曾の道草」  
[月邦の通称/別号] 通称; 所左衛門、別号; 不易堂ふえきどう/耕堂/縁窓、息子松芳も俳人  
月峰(げつぽう; 字) → 賞山(しょうざん; 法諱・月峰/其阿、時宗僧) J 2 2 1 9  
月峯軒(げつぽうけん) → 東歌(とうか・月峯軒、俳人) B 3 1 6 5  
月峰斎(げつぽうさい) → 永言(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) L 3 2 0 7  
月満(げつまん) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
月明(げつめい) → 月明(がつみょう; 法諱・具覚; 字、日蓮僧) N 1 5 9 0  
潔雄(けつゆう・倉手) → 潔雄(きよお・倉手くらて、和漢学者) U 1 6 2 3
- B1815 **結誉**(けつよ・九蓮社) ? - ? 天台僧、1595秀次命「謡抄うたいしょう」注釈参
- H1840 **月瀬**(げつらい・森田もりた、名; 寛/字; 季裕、医者森田文庵男) 1826-88 63 大和五条の医者; 父門、  
江戸で儒学: 昌谷さかや精溪・梁川星巖門、備中庭瀬藩主板倉家侍医/藩校誠意館教授、  
致仕後岡山で開塾; 門弟3千余人、老荘/陽明学を主唱、詩/書/画、広島で没、「詩禪堂百絶」、  
[月瀬(; 通称)の号] 葆庵/詩禪  
月楽院(げつらくいん) → 隆達(りゅうたつ; 字・高三たかさぶ、商家/隆達節祖) 4 9 1 0  
闕里(けつり・萩野) → 信庵(しんりゅう・萩野/平/孔平、藩士/儒者) Q 2 2 0 8
- B1867 **月丞**(げつり) ? - ? 江後期川柳作者; 5世川柳門、「柳風群燕」の会催主
- H1841 **月林**(げつりん/がつりん; 道号・道皓どうこう/どうきょう; 法諱、久我こが具房男) 1293-1351 59 始め天台僧、  
越前平泉寺で修業/のち臨濟僧; 建長寺高峰頭日・大徳寺宗峰妙超門/1322入元: 古林くりん門、  
1330帰国/京の天台長福寺を禪宗に開山、「月林皎禪師語録」著、

[月林の初法諱/号] 初法諱;妙暁、

号;独歩叟/円明叟/西山暮翁/仏慧知鑑大師(元の文帝より勅号)/普光幢国師

- 月林園(げつりんえん) → 敬典(たかのり・梅沢うめざわ、書家) M 2 6 8 1  
月林斎(げつりんさい) → 宗牧(そうぼく・谷、連歌師) 2 5 1 8  
月輪秋国(げつりんしゅうこく) → 月輪秋国(つきのわのあきくに、狂歌作者) E 2 9 7 9  
月輪大師(げつりんだいし) → 旭雅(きよくが;法諱・恵浄、真言僧) O 1 6 5 3  
月輪大師(げつりんだいし) → 俊苒(しゅんじょう;法諱、入宋僧/戒律復興) J 2 1 9 7  
月漣舎(げつれんしゃ・小池/野崎) → 巴明(はめい・野崎/小池、俳人) F 3 6 6 9  
月蓮房(げつれんぼう;号) → 資実(すけざね・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 1 8  
月六斎(げつろくさい) → 市人(いちんど・月六斎、滑稽作者) D 1 1 6 9  
戲道人(げどうじん) → 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら、隨筆家) H 1 6 3 1  
華徳院(けとくいん) → 了海(りやうかい;法諱、真宗仏光寺派僧) G 4 9 7 1  
希曇(けどん;法諱・天海) → 天海(てんかい;道号・希曇きどん、曹洞僧) D 3 0 2 1  
毛野村丹三郎(けのむらたんざぶろう) → 庭鐘(ていしやう・都賀つが、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0  
化仏(げぶつ・二宮) → 五礼(ごらい・二宮、眼科医/俳人) O 1 9 1 2  
下物(げぶつ) → 下物(かぶつ・山川、俳人) F 1 5 7 9  
化物園(げぶつえん) → 徳成(とくじやう;法諱、明逸男/真宗大谷派僧) L 3 1 0 0  
化物園主人(げぶつえんしゅじん) → 明逸(みやういつ;法諱、真宗大谷派僧) G 4 1 1 3  
槐本(げばん) → 槐本(えにすのもと、万葉歌人) 1 3 8 1  
介良廼舎(くわらなゐのや) → 重賢(しげかた・小野おの/伴、廷臣/歌人) C 2 1 0 7  
螻丸(けらまる・狂歌名、富士原) → 也有(やゆう・横井、俳人) 4 5 1 7  
H1842 華梁(けりやう;道号・霊重れいじゅう;法諱)?-1694 丹後田辺の曹洞宗桂林寺住職、詩偈、  
「詩林擲槌」「鶴林艸」著、没後刊行;「菅蒭かんかき集」「温泉雜稿」「田辺府志」著  
H1843 化霖(けりん;道号・道竜どうりゅう;法諱、俗姓;中河原) 1634-1720<sup>87</sup> 筑後の僧;  
1649(16歳)曹洞宗金剛寺の三源宗智門;出家、諸国行脚;1664(寛文4)黄檗宗万福寺入、  
隠元・木庵門、1666佐賀円明寺住持/再度万福寺に入;高泉性激しやうとん門/遠江独湛性瑩門、  
1682蓮池藩鍋島直之の竜津寺の開山、1703甘露院退隱、  
「楮襖集」「化霖禪師語録」著、月海元昭(売茶翁;煎茶の祖)の師  
花林院権僧正(けりんいんごんのそうじやう) → 永縁(えいえん、平安歌人) 1 3 1 4  
戲呂健館(げろけんかん) → 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら、隨筆家) H 1 6 3 1  
H1844 計魯里觀主人(けろりかんしゅじん) 1727?-? 江戸俳人/芝居見物;1805「中古戲場説」  
H1845 けん ? - ? 女流俳人;1691北枝「卯辰集」入、  
[藪の中のなづなは人にあはぬ也](卯辰集)  
01802 けん(けん・松下まつた、松下順壯女)?-? 江前中期;歌人;1700刊の戸田茂睡[鳥の迹]入、  
[岩つつじ咲きにけらしな紅に常磐の山も色かふるまで]([鳥の迹]春176)  
俳人[けん]と同一?  
H1846 猷(けん・二宮にのみや、国学者小篠敏男) 1754-1827<sup>74</sup> 遠江叟楽村生/幼時梅毒に感染;廢嫡、  
回復し岡崎藩医二宮元昌の養子/1769藩主転封で石見浜田住、医;広島山県良班門、  
口中科・内科を修得/産科;1779賀川玄吾門/儒学;亀井南冥門/88長崎遊学;蘭外科;耕牛門、  
1791浜田に帰国/藩医;侍医、整骨;吉原元棟門:整骨術の体系化、「正骨範」「中国接骨図説」著、  
[猷(;名)の字/号]字;彦可げんか/齡順、号;叟楽/擁鼻/推鼻、法号;擣篔院とういん  
H1847 健(けん・杉村すぎむら、別名;正誼、道清男) 1761-? 1815存? 尾張知多郡出身の文筆家、  
父の代に江戸住、1810「報告問答」、「杉村年譜」著、  
[健(;名)の字/通称/号]字;魯道/君強、通称;四郎三郎/右源太/牧太/荘五郎/直右衛門/易輔、  
号;警斎/勉庵/螺翁/霞阜  
H1848 猷(けん・土田つちだ、字;翼卿)?- ? 奥州の医者/江戸で開業:精神病治療、  
1819刊「癲癩狂經驗編」著(日本初の精神科専門書)  
H1849 憲(けん・田辺たなべ、別名;祐憲) 1794-1858<sup>65</sup> 京の書家/篆刻、東寺坊官(候人);法眼、書;僧無幻門、  
大師流書;空居門/篆刻;中林竹洞門、1820「玄々瓷印譜」「楷書帖」「拾玉印譜」著、  
[憲の字/通称/号]字;伯表、通称;飛驒、号;玄々げんげん/玄々山人/松竹楓園/東田居

- H1850 賢(けん・石丸いしまる) ? - ? 江戸中期金沢の和算家;井上方照門、  
1835「規矩元法別集」、宮井安泰の師
- D1876 謙(けん・斎藤) ? - ? 漢詩、1836海莊「溪琴山房詩」序
- D1877 賢(けん・片山) ? - ? 幕臣;御鷹方/読書家、1822-46「寝ぬ夜のすさび」
- N1894 猷(けん・古市ふるいち、旧姓;千葉) 1805-8076 備前児島郡尾原村絵師;京の岡本豊彦門:四条派、  
諸国遊歴後に帰郷;画塾を開設、歌人、「竜虎」「蘭亭曲水図」画、  
[猷(;名)の通称/号]通称;啓三/哲蔵、号;金峨/藍山
- H1851 謙(けん・神内じんない、通称;捨三/号;喬木)?-1891?(70余歳) 讃岐井戸村高木の医者/詩文、  
1860「農家撰種録」著
- H1852 謙(けん・林はやし、通称;修道)?- ? 江後期紀州の医者、「医事見聞録」「証治類範」著
- 見(けん・田中/井部) → 健斎(けんさい・井部いべ/田中、儒者) E 1 8 8 4
- 烜(けん・村井) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4
- 乾(けん・小倉) → 鯤堂(こんどう・小倉おぐら、儒者) G 1 9 9 7
- 健(けん・並河) → 魯山(ろざん・並河なみかわ/なひかわ/並、藩儒) B 5 2 5 7
- 建(けん・広瀬) → 淡窓(たんそう・広瀬、儒/詩人) 2 6 9 3
- 建(けん・松川) → 痴堂(ちどう・松川、儒者) E 2 8 9 6
- 建(けん・桂井) → 素庵(そあん・桂井かつらい、郷土/儒者) F 2 5 8 2
- 建(健けん・熊坂) → 蘭斎(らんさい・熊坂まさか、医者/蘭学/画) C 4 8 2 1
- 健(けん・松浦/今井) → 順斎(じゅんさい・今井/松浦、医者/篆刻) J 2 1 7 1
- 健(けん・長崎) → 浩斎(こうさい・長崎、医者/蘭学/詩) I 1 9 9 4
- 建(けん・手島) → 和庵(わあん・手島てしま、商家/心学者) 5 3 0 1
- 建(けん・福田/木下) → 梅庵(ばいあん・木下きのした、医/狂詩) 3 6 5 0
- 建(けん・小野) → 隆庵(りゅうあん・小野おの、飛鳥山館、医者) C 4 9 6 4
- 建(けん・中島) → 操存斎(そうそんさい・中島/加峰、藩儒) C 2 5 4 1
- 建(けん→たけし・保母) → 景光(かげあき・保母ほぼ/井上、藩士/国学) V 1 5 6 1
- 健(けん・横山) → 鶴水(かくすい・横山よこやま、儒者) K 1 5 1 4
- 健(けん・松田) → 浩瀾(こうらん・松田まつだ、藩儒/音楽) L 1 9 5 4
- 健(けん・高井) → 鴻山(こうざん・高井たかい、農業/儒/歌) J 1 9 3 3
- 健(けん・佐久間) → 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3
- 健(謙けん・小森/原田) → 筈斎(じゅんさい・原田/小森、藩士/儒者) J 2 1 7 2
- 健(けん・的場) → 健(たけし・的場まとは、医者/歌人) Z 2 6 6 5
- 健(けん・林) → 壮軒(そうけん・林はやし、幕府儒官) H 2 5 1 1
- 健(けん・乾) → 健輔(けんすけ・乾いぬい、医者/詩歌) N 1 8 6 1
- 健(けん・原) → 健(たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌) Z 2 6 1 0
- 健(けん・青木) → 猛比古(たけひこ・青木あおき、尊皇運動) V 2 6 0 4
- 健(けん・伊江) → 朝直(ちようちよく・伊江いえ、琉球摂政) M 2 8 0 2
- 健(けん・越智) → 通清(みちきよ・越智おち、里正/歌人) I 4 1 3 0
- 健(けん・長崎) → 健(たけし・長崎ながさき、浩斎/医者/国学/歌) Y 2 6 7 0
- 謙(けん・杉山) → 正義(まさよし・杉山、藩士/漢学;易学) I 4 0 4 9
- 謙(けん・増田) → 立軒(りつけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2
- 謙(けん・小樽こぐれ) → 賀前(かぜん・山本/高橋、和算家) M 1 5 7 2
- 謙(けん・斎藤) → 白阜(はくこう・斎藤さいとう、儒者) D 3 6 0 5
- 謙(けん・山本) → 迂斎(うさい・山本やまと、儒者) C 1 2 0 1
- 謙(けん・金内) → 格三(かくぞう・金内かねうち、儒者) K 1 5 1 8
- 謙(けん・小笠原) → 冠山(かんざん・小笠原おがさわら、藩士/儒) H 1 5 6 4
- 謙(けん・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本莊ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
- 謙(けん・森) → 玉岡(ぎよくこう・森もり、医者/詩人) O 1 6 9 1
- 謙(けん・広瀬) → 旭荘(きよくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩人) 1 6 4 4
- 謙(けん・木村) → 礼斎(れいさい・木村きむら、医者/探検) 5 1 2 9
- 謙(けん・橋本) → 玉蘭斎(ぎよくらんさい・橋本貞秀、絵師) D 1 6 1 1

謙(けん・古川)	→	氏一(うじかず・古川ふるかわ、和算家)	B 1 2 8 2
謙(けん→ゆずる・大蔵)	→	謙斎(けんさい・大蔵おおくら、儒者/詩歌人)	I 1 8 9 2
謙(けん・小川)	→	乾山(けんざん・小川おがわ、藩士/儒者)	J 1 8 2 4
謙(けん・柏木)	→	如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩)	C 2 2 8 3
謙(けん・妹尾/雨森)	→	精斎(せいさい・雨森あめのもり/妹尾、藩士/儒者)	2 4 7 6
謙(けん・金子)	→	得処(とくしょ・金子かねこ、儒者)	K 3 1 9 5
謙(けん・中田)	→	淡斎(たんさい・中田なかつ、儒者)	T 2 6 5 5
謙(けん・西島)	→	柳谷(りゅうこく・西島/西嶋、儒; 講説)	D 4 9 9 4
謙(けん・富田)	→	文山(ぶんざん・富田とみた、藩士/詩文)	F 3 8 4 4
謙(けん・大谷)	→	尚古(しょうこ・大谷おおたに、儒者/俳人)	I 2 2 6 8
謙(けん・宇津木)	→	昆台(こんだい・宇津木[-城]/于、医者)	G 1 9 5 9
謙(けん・井上)	→	静軒(せいけん・井上いのうえ、藩儒)	I 2 4 0 2
謙(けん・中茎)	→	暘谷(ようこく・中茎なかぐき/茎、医/国学)	4 7 8 6
謙(けん・日高)	→	耳水(じすい・日高ひだか、藩儒/詩文)	T 2 1 9 7
謙(けん・高野)	→	春華(しゅんか・高野、藩士/儒者/詩人)	J 2 1 2 8
謙(けん・後藤)	→	東庵(とうあん・後藤ごとう、漢学/教育者)	I 3 1 9 5
謙(けん・小野寺)	→	鳳谷(ほうこく・小野寺、漢学/海防/詩)	3 9 7 6
謙(けん・長戸)	→	哀斎(あいさい・長戸ながと、儒者)	3 9 8 6
謙(けん・室田/泉)	→	謙(ゆずる・室田むろた/泉せん、医者/国学)	G 4 6 9 6
謙(けん・草場)	→	晋水(しんすい・草場くさば、書家/歌人)	U 2 2 8 0
謙(けん・八木)	→	称平(しょうへい・八木やぎ、藩医/教育)	L 2 2 5 4
謙(けん・新居)	→	水竹(すいちく・新居にい、藩士/儒者)	2 3 8 1
謙(けん・大熊)	→	峰麿(みねまる・大熊おおくま、医者/歌人)	I 4 1 3 5
謙(けん・三浦)	→	大学(だいがく・杉浦すぎうら/甘露寺、尊攘)	X 2 6 6 9
絢(けん・清田きよた/せいだ)	→	儋叟(たんそう・清田、儒者)	I 2 6 4 9
絢(けん・桜井)	→	雪鮮(せつせん・桜井さくらい、幕臣/絵師)	L 2 4 1 3
絢(けん・石井)	→	隆庵(りゅうあん・石井/山田、藩医/詩)	C 4 9 6 7
縑(けん・早雲)	→	高古(たかふる・早雲はやくも、神職/国学)	Z 2 6 0 3
顕(けん・高橋)	→	顕(あきら・高橋、藩士/儒者/歌)	E 1 0 2 1
顕(けん・小西、友直男)	→	顕(あきら・小西、地誌)	E 1 0 2 2
顕(けん・佐久間)	→	草偃(そうえん・佐久間さくま、絵師)	G 2 5 3 4
顕(けん・氏家)	→	閑存(かんそん・氏家うじえ、藩士/儒者)	H 1 5 7 1
顕(けん・大塚)	→	克忠(かつただ・大塚おおつか、儒者)	N 1 5 5 2
顕(けん・岩瀬)	→	尚庵(しょうあん・岩瀬いわせ、藩士/儒者)	F 2 2 0 0
顕(けん・手塚)	→	律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書)	C 4 9 1 0
憲(けん・伊良子)	→	大洲(たいしゅう・伊良子、儒者)	K 2 6 1 8
憲(けん・寺崎)	→	梅坡(ばいは・寺崎てらさき利憲、儒者/詩)	B 3 6 9 5
憲(けん・林)	→	晋軒(しんけん・林はやし、幕府儒官)	D 2 2 9 3
憲(けん・辛島)	→	塩井(えんせい・辛島からしま知雄、儒者辛)	C 1 3 1 8
憲(けん・佐野)	→	山陰(さんいん・佐野、藩士/儒者/地誌)	G 2 0 1 5
憲(けん・伊良子/伊良)	→	大洲(たいしゅう・伊良子いらこ/伊良、儒者)	K 2 6 1 8
憲(けん・宮崎)	→	青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画)	I 2 4 1 4
憲(けん・柏木)	→	是心軒(4世・一翁いちじょう、医者/華道家)	K 2 4 6 3
憲(けん・阿部)	→	椋亭(りょうてい・阿部あべ、庄屋/儒者)	J 4 9 0 0
謇(けん・荒木)	→	士諤(しがく:号・荒木あらかき、藩儒)	B 2 1 3 2
堅(けん・吉川)	→	天浦(てんぼ・吉川よしかわ、神職)	E 3 0 2 7
堅(けん・渡辺)	→	屋烏(おくう・渡辺/石井、藩士/俳人)	B 1 4 4 6
堅(けん・源)	→	堅(かたし・源みなもと、歌人)	M 1 5 9 3
賢(けん; 一字名)	→	熙房(ひろふさ・清閑寺せいかんじ、廷臣/故実)	H 3 7 0 3

- 賢(けん・城戸) → 芙蓉(ふよう・城戸きど、儒者) E 3 8 4 8  
 研(けん・関) → 藍梁(らんりょう・関せき、儒者/詩人) D 4 8 2 7  
 儉(けん・毛利) → 空桑(くうそう・毛利、儒者/尊攘) C 1 7 0 2  
 儉(けん・高山) → 茂樹(しげき・高山たかやま、神職/国学) Z 2 1 3 1  
 狷(けん・高橋) → 西山(せいざん・高橋たかはし、医者/歌人) O 2 4 2 5  
 猷(けん・荒井/勝田) → 半斎(はんさい・勝田かつた、幕臣/儒/詩文) H 3 6 6 6  
 権(けん・三木) → 屈斎(くっさい・三木みき、藩士/詩/戯作) C 1 7 4 7  
 虔(けん・箕作) → 阮甫(げんぽ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3
- H1853 元(げん・川合かわい、字;申甫/通称;忠蔵)?-? 紀州藩の儒者、備中生?、1780「孝行瓜の蔓」、  
 1783「拾い歌」84「五倫鑑」85「論語堂」86「穂に穂」96「韻鏡速成」1804「論語成解」外著多数
- E1854 儼(げん・海老原えびはら) ? - ? 江後期昌平學史局員、幕府命令で地誌改題などを共編、  
 1823「編脩地誌備用典籍解題」共編(総裁間宮士信ことのぶ、戸田氏徳・岩崎慎成・村井量令らと)  
 1828「記録解題」共編
- H1854 元(げん・菊池/菊地きくち、通称;善左衛門)?-1868 水戸藩士/儒者;1865彰考館入、  
 1860「五月雨籠」著
- H1855 愿(げん・曾そう/宋、字;士恭、槃はん[1758-1834]男)?-? 江後期薩摩藩医、  
 「うけらの花」「千虫譜」著、「質問本草」校訂  
 [愿(;名)の通称/号]通称;玄恭、号;無腸
- N1866 玄(げん・刑部おさかべ、) 1842 - 1908<sup>67</sup> 備前岡山の生/尾張名古屋藩士;小姓、  
 歌道;石橋蘿窓門、鎌倉宮の主典拜命/のち熱田神宮祠官、1887瀬戸陶器館長;陶器研究、  
 茶道、書画骨董蒐集、1908(明治36)岡山に没、  
 [玄(;名)の通称/号]通称;伝之丞、号;陶痴、法名;陶痴軒默翁了玄
- 原(げん) → 藤樹(とうじゅ・中江、儒;陽明学) 3 1 1 6  
 原(げん)・清水しみず → 中洲(ちゅうしゅう・清水、詩人) G 2 8 2 1  
 源(げん・江上) → 芥洲(かいしゅう・江上えがみ、藩儒者/詩文) 5 1 3 5  
 原(げん・増野/曾) → 雲門(うんもん・増野ますの、儒者) E 1 2 0 8  
 原(げん・大西) → 志毅(しこく・しこう・大西、儒者) T 2 1 4 3  
 原(げん・渡辺) → 松塙(しょう・渡辺わたなべ、和漢学/詩人) G 2 2 9 4  
 原(げん・鈴木) → 有本(ありもと・鈴木すずき、儒医) H 1 0 7 7  
 元(げん) → 元(はじめ・藤元、元亭子、軍記作者) E 3 6 3 8  
 元(げん・鼎) → 春嶽(しゅんがく・鼎かなえ、絵師/篆刻) Y 2 1 5 9  
 元(げん・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4  
 元(げん・西山) → 元文(もとふみ・西山にしま、藩士/儒者) E 4 4 2 2  
 元(げん・菊池) → 西臯(せいこう・菊池きくち、藩士/儒者) I 2 4 1 0  
 元(げん/はじめ・細川) → 潤次郎(じゅんじろう・細川、藩士/航海術) L 2 1 1 3  
 元(げん・豊福/赤松) → 寸雲(すんうん・赤松/豊福、儒者/碁) D 2 3 5 2  
 元(げん・宗、元姫) → 貞心院(ていしんいん、宗そう/松平、藩主室/歌) F 3 0 1 1  
 玄(げん・長曾根) → 五峰(ごほう・長曾根ながそね、医者/詩人) N 1 9 6 3  
 愿(げん・皆川) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4  
 愿(げん・勝沢) → 一順(いちじゅん・勝沢かつざわ、医者/詩歌) G 1 1 2 4  
 愿(げん・すなほ・栗山) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7  
 愿(原げん・松本) → 烏涯(うがい・松本まつもと、藩士/儒者) B 1 2 9 2  
 愿(げん・眞山) → 迂堂(うどう・眞山まやま、儒者/地理) D 1 2 2 0  
 愿(げん・山本) → 威斎(かんさい・山本やまもと、医者) Q 1 5 6 7  
 愿(げん・冢田) → 謙堂(けんどう・冢田/塚田つかだ、儒者) E 1 8 9 8  
 愿(げん・森/源) → 楓斎(ふうさい・森もり、書家/儒者) 3 8 6 7  
 愿(げん・設楽/岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画) Q 2 6 3 7  
 愿(げん・猪瀬) → 豊城(ほうじょう・猪瀬いのせ、庄屋/儒者/詩) B 3 9 7 8  
 愿(げん・岡本) → 宣愿(のぶよし・岡本おかもと/石上、藩士/歌) H 3 5 8 2

源(げん・奥村)	→	玉蘭(ぎよくらん奥村、醸造業/儒/画)	P 1 6 4 2
源(げん・三苦)	→	雷首(らいしゅ・亀井かめい/三苦みとま、医者/儒)	4 8 5 5
言(げん; 一字名)	→	道興(どうこう; 法諱、天台門跡/修験/歌)	E 3 1 0 1
言(げん; 一字名)	→	聖護院道増(しょうごいんどうぞう、天台門跡/連歌)	M 2 1 5 5
言(げん・岡本)	→	个庵(こあん・淀屋、商家/歌/連歌)	H 1 9 0 3
彦(げん・毛利)	→	半山(はんざん・毛利もうり、詩人)	H 3 6 8 1
彦(げん・村上)	→	清節(せいせつ・村上むらかみ、儒者/勤王)	J 2 4 0 2
炫(げん・鬼島)	→	広陸(ひろちか・鬼島きじま/富樫、神職/国学)	J 3 7 2 1
鉉(げん・鼎/戸田)	→	金城(きんじょう・鼎かなえ、絵師)	R 1 6 1 9
鉉(げん・宮本)	→	篁村(こうそん・宮本みやもと、儒/折衷学)	K 1 9 4 2
鉉(げん・中村)	→	竜庵(りゅうあん・中村なかむら、医者)	C 4 9 7 0
鉉(げん・北条/永根)	→	伍石(ごせき・永根ながね/北条、書家/篆刻)	M 1 9 8 7
巖(げん・宮原)	→	蔚山(ぶざん・宮原みやはら、儒者/医者)	C 3 8 3 5
巖(げん・松本)	→	古堂(こどう・松本、儒者/勤王)	D 1 9 4 3
巖(げん・松井)	→	秀房(ひでふさ・松井/大場、藩士/国学)	L 3 7 0 3

- H1856 **賢阿**(けんあ、源遠兼or仲遠、伊賀入道、源仲兼男)?-? 鎌倉期廷臣;出家;法名賢阿、歌人;1265白河殿七百首参加;15首入、[日吉山王利生記]に父仲兼と共に入、☆遠兼なら蔵人/加賀守/安嘉門院院司殿上/皇后宮大進/左衛門尉/正五下、☆仲遠なら作物所奉行/安嘉門院殿上/美濃守/出家;法名見阿けんあ、[をぐら山冬のきにけるさがなれば時雨しられてけふぞ暮行く](白河七百首;冬335)
- B1816 **釵阿**(けんあ/けんな・明忍房みょうにんぼう) 1261-1338 78 鎌倉末期武蔵真言僧;武蔵金沢称名寺2世、真言密教各法流すべてを相伝;称名寺真言密教を大成/伽藍建設、和漢文学に精通、兼好と交友、「日本紀私抄」1298「愚聞日記遺告秘々」著
- B1817 **顕阿**(けんあ/けんな;法諱) ? - ? 南北期;僧(時宗?)/歌人、二条良基(1320-88)邸百首参加/1375頃細川頼之(1329-92)奉納[大山祇神社百首]出詠、「近来風体抄」入、[吉野山咲ける咲かざる見し花のいつより雲のみをとなりけむ](大山祇百首;11花盛)、[ことの葉をみちにかけてける心とも今やみしまの神のたむけに](同;93/述懐)
- H1857 **賢阿**(けんあ;法師) ? - ? 室町期14ct連歌師、1356成立「菟玖波集」1句入[別れ路をあまりしたふに夜は明けて](菟玖;恋930/前句もれぬべきこそ憂名なりけれ)
- H1858 **謙阿**(けんあ・渡辺わたなべ、通称;左太夫/別号;東竜斎)?-? 江中期1764-1800頃仙台藩岩沼の給士、俳人:祇川門、芭蕉6世東竜斎と号、1793芭蕉百回忌「葛の霜」刊行
- 顕阿(けんあ) → 雪忠雅(ゆきちゅうが;号、姓;星、歌人) E 4 6 8 8  
見阿(けんあ;号) → 素中(そちゅう;法諱・浄土僧) K 2 5 0 5
- B1818 **玄阿**(げんあ) ? - ? 室町連歌師、義教幕府の連歌人数
- H1859 **玄蛙**(げんあ・小田おだ、名;黙居/字;春琳) 1762-1835 74 安藝山県郡有田村の医者/広島で開業、俳人;風律門、六合りくごうから多賀庵継承/還暦に合歓舎ねむのやに退隠、諸国遊歴、1808-23紀行「萍うきくさ日記」(初-三編)、1809「きさらき」編、18/12「文化壬申発句集」編、1824「合歓舎ねむのや物語」編、1831「ねむのや吟草」、31玄蛙古稀賀「いはひ草」(鳳郎編)、[裏白や表は花のいつくしま](1823萍日記三編)、[玄蛙の別号] 多賀庵3世/合歓舎ねむのや
- H1860 **幻巫**(げんあ・小瀬おぶち) 1796 - 1868 73 上州群馬郡白郷井村の俳人:無満門、雲水行脚、江戸惺庵の塾頭/晩年帰郷;師無満の多伝園継承、1860(安政6)同郷の佐藤不磷と子持神社境内に万葉碑建立、1863「はせをつか」/64「小六月集」編、「子育山敵討の記」「芳雲帖」著/「甘艸集」校訂、[幻巫の別号] 半月庵/楓堂/楓幻巫
- 玄阿(げんあ;号) → 巫元(阿元あげん;号、真宗僧/歌) 1 0 9 1  
玄阿(げんあ・本蓮社) → 懐音(えおん、浄土僧) D 1 3 4 8  
幻阿(げんあ・禅蓮社) → 蝶夢(ちようむ・五升庵、浄土僧/俳人) 2 8 2 6

- 幻阿(げんあ・愛蓮社祐誉)→ 天從(てんじゅう;法諱、浄土僧) D 3 0 7 5  
 言愛(げんあい・大隈) → 言愛(ことちか・大隈おおくま、商家/国学) Q 1 9 4 9  
 玄阿弥(げんあみ・加藤) → 高幹(こうかん・加藤かとう、幕府同朋/歌) R 1 9 7 7
- B1819 嫌阿弥陀仏(けんあみだぶつ) ? - ? 談義本作者、1753「当風辻談義」著  
 H1861 健庵(けんあん;名・高須たかす、号;春川)?-? 江前期大阪の医者、「要方選評」著  
 見庵(けんあん・小泉) → 棲真窩(せいしんか・小泉こいずみ、医者/詩) I 2 4 9 4  
 見庵(けんあん・小泉) → 五林(ごりん・小泉、棲真窩の孫/医者/詩) O 1 9 0 4  
 謙菴(けんあん・小寺) → 顕之(あきゆき・小寺こでら、国学者) H 1 0 4 8  
 賢安(堅安けんあん・加藤)→ 松蘿(しょうら・加藤かとう、酒造業/記録) L 2 2 8 5
- H1862 幻庵(げんあん;号・北条ほうじょう、俗名;長綱ながつな、北条早雲男)1493-1589?7 小田原の武将/幼時入寺、  
 1524近江園城寺で得度/箱根権現40代別当、相模小田原久野に住/軍功あり、文人、  
 連歌師宗牧を招聘/1562北条氏康女婚礼の際礼式・作法を教示、「幻庵覚書」著、  
 [幻庵(;号)の法諱/法名/別号]法諱:宗哲、法名;長綱ちようこう、別号;久野幻庵
- B1820 源安(げんあん) ? - ? 1505「歌連歌の法」著  
 H1863 元庵(げんあん・佐藤さとう、庄屋須田惣左衛門男)1636?-1713?77? 羽後象潟塩越の農政家(;家学)、  
 佐藤信邦の養嗣子/家学を基に秋田藩や会津藩財政再建に尽力、  
 「気候審験録」「十字糞培例」著、  
 [元庵(;号)の名/通称]名;信栄/信行、通称;甚助/元仙
- F1815 元安(げんあん) ? - ? 河内壺井の僧/狂歌、1666行風「古今夷曲集」8首入  
 [ねぶたげもさすがに醒めてよしみねやただ目薬は秋の夜の月](古今夷曲集:三秋歌)  
 (大原野善峰寺の目薬は古来有名、眠気をさます目薬は秋の月が一番)
- D1880 元庵(げんあん・穂積ほづみ、名;武平)?-? 儒者/漢学・内藤丈草の師  
 H1864 元庵(げんあん・和田わだ、元庸げんよう男)?-? 幕末期陸中遠野の医者;家業継承、俳/歌/狂歌、  
 1846「染匠庄兵衛病態診案」、「苦乎楽敷越而着和山道記」「遠野八景名所記」著  
 幻庵(げんあん・毛利) → 輝元(てるもと・毛利、武将/藩主/連歌) D 3 0 0 1  
 幻庵(げんあん・鶴田) → 宗印(そういん・伊藤いとう、将棋士) G 2 5 0 3  
 幻庵(げんあん・橋本) → 因碩(11世いんせき・井上、棋士) D 1 1 5 6  
 幻庵(げんあん・井上) → 杉長(さんちよう・井上いづえ、医者/俳人) E 2 0 5 8  
 幻庵(げんあん・亀井) → 曇栄(どんえい:道号・宗曄、臨濟僧/詩) S 3 1 0 3  
 玄庵(げんあん・渋江) → 道陸(どうりく・渋江しぶえ/稲垣、医者) I 3 1 1 9  
 玄庵(げんあん・藤堂) → 玄虎(げんこ・藤堂、藩士/俳人) B 1 8 7 1  
 玄庵(げんあん;還俗号) → 三級(さんきゅう:号・公巖、天台僧/連歌) L 2 0 9 8  
 玄庵(げんあん・小島) → 有卿(ゆうけい・小島こじま/川崎、藩医) B 4 6 3 5  
 元庵(げんあん・松本) → 川斎(せんさい・松本まつもと、神道家) F 2 4 4 0  
 元菴(げんあん・向井) → 安長(やすなが・向井むかい、大庄屋/国学) G 4 5 8 6  
 元安(げんあん・伊沢) → 信階(のぶしな・伊沢いざわ、蘭軒父/医者) B 3 5 6 2  
 彦安(げんあん・小野) → 職実(もとみち・小野おの、本草家) E 4 4 3 6  
 絃庵(弦庵げんあん・尾藤)→ 水竹(すいちく・尾藤びとう、儒者/幕臣) 2 3 8 0
- H1865 兼意(けんい・けんに;法諱・字;成蓮房、称;亮阿闍梨、藤原定兼男)1072-?1145後没74? 幼時期出家;  
 真言僧;寛意僧都門;1096伝法灌頂を受、1101師没後に高野山遍照光院住;  
 騷擾を厭い成蓮院閑居、本草家、梵字の書で有名(古事談)、  
 「兼意抄」「成蓮抄」「薬種抄」「香要抄」「念珠鈔」「護法鈔」外著多数
- 01830 賢位(けんい・けんに;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [みやこにて袖になれこし月影のしぐれにうときうつ山越え](檜葉:羈旅662)  
 顕意(けんい・道教) → 顕意(けんい:法諱・道教・浄土僧) M 1 8 0 4
- B1821 源為(げんい;法諱、後法諱;快為、二条[藤原]為氏男)?-? 鎌倉期天台叡山僧/法印、歌:新後撰621  
 [草のいほ柴のあみ戸のすまひまでわかぬは月の光なりけり](新後撰:九621)
- B1823 源意(げんい;法諱) ? - ? 南北期僧・法眼、歌:1362覚誉親王催歌合参加、  
 1344-5成立[藤葉集]入/1350為世十三回忌和歌出詠/1362(貞治元)覚誉親王催歌合参加、

新続古今集1981、

[老が身の寝覚に落つる涙をば知らでやよその鳥は鳴くらむ](新続古;雑1981、

貞治元[1362]二品親王覚譽木幡にて歌合し侍りけるに/法眼源意)、

[つひにさてつれなき中に恋ひしなばあふにもかへぬなをやのこさん](藤葉;恋454)

☆ 源守(今大路家)男の[源意]と同一?

B1822 源意(げんい;法諱、源守げんしゅ男/俗姓;今大路[藤原])?-? 南北期;聖護院坊官の今大路家、

聖護院庁務;天台宗法眼/のち法印(1364成立[新拾遺集]は法印名)、

今大路家系[帥そちの法印];源基→源守→源意→源盛→源忠と続く、

歌:1364頃成立「一万首作者」入、勅撰4首;新千載(2083)新拾遺(838/1874)新後拾(664)、

[うきながらそむきもはてぬあらましに幾度同じ世を厭ふらん)、

(1359成立[新千載集]雑2083/法眼名)、

☆ 前記[源意]と同一か?

B1824 源意(げんい;法名、称;下野守、俗姓;金沢[蟹沢])1408-? 1471存 室町期山名家家臣;武将、

連歌:宗砌門、1451(宝徳3)一条兼良亭「三代集作者百韻」/?「源氏国名百韻」参加、

1456(康正2)独吟「異体千句」(兼良の序と合点)、新菟玖波入

F1816 玄以(げんい・前田まゑだ、初名;基勝もとかつ、別号宗向)1539-160264 美濃僧/還俗;織田家武将、

丹後亀山城主、1583-99京奉行;98豊臣家五奉行、関原戦には不参加/領地坡安堵、

有職典故に通ず/茶;利休門、歌;1592「尹豊ただとよ九十賀和歌」参加/「玄以法印歌」著、

連歌;昌叱紹巴らと20数度の百韻、

[玄以(;名)の/通称/号]別名;宗句、通称;孫十郎、号;宗句/半夢齋/民部卿法印/徳善院、

法号;地徳院

H1867 元彙(げんい・松井まつい、号;古梅園、元泰もとやす男)?-? 江中期奈良の製墨業(道珍以来の老舗)、

「古梅園墨譜後編」著

H1868 玄医(げんい;名・名古屋/名護屋なごや、宗怡男/本姓平)1628-9669 京医者:中国の張仲景の医法研究、

古医方を唱導、幕府の徴召を固辞;民間医として活動、「杜律鈔」「摸蘇録」「横蘇録」、

1668「纂言方考」69「食物本草」1679「医方問余」(自序)/81「医学随筆」「医学愚得提要至論」、

1693「丹水家訓」、「医方摘要」「用方規矩」「律度量衡」「病名俗解」「古今類方」外著多数、

[玄医の字/号]字:閔甫/富潤、号;丹水/丹水子/宜春庵/桐溪、法号;宜春庵

H1869 玄惟(げんい;通称・橋爪はしづめ、名;延年のぶとし)1741-1841長寿101歳 信州小県郡田沢村医者/漢学者、

儒;安原霖裏りんかん(貞平)門、劍術;曾根栄治門/劍の達人;門弟数百人、

「頌徳文しょうとくぶん」著(中挾村の百姓一揆で上田藩に救済上訴した義民平林新七を讃える)、

「達徳録」著、古医学を修得:自ら節制に努め百一歳の長寿

B1838 元偉(げんい・鄭てい) ? - ? 琉球漢詩文;1843「東遊草」尚元魯・魏学賢と共編

元威(げんい;法名) → 長秀(ながひで・中条なかじょう、幕臣/歌人) F 3 2 4 6

元意(げんい・倉次) → 元意(もとりの・倉次くらつき、蘭学医) D 4 4 8 7

元維(げんい・吉田) → 隆見(りゅうけん・吉田よしだ、医者) D 4 9 6 2

玄意(げんい・高杉) → 寿山(じゅざん・佐々木/高杉、医/藩儒) Y 2 1 8 4

玄意(げんい・村上) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9

玄夷(げんい;法諱) → 天崖(てんがい;道号・玄夷、臨濟僧) D 3 0 2 3

玄彙(げんい;法諱) → 万寧(ばんねい;道号・玄彙、臨濟僧) I 3 6 4 5

01803 見育(けんいく・) ? - ? 江前期;歌人/浅井忠能家の人?;月次会に参加、

忠能[難波捨草]に20首位入集、

[雲の波たつかとみえて春風に松のうへこす池の藤波](忠能[難波捨草]春94/藤花随風)

B1826 兼郁(けんいく・猪苗代/初姓;神戸、別号;勝之)1655-173581 連歌:1674頃猪苗代兼寿門、

1694兼寿の養子兼柳の後見/98兼柳出奔のため猪苗代家を継承/法眼、

1706(宝永3)近衛基熙より「連歌天仁波」を受、1708基熙より古今伝授を受、

1689「吉野記」編/1720「仙台言葉以呂波寄」、「家業相続之記」著、

[兼郁の通称/号]通称;宇右衛門、号;花[華]隠軒/泰宗

玄昱(げんいく・里村) → 玄昱(げんよく・里村、連歌師) N 1 8 2 7

玄昱(げんいく・中村) → 直弦(なおあき・中村なかむら/山梨、医者/歌) O 3 2 1 0

- 玄郁(げんいく・川井) → 立斎(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) E 4 9 0 1
- N1847 憲一(げんいち・蒲生がもう) ? - ? 江後期;歌人、江戸麻布住、  
山東京伝と交流(1856所有する戸田茂睡「梨本集」を貸与;京伝はそれを元に「茂睡考」著)、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[藤波の散りしく岸に咲きいでて色もへだてぬかきつばたかな](大江戸倭歌;春335)
- N1859 謙一(げんいち・雨森あめのもり) 1759-1828 70 安房の国学者;塙保己一門  
謙一(げんいち・西河) → 梅庵(ばいあん・西河にしかわ、藩士/儒/詩) 3 6 5 1
- H1870 源一(げんいち/もとかず・片桐かたざり、源栄男) 1789-1855 67 信濃伊那郡歌人;父門/桃沢夢宅/香川景樹門、  
1828家督;伊那郡山吹領主座光寺家の家老、信州歌壇の中心、「岐蘇紀行」「詠梅百首」、  
「瓦岳集」「春齋八勝和歌」「西遊紀行」「春齋八勝詩集」「秋興百絶」「弓馬余興」「出月」著、  
[源一(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;左太郎、別名;為一/巳任/基栄/任順/貞晨、  
通称;兵右衛門/阮一郎/源一郎、  
号;春齋/春廼屋/延年亭/遅吟/一和/西巒(せいらん/巒樵らんしょう/弄山亭ろうざんてい/棟栄ていえい、  
妻;桃沢匡安(夢宅の孫)女りの、春一(はるいち/はるかず)の父
- H1871 元一(げんいち・今井いまい) ? - ? 江戸後期和算家、武田真元門、  
「座摩大神宮掲算題術解」著  
元一(げんいち・佐野) → 琴嶺(きんれい・佐野さの、藩士/漢学者) I 1 6 4 1  
元一(げんいち・大竹/武藤) → 元一(もとかず・大竹/藤原/武藤、藩士/歌) J 4 4 5 4  
源一(げんいち・岡野) → 七才子(しちさい・岡野、医/浄瑠璃作者) E 2 1 5 3  
源一(げんいち・小島) → 蕉園(しょうえん・小島こじま、医者) F 2 2 5 2  
謙一郎(げんいちろう・俣野) → 景明(かげあき・俣野またの、藩士/蘭学) K 1 5 6 8  
建一郎(げんいちろう・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3
- H1866 源一郎(げんいちろう・福地ふくち/名村、名;万世、福地苟庵男) 1841-1906 66 幕末期肥前長崎の医家の生、  
1856蘭学;阿蘭陀通詞名村八右衛門門;名村家の養子/離縁され福地に復姓、  
1858矢田堀景蔵に随い江戸;幕臣水野忠徳の食客/儒;安積良斎門/英学;中浜万二郎門、  
1859幕臣の外国奉行支配通弁御用御雇;翻訳に従事/1861・65二度幕府使節に随い渡欧、  
帰国後士分/1868「江湖新聞」を発行;罰、知識を買われ大蔵省出仕/74以後新聞人、  
1867「那破倫兵法」訳/「仕途日記」「幕府衰亡論」「懐往事談」「幕末政治家」外著多数  
[源一郎(;通称)の字/別通称/号]字;尚甫、初通称;八十吉、  
号;桜痴/夢の舎主人/星泓(せいおう/吾曹、法号;温良院  
元一郎(げんいちろう・毛利) → 勝則(かつり・永井、藩士/日記) N 1 5 7 7  
元一郎(げんいちろう・原田) → 蘇堂(そどう・原田はらだ、藩儒者) K 2 5 2 2  
源一郎(阮一郎げんいちろう・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたざり、歌人) H 1 8 7 0  
源一郎(げんいちろう・仁井田) → 雉岡(ちこう・仁井田にだ、藩士/儒者) E 2 8 1 6  
源一郎(げんいちろう・木沢) → 天童(てんどう・木沢きざわ、藩儒) E 3 0 0 9  
源一郎(げんいちろう・田中) → 重好(しげよし・田中たなか、郷学;教育) T 2 1 1 5  
源一郎(げんいちろう・岡) → 吉胤(よしたね・岡おか、藩士/国学者) E 4 7 3 9  
源一郎(げんいちろう・長谷川) → 正直(まさなお・長谷川、旗本/能登守/歌) M 4 0 7 9  
源一郎(げんいちろう・伊舟木) → 致美(むねよし・伊舟木いばらき、藩士/国学) D 4 2 6 4  
源一郎(げんいちろう・落合) → 直亮(なおあき・落合おちあい、勤王/神職) 3 2 6 2  
彦一郎(げんいちろう・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7  
彦一郎(げんいちろう・萩野) → 信竜(しんりゅう・萩野/平/孔平、藩士/儒者) Q 2 2 0 8
- H1872 玄乙(げんいつ;法諱) ? - 1676 伊勢長屋村長徳庵住僧、詩歌、「旧事記聞」著
- H1873 元逸(げんいつ;法諱・悦堂;道号、柳川永氏男) 1661-1727 67 筑後黄檗僧;1672鉄文道智門/出家、  
万福寺2世木庵門/1691柳川福巖寺3世;正法寺開創、「悦堂禅師語録」著
- H1874 元逸(げんいつ・鶴田つるた、名;沖/号;九臯) ?-? 江中期医者;吉益東洞門、1749「林塾明月篇」編、  
1759「医断」編、「医断評」「方機医断」著  
元逸(げんいつ小杉/尾台) → 榕堂(ようどう・尾台おだい/小杉、医者) B 4 7 5 1  
玄逸(げんいつ・真辺) → 懶斎(らんさい・藤井) 4 8 0 9  
玄逸(げんいつ・藤井/真辺) → 懶斎(蘭斎らんさい・藤井ふじい、医/儒者) 4 8 0 8

- 玄逸(げんいつ・黒川) → 道祐(どうゆう・黒川、医/儒者/地誌家) 3 1 2 6  
 玄逸(げんいつ・堀内) → 元鑑(げんがい・堀内ほりうち、医者/文章家) I 1 8 1 6  
 玄乙(げんいつ・虎岩) → 道説(どうせつ・虎岩とらいわ、医者) G 3 1 0 7  
 原老(げんいつ・岡野) → 明德(めいとく・岡野/岡埜おかの、医者) 4 3 3 1
- H1875 賢印(けんいん;法諱) ? - ? 801存 奈良平安初期伊勢桑名の多度神宮寺の鎮修業僧、  
 801「神宮寺伽藍縁起並資財帳」(法教と共著)
- 兼員(けんいん・今井) → 宗久(そうきゅう・今井、商家納屋衆/茶人) B 2 5 0 1  
 建尹(けんいん・伴) → 健尹(たけただ・伴ぼん、藩士/儒者) O 2 6 4 2  
 建胤(けんいん・上原) → 建胤(たけたね・上原うえはら、国学者/歌) O 2 6 4 4  
 顕允(けんいん・中川) → 顕允(あきすけ・中川、藩士) D 1 0 4 5  
 顕允(けんいん・小野) → 顕允(あきのぶ・小野おの、国学者) H 1 0 1 7  
 顕允(けんいん→あきちか・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1  
 顕胤(けんいん・可部) → 赤邇(あかに・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0  
 憲蔭(けんいん・山本) → 憲蔭(のりかげ・山本、神職/神道家) E 3 5 3 4
- H1876 玄殷(げんいん;法諱) 1435 - ? 1472存 播磨明石no天台宗慶妙寺僧、1472「仏眼略私記」著
- B1827 元賛(げんいん/げんびん・陳ちん、名;珣きょう) 1587-1671<sup>85</sup> 明の浙江虎林の儒者/1619鳳翔に随従し渡来、  
 長州萩・尾張名古屋住、詩・書・医薬・菓子・製陶(元賛焼)・拳法(起倒流)に通ず、元政と親交、  
 「既白山人集」、1663元政と「元元唱和集」、「虎林詩文集」「昇菴詩話」「尾州名勝詩」著、  
 [元賛の字/別号]字;義都/士昇/士升、別号;・既白山人/升庵/芝山/菊秀軒/玄香齋、  
 九十軒/碧雲軒/東瀛/虎魄/瀛壺逸史/逸叟/猗々居/仰松軒
- 元胤(げんいん・多紀) → 元胤(もつぐ・多紀/丹波、幕臣/医者/詩) D 4 4 0 8  
 元尹(げんいん・伴) → 健尹(たけただ・伴ぼん、藩士/儒者) O 2 6 4 2  
 元允(げんいん→もたとだ・中山) → 弦斎(げんさい・中山なかやま、歌人/連歌) N 1 8 8 6  
 元寅(げんいん・原) → 元寅(もとのぶ・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1  
 玄允(げんいん・嶺川) → 三折(さんせつ・嶺川みねかわ/嶺、本草家) M 2 0 5 2  
 幻飲(げんいん;字) → 純固(じゅんこ;法諱・幻飲、浄土西山派僧) J 2 1 5 3  
 言因(げんいん・榎並/永田) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、商家/狂歌) 3 0 0 9  
 言員(げんいん・小野) → 言員(ことかず/のぶかず・小野) D 1 9 4 4  
 源允(げんいん・山宮) → 雪楼(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、儒者) E 2 4 7 1
- H1877 彦胤法親王(げんいんほっしんのう、後柏原天皇皇子) 1509-40<sup>32</sup> 母;庭田雅行女源子(行子)、梶井門跡、  
 1520(永正17)親王宣下、1539「筑後国高良法樂三十首」参加
- D1881 玄宇(げんう・岡) ? - ? 江中期儒者/詩人、田中蘭陵[1699-1734]の友人、  
 蘭陵の詩文を保存:1742「蘭陵遺稿」(蘭阜編)となる
- 源卯(げんう・三浦) → 迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
 弦羽(げんう・阪本) → 弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学) J 1 8 2 8  
 幻吁(げんう;号) → 大顔(だいてん;道号・梵千;法諱、臨濟僧) K 2 6 7 2
- H1878 賢運(けんうん;法諱) ? - ? 戦国期1469-87頃天台叡山飯室谷房住僧、  
 「闇嚙集」補填
- 乾運(けんうん・太田) → 元之(もとゆき・太田おた、藩士/国学者) J 4 4 5 7
- H1879 源運(げんうん;法諱・号;三密房、藤原輔明男) 1112-1180<sup>69</sup> 京の真言僧、  
 1136醍醐寺聖賢より伝法灌頂を受、金剛王院2世/1178権大僧都、  
 「三部抄」「肝心鈔」「三五要集」「没駄鈔」「諸尊秘事口伝集」著、  
 [源運の通称] 撰津僧都/金剛王院僧都、源運の付法の門弟;守覚・雅西ら36人
- H1880 玄雲(げんうん;法諱、妙智房) 1263-? 1340存 天台僧/山城大原の声明家、経淵・義暁より相伝、  
 照源・良明に伝授、1313「声塵要次第」著、17「諦聴抄」に加点
- D1882 元運(げんうん) ? - ? 比叡山天台学僧/歌人、1536実隆「再昌草」入
- 幻雲(げんうん;号) → 寿桂(じゅけい;法諱・月舟、臨濟僧/五山文学) I 2 1 6 3  
 原雲溪(げんうんけい) → 雲溪(うんけい・笠原、儒者) B 1 2 1 0
- B1813 顯恵(けんえ・法印、葉室顕頼男)?-1175 東大寺別当/権大僧都、九条兼実日記「玉葉」入、光頼の弟
- H1881 堅慧(けんえ・けんね;法諱、称;土心水師)?-? 平安前期真言僧:南都で三論・法相修学/室生山に住、

空海に随従し入唐/帰国後;東大寺住/834-9頃室生仏隆寺創建、860律師、  
862伝灯修業賢大法師位、872「仏隆寺三綱記」73「室生山仏隆寺鐘銘」著、  
「大唐国日本附法血脈図記」著

- 01811 **賢恵**(けんえ;法諱、) ? - ? 南北室町期;僧/法師、歌人;1400菊葉集3首入、  
[六十番歌合:松雪、  
はらひつる梢の嵐しづまれば跡よりつもる松の白雪](菊葉;冬903)  
☆[賢俊僧正日記]の1346(貞和2)法楽寺での兼好歓待の[賢恵法印]とは別人?
- H1882 **顕慧**(けんえ;法諱・慈空;法号)?-? 江中期1688-1736頃浄土宗西山派学僧:1701熱田正覚寺23世、  
1703美濃立政寺住職、唯識・具舎学精通、1696「具舎論略釈記補註」編、  
1707「起信論義記幻虎録辨偽」09「破邪決」、「選択集略疏」「仏制比丘六物図講録」著  
顕恵(けんえ;法名) → 伊平(これひら・鷹司たかつかき、廷臣/歌人) E 1 9 4 7  
兼恵(けんえ・猪苗代) → 兼恵(けんけい・猪苗代いなしろ、連歌師) B 1 8 6 4
- B1828 **源恵**(げんえ;法諱、号;大御堂、將軍藤原頼経男)?-1307 鎌倉期天台僧;尊豪門;伝法灌頂を受、  
1292天台座主、法印・大僧正、歌:荏柄社十首歌主催、  
勅撰13首;続拾遺(1252)新後撰(4首1009/1225以下)玉葉(4首)続千(2首)風(766)新千(688)、  
[新千載688は流布本は作者源忠]、  
[忍ぶべきものとも知らでし月日ぞ今は昔なりける](続拾遺;雑1252)
- 1808 **玄恵**(玄慧げんえ;法諱)1279-1350?2 叡山天台学僧/法印権大僧都/1319花山院論語談義参加、  
1324「宗論」/「詩人玉屑」に加点、36建武式目編纂に関与、1343内裏五四番詩歌合:詩入、  
1349二条良基邸御会参加/49新院御方礼記御談義参加、宋学の碩儒、良基「連理秘抄」小序、  
足利直義ただしの命で「太平記」修改訂、1347「奥州後三年記」著、  
「庭訓往来」「異制庭訓往来」「喫茶往来」「遊学往来」「聖徳太子憲法」著、  
菟玖波集3句入、勅撰作者部類の続千載1871(新編国歌大観1869)玄恵は玄忠の誤記、  
[まだ咲かぬ花の若木を植ゑ置て](菟;129/前句;いのちを頼むあらまはせじ)  
[玄恵の号] 洗心子/独清軒/健軒/健叟法師  
源慧(げんえ;法諱) → 岳輅(がくろ;号、真宗僧/俳人) B 1 5 8 0
- H1883 **顕英**(けんえい) ? - ? 僧、連歌:1356成立「菟玖波集」3句入
- N1820 **賢栄**(けんえい;法諱) ? - ? 戦国期1504-55頃天台僧;美濃安八郡善学院住、  
什信門;相伝を受、1517「被接義案立一生破無明」著
- N1821 **賢永**(けんえい;法諱) ? - ? 戦国期1521-55頃天台僧;下野結城千妙寺正行房住、  
「不動明王口決」著
- B1830 **賢盈**(けんえい/かたみつ・松井まつい、通称源左衛門)?-? 江中期京烏丸通松原下ルの書肆:鱗形うろがた屋、  
雑俳集編纂、1729「きさかた」編(象きさ/ぞうが献上されたのに因む詩・俳)、1729「銀要ざんかなめ」編、  
1729雑俳集「蘆分船」「十八公」編、「花紋日はなもんび」(;東武杖人の筆名)編、「俳諧繡」著、  
[賢盈の別号] 蓬萊軒、東武杖人とうぶじょうじん
- H1884 **憲栄**(けんえい;法諱・字;泰巖たいがん/廬雲ろうん)1711-63?53 摂津小曾根の真宗本願寺派僧;常光寺住職、  
天満三光寺了諦門/兄教遵と諸方遊学、宗乗;月筌門/文;富日休門、1753本願寺法主に近侍、  
1754秘事法門の宗論に相手を糾弾/61副講/63侍講;本山蔵の典籍の和語関係選録中に没、  
「真宗紫朱辨」「真宗紫朱辨続編」「阿弥陀経佩觸はいけい記」「菽麦私記」、「真宗法要」外著多数、  
顕英(けんえい/あきひで?・田所) → 八悟(はちご・田所たどころ/田、俳人) E 3 6 8 4  
顕栄(けんえい・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8  
兼英(けんえい・岩永/太田/太) → 玄浩(元浩げんこう・岩永、医者/博物) I 1 8 8 0  
兼栄(けんえい・日野西) → 資敬(すけたか・日野西/藤原、廷臣/神道) G 2 3 3 5  
賢栄(けんえい;法諱) → 宥快(ゆうかい;法諱、真言僧/南山流大成) 4 6 9 6  
黔羸(けんえい) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0
- H1885 **玄叡**(げんえい;法諱) ? - 840 平安前期大和和西大寺三論学僧;安澄門/空論を修学、  
827律師/薬師仏像慶讃/830「大乘三論大義鈔」を淳和天皇に呈す
- H1886 **源栄**(げんえい;法諱・法名:星蓮社暁誉)1553?-1618/33?66/81 江戸浄土僧;増上寺源誉存応門、  
三河岡崎大樹寺住職/相模玉縄貞崇寺・座間宗仲寺を開く、家康に寵愛された、  
「暁誉源栄覚書」「秘密記」/1631刊「縁山秘録」著

- B1829 **源栄**(げんえい/もとひで・片桐かたぎり、名;為精ためよし/禎壮/寿栄、為清男)1766-1856<sup>91</sup> 信州伊那郡の歌人、家督;伊那山吹領主座光寺家の家老、1786上京/詩歌:澄月門、桃沢夢宅より古今伝授を受、伊那谷歌学の振興に尽力、「源栄家集」「源栄見聞記」/1794「卯月紀行」、「垂雲拾遺」編、「萩の露」「されうた」「萩蘆」「塵つか」「源栄日記」著、源一・下平きさの父、小林寿賀すが(下平きさ女)の祖父、[源栄(;)の幼名/通称/別号]幼名;八次郎/弁蔵、通称;五郎兵衛、別号;栄/萩のや/春斎、法号;温恭院
- N1852 **元英**(げんえい・もとひで?・林はやし)?- ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[たぶさには汚けがさで幣ぬきの紅葉のあかき心は神や知るらむ]、(大江戸倭歌;秋993/社頭紅葉)
- 元永(元栄げんえい・寺西)→ 元永(元栄もとなが・寺西、幕臣/国学) D 4 4 5 5  
 元永(げんえい・益) → 元永(もとなが・益ます/二本杉、神職/国学) L 4 4 3 3  
 元英(げんえい;法諱・特芳)→ 特芳(とくほう;道号・元英、黄檗僧) L 3 1 3 7  
 元英(げんえい・鉄舟) → 鉄舟(てつしゅう;道号・元英、曹洞/黄檗僧) C 3 0 3 9  
 元英(げんえい・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9  
 元英(げんえい・中嶋) → 元英(もとひで・中嶋なかじま、幕臣/与力) E 4 4 0 2  
 元英(げんえい・桂川) → 国華(くにてる・桂川/2世、幕府医師) C 1 7 9 3  
 玄英(げんえい・横浜) → 善左衛門(ぜんざえもん・横浜、藩士) M 2 4 3 4  
 玄英(げんえい・相沢) → 元(おけら・相沢あいざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7  
 玄栄(げんえい・羽生) → 凌雲(りょううん・羽生はにゅう、医者) G 4 9 3 9  
 源英(げんえい;法名) → 頼重(よりしげ・松平、藩主/茶・歌人) I 4 7 7 3  
 彦衛(げんえい・吉田) → 秀元(ひでもと・吉田、藩士/藩主系譜) D 3 7 9 9  
 謙映院(けんえいいん・堀田)→ 幾千女(きちよ・堀田ほった/松平、歌・書) V 1 6 1 6
- 1809 **健易**(けんえき;法諱・東漸とうぜん;道号、号;潜室、俗姓;藤原)1344-1423<sup>80</sup> 遠州の臨濟僧;7歳で寿福寺の華峰僧一門;出家、のち建長寺石室善攻・南禅寺義堂周信門、撰津広厳寺住/華峰の法嗣/山城安国寺・東福寺など歴住/1410(応永17)南禅寺73世、1411退院/京東山の常在光院に隠棲、詩文に長ず、「百丈清規抄」「叢林拾遺略清規」著、「東漸和尚法語集」「一華東漸和尚語録」「一華東漸和尚竜石藁」著
- 謙益(けんえき・長谷川) → 古道(ふるみち・小野おの、医者/歌人) E 3 8 6 9  
 謙益(けんえき・増田) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2  
 謙益(けんえき・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、藩士/国史・歌) B 3 7 2 1  
 謙益(けんえき・村上) → 冬嶺(とうれい・村上むらかみ、医者/詩人) I 3 1 4 4  
 兼益(けんえき・東儀/太秦)→ 兼頼(かねより・東儀とうぎ、楽人) P 1 5 1 2  
 見益(けんえき・土井) → 雛丸(ひなまる・初世三日坊、医者/狂歌) E 3 7 2 9  
 元益(げんえき・江馬) → 藤渠(とうきよ・江馬、医者/本草) C 3 1 7 4  
 玄益(げんえき・馬屋原、医者)→ 野橋(やきつ・東西軒、俳人) 4 5 4 3  
 玄益(げんえき;字) → 日演(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 6  
 玄益(げんえき・芳賀) → 一晶(いっしょう・芳賀はが、医/俳人) B 1 1 5 0  
 玄益(げんえき・衣関) → 順庵(じゅんあん・衣関きぬどめ、医者;眼科) M 2 1 1 2  
 元易(げんえき・南里) → 有隣(ありちか・南里なんり、藩士/国学者) F 1 0 4 2
- H1887 **玄悦**(げんえつ・賀川かがわ、別名;光森、三浦長富男)1700-77<sup>78</sup> 母方賀川家を嗣/彦根の鍼灸按摩医、京で古医方修得/40余歳より産科を研究/1768阿波徳島藩医官、「賀川家秘譚」「賀川産論」、「賀川玄悦産室抄」「産科図説」「産科辯論」「子玄子産論」「婦人産前後腹診手術」外著多数、[玄悦の字/諡号]字;子玄、諡号;景定先生
- N1858 **玄悦**(げんえつ・赤川かがわ、通称;恒蔵)1808-1890<sup>83</sup> 長門萩藩侍医/歌人、1849(嘉永2)青木周弼・久坂玄機らと種痘を実施/藩内の普及に尽力、忠郷たださとの父
- 玄悦(2世げんえつ・賀川) → 玄迪(げんてき・賀川かがわ/岡本、産科医) L 1 8 6 2  
 玄悦(げんえつ・滝) → 高渠(こうきよ・滝たき/河野、藩士/儒者) I 1 9 2 9  
 玄悦(げんえつ・八木) → 称平(しょうへい・八木やぎ、藩医/教育) L 2 2 5 4

- 玄悦(げんえつ・酒井) → 利亮(とししげ・酒井さかい、医者/歌人) V 3 1 3 4  
元悦(げんえつ・中莖) → 暘谷(ようこく・中莖なかぐき/莖、医/国学) 4 7 8 6  
権右衛門(げんえもん) すべて→ 権右衛門(ごんえもん)  
儂右衛門(げんえもん・桜井)→ 武雄(たけお・桜井けさくらい、藩士/国学者) X 2 6 1 9  
H1888 源右衛門(げんえもん・茂久もく、名;景久)?-? 江戸期江戸の越後流軍学者、一生浪人暮らし、「城取伝切紙」著  
H1889 源右衛門(げんえもん・山県やまがた、名;長茂)?- ? 1644存 安藝新庄城主吉川元春の家臣、1580吉川経家の下で鳥取籠城/81開城生還/周防岩国藩主吉川広家に出仕、「鳥取記」著  
H1890 源右衛門(げんえもん・石橋いしばし、麟男)?-1652処刑 備中福山藩士、1651由井正雪・丸橋忠弥に加担、1652発覚し処刑、「源平盛衰記評判」著  
H1891 源右衛門(げんえもん・今村いまむら、名;明生、市兵衛[英生]男) 1719-7355 長崎阿蘭陀通詞/1742大通詞、1747御用方兼大通詞目附上席、年番通詞/江戸番通詞、「阿蘭陀暦和解」著、[源右衛門(;通称)の幼名/字]幼名;正之助、字;起鳳  
H1892 源右衛門(げんえもん・西巻にしまき)?- ? 江戸期越後柏崎の醤油醸造業、「御客帆印」著  
H1893 源右衛門(げんえもん・菅原すがわら、号;鳳水) 1798-187376 羽後樽川の農業/和算;飯塚寛蔵門、測量術、子弟教育、「算法積鎖術」「算法略問答起源」「一步一段両説」「元治甲子流星俚弁」著  
N1883 源右衛門(げんえもん・館たち、) 1827-187246 越後蒲原郡巻村の商家、歌人;柳下やなぎした清老きよとし門、歌;京の千種有功ありこと門、戊辰戦争時に巻村で幕府側東北兵搜索の新政府軍に應對、1869(明治2)三根山藩主の信濃移封停止に尽力  
元右衛門(げんえもん・平松/高橋)→ 残夢(ざんむ・高橋、国学/歌学) 2 0 5 7  
元右衛門(げんえもん・小島)→ 広林(ひろしげ・小島/小畑、藩士/記録) F 3 7 9 9  
源右衛門(げんえもん・今木)→ 一政(かずまさ・浅井、藩士/軍記作者) M 1 5 4 8  
源右衛門(げんえもん・天野)→ 貞成(さだしげ・天野/安田、武将/記録) I 2 0 2 1  
源右衛門(げんえもん・浅井)→ 政右(まさすけ・浅井、一政男/藩士/歌) C 4 0 8 8  
源右衛門(げんえもん・津田)→ 重以(しげもち・津田つだ、藩士/武将) S 2 1 9 1  
源右衛門(げんえもん・山本)→ 基庸(もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7  
源右衛門(げんえもん・田屋)→ 不見(ふけん・横井よこい、商家/茶道) B 3 8 7 5  
源右衛門(げんえもん・堀田)→ 通右(みちすけ・堀田ほった、幕臣/歌人) K 4 1 1 0  
源右衛門(げんえもん・山岡)→ 景熙(かげひろ・山岡やまおか、幕臣/歌人) W 1 5 0 8  
源右衛門(げんえもん・山岡)→ 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6  
源右衛門(げんえもん・田谷)→ 信理(のぶまさ・田谷たや、歌人) G 3 5 6 1  
源右衛門(げんえもん・児玉)→ 重辰(じゅうしん・児玉こだま、商家/俳人) 2 1 4 5  
源右衛門(げんえもん・中馬)→ 諸香(もろか・中馬ちゅうま、藩士/歌人) K 4 4 5 1  
源右衛門(げんえもん・島田)→ 尚政(なおまさ・島田、和算家) C 3 2 4 0  
源右衛門(げんえもん・村尾)→ 嘉陵(かりよう・村尾、幕臣/紀行文) P 1 5 7 3  
源右衛門(げんえもん・伊藤)→ 一蓑(いっさ・伊藤、武将/記録) H 1 1 1 0  
源右衛門(げんえもん・馬場)→ 一梯(いってい・馬場ばば、儒者/書家) H 1 1 6 6  
源右衛門(げんえもん・蓮沼)→ 景祥(かげよし・蓮沼はすぬま、藩士/学問興隆) L 1 5 4 7  
源右衛門(げんえもん・遠藤)→ 可清(よしきよ・遠藤えんどう、歌・連歌) L 4 7 7 7  
源右衛門(げんえもん・長谷川)→ 元貞(もとさだ・長谷川、国学者/書) C 4 4 5 2  
源右衛門(げんえもん・建部)→ 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4  
源右衛門(げんえもん・千賀)→ 玉斎(ぎよくさい・千賀ちが/賀が、儒者) O 1 6 9 4  
源右衛門(げんえもん・平野)→ 金華(きんか・平野、儒者/詩) 1 6 5 7  
源右衛門(げんえもん・東条)→ 琴台(きんだい・東条とうじょう、儒者) E 1 6 2 4  
源右衛門(げんえもん・西尾)→ 定静(さだやす・西尾/源、藩士/歌人) 2 0 8 4  
源右衛門(げんえもん・岩下)→ 杜厚(とこう・岩下いわした、俳人) L 3 1 6 9  
源右衛門(げんえもん・大和屋)→ 流芝(りゅうし・鈴木すずき、俳人) E 4 9 4 8  
源右衛門(げんえもん・藤井)→ 晋流(しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) 2 2 9 1  
源右衛門(げんえもん・黒田)→ 月洞軒(げつどうけん・黒田、幕臣/狂歌) B 1 8 1 4

源右衛門(げんえもん・窪田)→ 梨溪(りけい・窪田くぼた、藩士/詩人) 4 9 9 1  
 源右衛門(げんえもん・加藤)→ 正利(まさとし・加藤かとう、幕臣/国学者) O 4 0 6 8  
 源右衛門(げんえもん・岡本)→ 貞永(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学) O 2 0 2 0  
 源右衛門(げんえもん・長谷川)→ 猷(ゆう・長谷川はせがわ、藩士/窮理学) 4 6 4 8  
 源右衛門(げんえもん・大竹)→ 信政(のぶまさ・大竹おおたけ、幕臣/歌人) H 3 5 6 9  
 源右衛門(げんえもん・淵)→ 岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者) G 1 9 3 3  
 源右衛門(げんえもん・井口)→ 敬秩(たかつぐ・井口いぐち、藩士/国学) V 2 6 3 7  
 源右衛門(げんえもん・渡辺)→ 岱青(たいせい・渡辺、藩士/俳人) B 2 6 7 5  
 源右衛門(げんえもん・間瀬)→ 潮月(ちようげつ・間瀬ませ、俳人) I 2 8 0 6  
 源右衛門(げんえもん・仙石)→ 釐(おさむ・仙石せんごく、代官/国学者) D 1 4 9 7  
 源右衛門(げんえもん・山崎屋)→ 定雅(さだまさ・中田なかつ/源、国学者) O 2 0 9 5  
 源右衛門(げんえもん・壺井)→ 長泰(ながやす・壺井つばい、幕臣/国学) N 3 2 9 1  
 源右衛門(げんえもん・小西)→ 茂善(しげよし・小西こにし、町役/歌人) O 2 1 3 8  
 源右衛門(げんえもん・谷)→ 孝道(たかみち・谷たに/源、西沢、歌人) Y 2 6 1 3  
 源右衛門尉(げんえもんのじょう・桂)→ 炭丸(炭園きゆうえん・桂、武将/記録) M 1 6 3 1

- 01817 兼円(けんえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;興福寺僧/権律師、1237素俊撰[檜葉集]入、  
 [天治元(1124)一乘院歌合、  
 みかさ山こだかきまつのかげなればおもふ事なきあめのしたかな] (檜葉;神祇505)
- 01818 顕縁(けんえん;法諱、盛方もりかた[1137-78]男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧/法橋/律師、  
 顕時(権中納言)の孫、顕仙・道勇・盛玄の兄、従兄弟に平家物語作者説の行長・時長がいる、  
 叔母に平時忠室(安徳天皇乳母帥典侍)、歌人;1225頃道助法親王催[詠十首和歌]入、  
 檜葉集10首入、  
 [西方院にて歌あまたよみ侍りけるに、  
 なぐさまぬよはのなみだはしぐるれどなほさらしな月ぞさやけき] (檜葉;羈旅650)  
 [なにはがた葦の若葉の浅みどりかねても霞む春の色かな] (詠十首和歌/浦霞)
- H1894 兼円(けんえん;法諱、藤原兼俊男/日野兼郷の養子)?-? 戦国期法相僧;兼暁僧正門、興福寺東院住、  
 1452(享徳元)維摩堅義/講師、西大寺清水寺別当、大僧正、附弟;兼継、政覚・慈禅の師、  
 1490-92「等持寺八講聴聞集」、「東院年中行事記」「維摩会寺分堅義遂業記」「如来為除事」著
- H1895 兼縁(けんえん;法諱、号;蓮悟/慶光坊、兼寿[蓮如]男)1468-1543 76 加賀真宗僧;本宣寺宣祐門、  
 宣祐の法嗣、本宣寺住職/法印権大僧都/加賀崎多坊・中頭坊・清沢坊を創立、  
 1517清沢上人と称す、1531加賀一向一揆で光教[証如]の勘気を買ひ能登へ亡命、  
 1524「蓮如上人遺徳記」編、「蓮如上人御物語次第」「蓮如上人九十箇条」編、  
 「蓮如上人御一代聞書」編
- 見遠(けんえん・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9  
 兼延(けんえん/かねのぶ・日下)→ 氏喜(うじよし・日下くさか、商家/教育) C 1 2 8 3  
 兼延(けんえん・ト部) → 兼延(かねのぶ・ト部うらべ、神職) O 1 5 8 1  
 兼延(けんえん・大家) → かね延(かねのぶ・おほ屋、随筆家) C 1 5 9 5  
 萱園(けんえん・高橋) → 正純(まさずみ・高橋たかはし、商家/歌人) D 4 0 0 7  
 護園(けんえん・荻生) → 徂徠(そらい・荻生、漢学者) 2 5 3 1  
 護園(2世けんえん・荻生) → 金谷(きんこく・荻生、徂徠女婿/儒者) D 1 6 9 9  
 護園(けんえん・荻生) → 惟則(これのり・いそく・荻生・読本作者) G 1 9 0 3
- B1831 源縁(げんえん;法諱、号;越後君、藤原邦任男)?-? 1082存 天台叡山僧?/歌人、  
 1072「通宗気多宮歌合」参加、76/82「経仲歌合」参加、  
 勅撰5首;後拾遺(112/116/279)金葉(169/464)、  
 [山ざくら白雲しらくもにのみまがへばや春の心のそらになるらん] (後拾;春112、  
 延久4[1072]年藤原通宗朝臣能登守のとき能登国にて気多宮歌合催に詠む)
- 01823 源円(げんえん;法諱、東大寺別当弁覚男)?-? 平安鎌倉期;比叡山天台僧/法師、  
 興福寺別当範円(1155-?)の兄?、範円に誘われ南都の歌会に参加?/1237刊[檜葉集]2首入、  
 [ありあけの月にもひとりねられけり身はならはしのとこのさむしろ] (檜葉;恋411)
- H1896 玄縁(げんえん、高階たかしな、宗章男)1113-1180 68 興福寺別当・権僧正(号;中院なかのいんの僧正)、歌人、

山槐記・玉葉に記事入、数度の歌合催/百五十番歌合;俊成の判を請う(檜葉集329詞書)、1180(治承4)没

B1832 **玄円**(げんえん;法諱、世尊寺定成男)?-? 80歳存 鎌倉南北期天台僧;権僧正/叡山大僧正に至る、1322「密三部経論義目六」編、歌;1350「為世十三回忌和歌」参加(法印名)、勅撰6首;新千載(729/910/1069)新拾遺(881)新続古(840/1927)  
[はかなくも八十やそちにむかふ年の暮歎くべき身に何いそぐらん](新千;冬729)

N1822 **源円**(げんえん;法諱) ? - ? 真言僧;醍醐寺住/法印、「灌頂式伝授口決」著

H1897 **玄淵**(げんえん;法名・曲直瀬まなせ/今大路、曲直瀬玄鎮[親昌]男/本姓橘)1636-86.51 医;父門、1639(4歳)家督(1200石)/相国寺で勤学、幕府医官/1651典薬頭/兵部大輔/従五下、1657剃髪/法印、母;加々爪忠澄女、「一壺集」「時斎文集」「玄淵雜記」「医戒」「医淵」、「海扇志」「魚目明珠」「溝断六策」「掌珠方」「諸貝譜」「推脈伝」「道三家記」「養生訓」外著多数、  
[玄淵の幼名/名/通称/号]幼名;大刀之助、名;親俊、通称:道三、号;延寿院、今大路親頭ちかあきの父

E1882 **儼淵**(げんえん・津軽つがる、名;貞正/緝熙、多膳貞栄男)1773-1828.56 弘前藩士/儒;昌平黌出、1784藩主信明の側詰/94藩校稽古館惣司;藩校開校に尽力/97城代格家老手伝、1798家老職;99蟄居1809赦免;復職ならず没、「周易略説」著、  
[儼淵(;号)の幼名/字/通称]幼名;左多吉/貞吉、字;健斎/子壮/子莊/敬躋けいさい、通称;永孚/中書/式部

H1898 **元琰**(げんえん・多紀たき、幼名;銓之助、元堅もとかた男)1824-76.53 医;父門/父を継嗣;幕臣奥医師、法印、医学督事を兼任、「読書雜録」著、  
[元琰の通称/号]通称;安琢、号;雲従/養春院

元淵(げんえん・向井)	→	去来(きよらい・向井、俳人)	1 6 5 4
原淵(げんえん・安藤)	→	適斎(てきさい・安藤、儒/医者)	B 3 0 9 2
玄淵(げんえん・田代)	→	三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学)	L 2 0 9 5
玄淵(げんえん;法諱)	→	此山(しざん;道号・玄淵;法諱、臨濟僧)	T 2 1 5 6
玄縁(げんえん;初法諱)	→	別宗(べっしゅう;道号・祖縁;法諱、臨濟僧)	2 7 9 8
言延(げんえん・高橋)	→	言延(ことぶ・高橋たかはし、神職/記録)	N 1 9 3 1
言淵(げんえん・堤)	→	義府(よしもと・堤つみ、医者/歌人)	N 4 7 9 4
幻園(げんえん;号)	→	大乘(だいじょう;法諱・慧運;字、真宗僧)	K 2 6 3 6
元琰(げんえん・清田)	→	儋叟(たんそう・清田せいた/きよた、儒者/詩)	I 2 6 4 9
彦遠(げんえん・小谷/久野)	→	鳳湫(ほうしゅう・久野/;藤原/藤、儒者)	B 3 9 3 8
建王(けんおう)	→	建王(たけるのみこ、天智天皇皇子)	E 2 6 5 5
見翁(けんおう;号)	→	竜岡(りゅうがい;法諱、浄土宗西山派僧)	D 4 9 5 1
憲応(けんおう;字)	→	日応(にちおう;法諱、日蓮僧)	3 3 8 7
謙翁(けんおう・松平)	→	乗全(のりやす・松平、藩主/老中、詩歌)	G 3 5 0 7
健翁(けんおう・野村)	→	立栄(たてえい・初世りゅうえい・野村/舎人、医者)	C 4 9 8 5
埴翁(けんおう・平川)	→	清古(きよひさ・平川/田中、藩儒/歌)	V 1 6 0 7
鵠翁(けんおう・豊島)	→	露月(ろげつ・豊島とよしま、謡曲/俳人)	B 5 2 3 3

H1899 **兼応**(けんおう) ? - ? 1490存 天台宗叡山学僧、1490「護摩見聞」著(;憲春の命)

B1833 **源応**(げんおう) ? - ? 連歌師、1564景恵催「石山千句」入

玄黄(げんおう/げんこう・服部)	→	範忠(のりただ・服部はっとり、医者/本草学)	G 3 5 4 1
玄翁(げんおう;号)	→	周道(しゅうどう;法諱、本願寺派僧/書家)	Y 2 1 1 1
玄翁(げんおう・名倉)	→	太老(たいろう・鈴木すずき、俳人)	C 2 6 4 0
玄翁(げんおう・松平)	→	四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人)	D 2 1 7 9
元翁(げんおう・本元)	→	元翁(げんのう;道号・本元、臨濟僧)	M 1 8 1 1
巖桜(げんおう・鹿島)	→	則孝(のりたか・鹿島、神職/歌人)	E 3 5 8 6
啐啄斎(けんおうさい)	→	宗左(5世そうさ・千せん、茶人)	K 2 5 7 1
賢翁禅竹(けんおうぜんちく)	→	禅竹(ぜんちく・金春こんぼる、能役作者)	2 4 3 4
源翁宗本(げんおうそうほん;法号)	→	盛親(もりちか・長宗[曾]我部、武将/城主)	F 4 4 7 1

- 玄黄洞主(げんおう→げんこうどうしゅ)→真幸(まさき・樋口ひぐち、藩士/漢学) S 4 0 0 7  
 顕応房(けんおうぼう) → 日教(にっきょう;法諱・本是院、日蓮僧) D 3 3 8 1  
 玄乙(げんおつ→げんいつ) → 玄乙(げんいつ;法諱、僧/詩歌) H 1 8 7 2  
 玄乙(げんおつ・虎岩) → 道説(どうせつ・虎岩とらいわ、医者/侍医) G 3 1 0 7
- N1893 顕遠(けんおん;法諱・三陰みかげ、顕成けんじょう男) 1827-1907<sup>81</sup> 大和葛下郡神楽村の真宗照光寺住僧、  
 国学・歌;父(照光寺住職)門、冬野智乗ちじょう(葛上郡正福寺僧)の師、  
 [顕遠の号] 唯然/静園
- 元温(げんおん・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9  
 元温(げんおん・森) → 元温(もとほる・森もり/志貴、神職/尊攘) L 4 4 7 1  
 玄音房(げんおんぼう) → 道瑜(どうゆ;法諱・玄音房、根来真言僧) H 3 1 5 8  
 兼遐(けんか/かねとお・一条) → 昭良(あきよし・一条、廷臣/歌/連歌) E 1 0 0 6  
 兼夏(けんか・卜部) → 兼夏(かねなつ卜部うらべ、神職/古典書写) O 1 5 7 9  
 兼葭(けんか) → 慈音尼(じおんに・尼僧、心学者) B 2 1 2 9  
 劔華(けんか・森) → 夏水(なつみ・森もり、藩絵師/国学/神職) E 3 2 9 5  
 賢家/堅家(けんか・上原/物部/神) → 賢家(けんかたいえ・上原、武将/歌) C 1 5 3 0
- I1801 賢雅(けんが;法諱) ? - ? 室町期僧;権大僧都、歌人;1439成立「新続古今集」1334  
 [思ひあまりまたと頼めし言のはやくれまつほどの命ならまし](新続古;十四恋1334)
- B1836 兼賀(けんが;釈) ? - ? 戦国期の僧;権少都、  
 歌人;1503-5?「武家歌合」参加、  
 [みだるめり霞の袖のすり衣しのぶが原の春の嵐に](武家歌合;三番右)
- I1802 賢賀(けんが;法諱、持明院基輔男/本姓藤原) 1684-1769<sup>86</sup> 真言僧;1693(10歳)観智院杲快門/出家、  
 1720四国霊場巡礼/高野山修業/36勸修寺浄土院住寺/東寺観智院13世/41僧正、  
 観智院金剛蔵の古書修復、1733「大悉曇随手」/34「悉字悉曇章」「悉曇字記大観抄」、  
 「講方一重集」「般若心経秘鍵打集」著
- 兼雅(けんが・源) → 兼雅(かねまさ・源、歌人) F 1 5 7 4  
 兼雅(けんが・花山院) → 兼雅(かねまさ・花山院かざんいん、左大臣) H 1 5 0 4  
 乾雅(けんが・居初) → 乾峰(3世けんぼう・居初いそめ、俳人) D 1 8 0 8  
 懸河(けんが・富永) → 惟安(これやす・富永とみなが、儒者) G 1 9 1 2
- B1835 元可(げんか;法諱、俗名;薬師寺次郎左衛門尉公義きんよし) 1310?-1381?<sup>70</sup>余 高師直こうのもろなおの家人、  
 1351師直への諫言が容れられず出家;高野山入、歌人;家集「元可法師集」、「詠三百首和歌」、  
 「佚名撰集」、1377近衛道嗣「三福寺当座千首」外各種歌合参/当時地下歌仙(1377愚管記)、  
 勅撰6首;新千載(1376)新後拾(561/774/990/1327)新続古今(876)、  
 [いつはりのことのはごとにおけばこそ涙の露も玉と見ゆらめ](新千載;恋1376、  
 前大納言二条為定家に題さぐりて歌詠み侍りし時 寄玉恋)、  
 [元可の出生;3説]橘範隆男(作者部類)/小山貞光男(薬師寺系図)/小山政行男(系図纂要)
- I1803 元華(げんか・内野うち、名;荘、塩お弘通男) 1747-? 内野家継嗣/筑前早良の儒者;亀井南冥門、  
 蘭学修得/農政に関心、蘭学者青木五竜と親交、「済民草書」「独断」/1787「農語」92「策文」著、  
 [元華の別号] 西嶽/桃華洞/大明堂/菊花園/荒津桃花舎
- 元夏(げんか・三統) → 元夏(もとなつ・三統みわねの宿禰、廷臣/詩歌) D 4 4 5 8  
 幻化(幻花げんか・石坂) → 白亥(はくがい・石坂いしざか、俳人) C 3 6 8 6  
 幻華(げんか/げんげ) → 照什(しょうじゅう・南谷、真言僧) J 2 2 5 7  
 幻華(げんか/げんげ;号) → 雲幢(うんどう;法諱、真宗僧) E 1 2 0 3  
 幻華(げんか・高橋) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4  
 巖戈(げんか・常盤井/斉藤) → 巖戈(いしかほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
 玄化(げんか・吉田、俳人) → 甫尺(ほせき・玄化堂2世、書肆) E 3 9 3 7  
 玄可(げんか・竹原) → 惟成(これなり・竹原、藩士/故実家;歌) O 1 9 6 2  
 幻化(幻花げんか・石坂) → 白亥(はくがい・石坂、俳人) C 3 6 8 6  
 彦可(げんか・小篠/二宮) → 献(けん・二宮にのみや、医者) H 1 8 4 6
- N1823 玄賀(げんが;法諱) ? - ? 室町期僧;南禅寺で堂司、1479「南禅寺月中須知」
- I1804 源雅(げんが;法諱、称;水本大僧正、中山宣親男) 1491-1562<sup>72</sup> 真言僧;報恩院賢深門/出家、

- 澄恵門/灌頂を受、報恩院14世、1543東寺長者・法務/大僧正/法印、「四度口伝抄」著、  
「伝授目錄簿双紙読曲」「伝授諸本読曲難字」「簿双紙読曲并難字」「雑記問答」著
- I1805 **元雅**(げんが;法諱) ? - ? 江中期1736-64頃真言僧;無量寿院護持僧、  
1751東寺214世長者、1740「長日勤行」「後七日雜記」、51「無量寿院元雅護持僧宣下記」著  
元雅(げんが・観世) → 元雅(もつまさ・観世かんぜ、観世3代目/能楽) 4 4 2 1
- I1806 **賢海**(けんかい;法諱;字;三位/称;蓮蔵院僧正、藤原俊盛男)1162-123776 真言僧;源運・杲海門、  
金剛王院4世/1232醍醐寺32世座主、三宝院焼失;蓮蔵院退隱/35権僧正、「十日鈔」著
- I1807 **賢海**(けんかい;法諱) ? - ? 1374存 南北期天台園城寺僧:法印権大僧都、  
連歌:1356成立「菟玖波集」1句入(;754権律師賢海名)、  
[後の契りはいのちなりけり](菟;恋754/前句;幾度かこれを限とわかるらん)
- I1808 **憲海**(けんかい;法諱・大願;字;号;林岳/無言蔵)1798-186467 会津若松の真言僧;喜福院で出家、  
悉曇学;長谷寺能満院海如門/河内長栄寺信正から灌頂を受、京六角堂能満院で仏画、  
1864正確な両部曼荼羅の印行途中能満院が火災/蓮光院で失意のうちに没、  
1853「梵学宗要章」59「梵本瑜軌課誦」、「経論譬喩説」「諸説類集記」「大施餓鬼百味供養文」著
- E1823 **研介**(けんかい・岡おか、名;精/字;子究、泰純男)1799-183941 周防熊毛郡平生村の蘭医;中井厚沢門、  
儒;広瀬淡窓・亀井昭陽門/蘭学;吉雄永保・シボルム門、鳴滝塾初代塾長、長英らと同門、  
大坂で開業/岩国藩士;発病帰郷、1823「周礼医師職鈔解」30「生機論」、「天造堂漫筆」著、  
[研介の通称/別号]通称;主計かづえ、別号;周東/恥庵/万松精舎、法号;以信院  
兼海(けんかい・吉田) → 兼海(かぬみ・吉田よしだ、医者/国学/歌) W 1 5 1 5  
狷介(けんかい・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1  
研海(けんかい・高杉) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
- I1809 **乾外**(けんがい;道号・元漢げんかん;法諱)?-? 江中期黄檗僧:1700黙堂道轟門/嗣法、  
「黙堂禅師語録」編
- B1837 **見外**(けんがい・小林こばやし、通称;甚作/甚蔵/円蔵)1705-187369 甲斐猿橋の俳人:護物門、江戸住、  
日本橋住/1846本町住/55深川住、安藝伊勢等行脚、1840「ちふね集」43「栄流野草芽」、  
1843-65「槻弓集」43「しきたへ集」50「新涼集」51「早引発句集」52「護物発句集」編、  
1854「新居小集」62「文久新六百題」編、71自選「見外発句集」、「はつかしふ」著、  
[見外の別号] 菊守園/岐久守/菊の戸/東雲庵/重陽堂/人間世盧
- I1810 **乾外**(けんがい;法諱) ? - ? 江後期;肥後坪井の妙専寺僧、  
1792(寛政4)肥前島原で眉山大噴火を目撃;状況・被害を記録「肥前国高来郡島原大変」著  
兼愷(けんがい・伊集院) → 兼愷(かねやす・伊集院、家老/歌人) P 1 5 0 1  
賢外(けんがい・染川) → 十郎兵衛(じゅうろべゑ・染川、歌舞伎役者) I 2 1 4 5
- I1811 **元海**(げんかい;法諱・松橋大僧都、京極雅俊男)1094-115664 母;高階公俊女、真言僧;醍醐三宝院入、  
定海門/1132醍醐寺座主/34権律師/42醍醐寺円光院別当/53権大僧都/東寺二長者、  
松橋無量寿院創建;松橋流の祖、「玄微鈔」「秘密要集」「如法尊勝記」「厚雙紙」、  
「厚雙紙伝授手鑑」「土公供作法」「灌頂口」「三宝院三重大事」「鈴杵義」著
- D1879 **源海**(げんかい) ? - ? 鎌倉期西大寺流律僧/1253無住道暁に南都寺院へ幹旋
- I1812 **玄海**(げんかい;法諱・字;真乘/真照/信照、俗姓;高志)1267-134781 和泉大鳥郡真言僧:  
高野八傑の1、1283(17歳)釈迦文院幸明門;出家/85宝性院有性より院席譲受、  
三論・法相・天台・華嚴を修学、後醍醐天皇の寵遇を受、大僧都/1336(延元元)法印、  
「八千枚記」「印玄法印記」「賢口抄」「両界師口」著
- I1813 **元届**(げんかい) ? - ? 播磨姫路の俳;1692才磨「椎の葉」入;  
[あぜ豆の葉ばかりになる月夜哉]
- I1814 **源開**(げんかい;法諱・呑海)? - ? 江後期山城曹洞僧:興聖寺靈潭魯竜[1746-1806]門/嗣法、  
「勝源寺語」「靈潭和尚四処録」編  
元晦(げんかい;法諱) → 無隠(むいん;道号・元晦;法諱、臨濟僧) 4 2 0 1  
元回(げんかい;法諱) → 祖春(そしゅん;道号・元回、黄檗僧) J 2 5 8 7  
元開(げんかい;法名) → 三船(御舟みふね・淡海真人、廷臣/漢学) 4 1 3 7  
元海(げんかい・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8  
元海(げんかい・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2

- 彦契(げんかい;法諱) → 密雲(みつうん;道号・彦契、曹洞僧) D 4 1 1 0  
 玄契(げんかい;法諱) → 宜黙(ぎもく;道号・玄契、曹洞僧) M 1 6 1 0  
 玄会(げんかい・井上) → 玄会(はるかぜ・井上いのうえ、国学者) J 3 6 6 2  
 玄澗(げんかい・大同;法諱) → 大同(だいてう・玄澗;号、真宗僧/詩人) K 2 6 8 3  
 玄海(げんかい;字) → 日進(にっしん;法諱・本亮院、日蓮僧) E 3 3 5 4  
 玄海(げんかい;字) → 日通(にっとう・寂遠院、日蓮僧) F 3 3 2 6  
 玄海(げんかい;号) → 蒼山(きざん;法諱・香誉、浄土僧) K 1 6 5 5  
 玄改(げんかい・萩野) → 復堂(ふくどう・萩野/孔平、藩士/医/儒) B 3 8 5 9  
 現海(げんかい;字) → 日現(にちげん;法諱・仏寿院、日蓮僧) B 3 3 6 7  
 源階(げんかい・源) → 順(したごう・源みなもと、廷臣/詩人) 2 1 2 6  
 源海(げんかい;号) → 光信(こうしん;法諱・源海;号、真宗僧) J 1 9 8 7
- I1815 **弦外**(げんがい;道号・智逢ちほう;法諱、俗姓;前島) 1627-1708<sup>82</sup> 江前期江戸臨濟僧;見叟智徹門/出家、師に随従し丹波瑞巖寺住/瑞巖寺中興2世/1695東福寺251世:1702再任、瑞巖寺に退隱、「虎関国師伝」「元亨釈書便蒙」著
- B1839 **元愷**(げんがい/もとやす・平沢ひらさわ、修姓;沢、) 1733-91<sup>59</sup> 山城宇治の儒者;1768江戸の昌平覺入、入退学を繰返し1790破門/一時;蝦夷松前藩出仕、儒;片山北海門/国学・律令;荷田在満門、1774「亜細亜略説」88「国画論」、「漫遊花草」「華陽皮相」「華陽皮相」「登富士山記」外著多数、[元愷(;名)の字/通称/号]字;佛侯/悌侯/弟侯、通称;左門/茂助/五助(五介)、号;旭山きよざん/菟道山樵うじざんしょう
- B1840 **元凱**(げんがい・萩野おぎの/修姓;荻てき、萩野梅軒男) 1737-1806<sup>70</sup> 加賀金沢医者;奥村良筑門、京で研鑽、1794皇子を診察;典薬大允、古方と蘭方の折衷家、1798幕府躋寿館で講義;目黒尚忠と対立、1799朝廷で尚薬/従五下河内守、詩;1774玄圃「友詩」入、「萩野台州医按」「温疫余論」「台州園医談」「台州園記聞」「腹診法」、「腹診論」「腹診口訣」「萩鳩峯病候」「滝口記」「温疫余論」「医案」「医筌」外著多数、[元凱の字/通称/号]字;元原/子元、通称;左仲/在中、号;台州/鳩峯、諡号;温恭先生
- I1816 **元鏗**(げんがい/もとつな・堀内ほりうち、名;玄逸、中村元恒[中俣]男) 1807-29<sup>早世23歳</sup> 信州高遠の生、医;松本藩医堀内玄堂[桂仙]門/玄堂の養子、儒、1829「信濃奇談」編(伊那三女の逸話等)、[元鏗の字/通称/別号]字;魚卿、通称;管太郎、別号;管斎
- 元愷(げんがい・小栗/平) → 鶴阜(かくこう・小栗、儒者/詩) B 1 5 4 7  
 元愷(げんがい) → 百済(ひやくさい・兼康かねやす、医/儒者) E 3 7 4 9  
 元愷(げんがい・黒川) → 惟草(いそう・黒川くろかわ、書家/俳人) B 1 1 0 4  
 元凱(げんがい・横川) → 元凱(もとよし・横川よこかわ、儒者、詩人) E 4 4 7 4  
 見外斎(けんがいさい) → 宗祇(そうぎ・飯尾、連歌師) 2 5 0 6  
 見晦堂(けんかいどう) → 為麿(ためまる・長岡ながおか、神職) S 2 6 8 1  
 言外堂(げんがいどう) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
- B1841 **兼覚**(けんかく;法諱、源みなもと季兼男)?-? 1206<sup>存</sup> 平安鎌倉期天台宗園城寺の僧;1178法橋/87法眼、季広の弟、歌:「一品経和歌懐紙」入集、万代集入、千載2首;535・1145、[いつもかく有明の月のあけがたはものやかなしき須磨の関守](千載;羈旅535)[ならひなばそれもさこそ思へどもなほあはれる秋の初風](万代;秋795)
- I1817 **顕覚**(けんかく;法諱・号;理法房/理峰房/理宝房)?-? 1217<sup>存</sup> 平安鎌倉期真言僧;高野山の心覚門、伝法灌頂受/高野山遍照光院(往生院)住職/覚証院覚印より保寿院流相伝受:金玉方の祖、「金玉」「両界印契並口伝私記」著
- I1818 **顕覚**(けんかく;法諱、俗名;唐橋からはし夏ありなつ、公頼男)?-? 1327<sup>存</sup> 廷臣;従四上式部権大輔、少納言、1327関白九条房実没のため出家/僧、歌人:新千載2251 [亡き人の行方やさても知らるとまことの道に尋ね入るかな](新千載;十九哀傷2251)
- I1819 **兼覚**(けんかく;法諱・沙彌)? - ? 南北期僧/歌人; 1342持明院御歌合(6首)/43五四番詩歌合(3首)参加 [なつみ川山かげよりやこほるらむ流れの末のたえだえに行く](持明院歌合;冬水23)
- 兼覚(けんかく;法名) → 盛親(もりちか・楊梅やまもも/藤原、廷臣/歌) F 4 4 6 9  
 顕覚(けんかく・頓覚) → 公雄(きんお・小倉、歌人) D 1 6 8 0

- 賢覚(げんかく) → 賢覚(げんかく;法諱・理性・真言僧) I 1 8 2 1  
 研嶽(げんかく・稲垣) → 寒翠(かんすい・稲垣いながき、儒者) R 1 5 1 3
- B1842 源覚(げんかく;法諱・別法諱;深覚)?-? 平安期大僧正、歌人、金葉695(前句)
- I1820 巖覚(げんかく・ごんかく、源基平男)1056-112166 平安後期真言僧;東寺信覚門、  
 1102範俊より小野流を受、勸修寺7代長吏/のち安祥寺に住/1117(永久5)東寺二長者、  
 1120(保安元)権大僧都、「一師口伝」「小野口伝造紙」「瑜祇三品鈔」「寅時印信」著
- I1821 賢覚(げんかく;法諱・理性りしゅう;字、賢円男)1080-115677 平安後期真言僧;頼照門/伝法灌頂受、  
 醍醐寺勝覚門;職位灌頂を受/父の住坊を改め理性院開創;理性院流の祖、金剛院聖賢の兄、  
 「支度集」「達磨鈔」「祈雨法私記」「転非命業抄」「愛染王口決抄」「理趣釈聞記」著
- B1843 玄覚(げんかく;法諱) ? - ? 1320存 鎌倉期天台僧;権律師/権少僧都、真観と交流、  
 歌人、仙覚「万葉集抄」書写:押し紙で万葉加点、1293鎌倉へ旅、  
 1320「八月十五日夜月十首和歌」入、  
 勅撰4首;続拾遺(709/906)新後撰(1235)新続古(866)、  
 [行く末を急ぐ心に寢覚して鳥のねまたぬ暁もなし](続拾;羈旅;709/あづまに行く時)
- I1822 玄覚(げんかく;法諱・号;帰郷子)?-? 江前期1661-73頃紀州真宗本願寺派僧、  
 浄土宗西山派僧の「親鸞邪義決」(親鸞批判)への反駁;「親鸞邪義決之虚偽決」著
- I1823 元鶴(げんかく;法諱・雪子せつし;道号、号;空華)?-1681 黄檗僧;20歳頃万福寺入;木庵性瑫しょうとう門、  
 比叡山麓山月庵住/1679万福寺大潜庵住、詩文、「山月集」著(没後1685刊)
- I1824 元鶴(げんかく;法諱) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃黄檗僧;慧極道明門/嗣法、  
 1690「瑞聖詩偈」編、91「慧極禅師語録」編、「宝山家訓」編
- N1824 玄覚(げんかく;法諱) ? - ? 江前期天台僧;吉祥院主、「大織冠神像破裂記附録」編
- I1825 玄覚(げんかく・榎田かしだ/本姓;平、橋本一閑男)1715-7864 加賀大聖寺藩医榎田道覚養子(女婿)、  
 養父の遺跡嗣;大聖寺藩医、上京;医;堀元厚門/医経七部の書を修学、  
 本草学;松岡玄達・津島常之進門、大聖寺藩本草学の先駆、易学;陰陽運氣の術に精通、  
 詩歌・俳諧を嗜む、1777(安永6)藩命で江戸に赴く;病で帰国中に越後長浜にて客死、  
 「本草秘録」著、7男3女の父(7子は榎田北岸・末子は大田錦城)、  
 [玄覚(通称)の幼名/名/号]幼名;小境萬太夫(小境家に養育)、名;命平のぶひら、号;東巖
- I1826 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、新兵衛2男)1779-183557 越後石打村の代々農家、  
 儒者;15歳頃江戸の昌平黌入学;林述斎・佐藤一斎門、京で医を修得、  
 帰郷後は医業と私塾時習堂で経・数・医学を教授、救世のため火浣布を作製、琴/詩を嗜む、  
 「金城瘦文集」「瘦松園詩文集」「瘦松園詩話」「産論」「不老不死楼筆譚」「北越山水記」外著多、  
 [玄鶴(通称)の字/号]字;千年ちとせ/浩翔、号;金城/瘦松園そうしやうえん/瘦松翁/不老不死老人
- I1827 玄鶴(げんかく・大野おおの、名;頼行よりゆき/貞澄/長満)1814-9279 武州秩父郡大野原の医者、儒学修学、  
 朝川善庵・東条琴台を歴訪、維新後;郷土地誌を編纂、国学;佐藤方定門、  
 「玉言」「湯液経尚古文」「秩父志」「秩父雑稿」著、  
 [玄鶴(号)の字/通称/別号]字;臯卿、通称;蕃次郎/宮内/満穂之助、  
 別号;秩岳/天禽子/天生堂/五雲庵/尚古風閣/惜古文室主人/惜古藉せきこしや室、  
 居画斎/朝日舎老人
- 玄鶴(げんかく・松井) → 竹山(ちくざん・松井/亘理/岩間、医者/詩) D 2 8 0 8  
 玄鶴(げんかく・勝) → 利章(としあき・勝かつ、詩) L 3 1 9 0  
 玄鶴(げんかく・馬目) → 思之(もとゆき・馬目まのめ、藩医/歌人) L 4 4 3 0  
 玄覚(げんかく) → 実枝(さねき・三条西、室町期歌学) 2 0 3 3  
 玄角(げんかく・森脇) → 春方(はるかた・森脇、武将/記録) G 3 6 1 4  
 玄角(げんかく・原) → 喜鶴(きかく・原はら、将棋士) J 1 6 8 1  
 玄格(げんかく・大野) → 竹瑞(ちくずい・大野おおの、儒/医者) D 2 8 2 7  
 玄確(げんかく・本多) → 真清(ますが・本多/本田、国学者) I 4 0 9 5  
 間角(げんかく) → 智角(ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4  
 元格(げんかく・栗本) → 丹洲(たんしゅう・栗本/田村、医/博物学) I 2 6 8 2  
 現覚(げんかく;法諱) → 義範(ぎはん;字・佐々木、真言僧) L 1 6 8 3

- 巖覚(げんかく;字) → 尚彦(しょうげん;法諱、真言僧) I 2 2 5 5  
 E1892 彦岳(げんがく・石川いしかわ、名;剛、麟洲男)1745/46-181571/70 豊前小倉の儒者;父門/上柳四明門、  
 のち江戸で洪井太室門、小倉藩校思永館学頭/子弟教育;「小倉の老先生」と称された、  
 「遊彦山記」「坤遊紀行」「唱和集」、「対州従駕記」「曲玉問答」「春遊篇并南遊編」著、  
 「尚古齋奇賞」/1779「彦岳先生詩稿」著、  
 [彦岳(;)号)の字/通称]字;君潜、通称;元兵衛  
 I1828 玄嶽(げんがく・富川とみがわ、名;里恭/利光)1771-182252 越後古志郡椽尾町の検断職(大庄屋)の生;  
 1796(寛政8)家督継嗣、儒;近藤峨眉門、詩書/篆刻に通ず、「玄嶽遺稿」、  
 [玄嶽の字/通称/別号]字;伯民/伯仁、通称;伊右衛門、別号;静斎/晩翠亭、大塊の養父  
 巖学(げんがく・毛束) → 義恭(よしたか・毛束けつか、名主/神職/歌)M 4 7 6 7  
 巖岳斎(げんがくさい) → 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 5 4  
 幻華叟(げんかそう・鈴木) → 清風(せいふう・鈴木すずき、商家/俳人) C 2 4 9 4  
 幻華叟(げんかそう・高橋) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4  
 猷可堂(げんかどう・鹿嶋) → 忠兵衛(ちゅうべえ・塩屋、書肆/俳人) G 2 8 8 6  
 兼葭堂(初世げんかどう) → 巽斎(そんさい・木村、商家/本草・蘭学) E 2 5 8 3  
 兼葭堂(2世げんかどう・木村) → 石居(せききよ・木村、商家/巽斎の養子) J 2 4 9 9  
 玄化堂(2世げんかどう) → 甫尺(ほせき・吉田よしだ、書肆/俳人) E 3 9 3 7  
 幻化道人(げんかどうじん) → 無塵(むじん;道号・省灯;法諱、臨濟僧) 4 2 7 2  
 玄花道人(げんかどうじん) → 涼台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩) I 4 9 8 0  
 見竿(げんかん・心蓮社) → 西尊(ゆうそん;法諱、浄土僧) D 4 6 3 4  
 兼貫(げんかん/かねつら・日野西) → 勝貫(まさつら・日野西ひのにし/藤原、廷臣/記録) E 4 0 2 1  
 頭寛(げんかん・田村) → 頭寛(あきひろ・田村たむら、旗本寄合/歌) H 1 0 8 9  
 憲寛(げんかん・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F 3 5 6 6  
 賢観(げんかん;法諱) → 宗氏(むねうじ・京極/源、武家/歌/連歌) B 4 2 0 5  
 I1830 謙巖(げんがん;道号・藏雲ぞううん;法諱)?-? 江後期上州前橋の曹洞僧;良寛門、1847竜海院29世、  
 1867「良寛道人遺稿」編  
 01832 玄寛(げんがん;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、  
 [我がやどのはつうの花のさきしより月をもまたぬ夕闇の空](檜葉;雑793)  
 01814 源観(げんかん・法師、) ? - ? 南北期僧;歌人;1345?刊[藤葉とうよう集]入  
 [せめてなどしちのまるねの百よともたのめぬ中の契なるらん]、  
 (藤葉;恋443/深草の少将の榻しちの端書はしがきの伝説を引く)  
 I1831 玄鑑(元鑑げんかん・曲直瀬まなせ、今大路/本姓;橘、曲直瀬玄朔男)1577-162650 医;父門、  
 1592典薬助/従五下/兵部大輔/家号を受;橘・今大路/1608法印、大坂陣に従軍、  
 徳川秀忠女東福門院の難産介助;宮廷幕府から重用、「袖中集」「衆方規矩」「常山方術義」、  
 「亀溪傷寒要方」「略名記」、「玄鑑自筆書状」、「玄鑑自筆遺書目録六種」著、  
 [玄鑑(元鑑;号)の名/字/通称/法号]名;親純/親清、字;亀溪、通称;道三3世、  
 法号;延寿院  
 B1844 元貫(げんかん) ? - ? 江戸前期俳人、1696千山「印南野」に三吟歌仙  
 B1845 元閑(げんかん・遠藤えんどう、名;鳩)?-?元禄1688-1704頃没 尾張の医者(代々尾張藩小児科医)、  
 遠州流茶道;岡部道可門/武家故実、1691「茶之湯三伝集」94「当流茶之湯流伝集」編、  
 1698「嫁娶調宝記」「茶湯評林」/99「本朝武家評林」、1742「茶湯指南抄」外著多数、  
 [元閑の別号] 広長軒/洛陽隠士  
 D1896 元灌(げんかん) ? - ? 播磨姫路の俳人・来山門、1703千山「当座はらひ」入  
 I1832 元函(玄函げんかん・有馬ありま、存庵4男/本姓:源)1690-177687 兄恭庵の養子、京の医者、  
 伊藤蘭嶋に推挙され紀伊藩主の侍医/法橋、「傷寒論神解」著、  
 [元函の別通称] 宗函/涼及  
 I1833 玄幹(元幹げんかん・平野ひらの、字;国礼、金華男)?-? 磐城守山藩士?/儒者;父門、  
 1760松平頼寛「発字四声便蒙解」編  
 B1847 元簡(げんかん・丹羽、廉夫)? - ? 江戸後期;本草学者、

1811「金匱玉函方論輯義」/23「本草衍義」著

I1834 **彦貫**(げんかん/ひこつら・清水しみず、小尾守彦男)?-1869(70歳位) 甲斐北巨摩郡甲村俳人:父小尾守彦門、  
蕪庵4世を継承、1861父守彦追善集「旭露集」編、  
弟植松田彦(守彦2男)・小尾四友(守彦3男)も俳人(蕪庵5世・6世)

元幹(げんかん・山科)	→	元幹(もとみき・山科やましな/源、医者/歌)	E 4 4 3 5
元簡(げんかん・多紀)	→	元簡(もとやす・多紀、幕臣/医者)	E 4 4 4 9
元簡(げんかん・三浦)	→	元簡(もとのり・三浦、歌人)	D 4 4 8 5
元簡(げんかん・安東)	→	侗庵(とうあん・安東、儒者)	3 1 7 7
元簡(げんかん・乙幡/三浦)	→	元簡(もとのり・三浦/乙幡、藩士/国学/歌)	D 4 4 8 5
元佃(げんかん・福原)	→	元佃(もたとけ・福原/佐世/毛利、家老/歌)	C 4 4 8 8
元貫(げんかん・津田)	→	元貫(もつら・津田つた、医者/狂歌)	D 4 4 2 0
元貫(げんかん・常松)	→	治郎右衛門(じろうえもん・常松、大庄屋/農村振興)	N 2 2 0 9
元漢(げんかん;法諱)	→	乾外(けんがい;道号・元漢、黄檗僧)	I 1 8 0 9
元漢(げんかん;法諱)	→	嶺沖(れいちゅう;道号・元漢、黄檗僧)	5 1 5 3
元寛(げんかん・長谷川)	→	元寛(もとひろ・長谷川、役人/戯作研究)	E 4 4 1 8
元寛(げんかん・曾我部)	→	容所(ようしょ・曾我部そがべ/源、儒/律令)	B 4 7 2 2
元監(げんかん・中村)	→	水丸(みずまる・山月楼さんげつろう、狂歌)	4 1 9 4
玄簡(げんけい・内田/広瀬)	→	淡窓(たんそう・広瀬ひろせ/建、儒者)	2 6 9 3
玄侃(げんかん・山脇)	→	東門(とうもん・山脇、医者/俳)	H 3 1 4 3
玄幹(げんかん・大槻)	→	磐里(ぼんり・大槻おおつき、医/蘭学者)	3 6 6 5
玄閑(げんかん・鎌田)	→	桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医:外科)	F 1 8 9 8
玄観(げんかん;法諱)	→	承空(しょうくう;法諱、浄土西山派歌僧)	G 2 2 2 3
言罕(げんかん・久保田)	→	治臣(はるおみ・久保田くぼた、医者/尊攘)	J 3 6 4 9
巖丸(げんかん・安武)	→	巖丸(いずまる・安武、儒者/歌人)	F 1 1 7 3
弦丸(げんかん/つるまる・井上)	→	眞澄(ますみ・井上いのうえ、神職/国学)	N 4 0 2 9
遣喚院(げんかんいん;賜号)	→	中道(ちゅうどう;法諱、真宗学僧)	G 2 8 6 6
賢観房(げんかんぼう)	→	玄証(げんしょう;法諱、真言僧/絵師)	J 1 8 9 2

B1848 **憲基**(けんき;法諱、俗姓藤原;南家貞嗣流、法印憲実男)?-? 天台叡山僧;安居院あぐい流唱導家、  
法印/歌人、勅撰3首;新後撰1351/玉葉669/続千2075、  
[山もとの遠きあたりは見えわかで月にぞ白き宇治の河波](玉葉;秋669/水郷月)

I1835 **賢基**(けんき;法諱) ? - ? 江中期1751-64頃京の僧、  
1760「勝宗十九義論釈」、「成唯識論述記序纂釈」著

賢基(けんき/かたもと・建部)	→	賢之(かたゆき・建部たけべ、幕臣/和算家)	1 5 2 2
顕基(けんき・源)	→	顕基(あきもと・源みなもと、権中納言/詩歌)	1 0 8 6
顕季(けんき・藤原)	→	顕季(あきすえ・藤原、六条祖/歌人)	1 0 0 4
兼起(けんき・卜部/吉田)	→	兼起(かねおき・卜部うらべ/吉田、神職)	O 1 5 3 8
兼熙(けんき・卜部)	→	兼熙(かねひろ・卜部/吉田/室町、神道)	D 1 5 0 1
兼熙(けんき・鷹司)	→	兼熙(かねひろ・鷹司たかつかき、関白/歌人)	D 1 5 0 2
兼輝(けんき・一条)	→	兼輝(かねてる・一条、関白/日記記録)	O 1 5 6 6
兼季(けんき・藤原)	→	兼季(かねすえ・藤原、廷臣)	H 1 5 0 2
兼季(けんき・今出川)	→	兼季(かねすえ・今出川/西園寺、廷臣/歌)	C 1 5 7 7
兼規(けんき・今井)	→	崑山(こんざん・今井いまい/源、藩儒)	P 1 9 2 5
兼規(けんき・黒河内)	→	兼規(かねのり・黒河内くろこうち/羽入、藩士/居合/歌)	U 1 5 5 7
憲紀(けんき・赤林)	→	新助(しんすけ、赤林あかばやし、藩士)	P 2 2 0 1
憲喜(けんき・宅間)	→	憲喜(のりよし・宅間たくま、幕臣/和学者)	1 3 5 9 9

B1834 **見宜**(けんぎ・古林ふるばやし、名;道芥/正温、蕪庵しあん男)1579-165779 播磨飾磨郡の医者;父・祖父門、  
赤松祐村の孫、上京;曲直瀬正純門/同門堀杏庵と嵯峨学舎建設;教育、門人見桃を養嗣子、  
「医学入門童子抄」「回春辨葉集」「見宜製剤記」「見宜堂経験方」「纂記鈔」「和脩脉書」著、  
[見宜(;通称)の号] 桂庵/寿仙坊(房)

- E1803 **兼誼**(謙宜けんぎ・猪苗代いなわしろ、別号;息焉齋、渡辺玄徳男、兼恵の養嗣子)?-? 仙台藩抱え連歌師、法橋/法眼、伊達斎村なりむら[1774-96]に「職原抄」を講ず、「南山閣詩歌集」著、謙庭[1752-1817]の父、  
**猪苗代家系譜** → 兼載(けんさい・猪苗代、連歌師) 1 8 1 3  
 見宜(けんぎ・古林) → 正虎(まさとら・古林ふるぼやし、正温の裔/医者) S 4 0 3 9  
 兼義(けんぎ・佐竹) → 兼義(兼茂かねよし・佐竹さたけ/源、武家/連歌) P 1 5 0 6  
 顕義(けんぎ・山田) → 顕義(あきよし・山田やまだ、藩士/軍人/司法) I 1 0 6 9  
 憲義(けんぎ・米沢) → 千稻(ちしね・米沢よねざわ、戸長/国学/歌) N 2 8 8 1
- E1804 **玄駁**(げんき・松平まつだいら、名;正般/正明、正村男) 1703-6664 越前福井藩士、藩老(祖父正恒の嗣/3千石襲封)、1762辞職/66致仕、俳人:支考門/福井3傑の1、1735「卯花笠」六枳らと共編・跋、1741「音韻闡秘鈔」56「雪しつく」編、「黒鶴集」著、[玄駁の通称/別号]通称:荘[庄]兵衛/主馬しゅめ/兵庫、別号:玄駁げんぱく/故人庵、法号;寂照院
- B1849 **元軌**(げんき・もとり・古野ふるの) 1674-174067 筑前の儒者;貝原益軒・林鳳岡門、福岡藩儒、1702(元禄15)「扶桑千家詩」編、「日本人物考」「河津伝記」著、勘兵衛の父、[元軌(;名)の字/通称/号]字;敬叔/子敬、通称;十次郎/勘助/勘佐かんすけ/清宇、号;梅峰ばいほう/鏡山/厚軒
- 01837 **元喜**(げんき・三谷みくに) ? - ? 江中期;歌人、出不詳  
 1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、  
 [夏の野にかりもつくさぬ恋草こひぐきのしげき人目をいかにしのばむ](追加;寄草恋)
- B1850 **源琦**(げんき・駒井こまい) 1747 - 179751 絵師:応挙門、円山四条派
- I1836 **玄喜**(げんき;通称・阿部あべ、名;信好/字;叔興)?-? 江戸中期三河南設楽郡長篠村の医者・絵師、1788「三河国吉田郷八景」編
- I1837 **玄機**(げんき・久坂くさか、名;真/静、良迪男) 1820-5435 代々萩藩寺社組医師/医;父門/蘭学/詩、1849萩の南苑医学所出仕;青木周弼らと種痘実施、兵制研究;1854海防策上申、「和蘭紀略」「新訳小史」「牛痘纂論」「治痘局」「新撰海軍砲術論」著、母;大谷忠左衛門女富子、[玄機(;通称)の号] 天籟、法号;靈光齋全道玄機居士、玄瑞げんずいの兄  
 玄機(げんき・物先;道号) → 物先(もつせん・玄機、曹洞僧) B 4 4 9 1  
 玄機(げんき・法諱・啄同) → 啄洞(たくどう;道号・玄機、臨濟僧) O 2 6 1 4  
 玄機(げんき;法諱・大方;臨濟名) → 大随(だいい;道号・道機、黄檗僧) K 2 6 4 2  
 玄紀(げんき・矢野) → 公紀(きみのり・矢野やの、神職) M 1 6 0 5  
 玄耆(げんき・藤林) → 道寿(どうじゅ・藤林、幕府医官) E 3 1 8 7  
 玄耆(げんき;法号) → 親頭(ちかあき・今大路いまおおじ、医/詩歌) 2 8 5 5  
 玄龜(げんき;号) → 忍阿(にんあ・常寂、真宗高田派僧) G 3 3 1 5  
 玄龜(げんき・沼田/加藤) → 曳尾庵(えいびあん・加藤、医者/隨筆) C 1 3 0 4  
 玄熙(げんき・真宗住職、続沙石集著) → 南冥(なんめい) 3 2 3 7  
 元季(げんき・平野) → 元季(もとすえ・平野ひらの、藩士/弓道) L 4 4 1 5  
 元帰(げんき・清水) → 貞徳(さだのり・清水しみず、測量家) C 2 0 2 0  
 元喜(げんき) → 通郷(みちさと・波多野、連歌) B 4 1 5 5  
 元禧(げんき・荒川) → 常春(つねはる・荒川、詩人) D 2 9 3 0  
 元禧(げんき・太田) → 惟隆(これたか・太田おた、幕府医者/歌) Q 1 9 1 3  
 元熙(げんき・伊藤) → 元熙(もとひろ・伊藤、儒者) E 4 4 1 1  
 元熙(げんき・岩崎) → 鷗雨(おうう・岩崎いわさき、儒者/詩人) C 1 4 3 2  
 元熙(げんき・佐善) → 松溪(しょうけい・佐善さぜん/源、藩儒) I 2 2 2 1  
 元規(げんき・平) → 元規(元矩/基範もとのり・平、廷臣/歌) D 4 4 7 6  
 元規(げんき・松井) → 東庵(とうあん・松井、製墨業) 3 1 7 9  
 元規(げんき・小栗栖) → 景桃(けいとう・小栗栖おぐるす、神職/俳人) G 1 8 4 3  
 元規(げんき・鈴木) → 誠一(せいいち・鈴木すずき、絵師) H 2 4 3 7  
 元規(元季げんき・三浦) → 元規(もとのり・三浦みうら/館野、藩士/歌) L 4 4 4 9  
 元沂(げんき・人見/野) → 桃源(とうげん・人見、鶴山男/幕府儒官) D 3 1 4 2  
 元軌(げんき・岡崎) → 鵲亭(こくいてい・岡崎おかざき、儒者/詩文) F 1 9 5 7

- 元起(げんき・松平/戸田) → 氏教(うじのり・戸田とだ/藤原、藩主) C 1 2 5 7  
元起(げんき・中村) → 黒水(くくすい・中村なかむら、藩士/儒者) G 1 9 4 9  
元起(げんき・海保) → 竹逕(ちくけい・海保かいぼ、幕府儒者) C 2 8 9 0  
元紀(げんき・津田) → 元紀(もとのり・津田つだ/板屋、商家/学者) K 4 4 5 2  
元紀(げんき・藤林) → 普山(ふざん・藤林ふじばやし/大西、蘭医) C 3 8 3 3  
元基(げんき・片山/相馬) → 九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) I 1 6 7 7  
元基(げんき・清田/伊藤) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5  
元機(げんき・法諱) → 物先(もつせん:道号・元機、曹洞僧) B 4 4 9 1  
元機(げんき・丹羽) → 正伯(しょうはく・丹羽にわ、医者/本草) B 2 2 2 1  
元亀(げんき・有馬) → 元晁(げんちよう・有馬ありま、藩士/蘭学) L 1 8 3 8  
元驥(げんき・栗崎/廬) → 驥(き・廬ろ/栗崎くりさき、通事/詩文) J 1 6 4 7  
I1838 源義(げんぎ・深義?) ? - ? 僧:権律師、連歌:菟玖波1句入  
I1839 元宜(げんぎ:法諱・仁岳にんがく;字、称;観国堂)?-? 江後期遠州宇刈郷の僧/大僧都、冷泉家流歌人、  
1798(寛政10)「大僧都元宜和歌集」著  
元宜(げんぎ・三浦) → 元宜(もとよし・三浦みうら/源、藩家老/歌) L 4 4 4 8  
元義(げんぎ・毛利) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3  
元義(げんぎ・中津) → 元義(もとよし・中津なかつ、国学者) E 4 4 7 5  
元義(げんぎ・平賀) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
元義(げんぎ・江馬) → 筭荘(じゅんそう・江馬えま、蘭学/藩医) L 2 1 3 7  
元儀(げんぎ:字) → 雲室(うんしつ;号、真宗僧/絵師) B 1 2 1 6  
元儀(げんぎ/もとのり・横山) → 義六郎(ぎろくろう・横山、藩士/記録) Q 1 6 5 9  
玄義(げんぎ・杉本) → 剛斎(こうさい/ごうさい・杉本/杉、医/教育) I 1 9 8 5  
玄義(げんぎ・海老名) → 義恭(よしたか・海老名えびな、役人/連歌) E 4 7 0 6  
玄議(げんぎ・阿部) → 岳陽(がくよう・阿部あべ、医者/漢学) K 1 5 5 6  
元坂斎(げんきさい・清水) → 貞徳(さだのり・清水しみず、測量家) C 2 0 2 0  
元亀斎(げんきさい・近藤) → 克寛(かつひろ・久野くの、古銭研究者) N 1 5 8 2  
玄亀斎(げんきさい・近藤) → 古達(ふるみち・近藤こんどう、神職・国学) I 3 8 2 6  
玄亀山人(げんきさんじん) → 先啓(せんけい;法諱、真宗大谷派僧) F 2 4 2 4  
I1840 謙吉(けんきち・天野あまの、名;華、織江男) 1816-7156 萩藩士/1850明倫館都講/遠近方記録係/政務役、  
尊攘派;一時幽閑、郷校学文堂督学、1847「王香亭詩文旧稿抄」56「古例刑典」65「詩歌船」著、  
[謙吉(;通称)の字/号]字;子文/君実/君美、号;梅溪樵夫/梅幡(はい)は/梅花居士/柳江  
I1841 健吉(けんきち・花井はない、名;静、古川増造男) 1821-? 越後直江津の算学家、1848江戸の花井家を嗣、  
算学;福井理軒門、1856「西算速知」編(理軒の口述を編纂;日本最初の洋算書)、  
1856-68「測量集成」編、「筆算通書」「太陽暦俗解」著、理軒「明治小学塵劫記」を校訂、  
[健吉(;通称)の別通称/号]別通称;喜十郎、号;静庵/畔艦(こうき)鯉斎(こんさい)鯉斎  
憲吉(けんきち・宮本) → 眞篤(ますず・宮本、虎杖庵4世/俳人) J 4 0 0 5  
権吉(けんきち・依岡) → 珍満(うずまる・依岡よりおか/安岡、勤王党) E 1 2 9 6  
兼吉(けんきち・福山) → 芳豊(あきひとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9  
権吉(けんきち・三輪) → 表秀(あきひで・三輪、藩士/歌人) D 1 0 8 2  
謙吉(けんきち・新井) → 白蛾(はくが・新井あらい、儒者) C 3 6 8 3  
謙吉(けんきち・今井/長岡) → 懐山(かいざん・長岡ながおか、医者) I 1 5 6 6  
謙吉(けんきち・広瀬) → 旭荘(きよくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩人) 1 6 4 4  
謙吉(けんきち・常盤) → 謙斎(けんさい・常盤とさわ、儒者) I 1 8 9 6  
謙吉(けんきち・梶村) → 高朗(たかあき・梶村/柁村かじむら、儒者) L 2 6 4 8  
謙吉(けんきち・久世) → 広周(ひろちか・久世くぜ/源、藩主/老中) G 3 7 3 7  
謙吉(けんきち・真鍋/伊東) → 祐思(すけもと・伊東いとう/真鍋、藩儒/歌) L 2 3 3 3  
猷吉(けんきち・藤重) → 匹竜(ひつりゅう・藤重ふじしげ、文筆家) C 3 7 7 4  
猷吉(けんきち・竹中) → 蒼竜(そうりゅう・竹中たけなか/源、医者/詩) J 2 5 1 4  
猷吉(けんきち・前田) → 正毅(まさよし・前田まえだ、蘭学者) I 4 0 7 7

堅吉(けんきち・貞方) → 定吉(さだよし・貞方さだかた、藩士) K 2 0 3 3  
 顕吉(けんきち・水野) → 義風(よしかぜ・水野みずの、藩士/歌人) C 4 7 5 9  
 源吉(げんきち・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0  
 源吉(げんきち・富田) → 王屋(おうおく・富田とみだ、儒/詩賦・天文) C 1 4 3 3  
 源吉(げんきち・関) → 思亮(しりょう・関せき、藩士/書家) D 2 2 2 2  
 源吉(げんきち・海老原) → 新甫(しんぼ;号・海老原、揚屋主人/俳人) 2 2 7 8  
 源吉(元吉げんきち・笹山) → 呉厓(ごがい・笹山ささやま、医者/俳人) C 1 9 2 2  
 源吉(げんきち・清水) → 雅見(まさみ・清水しみず、国学/歌人) Q 4 0 0 9  
 源吉(げんきち・新保) → 磐根(いわね・新保しんぼう/にいほ、国学者) K 1 1 3 4  
 玄吉(げんきち・尾田玄俊、医者) → 信武(のぶたけ・馬場、易/軍談) B 3 5 7 8  
 元吉(げんきち) → 元吉(もときち)を参照  
 元吉(げんきち・今井) → 鏡洲(きやうしゅう、今井いまい、儒者/詩人) N 1 6 9 2  
 元吉(げんきち・鳥居) → 研山(けんざん・鳥居とりい、藩士/詩人) J 1 8 2 6  
 元吉(げんきち・武谷) → 澧蘭(れいらん・武谷たげや、元立男/蘭医) 5 1 7 0  
 元吉(げんきち・栗田) → 恭徳(たかのり・栗田くりた、商家/歌人) M 2 6 8 6  
 元吉(げんきち・橋本) → 竹下(ちくか・橋本/川口、儒者/詩人) C 2 8 7 4  
 元吉(げんきち・保岡) → 嶺南(れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官) 5 1 6 0  
 元吉(玄吉げんきち・吉雄) → 紫溟(しめい・吉雄よしお、蘭医) F 2 1 8 5  
 元吉(げんきち・藤塚) → 知能(ともよし・藤塚ふじつか/源、神職) Q 3 1 9 4  
 元吉(げんきち・本木) → 正栄(しょうえい・本木、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6  
 元吉(げんきち・高橋) → 草坪(そうへい・高橋たかはし、絵師) C 2 5 8 8  
 彦吉(げんきち・土方) → 義苗(よしたね・土方ひじかた/木下、藩主/財政再建) O 4 7 7 3  
 鉉吉(げんきち・市河) → 得庵(とくあん・市河、書家) K 3 1 4 3  
 元吉郎(げんきちろう・桑原) → 鷲峰(しゅうほう・桑原くわばら、儒者) I 2 1 2 8  
 源吉郎(げんきちろう・富田) → 王屋(おうおく・富田とみだ、儒/詩賦・天文) C 1 4 3 3  
 源吉郎(げんきちろう・岡田) → 花邨(かそん・岡田おかだ、医者/儒) M 1 5 8 4  
 源吉郎(げんきちろう・鈴木) → 茂世(しげよ・鈴木すずき、国学者・歌人) Z 2 1 0 4

1810 **元信**(げんきつ;法諱・閑室かんしつ;道号、俗姓多々良、野辺田伝之助男)1548-1612<sup>65</sup> 肥前晴気村の生、  
 臨濟僧;幼時に小城の円通寺で出家、臨濟宗大覚羽の法流を受、  
 のち足利学校7世座主九華老人玉崗瑞璵門、1587(天正15)足利学校9世座主に就任、  
 豊臣秀次に随い上京/徳川家康の信賴を得る、伏見・駿河の円光寺を創建、  
 転籍開版事業(活字印刷)を実施;伏見版/駿河版と称さる、寺社訴訟を担当、漢和聯句参加、  
 1609円光寺に住、1599「足利学校記」、「春秋経伝抄」「古聯句集叢」著、「三要雜抄」編、  
 [元信の号] 三要、信長老、晴気城主千葉胤連の落胤説あり

元吉(げんきつ・薬師寺) → 元吉(もとよし・薬師寺/橋、武家/歌人) E 4 4 6 7  
 元吉(げんきつ・田村) → 水鷗(すいおう・田村たむら、絵師) E 2 3 2 1  
 元信(げんきつ・多紀) → 元信(もとただ・多紀/丹波、幕臣/医者) C 4 4 9 5  
 元詰(げんきつ・姫井) → 桃源(とうげん・姫井ひめい、藩士/儒者) D 3 1 4 7  
 見宜堂(けんぎどう) → 正禎(せいてい・古林ふるばやし、医者) C 2 4 6 8  
 顕義堂(けんぎどう) → 春郷(はるさと・村田むらた、商人/国学者) G 3 6 3 7  
 玄輝門院(げんきもんいん) → 愷子(いんし・洞院実雄女、後深草天皇妃) I 1 1 5 9  
 玄輝門院右京大夫(げんきもんいんのうきょうのだいぶ)  
 → 右京大夫(うきょうのだいぶ・玄輝門院女房) 1 2 1 4

I1842 **見休**(けんきゅう・松本まつもと、別号;抹茶きゅうちや軒/蘆泉子)?-? 江前期江戸八丁堀の茶人、  
 有楽流茶道;織田貞置門/尾張藩江戸邸に出入、  
 1710「咄覚集」、「貞要書」「松本見林万法集」著

B1851 **顕糾**(けんきゅう・内海うつみ) ? - ? 江戸期;歌人;宮川松堅門、  
 1722松堅「和譚五十人一首」入・下巻追加の序および追加50首を書く、  
 [此ごろのそれぞとみねの白雲をけふはまことの花ぞいつはる]、

(和謠五十人一首;20/花盛/見ると嶺を掛る)

[限りなく遠く来ぬるを更に知る句はぬ雲を花の迷ひに](同追加;尋花/花求め雲中に)

兼丘(けんきゅう・伊集院) → 兼丘(かねおか/かねたか・伊集院いじゅういん、藩士/歌人) O 1 5 3 7

賢久(けんきゅう・須川) → 賢久(かたひさ・須川すがわ、博物学者) N 1 5 0 6

見牛(けんぎゅう・今井) → 似閑(自閑じかん・今井、商家/国学者) 2 1 0 6

I1844 元休(げんきゅう) ? - ? 鎌倉期1326-29頃備中松山の律宗僧;泉涌寺系北京律修学、  
「徹底章」著

B1852 玄玖(げんきゅう) ? - ? 俳、1672元隣「諸国独吟集」入

I1845 玄九(げんきゅう・太田おおた、名;善世/字;子竜)?-? 江後期1818-31頃陸奥漢学者、江戸で諸儒の研究、  
晩年は江戸赤坂で隠棲;巢鴨の横田乾山と親交、1834「論徳図説」35「覇略」著、  
「語学提要」「莊子国字解」「張註列子国字解」著

元球(玄球げんきゅう・宮本) → 茶村(ちやそん・宮本、儒者/庄屋/詩人) F 2 8 5 8

元球(げんきゅう・中根) → 元珪(元圭げんけい・中根なかね、曆算家) B 1 8 6 3

元久(げんきゅう・賀茂) → 元久(もとひさ・賀茂かも、神職/連歌) D 4 4 9 7

元久(げんきゅう・もとひさ・屋代) → 大軒(たいけん・屋代やしる、藩士/書家) J 2 6 8 1

元及(げんきゅう・栗津) → 元及(もとたか・栗津/藤原、武士/真宗僧) C 4 4 8 2

敬次郎/小十郎、字;美卿、

元休(げんきゅう・水野/源) → 廬朝(ろちよう・水野みずの/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3

牽牛庵(けんぎゅうあん) → 有物(うぶつ・石原いしはら、俳人) D 1 2 2 8

眷求堂(けんきゅうどう) → 敬久(たかひさ・堀池ほりいけ、藩士/和算家) M 2 6 9 6

建久宮(けんきゅうのみや) → 承仁法親王(しょうにんほつしんのう、天台座主/歌) B 2 2 1 2

兼魚(けんぎょ・梅素 → 玄魚) → 玄魚(げんぎょ・梅素亭ばいそてい、絵師/狂歌) B 1 8 5 4

兼魚(けんぎょ・吉田) → 兼魚(かねな・ト部うちべ、神職) O 1 5 7 6

兼魚(けんぎょ・猪熊) → 兼魚(かねな・猪熊いのくま/ト部、国学) T 1 5 5 6

堅魚(けんぎょ・石上) → 堅魚(かたお・石上朝臣、廷臣/万葉歌人) 1 5 2 4

堅魚(けんぎょ・徳弘) → 堅魚(かたな・徳弘とくひろ、儒者/歌人) N 1 5 0 2

硯漁(けんぎょ・河南) → 文平(ぶんぺい・河南かわなみ、儒者/詩人) G 3 8 4 1

幻居(げんきょ) → 眞戒(しんかい;法諱・慧定、黄檗僧/詩) N 2 2 6 4

彦居(げんきょ・松木) → 卓彦(つねひこ・松木まつき/度会、神職) D 2 9 3 1

B1854 玄魚(げんぎょ・梅素亭ばいそてい、宮城喜三郎貞雄[喜斎玄魚]男) 1817-80<sup>64</sup> 江戸浅草三好町の生、  
1821(15歳)浅草の骨董商に奉公/26(20歳)実家で傭書業/絵師:合巻袋絵・千社札図案、  
びら絵の名手/1855安政大地震に鯉絵を考案し大評判:仙果「なるの日記」に入、  
書;巻鷗洲門/俳諧;抱偽門、狂歌、武田交来の師、1852「建具雛形」画、  
1856「泰平纏一覽」「端唄糸廻綾初編」編、60「新吉原細見記」67「浪輝黄金鯉」著、  
「番匠作事往来」校訂、  
[梅素亭玄魚(;号)の通称/別号]通称;喜三郎(父と同)、  
別号;梅素/呂成/整軒/楓園/蝌蚪子かとし/水仙子/小井居/樗堂/楓阿彌/玉杓子

I1846 兼経(けんきょう、けんけい) ? - ? 平安期花山院殿上法師、歌:後拾1064

頭郷(けんきょう・町まち) → 頭郷(あきさと・町まち/藤原、歌/連歌) D 1 0 3 8

兼郷(兼卿けんきょう・広橋) → 兼郷(かねさと・広橋ひろはし、廷臣/歌) F 1 5 6 8

兼郷(けんきょう・堤) → 兼郷(かねさと・堤つみ、歌) S 1 5 9 9

兼恭(けんきょう・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9

兼教(けんきょう・近衛) → 兼教(かねのり・近衛、廷臣/玉葉歌人) C 1 5 9 7

頭業(けんぎょう・藤原) → 頭業(あきなり・藤原、廷臣/文章博士) D 1 0 6 7

頭業(けんぎょう・松田) → 頭業(あきなり・松田まつだ/橋、神職/歌) I 1 0 4 6

B1855 玄鏡(げんきょう) ? - ? 奈良期法隆寺僧;

747(天平19)「法隆寺・大安寺・元興寺伽藍縁起并流記資財帳」共著(隣信・靈尊らと)

B1856 源慶(げんきょう・げんけい;法諱)?-? 平安期僧/法師、歌人;1187成立「千載集」入;738  
[うたた寝の夢に逢ひ見てのちよりは人も頼めぬ暮ぞ待たるる](千載;十二恋738)

B1857 巖恭(げんきょう) ? - ? 鎌倉の僧、1362「東寺執行日記」著(定伊と)

- B1858 元教(げんきょう) ? - ? 連歌師、1518宗長催「東山千句」入
- E1807 元卿(げんきょう) ? - ? 伊勢山田俳人、1633「犬子集」157・715
- I1860 元恭(げんきょう・広瀬ひろせ、龔きょう/字; 礼卿、恭平男) 1821-7050 甲斐巨摩藤田村も医者; 父門、  
蘭医: 1835坪井信道・緒方洪庵門、京で時習堂開塾; 蘭学講義/診療、49種痘成功、兵・砲術、  
伊勢津藩医/砲壘築造に参画、維新後京の官軍病院長、「和蘭文範」「牛痘奇法」「陣中軌範」、  
「病理正解」「西洋馬術説」「砲術新書」「西医脈鑑」「知生論」「理学提要」外訳書多数、  
[元恭(; 通称)の別通称/号]別通称; 恭、号; 藤圃/天目山人、法号; 広瀬院こうらいん
- 元喬(げんきょう・服部) → 南郭(なんかく・服部はっとり、儒/詩歌) 3 2 3 1
- 元喬(げんきょう/もとたか・木下) → 菊所(きくしょ・木下きのした、医者/詩人) K 1 6 1 2
- 元橋(げんきょう・狩野) → 春湖(しゅんこ・狩野かのう/黒沢、絵師) J 2 1 5 2
- 元恭(げんきょう・佐善) → 雪溪(せつがい・佐善/源/佐竹、儒者) E 2 4 1 6
- 元恭(げんきょう・行徳) → 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者) Y 2 1 2 9
- 元恭(げんきょう・鷺見/江馬) → 蘭齋(らんさい・江馬えま/鷺見、蘭医者) C 4 8 1 8
- 元恭(げんきょう・寺田/田) → 古江(ここう・寺田/田、商家/俳人) M 1 9 4 0
- 元恭(げんきょう・須田/松井) → 直寛(なおひろ・松井まつい/須田、藩医/歌) O 3 2 8 1
- 元恭(げんきょう・大高) → 宗肅(そうしゆく・大高おおたか、医者) H 2 5 8 5
- 元教(げんきょう) → 関通(かんつう; 法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3
- 元教(げんきょう・益田/真下) → 晩菘(ばんすう・真下ましも、幕臣/詩/書) I 3 6 2 5
- 元教(げんきょう・海老江) → 元教(もとのり・海老江えびえ、藩士/歌人) J 4 4 4 1
- 元協(げんきょう・頼) → 聿庵(いつあん・頼らい、儒者/書家) E 1 1 2 8
- 元鏡(げんきょう; 法名) → 実熙(さねひろ・洞院/藤原、廷臣/故実) D 2 0 5 5
- 元彊(げんきょう・上田) → 元彊(もとなげ・上田うえだ、医者/歌人) C 4 4 8 9
- 元彊(げんきょう・板原) → 寿(じゆ・板原いたはら、医者) W 2 1 4 1
- 元龔(げんきょう・関) → 養軒(ようけん・関せき、儒/藩校創設) 4 7 7 4
- 愿恭(げんきょう・三角) → 有孝(ありたか・三角みすみ、廷臣/医官) I 1 0 5 0
- 愿恭(げんきょう・横山) → 愿恭(よしやす・横山よこやま/中西、名主) P 4 7 9 8
- 玄恭(げんきょう・久野) → 繁山(はんざん・久野くの、医者) H 3 6 7 8
- 玄恭(げんきょう・曾) → 愿(げん・曾そう、藩士/医者) H 1 8 5 5
- 玄恭(げんきょう・重田) → 蘭溪(らんけい・重田しげた、儒者/医者) B 4 8 8 9
- 玄慶(げんきょう) → 玄慶(げんけい; 法諱、真言僧) I 1 8 5 0
- 言恭(げんきょう・辻) → 子礼(しらい・辻つじ、儒者) N 2 2 0 2
- 彦恭(げんきょう・木村) → 桂庵(けいあん・木村きむら、儒者/詩) E 1 8 0 0
- 元業(げんぎょう・林) → 元業(もとなり・林はやし、医者) D 4 4 6 2
- 元堯(げんぎょう・益田) → 元堯(もとなが・益田ますだ、藩家老/財政) C 4 4 7 9
- 元堯(げんぎょう・大森) → 元堯(もとなが・大森おもり、詩人) C 4 4 8 3
- 元暁(げんぎょう・三輪) → 元門(もとかど・三輪みわ/長尾、藩老/兵学) C 4 4 4 0
- 元暁(げんぎょう・石居) → 元暁(もとあき・石居いし、藩士/歌人) J 4 4 1 9
- 兼狂歌師(けんきょうかし) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、戯作/狂歌) C 1 6 0 3
- 源恭院(げんきょういん) → 乘全(のりやす・松平、藩主/老中、詩歌) G 3 5 0 7
- 乾享斎(けんきょうさい; 号) → 光闡(こうせん; 法諱・法如; 号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8
- 謙恭先生(けんきょうせんせい) → 公濟(こうさい・最里さいり、医者) I 1 9 9 0
- 巖恭先生(げんきょうせんせい) → 竹坡(ちくは・伊藤いとう、藩士/儒者) D 2 8 6 8
- B1859 蝮局(へんきよく・竹径) ? - ? 江中期俳人・江戸座?、1753狂文「風姿紀文」著
- 建玉(けんぎよく・千家せんげ) → 俊信(としざね・千家/出雲、国学/歌人) M 3 1 5 6
- 元極(げんきよく; 法諱) → 大智(だいち; 道号・元極、黄檗僧) K 2 6 5 9
- 元旭(げんきよく・三浦) → 元宜(もとよし・三浦みうら/源、藩家老/歌) L 4 4 4 8
- 彦玉(げんきよく) → 彦玉(ひこたま、滑稽本作者) 3 7 6 5
- 硯漁夫(げんぎよふ) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
- 憲欽(けんきん) → のりよし・佐藤 → 梅軒(ばいけん・佐藤さとう、藩儒/藩家老) B 3 6 1 2
- B1860 元瑾(げんきん; 法諱・子瑜しゆ; 道号) ?-1419 南北室町前期; 臨濟僧; 頑石曇生門/嗣法、

心華元棟しんげんていの法弟、天竜寺66世/建仁寺103世、「子瑜和尚語録」著

元昕(げんきん・多紀) → 元昕(もとあき・多紀たき、暁湖、幕府侍医) C 4 4 0 0  
言近(げんきん・大竹) → 言近(のぶちか・大竹おおたけ/中臣、国学者) H 3 5 6 8  
原欽(げんきん・山田) → 復軒(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者) D 3 8 3 2  
源金(げんきん) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4  
源勤(げんきん・村上) → 東村(とうそん・村上、儒者/詩人) 3 1 4 6  
兼俱(けんぐ・吉田) → 兼俱(かねとも・吉田/卜部、神職/吉田神道大成) 1 5 3 1  
元矩(げんく・服部) → 元矩(もとりのり・服部/南郭父、歌/連歌) D 4 4 8 0  
元矩(げんく・間) → 元矩(もとりのり・間はざま、国学/尊攘) K 4 4 9 5

01831 顕空(けんくう;法諱・号;道性房、興福寺別当親縁男)?-? 平安鎌倉期;天台叡山僧/法眼、歌人;1237刊[檜葉集]2首入、実性の弟?/顕豪・実顕・信顕・道縁・定誉の兄弟、[たえだえのけぶりばかりをしるべにていくさととひとつ鄙のなが道](檜葉;羈旅667)

B1861 兼空(けんくう;法諱、北島師重男/本姓源)?-? 南北期浄土宗西山派僧/歌人;頓阿と交流、新玉津島社三十首参加、下田屋切(松花和歌集断簡)伝称筆者、親房の兄弟、勅撰5首;風雅(1585)新千(2069)新拾(1496/1599)新統古今(175)、[うらがるる尾花が末の夕づく日うつるも弱き秋の暮れ方](風雅;雑1585/秋歌)

I1847 兼空(けんくう;法諱) ? - ? 江前期;天台僧;叡山金剛院住/僧正となる、「兼空加行日記」「叡山常住金剛院縁由」著

顕空(けんくう;法名) → 隆顕(たかあき・四条、廷臣/記録) L 2 6 4 1

賢空(けんくう;法諱) → 宣存(せんそん/せんぞん;法諱、天台僧) M 2 4 8 7

1811 源空(げんくう;法諱・法然ほうねん;号、漆間時国男)1133-121280 浄土宗の祖、美作稲岡庄の生、叡山僧;源光門、黒谷流;叡空門/1175法然房源空と改名、京東山で専修念仏の立宗;1198「選択本願念仏集」著、1207(建永2)弟子安楽(遵西)の事件で四国配流;建永承元の法難/1211東山大谷に帰る、1211「一枚起請文」、「往生要集釈」「逆修説法」「黒谷上人語燈録」「西方指南鈔」著、「浄土三部経大意」「浄土宗大意」「念仏往生義」「念仏大意」「女人往生集」「吉水法語集」著、「源空上人御法語」「法然上人御法語」「和字選択集」「本願相応集」「十念法語」外著多数、歌人;「空花くげ和歌集」湛澄編(1693刊)、勅撰5首;玉葉(2635)続千(981)続後拾(1315)新千(890)新後拾(1474)、[往生極楽のためには南無阿弥陀仏と申して疑ひなく往生するぞと思ひとりて外には別の子細候はず](一枚起請文)

[源空の号] 法然(房)/黒谷上人/大谷上人/吉水上人/慧光菩薩/華頂尊者/通明国師、天下上人/無極道心者、配流名;源元彦、諡号;光照大士/円光大師/東漸大師、慧成大師/弘覚大師/慈教大師/明照大師/話順大師(江戸期に50年ごと大師号)、源空の門人;隆寛りゅうかん/弁長/幸西こうさい/親鸞/湛空たんくう/証空/長西ちやうさい など

I1848 玄空(げんくう;法諱) ? - ? 江中期寛政1789-1801頃武州岩槻の天台僧、1800「鏡心明智録」著

玄空(げんくう;法名) → 宗綱(むねつな・松木まつきのき/中御門、廷臣/記録) B 4 2 6 4

幻空(げんくう;号) → 雪村(せつそん;道号・友梅;法諱、臨濟僧/文学) 2 4 2 0

元隅(げんぐう) → 元隅(もとずみ・栗津、俳人) C 4 4 7 5

堅苦斎(けんくさい) → 篤庵(とくあん・高木、儒者) K 3 1 4 2

源九郎(げんくろう・細川) → 頼春(よりはる・細川ほそかわ/源、武将/歌) J 4 7 4 9

源九郎(げんくろう・兵藤) → 澁(きよし・兵藤ひょうどう、藩士/儒/和算) P 1 6 5 8

源九郎(げんくろう・上田) → 光美(みつよし・上田うえた、庄屋/国学/歌) F 4 1 2 3

元勳(げんくん・南嶺;道号) → 南嶺(なんれい・元勳、黄檗僧) 3 2 7 3

元勳(げんくん・今大路) → 元勳(もとりのり・今大路、医者/吉宗臣) D 4 4 8 2

元勳(元助げんくん・鷲見/二宮) → 東郭(とうかく・二宮、藩士/儒/兵学) C 3 1 1 5

元勳(げんくん・立野) → 寛(ひろし・立野たての、藩士/儒者) F 3 7 9 2

玄勳(げんくん;法諱) → 功甫(こうほ;道号・玄勳、臨濟僧) L 1 9 1 2

巖君(げんくん・小関) → 高彦(たかひこ・小関こせき/おせき、洋学者) D 2 6 5 4

- 言寓齋(げんぐうさい) → 風光(ふうこう・和知、俳人) 3858
- I1849 賢慶(けんけい;法諱) 1517 - ? 1589存 山城岩倉大雲寺の僧?:天台僧;権少僧都、1589「大雲寺縁起」編/89「大雲寺諸堂記」著
- E1805 牽経(けんけい) ? - ? 京の俳人、1633「犬子集」1475; [猿沢のいけにえなれやこゝり鮒](犬子集:六1475)
- B1864 兼恵(けんけい・猪苗代いなわしろ、初号;兼竹、猗々斎、兼郁[1655-1735]男)1691-175060 連歌師、法橋、陸奥(陸前)仙台伊達藩士、養嗣子;兼誼けんぎ(初姓;渡辺)
- 兼経(けんけい・平安期法師)→ 兼経(けんきょう・歌人) I 1 8 4 6
- 兼経(けんけい・藤原) → 兼経(かねつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) O 1 5 6 5
- 兼経(けんけい・近衛) → 兼経(かねつね・近衛このえ、摂政関白/歌) C 1 5 8 7
- 兼継(けんけい) → 実孝(じつこう;法諱、真宗本願寺派僧) U 2 1 6 6
- 兼敬(けんけい・吉田) → 兼敬(かねゆき・吉田/卜部うらべ、神職) D 1 5 1 8
- 謙溪(けんけい;号) → 南麟(なんりん;法諱/高霖、本願寺派僧) I 3 2 8 2
- 謙卿(けんけい・野本) → 雪巖(せつがん・野本のもと、藩儒/詩人) E 2 4 1 2
- 顕経(けんけい・千種) → 顕経(あきつね・千種ちくさ/源、廷臣/歌人) C 1 0 8 6
- 顕経(けんけい・山崎) → 顕経(あきつね・山崎やまさき、藩士/歌人) I 1 0 6 6
- 賢敬(けんけい・山田) → 賢敬(かたたか・山田やまだ、文筆家) M 1 5 9 8
- 儉卿(けんけい・成島) → 筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者) D 2 8 0 7
- 建溪(けんけい・鶴川) → 麴文(そぶん・鶴川うかわ、俳人/季語研究) E 2 5 3 1
- 健卿(けんけい・林) → 洞海(どうかい・林はやし、蘭医者) C 3 1 0 6
- B1862 兼芸(けんげい;法諱、伊勢少掾古之男)?-? 平安前期876-887頃大和城上郡の法師、歌:時頼親王送別歌、古今4首396/768/(803)/875、[飽かずして別るゝ涙滝にそふ水まさとや下しは見ゆらむ](古今;離別396、仁和帝[光孝天皇]が親王のこの時布留の滝見物のお帰りに詠む)
- I1850 玄慶(げんけい;法諱・式部卿法印)1218-9881 真言僧;報恩院流憲深門;150印可受/57灌頂受、報恩院に岳西院開;岳西院流の祖、1273「三宝院結縁灌頂事」「六合釈綱要」「独力本末」著
- I1851 元敬(げんけい・竹中たけなか) ? - ? 江前期の文筆家、1609有馬晴信がポルトガル船マードレ・デウス号を撃沈した長崎事件顛末記「黒船燔沈記」著
- B1863 元珪(元圭げんけい・中根なかね、名;璋、定秀男/本姓平)1662-173372 近江浅井郡の暦算家/京白山住、算学;田中由真・建部賢弘門、1711京銀座役人/将軍吉宗の改暦計画参加、日月観測;貞享暦の正確さを証明、儒・医・韻律に精通、1685/1725「古暦便覧」著、1692「異体字弁」96「三正俗解」、「暦算啓蒙」「天元蒙幼」、1732「日月高測」「地径算法」外著多、[元珪(;字)の別字/通称/号]別字;有定/元球、通称;十次郎/丈右衛門、号;白山/律襲軒/律衆軒/律聚、法号;光秋院、彦循げんじゅんの父
- I1852 玄圭(げんけい・新井あらい、了庵)?-? 江前期1673-1704頃医者、1675「食物摘要」-94「食物本草大成」著
- I1853 玄契(げんけい;法諱) ? - ? 江中期1716-36頃黄檗僧、豊前小倉福聚寺の法燈?、「即非一禅師伝」「法雲洞禅師伝」「愚禅智師伝」著
- E1806 愿卿(げんけい;字・服部はっとり/修姓;服、名;惟恭、南郭男)1724-40天逝17歳 江戸の儒者、詩/文に長ず、1739「蒙求啓蒙」40「鍾情集」、「蒙求国字辨」著
- I1854 玄圭(げんけい・石田いしだ、名;恒)?-1817 上州高井村の医者、和算暦学;藤田貞資門;1803免許、1781「授時暦精正」「発蒙筌」87「暦学小成」85「算法雑記」99「索綯歌」1801「綴術」外著多数、[玄圭(;通称)の号]一徳子/一恵子いとくし/斑亭
- 源慶(げんけい、僧) → 源慶(げんきょう・平安期歌人) B 1 8 5 6
- 原卿(げんけい・内海) → 雲石(うんせき・内海うつみ、槍術/漢学) D 1 2 8 6
- 原卿(げんけい・奥田) → 橘園(きつえん・奥田おくだ、儒者) L 1 6 4 1
- 言継(げんけい・山科) → 言継(ときつぐ・山科/仙、廷臣/歌人) 3 1 3 3
- 言経(げんけい・山科) → 言経(ときつね・山科、廷臣/故実/歌/「謡抄」) 3 1 3 4
- 言卿(げんけい・細川) → 林斎(りんさい・細川ほそかわ、篆刻家) K 4 9 3 2
- 元恵(げんけい・植木) → 椒園(しょうえん・植木うえき、詩人) H 2 2 3 2

元恵(げんけい・安田)	→	元真(げんしん・安田やすだ、医者/歌人)	O 1 8 0 0
元慶(げんけい、僧)	→	元慶(げんぎょう・平安期法師/歌人)	D 1 5 5 7
元慶(げんけい・原)	→	元慶(もとよし・原はら、藩士/儒/詩人)	L 4 4 0 8
元卿(げんけい・田中)	→	適斎(てきさい・田中、儒者)	B 3 0 8 9
元卿(げんけい・春田)	→	九臯(きゅうこう・春田はるた、藩士/儒者)	I 1 6 7 3
元卿(げんけい・三浦)	→	清陰(せいいん・三浦みうら、儒者)	H 2 4 3 9
元卿(げんけい・井上)	→	杉長(さんちよう・井上のうえ、医者/俳人)	E 2 0 5 8
元卿(げんけい・神谷)	→	藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家)	C 4 8 7 5
元卿(げんけい・細貝)	→	栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者)	B 4 9 6 1
元卿(げんけい・棚谷)	→	桂陰(けいいん・棚谷たなや、医者)	F 1 8 2 5
元卿(げんけい・武居)	→	筋庵(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人)	K 2 4 6 9
元敬(げんけい・毛利)	→	元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人)	E 4 4 7 3
元敬(げんけい・青木)	→	瑞翁(ずいおう;号・青木、藩士/古銭蒐集)	E 2 3 2 2
元敬(げんけい・瀧野)	→	元敬(もとか・瀧野たきの、本草家)	C 4 4 8 0
元敬(げんけい・中村)	→	信斎(しんさい・中村なかむら、外科医)	O 2 2 5 2
元敬(げんけい・浅見/松田)	→	伝十郎(でんじゅうろう・松田、幕臣/樺太探検家)	D 3 0 7 7
元敬(元慶げんけい→もとよし・三神)	→	土麿(ひじまろ・三神みかみ、医者)	C 3 7 3 5
元敬(げんけい・大石)	→	円(まどか・大石おおいし、国学/勤王)	O 4 0 2 5
元圭(げんけい・高平)	→	斗興(とこう・高平たかひら、俳人)	L 3 1 7 0
元圭(げんけい・谷)	→	其章(もとかき・谷たに、医者)	B 4 4 9 8
元桂(げんけい;法諱)	→	九峰(きゅうほう;道号・元桂、黄檗僧)	M 1 6 9 0
元桂(げんけい・津島)	→	北岳(ほくがく・津島つしま、文筆家)	C 3 9 9 7
元啓(げんけい・張)	→	月樵(げつしょう・張ちよう、絵師)	H 1 8 1 0
元啓(げんけい・石松)	→	元啓(もとひろ・石松いしまつ、儒者/歌)	E 4 4 1 5
元啓(げんけい・頼)	→	誠軒(せいけん・頼らい、藩儒)	I 2 4 4 4
元啓(げんけい・谷)	→	六蔵(ろくぞう・谷たに、神職/国学)	C 5 2 8 0
元経(げんけい・日高)	→	五明(ごめい・日高ひだか、酒造業/俳人)	N 1 9 7 5
元継(げんけい/もつぐ・奥田)	→	尚斎(松斎しょうさい・奥田、儒者)	S 2 2 3 1
元景(げんけい・浦/橋)	→	元景(もとかげ・橋たかはな/浦、医者)	C 4 4 2 2
彦敬(げんけい・増井)	→	玄覧(げんらん・増井ますい、儒者/詩)	F 1 8 0 1
彦敬(げんけい・国富)	→	鳳山(ほうざん・国富くにとみ、藩士/儒者)	B 3 9 0 3
彦契(げんけい→げんかい;法諱)	→	密雲(みつうん;道号・彦契、曹洞僧)	D 4 1 1 0
彦卿(げんけい・小笠原)	→	庸昌(つねまさ・小笠原おがさわら、儒医)	D 2 9 7 5
玄圭(げんけい・大友)	→	吉徳(よしのり・大友おおとも、医者)	F 4 7 8 9
玄契(げんけい→げんかい;法諱)	→	宜黙(ぎもく;道号・玄契、曹洞僧)	M 1 6 1 0
玄敬(げんけい・藁科)	→	立遠(りゅうえん・藁科わらしな、藩士/記録)	C 4 9 9 8
玄敬(げんけい・佐々井)	→	茂庵(もあん・佐々井さい、産科医)	4 4 0 0
玄慶(げんけい・栗山)	→	孝庵(2世こうあん・栗山、医者/解剖)	H 1 9 2 2
玄慶(げんけい・山本)	→	眞蒼(ますが・山本やまもと、医者/歌人)	T 4 0 5 4
元猯(げんげい;法諱)	→	金毛(きんもう;道号・元猯、黄檗僧)	R 1 6 8 8
元猯(げんげい;法諱)	→	弘巖(こうがん;道号・元猯、臨濟僧)	I 1 9 1 1
巖敬(げんけい・白玖)	→	武文(たけふみ・白玖はく/しらく、神職/歌)	V 2 6 1 5
謙敬院(けんけいいん)	→	隆英(りゅうえい;法諱、真宗僧)	L 4 9 2 8
遣迎院(けんげいいん)	→	境空(きょうくう;法諱、浄土僧/歌人)	C 1 6 3 6
玄圭院(げんけいいん;法号)	→	信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌)	C 3 5 9 5
愿敬院(げんけいいん;法号)	→	政陽(まさあき・内藤、藩主/詩人)	4 0 9 6

E1808 堅結(けんけつ) ? - ? 京の俳人1633「犬子集」3句入;582/707/1365

[何いつれ聞かん伽羅の初音と時鳥](犬子集:三707/どちらを聞くか迷う)

兼潔(けんけつ・醍醐) → 兼潔(かねきよ・醍醐だいで、廷臣/右大臣) O 1 5 4 4

E1809 兼賢(けんけん、真言阿闍梨) ? - ? 平安期歌、1164仁和寺僧綱、法橋、「山家心中さんかしんちゆう集」入

- 兼賢(けんけん→かねかた・卜部)→ 懐方(兼方かねかた・やすかた・卜部うらべ、神職) C 1 5 7 2  
 兼賢(けんけん・広橋) → 兼賢(かねかた・広橋、廷臣/歌) O 1 5 4 0  
 兼見(けんけん→かねみ・吉田)→ 兼見(かねみ・吉田/卜部、神職) 1 5 3 5  
 顕兼(けんけん・藤原) → 顕兼(あきかね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) I 1 0 9 2  
 健軒(けんけん) → 玄恵(玄慧げんえ、天台僧/宋学/歌/連歌) 1 8 0 8  
 建顕(けんけん・田村) → 建顕(たけあき・田村、藩主/故実/歌) E 2 6 3 3  
 I1855 兼源(けんげん;法諱) ? - ? 南北期?/僧;法印、連歌:1356成立「菟玖波集」1句入  
 [さゝかにははじ(黄櫨)の立枝に糸かけて](前句;それをや人の弓はりといふ)  
 (犬子集では法印兼深けんしん名)  
 兼原(けんげん→かねもと・吉田/卜部)→ 量原(かづもと・町尻、廷臣/記録) M 1 5 5 3  
 建彦(けんげん・伊奈) → 建彦(たけひこ・伊奈いな、神職/国学) O 2 6 6 5  
 建彦(けんげん・佐久間) → 建彦(たてひこ・佐久間さくま/小池/青山、国学) X 2 6 1 5  
 B1866 源賢(源憲げんけん;法諱、別法諱;源珍、幼名;美女丸、源満仲男)977-102044 母:源俊の女、  
 天台僧;源信(恵心僧都)門/966叡山延暦寺阿闍梨/1012元慶寺別当/17別当、歌・源信門、  
 家集「源賢法眼集」/「樹下集」、今昔物語に仲光・幸寿丸との逸話、後拾遺2首;374/1126、  
 [秋はたゞ今日ばかりぞとながむれば夕暮にさへなりにけるかな]、  
 (後拾;秋374/9月尽日の詠)  
 [源賢の号] 多田法眼ただほうげん/撰津法眼/八尾法眼  
 I1856 玄賢(げんけん;法諱・英中:道号、俗姓飯田/坂倉家養子)?-1695 若狭高浜臨濟僧;靈叟玄承門;15歳、  
 諸寺遊学医/南禅寺内光雲寺復興/近江永源寺住持/1667南禅寺280世、「英中和尚語録」  
 B1887 元見(げんけん;法諱・了山りょうざん;道号、俗姓清水)?-1741 近江彦根の黄檗僧;了翁道覚門/1697嗣法、  
 1704撰津徳大寺住寺/京伏見の仏国寺11世/但馬豊岡興国寺6世、「了山禅師開堂語録」著  
 I1857 元絢(げんけん・松井まつい、名;成章、昌胤男)1750-180253 代々仙台の医者、岡部崆峒こうどう門、  
 文;新井滄洲門、医学館教授/侍医/典薬、古医方を主唱;「談医録」著、  
 [元絢(;通称)の号] 竜淵/青松、玄達・梅屋の父  
 元堅(げんけん・多紀) → 元堅(もとかた・多紀たき/丹波、幕府奥医) C 4 4 3 6  
 元堅(げんけん/もとかた・野田)→ 白石(はくせき・野田、醸造業/詩/狂歌) D 3 6 4 7  
 元憲(げんけん・樋口) → 周南(しゅうなん・樋口ひぐち、医者) I 2 1 1 9  
 元憲(げんけん・原) → 元寅(もとのぶ・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1  
 元健(げんけん・菅野) → 元健(もとたけ・菅野すがの、和算家) C 4 4 8 7  
 元硯(げんけん・萩野) → 重英(しげひで・萩野はぎの、医者/歌) S 2 1 4 2  
 玄堅(げんけん・田中) → 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌) G 3 6 6 2  
 玄軒(げんけん・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4  
 玄建(げんけん・奥山) → 立庵(りつあん・奥山おくやま、医者/歌人) M 4 9 5 5  
 巖賢(げんけん;字) → 良恵(りょうえ;法諱・巖賢、融通念仏僧) G 4 9 4 2  
 元憊(げんげん・福原) → 元憊(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8  
 源愿(げんげん) → 楓斎(ふうさい・森もり、書家/儒者) 3 8 6 7  
 言彦(げんげん・小松) → 言彦(ことひこ・小松、国学者) N 1 9 3 4  
 言彦(げんげん・松木) → 言彦(のぶひこ・松木、神主/歌人) C 3 5 8 9  
 元原(げんげん・萩野) → 元凱(げんがい、萩野おぎの、医者/詩) B 1 8 4 0  
 元彦(げんげん・春原) → 元彦(もとひこ・春原はるはら、歌人) D 4 4 9 4  
 玄々(げんげん・田辺) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9  
 玄々(げんげん;号) → 朗然(ろうねん;字・乗円;法諱、真言僧) 5 2 4 3  
 玄々(げんげん・杉原) → 惇(じゅん・杉原、藩医者/詩文) 2 1 8 5  
 幻々庵(げんげんあん) → 光謙(こうけん;法諱、天台僧/教観中興) I 1 9 5 6  
 玄々庵(げんげんあん) → 鳳鳴閣思文(ほうめいかくしぶん、天台僧/狂歌) C 3 9 5 8  
 B1869 玄々一(げんげんいち・竹内たけうち、別号;竹窓ちくそう/有無軒)1742-180463 播磨高野の俳人、幼児に失明、  
 俳諧:播磨の吉田白馬門/江戸の越谷吾山門/勾当に進む、京橋西鍛冶町住、  
 息子の俳人青々せいせい(が)が代筆、没後青々が刊行;1816刊「俳家奇人談」32刊「続俳家奇人談」著、  
 [白魚の洗へば水のにごりけり]

元々居(げんげんきよ) → 美静(びせい/よししず・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2  
 幻々居(げんげんきよ;号) → 詮叟(せんそう;道号・宗註;法諱、臨濟僧) B 2 4 1 9  
 玄々軒(げんげんけん) → 正三(しょうさん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子) S 2 2 4 7  
 謙々斎(けんげんさい) → 介亭(かいてい・伊藤いとう、儒者/書家) B 1 5 1 1  
 乾々斎(けんげんさい) → 忠精(ただきよ・牧野まきの、藩主) F 2 6 0 2  
 乾々斎(けんげんさい・松浦) → 熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革) H 3 7 4 5  
 乾々斎(けんげんさい・岡) → 俊直(としなお・岡おか/藤原、神職/歌人) U 3 1 5 7  
 乾々斎(けんげんさい・乾) → 健輔(けんすけ・乾いぬい、医者/詩歌) N 1 8 6 1  
 幻幻斎(げんげんさい;号) → 通玄(つうげん;道号・法達、臨濟僧) 2 9 2 9  
 玄々斎(げんげんさい・千) → 宗室(8世そうしつ・千せん、茶人/裏千家11世) H 2 5 6 8  
 玄々斎(げんげんさい;号) → 雲子(うんし・松濤軒、真宗僧/俳人) D 1 2 7 5  
 玄々斎(げんげんさい;号) → 紫陌(しはく・大谷、俳人) V 2 1 4 5  
 玄々斎(げんげんさい・錦織) → 義昌(よしまさ・錦織にしじり、藩医/和学) O 4 7 3 8  
 玄々斎(げんげんさい) → 元泰(もとやす・松井、東庵男/製墨業/詩) E 4 4 4 7  
 言々斎(げんげんさい;号) → 広能(ひろよし・大橋/高井、神道家) H 3 7 7 0

I1858 **玄々斎主人**(げんげんさいしゅじん;号)?-? 江後期1781-1804囲碁棋士、  
 江戸書肆須原屋伊八より囲碁関係の書を刊行、  
 1786「古今碁経類聚」/92「碁経選粹」編/93「囲碁定石集」/1806「碁経玉多寿幾」編

玄々山人(げんげんさんじん) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9  
 元々子(げんげんし) → 西鬼(さいき・牧野、俳人) 2 0 6 9  
 巖堅室(げんげんしつ) → 葛根(つなね/くづね/かつね・高須、醸造業/国学) B 2 9 1 8  
 幻々舎(げんげんしゃ) → 長嘯(ちようしょう・北山、俳人) I 2 8 9 6  
 玄々叟(げんげんそう) → 惇(じゆん・杉原、藩医者/詩文) 2 1 8 5  
 玄々亭(げんげんてい) → 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) C 2 6 6 9  
 玄々亭(げんげんてい) → 寿桂(じゆけい・菅かん、郷土史家) Y 2 1 7 1  
 玄々堂(げんげんどう・保居) → 保居(やすおき・玄々堂、数珠製造/絵師) B 4 5 0 5  
 玄々堂(げんげんどう) → 白老(はくろう、真宗僧/俳人) E 3 6 1 7  
 玄々堂(げんげんどう) → 琴而(きんじ・斎藤、商家/俳人) H 1 6 9 4  
 玄々堂(げんげんどう) → 惇(じゆん・杉原、藩医者/詩文) 2 1 8 5  
 玄々堂(げんげんどう) → 公忠(きみただ・深野ふかの/小泉、書肆) M 1 6 0 3  
 玄々堂(2世げんげんどう) → 録山(ろくざん・松田/源、銅版画師) 5 2 8 6  
 幻々簡(げんげんどう) → 岐山(きざん・昇亭/池、読本作者) K 1 6 6 3  
 玄々禿(げんげんとく) → 古道(こどう・村井道静、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1  
 玄々丸(げんげんまる) → 右一(ゆういつ・荒木あらき、藩士/俳人) 4 6 5 6  
 憲彦靈社(けんげんれいしゃ;神号) → 近思(ちかもと・西郷、藩家老/国学) C 2 8 0 5  
 硯湖(けんこ・佐藤) → 誠(まこと・佐藤さとう、藩士/歌/金石学) 4 0 8 1  
 頭古(けんこ→あきひさ・中屋/碓井) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい/中屋、商家/俳人) C 3 6 3 2  
 兼古(けんこ・猪熊) → 千倉(ちくら・猪熊いのかま/ト部、神職) D 2 8 8 4  
 頭古(けんこ・中屋/碓井) → 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2  
 憲古(けんこ・野口) → 喬樹(たかしげ・野口のぐち、藩士/歌人) M 2 6 0 5  
 憲古(けんこ→のりひさ・杉森) → 巽軒(そんけん・志賀/杉森、藩儒/教育) E 2 5 7 8

B1870 **顕悟**(けんご;字、実悟[兼了]男、兼寿[蓮如]の孫) 1535-8955 真宗僧、  
 1585「蓮如上人御一代記聞書」著、  
 父 → 兼了(けんりょう;法諱・実悟;字、真宗僧) M 1 8 9 7

I1859 **肩吾**(けんご・加藤かとう、名;寿、杉田勝正男) 1762-182261 蝦夷松前藩士/1781藩医加藤本立の養子、  
 ;家督嗣/医者/1785(天明5)昌平平覺に修学;平井澹所・葛西因是らと交流、林家の手附、  
 ロシア語を修学;1792根室で大黒屋光太夫からロシア事情聴取/松前藩を致仕、  
 江戸住、石見津和野藩医に招聘、海量法師・柴野栗山と交流、1792「魯西亜実記」著、  
 妻;新井田喜内女、  
 [肩吾(;通称)の字/別通称/号]字;君寿、別通称;本立、号;九阜/白山、法号;禅定院

- N1890 **健吾**(けんご・杉山すぎやま、通称;紋右衛門)?-? 江後期;筑前福岡の生/日向高千穂住;上野村庄屋、国学者;皇道国学を研究;高千穂郷は天孫降臨の聖地と主唱;  
岩戸村土持整信なりぬ(完治)ら庄屋達の支援を受け高千穂神領運動を興す;密かに入京、高千穂神領の勅許を受けるが延岡藩により謀反者として捕縛
- 剣吾(けんご・赤松;変名)→ 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1  
謙吾(けんご・小野寺) → 鳳谷(ほうこく・小野寺、漢学/海防/詩) 3 9 7 6  
堅吾(堅五けんご・上野) → 在方(あrikata・上野うえの/大神、藩士/国学) H 1 0 0 7  
堅固(けんご・向井) → 安重(やすしげ・向井むかい、儒者) B 4 5 6 8
- B1871 **玄虎**(げんこ・藤堂とうどう、名;守壽/字;長兵衛/別号;玄庵)?-1728 伊賀上野藤堂藩士、俳人・芭蕉門、1693頃から芭蕉と親交、1694其角「枯尾花」95浪化「有磯海」998沾圃ら「続猿蓑」入、  
[炭焼に渋柿たのむ便たよりかな](続猿蓑;下/木実)
- 原古(げんこ;道号・志稽)→ 志稽(しけい;法諱・原古、臨濟僧) B 2 1 8 3  
玄虎(げんこ;法諱・大空)→ 大空(だいく;道号・玄虎、曹洞僧) J 2 6 7 3  
玄古(げんこ・尾田、医者)→ 信武(のぶたけ・馬場、儒者/書肆) B 3 5 7 8  
玄古(げんこ・渡辺) → 長易(ながやす・渡辺わたなべ、神道/歌人) P 3 2 3 7  
玄固(げんこ・金) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/漢学;老荘) C 4 8 1 3  
玄湖(げんこ・品水) → 惟明(これあき・品水しながわ、藩医/歌人) Q 1 9 8 9  
幻虎(げんこ・僧濬そうしゅん)→ 鳳潭(ほうたん;字・僧濬;法諱、華嚴僧) C 3 9 2 5  
元古(げんこ・平沢) → 適斎(てきさい・平沢、儒/医者) B 3 0 9 1  
元固(げんこ・石原) → 元固(もとかた・石原いしはら、村吏/国学/歌) J 4 4 2 4  
元個(げんこ;初法諱) → 端倪(たんげい;道号・元弁;法諱、黄檗僧) T 2 6 3 3  
元虎(げんこ・河野) → 元虎(もととら・河野こうの、棋士) D 4 4 3 7  
元願(げんこ・津田) → 元願(もとみ・津田つだ、医者/俳諧) E 4 4 3 4
- 01808 **源五**(げんご;通称・津山つやま、名;不詳)?-? 江前期;上方の武士/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[伊勢の国に侍りける時によめる子日の歌、  
大淀の松もねのひをけさやする浜辺のしほの引くにまかせて]、  
(林葉累塵;春14/大淀の浦は伊勢多気郡の歌枕)
- 元吾(げんご・西村) → 貞亮(さだすけ・西村にしむら、製茶/歌人) P 2 0 0 6  
玄吾(げんご・賀川) → 有斎(ゆうさい・賀川かがわ、産科医) B 4 6 7 3  
源五(げんご・白幡) → 義篤(よしあつ・白幡しろはた/源、国学者) N 4 7 3 7  
源吾(げんご・織田) → 有楽(うらく・織田おだ、武将/茶人) 1 2 9 6  
源吾(げんご・御菌) → 常心(じょうしん・御菌みその/源、鍼医) K 2 2 0 3  
源吾(げんご・大高、忠臣蔵義士)→ 子葉(しよ、俳人) K 2 1 7 4  
源吾(げんご・三苦/亀井)→ 雷首(らいしゅ・亀井/三苦みとま、医者/儒) 4 8 5 5  
源吾(げんご・椿) → 仲輔(なかすけ・椿つばき、国学/歌) D 3 2 8 7  
源吾(げんご・伊藤) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒学) 2 2 2 3  
源吾(げんご・井関) → 美清(よしずみ・井関、藩士/歌人) D 4 7 8 6  
源吾(げんご・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3  
源吾(げんご・永沢) → 躬国(みくに・永沢ながさわ、歌人) 4 1 8 0  
源吾(弦吾げんご・布川) → 菱潭(りょうたん・布川ぬのかわ、儒/兵学者) I 4 9 8 2  
源吾(げんご・桂) → 宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師) C 4 2 1 3  
源吾(げんご・山本) → 楽所(らくしよ・山本やまもと、藩儒) B 4 8 2 2  
源吾(げんご・菊池;変名)→ 隆盛(たかもり・西郷さごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2  
源吾(げんご・井上) → 北林(ほくりん・井上いのうえ、藩士/鷹匠) E 3 9 1 0  
源吾(げんご・土岐) → 蓑虫山人(みのむしさんじん、絵師) H 4 1 4 0  
源吾(げんご・井関) → 美清(よしずみ・井関いぜき、藩士/歌人) D 4 7 8 6  
源吾(げんご・青木) → 広澄(ひろずみ・青木あおき、歌人) L 3 7 8 4  
源吾(げんご・高梨) → 時胤(ときたね・高梨たかなし、歌人) V 3 1 6 3  
源吾(げんご・本多) → 吉道(よしみち・本多ほんだ/新保/妻戸、神職) P 4 7 0 2

- 源吾(げんご・黒沢) → 道毅(みちたけ・黒沢くろさわ、神職/国学) J 4 1 0 2  
 源吾(げんご・岩崎) → 忠屋(ただいへ・岩崎いわさき、国学者) V 2 6 7 4  
 源吾(げんご・中野) → 泰行(やすゆき・中野なかの、神職/国学) G 4 5 3 3  
 玄个庵(げんごあん・岡本) → 个庵(ごあん・淀屋、商家/歌/連歌) H 1 9 0 3
- N1839 源五一(げんごいち・柏木かしわぎ)?-? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
 [くゝし染嶋立つ沢の浪の紋](物種集/前句;竹の子の皮穂あきの夕暮、  
 括染;不必要な部分は竹の皮で括り染め抜く/嶋立つ沢;相模の歌枕、  
 新古今;秋362西行;心なき身にもあはれは知られけり嶋立つ沢の秋の夕暮)
- 1812 兼好(けんこう;法名・吉田;称、俗名;卜部うらべ兼好かねよし、卜部兼頭男)1283?-1352?70? 堀川家家司、  
 藏人、左兵衛佐、1313までに出家/小野庄/修学院/横川住/1318頃関東下向、歌;為世門、  
 和歌四天王の1(浄辨・頓阿・慶運と)、随筆「徒然草」著(鎌倉末期から断片的執筆)、  
 1344足利直義勸進「金剛三昧院奉納和歌」参/50二条為世十三回忌和歌に出詠、  
 「兼好法師集」「古今集註」「民部卿家褒貶」著、  
 勅撰18首:続千載(2004)続後拾(901)風雅(1855)新千(3首)新拾(3首)新後拾(3首)以下、  
 [よき友三つあり 一つには物くるる友 二つには医師 三つには智恵ある友](徒然草)  
 [いかにしてなぐさむものぞうき世をもそむかて過す人に問はばや](続千;雑2004)  
 [遠ざかる別れと何か思ふらむただそのままの秋の夕暮](為世13忌歌;136/懐旧)
- C1821 顕香(けんこう/あきよし?、北条ほうじょう、貞顕甥?)?-? 鎌倉幕府御家人、  
 早歌;1319月江「玉林苑;日精徳」作詞
- I1861 顕幸(けんこう;法諱、極楽坊法印)1297?-?1368頃存 京の天台僧:盧山寺の明導照源門、法印、  
 「文句見聞」「文句述聞」「即身義抄」「止観見聞」「天台三大部見聞」、1352「十不二門聞書」著
- I1862 建綱(けんこう;法諱) 1413 - 146957 越前曹洞僧:慧林門/宝慶寺14世/1468永平寺13世、  
 「宝慶寺由緒記」著
- B1873 賢行(けんこう) ? - ? 連歌師、1443盛長催「熊野千句」入
- I1863 賢江(けんこう;道号・祥啓しょうけい;法諱、絵師丸良氏の男?)?-? 室町期宇都宮の絵師/臨濟僧、  
 鎌倉建長寺の書記/宝寿院住、画:1478真芸門、「瀟湘八景図」「達磨図」「巢雪斎図」画、  
 [賢江祥啓の通称/号]通称;啓書記、号;竜杏/雪溪/貧楽斎/休月斎
- I1864 賢厚(けんこう;法諱) ? - ? 1687存 江前期備前天台宗遍照院住僧、  
 1687「内作業灌頂私記末」著
- I1865 謙光(けんこう;道号・寂泰じゃくたい;法諱、別道号;恵空、松崎是休男)1678-174669 肥前佐賀の黄檗僧、  
 1693(16歳)出家/行脚/96上京/崇福寺大衡海権門、1702諸国行脚/07大衡の嗣法、  
 1720長崎崇福寺緑蘿庵住/39高島茂健の帰依;銭屋河畔の臨川院住、書/詩文、  
 「同道唱和」著、  
 [謙光寂泰の号] 東谷
- I1866 甄洪(けんこう;法諱) ? - ? 江中期1746-89頃京真宗本願寺派僧、  
 1766「真宗仏身彰実義」、「真宗仏身印相義」著
- I1867 謙光(けんこう;法諱) ? - ? 江中期1764-89頃京の浄土宗乘願寺住僧、  
 1785「諦忍律師法語」編、「華頂山大谷寺知恩教院略記」著
- I1868 顕孝(けんこう;法諱) ? - ? 江中期曹洞僧、指月慧印の侍者、  
 1767「拈評三百則不能語」編
- I1869 賢篁(けんこう;法諱) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃加賀真宗妙覚寺僧、  
 1796「聖人一流御文義海録」、「言南無者五句聞講録」「一枚起請講要」
- O1801 堅光(けんこう;法諱・山田やまだ、) ?-1830 豊前の生/近江彦根の曹洞僧;清涼寺19世、  
 歌人:[鳩のうみ]入
- N1885 賢高(けんこう;法諱・那須なす、号;普光院)1789-185466 近江蒲生郡の浄土宗弘誓寺ぐい住職、  
 国学;長野義言よこと門、歌人:[鳩のうみ]入
- 堅光(けんこう;法諱・寂室) → 寂室(じゃくしつ;道号・堅光、曹洞僧/歌) V 2 1 9 8  
 堅光(けんこう・小谷) → 古蔭(ふるかげ・小谷こたに、国学/書家/神職) E 3 8 6 5  
 顕孝(けんこう・葉室) → 顕孝(あきたか・葉室、廷臣/歌人) 1 0 6 7  
 顕孝(けんこう・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5

顕孝(けんこう・田母神)	→	顕孝(あきたか・田母神たもがみ、藩士/記録)	D 1 0 4 8
顕孝(けんこう・渡辺)	→	顕孝(あきたか・渡辺わたなべ、神職/国学)	I 1 0 8 2
顕孝(けんこう・山田)	→	松斎(しょうさい・山田、儒者;農事改善)	J 2 2 0 1
顕考(けんこう・鉄)	→	復堂(ふくどう・鉄てつ、儒者/教育者)	B 3 8 6 0
顕行(けんこう・田村)	→	顕行(あきゆき・田村たむら、国学/神道)	H 1 0 8 7
顕綱(けんこう・藤原)	→	顕綱(あきつな・藤原、歌人)	1 0 4 5
顕光(けんこう・藤原)	→	顕光(あきみつ・藤原、廷臣/歌人)	C 1 0 5 9
顕光(けんこう・柴田)	→	顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人)	H 1 0 7 2
兼康(けんこう・源)	→	兼康(かねやす・源みなもと、廷臣/歌人)	D 1 5 1 3
兼康(けんこう・丹波)	→	兼康(かねやす・丹波たんば、廷臣/医者)	P 1 5 0 0
兼香(けんこう・鷹司/一条)	→	兼香(かねか・一条、関白/太政大臣、歌)	O 1 5 3 9
兼綱(けんこう・広橋)	→	兼綱(かねつな・勘解由小路・広橋、廷臣/歌)	C 1 5 8 6
兼孝(けんこう・源)	→	兼孝(かねたか・源、廷臣/歌人)	C 1 5 7 9
兼孝(けんこう・二条/九条)	→	兼孝(かねたか・九条くじょう、関白/故実)	O 1 5 5 6
兼孝(けんこう/かねたか・林)	→	元碩(げんせき・林はやし、心学者)	K 1 8 5 4
兼光(けんこう・金沢)	→	兼光(かねみつ・金沢、造船業)	O 1 5 9 7
兼光(けんこう・齋藤)	→	兼光(ひかり・齋藤、幕臣/本草家)	3 7 4 6
兼行(けんこう・源)	→	兼行(かねゆき・源、廷臣/書家)	F 1 5 7 5
兼行(けんこう・楊梅)	→	兼行(かねゆき・楊梅やまもも、廷臣/歌人)	D 1 5 1 5
兼行(けんこう・英保)	→	兼行(かねゆき・英保あぼ、歌人)	P 1 5 0 2
兼幸(けんこう・糺)	→	兼幸(かねゆき・糺ただす、南北期/歌人)	W 1 5 5 1
兼高(けんこう・木下)	→	兼高(かねたか・木下きのした、神職/国学)	U 1 5 4 3
乾弘(けんこう/かたひろ・千野)	→	尚賢(ひさかた・柳/千野せんの、医者・和算)	3 7 9 4
賢高(けんこう・三浦)	→	八郎左衛門(はちろうざえもん・三浦、藩士)	F 3 6 0 5
賢高(けんこう・能勢)	→	賢高(かたか・能勢のせ、歌人)	S 1 5 9 6
賢弘(賢行けんこう・建部)	→	賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家)	C 1 5 3 4
賢孝(けんこう・玉置)	→	賢孝(よしたか・玉置たまおき/原、醸造/国学)	N 4 7 8 8
賢孝(けんこう・長崎)	→	賢孝(まさたか・長崎ながさき、商家/歌人)	R 4 0 2 6
謙光(けんこう・清水)	→	栄太郎(えいたろう・清水しみず、歌人)	D 1 3 1 5
謙光(けんこう・四辻/裏松)	→	謙光(かたみつ・裏松うらまつ、廷臣/歌)	N 1 5 1 0
謙光(けんこう・高村)	→	悠斎(有齋ゆうさい・高村、医者/心学)	B 4 6 7 6
建康(けんこう;法号)	→	忠利(ただとし・酒井さかい、藩主)	Q 2 6 0 2
硯耕(けんこう/硯耕堂)	→	川蔭(かわかげ・小山おやま、藩士/画/歌人)	S 1 5 8 4

- B1872 **元泉**(げんこう;法諱・字;真言房、藤原晨省男)914-99582 真言僧;醍醐元方門/上醍醐延命院住、981権律師/982権蔭僧都/983東寺二長者/984法務/権僧大僧都/988延命院退院、「照阿鈔」著、「宇文集」「胎蔵界口伝抄」「延命院口記并口決」著、「延命院次第」編外多数、雨僧正仁海の師、[元泉の通称] 醍醐僧都/延命院僧都
- B1874 **玄幸**(げんこう) ? - ? 室町期連歌師、1445垂水入道日晟にちせい亭「文安月 ぶんあんつき 千句」参加;第五何路発句
- I1870 **元亨**(げんこう;道号・通泉つうせん;法諱)?-? 室町前期臨濟僧:一峰通玄門/嗣法、「河滴集」
- I1871 **元綱**(げんこう/もとつな) ? - ? 連歌、1464?盛長「熊野千句」参
- D1842 **玄孝**(げんこう;法諱・釈) ? - ? 戦国期の僧(石山本願寺関係の僧)、歌人、1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加(;判者柳原資定)、[さらでだに月に寝られぬ秋の夜をなほ松風の吹きすさぶらむ](永禄歌合;月前松風五番右)
- I1872 **元賡**(げんこう;道号・有雅ゆうが;法諱)?-? 1616存 臨濟僧;京南禅寺語心院住/聯句;1611和漢聯句
- I1873 **玄広**(げんこう;法諱・字;性深しょうじん/性源、俗姓:落合)1556-161661 武田信玄一族/甲斐西郡真言僧、駿府府中総持院住;今川氏の帰依、慶長1596-1615頃高野山竜華院住;碩学職、無量光院住、疏釈論研究;論稿百帖、「宗義論」「釈論古草」「般若心経秘鍵鈔」「釈論決扱書」、

- 「遮意許意」「般若理趣經愚解鈔」「釈論第五科」「科理趣經愚解鈔」「根本無明自体断」外著多  
 B1875 **源幸**(げんこう、鳥山党) ? - ? 江前期説話伝承者;(宗珍・牛庵らと)  
 「奇異雑談さいどうだん集」共編(上巻10・11話を伝承)
- B1876 **玄康**(げんこう・栗田くりた) ? - ? 江前期山城伏見の俳人/狂歌作者、  
 1638西部「鷹筑波集」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 「百首狂歌」著(完本は散佚)、  
 [法華経ぞ小鳥の中で鶯は最き第一の初音也けり](夷曲集;22/法華経は諸経第一)、  
 [出いでてから天庭にいるな月の弓](手鑑/天庭;額に中天を掛る/射ると入るを掛る)
- B1877 **玄光**(げんこう;法諱・**独庵**どくあん;号・蒙山;道号) 1630-9869 肥前佐賀の曹洞僧;長崎の明僧超元門、  
 長崎皓台寺月船宗林門/法嗣/皓台寺住職、宗弊改革運動の先駆者、詩、「清朝考証」、  
 「経山独庵集」「経山独庵叟護法集」「独菴稿」「独菴絶句」「独菴俗談」「独菴独語」、  
 「睡菴藁」「睡菴會藁」「蒙山対客」「止躁警誡録」外著多数、「本朝四家絶句」の四家の1、  
 [独庵玄光の別号] 睡庵
- I1874 **元亨**(げんこう;法諱・雪門せつもん;道号) 1638-172588 黄檗僧;慧極道明門;出家/1680嗣法、  
 1695長門萩の東光寺住持住持、撰津河辺郡昆陽こや新田村の常休寺住持、晩年は望来院隠棲、  
 「石丈高公大徳行業記」「雪門禅師語録」著
- I1875 **玄香**(げんこう・浅井あさい、名;善成、) 1647-94絶食死 48 紀州和歌山藩士;徳川頼宣に出仕、  
 藩政を誹謗:伊勢田丸に幽閉、絶食して死亡、詩、「長保寺夢物語」著、  
 [玄香の通称/別号]通称;駒之助、別号:貫斎/半溪
- I1876 **元曠**(げんこう;法諱・海門かいもん;道号) ?-? 江戸前期加賀曹洞僧;月坡道印(1716没)門/嗣法、  
 「月坡清吟」編/82「月坡禅師語録金竜天徳院」編、86「涵虚集」、「源流略伝」編
- B1846 **元行**(げんこう/もとゆき?・土山) ?- ? 伝不詳、1666行風「古今夷曲集」入、
- I1877 **元好**(げんこう;通称・服部はっとり) ?- ? 江戸前期加賀金沢の町医者、狂歌、北枝と交遊、  
 「軒端集」著
- I1878 **元広**(げんこう) ? - ? 江戸前期俳人;1689「あら野」入、  
 [去年ごぞの春ちひさかりしが芋頭いもがしら](曠野;二)
- I1879 **玄効**(げんこう;通称・福井ふくい、名;信章、号;蒙庵/汲庵、玄孝男) 1662-174483 仙台の医者;父門、  
 仙台藩侍医;父の遺跡/法橋、「医箴」著
- B1878 **元厚**(げんこう・堀ほり/本姓:菅原、名;貞忠) 1686-175469 山城山科の医者:小川朔庵門、京で開業、  
 俳諧;一雪門/能;火消能と称された、宣長の医学の師、洄瀾の父、  
 「煙酒録」「医案啓蒙」「医学捷徑」「医学須知」「灸熯きゅうぜつ要覧」「隧輪通攷」外著多数、  
 [元厚(;字)の号]号;北渚/釣雪、法号;青雲院
- I1880 **玄浩**(元浩げんこう・岩永いわなが/太田/修姓;太、字;兼英、号;耕月堂) ?-? 医者;松岡怨庵門/町医、  
 灸治、博物学/本草;1736江戸本石町開設の人参座で和人参を製す、1732「葶類或問」著、  
 1735「名物記録」編、「植物辨」「神農本経」「東方介品攷」「名物彙考」「和人参有無之辨」著
- B1879 **元高**(げんこう) ? - ? 連歌師、1743「吉宗還暦賀千句」連衆
- I1881 **玄亨**(げんこう;通称・中山なかやま、名;治貞/永貞、宗仙男) 1697-177983 佐渡中原医者;朔庵/玄達門、  
 1724京で開業/37官医今小路親頼門:御医/法眼、詩歌、「禁裏御医者日記」  
 [玄亨の字/号] 字;季通、号;蘭渚/随心院、諡号;貞節先生
- I1882 **玄岡**(げんこう・坂元/坂本さかもと、名;輔/字;子徳) 1773-185886 陸前の儒者/昌平黌入学、  
 柴野栗山・尾藤二洲・古賀精里門/昌平黌舎長、帰郷;仙台涌谷邑伊達家臣/邑学督学;教育、  
 1826「論語一得」、「互理家譜」著、  
 [玄岡(;号)の通称]通称;馬之允うまのじょう
- N1850 **玄孝**(げんこう・中村なかむら) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [天の川流るる水のはやき瀬に今宵一夜のしがらみもがな](大江戸倭歌;秋720/七夕川)
- I1883 **玄航**(げんこう;法諱、顕成就院、俗姓;中山なかやま、菅田嘉平次男) 1827-1917長寿 91 播磨の生、  
 1835天台宗比叡山に入、37得度/59中山忠能の猶子、68(明治元)大僧都/90大僧正、  
 1900(明治33)天台座主、「徒然集」「当流引直私記」「十度伝法私記」外著多数  
 元光(げんこう;法諱) → 寂室(じやくしつ;道号・元光;法諱、臨濟僧) G 2 1 1 9

元光(げんこう・武田) → 元光(もとみつ・武田、武将/伝統保護) E 4 4 3 8  
 元光(げんこう/もとみつ・小槻) → 于恒(ゆきつね・小槻/壬生、廷臣/記録) E 4 6 9 4  
 元光(げんこう;法諱) → 宝月(ほうげつ;道号・元光、黄檗僧) F 3 9 8 3  
 元行(げんこう) 上記以外 → 元行(もとゆき)  
 元功(げんこう・益) → 元功(もとのり・益ます、神道・国学) L 4 4 3 2  
 元孝(げんこう・南江) → 元孝(もとたか・南江なんえ、歌人) M 4 4 0 1  
 元孝(げんこう・藤崎) → 元孝(もとたか・藤崎ふじさき、鷹匠) C 4 4 8 5  
 元孝(げんこう・山本) → 元孝(もとたか・山本やまもと、国学者/歌人) L 4 4 8 3  
 元皓(げんこう;法諱) → 大潮(だいちよう;道号・元皓、黄檗僧) B 2 6 8 8  
 元皓(げんこう;法諱) → 月村(げつそん;道号・元皓、黄檗僧) H 1 8 2 0  
 元皓(げんこう) → 湛然(たんねん・元皓、黄檗僧) T 2 6 5 9  
 元皓(げんこう;法諱) → 湛然(たんねん;道号・元皓、黄檗僧) T 2 6 5 9  
 元広(げんこう;法諱) → 峻山(しゅんざ;道号・元広、黄檗僧) K 2 1 8 0  
 元広(げんこう・富士谷) → 元広(もとひろ・富士谷/藤原、藩士/国学) E 4 4 1 7  
 元弘(げんこう・藤門) → 元弘(もとひろ・藤門ふじかど、歌人) E 4 4 1 0  
 元弘(げんこう・江馬) → 松斎(しょうさい・江馬えま、医者) J 2 2 0 3  
 元康(げんこう・毛利) → 元康(もとやす・毛利/大江、武将/連歌) E 4 4 4 6  
 元好(げんこう・粟津) → 元好(もとよし・粟津/藤原、本願寺坊官) E 4 4 7 6  
 元好(げんこう・三好) → 元好(もとよし・三好みよし、藩士/歌人) L 4 4 5 4  
 元幸(げんこう・舎人/野村) → 立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) C 4 9 8 5  
 元幸(げんこう・野村) → 立栄(2世りゅうえい・野村/野、初世男/医者) C 4 9 8 7  
 元高(げんこう/もとたか) → 菊所(きくしょ・木下きのした、医者/詩人) K 1 6 1 2  
 元高(げんこう/もとたか・田村/田西) → 琴溪(きんけい・劉、儒者/詩) D 1 6 9 4  
 元僞(げんこう・片山) → 童観(どうかん・片山、儒者/医) C 3 1 3 8  
 元臯(元皐げんこう・田代/長川) → 東洲(とうしゅう・長川ながかわ、儒者) E 3 1 9 8  
 元剛(げんこう・美代) → 敦本(厚本あつもと・美代みしろ、儒者/医) E 1 0 8 9  
 元剛(げんこう・安岡) → 親毅(ちかたけ・安岡やすおか、郷土史家) B 2 8 1 3  
 元興(げんこう・三宅) → 橘園(きつえん・三宅みやけ、儒者) B 1 6 5 0  
 元興(げんこう・本田) → 治兵衛(じへいゑ・浜武はまたけ/本田/藤原、宿老/洋砲) V 2 1 6 2  
 元興(げんこう・筒井) → 尚堂(しょうどう・筒井つひ、書家) L 2 2 1 9  
 元興(げんこう・平井) → 元興(もとおき・平井ひらい、藩儒/歌人) L 4 4 1 3  
 元浩(げんこう・人見) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C 1 9 8 0  
 元浩(げんこう・稲田) → 元浩(もとひろ・稲田いなだ、医者/国学・歌) E 4 4 1 2  
 元恒(げんこう・有馬/山本) → 亨斎(こうさい・山本やまもと、藩士/儒者) I 1 9 9 3  
 元厚(げんこう・村上) → 松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師) R 2 2 6 2  
 元恒(げんこう・中村) → 中侖(ちゅうろん・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6  
 元綱(げんこう・毛利) → 元綱(もとな・毛利/大江、武将/兵法家) D 4 4 1 2  
 元綱(げんこう/もとな・湯川) → 東軒(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩) D 3 1 3 3  
 元綱(げんこう・松村) → 元綱(もとな・松村まつむら、通詞/地理) D 4 4 1 3  
 元綱(げんこう・三輪田) → 元綱(もとな・三輪田みわた、国学/神職) D 4 4 1 4  
 元衡(げんこう・松本/須藤) → 忘斎(ぼうさい・須藤すどう、藩士/教授) 3 9 9 1  
 元衡(げんこう/もといら・滝沢) → 有節(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3  
 阮交(げんこう・海保) → 酔茗(すいめい・海保かいほ、篆刻家) F 2 3 0 3  
 玄光(げんこう;法諱) → 舜嶽(しゅんがく;道号・玄光、臨濟僧/聯句) Z 2 1 5 6  
 玄厚(げんこう・築山) → 築山(らくざん・築山つきやま、絵師) B 4 8 1 5  
 玄弘(げんこう・大宗) → 大宗(だいしゅう/たいそう・玄弘、臨濟僧) K 2 6 2 1  
 玄興(げんこう・南化) → 南化(なんか;道号・玄興;法諱、臨濟僧) I 3 2 5 5  
 玄興(げんこう;法諱) → 徹伝(てつでん;道号・玄興、臨濟僧) E 3 0 7 4  
 玄縞(げんこう・鶴田) → 皓(あきら・鶴田、儒者/法律家) E 1 0 2 3  
 玄黄(玄広げんこう・服部) → 範忠(のりただ・服部はっとり、医者/本草学) G 3 5 4 1

玄黄(げんこう・天地) → 天地玄黄(てんちげんこう、狂歌作者) E 3 0 0 4  
 言行(げんこう・山科) → 言行(ときゆき・山科、廷臣/日記) K 3 1 2 7  
 言行(げんこう・倉地) → 言行(のぶゆき・倉地くらち、歌人) D 3 5 7 5  
 言行(げんこう・小島) → 言行(ことゆき・小島こじま、藩士/歌人) Q 1 9 7 0  
 言綱(げんこう・山科) → 言綱(ときつな・山科、廷臣/歌人/書家) J 3 1 3 4  
 彦公(げんこう) → 浄嚴(じょうごん; 法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2  
 彦公(げんこう・錦部) → 彦公(ひこきみ・錦部にしごり/高橋、廷臣/詩) 3 7 5 3

I1885 源豪(げんごう; 法諱・初諱; 行豪、号; 大仙房) ?-1398 南北期天台僧; 承基・観昭・定顕・良暁門、山城石清水八幡宮社僧、1378園城寺の探題/大僧都、「四度授法日記」1373「天台座主補任次第」著

I1884 巖豪(げんごう・ごんごう; 法諱) 1350-1416 67 天台僧; 鎮西宝持院住職、穴太流; 豪鎮門、京住; 西山宝菩提院継承/光静房住、天台法印権大僧都、「四度授法日記」著、1403「胎式金式合式」「秘密灌頂至極号第五昧耶」/1411「秘密灌頂山家大師流」著

元轟(げんごう; 法諱) → 黙山(もくざん; 道号・元轟、曹洞僧) 4 4 8 7  
 幻交庵(げんこうあん) → 寂翁(じやくおう・石塚/石束、歌人) V 2 1 9 1  
 建功院(けんこういん) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8  
 乾光院(けんこういん) → 頼稔(よりとし・土岐とき、藩主/歌人) J 4 7 2 0  
 賢剛院(けんごういん) → 忠籌(ただかず・本多ほんだ、藩主/改革) P 2 6 3 0  
 玄孝院(げんこういん) → 日堯(にちぎょう; 法諱、日蓮僧) B 3 3 3 4  
 兼康愷(けんこうがい) → 百濟(ひやくさい・兼康かねやす、医/儒者) E 3 7 4 9

I1800 玄黄斎(げんこうさい・森もり/松本、名; 山中則高[太七]2男) 1807-86 80 母; 新井りま女じよ、武州秩父伊勢山の画工; 墨溪門、絵師/彫刻家/書家、国学/歌人; 高松公祐きみすけ門、詩文を嗜む秩父絹商松本久次郎の養子; 離縁、奈蔵村の豪商森もり伊左衛門女の悦と結婚; 婿養子、小鹿村住/1833将軍に象牙刻を献上、国学/歌人; 1849高松公祐きみすけ門、詩文を嗜む、1884民権の秩父事件連座、1886(明治19)没、11歳「将棋の駒」制作/細刻「孔子とその弟子3,000人」/「玄黄斎自画像」「鐘馗」画、「山水五疋虎の図」画、「印籠譜」著、  
 [玄黄斎(;)号)の別名/通称/別号] 庄吉(幼名)/金道(初名)/広正ひろまさ、通称; 権左衛門/権衛  
 別号; 竹貫/竹雅/清浄軒/清浄園

玄香斎(げんこうさい) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7  
 玄黄斎(げんこうさい) → 広正(ひろまさ・森もり/山中、絵師/詩歌) M 3 7 0 8  
 元鎬士(げんこうし) → 正亮(まさすけ・村山むらやま、剣術家) C 4 0 9 3  
 顕孝寺(けんこうじ) → 貞宗(さだむね・大友/平、守護/歌人) C 2 0 5 2  
 巖香舎(げんこうしゃ; 香道) → 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) N 1 9 3 5  
 玄甲舎(げんこうしゃ) → 得水(とくすい・金森かなもり、国学/茶人) L 3 1 0 8  
 硯耕生(けんこうせい) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4  
 謙光先生(けんこうせんじょう) → 黙堂(もくどう・緒方おがた、儒者) B 4 4 0 2  
 建興亭(けんこうてい) → 町丸(まちまる・建興亭、狂歌) J 4 0 6 4  
 玄光亭(げんこうてい) → 金墨(きんぼく・玄光亭、骨董商/戯作者) R 1 6 7 8  
 元広堂(げんこうどう) → 源太夫(げんだゆう・阿部あべ、農家) L 1 8 0 1  
 玄黄洞主(げんこうどうしゅ) → 眞幸(まさき・樋口ひぐち、藩士/漢学者) S 4 0 0 7  
 言幸之舎(げんこうのや → ことさきわいのや) → 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、国学) 3 7 1 4  
 巖興靈(げんこうれい) → 春満(あずまろ・荷田かだ/羽倉、国学/歌学) 1 0 1 8  
 顕興靈神(けんこうれいしん) → 国頭(くにあきら・杉浦さぎうら、神職/国学) 1 7 1 7  
 源五右衛門(げんごえもん・山鹿) → 義一(よしかず・山鹿やまが、藩士/兵学者) C 4 7 4 8  
 源五右衛門(げんごえもん・丸田) → 正通(正道まさちか・丸田、藩士/和算) H 4 0 6 0  
 源五右衛門(げんごえもん・桂) → 森貞(もりさだ・桂かつら、藩士/国学) J 4 4 7 0  
 源五右衛門(げんごえもん・鈴木) → 重賢(しげかた・鈴木すずき、藩士/国学・歌) Z 2 1 0 7  
 源五右衛門(げんごえもん・亀山) → 筋宇(せつう・亀山かめやま、藩儒) K 2 4 7 0

I1886 賢谷(けんこく; 道号・宗良そりょう; 法諱、俗姓; 吉良) 1557-1621 65 土佐の臨濟僧:

吉良親実が諫言したため土佐藩より吉良一族が切腹を命じられた際脱出;京の東福寺入、三成と親交のため1600関ヶ原戦後出奔;賢谷宗良と改名して大徳寺入;1617大徳寺59世、「吉良物語」著(:一族切腹の話)、

[賢谷宗良の初道号/号]初道号;如淵、初法諱;□(不明)真、

号;泛梗はんこう/真西堂、諡号;本覚広濟禪師

E1810 **謙谷**(げんこく・三野みの、名;知彰、象麓男)1783-1852 70 讃岐高松藩士/家学:徂徠学修学、1809記録所出仕、柴野栗山の異学禁令に反発し致仕/琴平山に隠居、広島 島の頼杏坪に従学/詩文;菅茶山門、塾頭、のち朱子学に転向;1828高松藩出仕/小寄合、「客中雑鈔」「謙谷詩文」「斎子伝」「時賢文集」「観魚園詩集」「三野謙谷雑録」外著多数、[謙谷(;号)の字/通称/別号]字;子剛、通称;新蔵/信平、別号;対鷗亭

父 → 象麓(しょうろく・三野みの、藩士/漢学者) C 2 2 1 6

叔父 → 藻海(そうかい・三野みの、漢学者) 2 5 8 3

顕国(げんこく)すべて → 顕国(あきくに)

I1887 **玄谷**(げんこく・中島なかじま・修姓;島、名;元質、文仲男)?-? 江後期三河の儒者:馬淵嵐山門、1826「玄谷文集」、「服象図解」「立誠文章稿」著、

[玄谷の字/通称]字;君義、通称;良佐

言国(げんこく・山科) → 言国(ときくに・山科、廷臣/歌人/連歌) J 3 1 1 3

元克(げんこく・萩原) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6

元克(げんこく/もとかつ・三浦) → 樗良(ちよら・三浦みうら、俳人) 2 8 3 1

源国(げんこく;法名・正蓮社) → 知俊(ちしゆん;法諱、浄土僧) E 2 8 3 5

顕国院(げんこくいん;法号) → 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6

懸壺居士(げんここじ) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわだ/高階、歌/連歌) 4 0 1 5

源五左衛門(げんごさえもん・香西) → 隆清(たかきよ・香西こうざい/かさい、藩家老/僧) L 2 6 7 8

源五左衛門(げんごさえもん・松平) → 忠隆(ただたか・松平、幕臣/歌人) P 2 6 7 0

源五左衛門(げんごさえもん・向井) → 滄浪(そうろう・向井、藩士/儒/詩人) J 2 5 2 2

源五左衛門(げんごさえもん・高木) → 秀条(ひでえだ・高木たかぎ、神道/歌人) L 3 7 7 3

源五左衛門(げんごさえもん・神保) → 長賢(ながかた・神保じんぼう、幕臣/国学) N 3 2 4 4

源五左衛門(げんごさえもん・杉本) → 則恒(のりつね・杉本すぎもと、神学者) I 3 5 7 3

源吾次(げんごじ・美濃口) → 春鴻(はるこう・春江しゆんこう・美濃口、俳人) 2 1 5 7

健御前(げんごぜん;日記作者) → 俊成女(としなりのむすめ・藤原、建春門院中納言) 3 1 4 8

拳骨和尚(げんこつおしょう) → 物外(ものがい;道号・不遷、曹洞僧/武術) F 4 4 5 3

顕湖亭(げんこてい) → 文嘯(ぶんしょう・五味ごみ、心学者/俳人) F 3 8 7 6

幻虎堂(げんこどう) → 鳳潭(ほうたん;字・僧濬;法諱、華嚴僧) C 3 9 2 5

幻虎道人(げんこどうじん) → 鳳潭(ほうたん・僧濬そうしゆん、華嚴僧) C 3 9 2 5

I1888 **源五兵衛**(げんごべえ・安藤/安東あんど、名;実雄)?-1715 高知藩士/馬回役、吉田流弓術家、「射儀問答」編/「中用秘肝弓要集」著

源五兵衛(げんごべえ・国谷) → 金馬(きんば・国谷、俳人) R 1 6 6 4

源五兵衛(げんごべえ・葛上) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8

源五兵衛(げんごべえ・林) → 良通(よしみち・林はやし/岡村、幕臣/国典) H 4 7 3 8

源五兵衛(げんごべえ・長久保) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3

権五郎(げんごろう・石神) → 政昌(まさよし・石神いしがみ/藤原、国学/歌) N 4 0 5 7

E1880 **源五郎**(げんごろう;通称・渡辺、初通称;政五郎、聡男)?-1827 金沢藩士;1800家督/年寄中御用、「渡辺源五郎書翰」著

源五郎(げんごろう・織田) → 有楽(うらく・織田おだ、武将/茶人) 1 2 9 6

源五郎(げんごろう・御菌) → 常心(じょうしん・御菌みその/源、鍼医) K 2 2 0 3

源五郎(げんごろう・森山) → 孝盛(たかもり・森山、幕臣/国学/歌) D 2 6 9 1

源五郎(げんごろう・瀬名) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2

源五郎(げんごろう・猿橋) → 義近(よしちか・猿橋さるはし、書家/狂歌) E 4 7 5 0

源五郎(げんごろう・稲垣) → 東山(とうざん・稲垣/佐久間、儒者/詩) E 3 1 6 5

源五郎(げんごろう・岡) → 俊直(としなお・岡おか/藤原、神職/歌人) U 3 1 5 7

- 源五郎(げんごろう・石松) → 増夫(ますお・石松いしまつ、歌人) I 4 0 9 4  
 源五郎(げんごろう・桂) → 宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師) C 4 2 1 3  
 源五郎(げんごろう・山本) → 楽所(らくしょ・山本やまと、藩儒) B 4 8 2 2  
 源五郎(げんごろう・木内) → 子陽(しやう・木内きうち、漢学/詩人) Q 2 2 6 6  
 源五郎(げんごろう・竹村) → 正雄(まさお・竹村たけむら、国学者/歌人) Q 4 0 7 9  
 源五郎(げんごろう・河合) → 就義(なりよし・河合かわい/伊東、神職/歌人) L 3 2 7 2  
 源五郎(げんごろう・小村) → 滋治(しばる・小村こむら、藩士/国学者) O 2 1 4 3  
 元五郎(げんごろう・木村) → 信菟(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0  
 元五郎(げんごろう/もと一・原田) → 茂嘉(しばし・原田、藩士/暦算家) T 2 1 1 2  
 けんこん(・天地) → 天地玄黄(てんちげんこう、狂歌作者) E 3 0 0 4
- B1880 **玄巖**(げんがん; 法諱・季亨きこう; 道号、号; 紫府真人) ?-1457 筑前の生?、臨濟僧; 剛中玄柔門、  
 京東福寺即宗庵/1409日向大慈寺住、東福寺137世、「靈松集」著  
 乾坤庵(けんこんあん) → 買明(ばいめい・乾坤庵、俳人) C 3 6 0 9  
 原昆堂(げんこんどう) → 三伯(さんぱく・稲村/海上/松井、医/蘭学) E 2 0 6 3  
 乾坤独歩学(けんこんどくほがく) → 秀堯(ひでたか・五代ごだい、藩士/儒者) D 3 7 1 3  
 乾坤坊(けんこんぼう) → 良斎(りようさい・乾坤坊、講釈師/戯作) H 4 9 6 1  
 乾坤廬(けんこんろ) → 粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1  
 乾坤廬(けんこんろ) → 秋香(あきか・中村なかむら、幕臣/歌人) I 1 0 1 3  
 権佐(けんさ/こんざ・山崎) → 玩水軒(がんすいけん・山崎やまさき、儒・陽明学者) R 1 5 1 4
- B1881 **玄佐**(げんさ・樺山かばやま、名; 幸久/善久よしひさ、信久男) 1513-9684 戦国武将; 島津氏の一族、安藝守、  
 国分生別府おいのべつぶを所領、歌: 近衛植家門/古今伝授を受/蹴鞠; 飛鳥井承綱門、  
 1583島津義久重病時; 華巖寺に参籠し和歌百首奉納、  
 「樺山安藝守善久入道玄佐自記」「樺山忠副追悼和歌並二文」著、  
 [玄佐(; 入道号)の通称] 鍋太郎/助太郎、法号; 齡室幸久庵主
- E1811 **玄佐**(げんさ) ? - ? 和泉堺の俳人、1633維舟「犬子えのこ集」入; 1537  
 [折をりくべて寒さをはぢく爪木つまき哉](犬子集; 六1537)  
 原佐(げんさ; 法諱) → 桂堂(けいどう; 道号・原佐、曹洞僧) G 1 8 4 5  
 玄佐(げんさ・木畑) → 定直(さだなお・木畑/木幡、医者/俳人) C 2 0 1 3  
 元佐(げんさ/もとすけ) → 基佐(もとすけ・桜井さくらい、連歌師) 4 4 1 3
- 01825 **見西**(けんさい; 法諱) ? - ? 平安鎌倉期; 沙弥、歌; 1237刊[檜葉集]2首入、  
 [すみける女のことごまになりけるにいひやりける、  
 唐衣ひとつのつまとはなりぬともかさねし袖を思ひわするな](檜葉; 恋461)
- 1813 **兼載**(けんさい・猪苗代いなわしろ、法諱; 興俊、猪苗代盛実男/本姓平) 1452-151059 歌/連歌・1470心敬門、  
 1476上京/82本能寺連歌参/89北野連歌会所奉行(連歌宗匠)、95「新撰菟玖波集」宗祇らと共撰、  
 ; 入集句をめぐり宗祇と確執、大内政弘と親交; 90/95山口訪問、歌学・堯恵門/古今伝授を受、  
 1498関東下向/1501磐城白河住: 関東の武将と交流/晩年は下総古河住没、句集「園塵そのちり」、  
 「兼載日発句」、歌集「園塵集」、連歌論書; 「心敬僧都庭訓」「連歌延徳抄」「薄花桜」「若草山」、  
 「梅薫抄」「景感道」「兼載鼻紙」/「兼載雑談」(門弟兼純聞書)、式目類; 「連歌本式」「用心抄」、  
 「聖廟法楽千句」「芦名家祈祷百韻」外百韻多、研究書; 「万葉集之歌百首聞書」「源氏物語抄」、  
 大内政弘追悼「あしたの雲」、新菟53句入、[夏の日に色こき山や雲の影](自讃句)、  
 [兼載の別号] 宗春(初号)/相園坊/耕閑軒、  
 [猪苗代家の連歌師継承の系譜]  
 兼載一兼純(兼載養嗣)一長珊一宗悦一兼如一兼与一兼説(兼与養嗣)一兼寿一  
 兼亮(兼寿養子)一兼逸(兼寿養子)一兼柳(兼寿養子)一兼郁(兼寿養子)一兼恵一  
 兼誼(兼恵養子)一兼庭一兼徳一兼道
- B1882 **謙斎**(けんさい・加藤かとう、名; 忠実、長軒男/本姓; 藤原) 1669-172456 江前期三河の医者; 臨節子門、  
 儒; 浅見綱斎門/本草; 稻生若水門/詩文; 笠原子門、京で医業; 子弟教育、  
 「医書方的」「本草類要」「本邦老医伝」「和漢人参考」「古法活用」「夜話語録」外著多数、  
 [謙斎の字/別号] 字; 衛愚、別号; 鳥巢道人うそうどうじん/衣舗先生/洛下隠士、玄順の父、  
 洛下隠士と同一説あり → 洛下隠士(らっかいんし、軍記「鎌倉実記」) B 4 8 4 6

猿蓑の俳人鳥巢(加藤玄順)との関係は不詳

- I1889 **健齋**(けんさい・山本やまもと、名; 克敬、宗蹟男) 1689-1734 46 豊後杵築藩士/儒者: 服部南郭門、詩文、  
帰郷号藩主松平重休に出仕; 藩儒として文教参画、「健齋遺草」、  
[健齋の字/別号]字; 子璞はく、別号; 友石/友石山人
- E1883 **謙齋**(けんさい・富永とみなが、名; 仲基なかもと/初め德基、徳通[芳春]男) 1715-46 32 大坂北浜醸造業の生、  
父は懐徳堂創設[五同志]の1/母も和漢学に通ず、儒・三宅石庵門/詩; 田中桐江の呉江社入、  
思想家; 加工の概念で仏教思想を体系化、比較思想論・文化人類学研究の先駆、  
1744「出定後語しゅつじょうご」46「翁の文」著、「説蔽せつへい」「翁道のしをり」「律略」「文纂」著、  
「謙齋遺稿」あり、  
[善をすれば則ち順じゆん 悪をすれば則ち逆ぎやく これ天地自然の理  
もとより儒仏の教へに待たず](出定後語)、  
[謙齋の字/通称/別号]字; 子仲/仲子、通称; 吉兵衛/三郎兵衛、別号; 南関/藍関
- I1890 **謙齋**(けんさい・吉田よしだ、名; 里美、薄州男) 1744-95 52 秋田藩士/1755から藩主に出仕; 京阪を往来、  
儒; 入江南溟・武田梅竜門/詩人; 1765渾沌詩社創立に参画/1794致仕、  
「孤松館詩抄」「古瓦硯記」「東遊随筆」「復黙之」著、「謙齋遺稿」  
[謙齋の字/通称/別号]字: 千秋、通称; 源蔵/藤右衛門、別号; 夢鶴/孤松/孤松館/羽陰陳人
- I1891 **乾齋**(けんさい・三浦みうら、名; 纘) 1744-? 1801 存 石見津和野の医者: 京の大典(梅莊頭常)門、  
津和野藩侍医/致仕、上京し医業/詩人、「乾惕齋詩文集」「天明鬱攸記」著、  
[乾齋の字/通称/別号]字; 世纘/子承、通称; 祐元/祐玄、別号; 乾惕けんてき齋/敬業舎
- I1892 **謙齋**(けんさい・大蔵おおくら、名; 謙ゆずる、藤屋善八2男) 1757-1844 88 信濃飯田本町の豪商の生、  
儒; 柴野栗山門、医; 桜木闇齋門、江戸牛込住; 遠山家の老職、のち平賀家に出仕;  
平賀氏の長崎奉行に随行; 病気で致仕/諸国遍歴後に1839(天保10)帰郷、  
飯田藩・山吹藩に出入し皇道を遊説、詩歌人、  
「赤穂書翰実録」評、1837「何余漫筆」、「妙海語評」「喪祭儀略」著、  
[謙齋(;通称)の字/号]字; 謙甫/仲謙、号; 竜河/桐陰、法号; 天山徳翁居士
- I1893 **健齋**(けんさい・磯田いそだ、名; 章/字; 伯煥) 1761-1835 75 武州比企郡大河村の儒者、書に長ず、  
「西遊詩稿」「日待夜話」/1823「東部集古帖」、「健齋遺稿」、  
[健齋の通称/別号]通称; 長兵衛、別号; 西嶺/因章
- I1894 **憲齋**(けんさい・中川なかがわ、名; 大彭/文彭、由義[由儀]男) 1791-1867 77 江戸の書家、「憲齋書」著  
[憲齋の字/通称/別号]字; 聃卿たんけい/筆正、通称; 文十郎、別号; 日本書堂/無辺坊
- I1895 **健齋**(けんさい・荘司しょうじ/畠山、名; 寛/秀実) ?-? 江後期1830-40頃水戸の儒者/1836彰考館入、  
1841水戸藩表医師/弘道館医学掛兼任/45致仕、「健齋稿草」「山陽筆記」「山陰雑談」著、  
「健齋稿本雑集」「躍金樓詩叢」編/「救餓録」「政教一致図」「世禄増減録」「学制余論」著
- E1898 **謙齋**(けんさい・田中たなか、名; 通徳、兵蔵男) ?-? 1844-8 没: 53歳 日向飢肥吉野方村の小吏、  
16歳; 外庁給事/1831外庁書記、儒者; 安井息軒門/昌平鬻出、飢肥藩儒; 藩校振徳堂教授、  
「謙齋経説」著、  
[謙齋(;号)の字/通称]字: 士潜、通称; 竜蔵
- I1896 **謙齋**(けんさい・常盤ときわ、名; 顕信) 1803-60 58 陸前亶理邑主伊達家家臣/儒; 桜田虎門門、  
邑主家の家老・邑学校日新館学頭兼任、詩/書に長ず、「学談筆記」著、田中顕允の父、  
[謙齋(;号)の字/通称/別号]字; 子信、通称; 吉尾/謙吉、別号; 緑陰
- I1897 **謙齋**(けんさい・中垣なかがき、名; 秀実、秀元男) 1805-76 72 相模小田原藩士; 早く父死亡; 家督、  
儒/経史; 独学、1822藩校集成館助教/24世子大久保忠愨の伴読; 江戸詰/目付/64大目付、  
藩論を勤王に主導/戊辰箱根戦役で戦功/維新後開塾、「垂孫金城録」著、  
[謙齋(;号)の字/通称]字; 仲成、通称; 吉之助/欣吉/求馬/斎宮、法号; 顕良院
- I1898 **賢齋**(けんさい・赤池あかひけ、名; 嘉吉) ?-? 江後期1830-40頃の将棋士、  
1838詰将棋集「将棊図解」著
- I1899 **顕齋**(賢齋けんさい・堀江ほりえ、名; 是顕、磯部三右衛門男) 1805-50 46 安房長狭郡和泉村の人、  
名主堀江太左衛門の養嗣子/1827家督; 名主、地誌; 郷土史/和算; 長谷川弘門、  
江戸の狂歌師燕栗園千寿と交流、「佐殿草創記」「越路のしをり」/1845「蓮祖旧跡志」著、  
[顕齋の字/通称/別号]字; 仲益、通称; 太左衛門、法号; 渾沌院数学元量居士

- J1801 謙齋(けんさい・山本やまもと、名;忠佐、定七直正男)1822-7554 三河吉田藩儒;1843家督継嗣、儒;大田晴軒門、1834藩校時習館見習/50学頭/56藩主復統問題で左遷;関所勤番、家塾を開設;民衆教化、1856「読書録」58「恕軒日録」59「己未東遊記草」65「人道大意」著、「既往大略」編、外多数、[謙齋の幼名/別号]幼名;勘三郎、別号;恕軒/恕軒散人
- E1884 健齋(けんさい・井部いべ、名;見、田中竹翁男)1825-9268 越後中頸城旭村儒者;江戸の井部香山門;井部家の養子/1864越後高田藩儒に招聘/昌平黌の講師を兼任、高田藩校修道館教授、「健齋文集」「左子伝解」「孟子訳」著、[健齋(;)の字/通称]字;子竜、通称;潜蔵
- J1802 健齋(けんさい;通称・宇田うだ、名;淵えん)1827-190175 京の医者;父門、儒、国学;巖垣松苗門、岩倉具視家に寄寓、尊王討幕活動/戊辰戦で参謀として従軍、維新後;京の権大参事/宮内省御用掛など歴任、「中庸対訳」「神道探原」1862「天日論」著 [健齋(;)通称]の字/号]字;子淵、号;栗園/心遠居士
- E1812 乾齋(けんさい・中井なかい、名;豊民、封豊男)?-? 三河吉田藩儒、漢学;大田錦城門、江戸で開塾、書、1825馬琴兎園会の社友、1825「天照大神を呉太伯といふ辨」45「孝経纂義」、「三伝就正録」著、1850「古今絶句所見集」、「孫子特解」「老子特解」「莊子集覧」「明善堂偶筆」「乾齋詩草」著、「乾齋詩草」「乾齋詩草」「乾齋詩草」外著多数、川西函洲(挙母藩儒)の兄、[乾齋の字/通称/別号]字;子来、通称;準之助/贅輔/隆益、別号;明善堂
- 見齋(けんさい・松井) → 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4
- 暁齋(けんさい・中茎) → 暘谷(ようこく・中茎なかぐき/茎、医/国学) 4 7 8 6
- 乾才(けんさい;法諱・独秀) → 独秀(どくしゅう;道号・乾才、臨濟僧) K 3 1 9 0
- 乾齋(けんさい・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1
- 乾齋(けんさい・松浦) → 熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革) H 3 7 4 5
- 謙齋(けんさい;号) → 清播(せいはい;法諱・心田;道号、臨濟僧/詩文) C 2 4 8 5
- 謙齋(けんさい) → 周良(しゅうりょう;法諱・策彦;道号、臨濟僧/詩) 2 1 5 0
- 謙齋(けんさい・吉益) → 南涯(なんがい・吉益よします、医者/詩) I 3 2 6 5
- 謙齋(けんさい・吉田) → 愚谷(ぐこく・吉田よしだ、儒者) C 1 7 3 7
- 謙齋(けんさい・羽黒) → 養潜(ようせん・羽黒はぐろ/牧野まきの、儒者) B 4 7 3 5
- 謙齋(けんさい・山中) → 信古(のぶふる・山中、藩士/本草家) D 3 5 2 2
- 謙齋(けんさい・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、医者) L 2 4 5 5
- 謙齋(けんさい・沢田) → 吉左衛門(きちざえもん・沢田、藩士/暦算家) L 1 6 2 6
- 謙齋(けんさい・宇仁) → 清堅(きよかた・宇仁うに、儒者) O 1 6 7 0
- 謙齋(けんさい・千手) → 旭山(ぎよくざん・千手せんじゅ、藩士/儒者) O 1 6 9 7
- 謙齋(けんさい・下司) → 芝亭(してい・下司しもつかさ/げじ/源、篆刻家) V 2 1 1 9
- 謙齋(けんさい・鷹見) → 保具(やすとも・鷹見たかみ、宿場本陣/歌) C 4 5 3 2
- 謙齋(けんさい・下村) → 政良(まさよし・下村しもむら、暦算家) I 4 0 7 3
- 謙齋(けんさい・高橋) → 済庵(せいあん・高橋/並河、藩医/詩) H 2 4 2 4
- 謙齋(けんさい・西村) → 広休(ひろよし・西村にしむら、商家/本草家) H 3 7 7 2
- 謙齋(けんさい・谷) → 安之(やすゆき・谷たに、書家) D 4 5 3 9
- 謙齋(けんさい・山田) → 大円(だいえん・山田やまだ、蘭医者) J 2 6 2 8
- 謙齋(健齋/県齋けんさい・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0
- 謙齋(けんさい・佐々木) → 露秀(ろしゅう・佐々木、妓楼主人/俳人) B 5 2 6 7
- 謙齋(けんさい・池田) → 貞老(さだおい・新あたりし/衣笠、藩士/国学) B 2 0 7 3
- 謙齋(けんさい・新渡戸) → 十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士) X 2 1 6 0
- 謙齋(けんさい・菊池) → 蔭亭(えいてい・菊池/菊地、藩士/医/貿易) C 5 2 1 9
- 謙齋(けんさい・有田) → 正但(まさただ・有田ありた/石井、医者/歌) N 4 0 2 5
- 謙齋(けんさい・飯島) → 為秀(ためひで・飯島いいま、歌人) V 2 6 5 6
- 謙齋(けんさい・福山) → 博正(ひろまさ・福山ふくやま、神職) K 3 7 8 2
- 謙哉(けんさい・遠藤) → 随所(ずいしょ・遠藤、篆刻家/砲術家) E 2 3 6 8
- 歎齋(けんさい・日比野) → 良為(よしなり・日比野ひびの/源、商家/和算) 4 7 2 2

卷齋(けんさい・夏目)	→	包壽(ほうじゅ・夏目、成美男/札差/俳人)	B 3 9 3 1
卷齋(けんさい・東儀)	→	心非(しんび;号・東儀、幕臣/俳人)	2 2 7 0
研齋(けんさい・松元)	→	正名(まさな・松元まつもと/橋、書家)	E 4 0 9 1
堅齋(けんさい・家里)	→	松嶸(しょうとう・家里いえさと/近藤、儒者/尊攘)	R 2 2 5 7
磴齋(けんさい・谷こく/神谷)	→	南澗(なんかん・神谷かみや、儒者)	I 3 2 8 0
健齋(けんさい・甲賀)	→	通元(つうげん・甲賀、医者:漢方財研究)	2 9 3 0
健齋(けんさい・溝口)	→	直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆)	3 2 5 9
健齋(建齋けんさい・村田)	→	橋彦(橋比古はしひこ・村田、国学者)	E 3 6 3 7
健齋(けんさい・根本)	→	羽嶽(うがく・根本ねもと、儒者)	C 1 2 0 8
健齋(健哉けんさい・江木)	→	鰐水(がくすい・江木えぎ、藩士/儒/兵学)	E 1 5 7 3
健齋(けんさい・津軽)	→	儼淵(げんえん・津軽つがる、藩士/儒者)	E 1 8 8 2
権齋(けんさい・馬場)	→	正通(まさみち・馬場ばば、経世家/教育)	H 4 0 4 7
虔齋(けんさい・安西)	→	惟明(これあき・安西あんざい、国学/歌人)	Q 1 9 2 6
絢齋(けんさい・金子)	→	鶴村(かくそん・金子かねこ、漢学/藩儒)	H 1 5 3 3
頭哉(けんさい・森)	→	泐石(ろくせき・森もり、篆刻家)	5 2 9 5
蹇齋(けんさい・大塚)	→	退野(たいや・大塚おおつか、藩士/儒者)	C 2 6 2 4
蹇齋(けんさい・杉浦)	→	正職(まさもと・杉浦すぎうら、幕臣/琴曲)	H 4 0 9 0

- B1884 源西(げんさい) ? - ? 平安後期の僧、1155「探要法花験記」編
- B1885 玄哉(げんさい・辻つじ、通称;修理入道、屋号;墨屋)?-? 1576存 京の禁裏御用商人/茶;武野紹鷗門、歌学;三条西実隆・公条門、連歌;昌休・昌叱・寿慶門、紹巴から源氏物語口訣を伝授、1555夢想百韻/61飯盛千句/64石山千句/71大原野千句参加、71紹巴と73昌叱と百韻、茶道の後裔は松尾流に発展、松尾等政の父
- J1803 元齋(げんさい・木戸きど、名;寿三、忠朝[賢哲]男)?-?1601後没 安桃期武将/下野羽生城主1574落城、越後の上杉景勝家臣;鶴岡・藤島城主、1594秀吉朝鮮出兵に渡鮮、歌/連歌;飛鳥井雅庸門、執政直江兼続と共に中央歌会に参加、1591「歌会作法聞書」94「師説撰哥和歌集」著、[元齋の別号] 玄齋/休波
- B1886 元哉(げんさい) ? - ? 伊勢神宮神官/連歌、1679「延宝千句」連衆;宗因らと
- J1804 元齋(げんさい;通称・緒方おがた、名;惟臣、春良男)?-1777 筑後久留米の医者;父門/国学、1752「筑後誌略」著、「筑後国石人図考」校訂
- N1886 弦齋(げんさい・中山なかやま、名;元允もとただ)1767-184781 佐渡河原田の歌人/連歌に通ず、[弦齋(;号)の字/通称]字;土頭、通称;立恭
- J1805 玄齋(げんさい・池田いけだ、祐平男)1775-185278 出羽庄内藩士・1804龔となり家督を弟に譲、歌;杉山廉門/和漢学を修得;文筆活動/門弟指導、庄内古記録「大泉叢誌」編纂参画、「玄齋家集」「玄齋筆記」「弘采目録」「病間雑鈔総目録」著、源兵衛(歌人喜代井きよいの夫)の父、[玄齋(;号)の名/通称/別号]名;祐治、通称;礼之/礼孺/子和、別号;愛山/避喧叟ひけんそう
- J1806 弦齋(げんさい・中安なかやす、名;盛乗もりもち、北村実房男/中安盛茂の養嗣)1775-185278 秋田藩士:1794出仕/1801家督、評定奉行兼町奉行/郡奉行/用人/1821藩主侍読;江戸詰/36家老、藩録「国典類抄」編纂、歌、「鷹の爪」編、[弦齋(;号)の字/通称]字;君彝、通称;主典さかん
- J1807 弦齋(げんさい・井東いとう、名;実勝/守常)1815-8975 越後新発田藩儒/郡奉行兼任、儒;初め渡辺予齋門、江戸で奥平棲遅庵・藤田良齋門、1864「伊東先生論語」、「先達遺事劄記」「伊東先生学談」著、[弦齋の通称/別号]通称;八之丞、別号;信齋
- |             |   |                      |           |
|-------------|---|----------------------|-----------|
| 玄齋(げんさい・田中) | → | 玄宰(はるなか・田中、家老/軍学)    | G 3 6 6 2 |
| 玄齋(げんさい・清水) | → | 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人)  | C 3 1 3 5 |
| 玄齋(げんさい・松岡) | → | 雄淵(おぶち・松岡、神道家)       | B 1 4 9 1 |
| 玄齋(げんさい・中井) | → | 梅成(うめなり・中井なかい、商家/歌人) | E 1 2 3 9 |
| 玄齋(げんさい・鈴木) | → | 泰平(やすひら・鈴木すずき、医者/歌人) | G 4 5 0 7 |
| 玄宰(げんさい・田中) | → | 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌)  | G 3 6 6 2 |

- 彦齋(げんさい・河上) → 玄明(はるあき・河上かわかみ、剣術/攘夷論) K 3 6 0 0  
 弦齋(げんさい・池田) → 政雍(まさやす・池田いけだ、藩士/代官) N 4 0 5 3  
 弦齋(げんさい・湯浅) → 祇庸(やすつね・湯浅あさ、藩士/国学) H 4 5 0 0  
 元齋(げんさい・蘆沢) → 一閑(いっかん・蘆沢あしざわ、藩士/記録) G 1 1 8 1  
 元齋(げんさい・齋藤) → 好春(よしはる・齋藤さいとう/山県、国学) N 4 7 1 7  
 元載(げんさい・古賀) → 素堂(そどう・古賀こが/劉、藩儒) K 2 5 2 3  
 幻齋(げんさい・上田) → 竜郊(りゅうこう・上田うえだ、儒者/教育) D 4 9 8 5  
 嘜齋(げんさい・鎌田) → 杜陵(とりょう・鎌田かまた、医/俳人) R 3 1 9 5  
 現在庵(げんさいあん) → 李峰(りほう・宮本/五味/浜中、俳人) C 4 9 5 2  
 現在庵(げんさいあん) → 露心(ろしん・青木あおき、俳人) B 5 2 8 7  
 現在坊(げんさいぼう) → 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4  
 健左衛門(げんざえもん・鳥海) → 酔車(すいしゃ・鳥海とりうみ、里正/郷土史家) E 2 3 6 2  
 堅左衛門(げんざえもん・大島) → 為員(ためさだ・大島おおしま/平、藩士/歌) W 2 6 1 3  
 J1808 源左衛門(げんざえもん・右近うこん) ?-? 初期歌舞伎役者/小舞の名手:「七つ子」で子を背負って演技  
 J1809 源左衛門(げんざえもん・近藤こんどう、名;用致、用敬男) 1733-? 1790存 近藤用応養子/幕臣;1760家督嗣、  
 書院番、1790致仕、1788「近藤源左衛門暮方積」著、母;大島中予女、  
 [源左衛門(;通称)の別通称/号]別通称;富次、号;休山(;致仕後)  
 J1810 源左衛門(げんざえもん・小篠おさ、名;元予、元盈男) 1753-181866 安藝の弓術家;父門/諸国歴遊、  
 1798常陸水戸藩で藩士に射法を教授(約20年間)、横屋忠知力に跡を譲る、「広島紀談」著  
 元左衛門(げんざえもん・浅野) → 由隆(よししたか・浅野あさの、藩士/歌人) D 4 7 9 6  
 源左衛門(げんざえもん・佐野) → 常世(つねよ・佐野、武士/「鉢木」主人公) 2 9 0 3  
 源左衛門(げんざえもん・能勢) → 頼則(よりのり・能勢のせ/源、武将/連歌) J 4 7 4 4  
 源左衛門(げんざえもん・前田) → 直諒(なおあき・前田、藩士/系図) 3 2 6 3  
 源左衛門(げんざえもん・柴村) → 盛方(もりみち・柴村しばむら、幕臣/随筆) G 4 4 5 8  
 源左衛門(げんざえもん・松井) → 杖人(じょうじん・東武、鱗形屋、書肆/俳) O 2 1 0 6  
 源左衛門(げんざえもん・鱗形屋うろこがたや) → 賢盈(けんえい・松井、書肆/雑俳) B 1 8 3 0  
 源左衛門(げんざえもん・川崎屋) → 友直(ともなお・川崎屋、商人/俳人) P 3 1 9 7  
 源左衛門(げんざえもん・梶原) → 直景(なおかげ・梶原、武芸者) 3 2 8 3  
 源左衛門(げんざえもん・八谷) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6  
 源左衛門(げんざえもん・江村/樋口) → 道立(どうりゅう・樋口、俳人/儒者) I 3 1 2 5  
 源左衛門(げんざえもん・中尾) → 槐市(かいし・中尾なかお、藩士/俳人) 1 5 9 9  
 源左衛門(げんざえもん・大石) → 千引(ちびき・大石おおい、国学者/歌) 2 8 1 6  
 源左衛門(げんざえもん・小田島) → 松翁(しょうおう・小田島おたじま、書肆/地誌) H 2 2 3 8  
 源左衛門(げんざえもん・木村) → 逸志(いっし・木村・笠家、俳人) B 1 1 4 3  
 源左衛門(げんざえもん・伊藤) → 若冲(じゃくちゅう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3  
 源左衛門(げんざえもん・相沢) → 伴主(ともぬし・相沢あいざわ、華道家/画) Q 3 1 1 1  
 源左衛門(げんざえもん・宅間) → 能清(よしきよ・宅間たくま、和算家) D 4 7 1 4  
 源左衛門(げんざえもん・辻) → 池東(ちとう・辻つじ、俳人) E 2 8 8 7  
 源左衛門(げんざえもん・吉田) → 李井(りせい・吉田よしだ、藩士/俳人) B 4 9 3 2  
 源左衛門(げんざえもん・町田) → 正記(まさのり・町田まちだ、藩士/和算家) G 4 0 1 3  
 源左衛門(げんざえもん・秋山) → 彝徳(いとく・秋山あきやま、和算家) I 1 1 0 3  
 源左衛門(げんざえもん・中嶋) → 随流(ずいりゅう;号・中嶋、俳人) 2 3 0 4  
 源左衛門(げんざえもん・建部) → 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4  
 源左衛門(げんざえもん・片岡) → 志道(しどう/はたまち・片岡、藩士/見聞記) V 2 1 3 1  
 源左衛門(げんざえもん・山岡) → 次隆(つぎたか・山岡、藩士/詩人) 2 9 5 2  
 源左衛門(げんざえもん・井伊) → 仁山(じんざん・井伊い、藩士/詩人) O 2 2 6 5  
 源左衛門(げんざえもん・黒田) → 一興(かずおき・黒田くろだ、藩大老/詩歌) U 1 5 5 8  
 源左衛門(げんざえもん・明星) → 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) H 3 5 1 1  
 源左衛門(げんざえもん・飯室) → 忠誼(ただのぶ・飯室いむろ/源、陶工/歌) U 2 6 4 0  
 源左衛門(げんざえもん・小島屋) → 倉部行澄(くらべのゆきすみ、酒問屋/狂歌) B 1 7 7 6

源左衛門(げんざえもん・齋藤) → 途興(みちおき・齋藤さいとう、名主/歌人) J 4 1 1 5  
 源左衛門(げんざえもん・齋藤) → 眞指(まさし・齋藤、途興男/国学/歌) P 4 0 9 4  
 源左衛門(げんざえもん・渡辺) → 田畑持麿(たはたのもちまろ、狂歌作者) G 2 6 5 4  
 源左衛門(げんざえもん・中田) → 威克(たけかつ・中田なかた、藩士/国学) Y 2 6 5 5  
 源左衛門(げんざえもん・下田) → 直樹(なおき・下田しもだ、国学者) N 3 2 3 4  
 源左衛門(げんざえもん・中井) → 武和(たけかず・中井なかい、商家/歌人) Y 2 6 5 0  
 源左衛門(げんざえもん・堀内) → 正忠(まさただ・堀内ほりうち、名主/歌人) S 4 0 4 5  
 源左衛門(げんざえもん・檜原) → 秀近(ひでちか・檜原ならはら、藩士/書家) K 3 7 5 0  
 源左衛門(げんざえもん・名越) → 高朗(たかあき・名越なごや/なごえ、郷土/農業) Y 2 6 4 4  
 源左衛門(げんざえもん・中村) → 大館(おおだち・中村なかむら/長谷川、神職/歌) E 1 4 0 3

J1811 献作(献策けんさく・吉雄よしお、名;永久、耕牛男) 1770-1825 56 長崎の蘭方医者:父門、  
 「蘭方伝」「映山塾方府」著、母;唐通事陽市郎兵衛女、定之助・如淵の兄、  
 [献作(;通称)の別通称/号]別通称;幸太郎、号;耕献

建策(けんさく・金森) → 錦謙(きんけん・金森かなもり、蘭学者) Q 1 6 8 5

健作(けんさく・笹木) → 祐行(すけゆき・笹木ささき、国学者) I 2 3 5 7

乾作(健作/劍槊けんさく・小倉) → 鯤堂(こんどう・小倉おぐら、儒者) G 1 9 9 7

J1812 玄作(げんさく・法宗軒ほうそうけん)?- ? 1532 存 戦国期周防山口の連歌師:宗碩門、  
 1532「宗祇三十一年忌百韻」著

J1814 玄朔(げんさく・曲直瀬まなせ、名;正紹、河崎乗三男) 1549-1631 83 母;堀部親真女(曲直瀬一溪の妹)、  
 医;一溪門/1581一溪の養子/85法印、秀吉家臣/九州・朝鮮に従軍治療、  
 秀次に連座;水戸配流/のち家康家臣、古活字版の医書刊行/門弟育成、1607「医学天正記」、  
 「済民記」「医法明鑑」「玄朔養生集」「続天正記」「日用食性」「能毒書」「延寿配剂記」、  
 「意伝普救録」「医語指南編」「家居医録」外著多数、連歌;1624/25紹巴・昌叱らと百韻  
 [玄朔の通称/別号]通称;道三2世、別号;東井/延命寿院/延寿院、法号;延寿院

J1813 玄策(げんさく・磐瀬いわせ) ?- ? 江戸後期の医者;伊勢桑名藩医/江戸裏茅場町住、  
 脚気治療で有名/文久1860年代頃京住、「一貫堂漫録」/1808「一貫堂脚気方論」著、  
 [玄策(;名)の字/号]字;君民、号;東山/一貫堂

J1815 元策(玄策げんさく;通称・吉田よしだ、号;誠斎)?-? 幕府医官/寄合医、1842日光供奉を下命、  
 「本草物品名彙」著

玄朔(げんさく;法諱・桃隠) → 桃隠(とういん;道号・玄朔、臨濟僧) B 3 1 0 4

玄朔(げんさく・今大路) → 親顕(ちかあき・今大路いまおじ、医/詩歌) 2 8 5 5

玄朔(げんさく・宮部) → 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5

玄策(げんさく・清水) → 春道(しゅんどう・清水しみず、藩の医者) L 2 1 6 1

玄策(げんさく・太田) → 之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人) G 4 6 6 9

元作(げんさく・村田) → 氏純(うじずみ・村田むらた、藩士/故実) C 1 2 3 9

元作(げんさく・村田) → 氏暢(うじのぶ・村田、藩士/故実) C 1 2 4 9

元作(げんさく・村田) → 氏章(うじあき・村田、藩士/文筆家) C 1 2 3 0

元作(げんさく・井岡) → 公毅(こうき・井岡いのおか、医者) I 1 9 2 0

元策(げんさく;法諱) → 江岳(こうがく;道号・元策、臨濟僧) H 1 9 9 9

元策(玄策げんさく・牧野) → 和月(わげつ・牧野まきの、藩士/俳人) 5 3 1 9

元策(げんさく・松本) → 元泰(げんたい・松本まつもと、蘭医/国防) K 1 8 9 2

元策(げんさく・建部) → 清庵(せいあん・建部たけべ、蘭方医者) H 2 4 1 8

鉉作(げんさく・上田) → 成美(なりよし・上田うえだ、藩士/歌人) L 3 2 2 7

源作(げんさく・上田) → 宜珍(ぎちん・上田/滋野、国学者/地誌) F 1 6 8 7

B1888 玄札(げんさく・高島たかしま、名;玄道、利清男) 1594-1676 83 伊勢山田の生/慶長1596-1615頃江戸住、  
 日本橋南室町の商家に奉公/周囲に勧められ医術を修得;42歳医者として保科正之に出仕、  
 俳諧修得;斎藤徳元・未得門/江戸俳壇の草創:貞門江戸五俳哲の1、機知に富み狂歌も制作、  
 1642徳元と百韻/44重頼と一座/57「十種とくき千句」編(;門弟白鷗と両吟/共著)、  
 「誹諧拔書」著、1633貞門第一撰集「犬子集」・66吉竹(可玖)「遠近えんきん集」入、  
 1666狂歌「古今夷曲集」入、1667「誹諧小相撲」点者、

[児ちごの名を慕ふ涙か梅が雨](遠近集/謡曲「隅田川」木母寺もくぼじでの作;梅若丸を慕う)

- J1816 **玄察**(げんさつ;号・米川よねかわ、通称;助之進、常伯の甥)?-? 江前期米川流香道2代目、「香道大成」
- J1817 **玄察**(げんさつ・渡辺わたなべ、名;貞許/通称;孫兵衛/源兵衛)1632-? 1713存 肥後益城甲佐の人、記録、「拾集記」「拾集昔話」「拾集物語」「拾集記」「早川故事」「渡辺先祖以来今事記」著
- J1818 **玄察**(げんさつ) ? - ? 尾張俳人;1689「あら野」3句入  
[ほとゝぎす神楽がらの中を通りけり](あら野;八)  
玄寮と同一? → 玄寮(げんりょう、「あら野」2句入) N 1 8 0 3
- B1889 **元察**(げんさつ・久米くめ、諸左衛門升頭[利品りひん]男)?-? 去来の従弟/京の俳人、1705去来追善選集「誰身たがみの秋」編(吾仲序/井筒屋庄兵衛板)
- 兼三郎(げんざぶろう・片岡) → 喜平治(きへいじ・片岡かたおか、藩士/経済) L 1 6 8 6  
兼三郎(げんざぶろう・田沢) → 千郷(ちさと・田沢たざわ、藩士/歌人) E 2 8 2 5  
兼三郎(げんざぶろう・柳川) → 当清(まさきよ・柳川、遣米使随行/日記) C 4 0 3 5  
謙三郎(げんざぶろう・石川) → 利政(としまさ・石川、幕臣/ロシア使節) N 3 1 7 4  
謙三郎(げんざぶろう・松本) → 奎堂(けいどう・松本まつもと、儒者/天誅組) 1 8 8 7  
謙三郎(げんざぶろう・妹尾/雨森) → 精斎(せいさい・雨森あめのもり、藩士/儒者) 2 4 7 6  
謙三郎(げんざぶろう・石川) → 利政(としまさ・石川いしかわ、幕臣/魯使節) N 3 1 7 4  
謙三郎(げんざぶろう・楠本) → 碩水(せきすい・楠本くすもと、藩儒/教育) D 2 4 6 5  
堅三郎(げんざぶろう・石黒) → 魚淵(なぶち・石黒いしぐろ、藩士/国学者) G 3 2 8 5  
建三郎(げんざぶろう・佐久間) → 長敬(おさひろ・佐久間さくま、幕臣/与力) D 1 4 0 6  
健三郎(げんざぶろう・伊東) → 祐命(すけのみこと・伊東・藤原、藩士/歌人) C 2 3 1 3  
健三郎(げんざぶろう・林) → 壮軒(そうけん・林はやし、幕府儒官) H 2 5 1 1
- B1890 **源三郎**(げんざぶろう・蒔絵師まきえし)?-? 奈良の蒔絵師/塗師、吉田半兵衛の画風を倣う、半兵衛後継者として活動;浮世草子の插画、1690「人倫訓蒙図彙」、「美景蒔絵松」画、[蒔絵師源三郎の別通称] 塗師屋源三郎
- B1891 **源三郎**(げんざぶろう・村瀬むらせ)?-? 歌舞伎作者、1712森田座(近松名)/25中村座立作(村瀬名)、1725中村座の立作(村瀬名)、1733以降消息不明、1713「一心親子桜」20「樸ゆずりは根元曾我」、1728「兜碁盤忠信」29「扇恵方曾我」30「名月五人男」32「嫩前太平記」外多数、[村瀬源三郎の別号] 近松源三郎(;初号)/五舟
- 源三郎(げんざぶろう・川上) → 久辰(ひさとき・川上かわかみ、武将/地頭) B 3 7 5 0  
源三郎(げんざぶろう・宇都宮) → 泰綱(やすつな・宇都宮・藤原、武将/歌) C 4 5 0 8  
源三郎(げんざぶろう・長谷川) → 宗仁(そうにん・むねひと・長谷川、武将/茶人) I 2 5 6 6  
源三郎(げんざぶろう・漆屋) → 久政(ひさまさ・松屋/土門、塗師/茶人) B 3 7 9 1  
源三郎(げんざぶろう・漆屋) → 久好(ひさまさ・松屋/土門、久政男/茶人) B 3 7 9 1  
源三郎(げんざぶろう・漆屋) → 久重(ひさしげ・松屋/土門、久好男/茶人) B 3 7 1 0  
源三郎(げんざぶろう・川上) → 久国(ひさくに・川上、久辰男/家老/儒) B 3 7 0 0  
源三郎(げんざぶろう・京極) → 高朗(たかあきら・京極さよごく、藩主/詩人) L 2 6 5 1  
源三郎(げんざぶろう・松浦) → 鎮信(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶道) C 2 1 7 1  
源三郎(げんざぶろう・川井) → 正之(まさゆき・川井かわい、幕臣/国学) O 4 0 9 9  
源三郎(げんざぶろう・佐善) → 礼耕(れいこう・佐善さぜん、藩儒臣) 5 1 2 7  
源三郎(げんざぶろう・松浦) → 棟(たかし・松浦、鎮信男/藩主/兵法家) L 2 6 9 4  
源三郎(げんざぶろう・松山) → 天姥(てんぼ・松山まつやま、藩士/書家) E 3 0 2 4  
源三郎(げんざぶろう・三橋/篠田) → 成烈(なりてる・三橋、幕臣/文筆) H 3 2 6 7  
源三郎(玄三郎げんざぶろう・若槻) → 幾斎(きさい・若槻わかつき/源、儒者) I 1 6 5 3  
源三郎(げんざぶろう・新庄) → 直恒(なおつね・新庄しんじょう、幕臣/国学) N 3 2 4 3  
源三郎(げんざぶろう・川崎) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
源三郎(げんざぶろう・小原) → 桃洞(とうどう・小原/源、藩医/本草家) G 3 1 7 7  
源三郎(げんざぶろう・高泉) → 景規(かげのり・高泉たかいずみ/源、藩士/和学) U 1 5 9 2  
源三郎(げんざぶろう・猪俣) → 昌之(まさゆき・猪俣いのまた、通事/翻訳) I 4 0 2 9  
源三郎(げんざぶろう・野田) → 青葭(せいか・号・野田のだ、本草家) H 2 4 5 6  
源三郎(げんざぶろう・大沢) → 基躬(もとみ・大沢おおさわ、幕臣/高家) J 4 4 5 3

- 源三郎(げんざぶろう・小林)→ 星照(せいしょう・小林こばやし、狂歌作者) I 2 4 8 1  
 源三郎(げんざぶろう・伊達)→ 氏伴(うじとも・伊達だて、国学者) E 1 2 7 4  
 源三郎(げんざぶろう・犬飼)→ 松窓(しょうそう・犬飼いぬかい、農業/儒者) K 2 2 5 8  
 源三郎(げんざぶろう・太郎館)→ 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9  
 源三郎(げんざぶろう・武田)→ 載周(としちか・武田けけだ、郷土史家) J 3 1 2 9  
 源三郎(げんざぶろう・久我)→ 苗秀(たねひで・久我がが、里正/国学) W 2 6 8 4  
 源三郎(げんざぶろう・中島)→ 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9  
 源三郎(げんざぶろう・坪井)→ 貞之(さだゆき・坪井つばい、国学者) Q 2 0 9 9  
 源三郎(げんざぶろう・松浦)→ 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 愿三郎(げんざぶろう・芳野)→ 金陵(きんりょう・芳野よしの、儒者) E 1 6 9 3  
 元三郎(げんざぶろう・松下/吉村)→ 光高(みつたか・吉村/松下、藩士/和算) D 4 1 7 6  
 玄三郎(げんざぶろう・岡野)→ 敦行(あつゆき・岡野くおかの、歌人) G 1 0 6 6  
 阮蓑野王(げんさやおう)→ 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8  
 阮蓑鎌叟(げんされんそう)→ 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8  
 B1892 乾三(けんさん;法諱・釈) ? - ? 近江の僧、1543注釈書「太平記賢愚抄」  
 兼三(けんさん・藤原)→ 兼三(かねみ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 1 5 0 6  
 兼参(けんさん・江尾)→ 兼参(かねみつ・江尾えお、鉄山経営/国学) T 1 5 8 2  
 J1819 幹山(けんざん;道号・師貞いてい;法諱) 1676-1745 70 京の臨濟僧;1685丹波弦外智達門/東福寺で修学、  
 1708丹波瑞巖寺住持、35東福寺で「註維摩」を講義、1735「圓悟心要添足」41「正修論註」、  
 1743「江湖風月集略註取捨翼考」、「靈源筆語考」、「臨濟録摸象鈔」、「聖一國師年譜別考」著  
 1814 兼山(けんざん・野中のなか、名;止/止通、野中良明男) 1615-63 49 母;大坂天満の商家秋田家の女の万、  
 播磨姫路の生/1627野中の分家野中直継の養子、土佐藩士;1631養父と共に奉行職、  
 1636家督継嗣;家老職、2代藩主山内忠義・3代忠豊に出仕;藩政参画;63反对派に解任;  
 野中家改易;香美郡中野に隠棲、(娘の婉は宿毛に幽閉)、儒者;谷時中門/南学、  
 朱子学の古典籍蒐集出版;普及に尽力、「室戸港記」著、「兼山遺草」、祖母;山内一豊の妹、  
 [兼山(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;左八郎、字;良継、  
 通称;伝右衛門/主計かづえ/伯耆、別号;高山/明夷軒  
 女;婉 → 婉(えん・野中のなか、1660-1725:医者/詩歌) E 1 3 3 8  
 参照 南学の系譜→ 梅軒(ばいけん・南村) B 3 6 0 6  
 J1820 兼山(けんざん・武田たけだ、名;静、信重[道安]男) 1626-1705 80 安藝武田氏の後裔/京の医者、  
 1666幕府番医/76法印/97致仕、歌;冷泉為景門/儒;石川丈山門、「苦口利方」1645「道統小伝」、  
 [兼山の字/通称/別号]字;信成、通称;次郎/杏仙、別号;長春院/博、法号;兼山  
 B1893 乾山(けんざん・尾形おがた、名;惟允/権平/深省、宗謙男) 1663-1743 81 京の呉服商雁金屋の生/光琳弟、  
 学問・茶事;藤村庸軒門/絵師;狩野安信門/陶法;野々村仁清門;乾山焼、琳派を再興、  
 享保1716-36頃江戸入谷住;輪王寺宮公寛親王の厚遇を受、  
 「情趣稚拙美」「乾山楽焼秘書」著、  
 [乾山の通称/別号]通称;新三郎/扶陸、別号;習静堂/尚古斎/陶隠/靈海/逃禅/紫翠/傳陸  
 B1894 兼山(けんざん・青地あおち/あおち、名;定理/斉賢、定政男) 1672-1728 57 金沢藩士/馬廻組頭/算用場奉行、  
 定番頭、儒;羽黒養潜・室鳩巢門;鳩巢門七才の一、1711-31「兼山麗沢秘策」編、  
 1728「百謡摘解」、「御定書考索」「定書考索附録」「仁説」著、  
 [兼山の字/通称/別号]字;伯孜はくし/通称;太郎助/弥四郎/蔵人、別号;讓水  
 J1821 兼山(けんざん・岡田おかた/中沢、名;宜汎/字;彦愛) 1688-1750 63 水戸の儒者;彰考館安積澹泊門、  
 水戸支藩の磐城守山藩の藩士岡田家を嗣/家老、平野金華と交遊、「軍学問答」著、  
 [兼山の通称/別号]通称;彦左衛門、別号;遯軒  
 1815 兼山(けんざん・片山かたやま/宇佐美、名;世番) 1730-82 53 上州平井村儒者/経学、一時宇佐美瀟水養子、  
 鶴殿士寧・服部南郭・秋山玉山門、熊本藩儒/松江藩儒/江戸で折衷学主唱、新訓点の書刊行、  
 「兼山詩文集」「荀子考」「荀子一適」、1770「蒙求標題」72「古詩聯珠」76/81「山子垂統」外著多数、  
 [兼山の字/通称/法号]字;叔瑟しゅくし、通称;東造/冬造/藤蔵、法号;岱岳院、萩原大麓の師  
 J1822 謙山(けんざん・清水しみず、名;為豊) 1730-94 65 上州並榎村の医者;西谷養俊門、詩文;坂上烏涯門、  
 剣法;高橋惣介門、1774江戸住;心学研究、「心学伝」著、「舜台遺文」、赤城せきじょうの父、

[謙山の字/別号]字;俊達、別号;舜台

- J1823 謙山(鎌山けんざん・中堂、号;中堂謙山ちゅうどうけんざん、姓名不詳)?-? 江中期大阪の儒者、  
1775「春秋左氏伝国字解」著
- E1886 乾山(けんざん・横田よこた/本姓高津、名;惟孝/通称;順蔵)1774-1829<sup>56</sup> 江戸巢鴨儒者・加古川遜斎門、  
仕官先なく隠棲、1824「戦国策正解」著
- E1887 峴山(硯山けんざん・今城いまき、名;世綱)1748-1806<sup>59</sup> 父;徳島藩儒、1763上京/儒;曾我部容所門、  
折衷学修得、京で開塾/1785信州藩に招聘・93再招聘;松本藩主侍講/藩校崇教館教授、  
1785「松本孝子伝」著、「峴山遺稿」、  
[峴山の字/通称]字;公紀、通称;周左衛門
- J1824 乾山(けんざん・小川おがわ、瓊斎男)1809-57<sup>49</sup> 徳山藩士/儒;長沼采石・本城太華門/佐藤一斎門、  
1830藩校鳴鳳館教授/学頭、藩政参加、「乾山詩文稿」「乾々斎漫筆」「四書困中録」著、  
「四書相長録」「四部笏録」「毛詩考刪補」「坐石小録」著、  
[乾山(;号)の名/字/通称]名;謙、字;益卿、通称;道平
- J1825 謙山(兼山けんざん・近藤こんどう、名;直義、洞庵男)1814-61<sup>48</sup> 若狭小浜藩主の侍医、京で賀川蘭斎門、  
産術;一種包頭器の工夫、1858(安政5)京で開業、1854「達生図説」著、  
[謙山(;号)の通称] 退蔵/若州
- J1826 研山(けんざん・鳥居とりい、名;朝亨/亨、通称元吉)1820-51<sup>32</sup> 美濃大垣藩士/藩校創設に尽力、  
藩政改革に助言、詩;咬菜舎創設(小原鉄心・江馬細香らと)、  
「小藩制談」「昇平政鑑」「辺防策略」「循焉録」「易俗小議」、1850「纏上兵話」著

見山(けんざん;法名)	→	通維(みちこれ・中院/源/久我、廷臣/日記)	B 4 1 4 8
見山(けんざん・安積)	→	良斎(こんさい・安積/安藤/今泉、漢学/詩)	1 9 5 3
見山(けんざん・稲垣)	→	定毅(ていく・稲垣、蘭学/暦算)	3 0 7 4
見山(けんざん・堀田)	→	正睦(まさよし・堀田/紀、藩主/老中)	I 4 0 6 7
研山(けんざん・堀)	→	親義(ちかのり・堀、親善男/藩主/日記)	B 2 8 6 4
兼山(けんざん・内藤)	→	政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳)	C 4 0 2 1
兼山(けんざん・佐藤)	→	竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者)	C 2 8 6 2
兼山(鎌山けんざん・後藤)	→	松陰(しょういん・後藤ごとう、儒者/詩人)	F 2 2 2 0
謙山(けんざん・西坂)	→	成庵(せいあん・西坂、儒者/詩人)	2 4 5 6
謙山(けんざん・松平)	→	頼救(よりすけ・松平/徳川、藩主/俳人)	I 4 7 8 1
硯山(けんざん・奥村)	→	栄発(てるのり・奥村、医/儒詩)	C 3 0 8 6
乾山(けんざん・都沢)	→	徹(とおる・都沢みやこざわ、儒者)	I 3 1 8 0
乾山(けんざん・篠原)	→	善富(よしとみ・篠原しのほら、和算家)	E 4 7 9 9
乾山(けんざん・大岩)	→	昌蔵(まさなり・大岩おおいわ、藩士/文芸活動)	O 4 0 2 7
乾堂(けんざん・佐竹)	→	義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図)	K 4 7 3 5
権山(けんざん・志野)	→	知郷(ともさと・志野しの、藩士/和算家)	P 3 1 5 1
賢山(けんざん・伊達)	→	宗利(むねとし・伊達だて、藩主/歌)	B 4 2 8 4
建山(けんざん・丸岡)	→	莞爾(かんじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学/政治)	V 1 5 8 0
繭山(けんざん・柴)	→	秋村(しゅうそん・柴しば、儒者/藩儒)	I 2 1 0 5

- J1827 源讚(げんざん;法諱・唯了;号、幼名;亀千代麿、仏光寺7世空性男)1322-1400<sup>79</sup> 京の真宗僧、  
初め天台座主亮性門/1337得度、1347真宗仏光寺派仏光寺10世、興正寺派興正寺10世、  
1352二条良基の猶子、60大僧都/87山城嵯峨に閑居、「仏光寺中興了源上人伝」著  
[源讚の諡号] 即成就院

- D1898 玄参(げんさん;号・山梨やまなし)?- ? 江中期駿河の医者、稲川「思旧漫録」記事入、  
酒豪;多弁で滑稽を好む/韓客と交流/詩文に長ず(散佚)

元参(げんさん;法諱)	→	鉄閉(てつかん;道号・元参、黄檗僧)	C 3 0 2 2
玄三(げんさん・藤井)	→	玄三(げんぞう・藤井ふじい、俳人)	N 1 8 3 8
玄三(げんさん・正野)	→	玄三(げんぞう・正野まさの、医者/売薬業)	K 1 8 7 7
彦纘(げんさん/よしつぐ?・猪飼)	→	箕山(きざん・猪飼いかい、藩士/儒者)	K 1 6 6 9

- E1888 愿山(げんざん・戸部とべ、名;良熙よしひろ、能役者義助男)1713-95<sup>83</sup> 土佐藩士/能役者(家業);父門、  
1735上京、儒者;宮地静軒・小野鶴山門、天文;川谷致真門/歌;萩原宗固門/医;香川修庵門、

神道;玉木正英門、博学、1737帰郷/60(宝暦10)土佐藩校教授館教授役、  
1762宿毛大島港漂着の琉球船の盛成せいせいの聞書記録「大島筆記」著/64「国語考」著、  
1767「土佐国一宮考」/75「大湊紀行」著(守部「土佐日記舟の直路ただじ」入)、  
1776「岩屋仙人八百比丘仁助仙人伝」、「琉球進貢録」、「白明義士話」、「田の浦孝女之事」著、  
「韓川筆話」著外著多数、1791致仕、徳之進の養父、  
[愿山(号)の通称/別号]通称;助五郎、別号;韓川

J1828 **弦山**(げんざん・阪本さかもと、名;勇、幸庵こうあん男)1747-182579 摂津尼崎藩の儒医/経史・文学に精通、  
清熙園塾を開;1777藩の文学;門人多数/歌;1792加藤景範かげのり門、1784「学啓」、「医籌」、  
「清熙園詩集」、「清熙園漫録」、「清熙園鬼簿」、「胡蝶日記」、「錫類録」、「改正緒言」、「竹叢譜」外著多、  
[弦山の字/通称/別号]字;公修/子義、通称;宣業/純吾、別号;弦羽/清熙園

弦山(げんざん・吉成) → 好信(よしのぶ・吉成よしなり、神職/和漢学) Q 4 7 0 8

巖山(げんざん・足利) → 義植(よしたね・足利/源、室町幕府将軍) E 4 7 3 4

巖山(げんざん・秋山) → 惟恭(これいよ・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2

玄山(げんざん・伊達) → 村倫(むらのり・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 1 8

研山樵夫(げんざんしやうふ) → 鞏革斎(きやうかくさい・三宅みやけ、儒者) G 1 6 6 3

元三大師(げんさんだいし、がんさん) → 良源(りやうげん、天台中興/歌) E 9 4 5 6

限山堂(げんざんどう) → 残夢(ざんむ・井上いのうえ、藩士/詩人) M 2 0 7 9

源三兵衛(げんさんひやうえ) → 喜楽(きらく・佐々木ささき、郷土史家) Q 1 6 4 5

B1895 **源三位**(げんさんみ;女房名・名;隆子、源みなもと致時女)?-? 平安期歌人、後朱雀帝[1009-45]の乳母、  
藤原泰通の妻、泰憲の母、従三位、  
1056(天喜4)「皇后宮春秋歌合」参(十番;高齢ゆえ後冷泉天皇が代作;眞名日記/袋草紙入)、  
新古今822(弁乳母への返歌)、

[おもへ君きみもえし煙けりまがひなで立ち遅れたる春の霞を](新古今;哀傷822、  
まがひなで;紛れないで/今年の遅い春霞のように立遅れて生き長らえている悲しみ、  
贈歌;弁乳母;321後朱雀院かくれ給ひて源三位のもとに遣はしける、  
あはれ君いかなる野辺の煙にてむなしき空の雲と成りけん、  
共に弁乳母集・栄花物語根合入)

源三位入道(げんさんみにゆうどう) → 頼政(よりまさ・源、武将/廷臣/歌人) 4 7 3 6

源三位入道(げんさんみにゆうどう) → 博高(ひろたか・東久世ひがしぐぜ、廷臣/歌) G 3 7 1 5

源三位頼政(げんさんみよりまさ) → 頼政(よりまさ・源、武将/歌人) 4 7 3 6

J1829 **賢子**(けんし、藤原頭房女/師実の養女)1057-84早世28 白河天皇中宮/堀河天皇母、女房に絵式部、  
同母の兄源雅実まさざねと堀河朝歌壇を推進、

父 → 頭房(あきふさ・源、右大臣/歌人) 1 0 1 2

母 → 頭房室(あきふさのしつ・源、隆子、歌人) 1 0 8 1

J1830 **兼子**(けんし、藤原ふじわら、通称;卿局きやうりゆうのつばね、範兼女)1152-122978 平安後期鎌倉期宮廷女官、  
1165(14歳)父没;叔父範季に養育される、後鳥羽天皇の乳母、

同じく後鳥羽天皇の乳母藤原範子の妹、後鳥羽天皇の信任が厚く重用、  
位階の昇進で卿三位きやうさんみ/卿二位と称される、1199(45歳)典侍;政治に関与、  
権中納言藤原宗頼と結婚、1202範子の夫久我通親没により後鳥羽上皇の独裁政治;  
兼子と弟藤原範光は権勢を誇る;1203(建仁3)の除目を指揮(明月記入)、1203夫宗頼没、  
太政大臣大炊御門頼実と結婚、1218(建保6)北条政子と幕府後継問題を相談;政子と親交、  
1219実朝暗殺後上皇は幕府と対立;兼子は遠ざけられる/1221承久変で上皇は大敗;  
兼子は京に滞在/1229(寛喜元)頭部の腫瘍で没

N1855 **兼子**(けんし、従一位) ? - ? 鎌倉期歌人、  
歌;1312成立「玉葉集」2165(1242宝治百首歌の献歌)、

[ともし火の光さびしきねやの内にさ夜もふけぬる程ぞしらるる](玉葉集:十五雑2165)

B1896 **研思**(けんし) ? - ? 江前期俳人、風虎門、1677六百番発句合入

J1831 **見志**(けんし) ? - ? 江前期京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」3句入  
[權あさかほに六十むそぢを灸の始はじめかな](都曲;143、  
60歳を期に朝顔の花を見ながら健康のためお灸を始める)

兼子(けんし)	→	伊豆内親王(いとないしんのう、歌人)	B 1 1 7 1
兼子(けんし・藤原)	→	伊予三位(伊与-いよのさんみ、歌人)	B 1 1 9 2
謙之(けんし・増田)	→	立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述)	B 4 9 7 2
謙之(けんし・小島/藤)	→	橘洲(きつしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌)	1 6 2 2
謙之(けんし・高畑/安藤)	→	陽洲(ようしゅう・安藤/高畑、藩儒)	B 4 7 1 0
賢子(けんし・藤原)	→	大式三位(だいにのさんみ、女房歌人)	2 6 0 6
賢子(けんし・柳沢/東久世)	→	信子(のぶこ・東久世ひがしぐぜ/柳沢、歌人)	J 3 5 7 9
妍子(けんし・藤原)	→	枇杷皇太后宮(びわこうたいごうのみや、歌人)	3 7 3 0
絢子(けんし・毛利)	→	勅子(ときこ・毛利もうり、家老室/歌人)	W 3 1 6 9
憲子(けんし・源)	→	命婦乳母(みょうぶのめと、歌人)	G 4 1 6 7
顕之(けんし・小寺)	→	顕之(あきゆき・小寺こでら、国学者)	H 1 0 4 8
顕始(けんし・田村)	→	顕始(あきはる・田村たむら、旗本/歌)	H 1 0 8 8
顕資(けんし・源)	→	顕資(あきすけ・源、廷臣/歌人)	1 0 6 6
兼志(けんし)	→	言水(ごんすい、池西、俳人)	1 9 5 4
兼嗣(けんし・近衛)	→	兼嗣(かねつぐ・近衛このえ、右大臣)	O 1 5 6 2
憲之(けんし・石川)	→	憲之(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者)	G 3 5 1 0
憲之(けんし/のりゆき・山田)	→	公章(きみあき・山田、藩士/兵学)	L 1 6 9 9
憲之(けんし・堀田)	→	憲之(のりゆき・堀田ほつた、酒造業/歌人)	J 3 5 9 4
賢之(けんし・建部)	→	賢之(かたゆき・建部たけべ、幕臣/和算家)	1 5 2 2
健子(けんし・松平)	→	健子(たけこ・松平まつだいら/鍋島、貢姫/藩主室)	Z 2 6 5 8
B1897 建治(けんじ・三宅)	?	?	江中期/風俗研究家、1732辞典「日本居家秘用」著
J1832 彰司(あかし/剛司けんじ)	?	?	越後高田俳人;1777樗良と京花見吟行/76樗良「月の夜」入 [更くるとは皆しら露の踊りかな](月の夜;66/みんな夜更けても踊りに夢中)
彰波と同門?	→	彰波(けんば、越後高田俳人)	E 1 8 4 9
顕時(けんじ・藤原)	→	顕時(あきとき・藤原、廷臣)	C 1 0 5 4
顕時(けんじ・北条)	→	顕時(あきとき・北条/金沢、鎌倉幕臣)	1 0 0 6
顕治(けんじ・山田)	→	松斎(しょうさい・山田、儒者;農事改善)	J 2 2 0 1
研次(けんじ・関)	→	藍梁(らんりょう・関せき、儒者/詩人)	D 4 8 2 7
謙二(けんじ・本田)	→	足実(たりみ・本田ほんだ、国学者)	Z 2 6 4 5
謙次(けんじ・安藤)	→	野雁(ぬかり/のかり・安藤、国学/歌人)	3 4 0 2
謙次(けんじ・富田)	→	文山(ぶんざん・富田とみた、藩士/詩文)	F 3 8 4 4
謙次(けんじ・木村)	→	礼斎(れいさい・木村きむら、医者/探検)	5 1 2 9
謙次(けんじ・羽栗)	→	春望(はるもち・羽栗はぐり/和栗、儒/国学)	K 3 6 5 7
謙次(けんじ・豊田)	→	美稻(よしね・豊田とよだ、文武/勤王家)	O 4 7 0 5
謙治(けんじ・千手)	→	旭山(ぎょくざん・千手せんじゅ、藩士/儒者)	O 1 6 9 7
謙治(けんじ・小野寺)	→	鳳谷(ほうこく・小野寺、漢学/海防/詩)	3 9 7 6
謙治(けんじ・安保)	→	正員(まさかず・安保あほ/小野、国学/歌)	M 4 0 9 3
建二(建子けんじ・三井)	→	丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師)	T 2 6 2 8
健次(けんじ・寺嶋/矢野)	→	信厚(のぶあつ・矢野、藩士)	3 5 9 1
健治(けんじ・岡田)	→	守常(もりつね・岡田/遠山、藩士/詩人)	F 4 4 8 1
健治(けんじ・太田)	→	栄哉(ひでちか・太田おおた/源、庄屋/国学)	I 3 7 9 1
憲治(けんじ・福沢)	→	憲治(のりはる・福沢ふくざわ、農業/歌人)	F 3 5 4 4
憲時(けんじ・堀内)	→	憲時(のりとき・堀内ほりうち、神職/国学)	J 3 5 9 5
賢二(けんじ・小林)	→	広業(ひろなり・小林こばやし、歌人/国学)	J 3 7 5 3
賢治(けんじ・松崎)	→	明(あきら・松崎まつざき、医者/詩文)	E 1 0 1 8
賢次(けんじ・村上)	→	忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌)	F 2 6 8 6
賢次(けんじ・田島)	→	操(みさお・松岡まつおか、医/漢学者)	K 4 1 5 4
堅次(けんじ・児島)	→	八尋(やひろ・児島こじま、国学者)	F 4 5 9 0
堅治(けんじい・下代)	→	常齡(つねとし・若松/下代、藩士/農政家)	C 2 9 6 8
B1898 姫子(げんし・藤原、敦康親王女/藤原頼通の養女)	1016-39	早世	24 後朱雀天皇中宮(弘徽殿中宮)、

のち皇后、祐子内親王・祿子内親王の母、  
女房に後拾遺集歌人の伊賀少将がいる

- N1837 幻只(げんし) ? - ? 江前期俳人、1685風瀑「一楼賦」入、  
[蟬ほろぎの夜は啼く夢ばかり寝覚め哉](一楼賦)
- J1833 元志(げんし) ? - ? 尾張俳人;1691「猿蓑」2句入、真野豊綱[元志]との関係不詳、  
[五羽六羽庵いほとりまはす閑古鳥](猿蓑;六)
- J1834 元之(げんし) ? - ? 江前期俳人;1691北枝「卯辰集」2句入  
[ひとつともふたつとも聞く雲雀哉](卯辰集;一54)
- J1835 源之(げんし) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」入、  
[乗る駕籠をひらりとぬけし蚩哉](卯辰集;二225)
- D1863 言志(げんし) ? - ? 俳人;江戸座、1691不角「二葉之松」入(177)、  
[遁世は月日を流す芥川](二葉之松/前句;根無しかづらと人笑ふ也)
- N1851 言子(げんし・ときこorことこ?・松平まつだいら)?-? 江後期;歌人、松平大学頭(頼誠か?)の室、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[月影のやどるむしろに遊ぶ夜は我も雲みに住む心地して](大江戸倭歌;秋902/月前興)、  
☆大学頭松平頼誠よりのぶ(1803-62)室なら正室と継室あり;  
正室;松平頼説(常陸府中藩主)女の信姫のぶひめ(1832頼升出産後没)、  
継室;水戸徳川治紀(母方の伯父)女の苞姫(厚姫)
- J1836 玄子(げんし・河崎かわさき、通称;米次郎、別号;桃園)?-?1830-44没 米沢の俳人:「木乃葉籠」編
- J1837 元史(げんし、別号;常庵、通称;河崎屋六三郎)?-?1861-64没 土佐の商家/俳人:1846「追善集」編
- 厳子(げんし・三条) → 通陽門院(つようもんいん、後小松天皇母/歌) 2 9 4 6
- 元子(げんし・藤原) → 承香殿女御(しょうきょうてんのようご、一条天皇女御) G 2 2 1 0
- 元之(げんし・太田) → 元之(もとゆき・太田おた、藩士/国学者) J 4 4 5 7
- 元之(げんし・竹内) → 元之(もとゆき・竹内たけうち、商家/国学) I 4 4 7 6
- 元氏(げんし・北条) → 元氏(もとじ・北条ほうじょう、旗本/軍学) L 4 4 2 2
- 元志(げんし) → 豊綱(とよな・真野まの、尾張神官/俳) R 3 1 3 0
- 元志(げんし・松平) → 定通(さだみち・松平まつだいら、藩主/教育) J 2 0 7 7
- 源子(げんし・田中) → 万春(ばんしゅん・田中、暦算家) H 3 6 9 7
- 源子(げんし・吉田) → 源子(もとこ・吉田よしだ/原、国学/歌人) L 4 4 8 8
- 原資(げんし;法諱) → 万庵(ばんあん;道号・原資、臨濟僧/詩文) H 3 6 2 0
- 言志(げんし・千村/下条) → 竹塙(ちくお/ちくう・下条しもじょう、医者/歌) C 2 8 6 6
- 言志(げんし・大隈) → 言志(ことゆき・大隈おおくま、商家/歌人) Q 1 9 5 1
- 玄旨(げんし・法印) → 幽斎(ゆうさい・細川/源、武将/歌/連歌) 4 6 0 2
- 玄旨(げんし・法師) → 立祀(りゅうし、玄旨法師、僧/歌人) M 4 9 0 0
- 玄之(げんし) → 芸閣(うんかく・千葉、儒者) B 1 2 0 6
- 玄之(げんし・川上) → 東巖(とうがん・川上、医者) C 3 1 3 3
- 玄之(げんし・角倉) → 素庵(そあん角倉すみくら/吉田、商家/嵯峨本版) 2 5 3 6
- 玄芝(げんし・藤井) → 西洞(さいどう・藤井ふじい、医者/書家) 2 0 9 8
- 玄芝(げんし・秋本) → 里美(さとみ・秋本あきもと、医者/歌人) N 2 0 7 0
- 玄獅(げんし;法諱) → 竺源(じくげん;道号・玄獅、臨濟僧) Q 2 1 3 9
- 玄趾(げんし;法諱・慈麟) → 慈麟(じりん;道号・玄趾、曹洞僧) N 2 2 0 1
- 彦之(げんし・鈴木/鱸) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸ずき、詩人) R 2 2 5 6
- J1838 元次(げんじ/もつぐ) ? - ? 連歌;1464?盛長「熊野千句」参
- J1839 源次(げんじ・沢村さわむら、本姓;石黒) 1721-9070 加賀能美郡金平の生;代々沢村に住:  
十村役を努めたため通称沢村源次と称される、1754(宝暦4)父を継嗣;十村役に就任、  
1765御扶持人並/72金平金山締方主附/1790(寛政2)越中新川郡舟見野新田用水普請主附、  
服務中任地舟見野新田で没、「不動山金山御縮方等仕法帳」著
- 玄児(げんじ) → 練石(れんさき・福田、而笑堂2世、俳人) B 5 1 2 3
- 玄治(げんじ・村上) → 景吉(かげよし・村上むらかみ、医者/僧) L 1 5 4 8

玄二(げんじ・湖月堂) → 湖月堂玄二(こげつどうげんじ、俄にわかの名手) F 1 9 6 2  
 元次(げんじ・岡田) → 元次(もとつぐ・岡田おかだ、武将/記録) B 4 4 4 7  
 元次(げんじ・村田) → 元次(もとつぐ・村田むらた、商家/神道家) L 4 4 6 6  
 元次(げんじ・大谷) → 清香(きよか・大谷おおたに、藩士/国学者) T 1 6 7 5  
 元治(元次げんじ・川原) → 悠々(ゆうゆう・川原かわはら、藩士/俳人) D 4 6 9 3  
 元治(げんじ・阿久津) → 竜湖(りゅうこ・阿久津あくつ/大田原、藩士/儒者) D 4 9 6 9  
 阮二(原二げんじ・柳原/葎) → 関月(かんげつ・葎しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8  
 彦治(げんじ・河本) → 春友(はるとも・河本かわもと、国学者) K 3 6 0 2  
 彦治(げんじ・杉本) → 彦治(ひこはる・杉本すぎもと、教育者) J 3 7 9 2  
 源治(げんじ・山田) → 百梅(ひやくばい・山田やまだ、商家/俳人) E 3 7 7 5  
 源治(げんじ・田中) → 雪麿(ゆきまろ・墨川亭、藩士/絵師/戯作) 4 6 1 1  
 源治(げんじ・小里) → 頼章(よりあき・小里おり、藩士/測量・兵学) I 4 7 3 3  
 源治(げんじ・林田) → 守秋(もりあき・林田はやしだ、藩士/国学/歌) L 4 4 0 4  
 源次(げんじ・田中/近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9  
 源次(げんじ・尾古) → 重直(しげなお・尾古おこ、神職/歌人) N 2 1 7 0  
 源次(げんじ・高橋) → 正次(まさつぐ・高橋たかはし、藩士/歌人) Q 4 0 7 1  
 源次(げんじ・永野) → 親兄(ちかしげ・永野ながの/源、大庄屋) N 2 8 2 1  
 硯之翁(けんしおう・太田) → 雅輔(まさすけ・太田おた、神職/国学/歌) O 4 0 5 0

J1840 元竺(げんじく;法諱) ? - ? 室町期臨濟僧;松嶺道秀[1336-1417]門?、  
 「証羊集」「松嶺道秀禪師行状」編

元之呼斎(げんしこさい) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6  
 玄之斎(玄止斎げんしさい) → 惟信(これぶ・狩野かのう、幕府絵師) E 1 9 4 1  
 硯七(けんしち・桃井/桃) → 筋山(せつざん・桃井/桃もも、藩儒) E 2 4 3 9

D1899 元七(げんしち) ? - ? 大阪俄、1775「末年俄選」入

源七(げんしち・阿部) → 磐根(いね・阿部・阿閉あべ、国学者) I 1 1 4 3  
 源七(げんしち・山県) → 之纜(しらん・山県やまがた、藩士/記録) M 2 2 9 2  
 源七(げんしち・竹本) → 染太夫(初世そめだゆう竹本、浄瑠璃太夫) K 2 5 4 4  
 源七(げんしち・陰山) → 東門(とうもん・陰山/蔭山、儒者/和算) H 3 1 4 2  
 源七(げんしち・桐屋) → 凌雲亭和海(りょううんていわかい・佐羽さば重久、狂歌) G 4 9 4 1  
 源七(げんしち・丸山) → 親任(ちかとう・安倍/長坂、農政/歌) B 2 8 2 5  
 源七(げんしち・長山) → 茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌) B 4 4 1 9  
 源七(げんしち・伊勢屋) → 長温(ひさよし・鈴木すげき、商家/俳・歌人) J 3 7 9 7  
 源七(げんしち・中野) → 宗知(むねとも・中野なかの/高木、大庄屋/歌人) E 4 2 0 9  
 源七(げんしち・駒井) → 眞蔭(まかげ・駒井こまい、商家/開拓事業) P 4 0 7 2  
 源七郎(げんしちろう・荒川) → 重行(しげゆき・荒川あらかわ、幕臣/国学) N 2 1 2 2  
 源七郎(げんしちろう・和田) → 蚊足(ぶんそく・和田わだ、俳人) G 3 8 0 7  
 源七郎(げんしちろう・志村) → 常仙(じょうせん・志村むら、俳人) T 2 2 9 3  
 源七郎(げんしちろう・伊藤) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒学) 2 2 2 3  
 源七郎(げんしちろう・川口) → 信就(のぶなり・川口かわぐち/本多、幕臣/国学) H 3 5 9 8  
 源七郎(げんしちろう・狩野) → 英信(てるぶ・狩野かのう、幕府絵師) C 3 0 8 3  
 源七郎(げんしちろう・大藤) → 恂郷(のぶさと・大藤おおふじ、藩士/歌人) H 3 5 7 4  
 源七郎(げんしちろう・後藤) → 重郷(しげさと・後藤ごとう、商家/国学/歌) O 2 1 4 5  
 元七郎(げんしちろう・山本) → 正毅(まさよし・山本やまもと、旗本/教育/歌) M 4 0 0 7

J1841 顛室(けんしつ:道号・等誠とうせい:法諱、一滴軒)?-? 1499存 京の臨濟僧;玉岫英種門/嗣法、  
 1499天竜寺172世、「顛室和尚語録」著

堅室(けんしつ・葛根) → 春平(はるひら・岡部/松田、国学/歌人) G 3 6 7 6

B1899 憲実(けんじつ:法諱、法印隆承男/本姓;藤原;南家)?-? 1283存 安居院聖覚の孫:

天台安居院流唱導家、叡山僧;法印権大僧都、  
 1267曾祖父澄憲「澄憲作文大体」を抄出、「嫡家相承脈譜」問、歌人、

勅撰12首;続古今(1922)続拾(516/908/1032)新後撰(353)玉(873)続千(964)以下、  
[見る夢の面かげまでやうかぶらんきさ[象]の小川の有明の月]  
(続古;異本歌1922/夢の心)

顕実(けんじつ・池本) → 鴨眠(おうみん・池本いけもと、商家/歌人) C 1 4 7 0

C1860 玄室(げんしつ・杉本すぎもと) ? - ? 摂津の狂歌作者、1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[ほめそしる人言ひと聞かじと手をあてゝ耳をふたげば結句かしまし](夷曲集;827、  
人言;噂/巷の毀誉褒貶から逃れるため耳を塞ぐと耳孔内に反響し結局騒音に悩む)

J1842 元室(げんしつ・村むら、別号;斗入/夢幻/一里庵)?-1805 加賀の俳人:行脚の生涯/京東山に結庵、  
晩年;名古屋住/信州別所温泉に遊、1785「東山春色」編/98「花たちはな」編、「百侘ひやくわび」、  
追善「ゆふつくよ」喜年編;士朗らとの歌仙

元質(げんしつ・陰山) → 東門(とうもん・陰山/蔭山、儒者/和算) H 3 1 4 2

玄室(げんしつ・千、医名) → 宗室(初世そうしつ・千せん、茶人;裏千家) B 2 5 7 3

玄室(げんしつ・多湖) → 松江(しょうこう・多湖たこ/湖、藩儒/詩人) S 2 2 1 3

玄室(げんしつ・栗山) → 孝庵(2世こうあん・栗山、医者/解剖) H 1 9 2 2

元実(げんじつ・熊谷) → 元実(もとざね・熊谷くまがい/宋戸、藩士/歌) J 4 4 9 2

元実(げんじつ・原) → 元実(もとざね・原はら、商家/歌人) L 4 4 0 6

厳実(げんじつ・小笠原) → 厳実(ごんじつ;法諱・小笠原、真宗僧/歌) Q 1 9 4 2

研志堂(けんしどう) → 適処(てきしょ・正墻しょうがき、藩儒/詩) B 3 0 9 8

見思堂(けんしどう) → 庸昌(ようしょう・入り、藩士/和算家) B 4 7 2 5

言志堂(げんしどう) → 好賢(よしかた・木村むら、神道/歌人) M 4 7 4 0

兼子内親王(けんしなないしんのう) → 伊豆内親王(いどのないしんのう) B 1 1 7 1

憲子内親王(けんしなないしんのう) → 新宣陽門院(しんせんようもんいん) 2 2 4 7

源次兵衛(げんじひょうえ・魚住) → 勤(いそし・魚住うおずみ、藩士/国学者) F 1 1 8 7

兼者(けんしや・久武) → 綺石(きせき・久武ひさたけ、藩士/俳人) L 1 6 0 8

萱舎(けんしや) → 東江(とうこう・沢田/平/源、書家/詩) 3 1 1 0

J1843 元車(げんしや:法諱・界輪かりん:道号)?-1709 江前期金沢の黄檗僧;慧極道明門/1678嗣法、  
河内今井村法雲寺2世、「界輪元車禅師語録」著

建若(けんじやく・藤堂) → 長知(ながとも・黒田/藤堂、藩主/歌) E 3 2 9 8

元寂(げんじやく:法名) → 兼光(かねみつ・日野ひの、廷臣/歌人) D 1 5 1 0

C1800 健守(けんしゅ・こんしゅ) ? - ? 平安中期歌僧、源経房[969-1023]と贈答、  
拾遺3首:197/529(経房の擲揄歌への答歌)/1078、  
[終夜よもすがら燃ゆる螢を今朝見れば草の葉ごとに露ぞ置きける](拾遺集;十六1078)

O1812 顕守(けんしゅ:法諱、堀川具守とももり[1249-1316]男)?-? 鎌倉後期;僧/法印、  
具俊(1273-1303)・静源・道守(法眼)・信助・基子(後二条天皇生母)・西園寺公顕室の兄弟

J1844 賢珠(けんしゅ・けんじゅ・上人)? - ? 南北期僧/歌人、新後拾遺1494  
[にごる世の人の心をそのままに捨てぬちかひと頼むばかりぞ](新後拾遺集;十八1494)

C1801 憲守(けんしゅ:法諱、藤原憲基男)?-? 天台僧/安居院あぐい流唱導家名手  
権守(けんしゅ) → 権守(ごんしゅ)

1816 兼寿(けんじゅ:法諱・蓮如れんによ:号、本願寺7世円兼[存如]男)1415-9985 真宗僧;1431青蓮院で出家、  
1457本願寺8世:真宗本願寺中興の祖、越前吉崎に布教拠点/79山科本願寺再興、  
1489光兼(実如)に本願寺を譲る/96大坂石山本願寺に住/99山科で没、「御文おふみ」、  
「御文拾遺」「自要集」「選正集」「安心用意集」「女人教化集」「念仏明要鈔」「信行一念鈔」、  
「正信偈大意」「一念発起鈔」、1483「有馬道の記」86「紀伊国紀行」/「吉野紀行」外著多数、  
[兼寿の幼名/別号]幼名;布袋麿/幸亭麿、別号;信証院、諡号;慧灯大師

C1802 兼寿(けんじゅ・猪苗代、別号;隣松軒、兼説男/本姓;平)1629-9466 仙台藩抱え連歌師/京住、  
1679法眼、近衛基熙に出仕/1692古今伝授を受、1682「狭衣物語抄」著、  
「吉野記」「連歌難陳判」「手爾於波之書」著、「一仲兼寿等百韻」「照高院宮千句」に出座、  
息;兼亮(早世)/養子;兼逸(早世)/養子;兼柳(出奔)/養子;兼郁(門人神戸宇右衛門)、  
参照 → 兼郁(けいよく・猪苗代、連歌師) B 1 8 2 6

- J1845 **憲寿**(けんじゅ;法諱・道本どうほん;字、小林甚右衛門男)1788-1857<sup>90</sup> 信州中籠真言僧;真楽寺で剃髪、1802(15歳)上京;智積院動潮・慈順・弘基門、智積院第一座/六波羅蜜寺普門院住職、1831佐渡蓮華峰寺住職/36江戸愛宕下金剛院住職/39浅草大護院の法継者;権僧正、能書、安政大地震に被災者救済尽力、「和漢筆道初学正法」編/1831「釈道本蔵書目録」著、  
[憲寿の号] 不可得/不可徳  
☆1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入集の[不可得]と同一?、  
[かきくもり冬の日影もくれ竹に霰乱るる音の寒けさ](大江戸倭歌;冬1239)
- N1897 **硯寿**(けんじゅ;号・窓岡まどおか、)1839-1912<sup>74</sup> 近江蒲生郡金田村の真宗円光寺住職、歌人、歌;[鴉のうみ]入、  
[硯寿の法諱/別号]法諱;大秀だいしゅう、別号;育松庵  
見寿(けんじゅ・小野) → 弘任(ひろとう・小野おの、医者/詩歌人) I 3 7 7 3  
兼寿(けんじゅ・勝部) → 兼寿(かねひさ・勝部かつべ、商家/絵師/歌) U 1 5 3 0  
賢樹(けんじゅ・木暮) → 賢樹(かたき・木暮こぐれ、医者/国学者) M 1 5 9 2  
虔儒(けんじゅ・箕作) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3  
健寿(けんじゅ・津軽) → 健寿(たけとし・津軽つがる、幕医) O 2 6 5 2  
謙受(けんじゅ・芳村) → 恂益(じゅんえき・芳村よしむら、医者) M 2 1 4 7
- C1803 **玄守**(げんしゅ;法諱) ?- ? 天台園城寺僧;法印/歌人、続現葉入/続千載1953  
[なにゆゑに変わぬ友と頼むらむ月は昔の秋もしのぼじ](続千載集;十八1953)
- J1846 **玄珠**(げんしゅ) ?- ? 室町期連歌作者;1518宗長「東山千句」参加
- C1804 **元珠**(げんしゅ;法諱・海山かいざん;道号)1566-1642<sup>77</sup> 美濃不破曾禰の臨濟僧;南化玄興門/師に随従、1798師より海山の号/1603妙心寺住持、方広寺鐘銘事件に銘文作者清韓を弁護、  
「海山和尚語録」著
- J1848 **玄珠**(げんしゅ;法諱、東華とうげ;字、俗姓藤井、聞号男)1813-95<sup>83</sup>(過去帳1820-1903<sup>83</sup>)大和葛下郡生、父は真宗本願寺派順照寺僧、漢学;谷三山門/国学;平田篤胤・香川景樹門、性相;智幢門、宗乘;宝雲・南溪門、歌;伴林光平門、撰津能瀬郡の教学寺に住・和泉樽井村の受法寺住職、のち本山の勧学、安藝広島島の仏護寺に住;進徳教校教授、維新後;堺開口神社社司、  
「因縁聞記」「愚禿鈔傷略」「日溪学則考証」「七十五法名目講義」著、  
[玄珠の号] 号;竜原、諡号;対法院  
元珠(げんしゅ;法諱・竜堂)→如珠(にょしゅ;法諱・竜堂りょうどう;道号、黄檗僧) F 3 3 9 6  
元珠(げんしゅ;法諱) → 端愿(たんげん;道号・元珠、曹洞/黄檗/真言僧) T 2 6 3 8  
元珠(げんしゅ;法諱) → 智照(ちしゅう;道号、元珠、黄檗宗尼僧) E 2 8 4 0  
玄首(げんしゅ;字) → 日祐(にちゆう;法諱・寿量院、日蓮僧) D 3 3 3 1  
玄珠(げんしゅ;法諱) → 龍派(りゅうは;道号・禅珠、臨濟僧/詩) F 4 9 3 8  
玄珠(げんしゅ・鎌田) → 柳泓(りゅうおう・鎌田、医/心学者) D 4 9 8 0  
玄珠(げんしゅ・長久保) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3
- 1817 **玄樹**(げんじゅ/げんき;法諱・桂菴けいあん;道号)1427-1508<sup>82</sup> 周防山口の臨濟僧;  
南禅寺景蒲玄忻門/嗣法、1467大内船の正使に随従:入明/宋学を修得し1473帰国、1478島津忠昌の招聘で薩摩へ、79島陰寺(桂樹院)住寺、  
五山文学者:朱子新註による漢文和訓案出、薩南学派の祖、  
1481「大学章句」刊行/1502鹿兒島郡伊敷村に東帰庵を結、「島隠漁唱」「島隠雜書」著、  
「日向福嶋大明神縁起」著、「桂菴和尚家法倭点」「桂庵和尚読書指南」著、  
[桂菴玄樹の号] 島陰/海東野積  
☆薩南学派;桂庵玄樹→月渚永乘→一翁玄心→文之玄昌(南浦文之)→泊如竹→愛甲喜春
- J1849 **元寿**(げんじゅ;法諱・長存ちようそん;字、俗姓;野口)1575-1648<sup>74</sup> 下野薬師寺村の真言僧、1588(14歳)元翁門/出家、長谷寺専誉・智積院玄宥門、1631智積院4世/38僧正、  
「仙洞論議」、1632「仙洞論議決扱」35「探心記」38「秘識義章」41「大疏第三重第六」著  
元寿(げんじゅ・毛利) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6  
元孺(げんじゅ・三井) → 良之(よしゆき・三井みつゐ/黒木、眼科医) H 4 7 8 9  
元孺(げんじゅ・三井) → 善之(よしゆき・三井、良之男/眼科医) H 4 7 9 3

- 玄寿(げんじゅう・山上/竹内) → 雲濤(うんとう・竹内たけうち、詩人) B 1 2 5 7  
 玄寿(げんじゅう・木野戸) → 勝詮(かつよし・木野戸きのと/豊田、神職) U 1 5 4 4  
 玄寿(げんじゅう・津軽) → 季詮(すえのり・津軽つがる/村尾、奥医/国学) I 2 3 8 2  
 玄珠(げんじゅう・藤井) → 玄珠(げんじゅう・法諱、藤井、真宗僧/国学) J 1 8 4 8  
 玄樹(げんじゅう・堀田) → 沙羅(しやら・堀田ほった、幕臣/俳人) G 2 1 5 6  
 顕周(けんしゅう・田所/海野) → 顕周(あきかね・田所たどころ/海野、庄屋/歌) G 1 0 8 5  
 元秀(げんしゅう) → 元秀(げんしゅう、真宗大谷派僧) Q 1 5 9 7  
 元就(げんしゅう・毛利) → 元就(もとなり・毛利/大江、武将/連歌) D 4 4 6 1  
 元周(げんしゅう・戸田) → 元周(もとちか・戸田とだ、茂睡男/歌人) D 4 4 0 3  
 元習(げんしゅう・菊池) → 西臯(せいこう・菊池さくち、藩士/儒者) I 2 4 1 0  
 賢殊院(けんしゅういん) → 得住(とくじゅう; 法諱、真宗大谷派僧) K 3 1 8 9  
 顕寿院(けんじゅういん) → 日演(にちえん; 法諱、日蓮僧) 3 3 7 6  
 堅樹院(けんじゅういん) → 日寛(にちかん・堅樹院、日蓮僧) B 3 3 1 0  
 堅樹院(けんじゅういん) → 日好(にちこう; 法諱、日蓮僧) B 3 3 8 7  
 見樹院(けんじゅういん) → 立詮(りつせん; 法諱・泉秀/真言僧/詩歌) C 4 9 0 9  
 見寿院(けんじゅういん) → 俊亮(しゅんりょう・百々どど/越智、医者) M 2 1 0 9  
 見寿院(けんじゅういん) → 俊道(しゅんどう・百々、俊亮男/医者/本草) L 2 1 5 9  
 C1806 賢秀(けんしゅう) ? - ? 室町期連歌師、1464?盛長催「熊野千句」参  
 J1850 賢洲(けんしゅう; 道号・元養げんよう; 法諱)?-? 江中期黄檗僧; 1685梅嶺道雪門/嗣法、  
 1690近江蒲生郡土田村正宗寺住持、1706「梅嶺禅師語録」編  
 C1805 嵯州(けんしゅう・岡井おかい、名; 孝先、氷室男) 1702-65 64 江中期江戸の儒者; 荻生徂徠・林正猶門、  
 1724水戸彰考館入; 大日本史編纂に参加/父没のため高松藩江戸藩邸儒、物頭・世子侍読、  
 1763致仕、「琴経」「世説逸」「嵯園文稿」著/1769「嵯州遺稿」(: 息・赤城せきじょう刊行)、  
 [嵯州の字/通称/別号]字; 仲錫、通称; 九八郎/文次郎/郡太夫、別号; 滄浪  
 J1851 賢洲(けんしゅう; 法諱・梵蓮社潮誉; 法名)?-1812 浄土僧; 江戸伝通院学頭; 1791筑後善導寺49世、  
 1776「四教義記」、「仏性論節義」「浄土論註研機鈔」「法界次第貫練鈔」「円頓菩薩戒勸持総科」  
 J1852 縑州(けんしゅう・阿部あべ、名; 温、良山男) 1793-1862 70 大阪西横堀の篆刻家; 父門/詩・書画、  
 1824-28「良山堂茶話」、「芥子園画伝奠でんせん」「歳時記異称考」著、  
 [縑州(;)号]の字/通称/別号]字; 伯玉/玉倩、通称; 信次郎/良平、  
 別号; 絹洲/印癡道人/良山堂/有鹿邨/白斎  
 謙宗(けんしゅう・南英) → 南英(なんえい・謙宗、曹洞僧) I 3 2 5 2  
 見周(けんしゅう・梅田) → 仙庵(せんあん・梅田うめだ、儒者) L 2 4 4 7  
 硯州(けんしゅう; 号) → 大巖(だいがん; 法諱・僧具; 字、真宗僧) J 2 6 9 9  
 硯州(けんしゅう・杉本) → 義篤(よしあつ・杉本すぎもと/藤原、医者) C 4 7 1 5  
 萱洲(けんしゅう; 号) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう、儒者) B 2 6 5 3  
 賢秀(けんしゅう/かたひで・建部) → 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4  
 顕秀(けんしゅう・田所) → 顕秀(あきひで・田所たどころ、神職/国学) H 1 0 8 1  
 兼秋(けんしゅう・豊原) → 兼秋(かねあき・豊原、楽人; 笙) O 1 5 3 5  
 兼秀(けんしゅう・広橋) → 兼秀(かねひで・広橋、勘解由小路、廷臣/連歌) O 1 5 8 8  
 兼就(けんしゅう) → 実孝(じつこう; 法諱、真宗本願寺派僧) U 2 1 6 6  
 兼修(けんしゅう・加藤) → 正之(まさゆき・加藤かとう、商家/尊王) I 4 0 3 7  
 C1807 乾什(けんじゅう・岩本いわもと) 1680-1759 80 江戸新吉原の妓楼天満屋(or雁金屋)主人、  
 俳人; 岩本子英・沾徳門、乾什座点者、都会風の句作、  
 「歳旦輯」「竹婦人岩本乾什点俳諧之巻」著、1730「続江戸筏」竟宴歌仙参加、  
 1735「親うぐいひす」歌仙参加、1754竹翁「俳諧童の的」評点句入、  
 追善集; 「毛登濃美津もとのみう」(大塚雪斎[新吉原太田屋主人]編)、  
 [梅が香や宗祇の建てし蔵もなし](庭の巻/風流は欲望を捨て自然に浸る)、  
 [乾什(;)号]の通称/別号] 通称; 天満屋仁左衛門(三代目)、  
 別号;/ 呉丈(;)初号)/ 東曲/ 左英、千歳児/ 満足庵/ 鷹一叟/ 酒為郷  
 参照; 乾什の門弟 → 雪斎(初世せっさい・大塚、太田屋主人俳人) E 2 4 3 4

→ 正朔(せいさく・竹島/竹婦人、河東節/俳人) B 2 4 6 9

- J1853 乾什(2世けんじゅう・満足庵)?- ? 俳人;2世雪斎(初世雪斎男)門  
賢重(けんじゅう・堀江) → 賢重(かたしげ・堀江ほりえ、武将/連歌) M 1 5 9 5  
兼従(けんじゅう・吉田/萩原) → 兼従(かねより・萩原はぎわら、神道家) P 1 5 1 1  
僣従(けんじゅう;大伴旅人の従者) → 旅人の僣従(たびとのつかひびと、歌人) 2 6 4 8  
顕充(けんじゅう・中川) → 顕充(あきみつ・中川なかがわ、国学者) I 1 0 0 9
- J1854 巖秀(げんしゅう・ごんしゅう;法諱)?- ? 鎌倉期真言僧:1257密華園院親杲より伝法灌頂を受、  
「伝法灌頂手日記」著
- C1809 原秀(げんしゅう) ? - ? 室町期連歌師、1445「文安雪千句」入
- C1808 玄周(げんしゅう) ? - ? 戦国期連歌師、  
1537.5.22今城能親張行「伊予千句」連衆:周桂・宗牧らと
- J1855 玄周(げんしゅう・西にし、儒医友鷗男/本姓;阿蘇) 1603-6866 医者:熊本藩主加藤・細川家出仕、  
1644豊前小倉藩医/藩主小笠原忠真に出仕;豊前貴志村を受領(のちの西氏薬園)、法橋、  
「医案弁証」「診脈要論」著、  
[玄周(;通称)の別通称/号]別通称;一鷗、号;閑豁(かんかつ)老人
- O1810 玄周(げんしゅう;法諱) ? - ? 江前期;上方の僧;法師/連歌・歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、筑前正行寺3世玄周(1662真宗大谷派に改宗)と同一?、  
[連歌の発句のいみじきを人のしたるほめてつかはすとて、  
つくば山時雨ふりおける昔にもきこえおとらぬことのはぞこれ](林葉累塵;雑1264)
- J1856 元宗(げんしゅう;法諱・覚照(かくしょう);道号、俗姓;萩原) 1647-172074 薩摩鹿兒島の黄檗僧、  
1659大隅蒲生の永興寺吟翁門;出家/1669江戸で万福寺2世木庵性瑠門、  
のち上野甘楽郡宝林寺の潮音道海に随従、1673木庵より覚照元宗の名を授与される、  
1680美濃賀茂小松寺住持、1718(享保3)美濃市橋の瑞巖寺に退隠、「薩摩紀行」著  
[覚照元宗の幼名/初法諱]幼名;三治房、初法諱;玄智
- J1857 玄修(げんしゅう;字・山脇(やまわき)、名;道立(どうりゅう)、法号;芸叟(うんそう)、三宅宗理男) 1654-172774 京の医者、  
1676法橋/77法眼、山脇玄心の甥;1681養嗣;家督、688「本朝綱目附方分類」編、「医方魄贖」著
- J1858 玄秀(げんしゅう;法諱・覚阿;号) 1661-170343 江前期遠州見付の時宗僧:47世唯称門、  
甲斐西念寺・山形光明寺で宗乗を講義;子弟教育、1702(元禄15)「時宗統要篇」著
- E1889 玄洲(げんしゅう・朝比奈(あさひな)、名;文淵、与右衛門男)?-1734 尾張藩士/1708新家を興す/1820右筆、  
江戸在勤中に儒学;徂徠門(木下蘭皐と同門)、「客館璀璨集」、「蓬島遺珠」著、  
[玄洲の字/通称/別号]字;涵徳、通称;平八/甚左衛門、別号;玉壺
- J1859 元周(げんしゅう;字・直海(なおみ)、名;竜、号;衡斎)?-? 江中期越中の本草家;松岡恕庵門、一時京阪住、  
1748「班荊問譚」55「広倭本草」、「産物筆談」「鸚哥譜」「分量則」「衡斎本草余録」著
- J1860 玄秀(げんしゅう;法諱・妙阿;号)?- ? 江中期;京の浄土僧;一心教院住、  
1762「称念(しょうねん)上人行状記」、「弾誓(たんせい)上人行状記」著
- J1861 玄秀(げんしゅう・徳田(とくだ)) ? - ? 江中期江戸赤阪の医者、1777「太古末病編」著
- J1862 元秀(げんしゅう・日向(ひゅうが)、名;英俊(えいへい)?-? 江中期駿河の本草家:大内能耳門/江戸住、  
「本草綱目校異」「本草綱目鈞衡」「難経評註」「素問玄義」「愈穴契玄」著、  
[元秀(;字)の通称/号]通称;宗朴、号;陶庵/鶴洲
- N1876 玄秀(げんしゅう;法諱、俗姓;塚本左京)?-1806 伊勢奄芸郡高野尾村の日蓮宗円立寺僧、  
国学者;本居宣長門
- D1884 元洲(げんしゅう・関(せき)、名;照/嘉、藩儒の祖洲男) 1753-180654 尾張藩士/儒;父門、詩人、1773藩儒、  
経史の講説業/江戸で修学;藩主徳川宗睦に都講に拔擢/1783藩校明倫堂教授/世子侍講、  
1794「説苑纂註」1803「律数揚推(りつすうようかく)」、「音韻討原」著、  
[元洲(;号)の字/通称]字;公德/公乗(きんのり)、通称;進治/進次
- J1863 玄周(げんしゅう;通称・横山(よこやま)、名;時安、別通称;友説)?-? 秋田藩医:盲人の鍼医、1800出仕、  
1817藩校医学館経絡会頭/41医学頭格の待遇、1813「経絡括要」、「座頭論」「鍼治撰要」著
- D1885 玄脩(げんしゅう・竹中(たけなか)、名;道穂(みちよす) 1801-7676歳 陸奥仙台藩医員:藩医、  
歌人;門弟多数、歌集「小笹の露」「小竹舎(ささのや)家集」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[鶯の声おもしろきあけがたはなれし朝いもせられざりけり](大江戸倭歌;春86曙鶯)、

[玄脩(通称)の号]号;玄洲/玄州/小竹舎ささのや

竹中東軒との関係?;

竹中東軒(とうげん・玄深/尚卿/道穂/得生子、1731-1802仙台藩医者;伊達重村に出仕)

J1864 **玄秀**(げんしゅう・高橋たかはし)? - ? 江後期羽後横堀の産科医;上京し賀川流修学、

「産論」著、秀庵の父

- 玄秀(げんしゅう;法諱・蘭叔)→ 蘭叔(しらんしゆく;道号・玄秀げんしゅう、臨濟僧) C 4 8 6 6  
玄秀(げんしゅう・釈) → 紫道(しどう、僧/俳人) F 2 1 2 5  
玄秀(げんしゅう;字) → 日妙(にちみょう;法諱、正覚院、日蓮僧) D 3 3 2 3  
玄修(げんしゅう;字、玄修院)→ 日明(にちみょう;法諱・智英院、日蓮僧) D 3 3 2 5  
玄周(げんしゅう;初法諱)→ 鉄帚(てつそう;道号・宗州、臨濟僧) E 3 0 7 1  
玄洲(げんしゅう・金子)→ 命朝(のぶとし・金子かねこ、薬商/歌人) B 3 5 1 2  
元秀(げんしゅう・高安)→ 元秀(もとひで・高安/三善、武家/歌人) E 4 4 0 0  
元秀(げんしゅう;法諱・梁山)→ 梁山(りょうざん;道号・元秀、黄檗僧) H 4 9 7 1  
元秀(げんしゅう/もとひで・阿部)→ 北溟(ほくめい・阿部あべ、医者/儒詩) D 3 9 9 1  
元秀(げんしゅう/もとひで・福田)→ 太室(たいしつ・福田/田、儒者) K 2 6 1 3  
元周(げんしゅう・片倉)→ 鶴陵(かくりょう・片倉たくら、医者) K 1 5 6 0  
元周(げんしゅう・吉田/橋)→ 元周(もとちか・橋たちばな/吉田、幕府医者) D 4 4 0 4  
元周(げんしゅう・戸田)→ 元周(もとちか・戸田、国学者) D 4 4 0 3  
元修(げんしゅう・松田)→ 雪柯(せつか・松田まつだ、神職/儒/書家) K 2 4 7 7  
言周(げんしゅう・宮崎/加集)→ 言周(ことぶ・宮崎みやざき/加集かお、藩士/郷土史家) N 1 9 3 2  
源秀(げんしゅう)→ 重茂(しげもち・高こう/高階、武将/歌人) D 2 1 1 4  
彦脩(げんしゅう・中根)→ 彦循(げんじゆん・中根、暦算家) J 1 8 7 9  
玄柔(げんじゅう;法諱)→ 剛中(ごうちゅう;道号・玄柔、臨濟僧) K 1 9 5 9  
元柔(げんじゅう・桑山)→ 六左衛門(ろくざえもん・桑山くわやま、幕臣/奉行) C 5 2 7 2  
元重(げんじゅう・秋庭)→ 元重(もとしげ・秋庭あきば、武将/城主) C 4 4 5 7  
元重(げんじゅう・平岩)→ 元重(もとしげ・平岩/弓削、武将/戦記) C 4 4 5 8  
元重(げんじゅう・上曾/黒沢)→ 元重(もとしげ・黒沢/上曾、藩士/歌) C 4 4 6 0  
元重(げんじゅう・河村)→ 元重(もとしげ・河村、国学者) C 4 4 6 5  
元住(げんじゅう・三浦)→ 元住(もとずみ・三浦みうら、藩士/歌人) L 4 4 4 4  
幻住庵(げんじゅうあん)→ 蕙逸(けいいつ・山田、商家/俳人) 1 8 3 2  
玄収院(げんしゅういん)→ 日賢(にちけん;法諱・智朗、日蓮僧) B 3 3 6 0  
健十郎(けんしゅうろう・高谷)→ 美蔭(よしかげ・高谷たかたに/奥野、代官/儒/歌) N 4 7 7 0  
源十郎(げんしゅうろう・藺田)→ 守夏(もりなつ・藺田/荒木田、神職/国学) G 4 4 1 4  
源十郎(げんしゅうろう・吉川)→ 従長(よりなが・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 2  
源十郎(げんしゅうろう・吉川)→ 従安(よりやす・吉川、従長男/幕臣/神道) L 4 7 4 3  
源十郎(げんしゅうろう・吉川)→ 従門(よりかど・吉川、従安男/幕臣/神道) L 4 7 4 4  
源十郎(げんしゅうろう・緒方)→ 槐窓(かいそう・緒方おがた、儒者) H 1 5 1 7  
源十郎(げんしゅうろう・加藤)→ 章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者) G 2 2 5 5  
源十郎(げんしゅうろう・酢屋)→ 国雄(くにお・橋たちばな、絵師) C 1 7 6 4  
源十郎(げんしゅうろう・寺山)→ 月村(げつそん・寺山てらやま、俳人) H 1 8 2 1  
源十郎(げんしゅうろう・成田)→ 朝辰(ともとき・成田なるた/羽生、卜占/画) P 3 1 9 2  
源十郎(げんしゅうろう・中沢)→ 親応(ちかまさ・中沢なかざわ、藩士/兵法家) B 2 8 8 3  
源十郎(げんしゅうろう・中村)→ 正房(まさふさ・中村なかむら、歌人) M 4 0 2 6  
源十郎(げんしゅうろう・太田)→ 雅輔(まさすけ・太田おおた、神職/国学/歌) O 4 0 5 0  
源十郎(げんじゅうろう・雑喉ざこ屋)→ 兼方(かねまさ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) U 1 5 3 1  
言寿翁(げんじゅうおう)→ 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/歌) M 1 6 0 0  
謙叔(兼叔けんしゆく・中川)→ 謙叔(兼叔かねよし・中川、儒者) F 1 5 5 3

J1865 **元淑**(げんしゆく・桑原くわばら、名;文吾) 1718-9376 羽後秋田の医者;細川元春門/江戸遊学、

1782秋田藩士、1785側医、「本草綱目附方便覧」著、

[元淑の別通称/号]別通称;芳英/貞竹、号;皐鶴子こうかくし

- J1866 **玄肅**(げんしゆく;法諱/別法諱;祥瑞、常行寺雄峯男)1768-1841<sup>74</sup> 肥前田代の真宗僧;道隱[諦忍]門、1812本願寺派学林の看護/20安居の講師/24勸学、豊前光林寺13世、  
「分類聚鈔聴記」「往生礼讃聴記」著
- J1867 **玄叔**(げんしゆく;字・清水しみず、号;烏涯)?-? 江後期上州榛名の文筆家、1803「榛名詣」  
玄叔(げんしゆく・宮原) → 蒨山(ぶざん・宮原みやはら、儒者/医者) C 3 8 3 5  
元肅(げんしゆく・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井、医者/詩/俳) K 2 8 4 2  
元叔(げんしゆく・千) → 宗旦(そうたん・千せん、茶人) C 2 5 4 6  
元叔(げんしゆく・梁田) → 蛻巖(ぜいがん・梁田やなだ、儒者/詩) 2 4 0 6  
玄叔(げんしゆく・加藤) → 霞石(かせき・加藤かとう、医者/儒詩人) M 1 5 6 7
- E1891 **儼塾**(げんじゆく・森もり、名;尚謙、清以男)1653-1721<sup>69</sup> 摂津高槻の医者;父門/半井驢庵門、  
儒・仏;浄嚴・福住道祐・松永昌易門/兵法;山脇重頭門、1684水戸藩士;徳川光圀に出仕、  
史館編集参加;光圀から堂名儼塾を賜、1698「儼塾集」1707「護法資治論」、「二教合璧論」、  
「仏教合論」「実境研滴」「史論雜綴」「二十四論」「日光山賦」著、  
[儼塾の幼名/字/別号]幼名;亀之助、字;利涉、別号;不染居士/復庵  
硯寿堂(けんじゆどう) → 景彦(かげひこ・津田つだ、藩士/和文) L 1 5 2 5
- D1886 **賢俊**(けんしゆん;法諱、日野俊光男/本姓藤原)1299-1357<sup>59</sup> 真言宗醍醐三宝院門跡/大僧正、  
1336醍醐寺65代座主/40東寺長者、尊氏の重臣、政・宗教界の実力者、「賢俊僧正日記」著、  
歌人;清閑寺坊で歌会・連歌会催;探題花百首/賢俊月次連歌など、1336「住吉法楽和歌」参、  
「春日社頭公武和歌」1344「金剛三昧院奉納歌」参、藤葉集入/50為世13回忌歌参、  
1356延文百首参加/連歌;菟久波集13句入、  
勅撰10首;風雅(1590)新千載(664/769)新拾(651/1261)新後拾(659)新続古(4首)、  
[神無月しぐれにまじるもみぢばは散りかふほども色やそふらん](風雅;雑1590)、  
[行末もめぐりあらむとたかの山その暁を月にこそまで](金剛三昧院歌;冒頭歌)、  
[賢俊(;法諱)の通称]菩提寺大僧正/將軍門跡、日野資朝の異母弟
- D1887 **兼舜**(けんしゆん;法諱) ? - ? 僧;法印、歌人、1364成立「新拾遺集」入;1550  
[尋ねきて散るをこそ見れ山桜なにを手折りて家づとにせん](新拾遺;十八1550)
- J1868 **顕春**(けんしゆん;法諱、通称;無障金剛)?-? 鎌倉後期1303-11頃天台僧、1303「秘教要略抄」
- J1869 **顕俊**(けんしゆん;法諱、号;福恩院、藤原為顕男)?-? 1317存 法相僧;興福寺実聡門/権少僧都、  
法院権大僧都/1317伏見院葬事に参仕、歌人;1315為兼[詠法華経和歌]に参加、  
勅撰2首;玉葉(2716)/続千載(961)、  
[吹く風に波のたちみはしげけれど水より外の物にやはある](玉葉;釈教2716、  
唯識論の中に如海遇風縁起種種波浪といへる心を)
- 兼俊(けんしゆん・源) → 兼俊(かねとし・源みなもと、歌人) F 1 5 7 0  
兼俊(けんしゆん・卜部) → 兼俊(かねとし・卜部うらべ、神職/亀卜) O 1 5 7 0  
兼俊(けんしゆん・水無瀬) → 兼俊(かねとし・水無瀬みなせ、廷臣/書/歌) W 1 5 5 3  
兼俊(けんしゆん;後法諱) → 兼了(けんりょう;法諱・実悟、真宗僧) M 1 8 9 7  
顕駿(けんしゆん・小野) → 顕駿(あきとし・小野おの、国学者)
- D1888 **憲淳**(けんじゆん;法諱、栗田口[近衛]良教男)1258-1308<sup>51</sup> 真言宗醍醐寺僧;報恩院覚雅門、  
のち報恩院4世、1302聖雲親王より印可/権僧正、後宇多天皇に小野流伝法灌頂を授、  
1308東寺三長者、「北斗御修法雑記」「事密抄第四」「根来寺中性院頼瑜法印35日願文」著、  
歌:「五十番歌合」主催、「続門葉集」撰?、  
勅撰5首;玉葉(154/621/2639)続千(2070)風雅(1458)、  
[初瀬山尾上の花は霞みくれて麓にひびく入相の声](玉葉;春154)
- D1889 **兼純**(けんじゆん・猪苗代いなわしろ、別号;月喬斎/桑下叟、兼載の養嗣子)1487-1539<sup>53</sup> 磐城の連歌師・  
歌人、兼載に随従/伊達植宗の和歌の師/1515上京;冷泉為広門、1525「兼純独吟千句」著、  
兼載聞書類を編纂;「兼載雑談」など、「連歌寄合」/1539「連歌新式」書写、  
[兼載との関係について2説] ①兼載の甥(伊達世臣家譜)  
②広幢男で兼載の舎弟(顕伝明名録)
- J1870 **兼順**(けんじゆん;法諱・別法諱;顕誓けんせい、康兼[蓮誓]男)1499-1570<sup>72</sup> 母;大納言持季女、蓮如の孫、  
加賀真宗光教寺の生/兄蓮能の法嗣/光教寺住、本願寺光教(証如)の命で朝倉教景と講和、

1566法印/67法流相違の嫌疑を受け播磨籠居、「今古独語」「今古独語人物考」「蓮師法語」、  
「病中漫筆」「聖人修行物語」「八宗法事記」「顕誓領解之訴状」、1567「光闡坊(顕誓)百首」著、  
[兼順の幼名/称/号]幼名;光慶丸/光玉丸、称;侍従/治部卿、号;光闡坊こうせんぼう

- J1871 **憲順**(けんじゆん;法諱) ? - ? 江前期紀伊名草郡の天台僧;六十谷の大同寺住、  
紀伊名草郡坂田村の了法寺住職、歌:1712「憲順詠百首和歌」「太神宮法樂十首和歌」著
- D1890 **謙順**(けんじゆん;法諱・豊春ほうしゆん;字、俗姓中野)1740-181273 武州埼玉郡蒲生村の真言僧、  
1751江戸愛宕円福寺で出家/54智積院覚遠門/67真乘院宥証門;伝法灌頂を受、  
1774菩提院結衆となる/1803円福寺入/1804智積院28世/05権僧正、1790「諸宗章疏録」編、  
「真訣鈔」「切紙見聞記」「華嚴経略策見聞」「諸流伝授記」「略策本書」「略策後編」外著多数
- 堅諄(堅淳/賢淳けんじゆん;法諱)→ 大痴(だいち;道号・堅諄、臨濟僧) K 2 6 5 8  
賢順(けんじゆん;法諱/天台僧)→ 顕智(けんち;法諱、真宗僧) C 1 8 6 4  
顕純(けんじゆん・坂本) → 宗文(むねふみ・坂本さかもと、産科医) C 4 2 4 4  
憲純(けんじゆん・斎藤) → 東溪(とうけい・斎藤さいとう、本草家) D 3 1 0 6
- 01828 **玄俊**(げんしゆん;法諱、範玄[1137-99]男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧;三蔵院権律師/已講、  
覚範(法橋)の弟/信定(尋定/律師)・信舜(法眼)・円経(僧正)の兄/中納言実綱室の兄弟、  
南都仏教界中心的存在の父範玄(興福寺別当)と後鳥羽上皇側の対立激化;  
1198(建久9)玄俊が興福寺衆徒を扇動したという理由で佐渡へ配流、父は中山に籠居、  
歌人;1237檜葉集3首入(配流時に三河内侍との贈答歌・越の国での歌など)、  
[とまるだにけふのなごりをしのぶなりこしちはるけき身を思ひやれ]、  
(佐渡配流の時三河内侍よりの贈歌、  
[さりともしと同じ都はなぐさみつ関越えゆかむ程をしぞ思ふ]への返し)(檜葉;610)、  
[こしの国に侍りけり、しかるに雪のいみじく降れるりけるが鳥のかしらにつもりて、  
白くみえければ、かの燕えんの太子丹たん(?-BC226)がこと思ひよそへられてよみ侍りける、  
山がらすかしらにつもるしら雪をはらはぬのみやかたみなるらむ](檜葉;羈旅615)
- D1891 **原春**(げんしゆん) ? - ? 連歌師、1452「宝徳千句」入
- D1892 **玄俊**(げんしゆん・里村さとむら:北家、別号;機翁、玄陳男)1605-6450 京の人/幕府連歌師、泉州堺住、  
「後水尾法皇勅判御会連歌」参加
- J1872 **元春**(げんしゆん・西村にしむら、名;維宣)1611-9888 江前期水戸藩医:鍼医/扁鵲流、1653「鍼灸秘録」著
- J1874 **元春**(げんしゆん;法諱) ? - ? 江中期黄檗僧:鉄分てつもん道智[1634-88]の侍者、  
「鉄分てつもん和尚行実」編
- F1807 **言春**(げんしゆん) ? - ? 大和法隆寺の僧、俳人、1690言水「新撰都曲」入、  
[額がく晒されて榊葉さかさば折るる時雨かな](都曲;412/神社掲額も雨ざらし供えた榊も枯る)
- J1873 **元俊**(げんしゆん・小石こいし、名;道、林野はやの[小石]李伯男)1743-180866 代々若狭小浜藩家老;父流浪、  
父は小石と改姓し1777大阪住、母;柴山サヨ、医;淡輪元潜・永富独嘯庵門/大阪で医開業、  
儒詩:1777皆川淇園門/83刑屍解剖、玄沢・玄白と交流;大阪に衛生堂・京に究理堂を開設、  
「衛生堂薬厨譜」「鬱証養生論」「有因新語」、1784「解体図平次郎解剖」98「解臟図誌」外著多、  
[元俊(;通称)の字/別通称/号]字;有素、別通称:右吉、号;大愚/碧霞、元瑞げんずいの父
- J1875 **元俊**(げんしゆん・佐々木ささき、別名;宗順、秀庵男)1818-7457 陸奥弘前の医者:父門、  
蘭学;1848杉田成卿塾入、医を開業/1859津軽藩校蘭学堂の学士、津軽藩医、  
蘭語辞書翻訳/種痘普及/鉾山開発に功績、1872県立病院開設に関与、  
佐久間象山・勝海舟と交流、小山内玄洋・陸羯南・佐藤弥六の師、  
「鍊鉄訓象」「厚生舎密」「蕃語象胥」著、  
[元俊(;名)の号]号;香遠、法号;靈方院
- 元岫(げんしゆん;法諱・寿山)→ 寿山(じゆざん;道号・元岫、黄檗僧) Y 2 1 8 3  
元春(げんしゆん・井手) → 元春(もとはる・井手、俳人) D 4 4 9 2  
元春(げんしゆん・佐藤) → 元春(もとはる・佐藤、文筆家) D 4 4 9 3  
元春(元俊げんしゆん;字) → 運敏(うんしやう;法諱・泊如、真言僧) B 1 2 1 9  
元春(げんしゆん・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5  
元春(げんしゆん/もとはる・細川)→ 清斎(せいさい・細川ほそかわ、藩儒/詩文) B 2 4 5 9  
元春(げんしゆん・井上) → 元春(もとはる・井上いづえ、国学者) J 4 4 1 3

- 元春(げんしゅん・石居) → 元春(もとはる・石居いひ/菅原、藩士/歌) J 4 4 2 0  
元春(げんしゅん・田代) → 恒親(つねちか・田代たしろ、藩医/国学) F 2 9 9 0  
元儁(げんしゅん・深川) → 元儁(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9  
源春(げんしゅん・法号) → 長貞(ながさだ・小笠原、幕臣/故実) D 3 2 6 7  
玄春(げんしゅん・原) → 南陽(なんよう・原はら、医者) 3 2 4 5  
玄春(げんしゅん・中村) → 蘭林(らんりん・中村/藤原、幕医/儒者) D 4 8 2 9  
玄春(げんしゅん・竹田) → 三益(さんえき・竹田、藩医者) L 2 0 7 9  
玄春(げんしゅん・矢尾板) → 拙谷(せつこく・矢尾板やおいた、藩医/儒者) K 2 4 9 0  
玄春(げんしゅん・山内) → 由己(ゆうこ;通称・山内やまうち、詩人) B 4 6 5 3  
玄春(げんしゅん・西岡) → 玉全(ぎょくぜん・西岡、暦算/相法家) P 1 6 2 3  
玄俊(げんしゅん・馬場) → 信武(のぶたけ・馬場、医/儒/書肆) B 3 5 7 8  
玄俊(げんしゅん・神岡) → 竹嶼(ちくしょ・神岡かみおか、医者/詩人) D 2 8 1 9
- D1893 元淳(げんじゅん) ? - ? 安藝厳島の連歌師、元就万句など参加
- D1894 元順(玄順げんじゅん・南みなみ、名;方由)?-1688? 堺の医者、俳;宗因門、1660顕成「境海草さかいぐさ」入、1660重頼「懐子ふところご」入、67秀政しゅうせい「貝殻集」83句入/70「寛伍集」83「南天順三物」編、堺談林俳諧の俳壇の重鎮/点者として各地指導、1678葎宿「四人法師」独吟百韻入、1682「風黒」高名集入、89「あら野」入;晩年は蕉風に帰した、[南無や空くたゞ有明のほとゝぎす](あら野;末期に/諸法は空に帰すという仏の教)
- J1882 玄順(げんじゅん;名・宇留野うるの、通称;一鳳)?-? 江前期1688-1704頃文筆家;「宇留野玄順筆記」著
- D1895 玄順(げんじゅん・田中) ? - ? 江前期漢学者、1686「本朝列仙伝」編
- J1876 玄恂(げんじゅん;通称・芳村よしむら/本姓平、名;叟/字;如也)1678-175780 京の医者;名古屋玄医門、梶井門跡道仁親王に招聘;法橋/法眼、1745親王に從駕;將軍に謁、「黄帝内経素問大伝」「難経而知」「傷寒論訓古」著
- J1877 元純(げんじゅん;通称・丸山まるやま、名;良棟よしむね)1687-175872 越後三島郡与板の医者;京で修学、郷里で医業、のち寺泊で開業、郷土史家;史料・口碑を研究;地誌編纂;「北越風土記節解」編、1756「越後名勝志」「越後名寄えちごなよせ」編、「越後本草」著、1758(宝暦8)没
- J1878 玄順(げんじゅん・加藤かとう、名;懿之/字;富方、謙斎男)1699or1706-178587/80 三河の医者;若林強斎門、浜松藩医、のち辞任;吉田に住、「古今方彙国字解」1738「痘瘡結要」編、1770「方的」74「傷寒手引草」編/「縦衡良方」「縦衡良方指南」著、外編著多数、[玄順の別号] 主篤庵/守篤庵/篤斎/順、俳人鳥巢(加藤玄順)とは別人
- J1879 彦循(げんじゅん・中根なかね、名;卞べん、元圭男/本姓平)1701-6161 近江暦算家;父門/京の銀座役人、1729「開方盈朒術」31「中根答術」38「竿頭算法」43「算学神文書式」著、「累約補」編、外著多数、[彦循(;字)の別字/通称/号]別字;彦脩/元循、通称;保之丞/安之丞やすのじょう、号;法触ほうじく、法号;心廓院、新七郎の父、
- E1895 玄順(玄淳げんじゅん;字・萱生かよう、名;金言/号;茅山、永庵男)1772-183766 代々三河田原藩医儒、1781(10歳)父没/85名古屋で儒・医修学/江戸で亀田鵬斎門、田原藩儒医/1810藩校教官、「続菅草とりでぐさ」「田原城主考」著
- J1880 玄淳(げんじゅん;法諱、別法諱;僧謙)?-? 江後期1804-18頃撰津吹田真宗本願寺派僧/照儀坊住職、1804の三業惑乱の記録を残す/1807知事/のち加談(知事の顧問)、「片山日次記抄」「卷舒自在抄」著
- J1881 元純(げんじゅん;号・小山こやま、名;濟)1812-4534 肥後熊本藩侍医・「傷寒論会通」著
- N1882 元淳(げんじゅん・田島たじま、通称;玄諦)?-1866 信濃飯田藩の医者/歌人
- 元淳(げんじゅん・成田/姫井) → 栗谷(りっこく・姫井ひめい/成田、藩儒) B 4 9 8 0  
元純(げんじゅん・西郷) → 元純(もとずみ・西郷さいごう、藩士/歌人) K 4 4 0 3  
元準(げんじゅん・成宮) → 元準(もとのり・成宮なるみや、歌人) K 4 4 8 9  
玄順(げんじゅん・伊東) → 不玉(ふぎょく・伊東/伊藤、医者/俳人) B 3 8 4 5  
玄順(げんじゅん・加藤) → 鳥巢(うそう・加藤かとう、医者/俳人) C 1 2 9 9  
玄順(げんじゅん・加藤) → 達(すすむ・加藤かとう、藩士;医者/歌) I 2 3 2 5  
玄順(げんじゅん・林/能美) → 友庵(ゆうあん・能美のうみ/林、医者) 4 6 5 2  
玄順(元順げんじゅん・中村) → 勸農衛(かのえ・中村/黒川、藩士/医者) P 1 5 1 6

- 玄純(げんじゆん・三浦) → 義方(よしかた・三浦みうら/田丸、医者) P 4 7 2 8  
 玄純(げんじゆん・三浦) → 蘭阪(らんぱん・三浦みうら/松田、医/本草) D 4 8 1 3  
 玄純(げんじゆん・高宮) → 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2  
 玄淳(げんじゆん・鈴木) → 松江(しょうこう・鈴木/鱸すずき/盧ろ、医/詩) I 2 2 7 5  
 玄潤(げんじゆん・松井) → 昌胤(まさたね・松井まつい、藩医) D 4 0 5 8  
 建春山人(けんしゆんさんじん) → 専庵(せんあん・平住ひらぎみ、医/儒/本草) E 2 4 7 9  
 玄舜房(げんしゆんぼう) → 秀尊(しゅうそん;法諱、真言僧) X 2 1 9 5  
 建春門院(けんしゆんもんいん) → 滋子(しげこ・平、後白河天皇皇后) C 2 1 1 9  
 建春門院右衛門佐(けんしゆんもんいんうえものすけ) → 右衛門佐(うえものすけ、歌人) C 1 2 0 6  
 建春門院中納言(けんしゆんもんいんちゆうなごん) → 俊成女(としなりのむすめ・健御前) 3 1 4 8  
 J1883 賢助(けんじょ;法諱、洞院公守男) 1280-? 1334存 真言僧;1314大僧正;醍醐寺座主/15東寺二長者、  
 1318致仕/27座主・二長者再任、三宝院住、歌;玉葉集(1836)、  
 [うちいづる波かとぞみる谷河の氷るなぎさに残る白雪](玉葉集;十四1836;権僧正賢助)  
 01813 憲助(けんじょ;法諱、) ? - ? 南北期;僧/権律師、歌;藤葉集入、  
 [をしからぬ我が命さへうき人のころににてやつれなかるらん](藤葉;恋437)  
 乾恕(けんじょ;字) → 日統(にっとう;法諱・勇猛院、日蓮僧) F 3 3 3 9  
 兼如(けんじょ・猪苗代) → 兼如(けんじょ・猪苗代いなわしろ、連歌師) C 1 8 8 7  
 堅恕(けんじょ・三宅) → 誠斎(せいさい;号・三宅みやげ、藩儒) B 2 4 5 0  
 C1810 玄初(げんじょ) ? - ? 連歌師、1476「表佐千句」参(宗祇らと)  
 玄初(元初げんじょ;法諱) → 断崖(だんがい;号、万瑛、臨濟僧) T 2 6 2 3  
 元緒(げんじょ・長沢) → 元緒(もとお・長沢ながさわ/井上、商家/歌) K 4 4 8 6  
 幻処(げんじょ;号) → 聞中(もんちゆう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6  
 言緒(げんじょ・山科) → 言緒(ときお・山科やまなし、廷臣/歌人) 3 1 3 2  
 C1811 元恕(玄恕げんじょ・山岡、元隣げんりん[1631-72]男)?-? 江中期俳人:季吟門、  
 1672亡父の遺稿を整理・刊行、  
 1672(寛文12)「諸国独吟集」校/編、78「はいかい続仕様」著  
 玄恕(げんじょ・伊藤) → 風国(ふうこく・伊藤、医者/俳人) 3 8 0 1  
 元如(げんじょ;法諱) → 元如(げんじょ;法諱、天台僧) M 1 8 0 8  
 元如(げんじょ・高木) → 元如(もとゆき・高木たかぎ、和文家/狂歌) E 4 4 5 9  
 元如(げんじょ・稲村) → 山海(さんかい・稲村いなむら、俳人) L 2 0 9 0  
 元助(げんじょ・二宮) → 東郭(とうかく・二宮、経学/兵学) C 3 1 1 5  
 玄助(げんじょ・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7  
 言如(げんじょ) → 言如(ごんじょ;道号・円遵;法諱、臨濟僧) G 1 9 9 8  
 源如(げんじょ/げんじょ?・村上) → 恒庵(こうあん・村上むらかみ、医者/書) E 1 9 8 4  
 1818 顕昭(けんしょう/けんじょう;法諱、俗姓;藤原) 1130?-1209?80? 藤原顕輔の猶子、天台叡山で修行、  
 仁和寺入;覚性法親王・守覚法親王の庇護を受/1187頃阿闍梨/法橋、  
 歌学;六条藤家に修学/御子左家と対立、1185-87歌学書「袖中抄」/撰集「今撰歌集」、  
 1185「古今集顕昭註」(のち定家補注「顕昭密勘」)、「桑門集」撰/「古言類葉抄」著、  
 「後拾遺抄」「散木集註」「日本紀歌註」「万葉集時代難事」「詞林心海」著、  
 1193六百番・99御室五十首/1201千五百番歌合参加/1209長尾社歌合参加、  
 続詞花・万代・檜葉・雲葉集入、  
 勅撰42首;千載(13首65/213/219以下)新古(3首296/331/1981)新勅(977)以下、  
 [吉野川みかささしもまさらじを青根をこすや花の白波](千載;春65、  
 水かさはまさらないが花の白波が青根が峰を越す)、  
 [雲やなみ波や雲とも見えわかぬ舟路のはてはかすみなりけり](御室五十首;春604)、  
 [顕昭の称] 亮公すけのきみ/亮阿闍梨すけのあじやり  
 01821 顕章(けんしょう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の法師/1237刊[檜葉集]入、  
 [秋の山といへる事をよめる、  
 たつた山もみぢをこむる夕霧や秋をやくひの煙なるらむ](檜葉;秋277)  
 01827 賢祥(けんしょう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

歌人;1237刊[檜葉集]3首入、

[源氏の心をさぐりて恋の歌よみ侍りけるに よもぎふをえて、

みちもなくしげき蓬におくつゆのたまさか口こそ人もとひしか] (檜葉;恋488)

[さくら会に童の千代若に申しよりにけるを いづこにあるぞと問はれ、

うき雲のあともさだめぬよし答へけるに 千代若より、

おほぞらにいかがたのまむ浮き雲のあともさだめぬ人のこころは (檜葉;雑童682)、  
賢祥法師の返し、

うき雲のさだめぬあともけふよりはこの山の端をさらむものかは] (檜葉;雑683)

- C1815 **見性**(賢性けんしょう;法諱、時賢?、名越時基男/本姓平)?-? 鎌倉後期僧;法師、朝貞の弟、  
歌;新後撰697、  
[言の葉も及ばぬ法のみことをば心よりこそ伝へそめしか] (新後撰;釈教697/見性法師)
- J1884 **見性**(顕性けんしょう;法諱)?-? 鎌倉後期長門浄土僧;西山派覚人門、  
備後蓮台院住;「三心所廢義」「称名念仏半自力半他力義」を主唱、「選撰集本願章記」著
- J1885 **賢証**(けんしょう) ?-? 室町前期天台僧/声明;大原律円門、  
本達より「長音供養文甲乙」の伝授を受、1346「梵網經十重禁」著
- J1886 **顕昭**(けんしょう) ?-? 南北期僧;法眼/連歌;1356成立「菟玖波集」入;  
[花にしみてや風は吹くらむ] (菟;雑体1875、前句;山桜散れば酒こそそのまれけれ、  
詞書;法勝寺花見侍りけるに人々酒たうへて)
- C1868 **建照**(けんしょう、美作みまさかの入道)?-? 室町期;社僧;尾張熱田神宮の社務代、  
連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(5句)、  
[君富みてをさむる秋の万民よろづみ] (熱田法楽;賦山何;初裏1、  
万民による広い田の秋の収穫に君主も富む;仁徳帝の故事を匂わす、  
前句;宗重;いま刈りじほになるや千町田ちまちだ)
- J1887 **顕証**(顕性けんしょう;法諱・一音いちおん;字、木村重成男?) 1597-1678<sup>82</sup> 撰津生玉?の真言僧、  
1607(11歳)高野山宥盛門;広沢華嚴院で修行/1661仁和寺心蓮院住、広沢流;高山寺菊淵門、  
地蔵院流灌頂;榎尾平等心院恵灯より受、経書の校補修繕に尽力/晩年;北長尾法住寺隠棲、  
1641「本要記」54「久米寺縁起事」、「御室御代々略記」「習合神道」「本寺堂院記」外著多数
- |                  |   |                               |           |
|------------------|---|-------------------------------|-----------|
| 見昌(けんしょう)        | → | 華山(かざん・大森、詩人)                 | F 1 5 0 6 |
| 見性(けんしょう)        | → | 宗知(そうち・県あがた、茶人)               | I 2 5 4 1 |
| 見性(けんしょう・田丸)     | → | 健良(けんりょう・田丸たまる、医者/詩人)         | N 1 8 0 1 |
| 兼昌(けんしょう・源)      | → | 兼昌(かねまさ・源みなもと、廷臣/歌人)          | 1 5 7 4   |
| 兼章(けんしょう・ト部)     | → | 兼章(かねあき・ト部/吉田、神職/日記)          | O 1 5 3 6 |
| 兼章(けんしょう・富永)     | → | 兼章(かねあき・富永とみなが、藩士/国学)         | V 1 5 1 5 |
| 兼尚(けんしょう・山本)     | → | 兼尚(かねひさ・山本やまもと/賀茂、諸大夫/和学)     | W 1 5 1 2 |
| 兼勝(けんしょう・広橋)     | → | 兼勝(かねかつ・広橋、廷臣/歌/連歌)           | C 1 5 7 3 |
| 兼将(けんしょう・吉田)     | → | 兼将(かねまさ・吉田よしだ、能本研究)           | D 1 5 0 5 |
| 謙祥(けんしょう・宮田)     | → | 篤親(あつちか・宮田みやた/島崎、神道/国学)       | L 1 0 6 0 |
| 顕尚(けんしょう・関口)     | → | 顕尚(あきなお・関口せきぐち、国学者/歌人)        | H 1 0 8 0 |
| 顕性(けんしょう;法名)     | → | 頼実(よりざね・大炊御門おおいみかど/藤原、太政大臣/歌) | I 4 7 6 6 |
| 顕彰(けんしょう・坊城/勸修寺) | → | 顕彰(あきてる・勸修寺かじゅうじ、詩人)          | D 1 0 5 8 |
| 顕照(けんしょう・深淵)     | → | 龍観(りょうかん・深淵ふかぶち、真言僧/歌)        | M 4 9 2 5 |
| 憲章(けんしょう・八田)     | → | 竜溪(りゅうけい・八田はつた、藩儒者/兵学)        | D 4 9 4 8 |
| 憲章(けんしょう・阿部)     | → | 掠亭(りょうてい・阿部あべ、庄屋/儒者)          | J 4 9 0 0 |
| 憲章(けんしょう・押上)     | → | 美香(よしか・押上おしあげ、役人/国学者)         | M 4 7 0 9 |
| 憲承(けんしょう;字)      | → | 日普(にちふ;法諱・養賢院、日蓮僧)            | D 3 3 1 6 |
| 建章(けんしょう・三井)     | → | 丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師)         | T 2 6 2 8 |
- J1888 **賢浄**(けんじょう;法諱) 1647 - ? 1668存 天台僧、1668「天台名目類聚鈔条簡」
- J1889 **憲乗**(けんじょう;法諱・俗姓;二条にじょう)?-? 江前期大和興福寺一乗院の坊官/法印、  
「部類拔書」編、1705「二条家旧記目録」著、孝乗の父
- J1890 **顕成**(けんじょう;名・三蔭/三陰/御影みかげ) 1799-1859or5461/56 大和葛下郡神楽村真宗照光寺住職、

国学・歌：香川景樹門、熊谷直好と親交、1848(嘉永元)「赤人の考」著、顕遠けんおんの父、  
[顕成(；名)の号] 海南道士/遺愛堂/青峩

- N1825 顕乗(けんじょう；法諱) ? - ? 江戸期紀伊真宗本願寺派僧、「入出二偈窺斑録考本」著  
顕常(けんじょう；法諱) → 大典(だいてん；号・梅莊顕常、臨濟僧) B 2 6 9 0  
憲静(けんじょう) → 憲静(けんせい/けんじょう；法諱・真言僧) K 1 8 4 2  
兼仍(けんじょう・桜井/山井) → 兼仍(かねなお・山井やまのい、廷臣/文筆) O 1 5 7 7  
兼乗(けんじょう) → 賢心(けんしん；法諱、真宗僧) K 1 8 1 1  
賢乗(けんじょう；字) → 宥智(ゆうち；法諱、真言僧) D 4 6 3 9
- C1812 玄勝(げんしょう) ? - ? 万葉四期僧、大原高安の歌を伝誦3952
- J1891 玄昭(玄照げんしょう；法諱・号；清涼房、俗姓；三国)846-917?72? 天台宗叡山僧、  
円仁門；金剛頂経・天台宗疏を修学、露地房長意門；三部の秘法を受、比叡山西塔院住、  
のち清涼院住、888(仁和4)陽成天皇の講論の際南都の勢範と因明いんみょうの義を対論、  
911(延喜11)権律師、「金剛界私記」「胎藏界私記」「清涼私記」「悉曇略記」著、  
[玄昭(；法諱)の称] 護摩王/因明王
- J1892 玄証(げんしょう；法諱・号；閑観房/賢観房、大江維光男)1146-?1222前没?(77歳前) 真言僧；  
1155(10歳)出家、高野山西谷月上院証印門/嗣法、絵師；密教図像を描く、  
1185「真言並功能抄録」著、1193宜秋門院安産祈禱の功；伝灯大法師の位、  
1207醍醐寺珍海の吉祥天像を転写、「十二神将像」「不動明王廿八宿図」画
- F1808 元性(げんしょう・覚恵かぐえ、宮法印、崇徳天皇皇子)1151-8434 平安後期；真言高野山僧、西行と親交、  
山家心中集入
- O1819 玄性(げんしょう；法諱、) ? - ? 平安鎌倉期；南都の僧/法橋、  
歌人；1237刊[檜葉集]3首入；宇智郡御霊社百番歌合参加、  
[海上逆旅の心をよみ侍りける、  
もろこしの山もやちかくなりぬらむなみちのすゑに雲のかかれる](檜葉；羈旅655)
- C1814 源承(げんしょう；法諱、俗名；藤原為定、藤原為家男)1224-? 1303存 母；宇都宮頼綱(蓮生)の女、  
天台宗叡山僧；聖覚門/1235出家、1243法眼、歌人；1263住吉社歌合/92巖島社頭和歌参加、  
「和歌口伝」著、「浜木綿集」「太秦うづま集」撰(散佚)、  
二条派歌人として反御子左・反二条派歌人に論難、  
勅撰26首；続拾遺(609/1356/1394)新後撰(8首354/456/581以下)玉(2655)続千(4首)以下  
[そむきても憂世はなれぬ秋をへておなじ涙に月を見るかな](続拾遺；雑秋609)
- C1813 玄勝(げんしょう；法諱・俗名；斎藤基兼or宗基、斎藤基材男)?-? 南北期廷臣；左衛門尉/出家；歌僧、  
勅撰2首；新千載1025、新拾遺1665  
[思ひたつ恋路の末のしるべとはまよふ心をいかがたのみむ](新千載：十一恋1025)
- J1893 玄祥(げんしょう；法諱・雲谷うんこく；道号、仏智広照禅師)1402-56溺死55 近江臨濟僧・日峯宗舜門、  
尾張瑞泉寺住職/1456. 7. 8船沈没し溺死、「偈集」著
- C1816 元尚(げんしょう・波多野はたの)?- ? 南北・室町期(14ct末-15ct前半)室町幕府評定衆、  
因幡守、連歌師、1433北野万句入
- C1817 玄昌(げんしょう；法諱・文之ぶんし；道号、俗姓；湯佐/和木)1555-162066 日向飢肥南郷外浦の臨濟僧；  
1660(6歳)延命寺天沢門；出家、竜源寺一翁玄心門/東福寺熙春竜喜悦門；嗣法、  
1681竜源寺住寺、島津家3世に歴事/正興寺・安国寺住寺、程朱学；玄心門、薩南学派、  
詩人/四書に精通、桂庵玄樹「四書集註」に文之点、周易・素書の和点補正、  
「南浦文集」「南浦詩集」「南浦全集」「南浦文鈔」「南浦戲言」「南浦棹歌」「襟帯集」著、  
「日州平治記」「歴代歌註解」「砭愚へんぐ論」著、  
[文之玄昌の号] 南浦/雲興軒/時習斎/懶雲らんうん/狂雲
- C1818 玄祥(げんしょう・里村さとむら；北家、別号；紹尚、玄仲男)?-1673 幕府連歌師、後集発句帳入
- J1894 玄性(げんしょう；法諱・空深くうしん；字)?-? 室町期紀州真言宗大伝法院(根来寺)僧、  
妙音院住/詞辨に優れる/学生教育；学頭、「論議私記」「大疏百条第三重記」著
- C1822 元升(玄松/玄升げんしょう・向井むかい、高甫男/本姓；藤原)1609-7769 肥前神崎郡出の医者/本草家、  
長崎で天文・儒医・本草学を修学、私塾輔仁堂開；子弟教育/1647長崎立山に聖堂創建、  
1658上洛；京で開業；皇族などを治療、元端・元淵(俳人去来)・元成・牡年の父、

「医門関」「乾坤雑話」「靈蘭本草」、1658「乾坤辨説」75「律度精義」76「養生善道」外著多数、  
 [元升(；名)の字/号]字；以順/素柏、号；靈蘭/靈蘭堂/觀水/觀水子、法号；觀水子向井元升

- J1895 **元照**(げんしょう；法諱・普門ふもん；道号)1644-1705<sup>62</sup> 金沢臨濟宗高巖寺4世、  
 1702「地蔵菩薩応驗新記」著
- C1823 **元勝**(げんしょう・水野) ? - ? 江戸前期、1681「花壇綱目」著
- D1878 **巖頌**(げんしょう) ? - ? 江戸前期、1691不角「二葉之松」入(423)
- C1824 **元勝**(げんしょう) ? - ? 俳人、近江人、1692常牧編「冬ごもり」入
- C1819 **元昭**(げんしょう；法諱・月海；道号、還俗姓；高、柴山[芝山]常名男)1675-1763<sup>89</sup> 肥前蓮池の黄檗僧、  
 1686(12歳)竜津寺化霖道竜門/96諸国行脚/万福寺独湛性瑩しょうかい門/1707竜津寺寺務、  
 1724上京、鴨川橋畔で煎茶売り：東山通仙亭経営/煎茶道の祖、詩文；1742高こう遊外名、  
 1749「梅山種茶譜略」著、1755売茶をやめ偈語の編纂、「対客言志」「名公茶器銘」著、  
 1763「元昭翁[売茶翁]偈語」著(無住編)、  
 [月海元昭の通称/号]通称；売茶翁、号；高こう遊外ゆうがい
- C1820 **原松**(げんしょう・加藤かとう)1685-1742<sup>58</sup> 常陸笠間の俳人：其角門/江戸住、1716頃伊勢阿濃津住、  
 伊賀上野住/1736京住；芭蕉新俳式の嫡伝を名乗る、1739「星月夜」編/「猩々菴伝書」、  
 1740「正風論」(門人松廬・松佐の共編)、随齋諧話の書簡、  
 [冴えかへる空や北斗の星月夜](星月夜；巻頭の其角33回忌追善歌仙の発句)、  
 [原松の号] 猩々庵/八斗庵/虎翼居士/烏鵲坊うじやくぼう
- C1827 **元徹**(げんしょう) ? - ? 江中期江戸浄土宗増上寺住僧、  
 1762「励声念仏感応編」(周防徳山の八正寺託竜の三昧境行業記録)  
 参照 → 託竜(たくりゅう)：法諱・性雲：字、浄土僧) E 2 6 3 1
- J1896 **玄章**(げんしょう；号・小林こばやし、名；順亮)?-? 江中期丹後宮津藩医；1759浜松から移封、  
 藩命で領内踏査；地誌編纂、子原しげんの父  
 1761「丹哥府志」「丹後州宮津府志」、「謝山秘録」著
- J1897 **玄将**(げんしょう・鈴木すずき) ? - ? 江中期1741-51頃尾張の将棋士、1743「観手象戯経」編、  
 1747「将棋古今集」/48「象棋経」「将棋五四銀」、「将棋周鏡」「将棋秘書」
- J1898 **玄昌**(げんしょう・土生はぶ、名；義胤/茂胤、野村正友男)1798-1865<sup>69</sup> 安藝高田郡吉田の眼科医、  
 兄玄潭出奔により1718伯父土生玄碩げんせきの後嗣、1823幕府西丸奥医見習/将軍侍医、  
 1829養父のシボル事件連座により解任/本所で開業/37将軍治療のため侍医に再任；法眼、  
 和漢洋の眼下医書の研究；川本幸民・多紀安良・桂川甫周らと交流、  
 「銀海療方」「迎翠堂方函」、1850-51「修斎日記」著、  
 [玄昌(；通称)の号] 修斎/脩斎/迎翠堂/鶏頭
- J1899 **玄章**(げんしょう・伊藤いとう、名；伯、頼尾尚育男)1811-77<sup>67</sup> 伯耆深浦の医者；伊良子大洲門、  
 京；関大路左衛門門/宗家伊藤氏を継承、因幡若桜藩主池田定保の侍医/江戸の御七役、  
 のち帰郷後儒医/藩主侍読、「古方撰」著  
 [玄章(；字)の号] 信古齋/春祺堂しゅんきどう
- K1800 **玄昌**(げんしょう・沼野ぬまの) ? - ? 江後期安房の医者；玄仙門、  
 蛭田流産術；1831「産則全書」著
- |                    |                         |           |
|--------------------|-------------------------|-----------|
| 玄昌(2世げんしょう・吉岡)     | → 恕翁(じょう・吉岡よしおか、藩医)     | M 2 2 1 8 |
| 玄照(げんしょう；法名)       | → 光吉(みつよし・惟宗、歌人)        | F 4 1 0 9 |
| 玄昭(げんしょう；法諱)       | → 太室(たいしつ；道号・玄昭、臨濟僧)    | K 2 6 1 4 |
| 玄召(げんしょう；法諱)       | → 棠陰(とういん；道号・玄召、臨濟僧/聯句) | B 3 1 0 5 |
| 玄尚(げんしょう・益田)       | → 鶴楼(かくろう・益田、儒/詩人)      | E 1 5 8 4 |
| 玄章(げんしょう・今西)       | → 玄章(はるあや・今西いまにし、国学者)   | J 3 6 7 3 |
| 玄詔(玄承/玄紹げんしょう；法諱)  | → 義天(ぎてん；道号、臨濟僧)        | L 1 6 5 6 |
| 玄紹(げんしょう；字)        | → 日秀(にっしゅう；法諱、日蓮僧)      | D 3 3 9 8 |
| 元成(げんしょう/げんじょう；法諱) | → 知幻(ちげん；道号・元成、黄檗僧)     | E 2 8 0 8 |
| 元尚(げんしょう・高須)       | → 元尚(もとなお・高須たかす、醸造業/国学) | D 4 4 4 3 |
| 元盛(げんしょう、法師)       | → 盛徳(もりのおり・藤原、歌人)       | G 4 4 2 2 |
| 元祥(げんしょう・益田)       | → 元祥(もとよし・益田ますだ、武将/藩国老) | E 4 4 6 8 |

元祥(げんしょう・山崎)	→	雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書)	D 1 2 7 3
元祥(げんしょう・菅間)	→	鷺南(しゅうなん・菅間すがま、儒者)	Y 2 1 1 6
元祥(げんしょう・中村)	→	水竹(すいちく・中村なかむら、篆刻家)	E 2 3 8 5
元昭(げんしょう・原)	→	元寅(もとのぶ・原はら、藩士/詩人)	D 4 4 7 1
元紹(げんしょう・景山)	→	豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌)	U 3 1 7 1
元照(げんしょう;法諱)	→	月浦(げつぼ:道号・元照、黄檗僧)	H 1 8 3 5
元聖(げんしょう;別法諱)	→	無己(むき;道号・道聖;法諱、臨濟僧)	4 2 3 7
元聖(げんしょう;法諱)	→	瑞麟(ずいりん:道号・元聖、黄檗僧)	F 2 3 1 7
元昌(げんしょう・今井)	→	順斎(じゅんさい・今井/松浦、医者/篆刻)	J 2 1 7 1
元昌(げんしょう・木村)	→	清蔭(せいいん・木村きむら、商家/詩歌)	H 2 4 4 0
元昌(げんしょう・江良)	→	仲文(ちゅうぶん・江良えら、儒者)	G 2 8 8 2
元昌(げんしょう・堀)	→	洄瀾(かいらん・堀、医者)	J 1 5 1 0
元昌(げんしょう・木下)	→	順斎(じゅんさい・木下/藤原、医者)	K 2 1 7 4
元章(げんしょう・桑名)	→	元章(もとあき・桑名、儒者)	B 4 4 9 4
元章(げんしょう・岩川/渡辺)	→	秀石(しゅうせき・渡辺/岩川、絵師/唐絵目利)	H 2 1 8 8
元章(げんしょう・中島)	→	元章(もとあき・中島、歌・郷土史)	B 4 4 9 6
元章(げんしょう・齋藤)	→	元章(もとあき・齋藤/羽田野、和算家)	B 4 4 9 7
元章(げんしょう・箕浦)	→	元章(もとあき・箕浦、藩校助教/日記)	C 4 4 0 1
元章(げんしょう・観世)	→	元章(もとあきら・観世、能楽)	C 4 4 0 3
元章(げんしょう・片山)	→	冲堂(ちゅうどう・片山、儒者/詩文)	G 2 8 6 7
元章(げんしょう・有馬)	→	白嶼(はくしょ・有馬ありま、儒者/詩)	D 3 6 3 2
元章(げんしょう・北山)	→	橘庵(きつあん・北山きたやま、医/儒者)	F 1 6 8 8
元章(げんしょう・宇野)	→	醴泉(れいせん・宇野うの、儒者/詩人)	5 1 4 7
元章(げんしょう・宮本)	→	八朗(はちろう・宮本、俳人)	E 3 6 9 8
元章(げんしょう・寺沢)	→	明(阿支羅あきら・寺沢、国学)	E 1 0 2 0
元章(げんしょう・山田)	→	惟雲(いいうん・山田、商人/儒者)	E 1 1 7 6
元章(げんしょう・村上)	→	松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師)	R 2 2 6 2
元章(げんしょう・熊谷)	→	儀克(よしかつ・熊谷くまがい、絵師)	C 4 7 8 8
元章(げんしょう・村士)	→	玉水(ぎょくすい・村士すぐり、儒者/兵学)	I 1 6 8 5
元章(げんしょう・西川)	→	国華(こっか・西川にしかわ、藩士/儒者/詩)	G 1 9 5 5
元章(げんしょう・佐野)	→	山陰(さんいん・佐野、藩士/儒者/地誌)	G 2 0 1 5
元章(げんしょう・藤沢)	→	南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育)	J 3 2 9 6
元章(げんしょう・半井)	→	元章(もとあき・半井なからい、医/国学/歌)	K 4 4 8 7
元璋(げんしょう;法諱)	→	梵珪(ぼんけい;道号・元璋、黄檗僧)	F 3 9 3 0
元璋(げんしょう・佐野)	→	琴壑(きんがく・佐野さの、藩士/儒者)	I 1 6 9 5
元昇(げんしょう・蘆沢)	→	一閑(いっかん・蘆沢あしざわ、藩士/記録)	G 1 1 8 1
元紹(げんしょう・芦沢/古川)	→	元紹(もつぐ・古川ふるかわ、医者)	I 4 4 5 5
元勝(げんしょう・安見)	→	元勝(もとかつ・安見やすみ、藩士/砲術/歌)	L 4 4 7 7
元勝(げんしょう・田中)	→	元勝(もとかつ・田中、医者/国史)	C 4 4 3 9
元韶(げんしょう・岡野)	→	石城(赤城せきじょう・岡野/河合、藩士/儒者)	D 2 4 5 5
元象(げんしょう・狩野)	→	養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学)	F 4 5 7 2
巖勝(げんしょう・白鳥)	→	巖勝(げんじょう;法諱・白鳥しらとり、真宗僧/歌)	N 1 8 8 0
巖嶂(げんしょう・山内)	→	豊信(とよしげ・山内やまのうち、藩主/詩歌)	R 3 1 1 8
巖昭(げんしょう→ごんしょう;法諱)	→	法住(ほうじゅう;法諱、真宗僧)	F 3 9 0 6
彦勝(げんしょう・近藤)	→	寡斎(かさい・近藤こんどう、藩士/儒/教育)	H 1 5 4 4
彦昭(げんしょう・屈/堀)	→	景山(けいざん・堀ほり/修姓;屈、儒者/医)	1 8 5 7
彦章(げんしょう・芥川)	→	丹丘(丹邱たんきゅう・芥川、儒者/華音)	I 2 6 0 5
彦祥(げんしょう・中川)	→	紫山(しざん・中川なかがわ、医者)	T 2 1 6 1
彦証(げんしょう;字)	→	清算(しょうざん;法諱・彦証、真言律学僧)	J 2 2 1 7
彦松(げんしょう・伊東)	→	祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌)	G 2 3 6 8

- 源勝(げんしょう) → 深勝法親王(しんしょうほつしんのう) E 2 2 6 6
- K1801 玄静(げんじょう;法諱・称;水尾阿闍梨)?-? 907存 平安前期;丹波水尾禅門寺の僧、  
真言:宗叡(しゅうい)・禅念門、のち天台;安然門/伝法灌頂を受、  
「天供略頌」「愛宕山禅門記」「伝法灌頂式」「金剛界三昧耶戒」「聖天次第」外著多数
- K1802 元乘(げんじょう;法諱) 1455 - ? 1511存 興福寺法相僧/維摩会の行事奉行;講師房設営/運営、  
1511「大会日記講師方」著
- 1821 玄仍(げんじょう・里村、紹巴(じょうは)は長男) 1571?-1607 37? 連歌師:北家の祖、妻;昌叱の女、  
1584頃から一門の連歌に参加、1591(天正19)-1607(慶長12)多数の百韻連歌に参加、  
1602父より古今伝授を受、法眼、1602「玄仍七百韻」03「玄仍発句之連歌」、「玄仍千句」著、  
「玄仍千句」「連歌独吟」、「里村玄仍消息」著、  
[玄仍(;号)の別号]何羨(かぜん)堂/索雲齋、玄陳・玄的・昌琢妻らの父
- K1803 源乘(げんじょう;法諱・俗姓;二条) 1608-? 1679存 大和興福寺一乗院の坊官/法眼、西金堂大行事;  
管轄下の地神経座頭・巫女を統括、  
1679「源乘日記」、「地神経座頭公事留書并折紙申渡留帳」著
- C1825 元上(げんじょう・黒田(くろだ)) ? - ? 江前期俳人、紀州の人、1661「天神奉納集」編
- C1826 元丈(げんじょう・野呂(のろ)、名;実夫/幼名;源次、高橋重英男) 1693-1761 69 伊勢勢和村の医者、  
1712医者野呂三省の養子/上京;医;山脇玄修門/儒;並河天民門/本草;稻生若水門、  
1720幕府採薬御用/39幕府医官・本草、40幕命で蘭語修学/41オランダ商館長随行医者と対話、  
1747寄合医師、オランダの動物・本草の和解書刊、「阿蘭陀本草和解」「阿蘭陀禽獣虫魚図和解」、  
「連山草木志」「妙高山温記」「仏足蹟誌」「朝鮮筆談」「大島紀行」「本草綱目記聞」著、  
狂歌;栗下亭木端門/「狂歌集要」1757刊(未得(みとく)「吾吟我集(ごぎんわがしゅう)」を復刻;伏見屋版)、  
[元丈(;字)の号] 連山/緑竹園主人(;狂歌号)、法号;連山道水居士
- K1804 玄乘(げんじょう;道号・破了;法諱)?-? 越後尼瀬の曹洞宗光照寺住持、1775-9頃良寛を指導
- K1805 玄仗(げんじょう;法諱/別法諱;光暉、号;真因房/諦浄(たいじょう)) 1738-92 55 越前の真宗本願寺派僧、  
丹生郡の敬覚寺住職、越前太田の平乗寺功存門、1764師著「願生帰命辨」を同門僧と刊行、  
「帰命行信辨」「往生要集聴録」「往生要集講録」「略評西方義」「高僧和讃随聞記」著、  
「教旨一類機篇」「弾妄釈義篇」著
- E1813 元丈(げんじょう;字・中島(なかじま)、名;茂逸、棕隠男)?-? 江後期京の儒者:父門、  
1828-30「棕隠軒集」第2・3集編
- N1880 巖勝(げんじょう;法諱・白鳥(しらとり)、号;章圭) 1791-1858 68 信濃飯田の真宗本願寺派正念寺住職、  
国学・歌人;植松茂岳門
- K1806 幻成(げんじょう;法諱・号;遇查庵)?-1862 豊前宇佐四日市の真宗大谷派福円寺住職、  
1852高倉学寮で講義/56擬講、  
「辨正論講述」1850「華嚴経孔目章講義」59「円覚経略疏講録」著
- 元丈(げんじょう・本因坊、宮重) → 本因坊元丈(ほんいんぼうげんじょう、棋士) E 3 9 9 3
- 元丈(げんじょう;法諱・湛堂) → 湛堂(たんどう;道号・元丈、臨濟僧) T 2 6 5 7
- 元成(げんじょう/げんじょう;法諱) → 知幻(ちげん;道号・元成、黄檗僧) E 2 8 0 8
- 元常(げんじょう・細川) → 元常(もとつね・細川、武将/歌・連歌) D 4 4 1 6
- 元常(げんじょう・中山) → 元常(もとつね・中山(なかやま)、医者/歌人) K 4 4 8 2
- 元襄(げんじょう・浦) → 元襄(もとまさ/もとすけ/もとし・浦(うら)/国司(くに)にし、家老/日記) E 4 4 3 2
- 玄浄(げんじょう・安藤) → 掃雲軒(そううんけん・安藤(あんどう)、兵法家) G 2 5 1 3
- 玄丈(げんじょう・桜田) → 臥央(がおう・桜田(さくらだ)、医者/俳人) B 1 5 1 5
- 玄丈(げんじょう・坂上) → 玄長(げんちやう・坂上(さかがみ)、医者) L 1 8 4 2
- 玄上(げんじょう・藤原) → 玄上(はるかみ・藤原、廷臣/琵琶/歌) G 3 6 2 2
- 玄仍(元常(げんじょう)・吉弘) → 菊潭(きくたん・吉弘(よしひろ)、藩士/儒者) B 1 6 0 1
- 玄定(げんじょう;法諱・寂庵) → 寂庵(じやくあん;道号・玄定、臨濟僧) V 2 1 8 8
- 玄城(げんじょう;字) → 大賢(だいけん;法諱・玄城、真宗大谷派僧) J 2 6 8 3
- 玄常(げんじょう・横地) → 島狄子(とうてきし・横地(よこち)、医者/書家) G 3 1 6 6
- 玄常(げんじょう・横地) → 楚山(そざん・横地(よこち)、医者/儒者) J 2 5 7 4
- 玄常(げんじょう・横地) → 守忠(もりただ・横地、楚山男/医者) F 4 4 6 4

- 玄常(げんじょう・権田) → 直助(なおすけ・権田ごんだ、医/国学) B 3 2 3 7  
 玄常(玄讓げんじょう・村尾/小泉) → 杏陰(きょういん・小泉、医者/詩) N 1 6 2 0  
 玄常(玄定/元常げんじょう) → 虚斎(きょさい・茅原ちはら、医者/和漢学) P 1 6 5 0  
 玄乘(げんじょう・田能村) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒者/詩/画) D 2 8 5 4  
 原丈(げんじょう・数江) → 尚準(ひさのり・数江かづえ/脇坂、国学/歌) J 3 7 0 3  
 言繩(げんじょう・山科) → 言繩(ときなお・山科、廷臣/故実家) J 3 1 5 3  
 源時雍(げんじょう) → 立沢(りゅうたく・藁科わらしな、藩医/文学) F 4 9 1 2  
 建聖院(けんしょういん・法号) → 時房(ときふさ・万里小路;勸修寺流) 3 1 3 7  
 顕彰院(けんしょういん) → 日堯(にちぎょう;法諱・玄孝院、日蓮僧) B 3 3 3 4  
 賢章院(けんしょういん) → 斉興室(なりおきのしつ・島津周子、和漢学) H 3 2 1 2  
 見性院(けんしょういん) → 綱宗(つなむね・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 6  
 見性院(けんしょういん) → 正観(しょうかん;法諱、真宗大谷派僧) H 2 2 8 1  
 憲章院(けんしょういん) → 泰侯(やすとき・加藤かとう、藩主/焼物/書) F 4 5 6 7  
 玄成院(げんじょういん) → 日徴(にっちょう;法諱・文貞、日蓮僧) F 3 3 2 2  
 顕証院忍誓(けんしょういんにんせい) → 忍誓(にんせい、歌/連歌) G 3 3 5 8  
 C1828 献笑閣(けんしょうかく・戯笑ぎしょう)?-? 大坂の洒落本作者/蔵版者として出版に関与、  
 1746「月花余情」53「猪の文章」56「穿当珍話」、「陽台遺編」著  
 [献笑閣戯笑(;号)の別号]八幡大名  
 E1814 献笑軒(けんしょうけん) ?-? 大坂の洒落本作者、1777「広街一寸間遊」著  
 献笑閣戯笑と同一?  
 ☆献笑閣/献笑軒は書肆和泉屋卯兵衛/近江屋源左衛門/伊予屋庄兵衛らが擬される  
 玄賞斎(げんしょうさい) → 伊川(いせん・狩野、水墨絵師) E 1 1 3 6  
 玄賞斎(げんしょうさい) → 玉泉(ぎょくせん・大場おおば、藩士/兵法) P 1 6 1 9  
 建丈主(けんじょうしゅ・金子) → 有卿(ありのり・金子かねこ、神職/歌人) H 1 0 3 6  
 顕成就院(けんじょうじゅいん) → 玄航(げんこう;法諱、天台僧) I 1 8 8 3  
 1819 元正天皇(げんしょうてんのう・名;日高/氷高ひたか、草壁皇子女、母;元明天皇)680-748<sup>69</sup> 715-24在位、  
 715(霊亀元)元明天皇の譲位により即位/718(養老2)「養老律令」監修制定、  
 720「日本書紀」の完成、723三世一身法を發布、724(神亀元)甥の聖武天皇に譲位、  
 万葉三・四期歌人5首(1637/4057/4058/4437/4437)、異伝3首(973/974/1009)、  
 新拾遺677、  
 [はだすすき尾花逆葺さかふき黒木もち造れる室むろは万代よろづよまでに]  
 (万葉;八1637)  
 [元正天皇の称/諡号]称;新家皇女にいのみのひめみこ、  
 諡号;日本根子高瑞浄足姫天皇やまとねこたかみずきよたらしひめのすめらみこと  
 絃誦堂(げんしょうどう) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/藩校助教) C 4 1 3 9  
 源少納言(げんしょうなごん) → 涼(すずし/すずしき、源範頼女/女房歌人) D 2 3 3 5  
 玄昌女(げんしょうのむすめ・服部) → こん(・服部はつとり、歌人) R 1 9 5 0  
 賢聖坊(けんしょうぼう) → 承祐(しょうゆう、連歌作者) B 2 2 7 7  
 元浄坊(げんじょうぼう) → 承祐(しょうゆう、連歌作者) B 2 2 7 7  
 元盛法師(げんしょうほうし) → 盛徳(もりのり・藤原、歌学) G 4 4 2 2  
 源勝法親王(げんしょうほっしんのう) → 深勝法親王(しんしょうほっしんのう、新葉歌人) E 2 2 6 6  
 F1809 言色(げんしよく) ?-? 法隆寺僧、俳人;言水門、1689言水「前後園」/90「新撰都曲」入  
 K1807 元寔(げんしよく;法諱・玉潤ぎょくかん;道号、号;半偈斎)1771-1856<sup>86</sup> 京の臨濟僧/詩:1786岡澹齋門、  
 1787大典顕常門/臨濟參禅;90備中の大雲門/美濃隠山惟琰門;嗣法、阿波興源寺住寺、  
 詩文/書、「半偈齋詩集」「玉潤元寔和尚語録」「半偈齋絶句」著  
 E1890 幻禪(げんじよく) ?-? 江戸前期、1691不角「二葉之松」2句入(289/310)  
 1820 遣新羅使人等(けんしんらざしじんら) 万葉歌群卷十五145首/736年大使は阿部継麿、  
 作者不詳の歌が多い  
 謙四郎(けんしろう・今井) → 八九郎(はちくろう・今井いまい、藩士/測量) E 3 6 8 3  
 堅次郎(けんじろう・天方/朝倉) → 豊明(とよあきら・朝倉、藩士/文筆) R 3 1 0 4

賢次郎(けんじろう・田中) → 綏猷(やすみち・田中/小森、儒者/勤王) E 4 5 6 6  
賢次郎(けんじろう・堀木) → 海侃(かいかん:法諱、僧/歌人) U 1 5 1 9  
賢次郎(けんじろう・八幡) → 光保(みつやす・八幡やわた、神職/国学) K 4 1 8 4  
健二郎(けんじろう・小林) → 可山(かざん・緑亭)よくてい、藩士/合巻作者) F 1 5 0 7  
健次郎(けんじろう・前田) → 夏繁(なつしげ・前田まえた、幕臣/国学者) G 3 2 6 7  
健次郎(けんじろう・鷺) → 定経(さだつね・鷺さぎ、能楽師;狂言方) I 2 0 6 6  
健次郎(けんじろう・近藤) → 鷹信(たかのぶ・近藤/藤原、歌人) M 2 6 7 0  
健次郎(健二郎けんじろう・向井) → 安重(やすしげ・向井むかい、儒者) B 4 5 6 8  
健次郎(けんじろう・砂川) → 政教(まさのり・砂川、与力/考証家) G 4 0 2 6  
健次郎(けんじろう・中島) → 操存斎(そうそんさい・中島/加峰、藩儒) C 2 5 4 1  
健次郎(けんじろう・大竹) → 政泰(まさやす・大竹/平、神職/国学) O 4 0 3 4  
健次郎(けんじろう・氷見) → 為忠(ためただ・氷見ひみ/小野、歌人) U 2 6 6 3  
健次郎(けんじろう・太田) → 栄哉(ひでちか・太田おた/源、庄屋/国学) I 3 7 9 1  
健次郎(けんじろう・鈴木) → 八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人) G 4 5 0 5  
健次郎(けんじろう・吉田) → 久春(ひさはる・吉田よしだ、藩士/国学者) M 3 7 3 4  
健治郎(けんじろう・藤井) → 義信(よしのぶ・藤井ふじい、記録) F 4 7 7 5  
硯次郎(けんじろう・坂根) → 白鹿(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9  
権次郎(けんじろう・鈴木) → 養察(ようさつ・鈴木すずき、儒者) B 4 7 0 2  
権次郎(けんじろう・清水) → 延寿(えんじゅ・富本とみもと、浄瑠璃太夫) C 1 3 3 7  
権次郎(けんじろう/ごんじろう・木村) → 聿(いつ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1  
兼次郎(けんじろう・橋本) → 玉蘭斎(ぎよくらんさい・橋本貞秀、絵師) D 1 6 1 1  
兼二郎(けんじろう・福山) → 芳豊(初世よしとよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 0 9  
謙二郎(けんじろう・酒井) → 忠恒(ただつね・酒井さかい、藩主/茶人) P 2 6 8 8  
謙二郎(けんじろう・加藤) → 称平(みつひら・加藤かとう、商家/志士/歌) I 4 1 6 4  
謙二郎(けんじろう・平山) → 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道) O 4 7 8 0  
謙二郎(けんじろう・福山) → 博正(ひろまさ・福山ふくやま、神職) K 3 7 8 2  
謙次郎(けんじろう・高原) → 美直(よしなお・高原たかはら、大庄屋/国学) N 4 7 7 4  
謙次郎(けんじろう・時田) → 光介(光輔みつすけ・時田ときだ/転うたた/井上、藩士/実業家) J 4 1 8 5

K1808 元四郎(げんしろう・北村) ? - ? 長崎通詞、1859米軍艦ホーバトン号水兵から英語修学、  
「嘆喁唼新聞紙」訳

源四郎(げんしろう・狩野) → 永徳(初世えいとく・狩野、絵師) 1 3 4 3  
源四郎(げんしろう・狩野) → 光信(みつのお・狩野かのう、永徳男/絵師) E 4 1 3 4  
源四郎(げんしろう・下間) → 頼慶(らいけい・下間しもつま、本願寺坊官) 4 8 3 5  
源四郎(げんしろう・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/浮世草子) 4 7 1 8  
源四郎(げんしろう・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0  
源四郎(げんしろう・松平) → 甫昌(やすまさ・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 0  
源四郎(げんしろう・加藤) → 正利(まさとし・加藤かとう、幕臣/国学者) O 4 0 6 8  
源四郎(げんしろう・高島) → 慶成(よしなり・高島たかばたけ、藩士/儒者) F 4 7 3 9  
源四郎(げんしろう・研屋とぎや) → 北枝(ほくし・立花/土井、研刀業/俳人) 3 9 6 5  
源四郎(げんしろう・土肥) → 霞洲(かしょう・土肥どひ、儒者) C 1 5 1 0  
源四郎(げんしろう・大竹) → 信政(のぶまさ・大竹おおたけ、幕臣/歌人) H 3 5 6 9  
源四郎(げんしろう・工藤) → 鞏卿(きょうけい・工藤くどう、医者/詩歌) G 1 6 6 8  
源四郎(げんしろう・西) → 逸史(いっし・西にし・藩士/系譜制作) J 1 1 5 7  
源四郎(げんしろう・飯田) → 百川((ひゃくせん・飯田いいた、書家) E 3 7 6 3  
源四郎(げんしろう・和氣) → 寛(ひろし・和氣わけ、藩士/儒者) F 3 7 9 1  
彦四郎(げんしろう・高屋) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戯作) 2 6 4 3  
彦紫楼(げんしろう) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、合巻作者) 2 6 4 3  
元四郎(げんしろう・赤松) → 寸雲(すんうん・赤松、儒者) D 2 3 5 2

K1809 源二郎(げんじろう・真田さなだ、和兵衛男)?-? 羽黒山修験僧/南部領の修験道霞支配の糠部在庁職、

1821「南部行日記」著

- 源二郎(げんじろう・馬場) → 正通(まさみち・馬場ばば、経世家/教育) H 4 0 4 7  
 源治郎(げんじろう・千種屋/柳原) → 関月(かんげつ・蔀、絵師) D 1 5 5 8  
 源治郎(げんじろう・早川) → 直昌(なおまさ・早川はやかわ、剣客/州吏) O 3 2 4 2  
 源次郎(源二郎げんじろう・松平) → 義行(よしゆき・松平/徳川、藩主/和漢学) H 4 7 8 8  
 源次郎(げんじろう・村山) → 南北(なんぼく・初世鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 4  
 源次郎(げんじろう・鶴見) → 東雅(とうが・鶴見、俳人) B 3 1 7 7  
 源次郎(げんじろう・細田) → 栄之(えいし・鳥文斎ちようぶんさい、幕臣/絵師) 1 3 2 8  
 源次郎(げんじろう) → 英之(えいし・米花斎、絵師) B 1 3 9 9  
 源次郎(げんじろう・新庄) → 直恒(なおつね・新庄しんじよう、幕臣/国学) N 3 2 4 3  
 源次郎(げんじろう・細川) → 興里(おきさと・細川、藩主/歌人) C 1 4 2 2  
 源次郎(源二郎げんじろう・朝枝) → 玖珂(きゅうか・朝枝、藩士/儒者) G 1 6 3 7  
 源次郎(げんじろう・近藤) → 蘆陰(ろいん・近藤こんどう/藤、幕臣/漢学) 5 2 1 6  
 源次郎(げんじろう・青地) → 浚新(しゅんしん・青地、藩士/儒者) K 2 1 0 0  
 源次郎(げんじろう・西山) → 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2  
 源次郎(げんじろう・間島) → 正盈(まさみち・間島まじま、藩士/歌人) H 4 0 5 5  
 源次郎(げんじろう・向井) → 正業(まさなり・向井むかい/源、歌人) M 4 0 4 5  
 源次郎(げんじろう・由井) → 正繩(まさなわ・由井ゆい/金子、国学/歌) T 4 0 6 1  
 源次郎(げんじろう・内田) → 武秀(たけひで・内田うちだ、商家/歌人) V 2 6 8 5  
 玄次郎(げんじろう・宮川) → 政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家) B 4 0 7 8  
 元二郎(彦二郎げんじろう・武田/龍) → 公美(きんえ・龍たつ/りゅう、儒者/詩歌) E 1 6 8 7  
 元二郎(げんじろう・森) → 光宣(みつのが・森もり、国学者) K 4 1 8 0  
 元次郎(げんじろう・近藤) → 保好(やすよし・近藤こんどう/藤原、幕臣/歌) E 4 5 8 4  
 元次郎(げんじろう・武蔵屋、髪結業) → 鈍々亭和樽(どんどんていわたる、戯作/狂歌) S 3 1 4 6  
 元次郎(げんじろう・穂井田) → 忠友(ただとも・穂井田/小原、歌/考証) 2 6 2 7  
 元次郎(げんじろう・三井) → 高延(たかのぶ・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 8  
 元次郎(げんじろう・山内) → 豊道(とよみち・山内、藩士/学制改革) R 3 1 6 5  
 元次郎(げんじろう・大田原) → 良当(よしまさ・大田原おたはら/内田、国学) L 4 7 9 6

D1836 源氏楼若紫(げんじろうわかむらさき:姓名不詳)?-? 墳墓記録;「江戸続墓所一覽」;三浦梅園[1723-89]序

C1830 顕真(けんしん:法諱・宣陽房:号、藤原顕能男) 1131-9262 母:藤原為隆女、天台叡山僧;

最雲法親王門、顕教:明雲門/密教;相実門、権少僧都/祇園別当/1173辞職;大原竜禅寺住、  
 1186源空と法論「大原問答」/87大原勝林院で不断念仏;専修念仏の道場とする、  
 1190天台座主61代、権僧正、東塔円融院に没、1174「山家要略記」著、歌;続古今集1807、  
 [ながきよにねぶりはさめていかなればこのよをゆめとおもひなるらん](続古;雑1807)

C1831 賢辰(けんしん:法諱・通称;蔵人君阿闍梨)?-? 平安後期;蔵人阿闍梨/天台園城寺僧/法師、

「三井集みろしふ」撰(散佚)、歌人;1166-80頃「三井寺山家さんか歌合」親盛らと参加、  
 1173「三井寺新羅社歌合」読師・方人、檜葉集入;三井集に関する俊恵との贈答歌、  
 [里はあれて人はふりにしあはれをも知りがほになく時鳥かな](新羅社歌合;古郷郭公五)  
 [賢辰法師が撰びける三井集の草案みてかへしつかはすとて、  
 すまざりしことぞくやしきかきながす三井の玉水みるにつけても(俊恵法師/檜葉;913)、  
 かへし、

みくさゐる三井の玉水はらへとてあさき心の名をやながさむ](賢辰法師/檜葉;914)

01822 賢信(けんしん:法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [あらはれてもの思ふ人のそでもがなわがしのびねの涙やどさむ](檜葉;恋368)

K1810 顕真(けんしん:法諱) ? - ? 1262存 法隆寺法相僧;円水房住/1227夏安居の論議に参加、  
 徳業/五師/金堂の堂司/聖霊院院主、1225顕真発想の「聖皇曼陀羅」完成、  
 1262塔基宝篋印陀羅尼衆置文の筆頭署名者、「聖徳太子伝私記」著

K1811 賢心(けんしん:法諱/別法諱;兼乗、蓮欽男、蓮如孫?) 1489-155264 母;了如禅尼、  
 越中真宗瑞泉寺5世、1549「賢心物語」「越中瑞泉寺記」、「賢心作意書」著

- C1835 **謙信**(けんしん・上杉うえずぎ、長尾為景男)1530-78**49歳** 武将/関東管領;上杉家継承/弾正大弼、1574剃髮/法印/78権大僧都、武田信玄と敵対、詩歌;「九月十三夜」「軍歌三十首」、「武門要鑑抄」「本朝兵法大星伝」伝、「幡令誓簡」著、母;長雄頭吉女、晴景の弟/政景の義弟、[謙信(;)号)の名/別号]名;平三/景虎かげとら/政虎/輝虎、別号;宗心房/不識庵、法号;不識院
- K1812 **見信**(見真けんしん;号・北島きたじま)?-? 江中期1716-48頃長崎の天文家;蘆草拙門/師に従い江戸へ、1745幕府天文方、1737「紅毛天地二凶贅説」訳
- 献臣(けんしん・宮川) → 献臣(たておみ・宮川、藩士/歌人) R 2 6 7 1  
 献臣(けんしん→たけおみ・栗山)→孝庵(2世こうあん・栗山くりやま、医者/解剖)H 1 9 2 2  
 兼信(けんしん・花山院) → 兼信(かねのぶ・花山院、廷臣/歌人) C 1 5 9 4  
 兼信(けんしん・狩野) → 洞春(とうしゅん・狩野、絵師) F 3 1 0 7  
 兼信(けんしん・鶴沢) → 探山(たんざん・鶴沢つるさわ、絵師) T 2 6 0 7  
 兼親(けんしん・源) → 兼親(かねちか・源、廷臣) H 1 5 0 6  
 兼親(けんしん・中山) → 兼親(かねちか・中山/藤原、廷臣) O 1 5 6 1  
 兼親(けんしん・甲斐) → 兼親(かねちか・甲斐かい、国学者) U 1 5 0 8  
 兼深(けんしん・法印;犬子集入)→兼源(けんげん;法諱、連歌/菟玖波集入)I 1 8 5 5  
 賢親(けんしん/かたちか・泉崎)→眞畔(まろ・泉崎いづみざき、国学者/歌人)4 0 6 9  
 憲信(けんしん・中田) → 憲信(のりのぶ・中田なかつ、神職/国学/司法)F 3 5 4 1  
 顕信(けんしん・北島) → 顕信(あきのぶ・北島、南朝廷臣/歌人)D 1 0 7 1  
 顕信(けんしん/あきのぶ・常盤)→謙斎(けんさい・常盤ときわ、儒者)I 1 8 9 6  
 顕深(けんじん:法諱) → 顕深(けんじん:法諱、天台法印/歌人)K 1 8 1 4  
 虔真(けんしん;号) → 随庵(ずいあん;号、空性法親王、詩歌)2 3 2 4  
 建真(けんしん・須佐) → 建真(たてざね・須佐すさ、神職/国学者)X 2 6 6 3  
 健臣(けんしん・安部) → 健臣(たけおみ・安部あべ、藩士/国学)U 2 6 9 9
- K1813 **憲深**(けんじん:法諱・号;極楽房ごくらくぼう、藤原通成男)1192-1263**72** 真言僧;叔父の醍醐寺成賢門、1214伝法灌頂を受/1251醍醐寺35代座主、報恩院流を開く/56権僧正、木筆梵字の名手、「円満鈔」「幸心鈔」「骨髓鈔」「金薄鈔」「秘蔵記鈔」「報恩院記」外著多数、歌;続門葉集入、[憲深(:法諱)の称]報恩院僧正/檢校僧正けんぎょうのそうじょう/犬走禅師いぬはせぜんじ
- K1815 **顕尋**(けんじん:法諱、藤原顕成男?)?-? 鎌倉期僧;法橋/興福寺僧?、歌:1278成立「続拾遺集」入;1112(入道二品親王家の五十首歌の述懐歌)[いにしへのあとをばつけよ浜千鳥昔にかへる浪のたよりに](続拾遺;十六1112)
- K1814 **顕深**(けんじん:法諱、治部卿僧正、法印豪成男?)?-? 南北期;天台園城寺権大僧都/僧正/法印、歌:1384成立「新後拾遺集」入;1423、1387浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首和歌]3首出詠、[この比のうきにくらべて思い出でのなき昔をもまた忍ぶかな](新後拾:十七1423)、[かぞへても猶こそをしめ花とりの色ねにあまる春の日かずを](高田和歌;20/残春少)件人(けんじん・かずひと・椎名)→紀逸(初世きいつ・慶い、俳人)1 6 0 1
- 1822 **源信**(げんしん:法諱、卜部うらべ正親男)942-1017**76** 大和当麻天台僧/956叡山横川;良源門、顕密二教、993広学堅義に及科/994宮中の論議に参加/横川恵心院隠棲;著述活動に専念;平安期思想学芸に影響;のちの浄土教成立の基盤、1001内裏仁王会に招聘;法橋上人位、1004六月会広学堅義探題博士の宣旨/権少僧都;辞退/08楞嚴院檢校、985「往生要集」、988「二十五三昧式」、1017「観心略要集」、14念仏思想「阿弥陀経略記」、「浄土集」「結縁集」、「菩提集」「妙行心要集」「文殊集」「往生極楽偈」「極楽物語」「白骨観」「観心往生論」外多数、歌:勅撰20首;千載(1205)新古(1925/1971)新勅(584)続後撰(591)玉(3首)続千(946)以下続詞花集入、[人かずならぬ身のいやしきは菩提を願ふしるべなり](源信「横川よかわ法語」)[おほぞらの雨はわきてもそゝがねどうるふ草木はおのが品々](千載;釈教1205、法華経 薬草喩品やくそうわほんの心を詠む/雨は差別しないが潤う草木は色の種類で異なる、仏法の恵みをに差はないが受け手により違いがある)、[源信の通称] 恵心僧都/横川僧都よかわのそうず/今迦葉
- C1829 **源心**(げんしん:法諱・西明房、平基衡男/母;平元平女)971-1053**83** 叡山天台僧;院源・覚慶門、宝幢院檢校/探題/1048天台30世座主/50大僧都、歌人:後葉集2首/続詞花集入、

勅撰4首;後拾遺(294・1209)詞花(277)千載(488)、

[残りなき命を惜しと思ふかな宿の秋萩散りはつるまで](後拾;秋294)

- C1832 **源深**(げんしん:法諱) ? - ? 鎌倉期歌人、法印、  
歌人;玉葉927、新拾遺の深源とは別人?  
[引く波のさそひやかへす友千鳥また磯とほく声のきこゆる](玉葉:六冬歌927)
- 01834 **玄心**(げんしん:法名) ? - ? 鎌倉南北期;僧/歌人、  
1315京極為兼[詠法華經和歌]参加、20[元応二年八月十五夜十首]入、  
[大空のみどりの色をむなしとはうへなきのりの教へなりけり]、  
(詠法華經歌;34/般若心經和歌)  
[雲はらふをのへの松の秋風に月のさかりぞ空にしらるる](八月十五夜十首;101)、  
[たき川や落ちくる水のはやき瀬に猶影とめて月ぞ流れぬ](同;104)  
☆齋藤基仲(法名玄心)とは別人?
- C1833 **玄心**(げんしん:法諱・一翁)? - ? 戦国期;臨濟五山僧、薩摩竜源寺住僧、  
薩南学桂庵玄樹(1427-1508)の学統;月渚永乗門、泊如竹の師、黄友賢と交流、  
学統は桂庵玄樹-月渚永乗-一翁玄心-文之玄昌(南浦文之)-泊如竹-愛甲喜春と伝わる
- K1816 **玄津**(げんしん:法諱、新三位、玄珍男)?- ? 1500存 天台僧/青蓮院坊官/法印、准三宮尊応に出仕、  
連歌:新菟玖波2句入
- C1834 **玄心**(げんしん) ? - ? 連歌、里村家関係者、「後集発句集」入
- E1816 **玄心**(げんしん:字・山脇やまわき、名:道作、号;養寿院、正節男/本姓;橋) 1594-1678<sup>85</sup> 美濃岐阜の医者、  
父に随い上京、医;曲直瀬まなせ玄朔門/京で開業医/1620禁裏侍医;尚薬/23法橋/37法眼、  
後水尾天皇以下5代天皇に出仕、1643(寛永20)法印;養寿院賜号/66幕府からも賜禄、  
道治・玄通の師、養嗣子;玄修、  
1648「勅撰養寿録」、「奇効雑方」「原病式集解」「四家禁方」著、「附方分類」編
- E1817 **玄心**(げんしん) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」入  
[名におふや百もの媚こびある花のかほ](犬子集;二345/百の媚;様々な媚態)
- C1836 **玄心**(げんしん・里村さとむら:北家、随庵、玄俊男)?-1696 幕府連歌師、  
養嗣子;玄立げんりゅう(弟紹尹の男)
- E1818 **玄真**(玄心げんしん、斎藤さいとう、俳号;禾刀かとう)?-? 大坂内本町二丁目の医者/俳人;梅盛門、  
賀子の父、1656梅盛「口真似草」76西鶴「古今俳諧師手鑑」81賀子「山海集」入、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[昼見えぬ蚊帳かちやうや三輪の作り物](山海集;右18/蚊は夜出て昼は出ない、  
蚊帳かやは能「三輪」の杉小屋に似る、謡曲「三輪」;されどもこの人夜は来れども昼見えず)  
[漁父につこと笑つていはく若戎わかえびす](難波色紙;初漁の鯛ににっこり、  
楚辞漁父辞;漁父莞爾而笑 鼓枻而去)
- F1810 **玄信**(げんしん・武部たけべ) ? - ? 丹波峰山の俳人、  
1690言水「新撰都曲」/91似船「勢多長橋」入、  
[齒朶だ刈の雉子きぎすも追はぬ師走哉](都曲;176/正月飾の齒朶刈に夢中)
- K1817 **彦岑**(げんしん:法諱・隆丕りゅうひ;字、号:無等等翁) 1645-1727<sup>83</sup> 真言僧;高野山興山寺5世雲堂門、  
1698北野不動寺を再興、1711「高野山興山寺五代集略」「真言安心勸善義」著、「興山集」編
- K1818 **元津**(げんしん:法諱・乙艇いっぺい;道号) 1661-1734<sup>74</sup> 大阪黄檗僧;悦山門、1710長門府中覺苑寺住持、  
1714長門興禅寺開、「乙艇いっぺい禅師語録」著
- K1819 **元慎**(げんしん:号・坂/阪さか) 1752-1821<sup>70</sup> 加賀金沢本草家;小野蘭山門、  
金沢藩医のため本草を講義、国家老村井家(屋漏堂)に扶持、  
1801(享保元)「救荒野譜便覧」「救荒本草便覧」「屋漏堂花譜」著、1813「名物捷徑」編、  
1821(文政4)「加州産物志」著、「本草便覧」「本草類方」「名物博覧」編
- 01800 **元真**(げんしん・安田やすだ、通称;元恵) 1767-1829<sup>63</sup> 陸奥盛岡の医者、歌人;南部藩三輪歌道家入門
- C1838 **玄真**(げんしん・宇田川うだがわ、名;磷/号;榛斎、安岡四郎右衛門男) 1769-1834<sup>66</sup> 伊勢山田医・蘭学者、  
江戸で蘭医学;宇田川玄髓・大槻玄沢・桂川甫周門、一時杉田玄白の養子;放蕩のため離縁、  
1798宇田川玄髓の養子;美作津山藩医/1813幕府の蕃書和解御用/32致仕、緒方洪庵らの師、  
1805「医範提綱」訳/08「和蘭解剖書」「解剖全図」/13「医範纂正滲胞編」外著多数

- K1820 **玄真**(げんしん:通称・桑田くわ) ?- ? 江後期信濃小諸藩医/種痘法;長崎の馬場左十郎門、1814ハイステル種痘書を翻訳刊行;「種痘新編」著
- K1821 **言信**(げんしん・山口やまぐち、通称;重右衛門/号;杉籬) ?-? 江後期上州の和算家;岩井重遠門、1837「算法円理冰積」著
- 原真(げんしん;法諱) → 無門(むもん;道号・原真、臨濟僧) D 4 2 0 6
- 玄心(げんしん;法名) → 基仲(もとなか・齋藤さいとう/藤原、官人) M 4 4 1 3
- 玄心(げんしん;号) → 正亮(性亮しょうりょう;法諱、律宗学僧) L 2 2 9 4
- 玄森(げんしん;法諱) → 蘭室(らんしつ;道号・玄森、臨濟僧) C 4 8 4 2
- 玄津(げんしん;法諱) → 月航(げつこう;道号・玄津、臨濟僧) H 1 8 0 2
- 玄信(げんしん;法名) → 実信(さねのぶ・洞院/藤原/正親町、権大納言) L 2 0 1 8
- 玄信(げんしん・新免/宮本) → 武蔵(むさし・宮本/新免、武芸者/書画) 4 2 5 5
- 玄信(げんしん・樋口) → 好運(こううん・樋口ひぐち、医者) H 1 9 4 5
- 玄真(げんしん・佐々) → 長興(ながおき・佐々ささ、幕臣/国学) M 3 2 1 7
- 玄親(げんしん・鈴木) → 重視(しばみ・鈴木すずき/佐野、幕臣/奉行) Z 2 1 1 9
- 元進(玄進げんしん・堀田) → 広居(こうきよ・堀田ほった、医/儒者) I 1 9 3 0
- 元信(げんしん)すべて → 元信(もとのぶ)
- 元真(げんしん・藤原) → 元真(もとさね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 4 4 5 5
- 元真(げんしん・林) → 出雲寺和泉掾(初世いづもいづみのじょう、書肆) C 1 1 3 7
- 元真(玄真げんしん・富田) → 虞軒(ぐけん・富田とみた、儒者/詩) C 1 7 3 6
- 元真(玄真げんしん・井上) → 文雄(ふみお/もんゆう・井上、医者/歌人) 3 8 2 6
- 元辰(げんしん・四宮) → 元辰(もとき・四宮しのみや、歌人) L 4 4 9 9
- 元辰(げんしん・原) → 元辰(もとき・原はら、惣右衛門/赤穂義士) L 4 4 0 7
- 元辰(げんしん・鈴木/鱸すずき) → 透軒(とうけん・鈴木/鱸、儒/詩) D 3 1 3 7
- 元震(げんしん・岡野) → 石圃(せきほ・岡野おかの/岡、絵師) K 2 4 4 6
- 元慎(げんしん・行徳) → 玉江(ぎよくこう・行徳ぎょうとく、絵師/篆刻) O 1 6 9 2
- 元慎(げんしん・藤崎) → 元慎(もとちか・藤崎ふじさき、医者/歌人) L 4 4 1 8
- 元種(げんしん・志鎌/新井) → 精斎(せいさい・新井/志鎌、医者/俳人) I 2 4 2 3
- 元親(げんしん・伊丹) → 元親(もとちか・伊丹いたみ、/連歌) C 4 4 9 8
- 元親(げんしん・中山) → 元親(もとちか・中山なかやま、廷臣/日記) D 4 4 0 1
- 元親(げんしん/もとちか・小栗栖) → 景桃丸(けいとるまる・小栗栖おぐるす、神職/俳人) D 1 8 5 7
- 元親(げんしん・貴田) → 元親(もとちか・貴田きだ、兵学者) D 4 4 0 2
- 言信(げんしん/ことのぶ?・大塚) → 常樹(つねき・大塚おおつか/司、神職/藩士) F 2 9 3 9
- 源信(げんしん・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3
- 源臣(げんしん・佐竹) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
- 顕真院(けんしんいん) → 日経(にちきょう;法諱、日蓮僧) B 3 3 2 4
- 元真院(げんしんいん) → 安一(やすいち・三島みしま、医者;鍼術) 4 5 9 7
- 賢人右府(けんじんうふ) → 実資(さねすけ・藤原、右大臣/故実/歌) 2 0 3 9
- 言唇窩(げんしんか) → 清満(2世きよみつ・鳥居、清峯、絵師) D 1 6 6 6
- 原診館(げんしんかん) → 琴山(きんざん・村井/邨井、医者/詩文) J 1 6 0 1
- 兼信斎(けんしんさい;号) → 履善(りぜん;法諱・信修;字、本願寺派僧) B 4 9 4 2
- 見真大師(けんしんだいし) → 親鸞(しんらん;法諱、浄土真宗祖) 2 2 3 0
- 源尋袂(げんじんべい) → 眞酔(ますい・石橋庵いしばあん、国学/戯作) I 4 0 9 2
- C1839 **顕親門院**(けんしんもんいん:女院号、名;洞院とういん) **季子**、左大臣洞院実雄女) 1265-1336<sup>72</sup> 伏見天皇妃、1297従三位/1317伏見院没後に尼/26院号/准三宮、京極派歌人、花園天皇の母、母;後嵯峨院但馬局(賀茂能直女)、勅撰4首;玉葉(1284/2174)風雅(230/2038)、[思ふ程はうへにしらせぬ文のうちもなほつつまれて書きぞさしぬる](玉葉;恋1284)、[顕親門院の法名] 円常覚
- C1840 **軒水**(けんすい) ? - ? 俳人、1680大阪十歌仙「各盞」入
- K1822 **見推**(けんすい・別号;尽夕庭) ?- ? 江中期能登羽咋今浜の俳人:河合見風門、

1769(明和6)「東もどり」著

懸水(けんすい・蛙面坊、狂歌)→ 秀安(しゅうあん・深津、医者) G 2 1 7 7

仙風(せんぷう・杉山、杉風の父)?-? 江戸前期摂津の人、江戸で魚商、俳人

賢水(けんすい・杉山) → 仙風(せんぷう・杉山、杉風の父/商/俳人) G 2 4 5 5

犬水(けんすい) → 雲扇(うんせん・井上いのうえ、俳人) D 1 2 8 8

研水(けんすい・岡) → 鼎(かなえ・岡おか、藩士/儒者) O 1 5 2 4

K1823 見髓(けんずい;法諱・碩岑せきしん;道号)?-1727 曹洞僧、駿河瑞龍寺11世、1713「和漢宗統偽撰」、1713「一得篇」著(;万回一線の説にに反駁)

K1824 賢随(けんずい) ? - ? 江中期1772-81頃讃岐真宗本願寺派の尊光寺住職、「高僧和讃録」著

K1825 見瑞(けんずい;法諱、諡号;竜華院)?-1867 美濃一之枝村の真宗大谷派僧;興雲寺住職、1828高倉学寮寮司/56擬講/64尾張円城寺住職、「大乘法苑義林章聴記」「大経三毒段聞記」著

K1826 元翠(げんすい;法諱、俗姓;甘蔗さとう)?-? 江前期芝浄土宗増上寺住僧、歌:1702「三翁和歌永言集」編

K1827 原水(げんすい) ? - ? 京俳人;1702轍士「花見車」入、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、[家ごとに書を置いて出る花見哉](花見車;148)、[夜もすがら蚤と戦ふ十の指](伊丹発句合;夏)

E1819 言粹(げんすい・福富) ? - ? 浮世草子、1705「長者機嫌袋」著

E1820 玄水(げんすい・紙や、紙屋)? - ? 俳人;雑俳、1727「文摺」編、点者の会所

N1879 元水(げんすい・齋藤さいとう、通称;文右衛門)?-?元文1736-41頃没 播磨明石藩士、国学者

E1821 元水(げんすい;号、別号;器随坊、名;孝顔)?-1760 江中期信州善光寺玄証坊の主僧、俳人:言水門、1753「姨捨とはず艸」編

K1828 玄水(げんすい・村上むらかみ、名;伝次/卓、藩医玄秀男)1781-1843<sup>63</sup> 代々中津藩医/儒;倉成竜渚門、兵学;梯箕嶺門/蘭学・蘭方医;長崎シボルト・高野長英門/シ事件では長英を40余日匿う、1819人体解剖、1819「解臟」/「解臟文」、「解剖図説」著、[玄水(;字)の別字/法号]別字;玄立、法号;永仙院

K1829 元翠(げんすい;通称・石川いしかわ、名;達、字;売堂)?-? 江戸後期豊後生/伊勢津藩の蘭医、「医療正義」「扶歇蘭度病理論」著、「戮歇蘭土原病論」訳

元綏(げんすい・森) → 文四郎(ぶんしろう・森もり、藩士) F 3 8 8 2

玄水(げんすい・山岡) → 元隣(げんりん・山岡、俳人/仮名草子) D 1 8 2 7

玄水(げんすい・築瀬) → 昌向(まさひさ・築瀬やなせ、藩家老/救荒策) G 4 0 5 8

玄水(げんすい・石川) → 良信(よしのぶ・石川いしかわ、医者/詩人) F 4 7 7 2

巖水(げんすい・中山) → 巖水(いずみ・中山なかやま/宮川、藩士/史家) J 1 1 8 4

巖水(げんすい・中山) → 巖水(いずみ・伊野部いのべ、国学者) J 1 1 8 5

元水(げんすい・寒川) → 辰清(とききよ・寒川さむかわ/かながわ、儒者) J 3 1 1 0

現水(げんすい・伊村) → 鷗沙(おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8

源水(げんすい・松平) → 忠根(ただね・松平まつだいら、幕臣/和学) Z 2 6 6 1

言水(げんすい・池西) → 言水(ごんすい・池西いけにし、俳人) 1 9 5 4

言粹(げんすい・福富) → 言粹(ごんすい・福富ふくとみ、浮世草子作者) E 1 9 7 2

K1830 元髓(げんずい;法諱・恭堂きょうどう;道号、俗姓馬場)1663-1730<sup>68</sup> 肥後益城小川村の黄檗僧:1676鉄眼道光門、摂津の宝洲道聡門;嗣法、1704万福寺宝蔵院住持、1709瑞竜寺4世/13宝蔵院住持、のち鳳福庵養徳軒に没、「宝蔵恭堂禅師語録」著、「宝蔵恭堂禅師遺録」

K1831 元瑞(げんずい・吉田よしだ、号;応庵/五玉)?-? 吉田宗恂そうじゅん(意安)の曾孫、江戸前期医者、1688「諸証類部」著

K1832 玄随(げんずい・熊谷くまがい、名;順之/慎憲、号;稽齋)?-? 岩国藩医家の出身?/本草家:松岡恕庵門、1721「漏蘆辨」編/56「広参品」補/「薇銜考びかんこう」「薇銜辨」著

- K1833 **玄瑞**(げんずい・近藤こんどう、名;乗邦、玄碩男)1749-1807<sup>59</sup> 遠州磐田郡井通村医者:父門/味岡三伯門、法橋、儒/歌/狂歌/書に通ず、蒲生君平と親交、「遠淡海記」著、  
[玄瑞(;通称)の号] 淡水/松寿軒/雪溪/棲鶴斎せいこつさい/杏樹軒/橘井斎きつせいさい/張華堂
- C1841 **玄随**(げんずい・宇田川うだがわ/修姓:宇、名;晋、道紀男)1755-97<sup>43</sup> 叔父玄叔の養子/漢方医;玄叔門、1779(25歳)蘭方医:大槻玄沢・杉田玄白・前野良沢・桂川甫周門、1781美作津山藩侍医、蘭語;石井当光門、「槐園文集」「槐園漫録」「蘭学秘蔵」/1792「西洋医言」「西説内科撰要」著、  
[玄随(;通称)の字/号]字:明卿、号:槐園/東海、法号:春窓院、父の通称も玄随
- K1834 **玄随**(げんずい・深田ふかだ、名;当亮、鍼医玄夙げんしゆく男)1764-1838<sup>75</sup> 熊本高田原の医者、1787(天明7)熊本藩御目見医/諸国遊歴;博物学/藩の物産師役として活躍、奇石研究;木内石亭門、1816(文化13)「菌糸弁」著
- K1835 **元瑞**(げんずい・中西なかにし/小川/杉山/赤松、名;定、藩医小川白堂男)1767-1831<sup>65</sup> 広島の医者:家学、祖父杉山元瑞の嗣/京で畑柳安・中西深斎・小野蘭山門/長崎の胡兆新門/中西井織の養子、広島藩医/侍医/医学館総理の兄小川恭意の下で補講、1818「痢病論」、「詩賦文集」「蘭学論」著、  
[元瑞の字/通称/別号]字:子静、通称;平格/元定、別号;桂海/吸霞台/武夷館/術解楼
- E1822 **元瑞**(げんずい・小石こいし、名;竜、元俊男)1784-1849<sup>66</sup> 大阪医者:父門/1799江戸で蘭方;大槻玄沢門、1805儒/詩・皆川淇園門、仏法;慈雲[欽光]門、京で父の医学塾究理堂継承;究理学を整備、家塾竜門楼を開設;門弟千人余、嶋洲「困談」刊、1809「究理堂学規」、「博采録」「経験方録」著、「解体図記事」「蘭薬分量考」「方府講義」「東西医説折義」「櫻園随筆」外著多数、頼山陽・田能村竹田と交流、究理堂文庫に菊舎尼の作品あり、  
[元瑞(;字)の幼名/号]幼名;竜太郎、号;櫻園ていえん/蘭斎/缸軒こうげん/秋巖仙史、晩年号;用拙居/拙翁/松芝老人/五竹茶寮、法号;三秀軒、母;小関柔やす、中蔵の父
- C1842 **玄瑞**(げんずい・久坂くさか、名;誠/通武、良廸男)1839-64<sup>自刃25</sup> 萩藩士/尊攘を主唱、兵学;松陰門、漢学;芳野金陵門、詩文/歌、1863奇兵隊を組織、倒幕活動;蛤御門の変で負傷し自刃、「興風集」「思の儘」「涙袖帖」「懐古集」「九仞日記」、1862「江月斎日乗」、家集「江月斎遺集」著、  
[玄瑞(;字)の別字/通称/号/変名]別字;実甫、通称;義助/義質、号;江月斎/秋湖/穉湖しゅうこ、変名;松野三平/河野三平、蘭医玄機げんきの弟、妻;文(吉田松陰の妹)
- 元瑞(げんずい:法諱・鳳山)→ 鳳山(ほうざん:道号・元瑞、黄檗僧) 3 9 9 9  
元瑞(げんずい・秋山) → 虢州(かくしゅう・秋山あきやま、医者) J 1 5 9 6  
元瑞(げんずい・曾根) → 魯庵(ろあん・曾根そね、藩士/教育) 5 2 1 4  
元瑞(げんずい・西尾) → 公龍(きみたつ・西尾にしお、医者/歌人) K 1 6 4 6  
玄瑞(げんずい;法諱) → 月僊(月仙/月僊げっせん;号、浄土僧/絵師) B 1 8 1 1  
玄瑞(げんずい;医号・平田)→ 篤胤(あつたね・平田、神道/国学者) 1 0 2 2  
玄随(げんずい・宇田川) → 道紀(みちのり・宇田川うだがわ、息子も玄随/漢方医) C 4 1 2 6  
元随(げんずい・南景) → 南景(なんけい・号:元随、歌人) I 3 2 8 6  
元水翁(げんすいおう) → 従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道) I 4 7 5 3  
兼水軒(けんすいけん) → 久興(ひさおき・北沢きたざわ/喜多沢、幕臣/歌人) J 3 7 2 8  
源水清高神人(げんすいせいこうしんじん;神号)→ 勘解由(かげゆ・大蔵おおくら、神職/書家) L 1 5 4 1  
算水堂(げんすいどう) → 也柳(やりゅう・津村つむら、修験僧/俳人) B 4 5 9 2  
元水霊社(げんすいれいしゃ) → 従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道) I 4 7 5 3  
元数(げんすう・若槻) → 元数(もとかず・若槻わかつき/源、武将/連歌) C 4 4 2 5  
元嵩(げんすう:法諱、仙巖)→ 仙巖(せんがん:道号・元嵩、黄檗僧) M 2 4 0 0
- N1861 **健輔**(けんすけ・乾いぬい、景寛かげひろ2男)1836-1872<sup>37</sup> 讃岐多度郡の医者/京で医の方技;新宮某門、医学;備中倉敷の島田家に入門、帰郷;医を開業、国学/詩歌/俳諧/画を嗜む  
[健輔(;名)の初名/通称/号]初名;健、通称;中庸、号;松生/乾々斎けんけんさい
- K1837 **監輔**(けんすけ・岡本おかもと、周平男)1839-1904<sup>66</sup> 阿波美馬郡三谷村儒者;岩本贅庵門/1861江戸住、北方防備を主唱;樺太調査/1868箱館裁判所権判事、1867「北蝦夷新誌」著、  
[監輔(;名)の字/通称/号]字;子博、通称;文平、号;韋庵いあん、法号;常楽院
- C1843 **謙輔**(けんすけ・奥平おくだいら、号;弘毅斎)1840-76<sup>斬罪37</sup> 漢詩、長州藩士・官軍、1874佐賀の乱参加、遺稿がある

- K1838 **謙助**(けんすけ・友沢ともさわ、名; 槃けい/吉槃、本木もとき吉春男) ?-? 江後期;高松藩士/儒;1789昌平覺入、柴野栗山門、諸流の兵法;火砲鳥銃を修得/藩の小寄合;1807蝦夷警備/08中寄合/29致仕、「北征秘談」著、  
[謙助(;通称)の別通称]又蔵
- 研介(けんすけ・岡) → 研介(けんかい・岡おか、蘭医) E 1 8 2 3  
 狷介(けんすけ→けんかい・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1  
 乾介(けんすけ・石尾) → 有則(ありのり・石尾いしお、藩士/歌/宗教) G 1 0 9 9  
 健介(けんすけ・高宮) → 正路(まさみち・高宮たかみや、国学/歌人) Q 4 0 7 4  
 健介(けんすけ・直原) → 知正(ともまさ・直原なおはら/菅原、国学) V 3 1 8 8  
 健助(けんすけ・前田) → 夏蔭(なつかげ・前田、国学者) G 3 2 6 6  
 健助(けんすけ・山田) → 治堅(はるかた・山田やまだ、儒/詩/紀行) G 3 6 1 5  
 健助(健甫けんすけ・西山) → 西山(せいざん・西山/西/阿比留、儒者) B 2 4 7 4  
 健輔(けんすけ・齋藤) → 春連(はるつら・齋藤さいとう、商家/国学/歌) K 3 6 2 3  
 謙介(けんすけ・太田) → 之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人) G 4 6 6 9  
 謙介(けんすけ・広岡) → 齋(いつき・広岡ひろおか、藩士/国学) K 1 1 6 0  
 謙助(けんすけ・市原) → 篤焉(とくえん・市原、郷土史家) K 3 1 5 1  
 謙助(けんすけ・木村) → 克敏(かつとし・木村きむら/長野、国学/歌) U 1 5 4 6  
 謙助(けんすけ・鈴木) → 綾雄(あやお・鈴木すずき、藩士/俳人) H 1 0 7 6  
 謙助(けんすけ・芳村) → 正秉(まさもち・芳村よしむら/大中臣、神道) T 4 0 7 4  
 鍵助(けんすけ・佐伯/岸) → 岸駒(がんとく;通称、絵師) G 1 5 2 3  
 鍵助(けんすけ・三浦) → 元規(もとりのり・三浦みうら/館野、藩士/歌) L 4 4 4 9  
 堅輔(けんすけ・江幡/那珂) → 梧楼(ごろう・那珂なか/江幡、藩士/儒者) G 1 9 5 6  
 権助(けんすけ) すべて → 権助(ごんすけ)
- K1839 **源助**(げんすけ・今江村いまむら) ?- ? 江中期;加賀能美郡今江村の十村(村役)、1764「能美郡草木之類書上申帳」著
- K1840 **源助**(げんすけ・糸屋いとや;屋号・姓;平井ひらい) ?-? 江中期大阪博労町南横町心齋橋筋の書肆;出版、1765「役行者経并御和讃」著
- N1899 **源助**(げんすけ・村林むらばやし、福救男) 1748-1821 74 陸奥北郡大畑の商家;呉服商?、幼時より漢学塾入、和漢学修学/1779(32歳)南部藩より町の宿老就任/のち検断を含め25年間役職;1804退任、「原始謾筆風土年表」著(幼年期からの1818[文政元]までの著述を集大成)、  
[源助(;通称)の名/号]名;時明、号;鬼工/朔叟山人/風雷窟
- K1841 **源助**(げんすけ・松屋まつや) ? - ? 江後期大阪の綿弓の絃師松屋甚四郎の手代/行商、行商の経験から1804旅宿組合を発案;主人甚四郎と江戸の鍋屋甚八を講元とす、1804発起人を勤め三人で浪花組(のちの浪花講)を創設/1808独立し大阪で旅籠屋開業、「諸国定宿張」編
- 参照 → 甚四郎(じんしろう・松屋) O 2 2 9 5
- 原助(げんすけ・辻/加藤) → 敦善(あつよし・加藤かとう、歌人) E 1 0 9 3  
 源介(げんすけ・小場;変名) → 信順(のぶより・住谷すみや、水戸藩士/尊攘) E 3 5 1 3  
 源介(げんすけ・曾根田) → 黄斎(こうさい・曾根田そねだ、藩士/儒者) J 1 9 0 2  
 源介(源助げんすけ・高橋) → 秀倉(保具良ほぐら・高橋/大橋、国学者) E 3 9 0 6  
 源佐(げんすけ・伊藤) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒学) 2 2 2 3  
 源祐(げんすけ・西川) → 竜章堂(りゅうしょうどう・西川にしかわ、書家) E 4 9 7 3  
 源助(げんすけ・山本) → 勘助(かんとすけ・山本、兵法家/軍師) E 1 5 0 0  
 源助(げんすけ・伊集院) → 元巢(げんそう・伊集院いじゅういん、武将) K 1 8 7 5  
 源助(げんすけ・春日) → 昌信(まさのぶ・高坂、弾正、武将/軍学) F 4 0 5 3  
 源助(げんすけ・多賀) → 秀種(ひでたね・多賀/堀、武将/日記) D 3 7 1 6  
 源助(げんすけ・神村) → 正鄰(まさちか・神村かみむら、国学/神道家) D 4 0 7 5  
 源助(げんすけ・堤) → 盛徴(もりずみ・堤/荒木田、神職/国学) F 4 4 5 2  
 源助(げんすけ・堤) → 盛員(もりかず・堤/荒木田、盛徴男/神職/国学) F 4 4 2 8  
 源助(げんすけ・堤) → 盛尹(もりただ・堤、盛員男/神職/国学) K 4 4 6 1

源助(げんすけ・堤) → 盛章(もりあき・堤つみ/高田、神職/国学) K 4 4 6 2  
 源助(源介げんすけ・栗山) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7  
 源助(げんすけ・田布施) → 忠宗(ただむね・田布施たぶせ、砲術家) Q 2 6 9 5  
 源助(げんすけ・赤崎) → 海門(かいもん・赤崎あかさき、儒者/歌) E 1 5 4 5  
 源助(げんすけ・榎本) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5  
 源助(げんすけ・下野) → 礼斎(れいさい・木村きむら、医者/探検) 5 1 2 9  
 源助(げんすけ・生田) → 無銭芳志(むせんのほうし:無銭法師、狂歌) 4 2 8 0  
 源助(げんすけ・飯田/橋) → 守部(もりべ・橋、国学者/歌人) 4 4 2 8  
 源助(げんすけ・黒沢) → 忠栄(ただひで・黒沢くろさわ、国学/神道) W 2 6 9 3  
 源助(げんすけ・斎藤) → 昌麿(まさまろ・斎藤、国学者/歌人) H 4 0 3 3  
 源助(げんすけ・峯) → 潔(きよし・峯みね、藩士/天文学) P 1 6 5 9  
 源助(げんすけ・穂北) → 忠友(忠儔ただとも・穂井田/小原、歌/考証) 2 6 2 7  
 源助(げんすけ・細木) → 瑞枝(みずえ・細木ほそぎ、庄屋/農政/歌) 4 1 9 0  
 源助(げんすけ・黒須) → 教定(のりさだ・黒須くろす、藩士、儒学・歌) I 3 5 3 1  
 源助(げんすけ・黒沢) → 道毅(みちたけ・黒沢くろさわ、神職/国学) J 4 1 0 2  
 源助(げんすけ・河村) → 田守(たもり・河村かわむら、国学者) S 2 6 9 5  
 源助(げんすけ・石田) → 素陽(そよう・石田いしだ、農業、俳人) K 2 5 5 1  
 源助(げんすけ・鈴木) → 綾雄(あやお・鈴木すずき、藩士/俳人) H 1 0 7 6  
 源助(げんすけ・若井) → 光次(みつぐ・若井わかい、漆器/国学) K 4 1 9 6  
 源助(げんすけ・今村) → 正文(まさぶみ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 3  
 源助(げんすけ・竹村) → 盛次(もりつぐ・竹村たけむら、国学者) K 4 4 4 6  
 源助(げんすけ・竹村) → 盛行(もりゆき・竹村、盛次男/国学者) K 4 4 4 7  
 源助(げんすけ・林) → 孚一(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人) P 2 0 1 6  
 元助(玄介・油屋/亀山) → 士綱(ことつな・亀山かめやま、郷土史家) N 1 9 2 7  
 玄介(げんすけ・相沢) → 伴主(ともぬし・相沢あいざわ、華道家/画) Q 3 1 1 1  
 玄助(げんすけ・山田/久米) → 千壽(ちほぎ・燕栗園えんりつえん2世、書肆/狂歌) F 2 8 3 7  
 玄輔(げんすけ・福田/丹羽) → 正雄(まさお・丹羽、農家/廷臣/勤王家) B 4 0 4 2  
 巖助(げんすけ・福井) → 敬斎(けいさい・福井ふくい、儒/幕府医官) E 1 8 6 7  
 健助妻(けんすけのつま・前田) → よし子(よしこ・前田まだ夏蔭の妻/歌人) K 4 7 6 3

- E1824 **賢清**(けんせい/けんせい、称;弁僧都、藤原実清男) 1155-1204<sup>50</sup> 真言仁和寺僧;公賢門、  
 守覚保親王より伝法灌頂を受、釈迦院住/権少僧都、  
 「辯頭密二教論鈔」「養和二年後七日御修法記」著、歌:1198-9「御室五十首」参加、  
 [梅の花色をば雪にうばはれて香をさへ風にまかせつるかな](御室五十首;春353)、  
 [うき世とはいはれの池のいひながらいとふ心の浅くもあるかな](同;述懐392)
- K1842 **憲静**(けんせい/けんじょう:法諱・願行がんぎょう;字) ?-1295 真言僧、律;智鏡門/灌頂;醍醐寺頼賢門、  
 京泉涌寺6世、1278-88頃大勧進を実施;東寺堂塔や高野山東塔を修復;「妙成就事」著、  
 真言宗意教願行方の祖、  
 [憲静の号/諡号]号;円満、諡号;宗灯律師
- E1825 **賢清**(けんせい:法諱・延堯房) ?- ? 室町戦国期僧、興福寺学侶沙汰衆、  
 1505-6「日記」著(多聞院第3冊)
- K1843 **兼正**(けんせい) ? - ? 俳人;1689「あら野」入  
 [朧夜おぼろよやながくてしろき藤の花](あら野/二暮春)
- 見性(けんせい・県) → 宗知(そうち・県あがた、茶人) I 2 5 4 1  
 見霽(けんせい・松井) → 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4  
 憲正(けんせい・柏木) → 憲正(のりまさ・柏木かしわぎ/源、医者) H 3 5 9 0  
 憲正(けんせい・杉森) → 憲正(のりまさ・杉森すぎいもり、藩校館長) I 3 5 7 4  
 憲盛(けんせい・藤原) → 憲盛(のりもり・藤原、歌、憲成と同一?) 3 5 1 6  
 憲成(けんせい・藤原) → 敦仲(-中あつなか・藤原、歌人) B 1 0 3 5  
 憲成(けんせい・臼井) → 憲成(のりなり・臼井うすい、藩士/歌人) H 3 5 4 9  
 顕世(けんせい・小野) → 顕世(あきよ・小野おの、庄屋/国学) H 1 0 1 9

- 顕盛(けんせい・藤原) → 顕盛(あきもり・藤原/安達、鎌倉幕臣/歌) 1 0 8 7  
 顕盛(けんせい・藤原) → 顕盛(あきもり・藤原末南北期漢学/詩) E 1 0 0 3  
 顕誓(けんせい・兼順) → 兼順(けんじゅん・光闡坊、真宗僧) J 1 8 7 0  
 顕成(けんせい・藤原) → 顕成(あきなり・藤原、廷臣/清輔義弟) J 1 0 0 0  
 顕成(けんせい・白川) → 顕成(あきなり・白川、廷臣;神祇伯) D 1 0 6 9  
 顕成(けんせい・阿知子あちし) → 顕成(あきなり・阿知子/山井やまのい、医者/連歌/俳諧) C 1 0 2 3  
 顕成(けんせい・三蔭) → 顕成(けんじょう・三蔭/三陰/御影みかげ、真宗僧/歌) J 1 8 9 0  
 賢盛(けんせい・杉原) → 賢盛(かたもり・杉原) 1 5 2 1  
 賢清(けんせい・青木) → 賢清(かたきよ・青木あおき、神職) T 1 5 3 3  
 兼清(けんせい・大隅) → 兼清(かねきよ・大隅おおすみ、宮中料理方) O 1 5 4 3  
 兼成(けんせい・高倉/滋野井) → 公澄(きんずみ・滋野井、廷臣/故実家) I 1 6 0 7  
 兼成(けんせい・水無瀬) → 兼成(かねなり・水無瀬みなせ/藤原、権中納言/歌) C 1 5 9 2  
 兼晴(けんせい・鷹司/九条) → 兼晴(かねはる・九条、左大臣/歌) O 1 5 8 7  
 兼政(けんせい・小出) → 兼政(かねまさ・小出こいで、曆算家) O 1 5 9 3  
 建正(けんせい・本居) → 建正(たけまさ・本居もとおり、国学者) E 2 6 5 2
- E1826 **建擲**(けんぜい;法諱) 1415 - 1474<sup>60</sup> 曹洞僧:建綱門、1468永平寺14世、  
 檀越波多野通定の要請で道元伝記を編集、「永平高祖年譜総頌」著、  
 1462「建擲記」(永平開山行状)編
- C1844 **元盛**(げんせい) ? - ? 連歌師、1508?肖柏亭「池田千句」参
- C1845 **玄清**(げんせい;法諱、姓;肥田ひだ/河田かわだ、名;春仲) 1443-1521<sup>79</sup> 戦国期;細川政春被官、  
 40歳前に出家、連歌;宗祇門、書、古典/歌:三条西実隆門、  
 1482「薄何百韻」以降各地の連歌会参加、1487/92宗祇と何路百韻・何木百韻、  
 1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(8句)、  
 1508?肖柏「池田千句」/09石清水初卯千句三物/16宗碩庵「十花千句」/18宗長「東山千句」参、  
 新撰菟玖波集7句入  
 [玄清の通称/号]通称;兵庫助、号;帰牧庵/幸縑齋こうけんさい
- K1844 **玄静**(げんせい・久保くぼ) ? - ? 安桃期1570-73頃播磨の医者/歌/故実/地理、  
 「古処拾考」著、赤松了益の師
- 1823 **元政**(げんせい、俗名;石井元政もとまさ、石井元好[宗好]男/本姓;菅原) 1623-68<sup>46歳</sup> 京の生、  
 1635近江彦根藩の井伊直孝家臣;48病により致仕/出家、日蓮僧;日豊門、  
 1655山城深草称心庵(瑞光寺)を結;隠棲;深草上人と称せらる、  
 法華律を唱導/門人多数;草山派を形成、陳元賛げんいんと交遊、漢詩文;性靈派・歌:貞門、  
 1649「一念三千図之記」55「竜華歴代師承伝」59「身延道の記」60「本朝法華伝」著、  
 詩;1662「艸山集」63「元元唱和集」、「谷口山詩集」、1663「扶桑隠逸伝」66「食医要編」著、  
 1668「温泉遊草」、「身延山七面記」霞谷山人伝、「耳目雑記」、家集「草山歌集」、外著多数、  
 「本朝四家絶句」の四家の1、河瀬菅雄[麓の塵]5首入、  
 [すまでやは霞もきりも折々のあはれこめたる深草の里](麓の塵;雑586)  
 [鷲の山つねにすむてふ峰の月かりにあらはれかりにかくれて](草山集;150/辞世)、  
 [元政(;号)の幼名/通称/別号]幼名;俊平、通称;深草上人、  
 別号;日政/日如/日峰、妙子/泰堂/幻生/埜処やし軒/称心庵/不可思議/霞谷山人/艸山和尚
- E1828 **玄清**(げんせい;通称・福長ふくなが、号;济庵)?-? 江初期阿波の医者、軍記作者、  
 徳島藩老長谷川貞恒の需めで故老の口碑・民間の私記等を蒐集/軍記を著す;  
 1663刊「三好記(三好軍記)」著
- E1827 **元成**(げんせい・向井むかい、元升男/本姓;藤原、去来弟) 1656-1727<sup>72</sup> 長崎の儒者/諸国遍歴/1680帰郷、  
 長崎聖堂祭酒/1685書物改役/1726致仕、医・天文・算学に精通、俳諧;蕉門、元端・去来の弟、  
 「画帖」著、「長崎物産考」編、俳;1691「猿蓑」初出/94炭俵/95有磯海/98続猿蓑入、  
 [二三番鶏とりは鳴けどもあつさ哉](炭俵;上夏旅;魯町号)、  
 [元成(;名)の字/号]字;叔明、号;魯町ろちよう/鳳梧/鳳梧斎/樵夫/礼焉子/懶漁/惰漁/無為
- K1845 **元青**(げんせい;法諱・禅関ぜんかん;道号)?-? 元禄宝永1688-1711頃の黄檗僧;悦山門、

## 1709「悦山和尚末後事実」著

- E1829 **源静**(げんせい) ? - ? 1805速水春暁斎の読本「絵本合法衢えほんがっぼうがつじ」序
- 玄誓(げんせい・藤原) → 為基(ためもと・藤原/京極、歌人) H 2 6 5 4  
 玄静(げんせい) → 玄静(げんじょう;法諱、真言/天台僧) K 1 8 0 1  
 玄清(げんせい・出家名) → 鳥酔(ちょうすい・白井、俳人) 2 8 2 4  
 玄静(げんせい;字) → 日顛(にちぎ;法諱・守玄院、日蓮僧) B 3 3 2 0  
 玄静(げんせい;字) → 日藻(にっそう・報寿院、日蓮僧/俳人) E 3 3 9 1  
 玄清(げんせい;法名) → 季春(すえはる・四辻/藤原、大納言/歌・連歌) B 2 3 3 9  
 玄生(げんせい・難波) → 玄生(はるなり・難波なば、医/歌人) G 3 6 6 4  
 元世(げんせい・毛利) → 元世(もとよ・毛利もうり/堀田、藩主/歌) I 4 4 7 8  
 元清(げんせい・水田) → 西吟(さいぎん・水田、俳人) 2 0 7 1  
 元清(げんせい・田中) → 一鳥(いちう・林/福田、医者) F 1 1 9 6  
 元政(げんせい・杉本) → 忠恵(ちゅうけい・杉本、幕府医者) F 2 8 9 5  
 元晴(げんせい・桑山) → 元晴(もとはる・桑山くわやま、武将/藩主) D 4 4 9 0  
 元盛(げんせい・げんしょう、法師) → 盛徳(もりどり・藤原、廷臣/歌学) G 4 4 2 2  
 元盛(げんせい→もともり・桂) → 岌円(岌園きゅうえん・桂、武将/記録) M 1 6 3 1  
 元盛(げんせい;法名) → 長秀(ながひで・中条なかじょう、幕臣/歌人) F 3 2 4 6  
 元盛(げんせい・内田) → 周斎(しゅうさい・内田うちだ、儒者) H 2 1 4 3  
 元成(げんせい・那波) → 木庵(もくあん・那波なば/祐、儒者/藩儒) 4 4 0 3  
 元成(げんせい・土肥) → 霞洲(かしょう・土肥どひ、儒者) C 1 5 1 0  
 元成(げんせい・浜嶋) → 元成(もとなり・浜嶋はましま、文筆家) D 4 4 6 3  
 元成(げんせい・吉川) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8  
 元成(げんせい・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4  
 元成(げんせい・渡辺) → 秀実(しゅうじつ・渡辺わたなべ、絵師) X 2 1 5 0  
 元成(げんせい・服部/河島) → 元成(もとなり・河島/服部、藩士/蘭医) D 4 4 6 5  
 元政(げんせい・荒木) → 元政(もとまさ・荒木あらかき、幕臣/記録) E 4 4 2 9  
 元政(げんせい・孕石) → 元政(もとまさ・孕石はらみいし、家老/日記) E 4 4 3 0  
 元聖(げんせい→げんしょう;別法諱) → 無己(むき;道号・道聖;法諱、臨濟僧) 4 2 3 7  
 元聖(げんせい→げんしょう;法諱) → 瑞麟(ずいりん;道号・元聖、黄檗僧) F 2 3 1 7  
 元聖(げんせい・姥柳) → 有莘(ゆうしん・姥柳うばやなぎ、藩士/儒者) C 4 6 7 5  
 幻世(げんせい) → 麩埜(びし・高山、藩家老/俳人) C 3 7 3 3  
 幻成(げんせい) → 幻成(げんじょう;法諱、真宗僧) K 1 8 0 6  
 言成(げんせい・徳大寺/山科) → 言成(ときなり・山科、廷臣/故実/日記) J 3 1 6 8  
 原清(げんせい・寒川) → 辰清(とききよ・寒川さむかわ/かんがわ、儒者) J 3 1 1 0  
 原性(げんせい・大高) → 元哲(げんてつ・大高おおたか、藩士/医者) L 1 8 6 4  
 源西(げんせい) → 源西(げんさい、平安後期の僧) B 1 8 8 4  
 巖正(げんせい・横田) → 巖正(いつまさ・横田よこた/上野、藩士/歌) K 1 1 7 7
- K1846 **元説**(げんせい;法諱、法輪坊)? - ? 江後期僧;法輪坊住僧?、  
 歌:1792「津起濃志留遍つきのしるべ」編
- 幻世庵(げんせいあん) → 観夢(かんむ・岸きし、俳人) I 1 5 2 6  
 幻成逸人(げんせいいつじん;号) → 文思(もんし;道号・竜淵;法諱、僧吏) I 4 4 2 3  
 賢聖院(けんせいいん) → 日佺(にちごん;法諱、日蓮僧) B 3 3 9 6  
 巖正院(げんせいいん) → 政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳) C 4 0 2 1  
 元静園(げんせいえん・喜多村) → 鼎(かなえ・喜多村きたむら、藩士/医者) O 1 5 2 5  
 兼盛王(けんせいおう) → 兼盛王(かねもりおう・平、歌人) 1 5 3 6  
 懸静居(けんせいきよ) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0  
 玄靖先生(げんせいせんせい) → 松翁(しょうおう・小田島おたじま、書肆/地誌) H 2 2 3 8  
 賢聖坊(けんせいぼう) → 承祐(しょうゆう、禅僧/連歌) B 2 2 7 7  
 憲清法師(けんせいほうし) → 西行(さいぎょう、歌人) 2 0 0 3

- 元盛法師(げんせい・げんしょうほうし) → 盛徳(もりのり・藤原、歌学) G 4 4 2 2  
 絢星楼(げんせいろう) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/和算/俳人) D 1 6 9 7  
 顕是院(けんぜいん) → 日要(にちよう;法諱・観月、日蓮僧) D 3 3 4 5
- E1830 見石(けんせき) ? - ? 江戸俳:1676蝶々子「誹諧当世男」入  
 K1847 卷石(けんせき;号・菊池きくち、名;寛、字;子得/大度、通称;寛三郎)?-? 江末期;水戸藩士?、  
 1856「神風遺談」編、「川越紀年略」編  
 K1848 拳石(けんせき・丸山まるやま、名;正鎮)1842-1909<sup>68</sup> 越後魚沼郡馬場村の医者/丸山湘雲の養子、  
 小林寒翠門/尾台榕堂門、坂下門外の変討死の義兄河本正安の顕彰碑建立「殉烈余響」編、  
 妻;河本正安の妹/兄;大田培稼/息;丸山鳩峰、  
 [拳石の字/別号]字;従耳、別号;悔遅  
 拳石(けんせき・玉楮) → 斯行(これゆき・玉楮たまかじ、彫刻師) R 1 9 0 1  
 堅石(けんせき/かきわ・渡辺) → 重名(しげな・渡辺わたなべ、神職/国学者) C 2 1 5 8
- F1811 言夕(げんせき・大塚) ? - ? 長崎の俳人、1690言水「新撰都曲」入  
 G1869 玄碩(げんせき) ? - ? 俳人、1694不角「へらず口」入、  
 [棄てし子を又棄て直す母の欲](へらず口/当時捨て子は蜜柑籠に入れる習慣があった)、  
 (一度棄てた子をより幸せになりそうな家の前に棄て直す母ごころ)
- K1849 玄碩(げんせき・三村みむら) ? - ? 江前期医;曲直瀬まなせ玄朔門/薬剤研究;十種の分類、  
 1715「靈宝薬性能毒大成」著、  
 [玄碩(;通称)の字/号]字;子丈、号;大養生堂
- N1826 玄石(げんせき・渋谷しぶや、別号;梅富軒、六花りっか男)?-? 江中期駿河の俳人、  
 1750「六花追悼集」編
- K1850 玄碩(げんせき;通称・岩佐いわさ、名;守中もりなか/号;草堂)1756-1820<sup>65</sup> 佐渡相川の歌人:  
 小川萍流(へいりゅう(布淑のぶよし)門、「草堂和歌集」著
- C1846 玄碩(げんせき・里村さとむら・旧姓;渡辺、)1760<sup>or62</sup>-1821<sup>62or60</sup> 豊前小倉(or四日市)の生、  
 祖父;渡辺宗綱、上京し歌;日野資枝/連歌:里村昌逸門、1800里村[北家]玄川の養嗣、  
 1801幕府連歌師範/02玄碩に改名/21法橋、養嗣子;玄昱げんよく、1778「筑紫日記」著、  
 1807「須楚輪廻田井」、1818「後集発句帳」編/18「玄碩独吟千句」、「玄碩千句」「五吟千句」著、  
 「種心斎(玄川)追悼千句」著、  
 [里村玄碩(;号)の名/字/通称/別号]名;綱峰、字;子謙、通称;治郎兵衛、  
 別号;染習園/急雨亭/魚竜、法号;染習院
- K1851 玄碩(げんせき・土生はぶ、名;義寿、義辰男)1762-1846<sup>87</sup> 安藝高田郡吉田の眼科医;代々土生流、  
 大阪で檜林流外科学修学/京の和田東郭門、1783帰郷;眼科医継承、  
 1808浅野家教姫の眼疾治療で名医の評判/10幕府奥医師;16法眼、22将軍世子家慶を治療、  
 1829(文政12)江戸来訪のシーボルトから散瞳薬を伝授;返礼に将軍拝領の紋服贈呈;  
 シーボルト事件に連座、改易・禁固/1837(天保8)赦免;深川木場で開業、  
 1820「銀海波抄」42「師談録」、「獺祭録」「迎翠堂漫録」著  
 [玄碩(;通称)の幼名/字/別通称/号]幼名;久馬、字;九如、別通称;玄道、  
 号;桑翁/迎翠堂、法号;大超院、養嗣;玄昌
- K1852 玄碩(げんせき;通称・熊野くまの、名;愷)?-? 江中期長州萩藩医、  
 1797「医事折衷」1802「古方条理」著
- K1853 元碩(げんせき・河合かわい、名;広/号;清斎)?-? 江後期1818-30頃美作津山の医者、  
 1826「養生随筆」著
- K1854 元碩(げんせき・林はやし、名;兼孝)?-? 江後期上総峰上の心学者、1840「心学手引艸」著  
 言石(げんせき・正しくは:こんせき) → 言石(ごんせき・下村、俳人) E 1 9 7 4  
 玄石(げんせき・中根) → 訥斎(じんさい・中根なかね、医者/詩人) O 2 2 5 6  
 玄石(げんせき・生駒) → 春秀(はるひで・生駒いこま/山本、神職/医者) J 3 6 6 3  
 元碩(げんせき・松島) → 北渚(ほくしよ・松島まつしま、儒/医者) D 3 9 4 5  
 見石翁(けんせきおう) → 其明(きめい・小泉/本間/小柳、測量/画) M 1 6 0 9  
 見石亭(けんせきてい) → 夫山(ふざん・岩田いわた、書家) C 3 8 3 2  
 拳石道人(けんせきどうじん) → 雲室(うんしつ;号、真宗僧/絵師) B 1 2 1 6

- 堅石之舎(けんせきのや) → 久訓(ひさのり・萩原はざむら/源、町役、国学) K 3 7 6 0
- C1847 兼説(けんせつ・猪苗代、嵐行斎らんこうさい、正益男/兼与[従兄]の養嗣/本姓;平)?-? 江前期京の連歌師、  
仙台的伊達忠宗義山(1589-1658)に出仕、兼寿の父
- 憲説(けんせつ・藤原) → 憲説(のりとき・藤原、廷臣/文筆) F 3 5 1 9
- 見拙(けんせつ;法諱) → 性海(しょうかい;道号・見拙、曹洞僧) H 2 2 5 7
- C1848 元説(げんせつ) ? - ? 連歌師、1464?盛長催「熊野千句」入
- K1855 玄節(げんせつ・伊藤いとう、名;先勝、玄周男)?-1682 伊勢桑名藩儒医、儒者;1673「愈愚随筆」著、  
「伊呂波韻」「国字蒙求」著、  
[玄節の通称/別号]通称;兵左衛門ひょうざえもん/行勝、別号;有隣斎
- K1856 源説(げんせつ・新井あらい、号;覚翁)?-? 江戸前期江戸の易学家、湯島天神前に住、  
大日本一流と自称、1680「八卦小鏡」著
- E1831 玄節(げんせつ・植田うえだ、名;成章なりあき、成雄男/本姓;菅原)1651-1735<sup>85</sup> 京の医者、  
儒・垂加神道;山崎闇齋門、1682安藝広島住/98広島藩儒/1727致仕、  
闇齋「垂加草全集」編、「風葉集」「判門論」「朱学体要」著、  
[玄節(;字)の幼名/号]幼名;金松、号;良背/動山/淡久子/淡々子/因齋
- 玄説(げんせつ・渡辺) → 直昌(なおまさ・渡辺/渡部、医者/歌) C 3 2 4 1
- 玄説(げんせつ・林) → 淡斎(たんさい・林はやし、医者/儒) I 2 6 1 3
- 玄説(げんせつ・小林) → 義方(よしかた・林はやし、医者) C 4 7 6 7
- 玄節(げんせつ・小川) → 南堵(なんと・小川おがわ、医/儒詩) J 3 2 3 3
- 玄節(げんせつ;法諱) → 行応(ぎょうおう;道号・玄節、臨濟僧) N 1 6 3 5
- 玄節(げんせつ・今大路) → 方基(まさもと・今大路/奈須/橋、医者) H 4 0 9 1
- 玄節(げんせつ・木内) → 政章(まさあき・木内きうち、医者/本草家) B 4 0 0 1
- 玄節(げんせつ・長坂) → 知雄(ともお・長坂ながさか、国学者) U 3 1 8 0
- 玄屑(げんせつ・樺山) → 久高(ひさたか・樺山かばやま/大野、武将/家老/歌) J 3 7 0 8
- 元説(げんせつ;法諱) → 元説(げんぜい;法諱、僧/歌人) K 1 8 4 6
- 謙節先生(けんせつせんせい) → 介亭(かいてい・伊藤いとう、儒者/書家) B 1 5 1 1
- C1849 賢暹(けんせん;法諱・教王房;号、源信頼男)1029-1112<sup>84</sup> 天台僧/法華;頼賢・長宴門/1109天台座主、  
1110法性寺座主、「賢暹法印記」「教王記」「用心草」1095「法華行法教王坊」99「勿言」著
- C1851 顕詮(けんせん;法諱・顕円男/俗姓;紀)?-? 1372<sup>存</sup> 南北朝祇園社宝寿院社僧、1358祇園社社務執行、  
1361退任/法印、1355「祇園執行日記」65「三島三鳥居建立記」著、歌人;新玉津島社三十首参、  
一万首作者入集、勅撰7首;新千載(997)新拾遺(1192/1494)新後拾(544/888)新続古(2首)、  
連歌;1343祇園社法楽百韻催、菟玖波1句入、  
[ちはやぶる神のそのふのゆふだすきかけていくよの末まもるらん](新千載;神祇997)
- C1855 涓泉(けんせん・萱野かやの、名;重実/通称;三平)1675-1702<sup>切腹</sup>28 赤穂藩士、俳人;沾徳門、  
1702子葉「ニツ乃竹」入、1708蘭風「萱野艸」に句入、「軍法巻紀聞」著、  
辞世[晴れゆくや日ごろ心の花曇り]
- 兼宣(けんせん・勘解由小路) → 兼宣(かねのぶ・広橋、廷臣/歌) O 1 5 8 2
- 兼詮(けんせん・津田/田村) → 玄仙(げんせん・田村/津田、医者) K 1 8 6 2
- 兼前(けんぜん・ト部) → 兼前(かねます・ト部うらべ、神職/連歌) O 1 5 9 4
- 兼善(けんぜん・二宮) → 兼善(かねよし・二宮にのみや、藩士/和算/地誌) P 1 5 0 9
- 兼善(けんぜん・余目) → 兼善(かねよし・余目あまるめ、国学者・歌) P 1 5 1 0
- 兼善(けんぜん・武内) → 兼善(かねよし・武内たけうち/国方、藩士) U 1 5 9 8
- K1857 源暹(げんせん;法諱・称;備後法印)?-? 鎌倉期1299-1302頃関東の真言僧;妙浄上人門、  
東寺・高野山に留学、「大日経鸚鵡抄」「大日経日輪鈔」「六裏」「尊林抄」著
- C1850 元選(げんせん;法諱・無文むもん;道号、後醍醐天皇皇子)1323-90<sup>68</sup> 母;昭慶門院、臨濟僧;明窓宗鑑門、  
1340出家/可翁宗然・雪村友梅門/1343入元;福州大覚寺古梅正友門、50帰国;帰休庵に住、  
遠州方広寺開山;1384入寺、1728「無文元選禪師語録」著、  
[無文元選の諡号] 聖鑑国師/円明大師/大慈普応禪師
- C1854 玄宣(げんせん;法号、姓;明智あけち/本姓;源、名;頼宣/頼連)?-? 戦国期京の武士;細川政元家臣、  
土佐・兵庫頭/1492頃出家、連歌;宗祇と親交;句会に出座、細川家関係の千句に参加、

1464?盛長「熊野千句」参/73「何人百韻」86「何船百韻」参加/  
 1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(6句)、98宗祇「何人百韻」参/新菟玖波9句入、  
 [玄宣の通称] 明智兵庫入道

- K1858 **玄仙**(げんせん;法諱・性遍しょうへん房;号)?-1612 甲斐の真言僧;無量光院清胤門/野沢諸流に精通、  
 声明、毛利輝元の招聘で1573-92頃長州住/1609無量光院検校、「理趣経私」「上下二転事」著
- K1859 **玄仙**(げんせん・山本やまと) ? - ? 江初期医者/和漢医方と南蛮流を合わせた外科書著作、  
 1619「万外集」「万外集要」/47「外科秘伝集」著
- K1860 **玄仙**(玄遷/玄僊げんせん;通称・谷村、号;昌庵/昌安斎)?-? 江前期大阪の医者:就安斎玄幽門、  
 1661「十四経發揮抄」編
- K1886 **元泉**(げんせん) ? - ? 江戸前期、1691不角「二葉之松」入(210)
- D1897 **玄泉**(げんせん) ? - ? 江戸前期、1691不角「二葉之松」2句入(367/442)
- K1861 **玄泉**(玄仙げんせん;通称・神田かんだ、号;一通子)?-? 江中期江戸の医者・本草学;丹羽正伯門、  
 本草研究、日本初の魚介図譜刊行、1730「本草図翼」編/31「魚介図説」38「本草或問」著、  
 「婦人方彙」「眼科方彙」「鯨鱈正図」「天宝物録」「日東魚譜」著、「本草大義」編
- C1856 **玄川**(げんせん・里村さとむら・別号;種心斎)1737-181882 京の連歌宗匠:里村北家玄台の養嗣子、法橋、  
 北九州行脚:太宰府を多く訪ねた/養嗣子;玄碩、1793-1818「玄川句集」1811「老乃玖理言」、  
 「玄川独吟千句」「連歌作法書」「連歌雑記」「賦物抄」著、百韻連歌「於満盛院」等多数
- K1862 **玄仙**(げんせん・田村たむら/津田、名;兼詮、津田玄琳男)1737-180973 岩代伊達郡桑折村の医者;父門、  
 医学;芦田松意/饗庭道庵門/江戸で開業、田村家の養子;上総馬籠で医を開業、  
 「饗庭家口訣」「積山筆記」編、「積山筆記外科録」「療治茶談」「百方口訣集」1792「勸学治体」著、  
 [玄仙(;通称)の号] 積山/屏塵舎、法号;累功院
- K1863 **玄仙**(げんせん・蛭田ひるた、名;克明)1745-181773 岩代白川郡渡瀬村の農家/独学で産科医、  
 東西の評判を得て東翁と尊称された/晩年は江戸住;諸国歴遊、「産術秘法図譜」著、  
 「蛭田先生産術訓解」「蛭田先生産術図絵」「蛭田流産科書」「蛭田氏産手術」著、  
 [玄仙(;通称)の字/別通称]字;至徳、別通称;東翁
- E1832 **元宣**(げんせん) ? - ? 堺俳人、1633重頼「犬子集」1075、  
 [かりまたの雁股かまたを射る矢の根ね哉](犬子集;四雁1075)
- K1864 **元仙**(げんせん;通称・堀井ほりい、号;対時)?-? 江中期医者;性別年齢等個体差を重視、  
 1742刊「腹診書」著
- N1868 **玄仙**(げんせん・久保田くぼた、通称;善左衛門)?-1834 信濃伊那郡竹佐村医者、歌人;桃沢夢宅門
- K1865 **元潜**(げんせん・淡輪たんわ/たんのわ、名;弼)?-? 江後期大阪舟町の開業医者、「雑方集験」著、  
 [元潜(;通称)の字/号]字;子諧、号;葦山ほうざん
- N1864 **玄僊**(げんせん・大金おおかね、号;竜淵、黒川養悦2男)1836-191681 下野那須郡馬頭町の歌人/俳人、  
 歌学;兄の黒川正益しょうえき門、国学・歌;龍淵眞和・天野政徳・長瀬文豊門/のうち大宅眞弧門、  
 「上毛百人一首」共編

彦仙(げんせん・巨勢)	→	卓軒(たくけん・巨勢こせ/中井、儒者)	E 2 6 2 0
言川(げんせん・野間)	→	成式(せいしき・野間のま、幕臣/医者)	I 2 4 5 7
元仙(げんせん・須田/佐藤)	→	元庵(げんあん・佐藤さとう、農政家)	H 1 8 6 3
元宣(げんせん・市川)	→	東谿(とうけい・市川いちかわ、商家/絵師)	D 3 1 1 5
元宣(げんせん・斎藤)	→	季義(すえよし・斎藤さいとう、商人/歌人)	F 2 3 7 5
元泉(げんせん・井岡)	→	桜仙(おうせん・井岡いのおか、本草学者)	C 1 4 5 7
玄泉(げんせん・藁科)	→	立沢(りゅうたく・藁科わらしな、藩医/文学)	F 4 9 1 2
玄僊(げんせん;字)	→	良聖(りょうしょう;法諱、天台僧正/歌人)	I 4 9 1 0
玄遷(玄仙げんせん・大熊)	→	峰麿(みねまろ・大熊おおくま、医者/歌人)	I 4 1 3 5
原泉(げんせん・磯野)	→	鶴斎(じやくさい・磯野いその、医者)	V 2 1 9 7
原泉(げんせん・由美)	→	希賢(まれかた・由美ゆみ/稻富、儒者/詩)	K 4 0 2 3
原泉(げんせん・村瀬)	→	立斎(りつさい・村瀬むらせ、医者)	B 4 9 9 4
原泉(げんせん・松田)	→	葵亭(きてい・松田まつだ、儒者)	L 1 6 5 3
原泉(げんせん・佐野)	→	安貞(やすさだ・佐野さの、医者)	B 4 5 4 3
源泉(げんせん・山内やまのうち)	→	豊信(とよしげ・山内容堂、藩主/詩歌)	R 3 1 1 8

- 源僊(げんせん→みなもとのやまひと)→仙塙(せんう・細木ほそき/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7
- C1852 源全(げんぜん;法諱、法眼承弁男)?-? 鎌倉期梶井殿坊官/叡山法印、歌:為家と親交、人家集入、  
「社壇抄」撰者(散佚)、勅撰4首;玉葉2047/風雅1562/新拾遺1485/新後拾遺616、  
[年ごとにあひみることはいのちにて老のかずそふ秋の夜の月](風雅;雑1562)
- C1853 玄全(げんぜん;法諱、法眼惠全男)?-? 南北期梶井殿の坊官、侍従/法眼、歌:新後拾遺1524  
[からさきやさざ波ながらよる舟を神代にかへす松風ぞ吹く](;新後拾遺;十九1524)
- 元善(げんぜん・藤原) → 元善(もとよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) E 4 4 6 4
- 元善(げんぜん;法諱) → 仁峰(にんぼう・元善、黄檗僧) G 3 3 9 0
- 元善(げんぜん・平野/大串) → 元善(もとよし・大串おおぐし/平野、儒者) E 4 4 7 0
- 元善(げんぜん・有木) → 雲山(うんざん・有木ありき、医者/儒者) B 1 2 1 4
- 元善(げんぜん/もとよし・原) → 喜鶴(きかく・原はら、将棋士) J 1 6 8 1
- 元善(げんぜん・岡田) → 元善(もとよし・岡田おかだ/源、藩家老/国学) J 4 4 5 9
- 元善(げんぜん/もとよし・棚谷) → 桂陰(けいいん・棚谷たなや、医者) F 1 8 2 5
- 元善(げんぜん/もとよし・川村) → 壽庵(じゅあん・川村/河村/川、医者) W 2 1 4 8
- 玄筌斎(げんせんさい・狩野) → 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳) K 2 5 8 9
- 源千之(げんせんし) → 東里(とうり・沢田さわだ、書家) I 3 1 1 5
- 猷仙人楚間人(けんせんじんそまひと) → 楚満人(そまひと・南仙笑、戯作者) 2 5 2 8
- 乾泉亭(けんせんてい) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4
- 懸泉堂(けんせんどう) → 椿山(ちんざん・佐藤、医/歌人) K 2 8 7 7
- 玄泉堂(げんせんどう) → 儀左衛門(ぎざえもん・戸田とだ、書家) J 1 6 6 7
- 玄泉堂(玄仙堂げんせんどう) → 栄治(栄次えいじ・戸田とだ、書家/書肆) C 1 3 8 6
- 巖泉坊(げんせんぼう) → 増忠(ぞうちゅう;法諱、天台宗園城寺僧) I 2 5 4 5
- 顕祖(けんそ・信夫) → 槐軒(かいけん・信夫しのぶ、儒者/国学者) I 1 5 5 8
- 肩蘇(けんそ・堀江) → 惺斎(せいさい・堀江ほりえ、儒者/藩儒) I 2 4 2 2
- K1866 源祖(げんそ;法諱) ? - ? 鎌倉末期曹洞僧:能登永光寺で瑩山けいざん紹瑾の侍者、  
「瑩山和尚語録」編
- 玄蘇(げんそ;法諱) → 景轍(けいてつ;道号・玄蘇、臨濟僧、朝鮮外交) G 1 8 4 0
- K1867 顕窓(けんそう;道号・慶字けいじ/きやうじ;法諱)?-1433 越後曹洞僧:傑堂能勝・義堂門/越後耕雲寺住持、  
慈光寺2世、「洞春院能勝禅師行実録」著
- K1868 乾叟(けんそう;道号・禅亨ぜんこう/正亨しょうこう;法諱)?-1509 美濃曹洞僧:月江正文・絶方祖裔そちやう門  
絶方祖裔の嗣法/美濃竜泰寺住持/信濃大沢寺住持、「禅余集」著
- K1869 見叟(けんそう;道号・智徹ちてつ;法諱、号;岐山) 1613-8775 京の臨濟僧:梅嶺守初門、石見安国寺住持、  
丹波瑞岩寺、「磨斥集」「仏語心論口訣」「仏語心論未来記」、1671「臨濟録瑞巖鈔」著
- F1812 泉草(けんそう) ? - ? 伊予松山古川の俳人、1690言水「新撰都曲」3句入、  
[渡守わたしもりよべばこたふる鶉うづらかな](新撰都曲;上167)
- 兼宗(けんそう・中山) → 兼宗(かむね・中山、廷臣/歌人) 1 5 7 7
- 兼叟(けんそう・真田) → 敦寛(あつひろ・真田さなだ、国学/歌人) H 1 0 6 9
- 乾叟(けんそう・鎭木) → 直益(なおます・鎭木かぶらき、藩士/砲術/国学) L 3 2 6 2
- 健叟(けんそう・法師) → 玄恵(玄慧げんえ、天台僧/宋学/歌/連歌) 1 8 0 8
- 健叟(けんそう・坂) → 士仏(しぶつ・坂さか、医僧/歌人) F 2 1 5 9
- 剛叟(けんそう・田井) → 元疎((もとのおろ・田井/朝比奈、藩士) D 4 4 7 4
- K1870 健蔵(けんぞう・高橋たかはし、名;惟信/字;義平) 1746-7833 大阪の書家:尾崎散木門、儒;林九華門、  
1772「初心用文章」書  
[健蔵(;通称)の号] 鈍斎/嘉林、川勝新蔵
- K1871 賢蔵(けんぞう;法諱、俗名;花園利淳、花園利峯男) 1763-182462 母:武田治秀女、越前三国真宗僧、  
大谷派浄願寺住職、高倉学寮で研鑽;1816嗣講、1816「安心決定鈔聴記」、「日巻誌」、  
「仏心印記随聞」「三国湊新古名所記」、歎異抄・末燈鈔・改悔文等の各種講義録多数
- N1844 謙蔵(けんぞう・中野なかの、名;維敬)?-? 江後期;長門豊浦郡和久浦年寄、  
漢学;蒲生鳳林門、俳諧・書・活花を嗜む、菊舎尼と交流、

[謙蔵(；通称)の号] 望洋園一廬ぼうようえんいちろ

てらい、肇はじめ[樾屋こかげや]

K1872 謙蔵(けんぞう・寺井てらい、号；小樾こかげ、肇はじめ[樾屋こかげや]男) 1810-7768 讃岐高松藩士/故実家：父門、

「故実考」「本藩随筆記」「兵器雑考」「細射考」「手網図式」「丸亀制度」著

K1873 研蔵(けんぞう・青木あおき、名；邦彦、玄棟男) 1815-7056 周防大島郡の医者、儒：広瀬淡窓門、周弼の弟、医；宇田川榛齋門/伊東玄朴の塾で教授、萩藩の命で種痘法を藩内で実施、藩医学所西洋書翻訳御用掛/1864侍医/側医、1844「医理学源」訳/「越児実幾経験書」訳、[研蔵(；通称)の字/別通称/号]字；子祐、別通称；吉次郎、号；秋溪、法号；凌霄軒

K1874 謙蔵(けんぞう・武田たけだ/初姓；毛利、名；定則、武田真元の養子) ?-? 江戸幕末期陸奥弘前の歴算家、和算：内田五観門、武田真元の嗣；家学(武田流暦算)を継承/数理研究舎開設；子弟教育、「幾何学初歩」「算法数理解」「算法幼学集」「珠算必用論」「三学題林」「新撰数理弧矢底叩」著、[謙蔵(；通称)の別通称/号]別通称；恵助けいすけ、号；数齋/数遊堂/数理堂

- 頭三(けんぞう・河野) → 通桓(みちたけ・河野/甲田、医者/勤王) B 4 1 7 5  
賢蔵(けんぞう・鎗木) → 雅直(まさなお・鎗木かぶらき、藩士/砲術/歌) O 4 0 9 4  
賢蔵(けんぞう・鎗木) → 直益(なおます・鎗木、雅直男/藩士/砲術/国学) L 3 2 6 2  
賢蔵(けんぞう・木俣) → 周平(かねひら・木俣きまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5  
権蔵(けんぞう・井上) → 子休(しきゅう・井上いのうえ、藩士/儒者) Q 2 1 1 2  
権蔵(けんぞう・七条) → 宗貞(むねさだ・七条しちじょう、藩士/儒者) B 4 2 3 4  
権蔵(けんぞう・桑名) → 淳素(あつもと・桑名くわな、国学者) H 1 0 4 7  
謙蔵(けんぞう・柴田) → 鳩翁(きゅうおう・柴田しばた、心学者) 1 6 2 6  
謙蔵(けんぞう・笹島/柴田) → 艾軒(がいけん・柴田、鳩翁養嗣/心学者) I 1 5 6 1  
謙蔵(けんぞう・山崎) → 鯨山(げいざん・山崎やまさき、儒者) F 1 8 8 1  
謙蔵(頭蔵くんぎょう・饒田) → 西疇(せいちゅう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3  
謙蔵(けんぞう・野崎) → 藤橋(とうきょう・野崎のさき、藩士/儒者) C 3 1 8 0  
謙蔵(けんぞう・井上) → 静軒(せいけん・井上いのうえ、藩儒) I 2 4 0 2  
謙蔵(頭蔵/研造けんぞう・金本) → 摩斎(まさい・金本かなもと、儒者/詩) B 4 0 2 4  
謙蔵(けんぞう・森田) → 筋斎(せつさい・森田もりた、儒者/尊攘論) 2 4 1 8  
謙蔵(けんぞう・河島) → 春翠(しゅんすい・河島かわしま、漢学者) L 2 1 1 9  
謙蔵(けんぞう・遠藤) → 随所(ずいしょ・遠藤、篆刻家/砲術家) E 2 3 6 8  
謙蔵(けんぞう・土肥) → 石斎(せきさい・土肥どひ/田村、藩士/儒者) K 2 4 0 7  
謙蔵(けんぞう・楊井) → 盛之(もりゆき・楊井やない、藩士/歌人) K 4 4 1 1  
謙蔵(けんぞう・宮原) → 筋庵(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) E 2 4 0 3  
謙蔵(けんぞう・吉用) → 明彬(あきよし・吉用よもち、藩士/国学) I 1 0 8 1  
謙蔵(けんぞう・三牧) → 秀胤(ひでたね・三牧みまき、僧/尊攘派) L 3 7 3 3  
謙蔵(けんぞう・手塚) → 律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0  
謙三(けんぞう・日高) → 耳水(じすい・日高ひだか、藩儒/詩文) T 2 1 9 7  
謙三(けんぞう・上妻) → 宗武(むねたけ・上妻こうづま、戸長/国学) D 4 2 8 3  
建造(けんぞう・小林) → 眞茂(ましげ・小林こばやし、医者/歌人) N 4 0 0 1  
建蔵(けんぞう・木下) → 梅庵(ばいあん・木下、医/狂詩) 3 6 5 0  
建蔵(けんぞう・伊藤) → 長文(ちやうぶん・伊藤、藩士/儒者) J 2 8 7 8  
建蔵(けんぞう・岸) → 琴主(ことぬし・中山/岸、音曲/八雲琴祖) F 1 9 8 1  
健三(けんぞう・福岡) → 孝茂(たかしげ・福岡ふくおか、藩老/和漢学) Z 2 6 2 8  
健蔵(けんぞう・本居) → 春庭(はるにわ・本居、国学/歌人) 3 6 3 3  
健蔵(けんぞう・本居) → 有郷(ありさと・本居、春庭男/国学/歌) F 1 0 3 5  
健蔵(けんぞう・新山/葛西) → 因是(いんぜ・葛西かさい、漢学；老莊) I 1 1 6 4  
健蔵(けんぞう・松井) → 渙斎(かんさい・松井まつい、儒/詩/教育) Q 1 5 6 4  
健蔵(けんぞう・上野) → 尚志(たかもと・上野うえの、藩士/兵学者) N 2 6 4 5  
健蔵(謙蔵けんぞう・安田) → 放庵(ほうあん・安田やすだ、儒者/詩人) 3 9 1 2  
健蔵(巻蔵けんぞう・大崎) → 重樹(しげき・大崎おおさき、藩士/国学/歌) N 2 1 7 5

- 健蔵(けんぞう・芝) → 秀恭(ひでやす・芝しば/加藤、藩士/神職) J 3 7 7 7  
 堅蔵(けんぞう・児島) → 長年(ながとし・児島こじま、篆刻/日記) 3 2 1 3  
 堅蔵(けんぞう・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9  
 堅蔵(けんぞう・高橋) → 乗亶(のりのぶ・高橋たかはし/佐野、国学) I 3 5 9 6
- K1875 **元巢**(げんそう・伊集院いじゅういん、久次男) 1544-1616 73 薩摩鹿兒島の武将;島津義弘の家老職、肥前守、飯野の地頭;御城番、老年まで参戦;戦功、「伊集院肥前入道一代於御弓箭粉骨次第」著、  
 [元巢(;号)の名//別号]名;久信/久春ひさはる、通称;源助、別号(入道号);一雄  
 幻窓(げんそう) → 湖中(3世こちゅう、岡野、藩士/俳人) D 1 9 3 2  
 元操(げんそう;法諱) → 松巖(しょうがん;道号・元操、黄檗僧) H 2 2 8 5  
 元聡(げんそう;法諱) → 了然尼(りょうねんに;道号、黄檗僧/歌人) J 4 9 2 1  
 原叟(げんそう・久田) → 宗左(3世そうさ・千せん、久田、茶人) H 2 5 3 5  
 源曹(げんそう・浦辺/坂上) → 椿園(ちんえん・伊丹/津国屋、商家/読本) 2 8 3 2  
 言総(げんそう・山科) → 言総(ときふさ・山科、廷臣/狂歌) J 3 1 2 2
- K1876 **源蔵**(げんぞう・宿谷しゆくや、梅竹堂)?-? 近江雑俳会所/書肆、「国花秀」編  
 N1838 **玄三**(げんぞう・藤井ふじい) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入;  
 [さりとはは心にかゝるお山もなし](前句;出家の目からは武蔵野の原、お山;遊女、風雅;釈教2076夢窓国師;出づるとも入るとも月を思はねば心にかかある山の端もなし)
- K1877 **玄三**(げんぞう・正野まさの、別通称;万四郎、源左衛門男) 1659-1733 75歳 近江蒲生郡日野の農家、1676越後に奉公、父没後帰郷;行商/医;名古屋玄医門、1698京で開業医/法眼、帰郷し1701(元禄14)[万病感応丸]を販売;売薬業;日野売薬の基礎、代々玄三を名乗る、晩年は洛東聖護院村に隠棲、1730「稀齡帖」著
- C1858 **源蔵**(げんぞう・桃井ももい) ? - ? 江中期唐音研究者、1762「世説新語補考」  
 K1878 **源蔵**(げんぞう・柴崎しばさき) ? - ? 江中期1764-70頃大阪の歌舞伎助作者、1767「今織蝦夷錦」、並木正三「竹篋しつべい太郎怪談記」助作/翁助「天竺徳兵衛聞書往来」助作
- K1879 **元造**(げんぞう;名・井上いおうえ、号;暁隣軒蟻士)?-? 江戸中期大阪の盲人鍼医、俳諧、地誌、1778「名葦探杖」著
- K1880 **源蔵**(げんぞう;通称・石井いしい、名;資美)?-? 江戸中期備中倉敷の和算家;妻野佳助重供門、詫問流、1796「石井氏算問」著
- K1881 **源蔵**(げんぞう;通称・三浦みづら) ?-1835 周防三田尻の萩藩塩田会所勤務;製塩業記録、1816「塩業秘録」「塩製秘録」著
- K1882 **源蔵**(玄蔵げんぞう・中野なかの、名;景德かげり) 1757-1830 74 長門豊浦郡西市の大庄屋/酒造業、詩歌/歌/書画に通ず、儒;片山鳳翻ほうへん・門、亀井南冥に私淑/菊舎尼・頼山陽と交流、真宗に帰依;長生寺僧/西念寺を建立、1808「築紫紀行」「遊京雑録」/11「専修念仏自得抄」「遊京録」著、  
 [源蔵(;通称)の字/号]字;子徳、号;長嘯/豊台
- K1883 **源蔵**(げんぞう・奥山おくやま、名;侃/字;子直、号;大梁)?-? 大阪天満沙原の和算家、数学・音韻に精通、1813「算術早指南」著
- K1884 **源蔵**(げんぞう;名・木島きじま、通称;仁兵衛) 1791-1866 76 上州の農家、183044頃桐生機織業保護を直訴;投獄/出獄後は浄瑠璃語りとして桐生織物を宣伝、「御控絹由緒日記」著
- K1885 **源蔵**(げんぞう・小林こばやし、名;昌長、長雄男) 1795-1858 64 信州佐久野沢村の工匠;代々木工を家業、彫刻;後藤正綱門/規矩準繩指南所開設;教育、嘉永(1848-54)年間松原神宮寺三重塔建設、江戸築地本願寺改築の総棟梁;途中で病没、1857「規矩準繩雛形」著、「匠家的用取左右録」「正真模写神社雛形」「神社仏閣木割百首」「匠家訓業」著、  
 [源蔵(;通称)の字/別通称/号]字;東明、別通称;奎之助、号;桐園
- K1887 **源蔵**(源三げんぞう・神崎屋かんだきや、別名;周、号;浴蘭堂)?-? 陸中水沢の商家/江戸新橋汐留で菓舗、蘭方医の間で有名/同郷高野長英らを援助、1835「必読癸蒙」著  
 原蔵(元蔵げんぞう・伊藤) → 東涯(とうがい・伊藤、儒者) 3 1 0 6  
 原蔵(げんぞう・中江) → 藤樹(とうじゅ・中江なかえ、儒者;陽明学) 3 1 1 6

源蔵(源蔵げんぞう・山本) → 復斎(ふくさい・山本、酒造業/儒者/講説) B 3 8 5 1  
 源蔵(げんぞう・左右田) → 易重(やすしげ・左右田ぞうだ、兵法家) B 4 5 6 7  
 源蔵(げんぞう・鶴屋) → 南北(なんぼく・四世鶴屋、歌舞伎作者) 3 2 3 5  
 源蔵(げんぞう・吉島屋) → 忠美(ただよし・村上むらかみ/源/清水、医者/国学) U 2 6 1 2  
 源蔵(げんぞう・菊池) → 天山(てんざん・吉田、講釈師) D 3 0 5 6  
 源蔵(げんぞう・西郷) → 近方(ちかかた・西郷、藩家老/神道家) 2 8 7 1  
 源蔵(げんぞう・榎本) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5  
 源蔵(げんぞう・松山) → 天姥(てんぼ・松山まつやま、藩士/書家) E 3 0 2 4  
 源蔵(げんぞう・平賀) → 義雅(よしまさ・平賀ひらが、藩士/和学) O 4 7 7 8  
 源蔵(げんぞう・山崎) → 石燕(せきえん・山崎やまさき、儒者/絵師) J 2 4 9 4  
 源蔵(げんぞう・和泉屋/大和屋/加藤) → 参和(さんな・唐来、戯作/狂歌) 2 0 5 4  
 源蔵(げんぞう・菊地) → 天山(てんざん・吉田、講釈師) D 3 0 5 6  
 源蔵(げんぞう・坂根/桃) → 白鹿(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者) E 3 6 1 9  
 源蔵(げんぞう・仁科) → 白谷(はっこく・仁科、儒者) F 3 6 2 2  
 源蔵(源三げんぞう・臼井) → 治堅(はるかた・臼井うすい/森もり、医/歌人) G 3 6 1 6  
 源蔵(源三げんぞう・岩崎) → 灌園(かんえん・岩崎いわさき、本草学者) P 1 5 9 7  
 源蔵(げんぞう・青木) → 葵園(きえん・青木あおき、儒者) J 1 6 7 0  
 源蔵(げんぞう・井上) → 東溪(とうけい・井上いのうえ、儒者) D 3 1 0 5  
 源蔵(げんぞう・歌川) → 国重(初世くにしげ・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 7 7  
 源蔵(げんぞう・歌川) → 豊国(2世とよくに・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 1 4  
 源蔵(げんぞう・江上) → 芥洲(けいしゅう・江上えがみ、藩儒者/詩文) 5 1 3 5  
 源蔵(げんぞう・佐倉) → 桜のはね炭(さくらはねすみ、狂歌作者) F 2 0 1 5  
 源蔵(げんぞう・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4  
 源蔵(げんぞう・岡田) → 眞澄(ますみ・岡田、幕府儒員/国学/歌) D 4 0 0 2  
 源蔵(げんぞう・吉村) → 光高(みつたか・吉村/松下、藩士/和算) D 4 1 7 6  
 源蔵(げんぞう・平野) → 国臣(くにのみ・平野、国学/勤王/歌) 1 7 0 6  
 源蔵(げんぞう・吉田) → 謙斎(けんさい・吉田、藩士/詩文) I 1 8 9 0  
 源蔵(げんぞう・秦) → 星池(せいち・秦はた、書家) J 2 4 1 9  
 源蔵(げんぞう・多賀谷) → 安貞(やすさだ・多賀谷たがや、医者/幕臣) B 4 5 4 4  
 源蔵(げんぞう・小此木) → 紅磧(こうせき・小此木おこのぎ、俳人) K 1 9 0 9  
 源蔵(げんぞう・木村) → 青河(せいか・木村きむら、商家/俳人) 2 4 7 1  
 源蔵(げんぞう・野崎) → 藤橋(とうきょう・野崎のさき、藩士/儒者) C 3 1 8 0  
 源蔵(げんぞう・池永) → 碧於亭(へきおてい・池永いけなが、漢学/詩) 2 7 8 6  
 源蔵(げんぞう・西郷/保科) → 近慮(ちかのみ・保科ほしな/西郷、藩家老/神職) B 2 8 6 5  
 源蔵(原三げんぞう・茂呂) → 麓岳(ふもとがく・茂呂もろ、儒者) I 1 9 0 0  
 源蔵(げんぞう・北条) → 竹潭(ちくたん・北条/伊勢、藩士/航海) D 2 8 4 3  
 源蔵(げんぞう・渋谷) → 光信(みつのみ・渋谷しぶや、藩士/歌人) E 4 1 4 0  
 源蔵(げんぞう・熊代) → 繁里(しげさと・熊代くましろ、国学者/歌人) C 2 1 2 3  
 源蔵(げんぞう・青木) → 広澄(ひろすみ・青木あおき、歌人) L 3 7 8 4  
 源蔵(げんぞう・勝部) → 兼寿(かねひさ・勝部かつべ、商家/絵師/歌) U 1 5 3 0  
 源蔵(げんぞう・石井) → 寛正(ひろまさ・石井いひ、国学者) L 3 7 1 6  
 源蔵(げんぞう・氏家) → 雄足(たけたり・氏家うじいえ、国学者) V 2 6 8 3  
 源蔵(げんぞう・福田) → 眞直(まさなお・福田ふくだ、旅籠業/国学) S 4 0 2 5  
 源蔵(げんぞう・西山) → 正之(まさゆき・西山にしま、幕臣/国学) R 4 0 4 2  
 源蔵(げんぞう・大野木) → 克正(かつまさ・大野木おおのぎ、藩士/国学) T 1 5 9 4  
 源蔵(げんぞう・木原) → 茂見(しげみ・木原きはら、陪臣/歌人) O 2 1 1 7  
 源蔵(げんぞう・倉根) → 是明(これあき・倉根くらね、藩士/教育/詩歌) Q 1 9 6 6  
 源三(げんぞう・高杉/田上) → 宇平太(うへいた・田上たがみ、藩士/蘭学) D 1 2 3 0  
 源三(げんぞう・川崎) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
 源三(げんぞう・佐々木) → 春夫(はるお・佐々木、商家/国学;万葉) G 3 6 0 5

源三(げんぞう・高橋)	→	世南(せいなん・高橋たかはし、俳人)	J 2 4 3 4
愿蔵(げんぞう・河/上河)	→	淇水(きすい・上河うえかわ/河、心学者)	B 1 6 3 0
愿蔵(げんぞう・森/源)	→	楓斎(ふうさい・森もり、書家/儒者)	3 8 6 7
諺蔵(げんぞう・勝かつ、歌舞伎作者)			
初世	→	黙阿弥(もくあみ・河竹、歌舞伎作者)	4 4 0 2
二世	→	能進(のうしん・河竹、歌舞伎作者)	3 5 4 1
玄蔵(げんぞう・梅津)	→	忠平(ただひら・梅津、国学)	Q 2 6 6 6
玄蔵(げんぞう・春田)	→	九臯(きゅうこう・春田はるた、藩士/儒者)	I 1 6 7 3
玄蔵(げんぞう・長治)	→	祐義(すけよし・長治ながはる、庄屋/歌人)	D 2 3 2 6
玄蔵(げんぞう・金子)	→	命朝(のぶとし・金子かねこ、薬商/歌人)	B 3 5 1 2
玄造(げんぞう・畑中)	→	澹庵(たんあん・畑中はたなか、詩/書家)	T 2 6 1 4
現蔵(げんぞう・増子/高橋)	→	永叟(ながのり・増子まじこ、藩士/記録)	F 3 2 3 5
弦蔵(げんぞう・建部たけべ)	→	賢文(かたぶみ・かたぶん・建部、武将/書家)	1 5 1 9
眼蔵(げんぞう・林)	→	瑳山(桂山けいざん・林、俳人)	1 8 6 1
玄三(げんぞう・高橋)	→	南溪(なんけい・高橋、医者/儒)	I 3 2 8 7
玄三(げんぞう・中村)	→	信斎(しんさい・中村なかむら、外科医)	O 2 2 5 2
玄三(げんぞう・正野)	→	尚寧(なおやす・正野まさの、商業/歌人)	O 3 2 7 7
巖三(げんぞう・赤井)	→	東海(とうかい・赤井/芦田、藩士/儒者)	B 3 1 9 3

C1857 **顕宗天皇**(げんぞうてんのう・市辺忍齒王いちべのおしほのおおきみ[履中天皇皇子]の男)450-487<sup>38</sup> 記紀歌謡詠者、  
意祚命おけのみこと(仁賢天皇)の弟、雄略帝に父を殺害され兄弟で丹波播磨に逃亡、  
清寧天皇に迎えられ兄に先んじて帝位、治世8年(記)/在位3年(紀)、  
古事記;袁祚命おけのみことのととき志毘臣しびのおみと妻争い;歌垣歌謡/志毘臣を殺害、歌;続古819、  
[顕宗天皇の称]記;袁祚命おけのみこと/袁祚石巢別おけのいわすわけの命、  
紀;来目稚子くめのわくご/弘計天皇をけのすめらみこと、

久米若子伝説と類似→	久米若子(くめのわくご)	B 1 7 0 6	
建叟法師(けんそうほうし)	→	玄恵(げんえ、天台僧/詩)	1 8 0 8
原素館初丸(げんそかんはつまる)	→	初丸(はつまる・原素館、狂歌)	F 3 6 3 1
顕則(けんそく・赤松)	→	顕則(顕範あきり・赤松あかまつ、武将/歌)	1 0 7 9
兼速(けんそく・薬丸)	→	兼陳(かねのぶ・薬丸やくまる、藩士/剣客)	W 1 5 0 1
謙則(けんそく・荒本)	→	謙則(かねのり・荒本あらもと、藩士/国学)	T 1 5 4 6
兼統(けんそく・樋口/直江)	→	兼統(かねつぐ・直江なおえ、武将/軍法)	C 1 5 8 4
言足(げんそく・小池)	→	言足(のぶたり・小池こいけ、国学者/歌)	B 3 5 9 3
言足(げんそく・大隈/大熊)	→	言足(ことたり・大隈/大熊、商家/歌人)	N 1 9 2 6
言足(げんそく・小田島)	→	翠鳩(すいこう・小田島/安孫子、書肆/詩)	E 2 3 0 5
言足(げんそく・阿閉)	→	言足(のぶたり・阿閉あべ、藩士/国学/尊攘)	H 3 5 0 4
言足(げんそく・五富利)	→	言足(延足のぶたり・五富利ごぶり、御師代官/国学)	I 3 5 4 6
巖足(げんそく・和田)	→	巖足(伊豆足いずたり・和田、藩士/歌人)	1 1 2 3

N1857 **賢孫**(けんそん・安仁屋あにや/姓;倪)1676-1743<sup>68</sup> 琉球の文人、詩歌、  
1440数久田すくたの轟の滝を詠む;

[岩がねの松の梢をくくりきて流れたえせぬ千代の滝津瀬]

賢存(けんそん;字)	→	行阿(ぎょうあ;法諱、修験学僧)	N 1 6 1 4
鵠村(けんそん・篠原)	→	慶英(よしひで・篠原しのはら、武芸者/書画)	G 4 7 4 1
元尊(げんそん;法諱)	→	仰巖(仰岩ぎょうがん;道号、黄檗僧)	S 1 6 2 7
元遜(げんそん・尾本)	→	竜淵(りゅうえん・尾本おもと/大江、藩士/儒)	C 4 9 9 9
堅太(けんた・坂井)	→	正和(まさかず・坂井さかい/美濃部、藩士/儒・国学)	P 4 0 9 7
源太(げんた・源)	→	義家(よしえ・源みなもと、武将/歌人)	C 4 7 1 7
源太(げんた・梶原)	→	景季(かげすえ・梶原、武将/歌)	B 1 5 8 6
源太(げんた・柳村/鹿持)	→	雅澄(まさずみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者)	4 0 0 9
源太(げんた・千野)	→	貞慎(さだちか・千野ちの、家老/歌人)	Q 2 0 9 6
源太(げんた・吉野)	→	秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌)	D 3 7 8 1

- 兼泰(けんたい・源) → 兼泰(かねやす・源みなもと、廷臣/歌人) D 1 5 1 4  
見大(けんたい・細川) → 綱利(つなし・細川/源、藩主/詩人) B 2 9 1 4
- E1834 玄岱(元泰げんたい:名・姓;深見ふかみ・高こう、高大誦男)1649-172274 長崎漢学者:明僧の独立性易門、  
医/書/詩文も修学、儒;岩永知新門、一時薩摩藩に出仕/1709白石の推挙で幕府儒官、  
幕政参画;外交関係担当/小石川薬園事務、姓深見は遠祖の地渤海(ふかみ)に因む、  
息有隣と「大清会典」和訳、「高正元泰養生訓」「白雉帖」「斗膽(瞻)集」「養生論」「漂遇録」著、  
1680「養生編」1711「正徳和韓集」、「独立禅師書範」著、「天外老人全集」編、  
[玄岱(;名)の字/通称/号]字;子新/斗膽とせん/斗膽とたん、通称;新兵衛/新右衛門、  
号;天漪てんい/葵山ぶざん
- L1854 元諦(げんたい:法諱・義観ぎかん:道号)?-? 江中期黄檗僧;凌雲道体門/1700嗣法、  
1703「凌雲体和尚塔銘」著
- K1888 源泰(げんたい;法諱、法印源甫男/俗姓;今大路)1729-8658 天台宗聖護院宮坊官、1763法印、  
「独夜話」著
- K1889 元泰(げんたい・柴田しばた、名;直為、賢男)1738-180972 代々江戸の医者/1784幕府医官/奥医師/法眼、  
「御養心得之書」著、直賢の父  
[元泰(;通称)の字/号]字;子温、号;東阜
- K1890 玄対(げんたい・渡辺/修姓;辺・初姓;内田、渡辺湊水の養子)1749-182274 江戸麻布古川町の絵師、  
漢画;養父門/山水画;中山高陽門、「南画法論」「辺氏画譜」編、「南画人物譜」「玄対画論」、  
「南画山水画式」編、「林麓娛観」「松台稿」「仙嶽翁路図」画、「玄対画譜遺稿」、内田叔明の弟、  
[玄対の別号] 松台/松堂/林麓草堂、法号;林麓玄対居士、内田陶丘・渡辺赤水の父
- K1891 玄泰(げんたい・草鹿くさか、名;璠はん、玄伯男)1754-181057 代々加賀大聖寺藩医;父門/香川南洋門、  
儒詩;皆川淇園・山本北山門、1791家督/1801藩より薬園を賜り沕園と号、詩;吟社を結成、  
「蓮溪医話」「沕園百律」「松風斎詩文稿」「澹察筆話」「松下筆談」著、  
[玄泰(;通称)の字/号]字;伯奘/子実、号;沕園きえん/蓮溪/月翁/澹察、六洗居士/松風斎
- K1892 元泰(げんたい・松本まつもと、別通称;元策、玄圭男)1790-1883長寿94 伯耆米子の蘭医;京の官位門、  
儒;頼山陽門、1816諸国名医歴訪/長崎で蘭方医学修学/大阪堂島で開業医/49種痘法修得、  
1850帰郷;因幡伯耆で種痘実施/57米子で開業/58因幡鳥取藩士、1826「衛生覽要」編、  
1845「一灸万全」著、46「衛生覽要」編、50「炮瘡問答」著、藩主に国防策上申;「陸戦新策」著
- N1896 元戴(げんたい・服部はっとり、)1801-188282 信濃上田藩士、絵師;京の岡本豊彦門;四条派、  
楼閣図・人物画・花鳥図など画材は多岐にわたる、佐渡の僧本荘了潤(松籟)の師
- 元泰(げんたい・守屋) → 東陽(とうよう・守屋もりや、医者/詩文) H 3 1 7 8  
元泰(げんたい・松井) → 元泰(もとやす・松井、製墨業/詩/俳人) E 4 4 4 7  
元岱(げんたい・岡久) → 桂堂(けいどう・岡久おひさ、儒者/教育者) G 1 8 4 6  
玄泰(玄岱げんたい・多湖) → 栢山(はくざん・多湖たこ、儒者) D 3 6 0 9  
玄泰(げんたい・嶋) → 通虎(みちとら・嶋しま、藩士/医者/俳人) C 4 1 0 4  
玄泰(げんたい・小林) → 尋風(しんぷう・照井てるい、医者/俳人) P 2 2 7 3  
玄泰(げんたい・重田) → 蘭溪(らんけい・重田しげた、儒者/医者) B 4 8 8 9  
玄泰(げんたい・井上) → 蘆城(ろじょう・井上いのうえ、医者/俳人) B 5 2 8 5  
玄諦(げんたい;字) → 日審(にっしん;法諱・本是院、日蓮僧) E 3 3 5 2
- C1859 玄台(げんたい・里村さとむら;北家、春岳斎、玄立男)?-1765 連歌師、1743吉宗還暦「御賀おんが千句」参加  
玄台(げんたい・鎌田) → 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医:外科) F 1 8 9 8  
玄台(げんたい・田村) → 藍水(らんすい・田村/坂上/大谷、医官/本草) C 4 8 7 2  
権太輔(けんたいふ→ごんだゆう・久保) → 利世(としよ・久保くぼ、神職/茶人) O 3 1 1 5  
源大夫判官(げんたいふぼうがん) → 季貞(すえさだ・源みなもと、武将/歌人) B 2 3 1 4  
源太右衛門(げんたいえもん・桑木) → 政徳(まさのり・桑木、藩士/記録) G 4 0 1 6  
源太右衛門(げんたいえもん・小野) → 政雄(まさお・小野おの、藩士/歌人) O 4 0 1 7
- K1893 堅卓(けんたく;法諱・慧巖[慧岩]えがん;字)?-1740 江中期越後の浄土僧:江戸蓮光寺住職、  
詩文:徂徠と交流、「消間集」著  
[堅卓の法名/号]法名;浄蓮社立誉、号;雪山  
頭卓(けんたく;法諱) → 昕叔(きんしゅく;道号・頭卓、臨濟僧) R 1 6 1 5

- 見卓(けんたく・小泉) → 垣斎(えんさい・小泉、医者/詩文) E 1 3 7 3
- K1894 **玄琢**(げんたく・野間のま/修姓;野、名;成岑、宗印男) 1590-1645<sup>56</sup> 山城の医者:曲直瀬まなせ玄朔門、李朱医学修得/1605医学典籍の代講/10法橋/15鷹ヶ峯に薬草園地拝領/17法眼/23法印、1626徳川秀忠の侍医/36東服門院の療治功あり後宮に出仕、「群方類稿」著、  
[玄琢(:通称)の号] 白雲/白雲老人/寿昌院
- K1895 **元卓**(げんたく・吉田よしだ、名;立之/立) 1677-1754<sup>78</sup> 京の町医者/1725將軍に謁;重臣の治療、1738田安宗武付医師/47法眼/51幕府奥医師:「温泉記」「之参漫録」「痘治経験録」著、  
[元卓(:通称)の字/別通称/号]字;之参、別通称;金三郎、号;敬信斎、法号;寛慄院
- K1896 **元沢**(げんたく;法諱・竜門りゅうもん;道号)?-? 江中期享保1716-36頃黄檗僧:1725鋭峰道章門、「雲巖和尚語録」編
- K1897 **玄宅**(げんたく;通称・木梨きなし、名;孝胤・号;芳洲、恒徳男)?-1776 紀州藩医官、「非聖学問答再講」著
- 1824 **玄沢**(げんたく・大槻おおつき/本姓;平、玄梁男) 1757-1827<sup>71</sup> 陸中磐井郡中里の医者;建部清庵門、1778江戸で蘭医学:玄白・良沢門/85長崎に遊学;吉雄耕牛門、86仙台藩医;江戸詰、蘭学塾芝蘭堂開設;門人育成、1811幕府天文方蕃書和解御用;蘭書翻訳、1783「蘭学階梯」著、1788「蘭説辨惑」92-「蘭腕摘芳」98「蘭国通覧」、「遠西新語」「泰西新話」/1807「環海異聞」著、「奥行日記」「海椰子」「磐水漫草」「磐水雑鈔」「磐水尺素」「芝蘭堂雑記」「磐水先生随筆」著、歌人;「万葉歌切意」、歌集「大槻磐水と歌」外著書多数、  
[玄沢(:通称)の名/字/号]名;茂質しげたけ、字;子煥、号;磐水/芝蘭堂/半睡半醒
- 玄宅(げんたく・権田/光谷) → 竹二坊(ちくじぼう・権田、医者/俳人) D 2 8 1 6
- 玄琢(げんたく・廬) → 草碩(そうせき・廬、医者/本草家) I 2 5 1 9
- 玄琢(げんたく・野間) → 成式(せいしき・野間のま、幕臣/医者) I 2 4 5 7
- 元琢(げんたく・大和田) → 篤胤(あつたね・平田ひらた、国学/神道) 1 0 2 2
- 玄沢妻(げんたくのつま・大槻) → 多保子(たほこ・大槻/吉田、和文) S 2 6 2 2
- K1898 **源太左衛門**(げんたざえもん;通称・依田よだ、号;楽志?)?-1851 幕臣/儒者:1843西丸奥儒者、「小金原鹿狩記」「古佚窺斑」編/「玉燭宝典攷証」著
- 源太左衛門(げんたざえもん・小池) → 桃洞(とうどう・小池、藩士/儒/暦算) G 3 1 7 5
- 源太左衛門(げんたざえもん・山崎) → 景憲(かげのり・山崎、藩士/兵法家) L 1 5 2 1
- 源太左衛門(げんたざえもん・松平) → 乘良(のりよし・松平、幕臣/和学) K 3 5 0 6
- 源太左衛門(げんたざえもん・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3
- 源太左衛門(げんたざえもん・鈴木) → 鄰松(りんしょう・鈴木/藤原、船橋、幕臣/絵師) K 4 9 4 7
- 源太左衛門(げんたざえもん・小島) → 礼重(れいじゅう・小島、藩士) D 4 7 6 2
- 源太左衛門(げんたざえもん・小池) → 友識(ゆうしき/ともりのり・小池、藩士/武芸・歌) C 4 6 2 0
- 源太左衛門(げんたざえもん・吉田) → 懿長(よしなが・吉田よしだ、国学/歌人) Q 4 7 0 7
- 源太左衛門(げんたざえもん・山崎) → 郷義(さとよし・山崎/源、藩士/捕縄術) K 2 0 5 8
- 源太左衛門(げんたざえもん・鶴飼) → 伝右衛門(でんえもん・鶴飼、藩士/家譜編輯) D 3 0 1 5
- 源太左衛門(げんたざえもん・岡田) → 光隆(みつたか・岡田おかだ、国学者) I 4 1 5 3
- K1899 **顕達**(けんたつ;法諱、源師季男)?-? 鎌倉後期僧/箏の名手/隠退;沙門、音楽に関する故事・逸話を記録、1259「愚聞記」著
- 建達(けんたつ・木代きしろ) → 竹禎(ちくてい・木代、儒者/書) D 2 8 4 9
- C1861 **玄達**(げんたつ・松岡まつおか/修姓;松、字;成章/通称;怨庵) 1668-1746<sup>79</sup> 京の儒者;闇斎・仁斎・東涯門、町医/本草学;稻生若水門、1721幕命により江戸で薬品鑑定/和漢の文献蒐集;動植物の考証、中国の「農政全書」に訓点校訂、「用薬須知」「蕃藪録」「掛漏集」「日用食性捷徑」「本草秘録」、「怡顔齋食品考」「怡顔齋癩祭編」「怡顔齋日纂」「怡顔齋蘭品」、「怡顔齋遺稿」外著多数、  
[玄達(:名)の号] 怡顔齋いがんさい/苟完居こうかんきょ/眞鈴潮翁まねしゅう/埴鈴しよくれい
- L1800 **玄達**((げんたつ・阿部あべ/初姓;井上、字;元令/号;漏斎、阿部好繁の嗣) 1760-1839<sup>80</sup> 武蔵青梅医者、豊後岡藩医、江戸藩邸の教授、「偷閑雑記」「鷹起子」「壺素集」「剪燈記談」「漏斎漫筆」著
- 元達(げんたつ・碧湖) → 碧湖(へきこ・元達、黄檗僧) 2 7 8 9
- 元達(げんたつ・高橋) → 梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩) B 3 6 4 7
- 元達(げんたつ・千野) → 良岱(りょうたい・千野せんの、藩奥医) I 4 9 7 9
- 元達(げんたつ・佐藤) → 栢堂(はくどう・佐藤、儒者/詩人) D 3 6 7 4

- 元達(げんたつ・細合) → 張庵(ちょうあん・細合ほそあい、儒者/詩人) H 2 8 1 3  
元達(げんたつ・岡) → 澹斎(たんさい・岡おか、医者/詩人/本草) T 2 6 4 8  
玄達(げんたつ・設楽しだら) → 滴水(てきすい・設楽しだら棟持、医者) C 3 0 0 4  
玄達(げんたつ・森/小沢) → 雄風(おかせ・清原さよはら・森、医者/歌) 1 4 3 2  
玄達(げんたつ・森) → 昌胤(まさたね・森/源/吉田/雨森、神道家) D 4 0 5 9  
源達(げんたつ・長谷川) → 師鴻(しこう・長谷川はせがわ/源、儒者) T 2 1 3 6  
源太兵衛(げんたひょうえ・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3  
源太兵衛(げんたひょうえ・大石) → 千引(ちびき・大石おおいし、国学者/歌) 2 8 1 6  
源太兵衛(げんたひょうえ・佐藤) → 友信(とものお・佐藤、養蚕製種/問屋) Q 3 1 2 0  
源太兵衛門(げんたひょうえもん・大石) → 千引(ちびき・大石、国学者/歌) 2 8 1 6  
源太丸(げんたまる・南部) → 利済(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2)  
E1835 源太夫(げんだゆう・虎屋、長右衛門)?-? 17ct中期浄瑠璃太夫・浄雲門、井上播磨掾の師  
L1801 源太夫(げんだゆう・阿部あべ、元広堂)?-? 江戸中期越後萱場村農家、「梨栄造育秘鑑」  
源大夫(げんだゆう・松平) → 定以(さだゆき・松平/坪内、幕臣/歌人) K 2 0 1 6  
源太夫(げんだゆう・近藤) → 如行(じこう;号・近藤、藩士/僧/俳人) C 2 2 4 3  
源太夫(げんだゆう・野見山) → 士明(どめい・野見山のみやま、俳人) P 3 1 0 0  
源太夫(げんだゆう・岡田) → 忠寛(ただひろ・岡田おかだ、代官/国学者) W 2 6 3 0  
源太夫(げんだゆう・稲葉) → 則通(のりみち・稲葉/鈴木、藩士/兵学) F 3 5 8 5  
源太夫(げんだゆう・中馬) → 諸香(もろか・中馬ちゅうま、藩士/歌人) K 4 4 5 1  
源太夫(げんだゆう・松井) → 蝸庵(かあん・松井まつい、儒者) H 1 5 1 1  
源太夫(げんだゆう・小笠原) → 基長(もとなが・小笠原おがさわら、藩士/記録) D 4 4 5 3  
源太夫(げんだゆう・長塩) → 慈庵(じあん・長塩ながしお、奇書収集家) B 2 1 0 2  
源太夫(げんだゆう・山口) → 光寛(みつひろ・山口やまぐち、幕臣/和学) K 4 1 8 8  
源太夫(げんだゆう・上田) → 宜珍(ぎちん・上田/滋野、国学者/地誌) F 1 6 8 7  
源太夫(げんだゆう・黒野) → 義方(よしかた・黒野くろの、幕臣/兵学者) C 4 7 7 2  
源太夫(げんだゆう・窪田) → 清音(きよね・窪田くぼた、幕臣/武道家) Q 1 6 0 9  
源太夫(げんだゆう・加集かお) → 言周(ことのお・宮崎みやざき/加集、藩士/郷土史家) N 1 9 3 2  
源太夫(げんだゆう・中川) → 為範(ためり・中川、藩士/茶人) S 2 6 6 6  
源太夫(げんだゆう・渡辺) → 静山(せいざん・渡辺わたなべ、藩士/俳人) I 2 4 4 8  
源太夫(げんだゆう・的場) → 勝督(かつただ・的場まとば、藩士/歌人) V 1 5 7 9  
源太夫(げんだゆう・石川) → 從繩(つぐなわ・石川、和算家) 2 9 7 6  
源太夫(げんだゆう・山寺) → 常山(じょうざん・山寺、藩士/儒/兵学) S 2 2 6 2  
源太夫(源大夫げんだゆう・向山) → 誠斎(せいさい・向山むこうやま、幕臣/歌) B 2 4 6 2  
源太夫(げんだゆう・岡田) → 光顕(みつあき・岡田おかだ、代官/歌人) I 4 1 5 2  
源太夫(げんだゆう・山村) → 葆光(やすみつ・山村やまむら、国学者) G 4 5 9 7  
元太夫広明(げんだゆうひろあき・毛利) → 勝則(かつのり・永井、藩士/日記) N 1 5 7 7  
兼太郎(けんたろう・楠瀬) → 清蔭(きよかげ・楠瀬くすのせ、藩士歌人) T 1 6 9 8  
兼太郎(けんたろう・原) → 眞武(まさたけ・原はら/吉岡、歌人) R 4 0 9 8  
健太郎(けんたろう・中山) → 繁樹(しげき・中山なかやま、藩士/国学/歌) Q 2 1 9 2  
元太郎(げんたろう・小野) → 勝義(かつよし・小野おの、与力/歌人) F 1 5 4 9  
元太郎(げんたろう・伊東) → 祐賢(すけかた・伊東いとう、藩士/教育) L 2 3 2 8  
元太郎(げんたろう・岡) → 敦(あつし・岡おか/山本、陪臣/国学) H 1 0 3 3  
元太郎(げんたろう・西岡) → 長広(ながひろ・西岡にしおか、国学者) O 3 2 2 1  
元太郎(げんたろう・日置) → 忠章(ただあき・日置へき、藩老/領主/歌) Z 2 6 3 9  
元太郎(げんたろう・松尾) → 誠(まこと・松尾まつお、農商/国学) S 4 0 6 3  
原太郎(げんたろう・藤本) → 重光(しげみつ・藤本ふじもと、藩士/歌人) Z 2 1 8 5  
源太郎(げんたろう・観世) → 元信(もとのぶ・観世かんぜ、小鼓方宗家5世) D 4 4 6 9  
源太郎(げんたろう・檜山) → 福宣(とみのぶ・檜山、暦法家) O 3 1 9 2  
源太郎(げんたろう・正木) → 梅谷(ばいこく・正木まさき、藩士/儒者) B 3 6 2 4  
源太郎(げんたろう・高島) → 厚定(あつさだ・高島たかばたけ、藩士/記録) E 1 0 5 8

- 源太郎(げんたろう・新井) → 邦孝(くにたか・新井あらい、幕臣/故実家) C 1 7 8 2  
 源太郎(げんたろう・矢部) → 定衡(さだひら・矢部やべ/藤原、幕臣/歌) M 2 0 0 1  
 源太郎(げんたろう・松平) → 康詮(やすあきら・松平まつだいら/松井/源、幕臣/歌) H 4 5 1 3  
 源太郎(げんたろう・田沢) → 義章(よしあき・田沢たざわ、歌人/地誌) B 4 7 9 4  
 源太郎(げんたろう・名越) → 時行(ときゆき・名越なごや/なごえ、民俗研究) K 3 1 2 9  
 源太郎(げんたろう・末吉) → 道筋(どうせつ・末吉すえよし、商家/俳人) G 3 1 0 6  
 源太郎(げんたろう・大竹) → 信政(のぶまさ・大竹おおたけ、幕臣/歌人) H 3 5 6 9  
 源太郎(げんたろう・間島) → 正盈(まさみち・間島まじま、藩士/歌人) H 4 0 5 5  
 源太郎(げんたろう・大谷木) → 醇堂(じゅんどう・大谷木おおやぎ、儒者/随筆) K 2 1 3 4  
 源太郎(げんたろう・細井) → 寧雄(やすお・細井ほそい、絵師/和算家) B 4 5 0 3  
 源太郎(げんたろう・金井) → 質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5  
 源太郎(げんたろう・木曾) → 義顕(よしあき・木曾きそ/入江、藩士/国学) M 4 7 3 7  
 源太郎(げんたろう・中田) → 正朔(まさもと・中田なかた/沢潟、神職) R 4 0 1 3  
 源太郎(げんたろう・花輪) → 昌富(まさとみ・花輪はなわ/塙/源/中島、国学) R 4 0 8 4  
 現太郎(げんたろう・松浦) → 貞保(さだやす・松浦まつうら、歌人) P 2 0 3 8  
 巖太郎(げんたろう・平山) → 良岳(よしただけ・平山ひらやま、藩士/国学) O 4 7 8 1
- L1802 玄旦(げんたん・高橋) ? - ? 安桃江初期;堺妙国寺住の日蓮僧、茶:利休門、  
「喫茶話法」著
- L1803 元湛(げんたん・法諱) ? - ? 江前期曹洞僧:月坡道印[1637-1716]の侍者、  
1677「月坡禅師語録献珠」編/80「月坡禅師語録天徳寺」編
- C1862 元端(げんたん・貝原かいばら、別名;回道、藩医寛斎男) 1622-9574 福岡藩儒、益軒の兄、1639京に遊学、  
江戸で藩主の嗣子黒田光之の伴読/病により致仕、寛文1661-73頃秋月学館教授、歌人、  
1664「孝経纂註」、「基肆養父実記」著、「存斎遺集」、  
[元端(;名)の幼名/字/号]幼名;十太夫、字;子善、号;存斎
- F1802 元端(げんたん・向井むかい、元升男/本姓;藤原) 1649-171264 長崎の儒医/御医(父の嗣);尚葉/法印、  
俳諧;蕉門、元淵(去来)[1651-1704]・元成の兄、1708「煙草考」編、「烟具攷」「神麴攷」著、  
芭蕉「幻住庵記」跋、「震軒雑録」著/「震軒遺文録」、  
[元端(;名)の字/号]字;履信、号;震軒/仁焉子/益寿院(宮中より賜号)
- C1863 元淡(げんたん・谷口たにぐち/本姓源) 1677-174266 近江の儒者;荻生徂徠門(護園派)、  
古典・歌;北村季吟門、柳沢吉保家臣;江戸廷内の文武教場で和漢学を講義、  
1724吉保転封で大和郡山藩儒;藩主父子の侍講/子弟教育、  
徂徠と論争:「徂徠先生学則問答」門弟柳沢淇園刊、  
「古今和歌集私説」「豈好辨志」「身延雑筆」、1737「百人一首拾穂抄補註」著、  
[元淡(;名)の字/通称/号]字;大雅、通称;新助、号;心水軒/鄭圃
- E1836 元淡(げんたん・中西なかにし) ? - ? 尾張名古屋の儒者:細井平洲師、  
18c末平洲「小話」に逸話入
- L1804 龍潭(げんたん・堀ほり、名;和/通称;尚平)?-? 江後期讃岐高松の医者/詩人、1784「屈氏家言」、  
「名医録」「金台聯珠」「四子約言」「傷寒卮言」「素問刪」「方環」「診法小伝」著
- K1836 玄端(げんたん・杉田すぎた、名;扨、幡頭信珉[吉野一得]男) 1818-8972 江戸の医者:1834杉田立卿門、  
1835立卿の養子;分家して開業、のち宗家杉田白元の養嗣子、53若狭小浜藩医、  
1865外国奉行支配翻訳御用頭取、  
1851「地学正宗」訳/56「杉田氏両湯日記」著/67「健全学」訳  
[玄端(;通称)の字/別通称/号]字;充甫、別通称;徳太郎、号;泰嶽/肥舟/桜所、法号;宝山院
- L1805 玄探(げんたん;号・川瀬かわせ、宗安男) 1830-1903?74 (一説72) 羽後大館藩医者;根本群助門、  
城代お抱医;父継承、詰役見習/江戸で蘭学修得/1868大館に館城医院を設立、  
「疑問百条」著
- 玄旦(げんたん) → 惟中(いちゅう・岡西/松永、歌・俳人) 1 1 1 9  
 玄端(げんたん;法諱) → 直指(じきし;道号・玄端、曹洞僧) Q 2 1 0 6  
 玄端(げんたん・蔭山) → 無睦(むぼく・蔭山かげやま、俳人) C 4 2 9 8  
 玄丹(げんたん・西沢) → 魚日(ぎよじつ・西沢にしざわ、俳人) D 1 6 2 1

- 元旦(げんたん;号・谷/島田)→ 文啓(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) F 3 8 1 0  
元旦(げんたん・小笠原) → 競(きそう・小笠原おがさわら/奥瀬、藩士/国学) T 1 6 6 5  
元倅(げんたん・湯川) → 安道(あんどう・湯川ゆかわ、幕府医官) G 1 0 2 0  
巖男(げんだん・南部) → 巖男(いづお・南部なんぶ、国学者) D 1 1 4 7  
巖男(げんだん・広瀬) → 巖男(いづお/よしお・広瀬ひろせ、国学/歌人) F 1 1 7 1  
研覃居(けんたんきよ・細川)→ 宣紀(のぶり・細川、藩主/詩人) C 3 5 7 2
- L1806 賢智(賢知けんち:法諱、源みなもと家俊男?)?-? 平安期園城寺僧/法師、  
歌人:1165成立[続詞花集]入、勅撰2首;詞花368/千載683、  
[なみだ河その水上みなかみをたづぬれば世をうきめよりいつるなりけり](詞花;雑368、  
浮き藻めと憂き目を掛ける/此の世をつらく思う心が源流)
- C1864 顕智(けんち:法諱、初法諱:賢順、平たいら基知の養子)1226-1310<sup>85</sup> 鎌倉期越後井東天台僧;順範門、  
叡山東塔で出家;賢順名/10年間修行、下野高田で真宗僧;真仏・親鸞門/改名、1258専修寺3世、  
大僧都/法印(真宗初の僧官僧位)、「自然法爾章筆」、「顕知語伝」「親鸞聖人本伝」著
- E1837 乾知(けんち・松本まつもと) ? - ? 父は大阪の開業医、儒者;大塩平八郎中齋門、  
流行病で没;中齋はその死を嘆く、1833中齋「洗心洞劄記まつき」点、実弟隣太夫は大塩乱参加
- 顕智(けんち;名) → 覚猷(かくゆう、天台画僧) 1 5 0 9  
研智(けんち・矢田) → 正景(まさかげ・矢田やだ、真宗僧/歌人) T 4 0 3 0  
兼知(兼智けんち;法諱) → 実従(じつじゅう;法諱、真宗本願寺法印/歌) E 2 1 9 7  
兼知(けんち・石井) → 盛時(もりとき・石井いし、幕臣、記録) F 4 4 9 1  
兼致(けんち・吉田) → 兼致(かねむね・吉田/卜部、神職:唯一神道) F 1 5 3 3  
謙致(けんち・清水) → 黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2  
賢智(けんち;字) → 快全(かいぜん;法諱・賢智、真言僧) I 1 5 8 6  
賢知(けんち・人見/野) → 元徳(げんとく・人見ひとみ/野、医者) M 1 8 0 1
- E1838 源智(げんち:法諱・勢観坊;号、賀茂上人、平たいら師盛男)1183-1238<sup>56</sup> 京の浄土僧;源空(法然)門、  
源空に随侍;師臨終に一枚起請文を受/知恩院・知恩寺2世/紫野門徒の祖、  
「浄土随聞記」1237「選択本願念仏集要決」著、門弟;蓮寂・浄信・宿蓮ら
- C1865 元智(げんち) ? - ? 安藝巖島の連歌師、1558元就万句など入
- L1807 玄智(げんち:通称・中林、号;六庵)-?-? 安桃・江初期1596-1615頃医者:曲直瀬まなせ玄朔門、  
歌、「玄智集作之医書」「古今和医保名歌括」著、  
1607「庖人集要宜禁本草之歌」09「新撰抜粹証類本草和歌」著
- F1813 元知(げんち・西田にしだ、通称;三郎兵衛)-?-? 京の俳人;貞徳門、連歌;里村玄仲門、  
1622「元知独吟千句」、58「拾玉集」編;自句175句、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[種々薩埵しゅじゆきつたの花に増まさるや普賢象ふげんざう](手鑑/種々雑多に掛る/  
普賢象;櫻の一種;花白く大きく普賢菩薩の乗る象の長い鼻に比し名が付く)
- L1808 元智(玄智げんち:法諱・潮音ちようおん;字)1639-1718<sup>80</sup> 常陸真言宗大聖寺住職/下野心等庵1世、  
1689安祥寺流許可/93伝法阿闍梨/94比丘戒を受、「即身成仏義開講」93「諸儀軌伝授開書」著、
- C1866 元知(げんち:名・下津しもつ) ? - ? 江前期1673-88頃京の本草家、1680「凶解本草」編
- L1809 元知(げんち) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」5句入、  
[我宿の形なり替りけり今朝の雪](蓮実はすのみ;403)
- L1810 玄智(玄知/元智げんち・千田せんだ、清右衛門男)1651-1717<sup>67</sup> 羽前最上郡の医者;江戸で井上玄轍門、  
1674岡崎侯に出仕/1707徳川綱吉の奥医師/08法眼/16寄合、「括秘録」著、  
[玄智(:通称)の字/号]字;子韜、号;大円堂/匠精軒、法号;了智
- L1811 玄智(げんち:法諱・字;景耀けいよう/若瀛やくえい)1734-94<sup>61</sup> 河内岡村真宗大谷派僧;京慶証寺玄誓門、  
1759師の後嗣として本山堂職/71命を受け丸亀別院住/72大谷本廟輪番/73江戸別院輪番、  
「考信録」「六条随筆」「禅余奇観」「築地考績」「鷺森考績」、1780「浄土真宗教典志」編外著多数、  
[玄智の号/通称] 号;曇華室/孝徳坊、通称;文殊小僧、諡号;文殊院
- 言知(げんち・山科) → 言知(ときとも・山科、廷臣/日記) J 3 1 4 9  
言智(げんち・林) → 言智(こととも・林はやし、商家/歌人) R 1 9 1 6  
元知(げんち・俵屋) → 宗理(初世そり・俵屋たわらや、絵師) D 2 5 1 2  
元知(げんち・佐藤) → 元知(もともと・佐藤、藩士/兵学/心学) D 4 4 3 5

- 元知(げんち・鈴木) → 桜溪(おうけい・鈴木すずき、藩士/儒者) C 1 4 3 6  
元知(げんち・稲次) → 元知(もとちか・稲次いなづ、国学者) J 4 4 2 9  
元知(げんち・須藤) → 元知(もともと・須藤すどう/土岐沢、国学/歌) K 4 4 1 3  
元知(げんち・宮崎) → 元知(もともと・宮崎みやざき、国学/歌人) L 4 4 5 7  
元智(げんち・田辺) → 元智(もとさと・田辺たなべ/源、藩士/歌) K 4 4 3 3  
兼竹(けんちく・猪苗代) → 兼恵(けんけい・猪苗代いなわしろ、連歌師) B 1 8 6 4
- E1839 玄竹(げんちく) ? - ? 京の俳人、医者?、1633重頼「犬子えの集」936  
[あつき日の煙は富士の灸やいとかな](犬子えの集;三936;富士山は1627噴火)  
医者で歌人の玄竹(1670下河辺長流[林葉累塵集]入集)と同一?  
[えしも猶かけははなれじから衣ひとつまなればきる夜なくとも](林葉累塵;恋950)、  
☆奈須玄竹と同一? → 恒昌(つねまさ・奈須なす、幕府医者) D 2 9 6 6  
玄竹(げんちく・奈須) → 恒昌(つねまさ・奈須なす、幕府医者) D 2 9 6 6  
玄竹(げんちく・田沢/奈須) → 恒徳(つねのり・奈須なす/田沢、幕医) D 2 9 1 8  
玄竹(げんちく・奈須) → 菊庵(きくあん・奈須なす、幕府医官/青磁研究) T 1 6 1 5  
元竹(げんちく・臨高庵) → 桐葉(とうよう・林、旅宿業/俳人/書家) H 3 1 7 2
- L1812 謙忠(けんちゆう) ? - ? 鎌倉期1234-59頃天台僧/叡山修行;関東下向、  
鎌倉名越の山王堂別当/律師、1235「日吉本紀」、「辨財天修儀私訣」「摩訶伽羅天供式」著
- L1813 建胄(けんちゆう:法諱・華岳かがく;道号、初諱;恵胄) 1386-1470<sup>85</sup> 臨濟僧;哲巖祖濬門/東福142世、  
南禅寺193世、東福寺常喜庵に没、詩人;1448賢良[畠山匠作亭詩歌]参加、  
「恵日禅師塔銘」/1456「心関大禅師祖道履歴之記」著、  
[一樹臘前新吐葩 瓊瑤枝重压横斜 晓来莫使了童掃 好在寒梅雪裏花]、  
(匠作亭詩歌;23/雪裏早梅/対するは积正晃[正広]の歌)、  
[華岳建胄の号] 樵隠子/栗隠叟
- L1814 兼忠(けんちゆう:法諱・明俊みょうしゅん;号、諡号;常住院、金宝寺明蓮男) 1463-1551<sup>89</sup> 京の真宗僧:父門、  
本願寺8世兼寿[蓮如]・9世光兼(実如)に出仕/京の本願寺派金宝寺64世、  
1511親鸞250回忌に東国門徒を勧募、18蓮能尼(兼寿室)の葬送導師、「御堂日録」著
- L1815 謙冲(けんちゆう:法諱) ? - ? 江中期伊勢明星村真宗高田派の転輪寺住職、法眼、  
1761「善信聖人十得伝」、「真宗閩牆録」[略述法相義啓明]著
- L1816 軒中(けんちゆう・奥沢おくさわ、半助男) 1764-1841<sup>78</sup> 安房岩井の医者;漢方・蘭方;産科医、  
「産科發明」著、  
[軒中(:通称)の字/号]字;岐庸、号;富山、法号;奥沢院
- 顕忠(けんちゆう・藤原) → 顕忠(あきただ・藤原、時平男/廷臣/歌) 1 0 6 9  
顕忠(けんちゆう・増田) → 顕忠(あきただ・増田ますだ、陪臣/和学者) I 1 0 4 3  
顕忠(けんちゆう・中川) → 顕忠(あきただ・中川、藩家老/日記) D 1 0 4 9  
顕忠(けんちゆう・奥村) → 蒙斎(もうか・奥村おくむら、藩士/儒家) 4 4 4 6  
顕忠(けんちゆう・仲田) → 顕忠(あきただ・仲田なかだ、幕臣/歌人) 1 0 4 4  
顕忠(けんちゆう・岡田) → 顕忠(あきただ・岡田おかだ、幕臣/書家/歌) G 1 0 6 3  
顕忠(けんちゆう・桜井) → 魯玉(ろぎよく・桜井さくらい、俳人) 5 2 7 3  
顕仲(けんちゆう・藤原) → 顕仲(あきなか・藤原、廷臣/歌人) 1 0 0 7  
顕仲(けんちゆう・源) → 顕仲(あきなか・源、廷臣/笙/歌人) 1 0 0 8  
賢仲(けんちゆう/かたなか・寺井) → 宗巧(そうこう・寺井、城主/連歌) H 2 5 2 9  
賢忠(けんちゆう・船橋/伏原) → 賢忠(かたただ・伏原ふしはら、廷臣) N 1 5 0 0  
憲忠(けんちゆう・梅津) → 憲忠(のりただ・梅津、藩家老/連歌) E 3 5 9 4  
堅儔(けんちゆう・北川) → 堅儔(かたとも・北川きたがわ、武芸/兵法家) N 1 5 0 1  
兼忠(けんちゆう・鷹司) → 兼忠(かねただ・鷹司、摂政閩白/歌) C 1 5 8 2  
兼儔(けんちゆう・中村) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
- L1817 玄忠(げんちゆう:法諱) ? - ? 鎌倉初期の僧;法師、歌人;1233刊[御裳濯集]入、  
連歌:伊勢林崎で寂阿と連歌;菟玖波1978詞書;伊勢国を修行し林さきという所にて、  
[はやしさきまはではいかがかへるべき 寂阿法師  
つつみのたけをうちならしつ つ 玄忠法師]

[古庭女郎花と云う心を、

いそのかみふるき籬のをみなへしおのれのみこそ盛りなりけれ] (御裳濯集; 秋320)

- 01816 **源忠** (げんちゆう) ? - ? 鎌倉中後期の僧; 大僧正、歌人;  
1310刊為相撰? [柳風抄] 2首入 (前大僧正名)、  
[さぞはれんつらさおもはで花のかをおくるばかりのあらしなりせば] (柳風抄; 春25)
- L1818 **玄忠** (げんちゆう; 法諱) ? - ? 鎌倉末期真言宗長谷寺僧/法印、  
歌人: 天台座主道玄に和歌詠進; 続千載集1869、  
[つれなくて世に有明の月もみつただ我ばかりうき物はなし] (続千載: 十七1869; 暁述懐)
- C1867 **源忠** (げんちゆう) ? - ? 歌人、法眼、新拾遺1477  
[山の端の雲に入り日は残れども涼しくなりぬ松の下風] (新拾遺; 十七1477)  
(詞書; 扇解脱風除世惱熱)  
流布本新千載688の源忠は源恵の誤記 → **源恵** (げんえ) B 1 8 2 8
- L1819 **元冲** (げんちゆう; 法諱・梅印ばいん: 道号、三淵晴員男) ?-1605 臨濟僧; 梅谷元保門/嗣法、南禅寺268世、  
塔頭悟心院住持/梅津長福寺長老兼務、聯句; 1598慶長三年三月九日如雪梅印等和漢聯句、  
細川幽齋の弟
- 1825 **玄仲** (げんちゆう・里村さとむら: 北家、紹巴男) 1578-1638<sup>61</sup> 連歌師; 1625柳營連歌勤仕 (幕府連歌師);  
法橋、「伊勢物語聞書」、初出: 1595「何舟百韻」(紹巴・昌叱・玄仍らと) 以下多数の百韻参加、  
1603「千句」主催、「昌琢玄仲両吟」「智仁親王玄仲両吟」「玄仲発句集」著、  
[玄仲の別号] 玄尚/焦翁/直衆庵/臨江齋、妻; 吉田易安女、玄仍げんじゆうの弟、  
玄仲の男 → 玄祥 (げんしやう・里村さとむら・紹尚、連歌) C 1 8 1 8  
玄仲の女 → 那倍 (なべ・伊藤、伊藤仁齋の母) G 3 2 8 6
- 01809 **玄忠** (げんちゆう・陰山かげやま) ? - ? 江前期; 上方の医者/歌人、  
1670下河辺長流 [林葉累塵集] 入、  
[夢とのみ聞きまどはせる郭公いま一こゑにうつさだめよ] (林葉累塵; 夏291)
- C1837 **玄仲** (げんちゆう; 通称・草鹿くさか、字; 伯省/号; 北軒、玄立男) 1646-1715<sup>70</sup> 加賀大聖寺藩医;  
1682家督継嗣、「配濟録」「太倉公医案」「北軒稿」著
- L1820 **元冲** (げんちゆう; 法諱・雲峰うんぼう: 道号、初道号; 雲外、葛山為久 [立竿] 男) 1647-1711<sup>65</sup> 京の禅僧、  
初め臨濟僧; 光雲寺英中門/黄檗僧; 1675梅嶺道雪門/嗣法、諸国行脚/美濃土岐地藏堂住、  
古址復興を發願/1688仏日山明白寺開山、1707「梅嶺禅師語録」編、「明白雲峰和尚語録」著、  
弟ものち黄檗僧 → 大随 (だいずい・道機どうき、臨濟/黄檗僧) K 2 6 4 2
- L1821 **元忠** (げんちゆう; 通称・平野ひらの、号; 産全庵) ?-? 江前期京の医者/法橋大極進、1682「声診撮要」著
- L1822 **元中** (げんちゆう; 法諱・允執いんしゆう: 道号) ?-? 黄檗僧、1697鉄牛の法嗣、  
1700「鉄牛禅師末期事实」編、「鉄牛禅師自牧摘稿」編
- L1823 **玄仲** (げんちゆう・梅蔵軒) ? - ? 江中期1716-36頃下野佐野の歌人、  
「歌会式二条家流」著
- N1834 **玄仲** (げんちゆう・島津しまう) ? - ? 甲斐の医者、山梨稻川「思旧漫録」記事入、  
駿府で医業、典籍・奇書を購入所蔵; 駿河文庫の再興を企画中没す; 書散佚、70余歳
- L1824 **元仲** (げんちゆう・向井、別名: 富) ?-? 江中後期; 長崎の人; 元成の一族?/幕臣: 長崎聖堂に出仕、  
1770再興落柿舎に去来真蹟短冊寄贈、「落柿舎先生事实」、1804「商舶載来書目」編
- 01839 **玄仲** (げんちゆう・雲林院うい、字; 子享/号; 力斎) ?-? 江中後期; 大坂の医者/上田秋成の友、  
秋成 [藤篋冊子つづらみ五: 応雲林院医伯之儒擬李太白春夜宴桃李園序] に入
- L1825 **玄中** (げんちゆう・松山まつやま/初姓; 田中、名; 紀民のりたみ) 1818-51<sup>34</sup> 医者松山道善の養子;  
出羽庄内大山の医者、画: 石井子竜門、歌; 1844鈴木重胤門、  
「結びの芽久美」著、中節の父/中英の養父、  
[玄中 (通称) の号] 鵬民/崑山/伊豆舎
- L1826 **愿中** (げんちゆう・斎藤さいとう、名; 義質よしかた、寺本立軒孫) ?-? 江後期安藝竹原の儒者: 塩谷鳳洲門、  
「棗苑遺稿」著
- 玄中 (玄冲/玄仲げんちゆう・平/平野) → 金華 (きんか・平野、儒者/詩) 1 6 5 7  
玄中 (げんちゆう・森本) → 黙愿 (もくいん・佚山、書家/曹洞僧) 4 4 6 7  
玄中 (げんちゆう・浅井) → 家之 (いえゆき・浅井、神道家) D 1 1 3 3

玄中(げんちゅう・太田)	→	氏順(うじのぶ・太田おた、藩士/歌人)	E 1 2 6 1
玄中(げんちゅう・成川)	→	眞棹(まさお・成川なるかわ、医者/歌人)	R 4 0 3 0
玄仲(げんちゅう;法体後)	→	樗良(ちよら・三浦、俳人)	2 8 3 1
玄仲(げんちゅう→はるなか・小沢)	→	蘆庵(ろあん・小沢おざわ/平、歌人)	5 2 0 1
玄仲(げんちゅう・村田)	→	春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌)	3 6 3 1
玄仲(げんちゅう・臼井)	→	伊信(これのぶ・臼井うすい、大庄屋/医/歌)	Q 1 9 3 7
玄仲(げんちゅう・五頭)	→	玄仲(はるなか・五頭ごとう/小川、医者/俳人)	K 3 6 2 0
玄冲(げんちゅう・山脇)	→	東海(とうかい・山脇、医者)	B 3 1 9 0
玄忠(げんちゅう・村上)	→	柳風(りゅうふう・村上むらかみ、医者)	F 4 9 5 0
玄盅(げんちゅう・奈須)	→	恒徳(つねのり・奈須、幕府医者)	D 2 9 1 8
元中(げんちゅう・桐山)	→	知義(ともよし・桐山きりやま、医者/書家)	Q 3 1 9 7
元忠(げんちゅう→もとただ・観世)	→	宗節(そうせつ;法名・7世観世大夫)	C 2 5 3 4
元忠(げんちゅう・鳥居)	→	元忠(もとただ・鳥居とりい、武将)	4 4 1 4
元冲(げんちゅう・檜林/上田)	→	生々(せいせい・上田/檜林、儒/医者)	J 2 4 0 0
元冲(玄冲げんちゅう・佐伯)	→	貴義(たかよし・佐伯さえき、医者/歌人)	X 2 6 1 3
元冲(げんちゅう・新妻にいうま/にのつま)	→	道斎(どうさい・新妻、儒者)	E 3 1 4 2
元冲(げんちゅう・粕谷/半井)	→	仲庵(ちゅうあん・半井なからい、藩士/医者)	F 2 8 7 6
元冲(げんちゅう・沢辺/皐)	→	東谷(とうこく・沢辺/皐、儒者/医者)	E 3 1 0 9
元仲(げんちゅう・増田/菊池)	→	黄山(こうざん・菊池きくち、儒者)	J 1 9 2 1
元仲(げんちゅう・越)	→	元仲(もとなか・越こし、儒者)	D 4 4 4 6
元抽(げんちゅう;初法諱)	→	聞谷(もんこく;道号・浄抽じょうちゅう;法諱、黄檗僧)	I 4 4 2 2
元稠(げんちゅう・桑山)	→	元稠(もとしげ・桑山、幕臣/日記)	C 4 4 6 1
愿中(げんちゅう・山本)	→	威斎(かんさい・山本やまもと、医者)	Q 1 5 6 7
愿仲(げんちゅう・田中)	→	栄信(ひでのぶ・田中たなか、医者)	D 3 7 5 7
鉉仲(げんちゅう/けんちゅう・島村)	→	鼎甫(ていほ・島村、医者)	B 3 0 6 7
巖中(げんちゅう;道号)	→	周璽(しゅうがく;法諱、臨濟僧)	H 2 1 0 0
玄仲庵(げんちゅうあん)	→	了延(りょうえん・古筆こひつ/7世、鑑定家)	G 4 9 5 6
言緒(げんちゅう・山科)	→	言緒(ときお・山科、歌人)	3 1 3 2
C1869 顕朝(けんちょう)	? - ?	鎌倉期;1242「四条院御祭礼記」著	
C1870 賢朝(けんちょう)	? - ?	鎌倉期;1265「宝蔵渡物日記」著	
L1827 顕超(けんちょう)	? - ?	南北朝1362-84頃天台僧:叡山横川より伝園城寺へ、 1369「十八道覆審抄」81「十八道再受抄」「胎蔵界覆審私記」、「護摩再受抄」著	
L1828 賢超(けんちょう)	? - ?	室町期真言僧:1458-60義賢より伝法灌頂を受、 1482「三宝院義覚得度記」著	
L1829 兼澄(けんちょう;法諱・良真;字)?-1748		山城真言宗蓮台寺僧/1719江戸護持院住/24退隠、 1720「大日経開題箋釈」36「法髓編」、「大日経開題口筆」「真言二字義考要」「五教章玄談」著	
兼澄(けんちょう・源)	→	兼澄(かねずみ・源みなもと、廷臣/歌人)	1 5 7 2
兼朝(けんちょう・源)	→	兼朝(かねとも・源、廷臣/歌人)	C 1 5 8 8
憲長(けんちょう・田村)	→	憲長(のりなが・田村たむら、神職/歌人)	I 3 5 9 0
顕長(けんちょう)すべて	→	顕長(あきなが)	
L1830 玄澄(げんちょう)	? - ?	室町期1394-1441頃天台僧/僧都法印、 1435「密灌頂面授記穴太流」著	
L1831 玄澄(げんちょう;法号、上杉清方男/本姓;藤原)1443-1508?66		戦国期1469-89頃武将、 越後柏崎上条城主、兄上杉房定を補佐/1488万里集九を迎え詩歌会催/出家、連歌;新菟6句入 [玄澄(:法号)の俗名/号]俗名;上杉房実、号;蓮器/朝日寺、別姓;上条/上条上杉、 上杉定実(越後守護)・定明・積翠院(伊達尚宗室)の父	
L1832 元澄(げんちょう;法諱)	? - ?	江前期黄檗僧、竜溪りょうけい性潜しょうせん[1602-70]の侍者、 1666「般若心経口譚」著	
L1833 玄長(げんちょう;通称・八尾やお、号;淡室、尾張藩医道節男)1633-7341		丹波柏原の医者;父門、 京の大医寿昌院門/饗庭東庵門、京住、	

1666「医学入門」編、「医師国元澹美要方」「瓦缶日録」著

- C1871 **元長**(げんちよう) ? - ? 江前期俳人・貞門、1675高政「俳諧絵合」入
- L1834 **元澄**(げんちよう:法諱・石泉せきせん:道号)?-? 江前期黄檗僧;1687悦山道宗門/嗣法、「石泉禪師語録」、「鉄心和尚末後事略」著
- L1835 **玄長**(げんちよう:法諱) ? - 1735 上州吾妻郡川戸村の金蔵院僧、慈源流武道:小板橋吉透門、「慈源流兵法秘伝」著
- L1836 **源長**(げんちよう:法諱・教恩きょうおん:字) 1672-1736<sup>65</sup> 越前真言僧:覚眼門/灌頂を受、智山一蔭職、六波羅蜜寺中興25世、「結繩伝」「性海寺伝燈録」「幸心院法流私記」著、1700「周易筮儀伝授私記」34「曼供職衆五十口交名并所作」著
- L1837 **玄長**(元長げんちよう:法諱・一丈いちじよう:道号、鍋島俊信男) 1693-1753<sup>61</sup> 肥前曹洞僧;高伝寺寂照門、黄檗の高泉門/曹洞の佐渡清涼寺天巖祖暁門、佐賀竜泰寺住寺/1737長崎皓台寺住持、1742「禪戒問答」、「禪門同行訓」「名字辨」著
- B1865 **元澄**(げんちよう・江馬えま、初世春齡)?-1774 江中期医者;美濃大垣藩医、蘭斎の養父
- L1838 **元晁**(げんちよう:名・有馬ありま、号:元龜/文仲)?-1790 丹波福知山藩士/蘭学;大槻磐水門、1788「蘭説弁惑」、「蘭国通覧」著(1798刊)
- L1839 **原澄**(げんちよう:法諱) 1752 - 1820<sup>69</sup> 近江信楽の浄土僧;常陸江戸崎檀林大念寺住、1805京の金戒光明寺49世/阿弥陀堂修復、「紫雲山縁起及縁起考」「五重本末講義」著、[原澄の法名] 清蓮社しょうれんしゃ;浄誉/生彼/国阿
- L1840 **玄朝**(げんちよう・保倉ほくら、玄竜男) 1778-1838<sup>61</sup> 越後蒲原郡白根の医者;父門、家貧しく街頭で相法・軍談;家計援助、秘薬「保倉神方」を精製;家運が上昇、施薬・救窮に尽力、「二世安楽教訓書」著、[玄朝(:名)の通称/号]通称;弁次郎、号;博愛堂/普濟庵
- L1841 **元長**(げんちよう・寺尾てらお、名;長、盛章男) 1781-1847<sup>67</sup> 丹波園部の医:京の小林順堂門、眼が不自由、本草学;小野蘭山門、1833「淵々斎夜話」編/36「蘭山七種」編(;蘭山の講義類)、[元長(;通称)の号] 柳外/柳外園/冗叟
- L1842 **玄長**(げんちよう・坂上さかがみ、名;道)?-? 江後期天保1830-44頃江戸浅草堀田原の医者、「金匱翼提要」「傷寒論講本」「薬性捷見」著、[玄長(;通称)の字/号]字;玄丈、号;趣堂/雨窓/安故堂
- L1843 **元瑠**(げんちよう:通称・松浦まつら、元瑞男) 1821-83<sup>63</sup> 播磨明石藩医/蘭医;1847洪庵門:適塾で修学、領民の治療、1849「牛痘種術書」著
- 玄長(げんちよう・千野/柳) → 尚賢(ひさかた・柳/千野せんの、医者・和算) 3 7 9 4
- 玄長(げんちよう・清水) → 浜臣(はまおみ・清水しみず、国学者/歌人) 3 6 2 4
- 玄長(げんちよう・松尾) → 雪庵(せつあん・松尾まつお、藩医/詩人) K 2 4 6 6
- 玄長(げんちよう・能条) → 保庵(ほあん・能条のうじよう、医者) 3 9 0 3
- 玄調(げんちよう・本間) → 棗軒(そうけん・本間ほんま、医者) H 2 5 0 9
- 玄暢(げんちよう・小野) → 櫟翁(れきおう・小野おの、農業/歌人) 5 1 0 8
- 元超(げんちよう:初法諱) → 天岩(てんがん:道号・道超:法諱、黄檗僧) D 3 0 2 6
- 元長(げんちよう・小笠原) → 元長(もとなが・小笠原おがさわら、武将/故実) D 4 4 5 0
- 元長(げんちよう・三好) → 元長(もとなが・三好、武将/連歌) D 4 4 5 1
- 元長(げんちよう・甘露寺) → 元長(もとなが・甘露寺かんろじ/藤原、廷臣/歌・連歌) 4 4 1 8
- 元長(げんちよう・吉川) → 元長(もとなが・吉川きつかわ、武将/歌人) I 4 4 4 9
- 元長(げんちよう・山田大路) → 元長(もとなが・山田大路ようだおおじ、神職) D 4 4 4 9
- 元長(げんちよう/もとなが・永島) → 審(しん・永島ながしま、医者/引水工事) N 2 2 2 2
- 元長(げんちよう・長島) → 元長(もとなが・長島ながしま、藩士/兵法家) D 4 4 5 7
- 元長(げんちよう/もとなが・田中) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9
- 元長(げんちよう/もとなが・鈴木) → 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師) E 1 6 9 5
- 元長(げんちよう・三間) → 元長(もとなが・三間みま、藩士・国学)) L 4 4 5 1
- 元長(げんちよう・馬島) → 元長(もとなが・馬島まじま、書家) L 4 4 2 9
- 元長(げんちよう・吉田) → 元長(もとなが・吉田よしだ、書肆/歌人) D 4 4 5 4
- 元長(げんちよう・成田) → 元長(もとなが・成田なりた、村役/国学) K 4 4 8 8

- 元兆(げんちやう・松田) → 元兆(もとよし・松田/上部、国学者) E 4 4 7 7  
元朝(げんちやう・岡本) → 元朝(もとも・岡本、藩士/日記) D 4 4 3 3  
元萇(げんちやう・佐藤) → 応渠(おうきよ・佐藤、儒/医者) C 1 4 0 8  
元昶(げんちやう;法諱) → 月岑(げっしん;道号・元昶、臨濟僧) H 1 8 1 2  
元昶(げんちやう;法諱) → 杲堂(こうどう;道号・元昶、黄檗僧) K 1 9 7 8  
元張(げんちやう・丹羽) → 太華(たいか・丹羽にわ、儒者/詩/篆刻) J 2 6 3 7  
元澄(げんちやう・青木) → 東庵(とうあん・青木/本姓;余、儒者/詩) 3 1 7 6  
元澄(げんちやう・芥川) → 思堂(しどう、芥川あくたがわ、儒者/明楽) V 2 1 2 7  
元暢(げんちやう・重浦) → 元暢(もとのぶ・重浦しげうら、医者/歌人) K 4 4 0 9  
元徴(げんちやう・蘆沢) → 元徴(もとのり・蘆沢あしざわ、国学/歌人) J 4 4 0 9  
言朝(げんちやう・大隈) → 言朝(こととも・大隈おおくま、商家/国学) Q 1 9 5 0  
原澄(げんちやう・向井) → 原澄(もとずみ・向井むかい、国学者) L 4 4 6 4  
源澄(げんちやう・源) → 為憲(ためり・源、廷臣/詩歌人) 2 6 6 9  
源澄(げんちやう・平) → 源澄(もとずみ・平たいら/桜田/丹下、藩士) K 4 4 3 6  
拳長館(けんちやうかん) → 宜応(ぎおう・毛内もうない茂肅、藩士/農政) V 1 6 4 6  
建長江(けんちやうこう、画号) → 綾足(あやたり・建部、俳/歌/戯作) 1 0 2 8  
褰帳女王(けんちやうじよおう) → 褰帳女王(とばりあげのおおきみ、平安期歌人) O 3 1 6 9  
兼直(けんちやく → ともなお・土屋) → 廉直(ただなお・土屋つちや、幕臣/記録) Q 2 6 2 3  
見直(けんちやく・辻橋) → 見直(みなお・辻橋つじはし、藩士/国学) J 4 1 7 8  
賢直(けんちやく/かたなお・星川) → 清晃(きよあきら・星川、藩士/国学者) N 1 6 0 5  
賢直(けんちやく・那須) → 賢直(よしなお・那須なす、藩士/絵師/歌) O 4 7 0 9  
建直(けんちやく・境) → 建直(たてなお・境さかい二郎/齋藤、儒者/藩教授) X 2 6 3 7  
憲直(けんちやく/のりなお?・森山) → 多吉郎((たきちろう・森山もりやま、通詞) N 2 6 8 7  
言直(げんちやく → ことなお?・ときなお?・瀬能) → 正路(まさみち・瀬能せの、藩士/国学/歌) M 4 0 7 1  
元直(げんちやく・島津) → 元直(もとなお・島津しまつ、領主/詩文) D 4 4 4 2  
元直(げんちやく・勝木) → 元直(もとなお・勝木かつき、藩士;能研究) D 4 4 4 0  
元徳(元恵げんちやく・多紀) → 元徳(もとのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医) D 4 4 8 3  
兼陳(けんちん・薬丸) → 兼陳(かねのぶ・薬丸やくまる、藩士/劍客) W 1 5 0 1  
兼陳(けんちん・東儀) → 兼陳(かねのぶ・東儀とうぎ/太秦、楽人) O 1 5 8 3  
兼陳(けんちん・広橋) → 胤定(たねさだ・広橋、廷臣/記録/歌) R 2 6 7 8  
1826 玄陳(げんちん・里村さとむら、別号;一翁、玄仍げんじやう男) 1591-1665 75 母;昌叱女、幕府連歌師、法眼、  
泉州堺住/画、後集発句集入、「競馬図巻」画、1613昌琢と「山河百韻」はじめ百韻多数、  
1618玄仲玄陳経文連歌、三十二番職人哥合絵巻?、息子;玄俊/息女;昌程しやうてい妻  
L1844 玄珍(げんちん・長沼ながぬま/初姓;野村のむら) ?-1730 周防徳山の商家の生/医者;医家長沼家の養嗣子、  
1699徳山藩馬廻格医/儒学;脇東行門/藩主毛利元次の文学、1705「徳山府記」著、  
[玄珍の別号] 道安/常庵  
C1872 元陳(げんちん/もとのぶ・田中/初姓;長崎、田中信之の養嗣子) ?-1750 幕臣;1711家宣に謁/15家督嗣、  
1718大番/23御馬預/26西城に侍す、1745息堯陳の出奔;降格、1737随筆「云波草」著  
L1845 元珍(げんちん・平岩いらいわ、元敦男) ?-1818 名古屋藩士/1786家督/93大番組/1806御納戸/11書院番、  
儒;須賀亮斎・中村習斎門/楽;豊原順秋門、1805「移易新書」/07「はらつづみ」補、  
1811「鳴鳳要略」「変嬰諸説」14「吟嚙がんべい録」、「語楽集」「刪正集」「楽名考録」「楽記集説」著、  
[元珍(;名)の字/通称/号]字;子重、通称;猿之助/重右衛門/十右衛門/猿次郎、  
号:桂圃/同人館  
源珍(げんちん) → 源賢(源憲げんけん;法諱、天台僧/歌人) B 1 8 6 6  
元珍(げんちん・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9  
元珍(玄珍げんちん・狩野) → 春湖(しゅんこ・狩野かう/黒沢、絵師) J 2 1 5 2  
元珍(げんちん・加倉井) → 了仙(りやうせん・加倉井かくらい、藩医/歌) M 4 9 0 5  
元珍(げんちん・松尾) → 元珍(もとよし・松尾まつお、酒造業/歌人) L 4 4 3 6  
元陳(げんちん・栗津) → 元陳((もとのぶ・栗津、真宗本願寺坊官) D 4 4 7 3  
元陳(げんちん・朝比奈/田井) → 元陳((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士) D 4 4 7 4

- 元陳(げんちん・不破/多賀谷)→ 環中仙(かんちゅうせん・多賀谷、和算家) R 1 5 3 9  
 元椿(げんちん;法諱) → 元養(げんよう;法諱・百拙;道号、黄檗僧/詩/画) E 1 8 5 7  
 玄珍(玄陳げんちん・馬場)→ 路丈(ろじょう・馬場ばば/馬島、医者/俳人) B 5 2 8 3  
 建通(けんつう・久我) → 建通(たけみち・久我がが/一条、廷臣/歌) E 2 6 5 3  
 兼通(けんつう・藤原) → 兼通(かねみち・藤原ふじわら、関白/歌人) 1 5 7 6  
 兼通(けんつう/かねみち・入江)→ 若水(じゃくすい・入江、商家/詩人) G 2 1 3 1  
 賢通(けんつう・鷲) → 定經(さだつね・鷲さぎ、能樂師;狂言方) I 2 0 6 6
- L1846 玄通(げんつう・前田まゑだ、名;好成、信正男)1627-8256 京の医者;1648山脇玄心門/塾長、  
 1672法橋/朝廷の典医、1652「類方纂考」、「養寿院弟子小伝」、「近世當茶法」、「治病提要」、  
 「玄牝直指録」、「百二十方」、「噬嗑(せいこく)類編」、「医匠斲輪(しよくたくりん)著、  
 追善13回忌「草洞集」(息の道通編)、前田道通元春の父、  
 [玄通(;通称)の別通称/号]通称;虎蔵/清左衛門/道通、法号;濟世院、  
 号;草洞/無求居士/生可軒/ノ翁(べつおう)/里庵/瓦墺子(がまんし)/田疇(でんちゆう)/賓宇/養節/芝昆
- 01804 玄通(げんつう・) ? - ? 江前期;医者/歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、  
 [月影の霜夜涼しき真砂には夏といふ名も消えぬべきかな](難波捨草;165/沙月忘夏)
- L1847 玄通(げんつう・浅岡) ? - ? 江中期会津の儒者;詩人、  
 1724良顕編「垂加文集拾遺」に資料提供
- L1848 玄通(げんつう・手塚てつか、名;子徹、藩医道碩男)1729-180880 弘前藩医;父門、1778-82近習医、  
 儒・財政に精通;藩政参与、「易論」「經濟通考」「經濟父子問答」「通濟考」「同々子」著、  
 [玄通(;通称)の字/号]字:独有、号;同々斎、養嗣子;玄策(東溟)
- L1849 玄通(げんつう・辻つじ、名;信古、組橋(くみはし)道順男)1746-180257 讃岐那珂郡那家村の医者;父門、  
 垂加神道;三田義勝門/1761高松で経学;菊池黄山・深井雞林門、  
 1765上京し山脇東洋医術;上田茅門・清水祥助門、産科;賀川玄悦門/鍼道;垣本鍼源、  
 1769帰郷;讃岐丸亀藩の侍医、辻元仙の養嗣;香川郡檀紙村で医業(藩医は致仕)、  
 「珠浦文集」「四国旧記」著、  
 [玄通(;通称)の幼名/号]幼名;幾治郎、号;珠浦/彭卿
- 玄通(げんつう;字) → 祐誠(ゆうじょう;法諱・字;玄明、修験僧) C 4 6 6 2  
 玄通(げんつう・井上) → 桐庵(とうあん・井上、医者/本草学) 3 1 7 8  
 元通(げんつう・八代) → 柳圪(りゅうた・八代やしろ、儒者/教育) F 4 9 1 0  
 元通(げんつう・藤) → 元通(もとみち・藤とう、歌人) K 4 4 6 9  
 彦通(げんつう・橘) → 泰(とのおる・橘たちばな、書肆/国学/篆刻) I 3 1 7 8  
 源通院(げんつういん) → 義教(よしあつ・佐竹さたけ、藩主/書画) C 4 7 1 3  
 元通院(げんつういん) → 蘭台(らんだい・大村おおむら、藩主/俳人) C 4 8 9 0
- C1873 見貞(けんてい) ? - ? 禅僧・仏心寺僧、小島法師の弟、公定公記に記あり
- L1850 顕貞(けんてい;法諱・実空じゅう;号)?-1564 浄土宗西山派僧;京東山禅林寺35世、「曼荼羅抄」著
- C1874 兼庭(けんてい・猪苗代いなわしろ、初号;兼貞、蘭叢齋、兼誼(けんぎ)男)1752-181766 伊達藩出仕の連歌師、  
 法橋/法眼、兼徳(倚松軒)の父  
 猪苗代家系譜 → 兼載(けんさい・猪苗代、連歌師) 1 8 1 3
- L1851 謙亭(けんてい・岩垣いわがき、名;信成/字;子功/通称内記)?-?天逝 江戸中期京の儒者・詩、  
 「謙亭遺稿」、岩垣竜溪の従弟
- E1896 謙亭(けんてい・小宮山こみやま/本姓;源、辻弥五左衛門守誠男)1689-177486 母;岡田俊易女、  
 小宮山友右衛門昌言の養嗣子/1711幕臣;21家督;甲斐石和代官;小金原鹿狩の準備で活躍、  
 1735(享保19)監督不行届で閉門;36赦免;小普請、儒;太宰春台門/農政・故実に通ず、  
 有職故実・歌;中院通茂門/のち冷泉為村門、野々宮定基より聞書、石野広通「霞関集」入、  
 「享保通鑑」「正界録」「田園類説」「謙亭筆記」「竜溪小説」「竜溪小説」「小宮山昌世之記」著、  
 1720「有職玉の枝」60「手習童蒙七尽」著、  
 [賤の男が隣も遠く住む里は人目まれなる小田の通路](霞関;雑965/田家人稀)  
 [謙亭(;号)の幼名/名/字/通称]幼名;源三郎、名;昌世(まさよ)、字;君延、通称;李之進(のしん)
- 謙亭(けんてい・岩垣) → 東園(とうえん・岩[巖]垣、儒/詩) B 3 1 4 9  
 謙貞(けんてい・藤浪) → 万徳(万得まんたく・藤浪ふじなみ、医者) K 4 0 7 5

- 謙貞(乾貞けんてい・小林) → 義信(よしのみぶ・小林こばやし/樋口、天文家) F 4 7 5 6  
 絹定(けんてい・小林) → 吉広(よしまさ・小林こばやし、謡/歌人) M 4 7 7 6  
 健亭(けんてい・本居) → 春庭(はるにわ・本居、国学/歌人) 3 6 3 3  
 健亭(けんてい・本居) → 信郷(のぶさと・本居もとおり、国学者) B 3 5 5 5  
 篁亭(けんてい・伊達) → 氏伴(うじとも・伊達だて、国学者) E 1 2 7 4  
 堅庭(けんてい・清家) → 堅庭(かたにわ・清家せいけ、医者/歌人) U 1 5 2 3  
 繭亭(けんてい) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0  
 憲貞(けんてい・藤田) → 憲貞(のりさだ・藤田/小松原、武道家) E 3 5 5 7
- L1852 玄提(げんてい:法諱・玉山ぎよくざん:道号、仏智大通禪師、俗姓井上) ?-1351 信州臨濟僧;無関普門門、入元8年、帰国後;南浦紹明門、無関普門(大明國師)門;法嗣、龜山天皇の邪氣祈禱、大隅志布志に大慈寺開山、「龜山歴代志」著
- C1875 彦貞(げんてい:法諱・正仲しょうちゅう:道号) ?-? 南北期臨濟僧;高山慈照門/嗣法、建仁寺靈雲因住、和泉海蔵寺住寺;1368「五灯会元」刊、建仁寺雲洞院2世/但馬安国寺住寺、「正仲和尚語録」著
- C1877 元棟(げんてい:法諱・心華しんげ:道号) 1339-? 1385存 南北期美濃の臨濟僧;頑石曇生門/嗣法、1380建仁寺後堂の首座、備前松山聖寿寺住寺、義堂周信の南禅寺入時に「江湖疏」作、「業鏡台」「心華臆断」、「心華元棟和尚詩集」著
- C1876 元貞(げんてい:法諱・松岳:道号) ?-1521 臨濟宗五山禪僧、「松岳和尚建仁入法語」著
- F1803 元貞(げんてい・太田おた、秋江) ?- ? 摂津の俳人;貞門、1657燕石「牛飼」39句入
- F1817 玄貞(げんてい・沢田さわだ) ? - ? 摂津住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、[揃大豆まめのさやけき月の影をとて人の口べにかゝる村雲](夷曲集;231十三夜の曇り空、揃大豆;不詳;枝豆か/清けきと豆の莢・口の叢雲と茹豆の湯気を掛ける)
- L1853 玄貞(げんてい・木梨きなし) ? - 1676 岡山藩の医者/郡医者、1674「医備志方鑑」著、[玄貞(;通称)の号] 蘭軒/申庵/安祐斎、養嗣子;養益
- E1842 玄貞(げんてい:法諱、字;懐閑/貞阿、号;帰西子/称;貞上人) ?-? 江前・中期真宗仏光寺派学僧、真宗浄土宗の典籍注釈を著述、1684「釈迦一代伝記鼓吹」86「選採本願念仏集本義」著、1689「安心決定鈔鼓吹」「大原談義述」/94「三界義鼓吹」1701「古今二十四孝大成」外著多数
- L1855 玄貞(げんてい:法諱、安州:道号) ?-1710 武州曹洞僧/1677甲斐大泉寺14世/1703仙台輪王寺19世、1681「碧巖録抜抄」、83「大泉寺世代年譜」/85「永平語録標指抄」著
- L1856 玄貞(げんてい:法諱、帰西子) ?- ? 1673-1711頃真宗仏光寺派学僧、1689「大原談義述」著
- L1857 元貞(げんてい、白井/初姓;白矢/本姓源) ?-? 江中期播州飾東郡木場村の史家/地理・故事・歌、1741木庭神社再興(宮司三木魚泰と)、1738「播磨名蹟志」「木庭記」「木庭大明神社記」著
- L1858 源底(げんてい:道号・道派どは:法諱、号;不識庵) ?-? 江中期越前臨濟僧;大機行休門、越前万慶寺3世、1768「峯白集」著
- L1859 玄貞(げんてい;通称、内島うちしま、名;保定/保貞) ?-? 山城の医者/古医方、1777「金匱通玄類証」-69「古方節義」著
- L1860 元貞(げんてい・小室こむろ、名;亭/字;節一、元長男) 1789-1858 70 武蔵番匠村の医者/俳人、逸淵/梅笠と親交、「会日稿物庵遺草」著、[元貞の通称/別号]通称;為一、別号;菱沼りょうしょう/物庵/桐村とうそん
- L1861 玄定(げんてい:道号・恵嶽えがく:法諱、俗姓;金) ?-1850 羽前曹洞僧;楞屋りょうおく厳公門/諸師に参禪、瑞岩寺18世/長泉寺27世、その間能登総持寺洞川庵に輪住、「青松恵嶽和尚遺稿」
- 玄貞(げんてい・原) → 南陽(なんよう・原はら、医者) 3 2 4 5  
 玄貞(げんてい・久保) → 季茲(すえいげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9  
 玄貞(げんてい・豊浦) → 元貞(もとさだ・豊浦とよら、医者/歌人) C 4 4 5 0  
 玄貞(げんてい・石川) → 良信(よしのみぶ・石川いしかわ、医者/詩人) F 4 7 7 2  
 玄亭(げんてい・山口) → 葛坡(葛坡かっぱ・山口やまぐち、詩人) N 1 5 7 8  
 玄亭(げんてい・黒柳) → 召波(しょうは・黒柳くろやなぎ/柳、詩/俳人) B 2 2 1 8  
 玄亭(げんてい・黒柳) → 維駒(これこま・黒柳、召波男/俳人) E 1 9 1 7  
 玄亭(げんてい・大久保) → 楚南(そなん・大久保、藩家老/俳人) K 2 5 2 7  
 玄亭(げんてい・高橋) → 東臯(とうこう・高橋、商家/書家/俳人) D 3 1 8 3

玄底(げんてい;字) → 日淵(にちえん;法諱/初諱日雄、日蓮僧) 3 3 7 2  
 玄禎(げんてい・伊東) → 華山(かざん・伊東いとう、儒/医者) L 1 5 7 1  
 玄禎(げんてい・志鎌/新井) → 精斎(せいさい・新井/志鎌、医者/俳人) I 2 4 2 3  
 玄諦(げんてい・田島) → 元淳(げんじゅん・田島たじま、医者/歌人) N 1 8 8 2  
 元丁(げんてい・長沢) → 東海(とうかい・長沢ながさわ、儒者) B 3 1 8 7  
 元諦(げんてい・義観) → 元諦(げんたい:法諱・義観、黄檗僧) L 1 8 5 4  
 元禎(げんてい・湯浅) → 常山(じょうざん・湯浅ゆあさ、儒者/詩歌) S 2 2 5 9  
 元禎(げんてい;法諱) → 素嶽(そがく;道号・元禎、黄檗僧) J 2 5 3 7  
 元禎(げんてい・小平) → 元禎(もとさだ・小平、詩歌人) C 4 4 5 4  
 元貞(げんてい;法名) → 公定(きんさだ・洞院とういん、左大臣/文筆家) E 1 6 0 4  
 元貞(げんてい・河野) → 読人志礼多(よみひとしれた、医官、狂歌) I 4 7 2 9  
 元貞(げんてい)音読以外は多く → 元貞(もとさだ)  
 元禎(げんてい・上林/畑) → 柳泰(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩) F 4 9 1 1  
 元定(げんてい/もとさだ・立野) → 桂山(けいざん・立野たての、儒者) E 1 8 7 2  
 元定(げんてい・小川/中西) → 元瑞(げんずい・中西/小川、藩士/医者) K 1 8 3 5  
 元定(げんてい・福原) → 元圃(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌) C 4 4 8 8  
 元定(げんてい・徳田) → 元定(もとさだ・徳田とくさだ、国学者) K 4 4 7 0  
 元鼎(げんてい・北条/永根) → 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7  
 元鼎(げんてい/もとかね・頼) → 景讓(けいじょう・頼らい、儒者) N 1 8 3 0  
 言定(げんてい・長崎) → 健(たけし・長崎ながさき、浩斎/医者/国学/歌) Y 2 6 7 0  
 言定(げんてい・長崎) → 正国(まさくに・長崎/橋、健男/医/神職) R 4 0 2 5  
 愿禎(言定/玄貞げんてい・長崎) → 浩斎(こうさい・長崎、医/蘭学/詩) I 1 9 9 4  
 健貞剛弼(けんていごうひつ) → 正英(まさひで・高山、藩家老/兵法家) G 4 0 6 9  
 硯亭墨山(けんていぼくざん、1810御伽話仇目付絵) → 墨山(ぼくざん・硯亭、絵師) D 3 9 2 7  
 → 月麿(つきまろ・喜多川、絵師) 2 9 5 9

- E1815 軒滴(けんてき) ? - ? 江戸前期、1691不角「二葉之松」入(81)
- C1878 玄的(げんてき・里村さとむら;北家、玄仍げんじょう男) 1593-1650<sup>58</sup> 母;昌叱女、幕府連歌師、後集発句集入、「桜御所千句」「漢和差合」、「玄的独吟何木百韻」「玄的独吟風庵追善百韻」著、「玄的宗因両吟百韻」、昌琢・慶純らと百韻多数、玄陳の弟、仍春の父
- L1862 玄迪(げんてき・賀川かがわ、別名;玄悦2世、岡本玄適男) 1739-79<sup>41</sup> 秋田の医者;父門、1758上京;産科医;賀川玄悦門/養嗣子;阿波徳島藩医官、賀川流産科を整備継承、1775「産論翼」、「産科并図絵」著、[玄迪の字/号]字;子啓、号;有斎
- 玄的(げんてき・吉岡) → 恕翁(じょう・吉岡よしおか、藩医) M 2 2 1 8  
 玄的(げんてき・岩佐) → 守中(もりなか・岩佐いわさ、医者/歌人) J 4 4 3 3  
 玄迪(げんてき・石川) → 定香(さだか・大鶴、医者、詩) H 2 0 8 6  
 玄適(げんてき・小野寺) → 丹元(たんげん・小野寺おのてら、医者) T 2 6 4 2  
 乾惕斎(けんてきさい) → 乾斎(けんさい・三浦みづら、医者/詩人) I 1 8 9 1
- E1843 顕喆(けんてつ・景先けいせん) ? - ? 江中期臨濟僧/漢学;梅莊大典[1719-1801]門
- L1863 元哲(げんてつ;通称・西にし、名;規矩/規弘、玄甫男) 1681-1760<sup>80</sup> 蘭方外科医/1747幕府奥医師、1735オランダ流外科書「金瘡跌撲療治之書」著、杉田玄白の師
- L1864 元哲(げんてつ;号・大高おおたか、名;原性、東榮男)?-1838 加賀藩江戸詰医者;1814家督/22加増、1804「古今医者目録」編、「和蘭雷説」「漢土歴代医家姓氏」著、「三材韻府標目」訳
- 元哲(げんてつ・藤原) → 為基(ためもと・藤原/京極、歌人) H 2 6 5 4  
 元哲(げんてつ・木村) → 逸志(いっし・木村・笠家、俳人) B 1 1 4 3  
 元哲(げんてつ・初法諱) → 啄洞(たくどう;道号・玄機;法諱、臨濟僧) O 2 6 1 4  
 源徹(げんてつ・石川) → 喜常(きつね・信田しのだ、狂歌作者) L 1 6 5 1  
 元典(げんてん・竹尾/石野) → 万彦(まひこ・佐々木/石野、幕臣/歌人) L 4 0 0 0  
 元伝(げんてん・丸岡) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書家) S 4 0 7 8  
 硯田舎(けんてんしや) → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1

- 硯田農夫(けんてんのうぶ) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
- L1865 玄登(げんと;字・高志たかし、名;心海/号;鳳翼)?-? 江中期大阪の整骨医、  
1746「骨継療治重宝記」57「医学童子問」  
元度(げんと/もとのり?・名村)→ 五八郎(ごはちろう・名村たむら、阿蘭陀通詞) N 1 9 4 9  
元度(げんと・友石) → 慈亭(じてい・友石ともいし、農業/儒者) V 2 1 2 1  
玄度(げんと・山梨) → 稻川(とうせん・山梨やまなし、漢学者/音韻) 3 1 1 9  
言度(げんと・倉科) → 希言(まれこと・倉科くらしな、歌人) P 4 0 4 6
- C1881 賢桃(堅桃けんとう・岡田おかだ、名;重隆or重季?、重篤男/本姓源) 1494-? 1564存 尾張小幡の武家、  
織田信秀家臣/連歌:1526宗文孝汶と三吟「何路百韻」/44下向中の宗牧を那古野で出迎、  
1560熱田千句参加、のち信玄の御伽衆、犬筑波入  
[賢桃(;号)の通称] 与十郎
- C1882 賢等(けんとう) ? - ? 戦国期連歌師、  
1537.5.22能親張行「伊予千句」:追加百韻発句
- B1868 見桃(けんとう・古林ふるばやし、名;長喬/字;子高/号;知足)?-? 古林見宜の養嗣子、江中期京の医者、  
1743「宝餌正規」57「杏林筆談」72「医療歌配剂」、「万病療治指南」「しのぶ草」著
- L1866 軒東(けんとう・錦森堂きんしんどう・土屋つちや)?-? 江後期江戸馬喰町の書肆錦森堂主人、  
戯作者:1789「臭気靡放屁倉栄」著、  
[錦森堂軒東の通称] 森屋治[次]兵衛/森治  
乾瞳(けんとう;法諱・暘谷)→ 暘谷(ようこく;道号・乾瞳、臨濟僧) 4 7 8 0  
頭騰(けんとう;法諱) → 竺雲(じくうん;道号・頭騰、臨濟僧) G 2 1 2 2  
頭統(けんとう・北畠) → 頭統(あきむね・北畠、南朝廷臣/歌人) 1 0 8 4  
賢陶(けんとう・矢沢) → 賢陶(まさすえ・矢沢/滋野、庄屋/詩歌) C 4 0 8 4  
兼当(けんとう/かねまさ?・福嶋)→ 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2  
兼当(けんとう・東儀/太秦)→ 兼当(かねまさ・東儀とうぎ、楽人) O 1 5 9 2  
兼冬(けんとう・一条) → 兼冬(かねふゆ・一条、廷臣/関白/歌) D 1 5 0 4  
権頭(けんとう・齋藤) → 操(みさお・齋藤さいとう、神職/国学者) J 4 1 1 6  
見桃(けんとう;号) → 明幢(みょうどう;法諱・桂巖、黄檗僧) G 4 1 6 3  
見桃(けんとう・水野) → 良紀(よしのり・水野みずの、国学者) P 4 7 3 3  
建冬(けんとう・巨勢) → 建冬(たけふゆ・巨勢こせ、国学者) E 2 6 5 0
- L1867 建幢(けんどう;法諱・南宗なんしゅう;道号)?-? 1423存 臨濟僧;中巖円月・此山妙在・石室善玖門、  
山城安国寺住寺/建仁寺96世、「中巖月和尚自歴譜」補
- L1868 謙道(けんどう;道号・宗設そうせつ;法諱)?-? 戦国期1504-28頃臨濟僧;入明僧;渡来人説あり、  
1511正使了庵桂悟の遣明船に居坐として乗船入明/23大内氏派遣の遣明正使として出船;  
寧波到着後に細川氏派遣船と対立し寧波の乱に発展、帰国後明より宗設の身柄引渡要求;  
室町幕府は要求を拒否、1525「中国描談」著
- E1897 謙堂(けんどう・篠岡ささおか、名;重遠/利貞、平七郎重頼男) 1673-1739 備前岡山藩士;父に随従京住、  
武道/儒者;市浦毅斎・小原大丈軒門/1712学校兼御廟奉行/27学校奉行専任/岡山藩督学、  
1735作廻方、「和漢忠賢良謀集」「余吟抄」「自笑雑記」「玉屑」著、  
[謙堂(;号)の通称] 次郎七郎
- L1869 見道(けんどう・糸岐庵) ? - ? 大阪の俳人:1773几董「明鳥」/76「続明鳥」入  
[あとへ飛ぶ心は持たぬかはづ哉](続明鳥:甲43)
- L1870 憲幢(けんどう;道号・威烈いれつ;法諱) 1759-1829 筑後上妻郡本分村臨濟僧;梅林寺9世、  
禅画の仙厓せんがい義梵と親交、1823「故郷話」著
- L1871 賢幢(けんどう;法諱・浄月庵;号)?-1843 金沢真宗大谷派西方寺住職、1818-高倉学寮で講義、  
1830高倉学寮擬講、1838「易行品聴記」、「易行品質記」「歎異鈔講義」「阿弥陀経講義」著
- L1872 研堂(けんどう・星ほし、名;猷訓/孚、清猷[俊蔵]男) 1793-1869 会津藩士/儒;藩校日新館修学、  
書家;滝本流;内田近明門/加賀屋磐梯門、藩の右筆/藩校日新館教授(:書)、「草書格」編、  
[研堂(;号)の字/通称]字;行尚、通称;俊吾
- N1887 見道(けんどう;法諱・長尾ながお、) 1802-1890 近江坂田郡の光常寺住職、  
歌人:[鳩のうみ]入

- E1898 **謙堂**(けんどう・冢田/塚田つかた、名; 愿、渡辺美綱男) 1804-68 刑死 65 儒者; 冢田大峯門/1827大峯養嗣、1841尾張藩校明倫堂教授/47弘道館総裁兼任/明倫堂督学/62書物奉行、68政変に連座、1809-32「大峰先生詩集遺稿」編、「孟子解」「謙堂詩草」「謙堂文集」「黄梁小記」「韓子集考」著、[謙堂の字/通称/別号]字; 季愨きかく、通称; 愨四郎、別号; 雄鳳、妻は冢田秀(大峯男)女
- L1873 **謙堂**(けんどう・渡辺わたなべ、通称; 兵次、兵吉男) 1809-55 47 遠州引佐郡金指町紙商/和算: 原田能興門、1841小松鈍斎門/42見題免許状を受/測量、1854「遠江小凶」著、1855「自御油宿至天龍川之間今切渡本坂越兩道案内之凶」著
- L1874 **謙堂**(けんどう・池田いけだ、名; 定礼/字; 士達) 1811-61 51 伊勢津藩士/経学; 斎藤拙堂門、藩校句読師、典籍、「聿修録」校合、「猷芹録」「四方訓」「芻蕘新語」著、妻; 川北梅山の妹
- N1892 **顕道**(けんどう; 法諱・藤浪ふじなみ、) 1824-91 68 出羽新庄の性頓寺(真宗大谷派)住職
- L1875 **乾堂**(けんどう・小曾根こそね、名; 豊明、六左衛門竹影男) 1828-85 58 長崎の書家; 春老谷・楊覚三門、篆刻: 大城石農門、江戸で越前屋御用商人、1859長崎小曾根町を埋立て外国人居留地造成、1871勅命で国璽・御璽を石刻/伊達宗城に随従し天津で日清修好条約規文を書、1849「乾堂印譜」編 [乾堂(;)号)の字/通称/法号]字; 守辱、通称; 六郎太/六郎/栄、法号; 大器院
- L1876 **謙堂**(けんどう・宍戸ししど、名; 富隣) ?-1882 仙台藩士/1842頃江戸お玉ヶ池で易学/家相、1846「相宅知天鏡」、「家相改正図誌」「方位明鑑」著、[謙堂の字/通称/別号]字; 貴徳、通称; 頼母たのも、別号; 東易館/貞廬
- N1865 **謙道**(けんどう・岡田おかた、) 1836-1889 54 石見の医者; 長門萩藩医宮城家門、萩で医を開業/儒; 馬島春海門/国学; 近藤芳樹門、山口神道院教師、防府松崎天満宮祠官
- 見道(けんどう・小森/伊良子) → 道牛(どうぎゅう・伊良子、外科医) C 3 1 7 2
- 兼道(けんどう・浄勝寺) → 順藝(じゅんげい; 法諱、真宗大谷派僧/歌) J 2 1 4 6
- 研堂(けんどう・宍戸) → 政彝(まさつね・宍戸ししど、商家/和算家) E 4 0 1 6
- 研堂(けんどう・西川) → 永年(ながとし・西川にしかわ、医者) O 3 2 2 2
- 硯堂(けんどう・福羽) → 美静(びせい/よしず・福羽ふくば、藩士/国学) C 3 7 4 2
- 乾堂(けんどう・河村) → 益根(ますね・河村、秀根男/儒・国学者) J 4 0 1 2
- 乾堂(けんどう・石田) → 未徳(みとく・石田、俳人/狂歌) 4 1 3 3
- 乾堂(けんどう・篠原) → 善富(よしとみ・篠原しのはら、和算家) E 4 7 9 9
- 乾堂(けんどう・上領) → 頼軌(よりのり・上領かみりょう/藤井、藩士/詩) J 4 7 4 7
- 乾堂(けんどう・佐竹) → 義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図) K 4 7 3 5
- 絢堂(けんどう・長谷川) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
- 絢堂(けんどう・溝口) → 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6
- 絢堂(3世けんどう・横山) → 徳布(とくふ・横山、俳人) L 3 1 3 1
- 絢堂(けんどう・関根) → 白芹(はつきん・関根、旅宿業/俳人) F 3 6 1 6
- 謙堂(けんどう・深川) → 湖十(初世こじゅう、俳人) 1 9 3 1
- 謙堂(けんどう・安光) → 南里(なんり・安光やすみつ、庄屋/儒者) J 3 2 6 3
- 謙堂(けんどう・安西) → 赤松(せきしょう・安西あんざい、鑑定家) K 2 4 2 0
- 謙堂(けんどう・大館) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
- 謙堂(けんどう・岩本) → 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人) N 4 0 8 6
- 謙堂(けんどう・萱野) → 照載(ひろのり・萱野かやの、藩士/国学)) J 3 7 1 1
- 謙堂(けんどう・広田) → 執中(もりなか・広田ひろた、藩士/勤王) L 4 4 1 6
- 賢道(けんどう・長坂) → 賢道(かたみち・長坂ながさか、儒医) V 1 5 2 6
- 権道(けんどう・岡田) → 米仲(べいちゅう・岡田、俳人) 2 7 7 1
- 顕道(けんどう・勸修寺) → 顕道(あきみち・勸修寺かじゅうじ、廷臣) D 1 0 9 3
- 顕道(けんどう; 字) → 敬光(けいこう; 法諱・顕道、天台僧) F 1 8 5 7
- 顕道(けんどう・小川) → 顕道(あきみち・小川、医者) D 1 0 9 5
- 顕道(けんどう・荒井) → 顕道(あきみち・荒井、幕臣/代官) F 1 0 8 2
- 健道(けんどう・古賀) → 朝陽(ちやうよう・古賀、儒者/詩文/医者) K 2 8 0 6
- 憲道(けんどう・木下) → 憲道(のりみち・木下きのした、歌人) G 3 5 8 6
- 鵠堂(けんどう・古森) → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人1780-1844) I 2 2 7 0

- C1880 **玄棟**(げんとう・沙弥) ? - ? 室町期・近江天台僧;叡山学僧or念仏権化僧?、説話編纂者、1431(永享3)「三国伝記」著、「弘法大師伝」編
- N1877 **玄東**(げんとう;法諱・号;懶翁) 1613-7664 臨濟僧;豊後常濟寺に住、のち伊予天徳寺住、歌人
- L1877 **玄桐**(げんとう;名・井上いのうえ、号;把翠、通称;寺井玄東)?-1702 京の医者;曲直瀬まなせ道三系、1682徳川光圀に近侍/光圀没後帰京、能書家、「寺井玄東詩」「井上玄桐手抄」「宗像記考」著、「玄桐秘録」、1682「一如上人東遊日記」/1701「玄桐筆記」著、01「洪武聚分韻」補
- F1806 **玄東**(げんとう・西にし、医者清庵男/玄周の孫)?-1705 豊前小倉藩医;父門/山城の元政門、法橋、「菓山百詠」著、  
[玄東(;通称)の号] 鶴峯/木犀堂
- L1878 **元棟**(げんとう;法諱・竜統りょうとう;道号、俗姓志方) 1663-174684 大阪黄檗:慧極門/萩東光寺6世、万福寺14世:初の和僧住職、退任;自ら中興開山の和万願寺隱棲、「竜統禅師黄檗語録」著
- L1879 **元東**(げんとう;法諱・海門かいもん;道号、俗姓平田)?-1759 武蔵塚原臨濟僧;大岑/古月禅材門、武州長徳寺住持/鎌倉建長寺197世、「海門元東和尚語録」著
- L1880 **玄透**(げんとう;道号・即中そくちゅう;法諱、俗姓今井) 1729-180779 尾張曹洞僧;頑極門、1795永平寺50世;伽藍復興/道元清規を復興/正法眼蔵開板、曹洞宗中興、「応用清規」「永平高祖行実紀年略」「新学須知」「永平小清規」「空華随筆拔書」著、「玄透禅師語録」「玄透即中和尚語録」外著多数、  
[玄透即中の号] 空華庵くうげあん/断楽道人/玄野翁/洞宗宏振禅師
- L1881 **玄統**(げんとう・有山ありやま、別名;統)?-? 1793存 京の心学者;手島堵庵門、師の口述を筆記、歌、1771「半談随筆」/80「朝倉新語」/85「静座儀」、「教のかなめ」著、澄月80歳の賀歌を詠、  
[玄統(;名)の通称/号]通称;新兵衛、号;蕙圃けいぼ、屋号;近江屋
- L1882 **元棟**(げんとう・吉原よしはら、字;隆仙/号;杏蔭斎)?-1800 長崎の拳法家、拳法による正骨法の研究;整骨科医の祖と称される、「杏蔭斎正骨術」「整骨図」著、吉雄耕牛・二宮献らの師
- L1883 **玄塘**(げんとう・丹羽にわ/村上、名;信義/通称;新一/別号;梅亭) 1773-183159 尾張藩士、尾張藩川並奉行所調役、1800(寛政12)丹羽家を相続、郷土史家;郷土資料収集、「塘叢」「通艸稿」「潜蔵国書」著、「国記叢」編
- L1884 **玄東**(げんとう・山崎やまさき、名;章)?-? 江後期京の蘭学/蘭医;藤林普山門、蘭書翻訳、1837「用薬撮要」/49「種痘説」、「女科良方」「分析提要」著、「遠西麻弗利伽宇産科書」訳、  
[玄東(;通称)の字/号]字;君達、号;東阜
- 玄棟(げんとう;法諱) → 松蔭(しゅういん;道号・玄棟、臨濟僧) G 2 2 7 9
- 玄東(げんとう・富永) → 正翼(まさげ・富永、医/漢学) C 4 0 7 6
- 玄東(げんとう・相沢) → 大味(だいき・相沢、医者/詩人) L 2 6 0 6
- 玄東(げんとう・寺井、詩) → 玄桐(げんとう・井上いのうえ、医者) L 1 8 7 7
- 玄東(げんとう・二階) → 道一(みちかず・二階にかい/白上、藩医/歌) K 4 1 0 2
- 玄当(げんとう・伊東) → 見龍(けんりゅう・伊東いとう、藩医者) M 1 8 8 1
- 玄陶(げんとう・山脇) → 東門(とうもん・山脇、医者/俳) H 3 1 4 3
- 玄陶(げんとう・木下) → 順斎(じゅんさい・木下/藤原、医者) K 2 1 7 4
- 言当(げんとう・岡本) → 个庵(こあん・淀屋、商家/歌/連歌) H 1 9 0 3
- 元騰(げんとう;法諱・竜山) → 竜山(りょうざん;道号・元騰、黄檗僧) H 4 9 7 0
- 元統(げんとう;法諱・衝天) → 衝天(しょうてん;道号・元統、黄檗僧) L 2 2 0 8
- 元統(げんとう・三輪田) → 高房(たかふさ・三輪田みわた、和漢学/神職) Z 2 6 7 2
- 元東(げんとう・河/河村) → 春恒(はるつね・河村かわむら、医者) G 3 6 5 3
- 元東(げんとう・栗本) → 丹洲(たんしゅう・栗本/田村、医/博物学) I 2 6 8 2
- 元等(げんとう・神谷) → 元等(もととも・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 2
- 元藤(げんとう/もとふじ・松田) → 宗岑(そうしん・松田まつだ、鷹匠) I 2 5 0 3
- 阮塘(げんとう・菅原) → 洞斎(とうさい・菅原、絵師/鑑定家) E 3 1 2 2
- 巖稻(げんとう・竹内) → 健雄(たけお・竹内たけうち、幕臣/国学者) O 2 6 2 7
- C1879 **彦洞**(げんとう;法諱・明叟みんそう;道号、洞院実遠男)?-1430? 京の臨濟僧;太清宗渭・蘭洲良芳門、蘭洲の法嗣/1432建仁寺150世、1447南禅寺163世、「弘宗定智禅師語録」編、「明叟和尚語録」著

- L1885 **玄道**(げんどう;法諱・連积坊;号)?-?1495存 天台叡山横川僧/靈山院or神藏院住、  
連歌:新撰菟玖波集入
- L1886 **玄堂**(げんどう;道号・元要げんよう;法諱、俗姓;鶴田)1656-9035 肥前黄檗僧:報恩寺洞雲門、  
柳川の鉄文てつもん道智門;嗣法、1676万福寺で修行/鉄文没後に筑後柳川の福巖寺住持、  
「鉄文禪師全録」「鉄文禪師語録附行状」編、「福巖玄堂禪師遺稿」
- L1887 **元道**(げんどう;通称・星野ほしの、名;友尚/号;蘭陰堂)1656-173075 星野友信の養子/1680秋田藩士、  
医者;吉原蘇庵門/道三流李朱医方;1685今大路延寿院門(;藩命)/90側医、詩歌、  
「蘭陰堂文稿」著
- L1888 **玄道**(げんどう・清せい、名;履)?- ? 詩人、1758「兼葭堂会稿」64「名流春遊編」65「混沌社吟稿」入
- L1889 **玄同**(げんどう;号・横井よこい、名;聡/通称;瀨真)?-? 江中期摂津脇浜村の医者、  
1779-82「仲景方詁」、「脉証述」「薬述」著
- L1890 **玄道**(げんどう・西山にしやま、伊藤磯右衛門長救男)1752-1843長寿92 美濃可児郡久々利村の医者、  
母;美濃兼山の医者西山養節女の里農/1764母の実家の養子/医;養父門・石川香山門、  
1784頃名古屋七間町で医開業/呉服町に転住、本草;水谷豊文門、儒/詩に通ず、  
文化1804-18頃御目見得医より御用懸に選出、1834「西山養節養子離縁内願書」著、  
[玄道(;通称)の名/号]名;清貞、号;松隠、法号;杏嶽浄林居士
- L1891 **玄同**(げんどう・田子たご)1766 - 184075 上州勢多郡津久田の医者、詩/歌/俳諧を嗜む、  
「言志録」「日興雑録」著、  
[玄同(;通称)の号] 若恒子/胡湛、碧秋水[玄同]の父
- L1892 **玄同**(げんどう・田子たご、玄同[胡湛]男)?-1866 上州勢多郡津久田の医;父門/西洋医学;長崎遊学、  
詩/俳諧に長ず、「続言志録」著、  
[玄同(;通称)の号] 碧秋水/快庵/不可美
- L1893 **玄洞**(げんどう;号・川端かわばた)?- ? 江後期1804-18頃但馬の医者、  
1812藤林普山・小森玄良らの人体解剖に立ち合い記録;「解観筆記」「解観大意図譜」
- L1894 **玄道**(げんどう) ? - ? 江後期1818-30頃江戸浅草寺天台僧、  
1826「彼岸通俗辨」著
- L1895 **玄洞**(げんどう・竹内たけのうち、名;正幹/幹、玄立男)1805-8076 加賀の医者/叔父竹内玄秀の養子、  
実父は大聖寺藩医・養父は越前丸岡藩医、蘭医:京の藤林普山門・長崎のシーボルト門、  
1833丸岡藩侍医/幕府の蘭書翻訳手伝/1858幕府の初代洋方内科医;家定の侍医、法印、  
1863西洋医学所取締/失明し致仕、「別里別里」著、「眼科発蘊」校訂、  
[玄洞(;通称)の幼名/字/号]幼名;麒麟太/騏驎太、字;士幹、号;渭川院/西坡/風香
- C1884 **玄道**(げんどう/はるみち・矢野やの、道正男)1823-8765 伊予喜多郡阿蔵村の儒者;日下陶溪門、  
1845上京;順正書院に修学・昌平齋入/国学:伴信友門・平田篤胤没後門、51京住;国学講義、  
王政復古活動/1863神祇伯白川家の学頭/67吉田家学頭、史書校訂・注釈、1844「五十崎史」、  
1862「正保野史」「七箇条鏡草」/63「玉鉦物語」、「神典翼」「玉鉦歌集」「梅花集」外著多数、  
[玄道(;名)の幼名/字/号]別名;敬遠/真弓、字;子清/太清、通称;茂太郎/谷九郎、  
号;谷蟻たにく/谷俱久/天放散人/後楽閑人/神皇旧臣/神臣/扶桑真人倚松/倚梅堂/梅廼  
舎、  
諱(神号);稜威之道別命
- L1896 **玄道**(げんどう・鈴木すずき、名;豊)1824?-187855? 尾張犬山藩士/代々藩医、医;林良益門、  
儒;戸田勉室・秦松洲門、国学;市岡和雄門/西洋医;飯沼慾齋門/帰郷;医開業、  
犬山藩校敬道館助教/教授、「鈴木玄道薬方」著、  
[玄道(;通称)の幼名/字/法号]幼名;睦太郎、字;韭卿きゅうけい、法号;紀水院
- L1897 **玄道**(げんどう・清川きよかわ/多峯、名;孫、清川靄墩男?)1838-8649 母;柴田芸庵妹道子、  
一時多峯と改姓、江戸の医者・漢学者;伊沢榛軒・柏軒門、1862日本橋で医開業、  
漢方医学主唱;温知社副都講、  
1858「榛軒詩存」編/59-61「清川菖軒詩文稿」、「切磋雑識」「清川菖軒詩稿」著、  
[玄道(;通称)の字/号]字;念祖、号;菖軒
- L1898 **玄堂**(げんどう) ? - ? 江後期尾張俳人:梅間[1773-1849]門、  
1850「梅影集」編

- L1899 **原道**(げんどう・野崎のさき) ? - ? 江戸期常陸土浦藩士/武術家、  
新心流[関口流]武術;鈴木杢右衛門友仁門、友仁「新心流柔伝書」注
- 玄同(玄洞げんどう・菅原/土師/鎌田)→ 得庵(徳庵とくあん・菅かん、儒者) K 3 1 4 1
- 玄同(げんどう・山田) → 凶南(となん・山田、幕府医官/漢学者) O 3 1 5 9
- 玄洞(げんどう・箕浦) → 靖山(せいざん・箕浦/佐々木、藩士/儒者) B 2 4 7 5
- 玄洞(げんどう・杉山) → 維敬(これたか・杉山すぎやま、本草家) O 1 9 4 3
- 玄道(げんどう;法諱・妙観)→ 妙観(みょうかん:道号・玄道、曹洞僧) G 4 1 2 7
- 玄道(げんどう;字) → 慈観(じかん;法諱・玄道、新義真言学僧) B 2 1 4 3
- 玄道(げんどう・草川) → 綱忠(つなただ・草川、藩士/能書/教育) B 2 9 1 1
- 玄道(源道げんどう・芦原)→ 英俊一(えいしゅんいち・芦原、医者;鍼医) C 1 3 9 6
- 玄道(げんどう・高島) → 玄札(げんさつ・高島たかしま、医者/俳人) B 1 8 8 8
- 玄道(げんどう・松本) → 柳斎(りゅうさい・松本まつもと、国学者/歌) E 4 9 0 3
- 玄道(げんどう・土生) → 玄碩(げんせき・土生はぶ、眼科医) K 1 8 5 1
- 玄道(げんどう・山本) → 忠告(ただり/ただつぐ・山本/加賀美、神職) Q 2 6 4 2
- 玄道(げんどう・賀川) → 文煥(ぶんかん・賀川かがわ/源、産科医) E 3 8 9 3
- 玄堂(げんどう;号) → 公弁法親王(こうべんほっしんのう、天台座主) B 1 9 9 1
- 元洞(げんどう・西田) → 惟明(これあき・西田、藩士/医者) O 1 9 1 0
- 元道(げんどう/もとみち・安見)→ 晩山(ばんざん・安見やすみ、幕府儒官) H 3 6 8 6
- 元道(げんどう/もとみち・高田)→ 五棟(ごとう・高田たかた、医者/俳人) N 1 9 2 1
- 元道(げんどう・山本) → 忠告(ただり/ただつぐ・山本/加賀美、神職) Q 2 6 4 2
- 元道(げんどう・中村) → 元道(もとみち・中村なかむら、商家/町役/国学) K 4 4 8 0
- 元道(げんどう・菅原) → 元道(もとみち・菅原すがわら、修験/絵師) K 4 4 1 5
- 茲堂(げんどう;別号) → 雪巖(せつがん;号・実順、僧/詩人) E 2 4 1 1
- 言道(げんどう・大隈) → 言道(こともち・大隈、商家/歌人) 1 9 3 8
- 弦堂(げんどう・宮原) → 炳友(あきとも・宮原みやはら、儒者/歌人) L 1 0 6 1
- 還道(げんどう;法諱・大円)→ 大円(だいえん:道号・還道、曹洞僧) J 2 6 2 5
- 謙頭庵(けんとうあん) → 令徳(りょうとく・鶏冠井かえでい、俳人) 4 9 2 2
- 阮東郭(げんとうかく;阮は修姓)→ 東郭(とうかく・菅沼、儒/医者) C 3 1 0 9
- 原道館(げんどうかん;塾名)→ 有通(ありみち・林はやし、国学;尊攘思想) F 1 0 8 1
- 玄冬斎(げんとうさい) → 雪麿(雪丸ゆきまる・下溪主人、俳人) F 4 6 6 3
- 1827 **遣唐使親母**(けんとうしのはは) ? - ? 奈良期733遣唐使船出発時に旅立つ子への贈歌、  
万葉集卷九・1790長歌、1791反歌、  
[旅人の宿りせむ野に霜降らば 我が子羽はぐくめ天の鶴群たむら](万葉集;九相聞1791)
- 憲道人(けんどうじん) → 千如(せんによ;法諱、沢村、天台僧/歌) O 2 4 1 5
- 絢堂素丸(けんどうそまる) → 素丸(初世そまる・長谷川、俳人) 2 5 2 9
- 玄同陳人(げんどうちんじん) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
- C1885 **兼徳**(けんとく・猪苗代、倚松軒いしょうけん、兼庭男)?-? 京の連歌師、法橋、伊達藩に出仕、兼道の父
- M1800 **建徳**(けんとく;字・武川たけがわ、名;幸順/号;南山、幸哲[元順]男) 1725-8056 京医者:堀景山門、  
小児科医、室町四条で開業/東宮の侍医/法眼、1754本居宣長の医術の師、「与頼千秋書」著
- 儉徳(けんとく・田中) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9
- 儉徳(けんとく・上田) → 槐堂(かいどう・上田うえだ、儒者) I 1 5 9 9
- 謙徳(けんとく・武者小路)→ 縁光(よりみつ・武者小路むしやのこうじ/藤原、権大納言/連歌) J 4 7 8 0
- 謙篤(けんとく・六車) → 杏陰(きょういん・六車むぐらま、藩士/医者) N 1 6 1 9
- 賢篤(けんとく・億岐) → 幸生(さちなり・億岐おき、国造/神職/歌) O 2 0 1 0
- 建得(けんとく・畑中) → 建得(たけり・畑中たなか/齋藤、藩士/連歌) Y 2 6 9 9
- 憲徳(けんとく・吉田) → 維通(これみち・吉田よしだ、医者) O 1 9 8 7
- 見徳(けんとく・黒田) → 庸行(つねゆき・黒田くろだ、絵師/往来物) E 2 9 1 9
- M1801 **元徳**(玄德げんとく・人見ひとみ/修姓;野、名;賢知、友徳男/本姓小野) 1604-8481 京の小児科医;父門、  
1621禁裏の医師/37皇子治療;法橋/41将軍世子家綱の侍医、大蔵卿法印、1674致仕、  
「増補小長医編」編、卜幽軒の弟、竹洞[鶴山]・必大ひつだいの父、

[元徳(；通称)の別通称/号]別通称；七蔵/又七郎、号；瑞祥院

M1802 **玄徳**(げんとく；字・石原いしはら、名；宜保、松永武明男)1718-8265 幼時に石原(本姓藤原)家養嗣子、大阪で開業医、「医門則機貫」/1761「望門則」著

M1803 **玄徳**(げんとく・石川いしかわ、一橋家医官玄常男)?-? 医者；父門、1794蘭医官ケルレルと面談、「西客対話」「星野医譚」著

元徳(げんとく・多紀) → 元徳(もとのり・多紀たき/丹波、幕臣/奥医) D 4 4 8 3

元徳(げんとく・村山) → 自伯(じはく・村山むらやま、幕臣/医者) V 2 1 4 7

元徳(げんとく・橋たちばな、医者) → 照道(てるみち・生花斎せいかさい、狂歌) C 3 0 9 7

元徳(げんとく・岸/中山) → 琴主(ことぬし・中山/岸、音曲/八雲琴祖) F 1 9 8 1

元徳(げんとく・油井) → 大壑(たいがく・油井ゆい、儒者) J 2 6 4 6

元徳(げんとく・勝田) → 元徳(もとのり・勝田かつた/藤原、歌人) I 4 4 9 5

元徳(げんとく・毛利) → 元徳(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6

元徳(げんとく・稲川) → 好徳(よしのり・稲川いながわ/水野、家老/歌) L 4 7 5 9

元篤(げんとく・村上) → 松堂(しょうどう・村上むらかみ、絵師) R 2 2 6 2

玄得(げんとく；字) → 日耆(にちぎ；法諱・園妙院、日蓮僧) B 3 3 2 2

玄徳(げんとく・岡部) → 梅林(ばいりん・岡部おかべ、医者) C 3 6 2 7

玄徳(げんとく・愛甲) → 喜春(きしゅん・愛甲あいこう、医者/儒) K 1 6 8 5

顕徳院(げんとくいん) → 後鳥羽天皇(ごばてんのう、承久乱/歌人) 1 9 3 7

顕徳院(げんとくいん) → 義堯(よしたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2

顕徳院(げんとくいん) → 泰統(やすむね・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 9

建徳院(げんとくいん；法号) → 昌胤(まさたね・相馬そうま、藩主/歌人) Q 4 0 4 3

憲徳院(げんとくいん；法号) → 忠徳(ただのり・本多ほんだ、藩主/藩校設) Q 2 6 4 7

賢徳院(げんとくいん；法号) → 忠直(ただなお・水野、藩主) Q 2 6 2 2

賢徳院(げんとくいん；法号) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1

謙徳院(げんとくいん；法号) → 重熙(しげひろ・前田/菅原、藩主/歌人) S 2 1 4 6

謙徳院(げんとくいん) → 立庵(りつあん・奥山おくやま、医者/歌人) M 4 9 5 5

乾徳院(げんとくいん；法号) → 吉里(よしさと・柳沢/源/松平、藩主/歌) D 4 7 4 1

元徳院(げんとくいん・聖翁文心) → 治憲(はるのり・上杉、藩主/儒者) G 3 6 7 1

源徳院(げんとくいん) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5

源徳院(げんとくいん) → 忠奮(ただひろ・本多ほんだ、藩主) Q 2 6 7 1

謙徳公(げんとくこう) → 伊尹(これまさ・藤原、摂政太政大臣/歌) 1 9 4 7

謙徳公北の方(げんとくこうきたのかた) → 恵子女王(けいしにょおう) 1 8 6 6

E1844 **乾篤軒**(げんとくけん) ? - ? 江中期儒者/漢文笑話、1755「笑話出思録」編

見独子(げんどくし) → 以仙(いせん・山崎/高滝、俳人) B 1 1 0 3

玄鋤(げんとく；法諱) → 斧山(ふざん；道号・玄鋤、曹洞僧) G 3 8 8 6

玄訥(げんとく・久保) → 長秋(ながあき・久保寿軒、医/国学) D 3 2 1 3

兼敦(げんとく・ト部) → 兼敦(かねあつ・ト部/吉田、神職) C 1 5 6 8

釵阿(げんあ・明忍房) → 釵阿(げんあ、真言僧) B 1 8 1 6

顕阿(げんあ；法諱) → 顕阿(げんあ/けんあ；法諱、南北期僧/歌) B 1 8 1 7

E1845 **源内**(げんない・勅使川原てしがわら)?-? 江戸期の講釈師、大和非人仇討を得意

E1846 **源内**(げんない・沢田さわだ、喜太郎)?-? 江前期近江雄琴の人、1669「和論語」、「大系図」「足利治乱記」

1828 **源内**(げんない・平賀ひらが、名；国倫くにとも、白石良房男)1728-79獄死52 1749家督；讃岐藩志度浦蔵番、本草；桑閑・藍水門、儒；黄山門、物産/企業、発明；火浣布製作/羅紗試織、エレキテル復原模造、鉱物調査、「物類品鑑ひんしつ」、談義/浄瑠璃/戯作；自由奔放な文体；平賀ぶり；「風流志道軒伝」、「根南志具佐」「放屁論」「里のをだ巻評」、浄瑠璃「神霊矢口渡」著、1779誤って殺人/獄中病死  
[喰て糞はこして寝て起て死んで仕舞ふ命と知りながら

めったに金を慾ほがる人情は唐も大倭も昔も今も易かわることなし](根南志具佐)

[源内の字/号]字；子彝、号・(談義名；)風来山人・天竺浪人、(浄瑠璃名；)福内鬼外・松籟子、(俳名；)李山、鳩溪/無根叟/古今独歩我慢坊/紙鳶堂/悟道軒/渭滄浪/安天星名

源内(げんない・有馬) → 白嶼(はくしよ・有馬ありま、儒者/詩) D 3 6 3 2

- 源内(げんない・肥田) → 行正(ゆきまさ・肥田ひだ、藩士/歌人) H 4 6 5 3  
 源内(げんない・伊藤/関) → 思恭(しきょう・関せき/伊藤、書家/藩士) B 2 1 6 2  
 源内(げんない・朝枝) → 一貫(かずつら・朝枝あさえだ、藩士/歌人) T 1 5 3 9  
 源内(げんない・岩室/室) → 子饒(しじょう・岩室いわむろ、醸造家/詩) L 2 1 0 0  
 源内(げんない・原) → 半右衛門(はんえもん・原、藩士/写生/日記) H 3 6 2 9
- M1804 顕意(けんい/けんい:法諱・道教;字、俗姓;伊集院) 1238-1304<sup>67</sup> 日向島津の浄土僧;肥前藤津聖達門、上京/西山派宗義;深草の立信門/嵯峨竹林寺で講筵;西山派深草流学匠、歌:新後撰1376、1268「一乗海義要決」81-4「浄土宗要集」92「華山院四十八問答」、「浄土宗建立私記」外多数、[顕意の初法諱/称/諡号]初法諱;証慧/聖慧、称;竹林寺道教坊上人、諡号;記主禪師
- M1805 賢爾(けんい:法諱・一円;字) 1243?-1322<sup>80?</sup> 京八坂の真言学匠・阿闍梨/諸流を兼ね相伝;1279栄尊より伝法灌頂・99牛王寺仁勝より仁和寺御流頼耀方秘流・聖守より憲深方を受、自鏡並びに澄禅より道教方法流を受け相伝、「拾異類編」「具支両壇作法」「四度伝授日記」著  
 兼意(けんい・成蓮房) → 兼意(けんい・真言僧、本草) H 1 8 6 5
- C1886 顕日(けんいち:法諱・高峰こうほう;道号、後嵯峨天皇皇子?) 1241-1316 臨濟僧:1256出家:円爾門、1260建長寺兀庵普寧門の侍者、那須雲巖寺開/79無学祖元門;嗣法、1314建長寺13世、那須雲巖寺に隠棲、「仏国国師語録」「仏国国師法語」「修辭雑録」、歌集「仏国禪師集」著、勅撰3首;風雅(1757/2074)新統古今(832)、  
 [我だにもせばしと思ふ草のいほになかばさし入る峰の白雲](風雅;雑1757)、  
 [高峰顕日の字/諡号]字;密道、諡号;、**仏国禪師**[国師]/応供広濟国師
- M1806 玄日(げんいち:法諱) ? - 921 天台叡山僧;円仁門?、延暦寺大法師、醍醐天皇勅命:914「天台宗章疏目錄」撰/献上  
 玄二堂(げんにどう) → 公忠(きみただ・深野ふかの/小泉、書肆) M 1 6 0 3  
 玄二坊(げんにぼう) → 旭庵(きよくあん・吉田、俳人) O 1 6 7 8  
 彦日満(げんにちまん) → 日満(にちまん;法諱・興円、日蓮僧) D 3 3 2 2  
 玄入斎(げんにゅうさい) → 弘興(ひろおき・小峯こみね、兵法家) F 3 7 6 0
- M1807 顕如(けんによ;号・光佐こうさ;法諱、証如[光教]男) 1543-1592<sup>50</sup> 母:庭田重親女、1555(13歳)得度、得度翌日法王職/1559本願寺門跡(初代);本願寺11世、70信長と交戦/80石山本願寺退去、1585秀吉より大阪天満を受;大僧正/86准后/91京六条堀川を受、1592祖堂を建立(西本願寺)、  
 「顕如上人文書」「顕如上人御書」「顕如上人消息」「顕如常如消息」著、  
 [顕如の幼名/諡号]幼名;茶々麿、諡号;信楽院
- C1887 兼如(けんによ・猪苗代いなわしろ、是斎、宗悦男) ?-1609 歌・連歌;幽斎/紹巴門、仙台藩伊達政宗家臣、1582.5.24本能寺襲撃前夜の明智光秀張行「愛宕百韻」に参加(12句)、1598「慶長三年の道の記」「兼如筑紫道記」著/1602「慶長七年七月兼如独吟懐旧百韻」、1608(慶長13)独吟「鎌倉千句(荏柄えがら千句)」「鎌倉荏柄天神に奉納」、「壬寅奇行」著、住吉万句連歌会において伊達政宗の代作をして賞;田を500石賜る、1582-1608(天正10-慶長13)に百韻・和漢聯句多数、  
 [眞榊にかけし鏡か雪の色](鎌倉千句;十初何発句)、  
 猪苗代家系譜 → 兼載(けんさい・猪苗代、連歌師) 1 8 1 3  
 賢如(けんによ;法諱) → 尚彦(しょうげん;法諱、真言僧) I 2 2 5 5
- M1808 元如(げんによ;法諱) ? - ? 1572存 天台僧;叡山延暦寺住/のち園城寺住、のち上州定勝房に住、1572(元龜3)「円頓者鈔」著
- C1888 玄如(げんによ;法諱、俗姓;若林/名;秋長) 1778-1833<sup>56</sup> 備前岡山の浄土僧/歌人;景樹桂門十哲、香川景樹の下男/木下幸文たかぶみに認めらる、京に住、歌;「桂花余香」入、  
 [玄如の号/法名] 号;任有亭/己桃軒/孤桃軒、法名;善勝法師  
 憲仁(けんいに→のりひと) → 高倉天皇(たかくらてんのう、詩歌) C 2 6 7 5  
 兼任(けんいに・秦) → 兼任(かねとう・秦、廷臣/歌人) O 1 5 6 7  
 兼仁(けんいに→ともひと) → 光格天皇(こうかくてんのう、歌人) 1 9 8 6  
 賢仁(けんいに;法諱) → 聖賢(しょうけん;法諱、真言醍醐寺僧) I 2 2 3 5
- M1809 源仁(げんにん;法諱・南池院僧都/成願寺僧都) 818-887or890<sup>70/73</sup> 法相僧;南都の護命門、

のち真言密教;東寺実慧門/真言僧となる;872内供奉十禅師/877権少僧都/878東寺別当、  
885(仁和元)東寺二長者;少僧都、「灌頂通用私記」著

- 01824 **玄任**(げんにん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[宇智郡の(御霊社)百番歌合に、  
おなじくは秋だにものを思はばやさてもや月のそでにうつると](檜葉;恋413)
- 元仁(げんにん) → 元仁(がんにん、万葉歌人) E 1 5 1 4  
元任(げんにん・橘) → 元任(もととう・橘たちばな、廷臣/歌人) D 4 4 2 1  
堅慧(けんえ;法諱) → 堅慧(けんえ・けんえ;法諱、真言僧) H 1 8 8 1  
玄恵(げんえ) → 玄恵(げんえ、天台僧/詩歌) 1 8 0 8
- M1810 **玄寧**(げんねい・角倉すみくら、玄匡男)1800-7374 京の豪商;了以11代の孫、幕府代官/過書船支配、  
陶器を愛好/別荘に築窯;一方堂と刻印、1866「過書船起立之儀等申上候書付」著、  
[玄寧(;名)の通称/号]通称;為次郎/与一、号;一方堂
- 元寧(げんねい・松田) → 平四郎(へいしろう・松田、筆墨商/陶工) 2 7 5 2  
元寧(げんねい・森永/平井) → 義十郎(ぎじゅうろう・平井、通事/英語翻訳) K 1 6 8 2
- C1889 **賢念**(けんねん) ? - ? 鎌倉期真言僧、1280「金剛寺宝物御封日記」著
- 見年(けんねん・稲垣) → 見年(ちかとし・稲垣いながき/源、幕臣/歌) L 2 8 4 7  
顕能(けんのう・北畠) → 顕能(あきよし・北畠、南朝廷臣/歌人) C 1 0 8 7  
兼能(けんのう・源) → 兼能(かねよし・源みなもと、廷臣/歌人) D 1 5 1 7  
兼能(けんのう・藤原) → 兼能(かねよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) W 1 5 5 9
- M1811 **元翁**(げんのう/げんおう;道号・本元ほんげん:法諱、諡号;仏徳禅師)1282-133251 三河設楽郡大草の臨濟僧、  
高峰頭日門/嗣法、1313夢窓疎石門/随侍;25南禅寺入/首座、  
1328(嘉暦3)鎌倉万寿寺住寺(幕府の命)、1331(元徳3)南禅寺11世、  
「夢窓国師語録拾遺」編、「元翁録」「仏徳禅師語録」著
- 元能(げんのう・観世) → 元能(もとよし・観世、世阿弥男/能楽) E 4 4 6 6  
見能庵(げんのうあん) → 立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) C 4 9 8 5  
顕能女(げんのうのむすめ・藤原) → 顕能女(あきよしのむすめ・藤原) D 1 0 0 8
- E1847 **監君**(げんのみみ、出家名;縁妙えんみょう、賀茂保憲女の女)?-? 藤原教通の侍女、「続本朝往生伝」入、  
母 → 保憲女(やすのりのむすめ・賀茂、賀茂女かもじよ、歌人) 4 5 2 4  
巖之舎(げんのしゃ) → 巖之舎(いつきのや)
- 謙之丞(げんのじょう・福田) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4  
健之丞(げんのじょう・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8
- E1848 **源之丞**(げんのじょう・吉田よしだ)?-? 軍記録、1716熊沢淡庵の記録を整理「武将感状記」編
- M1812 **源之丞**(げんのじょう;通称・宮之原みやのほら)?-? 江後期鹿兒島藩士/大島代官;黒糖買付、奄美に精通、  
藩老調所広郷の財政改革に協力、  
「御産物御仕登金銀錢御蔵納高万控・御内用御用口達覚」著
- 源之丞(源之允げんのじょう・藤田) → 畏斎(いさい・藤田、藩士/儒者) E 1 1 2 6  
源之丞(げんのじょう・北村) → 正立(せいりゅう・まさたつ・北村、国学・歌学者) D 2 4 1 1  
源之丞(げんのじょう・広瀬) → 惓然(いぜん・広瀬ひろせ、俳人) 1 1 2 8  
源之丞(げんのじょう・鳥居) → 興治(おきはる・鳥居/鳥井、藩士/神道) C 1 4 9 5  
源之丞(げんのじょう・小出) → 大助(だいすけ・小出こいで、幕臣) K 2 6 4 3  
源之丞(げんのじょう・佐善) → 松溪(しょうけい・佐善さぜん/源、藩儒) I 2 2 2 1  
源之丞(げんのじょう・橋村) → 正衡(まさひら・橋村はむら/度会/檜垣、神職) R 4 0 6 5  
源之丞(げんのじょう・奥村) → 玉蘭(ぎょくらん奥村、醸造業/儒/画) P 1 6 4 2  
源之丞(げんのじょう・馬淵/馬) → 文邸(ふみいえ・馬淵まぶち/馬、和算家) D 3 8 8 0  
源之丞(げんのじょう・葛上) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8  
源之丞(げんのじょう・佐藤) → 定静(さだしず・佐藤さとう、藩士/儒/国学) O 2 0 5 1  
源之丞(げんのじょう・籠手田) → 安定(やすさだ・籠手田こてだ/桑田、藩士/官僚/歌) F 4 5 9 1  
源之丞(げんのじょう・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3  
源之丞(げんのじょう・増田) → 正起(まさおき・増田ますだ、藩士/国学者) S 4 0 5 7

- 元之丞(げんのじょう・矢野)→ 昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者) I 1 0 5 9
- C1890 齋之進(げんのしん;通称・荒木あき)??-? 江戸後期伊勢津藩士、翻訳/会訳社同人、  
1853「咲咭喇紀略」、「舶用蛮語箋」著
- 権之進(げんのしん→ごんのしん・長岡)→ 為麿(ためまる・長岡ながおか、神職) S 2 6 8 1
- 健之進(げんのしん・西郷)→ 正忠(まさただ・西郷さいごう、藩士/国学者) P 4 0 9 3
- 元之進(げんのしん・郷)→ 実善(さねよし・郷ごう、国学/歌) N 2 0 3 5
- 源之進(げんのしん・松平)→ 武元(たけちか・松平まつだいら、藩主) O 2 6 4 5
- 源之進(げんのしん・建部)→ 賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家) C 1 5 3 4
- 源之進(げんのしん・松下)→ 鳩台(きゅうだい・松下まつした、儒/国学) M 1 6 7 9
- 源之進(げんのしん・水野)→ 皓山(こうざん・水野みずの、本草家) J 1 9 3 0
- 源之進(げんのしん・山鹿)→ 高賀(たかよし・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 7 0
- 源之進(げんのしん・山鹿)→ 高忠(たかただ・山鹿やまが、藩士/兵学) M 2 6 2 0
- 源之進(げんのしん・依田)→ 正純(まさすみ・依田よだ、国学/歌人) P 4 0 5 2
- 源之進(げんのしん・岡)→ 吉胤(よしたね・岡おか、藩士/国学者) E 4 7 3 9
- 源之進(げんのしん・赤堀)→ 秀時(ひでとき・赤堀あかぼり、藩士/歌) L 3 7 9 3
- 源之進(げんのしん・里見)→ 勲(いさお・里見さとみ、医者/国学) K 1 1 3 1
- 源之進(げんのしん・鈴木)→ 重臣(しげおみ・鈴木すずき、藩士/国学) Z 2 1 0 6
- 源之進(げんのしん・豊間)→ 盛彦(もりひこ・豊間とよま、藩士/国学者) K 4 4 7 5
- 建之助(げんのすけ・跡部)→ 良隆(よしたか・跡部あとべ、幕臣/歌人) D 4 7 9 5
- 健之助(げんのすけ/たけのすけ・河野/平松)→ 楽斎(らくさい・平松ひらまつ、民政家/詩) D 4 8 4 0
- 健之助(げんのすけ/たけのすけ・三井)→ 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1
- 賢之介(-助げんのすけ・檜垣)→ 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6
- 賢之助(謙之助げんのすけ・八木)→ 静修(しずさね・八木/鐫木/橘、国学者) U 2 1 0 1
- 謙之助(げんのすけ・西山)→ 尚義(ひさよし・西山にしま、国学/勤王) K 3 7 5 7
- 権之助[介](げんのすけ)すべて→ 権之助[介](ごんのすけ)
- 玄之助(げんのすけ・中村)→ 清五郎(2世せいごろう・中村、歌舞伎役・作者) B 2 4 4 9
- 元之助(げんのすけ・松木)→ 栄彦(さかひこ・松木まつき、神職/歌人) H 2 0 1 1
- 源之助(げんのすけ・吉田)→ 盤谷(ばんこく・吉田よしだ、儒者) H 3 6 6 4
- 源之助(げんのすけ・本居)→ 有郷(ありさと・本居、春庭男/国学/歌) F 1 0 3 5
- 源之助(げんのすけ・小野)→ 武雅(たけまさ・小野おの、幕臣/国学者) W 2 6 0 0
- 源之助(げんのすけ・関矢)→ 凌雲(りょううん・関矢せきや、国学者) G 4 9 3 3
- 源之助(げんのすけ・朝倉/長坂)→ 雲楽斎(うんらくさい・長坂、幕臣/狂歌/戯作) B 1 2 2 3
- 源之助(げんのすけ・小島/膝)→ 橘洲(きつしゅう・唐衣からごも、幕臣/狂歌) 1 6 2 2
- 源之助(2世げんのすけ・沢村)→ 宗十郎(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 1
- 源之助(げんのすけ・久保田/小林)→ 東鴻(とうこう・小林/坂、幕臣/本草) D 3 1 8 7
- 源之助(げんのすけ・大平)→ 蘆平(あしひら・大平おのだいら/鎮西、神職/詩歌) H 1 0 2 5
- 源之助(げんのすけ・西山)→ 正之(まさゆき・西山にしま、幕臣/国学) R 4 0 4 2
- 源之助(げんのすけ・木村)→ 春雄(はるお・木村きむら、仏画師/歌) K 3 6 0 6
- 源之允(げんのすけ・高橋/金谷)→ 春坡(しゅんぱ・金谷/高橋、商家/俳人) L 2 1 7 4
- 鉉之介(げんのすけ・坂本)→ 俊貞(としさだ・坂本/阪本、砲術家/漢学) M 3 1 4 8
- C1891 監命婦(げんのみょうぶ、清子いさぎよきか?)??-? 平安前期承平天慶931-946頃の女房歌人、  
近衛将監を近親者に持つ中藤の女房、大和物語に逸話;多感な女性、  
式明親王・元平親王・源宗子・良岑仲連らと交渉、  
勅撰4首;続後撰(852)続古今(1126)新千(1027)新後拾(1114)、  
[あはれてふ人もやあると武蔵野の草とだにこそなるべかりけれ](続後撰;恋852)、  
右近将監平安直女説や藤原共政の妾説がある、  
清子(いさぎよき)→ 清子(せい・命婦/後撰集歌人) B 2 4 7 7
- E1849 彫波(彫波/剛波げんば・太中庵、倉石休悟)??-? 越後高田の俳人・樗良と親交、  
1776「菊の香」「仏の座」編、76樗良「月の夜」入、  
[渉わたし場や遠山里の三日の月](月の夜;70/渡船場から遠山の上に三日月を見る)

- 彫司と同門? → 彫司(けんじ、越後高田俳人) J 1 8 3 2  
 趁跛(げんば・上林) → 職広(つねまさ・上林かんばやし、郷土史家) D 2 9 6 8  
 源波(げんば・越智) → 通清(みちきよ・越智おち、里正/歌人) I 4 1 3 0  
 M1813 玄蕃(げんば;通称・大道寺だいどうじ、名;直温なおあつ/直寅、号;輦路れんろ) 1804-6259 尾張藩重臣、俳人、  
 1825「尾張家女御入内御使之記」著  
 玄蕃(げんば・李) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0  
 玄蕃(げんば・山口、玄蕃頭) → 正弘(まさひろ・山口やまぐち、武将/領主) G 4 0 9 3  
 玄蕃(げんば・児玉) → 経平(つねひら・児玉、鷹匠) D 2 9 5 0  
 玄蕃(げんば・三宅) → 寄斎(きさい・三宅みやげ、漢学/茶) I 1 6 4 9  
 玄蕃(げんば・長野) → 祐良(すけよし・長野ながの/藤原/蒔田、官人/歌) I 2 3 9 4  
 玄蕃(げんば・中西) → 弘佐(ひろすけ・中西/度会、神職/歌) G 3 7 1 1  
 玄蕃(げんば・中西) → 伯圭(はくけい・中西、弘佐男/神職/書) C 3 6 9 7  
 玄蕃(げんば・中西) → 弘通(ひろみち・中西/春木、伯圭の養子/神職) H 3 7 3 3  
 玄蕃(げんば・堀) → 親賢(ちかかた・堀ほり、藩主/古典/俳諧) N 2 8 4 6  
 玄蕃(げんば・久川) → 藍田(らんでん・大江おねえ、儒者/詩人) D 4 8 0 5  
 玄蕃(げんば・足代) → 立溪(りつげい・足代あじろ/度会、儒者) B 4 9 6 7  
 玄蕃(げんば・松井) → 重康(しげやす・松井、本草家/採薬使) S 2 1 9 7  
 玄蕃(げんば・小笠原) → 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9  
 玄蕃(げんば・松平) → 康済(やすなり・松平まつだいら、藩家老) C 4 5 4 6  
 玄蕃(げんば・松平) → 康正(やすまさ・松平、藩家老/尊攘派) C 4 5 9 8  
 玄蕃(げんば・島津) → 元直(もとなお・島津しまう、領主/詩文) D 4 4 4 2  
 玄蕃(げんば・箕輪) → 蕃昌(しげまさ・箕輪みのわ、天文家) S 2 1 6 2  
 玄蕃(げんば・笠原) → 雲溪(うんげい・笠原/小笠原、儒詩人) B 1 2 1 0  
 玄蕃(げんば・黒川) → 盛隆(もりたか・黒川、藩士/国学/歌人) F 4 4 5 9  
 玄蕃(げんば・益谷) → 末寿(すえほぎ・益谷/荒木田/菊屋、神職/国学) B 2 3 4 3  
 玄蕃(げんば・朝倉) → 荊山(けいざん・朝倉あさくら、儒者) F 1 8 7 4  
 玄蕃(げんば・黒田) → 月洞軒(げつどうけん・黒田、幕臣/狂歌) B 1 8 1 4  
 玄蕃(げんば・足代) → 弘長(ひろなが・足代/度会/源、国学) G 3 7 6 0  
 玄蕃(げんば・阿川) → 義広(よしひろ・阿川あがわ、国学・故実家) G 4 7 6 4  
 玄蕃(げんば・日野) → 資施(すけもち・日野ひの/畠山、旗本高家) H 2 3 9 1  
 玄蕃(げんば・服部) → 正弼(まさすけ・服部はっとり/長沼、家老/歌) R 4 0 7 9  
 玄蕃(げんば・津田) → 政本(まさもと・津田つた、藩家老) H 4 0 9 4  
 C1892 玄梅(げんばい・石岡いしおか、別号;素觴子そしょうし)?-? 江前期奈良の俳人;貞門/のち芭蕉門、  
 玄梅邸は芭蕉の常宿/芭蕉より素觴子の号をもらう、1693彼此集入/97「鳥の道」編、  
 [誉められて挨拶もなきかはづ哉](鳥の道;師より号を与えられて)  
 N1843 元梅(げんばい・小林おばやし/本姓;藤原、通称;田兵衛、歌城[元雄1778-1862]男)?-? 旗本/幕臣;  
 父より家督継嗣、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(父歌城と共に)入、  
 [武蔵野やひとつみどりの若草を行すゑ遠く霞みこめつつ](大江戸倭歌;357春野)  
 M1814 玄伯(げんばく・伊東いとう) ?-? 江戸初期美濃郡上藩士・郷土史家、遠藤家史料収集、  
 1667藩命で「慶隆記」編(藩祖遠藤慶隆一代記)  
 1829 玄白(元伯/玄伯げんばく・杉田すぎた、名;翼、甫仙男)1733-1817 江戸の医者;父門/西玄哲門、  
 儒;宮瀬竜門門/1753若狭小浜藩医(江戸住)/58日本橋で開業/65藩奥医/69侍医;父の遺跡、  
 1771千住小塚原で前野良沢らと解体;1771「解体新書」(ターヘル・アナトミア訳;良沢らと)刊、  
 1773「解体約図」編、1815「蘭学事始」、晩年は家塾天真楼で門人養成、連歌/詩歌/俳/画、  
 1802「形影夜話」、「後見草」、「野叟独語」、「狂医之言」、「水虎攷略」、「和蘭薬譜」、「天真楼漫筆」、  
 「鶴亀の夢」、「鵜斎日録」外著多数、母;蓬田玄孝女/妻;とえ/息;立卿/養子;伯元、  
 [一滴の油 これを広き池水の内に点ずれば 散じて満池に及ぶとや](蘭学事始)  
 [玄白(通称)の字/号]字;子鳳、号;鵜斎いさい/九幸/小詩堂/天真楼、法号:九幸院  
 元博(げんばく;法諱) → 雷音(らいおん;道号・元博、渡来黄檗僧) 4 8 2 3

元白(げんぱく) → 奚花坊(けいかぼう・青木、俳人) 1 8 4 1  
 元伯(げんぱく・千) → 宗旦(そうたん・千せん、茶人) C 2 5 4 6  
 元伯(げんぱく・佐藤) → 信景(のぶかげ・佐藤、地質研究/殖産家) B 3 5 0 8  
 元伯(元珀げんぱく・服部) → 泰庵(たいあん・服部はつとり、医者) J 2 6 0 3  
 玄伯(げんぱく・相沢) → 大味(だいき・相沢、医者/詩人) L 2 6 0 6  
 玄伯(げんぱく・相沢) → 竹僊(ちくせん・相沢、大味の孫/医者) D 2 8 3 0  
 玄伯(げんぱく・滝浪) → 秀成(ひでなり・滝浪たきなみ、医者/歌人) K 3 7 1 4  
 玄駁(げんぱく・松平) → 玄駁(げんき・松平まつだいら、藩老/俳人) E 1 8 0 4  
 玄蕃左衛門入道(げんぱざえもんにゅうどう・門真) → 寂意(じやくい:法諱、廷臣/室町幕臣/連歌) G 2 1 0 6

C1893 源八(げんぱち・勝井かつい、姓;勝浦/名;周蔵) 1778-1828<sup>51</sup> 武州浦和宿の生/歌舞伎作者;  
 初世達俵蔵(4世鶴屋南北)門、1810市村座の見習作者/25中村座の立作者、  
 1824「音菊高麗恋」25「御国入曾我中村」26「紫女伊達染」「藤川船艦話」「還花雪梅勝鯨浪」著、  
 1828「不負江戸男組板」、「水滸伝曾我風流」著、  
 [勝井源八(;号)の別号] 勝秀蔵/勝団蔵/勝井源八郎/狗九くく(;俳名)、法号;松阿樹法

M1815 源八(げんぱち・菅原すがわら、名;善成) 1794-1879<sup>86</sup> 羽後秋田の村役/1333天保飢饉に救民活動、  
 苗字帯刀許可、俳諧:土肥渭江門、「枯尾花集」「木魂集」「羽後民情録」、1862「老之僻言集」著、  
 [源八(;通称)の号] 狂歌堂礎石/一松軒三石/照花堂/蛙夕あせき/松影/貞岩

源八(げんぱち・大宅/高屋) → 近文(ちかふみ・高屋/大宅、国学者) B 2 8 7 8

源八(げんぱち・岩井) → 伊左衛門(いざえもん・岩井、歌舞伎役/作者) C 1 1 2 4

源八(げんぱち・中村、源八郎) → 金水(きんすい・松亭しょうてい、人情本) 1 6 6 3

源八(げんぱち・奥村、源八郎) → 政信(まさのぶ・奥村おくむら、絵師/俳人) F 4 0 6 4

源八(げんぱち・橋本) → 守善(もりよし・橋本はしもと、和算家) G 4 4 9 2

源八(げんぱち・石黒) → 幸弘(ゆきひろ・石黒いしぐろ、藩士/国学) G 4 6 5 3

源八郎(げんぱちろう・葛巻/吉田) → 重氏(しげうじ・吉田/葛巻、弓術家) Q 2 1 6 3

源八郎(げんぱちろう・三輪) → 花信斎(かしんさい・三輪みわ、狩野派絵師) M 1 5 0 1

源八郎(げんぱちろう・勝井) → 源八(げんぱち・勝井かつい、歌舞伎作者) C 1 8 9 3

源八郎(げんぱちろう・小島) → 広林(ひろしげ・小島/小畑、藩士/記録) F 3 7 9 9

源八郎(げんぱちろう・橋本) → 守善(もりよし・橋本はしもと、和算家) G 4 4 9 2

元八郎(げんぱちろう・三好) → 元好(もとよし・三好みよし、藩士/歌人) L 4 4 5 4

元八郎(げんぱちろう・山田) → 吉通(よしみち・山田やまだ/高橋、国学/歌) P 4 7 8 6

元発(げんぱつ・藤沢) → 東暎(とうがい・藤沢ふじさわ、儒者/教育) C 3 1 0 2

玄蕃頭(げんぱのかみ・山口) → 正弘(まさひろ・山口やまくち、武将/領主) G 4 0 9 3

玄蕃頭(げんぱのかみ・有馬) → 豊氏(とよじ・有馬、藩主/家譜) R 3 1 0 6

玄蕃頭(げんぱのかみ・伊藤) → 友嵩(ともたか・伊藤いとう、藩士/老中) U 3 1 0 9

玄蕃頭(げんぱのかみ・井伊) → 直澄(なおずみ・井伊いい、藩主/歌人) K 3 2 9 6

玄蕃頭(げんぱのかみ・井伊) → 直該(なおもり・井伊いい、藩主/大老/歌) L 3 2 0 1

玄蕃頭(げんぱのかみ・井伊) → 直中(なおなか・井伊いい、藩主/歌人) B 3 2 9 1

玄蕃頭(げんぱのかみ・松平) → 宗直(むねなお・徳川とくがわ/松平、藩主/歌) E 4 2 0 3

玄蕃頭(げんぱのかみ・松平) → 頼胤(よりたね・松平まつだいら、藩主/幕政) P 4 7 2 4

玄蕃頭(げんぱのかみ・徳川) → 治貞(はるさだ・徳川とくがわ、藩主/文筆家) G 3 6 3 4

玄蕃頭(げんぱのかみ・中川) → 長経(ながつね・中川ながわ、廷臣/歌人) O 3 2 0 4

玄蕃之丞(げんぱのじょう・岡本) → 氏臣(うじおみ・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) C 1 2 3 4

玄蕃助(げんぱのすけ・横池) → 春斎(しゅんさい・横池/横地、藩士/兵学) J 2 1 6 9

C1895 顕範(けんはん:法諱、藤原長教男)?-? 1338存 鎌倉期興福寺法相学僧、法印/権大僧都、  
 1338「一法中道」縁憲と共編(円憲・顕範・縁憲3人の唯識の中道についての論草短積集)、  
 歌;1315「聴講唯識論詠」、1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠、続現葉集入集、  
 勅撰3首;玉葉2217、続千歳1957、風雅1813、  
 [谷の水峰のたきぎに明けくれていはほの中もいとまなの世や](玉葉;雑2217)

顕範(けんはん・赤松) → 顕則(顕範あきのり・赤松あかまつ、武将/歌) 1 0 7 9

兼繁(けんはん・ト部) → 兼繁(かねしげ・ト部うらべ、神職/連歌) O 1 5 5 2

- C1894 **玄範**(げんぱん/げんぱん;法諱)? - ? 平安後期;真言醍醐寺僧/法師、  
歌人;詞花集180、続詞花集(玄範聖人名)2首入、  
[また来むと誰にもえこそ言ひおかね心にかなふ命ならねば](詞花集:六別180)  
[いく雲みへだつる山のあなたにて都のことを思ひいづらん](続詞花;840)
- 01829 **源範**(げんぱん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[保元の乱れに宇治左大臣(藤原頼長)の子息みな遠きさかひ(土佐・伊豆)に移されけるに、  
出家までも逃れず安房国に配せられける人(律師範長はんちやう)の送りにまかれりけるが、  
逢坂の関にてよみはべりける、  
みやこよりとふ人あらばあふさかはこえぬとつげよ関のゆふかぜ](檜葉;餞別613)  
☆関東の慈光寺深大寺別当源昭男の[源範](二位律師/蒲生冠者範頼孫)とは別人
- 元蕃(げんぱん・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主) E 4 4 4 0  
元璠(げんぱん・前川/中村) → 鼎山(ていざん・中村/前川、書肆・俳人) 3 0 9 3  
顕比(けんび・安井) → 顕比(あきちか・安井、藩士/日記) D 1 0 5 3  
顕美(けんび・田中) → 華城(かじやう・田中たなか、医者/詩人) F 1 5 6 3
- M1817 **元美**(げんび・林はやし、初姓;舟橋/名;寛度)1778-1861<sup>84</sup> 水戸の棋士;本因坊烈元・本因坊元丈門、  
1819林家11世を継承;御城碁に出仕/27(文政10)七段に昇進;  
本因坊丈和の名人碁所運動に添願人として協力するが八段推薦の内約は果たさず;  
丈和との争碁を申請;丈和は隠退、1854(嘉永7)隠居;八段を許可、博学/書を能くす、  
「爛柯堂棋話」著/1808「碁経連珠」編/12「碁経衆妙」31「紅甲珍鑑」35「碁経精妙」著、  
[林元美(;通称)の号] 藍叟らんそう/爛柯堂らんかどう
- 元美(げんび) → 元養(げんよう、俳人) N 1 8 3 5  
元美(げんび・半井) → 悟庵(ごあん・半井なからい/平野、医/歌学) 1 9 0 0  
元美(げんび・成田) → 秋佩(しゅうはい・成田、藩士/儒者) I 2 1 2 1  
元美(げんび・毛利) → 元美(もとよし・毛利もうり、領主/勅子ときこの夫) L 4 4 6 9  
元備(げんび・海保) → 漁村(ぎよそん・海保かいぼ、儒者) D 1 6 2 8  
玄飛(げんび・山脇) → 東洋(とうよう・山脇やまわき、医者) H 3 1 7 7  
阮美章(げんびしやう) → 芝亭(してい・下司しもつかさ/げじ/源、篆刻家) V 2 1 1 9  
元弼(げんびつ・長尾) → 遁翁(とんおう・長尾ながお、儒者/勤王論) S 3 1 0 6  
彦弼(げんびつ・宮田) → 彦弼(ひこすけ・宮田みやた、文筆家) 3 7 6 2  
源姫(げんひめ・伊達) → 淳子(ちゆこ・伊達/鍋島、歌人) E 1 0 5 6
- N1841 **玄豹**(げんびやう;法諱/和尚、号;柏樹軒)?-? 相模浦賀の曹洞宗能満寺僧/隠居;江戸住、  
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、  
[行く水の音は聞えて谷川の流れも見えずつもるもみぢ葉](霞関;冬576/落葉満流)
- 元苗(げんびやう→げんみやう;法諱) → 眞浄(しんじやう;道号・元苗、臨濟僧) O 2 2 9 3  
元苗(げんびやう・毛利) → 元苗(もとひで・毛利もうり/大江、幕臣) E 4 4 0 1  
元苗(げんびやう・三浦) → 元苗(もとたね・三浦みうら、藩士/国学/歌) C 4 4 9 6  
源猫彦(げんびやうげん/みなもとのねこひ?) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
建敏(けんびん・須佐) → 建敏(たてとし・須佐すさ、神職/国学) X 2 6 6 4
- C1896 **玄賓**(げんびん;法諱、俗姓;弓削ゆげ)?-818:80余歳 平安前期河内法相僧;興福寺宣教門、  
法相宗六祖の1人、782大同元律師を固辞し大和三輪松原谷に庵を結ぶ/伯耆会見郡に隠棲、  
805桓武天皇の病氣平癒祈禱/806大僧都を固辞/807平城天皇の平癒祈禱、  
嵯峨天皇から信仰を受けた;816備中哲多郡移住;隠棲地の庸米免除;鉄の貢進、  
「四帖鈔」、歌:続古801・1608、のち謡曲「三輪」に三輪明神との関わりを脚色された、  
[みわ川の清き流れにすすぎてしわが名をここにまたやけがさん](続古801、  
勅使に大僧都を固辞した時の歌)(江談抄・発心集・古事談などに入)
- 元贇(げんびん・陳) → 元贇(げんいん・陳、儒/詩文) B 1 8 2 7  
元敏(げんびん/もととし・廬) → 草拙(そうせつ・廬ろ、漢学/天文家) C 2 5 3 5  
元敏(げんびん/もととし・水野) → 廬朝(ろちやう・水野みずの/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3  
元敏(げんびん/もととし・松田) → 五松(ごしやう・松田まつた、和漢学/俳人) M 1 9 7 9

元敏(げんびん・毛利) → 元敏(もととし・毛利もうり、藩主/歌人) L 4 4 7 0  
 兼富(けんふ・卜部) → 兼富(かねとみ・卜部うらべ/吉田、神職) O 1 5 7 2  
 謙夫(けんぶ・前野) → 謙夫(よしお・前野まえの、酒造業/国学) P 4 7 0 6  
 俚夫(けんぶ・福田) → 渭水(いすい・福田ふくだ/ふた、儒/砲術) E 1 1 3 7  
 絢夫(けんぶ・河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7  
 絢夫(けんぶ/あやお・宇都宮) → 黙森(もくりん・宇都宮うつのみや、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0  
 建富(けんぶ・鈴木/乳井) → 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政) D 4 1 2 6  
 健夫(けんぶ・小島) → 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0  
 元夫(げんぶ・貝原) → 和軒(わけん・貝原かいばら、儒者/詩文) 5 3 2 0  
 元孚(げんぶ・遠藤) → 元孚(もとのぶ・遠藤えんどう、国学/歌・俳) J 4 4 4 2  
 言夫(げんぶ・下郷/千代倉) → 常和(じょうわ・下郷しもさと、商家/俳人) C 2 2 2 0  
 源布(げんぶ・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9  
 玄符(げんぶ・服部) → 蘇門(そもん・服部はつとり、漢学/仏典) E 2 5 4 2  
 巖夫(げんぶ・宮地) → 巖雄(いわお・宮地みやぢ/手島、神職/故実) K 1 1 7 1

C1897 見風(けんふう・河合かわい、通称;理右衛門、久右衛門男) 1711-8373 加賀津幡の俳人:希因門、  
 歌;冷泉為泰門、俳諧撰集「霞がた」編(宝暦年間[1751-64]刊/芭蕉70回忌集の1)、  
 [見風の別号] 白達摩/枝紅/枝鶴じう/花中仙/雪灯下/南物籬/雪鬼窟、法号;了願

元風(げんふう/もとかぜ・芥川) → 寸艸(すんそう・芥川/小野寺、幕臣/歌) 2 3 2 1  
 玄風(げんふう・智蔵) → 智蔵(ちそう・玄風、真宗本願寺派僧) E 2 8 6 0  
 玄風(げんふう;字) → 宗興(しゅうこう;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 2 2  
 玄風(げんふう・下沢) → 保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌) G 4 5 0 0  
 玄風軒(げんふうけん) → 経定(つねさだ・辻、国学/歌) C 2 9 1 3  
 見風舎(けんふうしゃ) → 我柳(がりゅう・矢田やだ、俳人) P 1 5 7 1  
 建福(けんぶく→のりとみ・乳井) → 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政) D 4 1 2 6  
 兼福(けんぶく・薬丸) → 兼福(かねとみ・薬丸やくまる、藩士/剣客) W 1 5 0 2  
 彦復(げんぶく・林) → 読耕斎(どっこうさい・林はやし、幕府儒官) O 3 1 4 8  
 元福(げんぶく;法諱) → 壽峰(じゅほう;道号・元福、黄檗僧) 2 1 8 8  
 元福(げんぶく・酒井) → 元福(もととみ・酒井さかい、藩士/歌) I 4 4 7 5  
 元福(げんぶく・三浦) → 元福(もととみ・三浦みうら、藩家老/歌人) L 4 4 4 5

C1898 見仏(けんぶつ;法諱、称;松島上人/松島の聖)?-1242?/80余歳 平安末鎌倉期、陸前松島の僧、  
 松島寺主、松島来訪の蓮生(宇都宮頼綱よりつな)と歌贈答:撰集抄に逸話入、  
 1195民部卿経房家歌合参加/1200若宮歌合参加(藤原親盛か?)/新後撰集655、  
 [長き夜の闇路やみちに迷ふ身なりともなぶり覚めなば君を尋ねん](新後撰;积教655、  
 蓮生法師松島へ詣でて法門など談じて帰りけるに詠む、

蓮生の返歌;656闇路には迷ひもはてじ有明の月まつしまの人のしるべに)  
 藤原親盛と同一説あり → 親盛(ちかもり・藤原、法名;見仏、廷臣/歌人) C 2 8 0 6  
 蓮生(れんしょう) → 頼綱(よりつな・宇都宮うつのみや、領主/法然門/歌人) 4 7 3 3

M1818 見仏(けんぶつ;法諱・開成院)?- ? 江後期撰津島上郡天台宗神峯山寺の僧、  
 1824「六字宝号万徳抄」、「神儒仏群疑問辨」著

見仏(けんぶつ;法名) → 親盛(ちかもり・藤原、廷臣/歌人、見仏上人と同一?) C 2 8 0 6  
 玄武堂(げんぶどう・大久保) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3  
 玄武堂(げんぶどう・中島) → 素蓮(それん・中島なかじま、俳人) E 2 5 5 7

C1899 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/初姓;水野) 1713-9886 江戸の俳人:白兔園宗瑞門/美濃派廬元坊門、  
 1751-白山下の一流を称す、「茶摘笠」編/1772「白山外現録」80「一刀両断」著、  
 没後;「白山和詩集」「玄武庵和詩集」、「玄武庵発句集」(;旭庵鷹一編)、青羅の師、息;一之、  
 [大服おほぶくや一碗いちわんは我が常ながら](玄武庵発句集/同じ碗でも元日の大福茶は格別)、  
 [玄武坊の別号] 俳仙堂/一碗亭/応一武者/青白子/白山老人/無竈むそう庵/臘ろう居士/鱗甲

賢文(けんぶん・建部) → 賢文(かたふみ・建部、武将/書) 1 5 1 9  
 兼文(けんぶん・卜部) → 兼文(かねふみ・卜部うらべ、神職) D 1 5 0 3

- 兼文(けんぶん・高橋) → 兼文(かねぶみ・高橋たかはし、神職) O 1 5 9 0  
 兼文(けんぶん・西村) → 兼文(かねぶみ・西村/城、墓碑蒐集解題) O 1 5 9 1  
 憲文(けんぶん・中島) → 憲文(のりふみ・中島なかしま、歌人) G 3 5 9 8  
 元文(げんぶん・西山) → 元文(もとふみ・西山にしま、藩士/儒者) E 4 4 2 2  
 幻文(げんぶん・西原) → 綾子(あやこ・西原にしはら/滝、歌人) I 1 0 2 0  
 言文(げんぶん・林) → 言文(ことぶみ・林はやし、商家/国学/歌) R 1 9 1 7  
 建平(けんべい・岩坂) → 建平(たけひら・岩坂いわさか/大神、神職) V 2 6 7 3  
 健平(けんべい・村上) → 仏山(ぶつざん・村上むらかみ、庄屋/詩人) D 3 8 3 5  
 健平(けんべい・野村) → 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2  
 顕平(けんべい・田所) → 顕平(あきひら・田所たどころ/藤原、庄屋/神職) H 1 0 8 2  
 源平(げんべい・松本) → 弘蔭(ひろかげ・松本、国学者/歌人) F 3 7 6 6  
 源平(げんべい・沢村) → 宗十郎(5世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 1  
 元昷(げんべい・首藤) → 水晶(すいしょう・首藤すどう/藤・膝、儒者) 2 3 6 5  
 彦平(げんべい・山本) → 鹿門(ろくもん・小倉おぐら/坂/山本、藩儒者) B 5 2 1 2  
 源平藤橘(げんべいとつきつ、狂歌) → 中良(ちゅうりょう・森島、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
 M1819 源兵衛(げんべえ・宮部みややべ、名;清純)?-? 信州松本藩士/1668町奉行/72大町組郡奉行、  
 1688物頭役、歌/俳諧、未琢「一本草」入、1692「塩尻夜話記」著(塩尻の古老の話の記録)、  
 [源兵衛(;通称)の号] 一跳/(隠居号;)多賀谷跳翁  
 E1850 源兵衛(げんべえ・荒物屋あらものや)?-? 江戸書肆、1807「瑠璃天狗」著(賽笠翁?)  
 E1851 源兵衛(げんべえ・武藤むとう)?-? 江戸講釈師;「三国志」、「漢楚軍談」著  
 M1820 源兵衛(げんべえ・渡辺わたなべ)?-? 寛政1789-1801頃磐城中村藩士、  
 「相馬給人根元記」著  
 M1821 源兵衛(げんべえ;通称・吉瀬よしせ、名;長盈)?-? 信州伊那郡飯島田切の和算家:吉源流を称す、  
 1864「天元算法利伝記」著(書中に無尽講に関する「利算勘元徳講記」を含む)  
 源兵衛(げんべえ・瀬尾) → 用拙斎(ようせつさい・瀬尾せお、書肆/詩人) B 4 7 3 3  
 源兵衛(げんべえ・布施) → 守之(もりゆき・布施ふせ、藩士/兵法家) G 4 4 7 3  
 源兵衛(げんべえ・鈴木) → 養察(ようさつ・鈴木すずき、儒者) B 4 7 0 2  
 源兵衛(げんべえ・藤村) → 庸軒(ようけん・藤村/久田、商家/茶人) 4 7 7 3  
 源兵衛(げんべえ・桜井屋/さくらや) → 素玄(そげん・中林、俳人) 2 5 2 1  
 源兵衛(げんべえ・内田) → 秀富(ひでとみ・内田うちだ、和算家) D 3 7 3 4  
 源兵衛(げんべえ・松平/新清) → 元麿(元丸もとまる・新清/松平/谷口、国学) E 4 4 3 3  
 源兵衛(げんべえ・中馬) → 諸香(もろか・中馬ちゅうま、藩士/歌人) K 4 4 5 1  
 源兵衛(げんべえ・浅井) → 左柳(さりゅう・浅井、藩士/俳人) D 2 0 9 9  
 源兵衛(げんべえ・中島屋) → 霞卜(かほく、島、俳人) P 1 5 4 0  
 源兵衛(げんべえ・鳥居) → 広治(ひろはる・鳥居とりい/源、藩士/国学) K 3 7 3 3  
 源兵衛(げんべえ・橋村/吉沢) → 正竹(まさたけ・橋村/度会、神職/古典) D 4 0 3 2  
 源兵衛(げんべえ・久永) → 眞事(まこと・久永ひさなが、幕臣/歌人) 4 0 7 7  
 源兵衛(げんべえ・関口) → 安綱(やすつな・関口せきぐち、藩士/歌人) G 4 5 1 0  
 源兵衛(げんべえ・関口) → 安義(やすよし・関口せきぐち、藩士/歌人) G 4 5 1 1  
 源兵衛(げんべえ・太田) → 道知(道智みちとも・太田/池上、藩士/歌) H 4 1 4 6  
 源兵衛(げんべえ・太田) → 茂富(しげとみ・太田おた、歌人) R 2 1 6 9  
 源兵衛(げんべえ・平賀) → 義清(よしきよ・平賀ひらが、藩士/邑主/歌) O 4 7 7 7  
 源兵衛(げんべえ・海野) → 遊翁(ゆうおう・海野うんの/滋野、幕臣/歌) 4 6 8 4  
 源兵衛(げんべえ・兵庫屋/北風) → 町丸(まちまる・建興亭、狂歌) J 4 0 6 4  
 源兵衛(げんべえ・木綿屋) → 松隣(しょうりん・清水しみず、俳人) L 2 2 9 8  
 源兵衛(げんべえ・駒屋) → 宣経(のりつね・内田うちだ、商家/国学者) F 3 5 1 4  
 源兵衛(げんべえ・鈴木/穂積) → 重麿(しげまる・穂積/鈴木、藩士/国学) S 2 1 7 1  
 源兵衛(げんべえ・伊東/伊藤) → 秋廼屋颯々(あきのやさつ、鍛冶職/狂歌) C 1 0 2 4  
 源兵衛(げんべえ・窪井) → 鶴汀(かくてい・窪井くぼい、藩士/儒者) H 1 5 3 4  
 源兵衛(げんべえ・宇佐美) → 淡斎(たんさい・宇佐美うさみ、藩士/漢学者) I 2 6 1 5

源兵衛(げんべえ・萩原) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6  
 源兵衛(げんべえ・淵) → 岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者) G 1 9 3 3  
 源兵衛(げんべえ・渡辺) → 玄察(げんさつ・渡辺、肥後記録蒐集者) J 1 8 1 7  
 源兵衛(げんべえ・石野) → 寛氏(ひろうじ・石野いしの、藩士/記録) B 3 7 8 6  
 源兵衛(げんべえ・荒物屋) → 賽笠翁(さいりゅうおう、書肆/浄瑠璃) B 2 0 1 5  
 源兵衛(げんべえ・井川) → 鳴門(めいもん・井川いかわ/橘、書家/絵師) 4 3 4 0  
 源兵衛(げんべえ・灰屋) → 善之(よしゆき・家崎いささき、商家/和算家) H 4 7 9 4  
 源兵衛(げんべえ・谷口) → 陶溪(とうけい・谷口たにくち、藩士/歌人) D 3 1 1 9  
 源兵衛(げんべえ・伊東) → 巨規(なおのり・伊東いとう/藤原、鍛冶職/歌) L 3 2 0 8  
 源兵衛(げんべえ・長久保) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3  
 源兵衛(げんべえ・鈴木) → 鳴門(めいもん・鈴木すずき、藩の絵師) 4 3 4 2  
 源兵衛(げんべえ・磯谷) → 泰隆(やすたか・磯谷いそがや/加藤、幕臣/国学) F 4 5 2 9  
 源兵衛(げんべえ・磯部) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5  
 源兵衛(げんべえ・山路) → 重恒(しげつね・山路やまち、商家/国学) V 2 1 4 1  
 源兵衛(げんべえ・飯田) → 恭雄(たかお・飯田いいだ、神職/国学) V 2 6 5 7  
 源兵衛(げんべえ・今村) → 正房(まさふさ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 2  
 源兵衛(げんべえ・高田) → 玄明(はるあき・河上かわかみ、剣術/攘夷論) K 3 6 0 0  
 源兵衛(げんべえ・桐山) → 祐修(すけのぶ・桐山きりやま/野村、国学者) I 2 3 4 3  
 源兵衛(げんべえ・小林) → 長喬(ながたか・小林こばやし、国学/歌) M 3 2 1 1  
 源兵衛(げんべえ・佐藤) → 信明(のぶあき・佐藤さとう/伊良原、里正/国学) I 3 5 5 3  
 源兵衛(げんべえ・櫛田) → 利恭(利孝としたか・櫛田くしだ、脇本陣/国学) V 3 1 0 2  
 源兵衛(げんべえ・櫛田) → 利眞(としまさ・櫛田くしだ、利恭男/脇本陣/郡長) V 3 1 0 3  
 源兵衛(げんべえ・鈴木) → 重樹(しげき・鈴木すずき/穂積、藩士/国学) Z 2 1 0 8  
 源兵衛(げんべえ・撰津) → 安隣(やすちか・撰津せつ、国学者/歌人) G 4 5 1 2  
 源兵衛(げんべえ・松本) → 茂彦(しげひこ・松本まつもと、商家/国学者) O 2 1 4 6  
 源兵衛(げんべえ・中島) → 広定(ひろさだ・中島なかじま、藩士/神職) H 3 7 7 9  
 源兵衛(げんべえ・渡辺) → 眞澄(ますみ・渡辺わたんべ、神職/国学) T 4 0 8 2  
 源兵衛(げんべえ・春木) → 近安(ちかやす・春木はるき、神職/国学者) N 2 8 3 4  
 源兵衛(げんべえ・吉田) → 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人) K 3 5 3 5  
 源兵衛(げんべえ・加賀屋) → 重郷(しげさと・後藤ごとう、商家/国学/歌) O 2 1 4 5  
 元兵衛(げんべえ・石川) → 彦岳(げんがく・石川いしかわ、藩士/儒者) E 1 8 9 2  
 元兵衛(げんべえ・吉松) → 萬齡(かづなが・吉松よしまつ、藩士/国学) W 1 5 1 6  
 玄兵衛(げんべえ・吉田) → 思玄(もとはる・吉田よしだ、庄屋/歌人) L 4 4 8 7

C1883 **ケンペル**(Engelbert Kaempfer) 1651-1716<sup>66</sup> ドイツの外科医/博物学者、1690長崎出島に渡来、  
 船医/商館付医員、2年間滞在;日本の歴史・政治・宗教・地理を研究、  
 「日本誌」「廻国奇観」著(巻五に「江戸参府紀行日記」)

01820 **賢遍**(けんべん:法諱、藤原敦佐[越後権守]男)?-? 平安鎌倉期;醍醐寺の僧/小野法印権大僧都、  
 藤原範明[1095-1169/大内記]の孫、兼範(蔵人)・光倫(蔵人)・敦盛(後白河院蔵人)の弟、  
 1237刊藤葉集2首入の賢遍(興福寺光明院の歌会参加)と同一?  
 [光明院にて、

たび衣すそのの風をわけゆけばみねにすずしきひぐらしのこゑ](檜葉;羈旅632)

D1800 **顕遍**(けんべん:法諱、藤原範光男/源兼定[1216没]の養子)?-? 鎌倉中後期法相僧;  
 興福寺東南院の僧都/律師/権僧正、承遍(法眼)の父、  
 歌人:続現葉集入集、新千載851/新拾遺1486、1237素俊撰[檜葉集]入(前僧都名)、  
 [いかにして言ひあらはさん法の道とにもかくにもたがふ言の葉](新千載:釈教851、  
 詞書;尋思路絶名言語道断唯真聖者自内所証の心を)、  
 [高野に侍りけるころ、

ふる里ののきばのをぎをききすてている山とともすず(篠)のうはかぜ](檜葉;雑697

元弁(げんべん:法諱) → 端倪(たんげい:道号・元弁、黄檗僧) T 2 6 3 3

M1822 **献甫**(けんぽ:道号・光璞こうぼく:法諱、号;石牛) 1506-91<sup>86</sup> 京の臨濟僧;希雲恵沢門/嗣法、

1572東福寺212世、「退耕円宗首座謝上堂」著

頭輔(げんぼ・藤原) → 頭輔(あきすけ・藤原・六条、廷臣/歌人) 1 0 0 5  
頭輔(げんぼ・山崎) → 立朴(りゅうぼく・山崎やまさき、医者) F 4 9 6 9  
元謨(げんぼ・武富) → 圯南(いなん・武富たけとみ、儒者/詩文) I 1 1 1 3  
元謨(げんぼ・佐藤) → 梅軒(ばいけん・佐藤さとう、藩儒/藩家老) B 3 6 1 2  
頭保(げんぼ・藤原) → 頭保(あきやす・藤原、平安期廷臣) D 1 0 0 7  
謙甫(げんぼ・大蔵) → 謙斎(けんさい・大蔵おおくら、儒者) I 1 8 9 2  
謙甫(げんぼ/けんすけ?・稲生) → 恒軒(こうけん・稲生いおう、医者/漢学) I 1 9 5 3  
謙甫(げんぼ・掛山) → 徳謙(のりかね・掛山かけやま、藩士/国学) H 3 5 8 9  
健甫(げんぼ・西山) → 西山(せいざん・西山/西/阿比留、儒者) B 2 4 7 4  
蕙圃(げんぼ・黒木) → 茂矩(しげのり・黒木くろき、神職/国学) O 2 1 3 4

- M1823 玄圃(げんぼ:道号・霊三れいさん:法諱) 1535-1608 74 臨濟宗僧:春芳靈光門/嗣法、1586南禅寺266世、1592秀吉に従い名護屋で明・朝鮮の使節と交渉/南禅寺聴松院に退隠、聯句;1591-1600和漢聯句数度(1591天正十九年玄旨和漢聯句等)、「玄圃和尚語録」「玄圃藁」著
- D1801 元甫(げんぼ・辻原つじはら、名;省、東甫男/本姓;長岡) 1622-? 1691存 伊勢桑名藩主松平定綱の藩儒、定綱没後は漢学講義を業、仮名草子作者、1661淀藩主石川憲之に出仕/91致仕、1656「女四書」「女誠」/58「倭小学」「見ぬ世の友」/60「智恵鑑」、「書翰初学鈔便蒙」著、[元甫(;通称)の号] 橘軒散人/沙木子、誠甫の弟
- M1824 玄甫(げんぼ・西にし、名;新吉、通詞吉兵衛[初世]男)?-1684 長崎の通詞/大通詞/1669退職、南蛮医学:沢野忠庵門/紅毛医学;オランダ商館医門;外科治療/西流外科の祖、1673幕府参勤通詞目付:外科医官兼任、法眼、「阿蘭陀外科」「阿蘭陀外療仕掛之書」著、1656「乾坤辨説」69「諸国土産書」著、「天文沙汰辨解」訳、「阿蘭陀十七方」著、「阿蘭陀外科書」伝、[玄甫(;通称)の別通称] 吉兵衛[2世]/玄庸
- B1802 元輔(げんぼ・陳ちん) ?-? 琉球詩人;1688「中山自了伝」(順則「中山詩文集」所収)
- M1825 玄甫(げんぼ:法諱、発願寺玄智男)?-1732 河内久宝寺村真宗本願寺派僧;父門/発願寺住職、1717「真宗要語図説」著、「大経大曼荼羅掛軸十図」作成
- J1847 原甫(げんぼ・堀ほり/小川、名;常[経]信)?-? 江戸後期京寺町六角南の書肆、1831「女古状揃」編、1833「道歌心の姿見」34「女風月往来」編、39「都繁栄」43「百姓掟往来」、36-61「太平記図会」著、[原甫の別号]月丸/月磨/松月堂/華雪道人/興聞閣/三五園、書肆小川源兵衛と同一?
- M1826 元甫(げんぼ:名・浅野あさの、字;徽、号;養老山人) 1728-? 1797存 尾張の医者、1791「傷寒論国字弁」著/1791「傷寒論特解」注釈、「校正傷寒卒病論集」編
- D1802 玄圃(げんぼ・大江おおえ/久川ひさかわ、名;資衡すけひら、展観男) 1729-94 66 京の官吏、漢学;石田梅岩門、詩書;竜草廬(公美)門、古文;岡白駒門/書家;宮崎筠圃門、華音;劉凶南門/琴;安子貫門、1764「女学範」64「問佩集」69/83「玄圃集」65「和韓雙鳴集」/69「和翰名苑」78「玉振集」編、1783「和歌職原捷徑」84「咏物捷徑」、「玄圃文集」「梅花楼琴譜」「名媛墨妙集」外著多数、[玄圃の字/通称/別号]字;穉圭、通称;久川靱負、別号;時習堂、荆山・藍田の父
- M1827 元甫(阮甫げんぼ・宮本みやもと、名;寛、田結たゆい道需男) 1796-1866 71 美濃大垣蘭医:通詞吉雄如淵門、儒;菱田毅斎門、京で医開業/蘭学塾和為貴塾を開、摂津高槻藩医、「産家須知」「徽家捷徑」著、[元甫(;通称)の字/号]字;子裕、号;葵園/鉅鹿きよろく、虎太郎強哉の父
- D1803 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、名;虔儒/虔、藩医丈庵貞固男) 1799-1863 65 美作津山藩士;12歳で家督、儒;永田桐陰・小島天楽門/京で漢方医/1822津山藩医、江戸で蘭学;宇田川榛斎門、1834火災;洋学に専念/幕府天文方蕃書和解御用/蕃書調所初代教授/1862幕臣、1842-8「和蘭文典」訳、「西洋外科大成」「日本紀聞」「仏蘭西叢記」「箕作阮甫詩集」外著多数、[阮甫の幼名/字/別通称/号]幼名;恵迪、字;庠西しょうさい、別通称;玄甫/阮圃/貞一、号;紫川/逢谷/咸牛かんぎゅう/咸字/一足庵/夔庵きあん居士/竹雨/楽忘居主人/秋眠/天竺楼主人

- M1828 **玄甫**(げんぼ;名・嶋しま) ? - ? 江後期江戸弁慶橋の蘭学者/竹内図書助の家臣、  
「製塩取調書」著
- 玄圃(げんぼ・横谷) → 藍水(らんすい・横谷よこや/谷、鍼医/詩) C 4 8 7 3  
 玄甫(げんぼ) → 青亞(せいあ・僧/俳人) H 2 4 1 2  
 玄甫(げんぼ・奥田) → 棲遲庵(せいちあん・奥平定時、儒者) C 2 4 5 8  
 玄甫(げんぼ・加藤) → 遠沢(えんたく・加藤かとう、絵師) F 1 3 6 4  
 玄甫(玄圃げんぼ・奥平) → 棲遲庵(せいちあん・奥平/源、藩士/闇齋学) C 2 4 5 8  
 玄輔(元輔げんぼ・榊原) → 篁洲(こうしゅう・榊原さかきばら、漢学者/詩) 1 9 1 1  
 玄輔(げんぼ・げんすけ・福田/丹羽) → 正雄(まさお・丹羽、農家/廷臣/勤王家) B 4 0 4 2  
 元保(げんぼ・法諱・梅谷) → 梅谷(ばいこく・道号・元保げんぼ、臨濟僧) B 3 6 2 2  
 元甫(げんぼ・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂、藩士/地誌家) D 4 4 2 9  
 元輔(げんぼ) すべて → 元輔(もとすけ)  
 元埶(げんぼ・篠原) → 徴余(ていよ・篠原、儒者/書家) K 2 8 0 4  
 言甫(げんぼ・細川) → 林斎(りんさい・細川ほそかわ、篆刻家) K 4 9 3 2  
 諺輔(げんぼ・波多) → 完(またし・波多はた/秦/金原、国学者) J 4 0 4 3
- M1829 **賢宝**(けんぼう;法諱) 1333 - 1398<sup>66</sup> 真言東寺僧: 杲宝門、1359伝法灌頂を受、  
杲宝没後は勸修寺俊然門/1389法印権大僧都、頼宝・杲宝の著作完成に尽力、  
東寺の三宝(頼宝・杲宝ごうぼう・賢宝)と称される  
「覚母抄」「類秘抄」、1351「秘蔵記私鈔」74「弘法大師行状要集」81「十住心文集」外著多数
- D1805 **兼豊**(けんぼう/かねよし・門村かどむら/門田) ?-? 江前期大和奈良の絵師/俳人; 半井ト養門・談林派、  
言水と交流、法橋、江戸久保町住/晩年京に移住、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
1678言水「江戸新道」/78不ト「江戸広小路」/82如扶「三ヶ津さんかのつ」/82風黒「高名集」入、  
[剪蠟いりがきや塩焼かねどもうら座敷](1679富士石入/82三ヶ津入、  
浦に裏を掛る/塩焼く浦ではないが裏座敷で煎り牡蠣を食す)
- M1830 **謙芳**(けんぼう;法諱・順空じゅんくう;字) ?-? 江前期真宗僧: 1702「一枚起請贅言」「一枚文添濁」、  
「西洞彙雋録」「延命地藏経詳解」「大乘百法明門論解輯攷」「一枚吉水遺訓評解続篇」著
- 01836 **兼方**(けんぼう・今井いまい) ? - ? 江中期; 歌人、伝不詳、  
1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、  
[起き出づるほどこそなけれほとゝぎすたゞ一声は夢心地して](追加; 郭公)
- D1806 **乾峰**(初世けんぼう・居初いそめ、別号; 貞五堂、雲峰男) 1714-46<sup>33</sup> 京の雑俳点者、  
1729「海士をふね」36「万春楽」著  
父 → 雲峰(うんぼう・居初いそめ、俳人/戯作) B 1 2 2 2
- D1807 **乾峰**(2世けんぼう・居初いそめ、別号; 扇峰/貞六堂、初世乾峰の甥) 1724-70<sup>47</sup> 京の雑俳点者、  
1752「俳諧いさりふね」編、52「俳諧神楽歌」60「武林花」67「備後尾たて」68「国の柱」編
- D1808 **乾峰**(3世けんぼう・居初いそめ、別号; 貞七堂/乾雅、2世乾峰男) ?-? 京の雑俳点者、  
1778「雲峰乾峰卅三回忌」80「歳首賀」編
- M1831 **劍峰**(けんぼう・大関おおせき、名; 克/敬恵けいとく) ?-1891 越後白根の出身/国学・儒; 亀田鶯谷門、詩文、  
田安家儒臣、「蒙求官職略考」補填  
[劍峰(;号)の字]字; 俊佐/義方
- 顕豊(けんぼう・北畠) → 顕豊(あきとよ、連歌) D 1 0 6 4  
 兼方(けんぼう・勝部) → 兼方(かねまさ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) U 1 5 3 1  
 兼豊(けんぼう・ト部) → 兼豊(かねとよ・ト部うらべ/吉田、神職) C 1 5 8 9  
 兼豊(けんぼう・水無瀬) → 兼豊(かねとよ・水無瀬みなせ、廷臣/紀行) O 1 5 7 5  
 乾峯(けんぼう; 道号) → 士曇(しどん; 法諱・乾峯、臨濟僧) F 2 1 3 6  
 兼邦(けんぼう・ト部) → 兼邦(かねくに・ト部うらべ/吉田、神職/歌) O 1 5 4 6  
 兼傍(けんぼう・石井) → 盛時(もりとき・石井いし、幕臣、記録) F 4 4 9 1  
 顕房(けんぼう・源) → 顕房(あきふさ・源、右大臣/歌人) 1 0 1 2  
 建房(けんぼう・万里小路) → 建房(たけふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/記録) O 2 6 7 1  
 賢房(けんぼう・勸修寺/万里小路) → 賢房(かたふさ・万里小路、廷臣/日記) N 1 5 0 8  
 兼房(けんぼう・藤原) → 兼房(かねふさ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 5 3 4

- 兼邦(けんぼう・ト部) → 兼邦(かねくに・ト部うらべ/吉田、神職/歌) O 1 5 4 6
- N1831 元方(げんぼう:道号・正楞しょうりょう:法諱)?-1449 禅僧;五山文学者、1449頃「越雪集」著
- M1832 玄方(げんぼう:法諱・規伯きはく:道号) 1588-1661 74 筑前宗像の臨濟僧;景輒玄蘇門/1611上京;東福寺南禅寺で修業/1619対馬以酌庵2世、1621・29朝鮮に使いし朝鮮諸名家詩文集蒐集、1634朝鮮に偽書送付の罪(国書改竄事件;柳川調興しげおきの暴露);南部に配流、1658赦免;南禅寺語心院住持、建長寺公帖/大阪住、1650「仙巢稿」編/50「無門関私鈔」、「般若心経鈔」著、[規伯玄方の号] 劫外ごうがい/自雲、
- M1833 玄峯(げんぼう:道号・淵竜えんりゅう:法諱) 1642-? 1681存 武蔵曹洞僧;葛飾郡見性寺住持、「如浄禅師語録夾鈔」著
- M1834 元鳳(げんぼう・滕とう、名;継文)?-1756 江中期儒者/漢学;「芸苑録」撰(滕義鄰[眉山]校訂)
- M1835 元鳳(げんぼう・東儀とうぎ、元信男/本姓太秦うずまさ) 1793-? 1845存 楽人/1828阿波守/従五上、「筆築仮名案譜」伝
- M1836 元鵬(げんぼう・中山なかやま、名;安碩)?-? 江後期;京の東洞院四条北の医者、儒者摩島松南と親交;1840「松南先生伝」著、[元鵬(;通称)の字/号]字;万里、号;松陰/丹波元鵬
- 巖宝(げんぼう:法諱) → 巖宝(ごんぼう、一条兼良男、真言僧) E 1 9 8 0
- 巖包(げんぼう・柳生) → 巖包(としかね・柳生、連也斎、剣客) J 3 1 4 6
- 元方(げんぼう・在原) → 元方(もとかた・在原ありわら、古今冒頭歌人) C 4 4 3 0
- 元方(げんぼう/もとかた・佐野) → 琴嶺(きんれい・佐野さの、藩士/漢学者) I 1 6 4 1
- 元宝(げんぼう・齋藤) → 元宝(もともとみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5
- 元邦(げんぼう・鈴木/鱸) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸すずき、詩人) R 2 2 5 6
- 元邦(げんぼう・神谷) → 元邦(もとくに・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 1
- 元鳳(げんぼう) → 昭陽(しょうよう・亀井、南冥男/儒/詩人) B 2 2 8 5
- 元鳳(元朋げんぼう・福田) → 少室(しょうしつ・福田ふくだ/田、藩士/儒) J 2 2 4 4
- 元鳳(げんぼう・左合) → 竜山(りゅうざん・左合さごう/左、詩人/能書) E 4 9 1 4
- 元鳳(げんぼう・篠野) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩) H 1 1 9 2
- 彦鳳(げんぼう) → 箕山(きざん・由良ゆら、医/儒者) K 1 6 5 7
- 玄芳(げんぼう:法諱) → 叔苗(しゅくみょう・玄芳、曹洞僧) Y 2 1 6 9
- 玄芳(げんぼう・今西) → 正立斎(しょうりつさい・今西いまにし、神職/医者) B 2 2 9 4
- 玄包(げんぼう・渡辺) → 玄包(はるかた・渡辺わたなべ、神職/国学) L 3 6 0 0
- 玄峰(げんぼう・杉野) → 翠兄(すいけい・杉野すぎの、俳人) 2 3 4 4
- 玄鳳(げんぼう) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
- 元鳳(げんぼう・岡) → 澹斎(たんさい・岡、医/儒/本草) T 2 6 4 8
- 弦峯(げんぼう・池田) → 政雍(まさやす・池田いけだ、藩士/代官) N 4 0 5 3
- 言方(げんぼう・林) → 言方(ことかた・林はやし、商家/国学/歌) R 1 9 1 5
- D1804 玄昉(げんぼう、俗姓;阿刀あと)?- 746 奈良前期法相僧、入唐(716-35)、興福寺で法相宗布教、法相宗四伝、皇太夫人宮子の治病により栄寵を受ける;広嗣乱の原因、筑紫観音寺左遷
- 玄尨(げんぼう・堀) → 照明(ひろあき・堀ほり、藩士/儒者) F 3 7 4 8
- 元懋(げんぼう・毛利) → 元敏(もとし・毛利もうり、藩主/歌人) L 4 4 7 0
- 元房(げんぼう・大岡) → 元房(もとふさ・大岡おおおか/杉本、国学/歌) J 4 4 5 1
- 懸匏庵(けんぼうあん) → 東陽(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者) H 3 1 8 2
- 元方院(げんぼういん;法号) → 正毅(まささね・堀田/紀、藩主/文学) C 4 0 6 3
- 研芳園(けんぼうえん) → 貞丈(さだとも・設楽/菅原、幕臣/本草) I 2 0 9 3
- 健忘斎(けんぼうさい・喜多) → 古能(このう・ひさよし・喜多きた、能楽師) N 1 9 3 5
- 玄銚子(げんぼうし) → 雅胤(まさたね・臼井/平/千葉、伯家神道) D 4 0 5 7
- 健忘舎(けんぼうしゃ) → 水樹(すいじゅ・福島ふくしま、俳人) E 2 3 6 4
- 玄峰堂(げんぼうどう) → 嵐雪(らんせつ・服部、俳人) 4 8 0 6
- 玄峯堂(げんぼうどう) → 魚文(うまぶん・三級亭、俳人) D 1 6 6 8
- 萱坊大僧都(げんぼうのだいそうず) → 実継(じつけい;法諱、真言僧/醍醐寺座主) U 2 1 5 9

- 縑浦漁者(けんぼぎょしゃ) → 秀堅(ひでかた・清宮せいみや、農業/国学者) C 3 7 9 8  
 E1841 見樸(見朴けんぼく・村井むらい、別名;朴、知安[能敦]男) 1702-6059 熊本の医者:父門、医業、  
 天文曆算に精通/儒;佐藤固庵・藪慎庵・熊谷竹堂門、失明、熊本藩校再春館創設;医学教授、  
 「再春館規律」「肥後孝子紀事」「律原正説」「医学六事論」「復陽洞歌集」「復陽洞集」著、  
 [見樸(;名)の字/号]字;醇民/淳民/能章、号;復陽洞真人/蛻巖(ていがん)
- M1837 謙牧(けんぼく;字・高取、名;忠)?-? 江後期;岡山の鍼術・内科医、  
 1830仙台で医業/のち江戸住、1848「懸囊医案」著  
 研北(けんぼく・鈴木) → 抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者/詩) B 3 9 1 7  
 見朴(けんぼく・松原;変名) → 大円(だいえん・山田やまだ、蘭医者) J 2 6 2 8  
 賢木(けんぼく)すべて → 賢木(さかき)
- M1838 玄璞(げんぼく・回生庵;号、別名;可敬)?-? 医者;曲直瀬まなせ玄朔門、  
 1583「運氣鈔」/1635「運氣論口義」「運氣論奥得助図」/38「医方大成口義」著
- E1852 玄朴(げんぼく・桃林軒) ?-? 江前期の漢学者;漢書研究、  
 1658明の凌雅隆「漢書評林」に加点し刊行
- M1839 玄朴(げんぼく・伊東いとう/執行、執行重助の長男) 1800-7172 肥前の農家/佐賀藩士伊東祐章の養子、  
 漢方医;1817開業/蘭方医;1822島本竜嘯門/1823長崎で蘭語;猪股伝治右衛門門、  
 1823西洋医学;シボル門/28江戸で開業/シ事件連座し入獄/1831(天保2)佐賀藩医、  
 1858江戸神田お玉ヶ池の種痘所開設/幕府奥医:法印;長春院を賜号、西洋医学所開設、  
 安政大獄に連座処罰、「牛痘種法」「医統類案」「三名哲牛痘図」「西洋薬譜下」著、  
 1835-58「医療正始附医院類案」、「謨斯篤牛痘編」「越児実幾経験書」訳/外訳書多数、  
 [玄朴(;通称)の名/字/号]名;勘助/勘造/淵、字;伯寿、号;冲斎/長斎/伍斎、法号;長春院
- 玄ト(げんぼく・田宮) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆) I 1 6 6 4  
 玄朴(げんぼく・鈴木) → 泰平(やすひら・鈴木すずき、医者/歌人) G 4 5 0 7  
 玄朴(げんぼく・鈴木) → 重任(しげとう・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 2  
 玄牧(げんぼく・号) → 湛然(たんねん;法諱、僧/国学) Y 2 6 1 9  
 賢木園(けんぼくえん/さかきのその) → 広前(ひろさき・内藤、国学者) F 3 7 8 0  
 賢木園(けんぼくえん/さかきのその) → 高鞞(たかとも・鈴木、神職/国学) D 2 6 2 6  
 元磨(げんま;法諱) → 羅山(らざん;道号・元磨、臨濟僧) B 4 8 3 7  
 見慶軒(けんまけん) → 洞天(とうてん;道号・恵水えすい、臨濟僧) G 3 1 6 9  
 県磨(けんまる・斎藤) → 幸孝(ゆきたか・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 6 3  
 元磨(げんまる・松平/新清) → 元磨(元丸もとまる・新清/松平/谷口、国学) E 4 4 3 3  
 兼満(けんまん・ト部) → 兼満(かねみつ・ト部うらべ/吉田、神職) O 1 5 9 6  
 謙満(けんまん・井上) → 眞澄(ますみ・井上いづえ、神職/国学) N 4 0 2 9  
 言満(げんまん・寺町) → 百庵(ひゃくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3  
 元満(げんまん/もとまる・孫福) → 公好(きみよし・孫福ごふく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1  
 彦満(げんまん・宗) → 義眞(よしざね・宗そう/平、藩主) D 4 7 5 1  
 巖満(げんまん・石塚) → 資元(すけもと・石塚/大中臣/河端、神職/歌) H 2 3 2 4  
 玄味子(げんみし、「北里歌」著) → 寛斎(かんさい・市河、詩人) 1 5 4 8
- M1840 元密(げんみつ;法諱、禅巖[禅岩]ぜんがん:道号)?-? 江前期黄檗僧・悦山道宗門/1678嗣法、  
 肥前仏心寺住/1697撰津舍利尊勝寺住持、1677「悦山禅師語録」編/99「禅巖禅師語録」著  
 元密(げんみつ・三野) → 象麓(しょうろく・三野みの、漢学者) C 2 2 1 6  
 健宮(けんみや→かたみや) → 教仁法親王(きょうにんほつしんのう、天台座主) O 1 6 4 4
- M1841 元脈(げんみやく;法諱・遠谿えんけい:道号)?-? 1691存 黄檗僧、1691鉄牛道機(てつぎゅう)の嗣法、  
 「鉄牛和尚年譜」編、1687「鉄牛禅師周甲寿章」編  
 元脈(げんみやく;法諱) → 鉄宗(てつそう;道号・元脈、黄檗僧) E 3 0 7 2
- E1855 顕妙(けんみょう) ?-? 江初期俳人、1633重頼「犬子集」2555
- M1842 賢明(けんみょう;法諱) ?-? 江初期真言僧;空性法親王に随従/権僧正、  
 1638「空性法親王四国霊場御巡行記」著
- M1843 顕明(けんみょう;法諱) ?-? 江後期大阪真宗大谷派善覚寺住職、  
 1849「臨水洗耳」、「安心要決」「安心秘辯」「安心十要問答」「御袖御文聞書」著

- M1844 **顕明**(けんみょう;法諱、別法諱;逸心、俗姓;藤林)?-? 江後期京の真宗大谷派西宗寺住職、  
「津梁余事詩鈔」著  
憲明(けんみょう;字) → 道盈(どうえい;法諱、真言学僧) B 3 1 3 6  
賢明(けんみょう;字、天台僧) → 日什(にちじゅう;法諱・玄妙、日蓮僧) C 3 3 1 4  
顕妙(けんみょう・北条) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2
- D1809 **元妙**(げんみょう;法諱、俗姓;松田)?-? 南北期僧、歌;新千載1796
- M1845 **玄妙**(げんみょう;法諱、長光寺住職廓静男)1794-1862<sup>69</sup> 越中砺波真宗本願寺派僧/光西寺住、詩人、  
「先哲遺事」著  
[玄妙の号] 痴王/国分山叟/宗名、兄;雪象/弟;志崇  
元明(げんみょう;法諱・良哉) → 良哉(りょうさい;道号・元明、臨濟僧) H 4 9 5 8  
元苗(げんみょう;法諱・眞浄) → 眞浄(しんじょう;道号・元苗、臨濟僧) O 2 2 9 3  
元明(げんみょう;法諱) → 悟心(ごしん;道号・元明;法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2  
元妙(げんみょう;名) → 勝算(しょうさん/-ざん;法諱、黄檗僧) U 2 2 9 4  
玄明(げんみょう;字) → 祐誠(ゆうじょう;法諱・字;玄通、修験僧) C 4 6 6 2  
玄妙(げんみょう、玄妙阿闍梨) → 日什(にちじゅう;法諱、日蓮僧) C 3 3 1 4  
源妙院(げんみょういん) → 日玄(にちげん;法諱、日蓮僧) B 3 3 7 0  
顕民(けんみん・三好) → 清房(きよぶさ・三好みよし、藩士;重臣) V 1 6 3 3
- M1846 **元珉**(げんみん・生駒いこま、名;光長、元説男)?-1788 京の医者/家督継承、御医/法印、  
1752「本草秘録」著  
[元珉(;通称)の号] 号;君石、法号;崇高院法印明誉元珉居士  
元民(げんみん・種/種村) → 箕山(きざん・種村たねむら、儒者/詩) F 1 6 3 9  
元民(げんみん・黒田) → 梁洲(りょうしゅう・黒田くろだ/森、藩士/儒) H 4 9 8 6  
元珉(げんみん・安平治、医者) → 三蔵(さんざう・難波、浄瑠璃・歌舞伎作者) G 2 0 0 0  
元珉(げんみん・三宅) → 蒼陽(しょう・三宅みやけ、漢学;道教普及) G 2 2 4 5
- E1856 **幻夢**(げんむ) ? - ? 談林系俳人/西鶴の主張を継嗣;浮世草子作者、  
晩年の西鶴が京で俳諧興行の際幻夢がたびたび執筆役、1697「西鶴冥途物語」著
- O1835 **玄夢**(げんむ;法諱) ? - 1711 京の浄土宗鎮西派僧;西往寺5世住職、  
歌;宮川松堅門、没後;1722松堅[倭詞五十人一首]入、  
[山風にあへずちりぬる桜花常なきものと世をしらすらむ](倭詞五十人一首;13春無常)、  
[玄夢の法号]称蓮社念誉真阿快道
- D1811 **元夢**(げんむ・森田もりた、名;秀安/幼名三太郎)?-1802 常陸布川俳人;馬光・素丸2世門、葛飾派宗匠、  
今日庵で執筆役、1774百番句相撲(評論)/78「三篇五色墨」野逸と共編、84「俳諧節用集」著、  
1788「俳諧五十三駄」89「俳諧千題集」97「俳諧江戸巡礼集」編、98「芭蕉会」著、  
[元夢の別号] 老我/柏翁[栢翁]/安袋/三太坊、今日庵2世
- D1810 **玄無**(げんむ;法諱、俗姓;川喜田かわきた/川北/菅原、名;光盛)1685-1755<sup>71</sup> 伊勢阿濃津の商家の生;  
川喜田久太夫家9代、1722(享保7)出家;真言僧、上京、歌;武者小路実陰・高松重季父子門、  
法輪寺住、1861「爾然齋玄無法師家集」著、  
[玄無の通称/号]通称;久太夫、号;爾[自]然齋(ねんさい)  
元務(げんむ・伊藤) → 担庵(たんあん・伊藤、医/儒/詩歌) 2 6 8 6  
幻夢山人(げんむさんじん) → 長英(ちやうえい・高野たかの、蘭医者) H 2 8 3 9  
賢明(けんめい・建部) → 賢明(かたあきら・建部、幕臣/和算家) M 1 5 8 8  
賢明(けんめい) → 賢明(けんみょう、真言僧) M 1 8 4 2  
賢明(けんめい → けんみょう、天台僧) → 日什(にちじゅう;法諱・玄妙、日蓮僧) C 3 3 1 4  
賢明(けんめい・阿部) → 正方(まさかた・阿部あべ、賢明藩主) C 4 0 0 2  
顕明(けんめい) → 顕明(けんみょう、大阪真宗大谷派僧) M 1 8 4 3  
顕明(けんめい、俗姓藤林) → 顕明(けんみょう、京真宗大谷派僧) M 1 8 4 4  
憲明(けんめい → けんみょう) → 道盈(どうえい;法諱、真言学僧) B 3 1 3 6
- M1847 **玄溟**(げんめい;法諱、臥叟がそう;道号)?-1772 曹洞宗山形金勝寺14世、無倫大愚門、  
「無倫愚和尚行業記」/「無倫愚和尚語録」著(1780刊)  
玄明(げんめい;字) → 祐誠(ゆうじょう;法諱・字;玄通、修験僧) C 4 6 6 2

- 玄明(げんめい、玄明窩) → 信季(のぶすえ・佐藤、殖産家) B 3 5 6 5  
 玄明(げんめい・河上) → 玄明(はるあき・河上かわかみ、剣術/攘夷論) K 3 6 0 0  
 彦明(げんめい・村尾) → 元融(げんゆう・村尾、医/儒/国学者) D 1 8 1 7  
 彦明(げんめい・岩垣) → 竜溪(りゅうけい・巖[岩]垣/三善、儒者) D 4 9 5 3  
 彦明(げんめい・唐崎) → 広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人) G 1 9 4 4  
 元明(げんめい・伊東) → 勃海(ぼっかい・伊東いとう、儒者) E 3 9 5 4  
 元命(げんめい・西郷) → 元命(もとのぶ・西郷さいごう、家老/国学/歌) K 4 4 0 4  
 元命(げんめい→もとなが・田中) → 佳政(よしまさ・田中/山野、藩士/和算/神道) H 4 7 0 1  
 原明(げんめい・神屋) → 立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕) B 4 9 7 1  
 原明(げんめい・米屋/殿村) → 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8  
 見明淵(けんめいえん・田島) → 養元(ようげん・田島たじま、医者) 4 7 7 8  
 玄明窩(げんめいか) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2  
 兼明親王(けんめいしんのう) → 兼明親王(かねあきらしんのう、詩歌) 1 5 2 8  
 1830 元明天皇(げんめい、阿閩皇女あへのひめみこ、天智帝皇女、草壁皇子妃) 661-721<sup>61</sup> 女帝;在位707-715、  
 708和銅開珮鑄造/710平城宮遷都、「古事記」・「風土記」編纂勅命、  
 万葉二・三期歌人;3首35・76・78/22左注、新古896、諡;日本根子天津御代豊国成姫天皇、  
 母;蘇我山田石川麿女姪娘めいのおとめ、文武・元正天皇の母  
 [飛ぶ鳥の明日香の里を置きて去いなば君があたりは見えずかもあらむ](万葉;一78)  
 (遷都のため平城京に向かう途中の詠;君があたりは亡夫草壁の墓のある真弓の岡)  
 兼茂(けんも・佐竹) → 兼義(かねよし・佐竹さたけ/源、武家/連歌) P 1 5 0 6  
 兼茂(けんも・藤原) → 兼茂(かねもち・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 1 5 1 1  
 兼茂(けんも・卜部) → 兼茂(かねしげ・卜部うらべ、神職) O 1 5 5 1  
 兼茂(けんも・広橋) → 兼茂(かねしげ・広橋ひろはし、廷臣/記録) O 1 5 5 3  
 見茂(けんも・稻生) → 恒軒(こうけん・稻生いのう、医者/漢学) I 1 9 5 3  
 D1812 玄茂(げんも) ? - ? 江前期俳人:長崎貞門派、1657燕石「牛飼」入  
 D1813 玄茂(げんも、半盛斎) ? - ? 江後期越中高岡俳人、1857雑俳「狐の茶袋三篇」編  
 玄茂(げんも・斉藤) → 釣雪老人(ちようせつろうじん・斉藤、幕臣/故実) J 2 8 2 7  
 元茂(げんも・鍋島) → 元茂(もとしげ・鍋島なべしま、藩主/兵法家) C 4 4 5 9  
 元茂(げんも・桜井さくらい) → 元茂(もとしげ・桜井さくらい、藩士/国学者) C 4 4 6 2  
 元茂(げんも・後藤) → 黙斎(もくさい・後藤ごとう、藩儒) 4 4 8 3  
 元茂(げんも・三宅) → 元茂(もとしげ・三宅みやけ/近藤、藩士/剣術) L 4 4 5 2  
 賢猛(けんもう・片岡) → 喜平治(きへいじ・片岡かたおか、藩士/経済) L 1 6 8 6  
 玄黙(げんもく・中村) → 春野(はるの・中村なかむら、藩士/国/史学) G 3 6 6 7  
 玄黙(げんもく;号) → 法定(ほうじょう;法諱、真宗高田派僧) B 3 9 7 7  
 M1848 監物(けんもつ;字・青柳あおやぎ、名;明吉/通称;外記) 1682-1739<sup>58</sup> 羽後大館の武道家/剣・槍術、  
 剣;非流/槍術;非刊流・一簣流、1694大館城代佐竹西家に出仕、  
 「温知平談」「非刊流一簣流」「非刊流一簣流手鑑」著  
 M1849 監物(けんもつ;通称・佐野さの、名;知堯、法諱;良寿/法号;仙翁) 1687-1769<sup>83</sup> 三河の真言僧;  
 徳宝院14世、権大僧都/還俗;寺子屋師匠、地誌、「三河国聞書」著、  
 1740「三河国二葉松」編;三好紀隆ら参加  
 M1850 監物(けんもつ・斎藤さいとう、名;一徳、文静男) 1822-60<sup>39</sup> 常陸那珂郡静社神官;父を継承、弘道館祠官、  
 儒;加倉井砂山・藤田東湖門/剣術;神道無念流、水戸藩主徳川斉昭の宗教政策に協力、  
 藩主謹慎に神官を率いて老中に越訴;禁錮4年/1860桜田門外で直弼襲撃;重傷/吟味中没、  
 「弘道館鹿島神社掛御用留」「東照宮奉仕兼職御用留」著、  
 [監物(;通称)の号/変名]号;文里ぶんり、変名;佐々木馬之介  
 M1851 監物(けんもつ;通称・角井ついで) ? - ? 江後期;武州氷川神社神職、「武蔵一宮略縁起」著  
 監物(けんもつ・小田) → 成胤(なりたね・小田おだ、神職) H 3 2 5 8  
 監物(けんもつ・松木) → 言彦(のぶひこ・松木、神職/日記) C 3 5 8 9  
 監物(けんもつ・檜垣/松木) → 品彦(ただひこ・松木/度会、神職) Q 2 6 5 5

監物(けんもつ・知久) → 頼久(よりひさ・知久ちく、旗本/領主/歌) N 4 7 9 0  
 監物(けんもつ・徳川) → 治貞(はるさだ・徳川とくがわ、藩主/文筆家) G 3 6 3 4  
 監物(けんもつ・一柳) → 直興(なおおき・一柳ひとつやなぎ、藩主/改易) O 3 2 5 1  
 監物(けんもつ・内藤) → 忠通(ただみち・内藤ないとう、幕臣/和学者) Y 2 6 4 8  
 監物(けんもつ・生駒) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5  
 監物(けんもつ・松平) → 定静(さだきよ・松平、藩主/歌/紀行) I 2 0 1 2  
 監物(けんもつ・伊勢) → 貞意(さだおき/さだむね・伊勢いせ/平、故実家/藩士) J 2 0 8 5  
 監物(けんもつ・仙石) → 政和(まさかず・仙石/源、幕臣/和漢学) B 4 0 7 6  
 監物(けんもつ・橋村) → 正令(まさのり・橋村はしむら/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2  
 監物(けんもつ・福井) → 公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職) M 1 6 0 2  
 監物(けんもつ・小寺) → 清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌) H 1 6 5 8  
 監物(けんもつ・小林) → 卓斎(たくさい・小林こばやし、書家) N 2 6 9 9  
 監物(けんもつ・前田) → 孝連(たかつら・前田まえだ、監物家/藩主) M 2 6 3 3  
 監物(けんもつ・黒沢) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4  
 監物(けんもつ・孫福) → 弘運(ひろかず・孫福まごぶく/度会、神職) F 3 7 6 9  
 監物(けんもつ・滝原) → 宋閑(そうかん・滝原たきはら、医者/歌人) G 2 5 7 3  
 監物(けんもつ・松前) → 広長(ひろなが・松前、藩家老/修史事業) G 3 7 5 9  
 監物(けんもつ・成瀬) → 種徳(たねのり・成瀬なるせ、藩士/記録) R 2 6 9 4  
 監物(けんもつ・成瀬) → 正教(まさあつ・成瀬、種徳孫/藩士/記録) B 4 0 1 8  
 監物(けんもつ・沢) → 益(おおい・沢さわ、歌人) B 1 4 8 6  
 監物(けんもつ・湯沢) → 誠好斎(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3  
 監物(けんもつ・石川) → 総昌(ふさまさ・石川いしかわ、旗本/幕臣) H 3 8 9 9  
 監物(けんもつ・吉川) → 経幹(つねまさ・吉川きつかわ、領主/日記) D 2 9 7 8  
 監物(けんもつ・林) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0  
 監物(けんもつ・大條) → 道直(みちなお・大條おおえだ、藩士/奉行) J 4 1 5 7  
 監物(けんもつ・有馬) → 篤長(あつなが・有馬ありま、藩国老/国学) G 1 0 9 1  
 監物(けんもつ・安元) → 真満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9  
 監物(けんもつ・蓬萊) → 尚広(ひさひろ・蓬萊/荒木田、神職/日記) B 3 7 8 7  
 監物(けんもつ・常磐井) → 守貫(もりつら・常磐井ときわい、神職/歌人) K 4 4 5 0  
 監物(けんもつ・大伴) → 千秋(ちあき・大伴おおとも/加藤/高師連、神職) M 2 8 2 4  
 監物(けんもつ・長岡) → 是容(これかた・長岡ながおか、藩老/国学) O 1 9 2 1  
 監物(けんもつ・森川) → 常倫(つねとも・森川もりかわ、藩士/和学者) G 2 9 6 2  
 監物(けんもつ・波多野) → 維徳(これのり・波多野はたの、神職/国学) R 1 9 1 2  
 監物(けんもつ・岡本) → 経威(つねたけ・岡本おかもと/賀茂、神職) F 2 9 4 9  
 監物(けんもつ・太田) → 宗喬(むねたか・太田おおた、神職/国学) D 4 2 6 9  
 監物(けんもつ・久松) → 長世(ながよ・久松ひさまつ/菅原、藩執政/歌) O 3 2 4 9  
 監物(けんもつ・三好) → 清房(きよふさ・三好みよし、藩士;重臣) V 1 6 3 3  
 監物丞(けんもつじょう・水野) → 守隆(もりたか・水野みずの/源、武将/連歌) F 4 4 5 6

M1852 玄門(げんもん/はるかど・山下/福沢、名;宥範) 1771-? 1850存 安房平群郡山下村大福院修験僧(山伏)、  
 医者;中川蒲亭門/俳人、1846「医事叢談」、50「千本の花」「養生新語」著、

[玄門(;通称)の号] 廖叟/寥叟/百蘿

玄門(げんもん;字) → 智幽(ちゆう;法諱・玄門、天台僧) F 2 8 6 5  
 元門(げんもん・三輪) → 元門(もとかど・三輪みわ/長尾、藩老/兵学) C 4 4 4 0  
 頭門院(けんもんいん;法号) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3  
 県門三才女(けんもんさんさいじょ);賀茂真淵門下の3人のすぐれた女流歌人  
 → 倭文子(しづこ・油谷) 1733-52 2 1 2 5  
 → 余野子(よのこ・鶴殿) 1729-88 4 7 3 1  
 → 筑波子(つくばこ・土岐) ?-?1761存 2 9 8 0  
 県門四天王(けんもんのしてんのう);賀茂真淵門下の4人のすぐれた歌人  
 → 千蔭(ちかげ・加藤) 1735-1808 2 8 0 3

- 春海(はるみ・村田) 1746-1811 3 6 3 6
- 魚彦(なひこ・楫取かとり) 1723-82 3 2 2 4
- 宇万伎(美樹うまき・加藤) 1721-77 1 2 8 5

県門十二大家(けんもんのじゅうにたいか);真淵門下12人のすぐれた歌人(「近世三十六家集略伝」記載)  
四天王を除くと次の8人

- 宣長(のりなが・本居) 1730-1801 3 5 2 4
- 久老(ひさおゆ・荒木田) 1746-1804 3 7 0 5
- 春郷(はるさと・村田) 1739-68 G 3 6 3 7
- 土満(ひじまる・栗田) 1737-1811 3 7 0 7
- 古道(ふるみち・小野) 1697-?1782存 E 3 8 6 9
- 常樹(つねき・橘) 1704-62 C 2 9 0 0
- 高豊(たかとよ・日下部) 1704?-67 D 2 6 3 0
- 景雄(かげお・三島自寛) 1727-1812 1 5 6 6

- 堅弥(けんや・江幡/那珂) → 梧楼(ごろう・那珂なか/江幡、藩士/儒者) G 1 9 5 6
- 兼弥(けんや・平尾) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2
- 兼也(けんや・三橋) → 雪忠雅(ゆきちゅうが、星善十郎、歌人) E 4 6 8 8

D1814 元也(玄也げんや) ? - ? 連歌師、1555天文梅千句連衆

M1853 玄治(げんや・岡本おかもと、名;宗什/諸品、重信男) 1587-1645 59 京医者;曲直瀬まなせ玄朔門、1618法眼、  
1623徳川秀忠の侍医/28法印/家光を治療;千石を領封、日本橋人形町住;玄治店の起源、  
「玄治方考」「玄治百一方」「玄治秘授口訣集」「燈下集」「家伝預葉集」、1638「医要方林」著、  
[玄治(;通称)の号] 号;啓迪院けいてきいん、法号;陶出

源弥(げんや・巖島) → 鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人) 3 9 5 8

元也(げんや・水島) → ト也(ぼくや・水島みずしま、故実家;礼法) E 3 9 0 1

玄野翁(げんやおう) → 玄透(げんとう:道号・即中、曹洞宗中興) L 1 8 8 0

俊籥(けんやくさい) → 雪村(せつそん:道号・周継:法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3

D1816 賢瑜(けんゆ:法諱) ? - ? 南北期1368-75頃名古屋真言僧;真福寺住僧:

1372古事記書写(真福寺本;2世信瑜の命)、「古事記索隠」「真言宗義抄」著

M1854 源愉(源瑜/源輸げんゆ:法諱、称;石橋僧正) ?-? 1334存 鎌倉天台僧;定林房・勝長寿院住、  
「石橋記」「三昧灌頂私記見聞」「三昧耶戒庭儀指図」「密門用心法度私」「台密次第三昧」著

D1815 源諭(げんゆ・多武峯僧正) ? - ? 13c末、保元・平治物語作者?

M1855 元瑜(げんゆ:法諱・初法諱;成遍じょうへん、字;大式、大納言源延光男) 1228-1319長寿92歳 真言僧;、  
西隠流元瑜方の祖、1252保寿院の印可/55西院流職位;宏教より受/62密灌;安祥寺良瑜門、  
1285御流;頼助門、1289頼助より醍醐流印可を受、権僧正、鶴岡八幡宮別当/鎌倉浄国院住、  
「血脈類集記」「縑緗けんしゅう秘伝抄」「西院相承事」「合行諸尊本紀」「臨終秘集」著

M1856 元瑜(玄瑜げんゆ:法諱・観如かんによ:字) 1756-1826 71 江戸愛宕山真言宗円福寺初世、  
学僧:1796謙順に従い諸法流を伝受、智積院弘基と並称される碩学、「伊呂葉引」編、  
「薄初重伝授要意」「厚雙紙伝授要意」「金宝集伝授要意」「作法集伝授要意」外著多数

阮瑜(げんゆ) → 南海(なんかい・祇園、儒/詩人/文人画) 3 2 3 0

M1857 兼有(けんゆう:法諱) 1349- ? 1388存 天台僧/権律師、1388「天真独朗鈔」著

D1819 憲雄(けんゆう:法諱) 1745 - 1797 53 天台僧/叡山玉照院住、薩摩南泉院住職を兼ねる、  
1784回峰千日行成就、僧正、1777「八千枚記同密印同護摩作業雑記」著

M1858 顕融(けんゆう;名・寺尾てらお、字;子明) ?-? 江後期代々日向延岡の医者、「傷寒論類証」著、  
1827「爾雅名物考」編/82「秘伝花鏡記聞」著

見勇(けんゆう・北見) → 星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者) H 2 4 9 7

賢友(けんゆう・勝) → 賢友(かたとも・勝かつ/源、藩士/歌人) U 1 5 2 7

賢雄(けんゆう;法諱・観覚) → 如禅道人(にょぜんどうじん、浄土僧/書画) G 3 3 0 5

賢雄(けんゆう・建部) → 賢之(かたゆき・建部たけべ、幕臣/和算家) 1 5 2 2

賢雄(けんゆう・木村) → 政信(まさのぶ・木村きむら、神道/国学) P 4 0 1 9

兼雄(けんゆう・吉田/卜部) → 兼雄(かねお・吉田/卜部、神道家) C 1 5 7 0

兼雄(けんゆう・関根) → 兼雄(かねお・関根せきね、歌人) T 1 5 0 7

- 兼友(けんゆう・ト部) → 兼友(かねとも・ト部うらべ、神職) O 1 5 7 3  
 兼右(けんゆう・清原/吉田/ト部) → 兼右(かねみぎ・吉田/ト部、神職) D 1 5 0 7  
 兼由(けんゆう・村瀬/久世) → 兼由(かねよし・久世くぜ、郷土史家) P 1 5 0 7  
 健雄(けんゆう・竹内) → 健雄(たけお・竹内たけうち、幕臣/国学者) O 2 6 2 7  
 建雄(けんゆう・竹内) → 建雄(たけお・浜野、綱元/国学) O 2 6 2 8
- M1859 玄祐(げんゆう) ? - ? 僧:権律師、連歌:1356成立「菟玖波集」2句入  
 M1860 玄宥(げんゆう;法諱・堯性/堯昌ぎょうしょう;字、吹上城主膝付又太郎男) 1529-1605 77 下野皆川真言僧、  
 1535(7歳)持明院宥日門;出家/紀州根来寺で修行/根来智積院住;秀吉による焼討、  
 南都で唯識三論華嚴を修学/園城寺で具舎を修学/叡山で天台を修学/1596僧正、  
 1596根来智積院を京に移設;中興1世、「両界口訣」「釈摩訶衍論破難抄」著  
 M1861 玄由(げんゆう;名・号;寿徳庵じゅとくあん/寿徳院)?-? 安桃・江戸前期1596-1624頃医者、連歌作者、  
 1613「知要一言」編/17「本草序例鈔」37「難経捷径」、「難経本義鈔」編、  
 連歌:1623「元和九年十一月十五日昌琢玄由等山何百韻」  
 M1862 玄幽(げんゆう;法諱・号;就安斎しゅうあんさい) 1580-1650 71 真言高野山の僧/医者、1652刊「大艸簡使」編、  
 「脈訣鈔」編/「医方大成論抄」注釈  
 01806 玄祐(げんゆう・有賀あるが、) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、  
 有賀長伯の一族?  
 [一声はきかぬ恨のそれよりも待ちえてつらきほととぎすかな](麓の塵;夏137)  
 M1863 元湧(げんゆう;法諱) ? - ? 江前期黄檗僧:鉄梅門?、1714「鉄梅禅師秉弘記」著  
 D1818 玄祐(げんゆう・河、河邑かゆう先生)?-? 漢学者/狂文・1770「前戯録」著(:服部蘇門序)  
 M1864 元佑(げんゆう・吉田よしだ) ? - ? 江後期大阪堂島船大工町住人、  
 1817「方鑿秘訣集成」著  
 元良と親族? → 元良(げんりょう・吉田よしだ、文筆家) N 1 8 0 4  
 M1865 玄祐(げんゆう・今泉いまいづみ、別号;白石庵) 1797-1874 78 陸前刈田郡白石領主片倉氏の侍医、  
 医;典薬頭高階安藝守門、1865仙台藩並医師、1860「療治夜話」著  
 M1866 玄雄(げんゆう;法諱・蔡華;号、諡号;勝行院、俗姓遠藤) 1804-81 78 真宗本願寺派僧、  
 筑前宗像正蓮寺住職、宗学;竜華門、大阪専念寺住職/1843司教/52勸学職、  
 「真宗二百論題」「易行品聴記」「一枚起請文聞記」「教格変換得失論」「真宗行信逢源艸本」、  
 「先哲講辯叢誌」外著多数  
 D1817 元融(げんゆう・村尾むらお、医者元慶男) 1805-52 48 遠江浜松の医者/和漢学者、医;久保寿軒門、  
 儒者;1820朝川善庵門、幕臣新見正路に出仕/1849浜松藩儒、  
 国学;栗田士満門/考証学を研究、  
 1838「璞水小稿」著、47「続紀索引」編/49「続日本紀考証」「村尾元融手稿嘉永己酉日記」著、  
 「続日本紀逸文」編/「読史記」著、養嗣子;嘯山、  
 [元融(;名)の字/通称/号]字;薰叔/董叔/東叔/彦明、通称;良治/善四郎、  
 号;松蔭/松蔭野史/楸軒外史、  
 元有(げんゆう・小林) → 元有(もとあり・小林こばやし/林、国学者) J 4 4 9 5  
 元有(げんゆう・小林) → 緑樹園(りよくじゅえん・小林、商家/狂歌) J 4 9 7 7  
 元雄(げんゆう・中西/西村) → 白賁(はくひ・服部/中西/西村、儒者) D 3 6 8 2  
 元雄(げんゆう/もとお・下郷) → 亀世(きせい・下郷しもさと、造酒業/俳人) B 1 6 3 4  
 元雄(げんゆう・田村) → 藍水(らんすい・田村/坂上/大谷、医官/本草) C 4 8 7 2  
 元雄(げんゆう・油井) → 牧山(ぼくざん・油井ゆい、藩儒/詩人) D 3 9 2 8  
 元雄(げんゆう・高宮) → 元雄(もとお・高宮たかみや/柿原、藩医) K 4 4 4 2  
 元裕(げんゆう・松本) → 古堂(こどう・松本まつもと、儒者/勤王) D 1 9 4 3  
 元祐(げんゆう/もとしげ) → 基佐(元佐もとしげ・桜井さくらい、連歌師) 4 4 1 3  
 玄又(げんゆう・岡部) → 拙斎(せつさい・岡部、藩儒/詩人) E 2 4 2 8  
 玄融(げんゆう・深見) → 頤斎(いさい・深見ふかみ/高、書家) E 1 1 2 4  
 玄雄(げんゆう;法名) → 義治(よしはる・六角/源/佐々木、武将) G 4 7 0 6  
 玄雄(げんゆう・下郷) → 蝶羅(ちようら・下郷しもさと、醸酒業/俳人) K 2 8 0 7  
 玄祐(げんゆう;初法諱) → 円澄(えんちよう;法諱、真宗大谷派僧) F 1 3 2 2

- 玄勇(げんゆう・北見) → 星月(せいげつ・北見きたみ、和算家/医者) H 2 4 9 7  
 弦雄(げんゆう・木村) → 弦雄(つるお・木村きむら、藩士/国学者) F 2 9 6 0  
 源祐(げんゆう/げんすけ・西川) → 竜章堂(りゅうしょうどう・西川にしかわ、書家) E 4 9 7 3  
 彦雄(げんゆう・日置) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4  
 巖雄(げんゆう・荻原) → 巖雄(よしお・荻原おぎわら/日下部、歌人) M 4 7 0 7  
 玄猷国師(げんゆうこくし) → 疎石(そせき;法諱・夢窓;道号、臨濟僧) 2 5 2 4  
 顕幽斎(けんゆうさい・逸見) → 一信(かずのぶ・逸見へんみ、絵師) M 1 5 3 7  
 D1820 兼誉(けんよ;法諱、覚興男or覚眞男?)?-? 鎌倉期叡山僧?、法眼/歌:頓阿と親交、  
 続現葉入集、勅撰5首;新後撰(986)続千載(4首542/900/1213/1690)、  
 [待ちわびてふけゆく月の影のみや寝ぬ夜の袖の涙とふらむ](新後撰;恋986)  
 N1828 兼誉(けんよ;法諱、蓮淳;字、号;光応寺、幼名光徳丸、兼寿[蓮如]男)1464-1550<sup>87</sup> 浄土真宗僧、  
 一時本山を離れるが復帰;河内顕証寺(旧西証寺)住職/伊勢長島顕証寺・河内敬応寺創建、  
 「實如上人御往生同御葬礼並御中陰之次第」著  
 D1821 兼与(けんよ・猪苗代いなわしろ、別号;看松斎、兼如けんによ男)1584-1632<sup>49</sup> 仙台藩抱え連歌師、  
 藩主政宗に出仕;京で藩の情報収集/法橋、歌;近衛信尹門/古今伝授を受、養嗣子;兼説、  
 1611「伊達家八百韻」参加、「兼与法橋直唯聞書」著、  
 「兼与梧両吟百韻」「兼与春等何木百韻」、  
 猪苗代家系譜 → 兼載(けんさい・猪苗代、連歌師) 1 8 1 3  
 M1867 憲誉(けんよ;法諱・富明ふみょう;字、俗姓;飯塚)1774-1838<sup>65</sup> 越後新道村真言僧;1786明蔵寺貞誉門、  
 1794豊山長谷寺修行/諸寺転住/1804豊山再入山/26下総千葉妙見寺住、  
 「兼山浄音記」「御流神道灌頂事理記」「御流神道諸大事部集」1820「御流神道許可作法」著  
 謙誉(けんよ・忍了) → 忍了(にんりょう・謙誉、浄土僧) G 3 3 8 0  
 謙誉(けんよ・紅葉社) → 暢妙(ちやうみょう;法諱、浄土僧) M 2 8 9 4  
 顕誉(けんよ・明蓮社) → 祐天(ゆうてん;法諱・愚心、浄土僧) D 4 6 4 6  
 見誉(けんよ・名蓮社) → 善悦(ぜんえつ;法諱・退堂、浄土僧) L 2 4 7 2  
 賢誉(けんよ;初法諱) → 尋海(じんかい;法諱、真言僧) N 2 2 6 5  
 遣誉(けんよ・招蓮舎) → 眞徹(しんてつ;法諱、浄土僧) P 2 2 4 2  
 D1822 玄誉(げんよ;号?) ? - ? 戦国期明応-大永1492-1528頃浄土僧/歌僧、  
 京・大和住、歌学「釣舟」「玄誉抄」1497「初心導書」著、「玄誉法師詠歌聞書」宣光編  
 宣光と同一? → 宣光(せんこう;法諱、桐下老人、浄土僧/歌) F 2 4 3 6  
 D1823 玄与(げんよ・阿蘇あそ、名;惟賢/惟永、惟前男/本姓;宇治?)?-? 1624存 安桃期武将:肥後矢部城主、  
 1587秀吉西征を迎撃;阿蘇で島津義弘に忠勤、  
 1596薩摩配流の近衛信輔[信尹のぶただ]が赦免された際に帰京に随行/京で幽斎紹巴らと交流、  
 歌;1596-97「玄与日記」著(;歌文日記)、連歌;1596昌叱玄旨らと「薄何百韻」、  
 [玄与(;出家号)の通称/別号]通称;新九郎/内記、別号(出家号);黒斎/黒斎  
 M1868 玄与(げんよ;名・杉田すぎた、通称;勘兵衛/勘兵衛尉、号;良庵?)?-? 江初期京三条東洞院の書肆、  
 1631刊「済民記」著  
 M1869 元興(元興げんよ・中野なかの、字;伯圭、順台男)1762-1822<sup>61</sup> 岩代二本松藩医/藩校敬学館教授、  
 詩文;「梅隠遺稿」、  
 [元興の別名/通称/号] 別名;玷(てん・かける/玄興、通称;杏順(祖父の同称)、号;梅隠  
 玄誉(げんよ;法名・信蓮社) → 知鑑(ちかん;法諱、浄土僧) C 2 8 3 1  
 玄誉(げんよ・法名) → 円罔(えんけい;法諱、浄土僧) E 1 3 6 2  
 玄誉(げんよ・法名) → 行誠(ぎょうかい;法諱・福田、浄土僧) N 1 6 4 6  
 玄与(げんよ・原) → 南陽(なんよう・原はら、医者) 3 2 4 5  
 玄与(げんよ・塙) → 直利(なおとし・塙はなわ/原田、幕府医者) O 3 2 3 9  
 彦誉(げんよ・光蓮社) → 察罔(さつげい;法諱、浄土僧) K 2 0 5 1  
 巖誉(げんよ;法名・戒蓮社) → 陳阿(ちんあ;法名、浄土僧/国学) K 2 8 5 5  
 元予(げんよ・小篠) → 源左衛門(げんざえもん・小篠おささ、弓術家) J 1 8 1 0  
 元誉(げんよ・徳蓮社) → 法道(ほうどう;法諱、浄土僧) C 3 9 4 0  
 源誉(げんよ・貞蓮社) → 存応(ぞんのう;字、浄土僧/増上寺発展) F 2 5 7 2

- 源誉(げんよ・肇蓮社) → 随流(ずいりゅう・ずいる;法諱・一法、浄土僧) F 2 3 1 4
- M1870 賢耀(けんよう;法諱) 1322 - 139473 南北期真言僧;権僧正、高野山西方院住、1378「観心寺諸堂巡礼記」、「行法用心事」著
- N1898 謙養(けんよう;法諱・宮田/本姓;役)1773-184068 常陸多賀郡河原子村の修験僧/東光院法印、島崎篤親あつちかを養子とす(宮田篤親は平田学を修学/神道家となる)、和学者、[謙養の号] 六和/寂斎
- M1871 元用(げんよう;法諱) ? - ? 1486存 浄土僧/連歌:寛政文明1460-1486頃活躍;宗祇/肖柏/杉原賢盛/明智頼宣らの連歌会に参加、1462「何人百韻」66「何人百韻」83「何路百韻」86「何木百韻」連衆など、[消えがての雪や船路ふなちの沖津波](寛正七年1466 賦何人;初表第五句/春の白浪を残雪と見る、前句;英仲;帰るや雁の友したふらん)
- N1835 元養(げんよう/元美?) ? - ? 江中期俳人、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、[雪窓や残る詩机哥几うたぐえ](しぐれの碑/貞峨は和漢の才人)
- E1857 元養(げんよう;法諱・百拙ひやくせつ;道号、俗姓;原田)1667-174983 京禅僧、1681(15歳)出家;臨濟僧、東海祖津・大随道機門、黄檗僧;高泉性激しょうとん門に転宗した大随道機に随従;大随に嗣法、山城伏見仏国寺9世/但馬豊岡興国寺5世/洛西泉谷法蔵寺開山、近衛家熙邸の文人、画僧、1721「破草鞋」23「柿本寺歌塚縁起」30「西山晚艸」、33「秀吉冠服図」画、「霞の衣」「漁家傲」、「和白毫庵村居詩」「東麓樵集」「竹隠詩藁」「釣雪間稿」「海雲晚香」「海雲和尚西山晚艸略」、「百拙和尚結制録」「百拙和尚語録」「百拙和尚山居詩」「百拙和尚詩集」「百拙和尚漫録」著、[百拙元養の別法諱/号]別法諱;子蓮(;初法諱)/祖蓮/元椿、号;海雲/釣雪/葦菴叟
- M1872 元養(げんよう;通称・柴田しばた)?- ? 江中期小児科医、1770「小児方」、「小児方幹」著
- M1873 元庸(げんよう・和田わた) ? - ? 江後期陸中遠野の医者:京の吉益南涯門、傷寒論に精通、1826「三世医譚」「傷寒論精義外伝」、「方機」「和山道中記行」著、元庵の父
- M1874 玄洋(げんよう;通称・永松ながまつ)?- ? 江後期佐賀の蘭方医者:ポンペ門、「活人円機療則篇」訳
- 元養(げんよう;法諱) → 賢洲(けんしゅう;道号・元養、黄檗僧) J 1 8 5 0
- 元要(げんよう;法諱) → 玄堂(げんどう;道号・元要、黄檗僧) L 1 8 8 6
- 元用(げんよう;法諱) → 大活(だいかつ;道号・元用、黄檗僧) B 2 6 1 7
- 元養(げんよう・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5
- 元庸(げんよう・吉井) → 元庸(もとつね・吉井よい、国学/神道家) D 4 4 1 8
- 元庸(げんよう・海老江) → 元庸(もとつね・海老江えびえ、藩士/歌人) J 4 4 4 0
- 元曄(玄曄げんよう・後藤) → 象二郎(しょうじろう・後藤、藩士/政治家) J 2 2 9 1
- 元耀(げんよう;初法諱) → 是法(ぜほう;法諱、浄土僧/歌人) E 2 4 7 3
- 玄庸(げんよう・西) → 玄甫(げんぼ・西にし、通詞/外科医) M 1 8 2 4
- 玄容(げんよう・中山) → 和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者) M 1 5 1 7
- 玄要(げんよう・飯川) → 寥廓(りょうかく・飯川いかわ、医者/故実) G 4 9 8 8
- 巖瑤坊(げんようぼう) → 織江(おりえ・佐竹さたけ、巖瑤房、修験/尊攘) D 1 4 9 3
- 兼翼(げんよく → かねすけ・周布) → 政之助(まさのすけ・周布すぶ、藩政改革) F 4 0 4 8
- 倦翼(げんよく・吉田) → 巖澤(そうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
- N1827 玄昱(げんよく/げんいく・里村;北家、里村玄碩の養嗣子)?-? 幕府連歌師/1816出仕
- M1875 兼頼(けんらい/かねより・樋口)?- ? 江前期桑名俳人:1673頃名古屋住、尾張談林で活動、1681「熱田宮雀」編
- 兼頼(けんらい・東儀/太秦) → 兼頼(かねより・東儀とうぎ、楽人) P 1 5 1 2
- 頭頼(けんらい・葉室/藤原) → 頭頼(あきより・葉室/藤原、廷臣/歌人) 1 0 8 9
- 元頼(げんらい・観世) → 元頼(もとより・観世かんぜ、能楽/章句本) E 4 4 8 4
- F1801 玄覧(げんらん・増井ますい、名;勝之、増井重之の養嗣子)1721-7353 豊前小倉藩士/儒;石川麟洲門、1749書院番格/59藩主の書斎思永斎教授・学頭/小姓組格/73致仕、「玄覧詩集」「玄覧文集」「四孝子記」「神宮院記」「孝子吉兵衛記事」「石増二先生文鈔」著、[玄覧の字/通称/別号]字;彦敬、通称;十左衛門、別号;玄覧斎
- 元鸞(げんらん;法諱) → 玉鳳(ぎよくほう;道号・元鸞、黄檗僧) P 1 6 3 7

- 玄覧(げんらん・荻生) → 北溪(ほっけい・荻生おぎゅう、徂徠弟、儒者) E 3 9 5 8  
 兼覧王(けんらんおう) → 兼覧王(かねみのおおきみ、歌人) 1 5 7 5  
 玄覧斎(げんらん・増井) → 玄覧(げんらん・増井ますい、儒者/詩) F 1 8 0 1  
 兼覧王母(けんらんおうのはは) → 兼覧王母(かねみのおおきみのはは、惟喬親王妻) G 1 5 8 3  
 兼覧王女(けんらんおうのむすめ) → 兼覧王女(かねみのおおきみのむすめ) G 1 5 8 4
- 1854 見里(けんり) ? - ? 大阪俳人、1691賀子「蓮実はずのみ」5句入  
 [二つめの嘆くさめ悔しや萩の露](蓮実:秋314/嘆二つ目は憎まれもの)
- E1858 見利(けんり) ? - ? 江中期俳人/雑俳:麴町連の主評者、  
 1796-7川柳評「古今前句集」に選句入(「見利評万句合」の一部)  
 兼利(けんり・諏訪) → 兼利(かねとし・諏訪すわ、藩家老/歌人) O 1 5 7 1
- D1824 元理(げんり;道号、俗姓;武田)?-1566後90歳? 山城菱田の臨濟僧;大徳寺特芳禅傑門、  
 連歌、1537能親伊予千句;第七唐何百韻発句、51義隆「宮島千句」参;発句、  
 1555「梅千句」56「大覚寺和漢千句」参加、61「飯盛千句」64「石山千句」参加、  
 周桂/宗養/紹巴らと交流、俳諧;「寒川入道筆記」入、  
 [お座敷を見れば大略おほそ神無月](「寒川入道筆記」入)  
 (神無月に髪無し)の僧形を掛ける)
- M1876 元理(げんり;名・遠藤えんどう)?- ? 江戸前期本草学者、京御幸町御池の製菓業、  
 「度量衡攷」「度量権衡考」/1681「本草辨疑」著
- M1877 元理(げんり・岡田おかだ、通称;半大夫)1732-180271 上州伊勢崎藩家老、儒;村士玉水門、藩政改革、  
 藩校学習堂の学頭、「甲冑本源伝」著、「邨士先生学話」編  
 玄理(げんり・高向) → 黒麻呂(玄理くろまろ・高向たかむこ、飛鳥期学者) B 1 7 8 6  
 玄利(げんり/はるとし・良岑よしみね) → 素性(そせい;法諱、廷臣/僧/歌人) 2 5 2 3  
 玄利(げんり・武田) → 元理(げんり・武田、臨濟僧) D 1 8 2 4  
 幻裡庵(げんりあん) → 日善(にちぜん;法諱、護法院、日蓮僧/国学) C 3 3 6 9  
 玄理院(げんりいん) → 頼亮(よりあきら・松平、藩主/藩政改革) I 4 7 3 5  
 検里斎(けんりさい・佐竹) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9
- M1878 研立(けんりつ;法諱・午嶺ごれい;号)?-? 江中期寛政1789-1801頃能登の真宗僧、  
 1794「欣浄厭穢」編
- E1859 軒流(けんりゅう) ? - ? 江前期京の俳人:雑俳、  
 1696円水「住吉おどり」入-91江水「元禄百人一句」目録入
- M1879 賢隆(けんりゅう;法諱) 1649 - ? 1696存 江前期真言僧:澄禅門、「悉曇初学考要」著、  
 「悉曇十八章生起枢要」、1696「悉曇考要」「悉曇摩多体文初学考要」著
- M1880 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、名;政武、和充男)1689-175971 京西洞院の医業、1724「医療羅合」編、  
 「拾玉智恵海」/1724「拾玉新智恵海」「拾玉続智恵海」編/26「眼目精要」編/28「背紐うしろひも」、  
 1728上坂某「新撰何曾遊なぞあそび背紐うしろひも」序、「小児医療手引草」「妙薬博物筌」外著多数、  
 [見隆(;字)の通称/号]通称;慎蔵、号;以求子/呂求子/以楽子/慎斎
- M1881 見龍(けんりゅう・伊東いとう、名;玄当、大庄屋伊東伝内男)1700-5758 出羽酒田の生/伊東玄の養子、  
 1731家督;藩医、1742「医学蒙求」/56「医学通元自序」、「医学則」「癩病治方秘録」著、  
 [見龍(;通称)の別通称/号]別通称;好礼/以德、号;千淵/竹斎/楽水
- M1882 見龍(けんりゅう・湖鏡楼;号)?- ? 江中期江戸俳人:湖十門/江戸座、1736「雪月花」編
- M1883 見龍(けんりゅう/けんりょう・太田おた、名;長丸ながまる)1725-181288 武蔵埼玉樋遣川村の医者、  
 漢学;沙門義周門、医;江戸の益田大記門/和方の医者として活動、国学者、  
 1804「御室大神縁起」07「神道奇霊伝しんとうきらいでん」、「治方要集」「病家全要」著
- M1884 見龍(けんりゅう・広瀬ひろせ、字;伯鱗/白鱗)?-? 江中期江戸の医者、1776「非十四経辨」著、  
 「鍼術要領」「鍼術脉辨」「鍼術要旨」「経脉解」「傷寒鍼術辨」「八脉辨」著
- B1825 賢隆(けんりゅう・山川やまかわ)? - ? 1809存 江中後期会津藩士;山川友人賢英の養嗣子、  
 「蝦夷錦」「唐太島奇覧」/1809「唐太島土産」著、  
 [賢隆(;名)の通称/号]通称;左兵衛、号;東雲
- M1885 見龍(けんりゅう・野呂のろ、名;公鱗こうりん)1734-182087 野呂恒窩の養子、伊勢桑名の医者、  
 医;大阪見宜堂学寮入、伊勢長島藩医、詩文/歌/画を能くす、春木南湖・十時梅厓と交流、

「有馬紀行」「金城漫録」著、  
[見龍(；通称)の字/号]字；子敬、号；雲山

- E1861 **拳六**(けんりゅう・最一もいつ、李雄子)?-? 洒落本作者、1800「南遊記」(:靖中庵丹波桃溪画)  
兼留(けんりゅう・中原) → 兼留(かねとめ・中原なかはら、商家/歌人) V 1 5 2 1  
兼隆(けんりゅう・野々山) → 兼隆(かねたか・野々山ののやま/源/小浜、幕臣/歌) W 1 5 5 5  
兼隆(けんりゅう・吉田) → 兼隆(かねたか・吉田よしだ/卜部、神職) C 1 5 8 1  
顕隆(けんりゅう・藤原) → 顕隆(あきたか・藤原、廷臣/歌人) 1 0 6 8  
賢隆(けんりゅう;法諱) → 興巖(こうがん;・賢隆、曹洞宗僧) I 1 9 0 8  
賢隆(けんりゅう・三宅) → 賢隆(かたか・三宅、藩士/和算家) M 1 5 9 7  
見龍(けんりゅう) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9  
見龍(けんりゅう) → 未龍(みりゅう・柳下泉、狂歌) 4 1 4 7  
見龍(けんりゅう・田中) → 成之(しげゆき・田中、藩医/本草家) T 2 1 0 4  
見龍(けんりゅう・田中) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医) L 2 0 4 4  
見龍(けんりゅう;字) → 日富(にっぶ;法諱・福寿院、日蓮僧) F 3 3 5 2  
見龍(けんりゅう・松崎) → 明(あきら・松崎まつき、医者/詩文) E 1 0 1 8  
見龍(けんりゅう・石井) → 隆庵(りゅうあん・石井/山田、藩医/詩) C 4 9 6 7  
見龍(けんりゅう・小笠原) → 以忠(これただ・小笠原おがさわら/源、国学) Q 1 9 4 0  
硯竜(けんりゅう・関島) → 成章(なりあきら・関島せきじま、藩右筆) H 3 2 0 3  
乾竜(けんりゅう;字) → 日乘(にちじょう;法諱・養徳院、日蓮僧) C 3 3 3 8
- D1825 **元流**(げんりゅう) ? - ? 俳人:1662元隣らと四吟百韻「身の楽千句」
- M1886 **玄隆**(げんりゅう;法諱、俗姓;石井)?-? 日蓮宗:顕本法華、会津直方庵住、  
1691「日什上人伝」著
- M1888 **玄隆**(げんりゅう・後藤) ? - ? 江前期京の俳人:友貞門/貞門系、「闇夜船千句」著
- D1829 **玄立**(げんりゅう・里村さとむら;北家、紹尹男、玄心嗣)?-? 幕府連歌師、1727出仕
- M1889 **玄隆**(げんりゅう・中西なかにし、平右衛門男/本姓天野)?-? 江中期備中矢掛の医者、  
俳諧:1744「誹諧雪下芽」著、  
[玄隆の通称/別号]通称;松右衛門、別号;安養軒
- M1890 **元竜**(げんりゅう・三上みかみ、通称左太夫)?-1794 備中岡山藩士/学識あり/奇人、  
1790「撃剣叢談」「泊放録」著
- M1891 **玄隆**(げんりゅう;通称・藁科わらしな) 1763-? 江中期羽前米沢藩医、本草;佐藤中陵門、  
1830「本草考彙」著
- E1860 **元立**(げんりゅう・武谷たけや) 1785-1852 68 蘭学、医、昭陽と親交、1818-35「空石日記」入、  
豊蘭いらいらの父
- M1892 **玄竜**(げんりゅう・草鹿くさか、名;宣瓊/字;希玉、玄泰男) 1791-1869 79 加賀医者;父門、  
上京;三角滄洲門、漢学;大野癡山門/1809家督:40加賀大聖寺藩医学頭/藩主侍読/65致仕、  
詩人/能書、「炉辺閑話」「遯斎詩稿」「瘦園文集」「浴泉日話」「耳順稿」著、  
[玄竜(；通称)の別通称/号]別通称;孚、号;三松/竹浦/遯斎とんさい
- M1893 **玄竜**(げんりゅう・高こう) ? - ? 江後期1804-18頃河内の医者:寄生虫研究、  
1807「虫鑑」著
- M1894 **玄竜**(元竜げんりゅう・小沼こぬま、名;亨)?-? 江後期本草家:曾占春門、「医言」「聞見抄録」著、  
師の著書目録を編纂;「占春著述目録」編、「眼科薬品品質義」「品物名選」著
- M1895 **元竜**(げんりゅう・藤倉ふじくら、名;立言)?-? 江後期下総佐倉藩儒医;江戸住/詩人、  
1837「丙申集」著  
[元竜(；通称)の字/号]字;次公、号;癖玉
- N1870 **玄隆**(げんりゅう・倉島くらしま、) 1827-1884 58 信濃埴科郡戸倉村の医者、国学、  
[玄隆(；名)の通称/号]通称;今朝太郎、号;稟翁りんおう
- 源立(げんりゅう;法名・然蓮社) → 道残(どうざん;法諱、浄土僧) E 3 1 6 9  
源流(げんりゅう・森) → 尹祥(まさよし・森/源、幕臣/書家) I 4 0 5 8  
元竜(げんりゅう・大野) → 拙斎(せつさい・大野/紀、医者/儒者) E 2 4 3 2  
元竜(げんりゅう・賀来) → 玉淵(ぎよくえん・賀来かく、醸造家/儒者) O 1 6 8 0

- 元竜(げんりゅう;通称) → 它谷(だこく、俳人) O 2 6 9 1  
元竜(げんりゅう・賀来) → 玉淵(ぎよくえん・賀来かく、醸造家/儒者) O 1 6 8 0  
元竜(げんりゅう・関) → 養軒(ようけん・関せき、儒/藩校創設) 4 7 7 4  
元隆(げんりゅう・坂/細川) → 元隆(もとたか・細川/源/坂、幕臣/医者) C 4 4 8 1  
元隆(げんりゅう・近藤) → 棠軒(とうけん・近藤、儒者/経史) D 3 1 3 5  
元隆(玄隆げんりゅう) → 観山(かんざん、茶人) Q 1 5 7 7  
元隆(げんりゅう/もとたか・林) → 敬斎(けいさい・林はやし、医/儒/俳人) F 1 8 6 2  
元隆(げんりゅう・高木) → 元隆(もとたか・高木たかぎ、商家/歌人) K 4 4 3 8  
元立(げんりゅう・武谷) → 濃蘭(ねいらん・武谷たけや、元立男/蘭医) 5 1 7 0  
玄竜(げんりゅう・佐々木) → 玄竜(げんりゅう・佐々木、書家/幕府儒官) M 1 8 8 7  
玄竜(げんりゅう・武内/玉川) → 瀨斎(こうさい・玉川/武内、儒者) I 1 9 8 7  
玄竜(げんりゅう・大橋) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩) O 3 1 4 1  
玄竜(げんりゅう・玉中) → 春緒(はるお・玉中たまなか、医者/国学) K 3 6 4 4  
玄立(げんりゅう・村上) → 玄水(げんすい・村上むらかみ、藩士/蘭方医) K 1 8 2 8  
玄隆(げんりゅう;字・馬場) → 信意(のぶのり・馬場、軍記作者) C 3 5 7 1  
巖隆(げんりゅう・可部) → 赤瀨(あかに・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0  
彦竜(げんりゅう/げんりゅう:道号) → 周興(しゅうこう:法諱・彦竜、臨濟僧) H 2 1 3 2  
乾隆院(げんりゅういん) → 忠晴(ただはる・諏訪すわ、藩主/詩人) F 2 6 6 5  
見竜院(げんりゅういん) → 日歛(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 1 2  
見竜院(げんりゅういん) → 日裕(にちゆう;法諱・竜海、日蓮僧) D 3 3 3 5  
見竜院(げんりゅういん) → 雄興(かつおき・土方ひじかた、藩主/歌人) V 1 5 4 9  
建竜院(げんりゅういん/こん-) → 日富(にっふ;法諱・眞浄院、日蓮僧) F 3 3 5 1  
源立院(げんりゅういん) → 行孝室(ゆきたかのしつ・細川ほそかわ、藩主室/歌) E 4 6 6 7
- M1896 **見龍齋**(げんりゅうさい・庭田にわた、見竜子)?-? 江中期1751-81頃の易占家、  
1753・54「日月卦伝鈔」著、58「人間未来記」編/78「袖珍墨色考」著  
玄竜齋(げんりゅうさい・葛飾) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1  
言流舎(げんりゅうしゃ) → 迎祥(げいしょう・小林こばやし、俳人/書家) G 1 8 1 2  
彦竜周興(げんりゅうしゅうこう) → 周興(しゅうこう:法諱、臨濟僧) H 2 1 3 2
- M1897 **兼了**(げんりゅう;法諱・実悟じつご;字、後法諱;兼俊、称;中将、兼寿[蓮如]男) 1492-1583<sup>92</sup> 加賀真宗僧、  
本泉寺蓮悟の養嗣/1503出家/加賀清沢願徳寺住職/権少僧都/権大僧都、歌人、  
1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加、「拾塵記」「兼俊筆記」「本願寺昔物語」著、  
1580「実悟記」「蓮如上人御歌縁起」著、80「蓮如上人一期記」編、  
[松に吹く風の音より秋更けて身にしみ初そむる夜半の月影](永禄歌合;  
月前松風/二番左;権大僧都兼俊名)
- M1898 **兼涼**(げんりゅう・猪苗代?) ? - ? 1613存 連歌師:兼与と同座、「講秘集」著
- M1899 **堅亮**(けんりょう;法諱・造真ぞうしん;字、号;松響しょうひ) 1741-97<sup>57</sup> 紀伊名草郡真宗僧;松専寺に生、  
有田郡本願寺派安楽寺11世/具舎・唯識に精通、詩;祇園南海門、  
「高僧和讃講録」「浄土和讃補忘記」「領解文略辨並問調」著、「松響しょうひ遺稿」
- N1800 **顕了**(けんりょう;法諱・法名;性蓮社/宝誉)?-1831 浄土僧:大念寺・浄福寺・伝通院壇林の住職歴任、  
1823増上寺59世;24香衣騒動/辞職隠居/30再任、「願生寺伝」「当麻曼荼羅極略談」著、  
1815「浄土宗円頓戒玄談」「両脈玄談」、「勅修円光大師御伝便覧」著
- N1801 **健良**(けんりょう・田丸) 1774 - 1846<sup>73</sup> 上総国吉町今関の医者:1795江戸の富永健章門、  
1818出家/僧衣で往診/詩歌、1833「房総志料続篇」、「西方紀行詩集」「極楽道中記」著、  
「天台八祖伝集」「本草綱目改正」「薬品考」「寿毛録」「傷寒論」「素問必用」「医学心法」著、  
[健良(;通称)の号] 無著庵むぢやくあん/松庵/見性
- N1862 **賢亮**(けんりょう・梅之本うめのもと、号;田辺山守彦) 1833-? 三河幡豆郡の生/国学;平田鉄胤門、  
幡豆郡の宝泉寺住僧/歌人、信濃伊那郡に住  
顕良(けんりょう・藤原) → 顕良(あきよし・藤原) C 1 0 6 1  
顕良(けんりょう・伊吹) → 顕良(あきよし・伊吹いぶき、歌人) G 1 0 7 7

- 賢良(げんりょう;法名) → 義忠(よしただ・畠山/源、武将/幕臣/歌) 4 7 1 4  
賢良(げんりょう・森) → 直樹(なおき・森もり、藩絵師) P 3 2 0 9  
兼良(げんりょう・一条) → 兼良(かねよし/かねら・一条、撰関/歌学者) 1 5 3 7  
兼良(げんりょう/かねよし・高野) → 立斎(りつさい・高野たかの、藩士/天文家) B 4 9 8 5  
見竜(げんりょう) すべて → 見龍(げんりゅう) で記載  
権亮(げんりょう・慶徳) → 訓夫(のりお・慶徳けいとく/度会/村上、神職/歌) I 3 5 3 5
- E1862 元良(げんりょう;法諱・最岳さいがく;道号、号;巢雲) ?-1657 臨濟僧;以心崇伝門/嗣法、五山文学、1623南禅寺274世/33南禅寺塔頭金地院住寺/35僧録職、幕府の「寛永諸家系図伝」編纂参加、1623後水尾勅命「翰林五鳳集」崇伝・利峰らと共編、1609和漢聯句、「最岳道春等聯句」、「大林和尚塔銘」「沢庵禅師塔銘」、「最嶽和尚雜貨」「最岳和尚語録」著/「最岳和尚遺稿」、「最岳元良の諡号」 正宗大興禅師
- N1802 玄了(げんりょう;法諱) ? - ? 江前期越後?の真宗僧:誓願寺円智門、初期大谷派学僧/贈嗣講、1666「讚阿弥陀仏偈蛙井記」著
- M1887 玄竜(げんりょう・佐々木ささき) 1650- 1723 74 江戸の書家/幕府儒官、1711/19韓人と唱酬、1721致仕、1680「瀟湘帖」83「玄竜書八景詩並歌」、「韓客贈答集」「池庵吟筒集」著、「三体通式」「歴代書家伝」「佐々木玄竜筆」「孟魯軒略草法点形図鈔」著、文山の兄/千二郎の父、  
[玄竜(;名)の字/通称/号]字;煥甫/行、通称;万次郎/万二郎、号;池庵/法号;領春院
- N1803 玄寮(げんりょう) ? - ? 俳;1689「あら野(曠野)」2句入  
[上あげ土にいつの種とて麦一穂ひとほ] (あら野;三)  
玄寮の誤記? → 玄察(げんさつ、尾張俳人) J 1 8 1 8
- N1881 元亮(げんりょう・鈴木すずき、号;観空) 1717-63 47 河内の鍼医、大坂住、歌人;羽間ばさま重義しげよし(宗意)・有賀あるが長伯門
- N1804 元良(げんりょう・吉田よしだ) ? - ? 大阪堂島船大工町住人、1800「児訓実語教」著、元佑と親族? → 元佑(げんゆう・吉田よしだ、文筆家) M 1 8 6 4
- N1805 元亮(げんりょう;通称・中村なかむら/初姓;原、中村太室の養子) 1776-1839 64 安藝賀茂郡内海村の医者、長崎の檜林栄哲門/広島藩医中村太室に才を認められ養子/1718家督/藩主の侍医、頼春水・杏坪と交流、「天行下利病之考標題」著
- N1806 元良(げんりょう・樋口ひぐち、名;器) ?-? 江後期肥後熊本医者;熊本藩侍医、1805「医林蒙求」著、  
[元良(;通称)の字/別通称]字;季成、別通称;丹台
- N1807 元良(元亮/玄良げんりょう・平野ひらの、名;重誠) ?-1867 江戸両国薬研堀の医者;多紀元堅門、1835「養生訣」37「玉の卯槌」53「硝石製煉法」54「革谿医砭かくけいいん」65「大日本開闢由来記」、1866「一夕医話」、「延寿帯効用略記」「救急摘方」「診脈辯義」「養生要略」「支号方函」著、  
[元良(;通称)の字/号] 字;子公、  
号;革谿/桜寧/黙翁/革谿道人/扱善居/一夢道人指漏漁者/桜寧室主人/真観舎/無適道人
- 彦良(げんりょう・源) → 彦良(ひこよし・源、廷臣/歌人/連歌) 3 7 7 6  
彦竜(げんりょう;道号) → 周興(しゅうこう;法諱・彦竜、臨濟僧) H 2 1 3 2  
元亮(げんりょう・荻野) → 梅塙(ばいゆう・荻野おぎの、幕臣/天台) 3 6 5 8  
元亮(げんりょう・武田) → 梅竜(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0  
元亮(げんりょう・武田/龍) → 公美(きんえ・龍たつ/りゅう、儒者/詩人) E 1 6 8 7  
元亮(げんりょう・今大路) → 暘谷(ようこく・今大路いまおおじ、医;典薬頭) 4 7 8 4  
元亮(げんりょう・長谷川) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6  
元亮(げんりょう・佐藤) → 一米(いちべい・五大庵、佐藤常範/神職/俳) J 1 1 1 8  
元亮(げんりょう・三枝) → 峻徳(しゅんとく・三枝さいぐさ、藩医/教育) L 2 1 6 8  
元亮(げんりょう・今井) → 政典(まさのり・今井いまい、歌人) N 4 0 7 9  
元亮(げんりょう・碓井) → 維貞(これさだ・碓井うすい、医者/国学) Q 1 9 3 8  
元亨(げんりょう・雪門) → 元亨(げんこう;法諱・雪門;道号、黄檗僧) I 1 8 7 4  
元良(げんりょう・田中/沓掛) → 夢嶽(むがく・沓掛くつかけ/田中、藩医) 4 2 3 4  
元良(げんりょう・近藤) → 名洲(めいしゅう・近藤こんどう、心学者) 4 3 2 0  
元良(げんりょう・野本) → 雪巖(せつがん・野本のもと、藩儒/詩人) E 2 4 1 2

- 元良(げんりょう・藤) → 元良(もとよし・藤とう、鍼灸医) E 4 4 7 2  
元良(げんりょう・多久) → 元良(もとよし・多久たく、医者/国学) K 4 4 3 5  
元量(げんりょう・後藤) → 元量(もとかず・後藤ごとう、神職/国学/歌) J 4 4 9 8  
元陵(げんりょう・白木) → 蘭溪(らんけい・白木しらき、藩儒) B 4 8 8 4  
玄良(げんりょう;法名) → 基恒(もとつね・齋藤/藤原、幕臣/日記) D 4 4 1 5  
玄良(げんりょう・小山) → 雨譚(うたん・小山こやま、医者/川柳) B 1 2 0 1  
玄良(げんりょう・玉中) → 春緒(はるお・玉中たまなか、医者/国学) K 3 6 4 4  
玄良(げんりょう・山下) → 玄良(はるよし・山下やました、医者) K 3 6 9 2  
玄良(げんりょう・大橋/小森) → 桃塙(とうやう・小森こもり、蘭方医/御典医) B 3 1 1 8  
玄良(げんりょう・碓井) → 維徳(これのり・碓井うすい、医者/歌人) Q 1 9 3 9  
玄陵(げんりょう・内田) → 則明(のりあき・内田うちだ、医者/国学) H 3 5 5 1  
賢良院(けんりょういん;法号) → 正殷(まさただ・六郷ろくごう、藩主/歌) M 4 0 8 1  
源了院(げんりょういん) → 高慶(たかやす・毛利もうり、藩主/歌) N 2 6 5 3  
建凌岱(けんりょうたい、画号) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8
- D1826 **見林**(けんりん・松下まつした、名;慶/慶撰/秀明、見朴男/本姓;橘) 1637-1703<sup>67</sup> 大阪天満の医者;父門、1649上京;古林見宜門/1657京堀川で開業、儒・国典・歴史を研究;講説、蔵書、1665「論奥辨証」80「古語拾遺私考」、88「異称日本伝」編、97「太玉命社記」、「学原」外著多数、[見林(;通称)の字/号]字;諸生、号;西峰山人、真山しんざんの養父
- N1808 **賢林**(けんりん・清水しみず、名;綱)?- ?1801-04頃没 越後蒲原郡早通村の医者/上京/詩:江村北海門、京の本願寺侍医、詩書、「錦遊詩稿」著、由斎の従祖父  
賢林(けんりん・清水) → 由斎(ゆうさい・清水しみず、医者/俳人) B 4 6 7 9
- N1809 **元輪**(げんりん;法諱) ? - ? 鎌倉後期法相僧、叡尊の口伝を論拠に論述;「表無表詳口抄」著
- D1827 **元隣**(げんりん・山岡やまおか、名;新三郎/字;徳甫とくほ) 1631-1672<sup>42歳</sup> 伊勢山田の商人の家系:病身のため家業を廃し上京、儒学修学、俳諧・歌・古典:季吟門;高弟/1666俳諧宗匠となる、のち医業;春庵(岡本道治門)門、仮名草子;「他我身たがみの上」「小さかつき」著、俳文「宝蔵」著、俳諧;1662「身楽みらく千句」「誹諧小式」「歌仙そろへ」/「随葉集大成」著、古典注釈;「伊勢物語余抄」「源氏物語家伝抄」「徒然草鉄槌増補」「吉野独案内」「歴代異考」、「今川抄」「今川諺解大成」外著多数、1672「諸国独吟集」(没後長男元恕が遺稿を整理出版)、[福は馬の角 牛の玉もあれど近くは金銀米銭の事也とや 故に儒者は礼儀にまぎらはしてたくはへ 法師は功德にかこちてむさぼれり](1671宝蔵) [花咲かぬ身はなくばかり犬ざくら](身楽千句)、 [元隣の別号] 玄水(;医号)・而愠(じうん)斎・洛陽山人・抱甕(ほうおう)斎
- N1810 **元麟**(元麟げんりん・原はら、字;子振)?-? 江後期江戸の医者、傷寒論研究、1798「傷寒論図説」、1808「傷寒論精義」、「傷寒論方則」「傷寒論彙攷」「傷寒論意翼」「吾堂方鑑」外著多数、 [元麟(;名)の号] 吾堂/昭々房
- 源麟(げんりん、みなもとりん) → 東江(とうかう・沢田/平/源、書家/詩) 3 1 1 0  
玄麟(元麟げんりん;法諱・滔天) → 滔天(とうてん;道号・玄麟、臨濟僧) G 3 1 7 0  
玄麟(げんりん・中川) → 淳庵(じゆんあん・中川、医者/蘭学者) J 2 1 1 9  
玄林(げんりん;通称・小野) → 東溪(とうけい・小野、儒者) D 3 1 0 7  
言倫(げんりん・吉田) → 言倫(こととも・吉田よしだ、史家) N 1 9 2 8  
彦倫(げんりん/ひことも?・江村/樋口) → 道立(どうりゅう・樋口、俳人/儒者) I 3 1 2 5  
彦倫(げんりん/ひことも?・宇田川) → 道紀(みちのり・宇田川うだがわ、漢方医) C 4 1 2 6  
元倫(げんりん・松崎) → 明(あきら・松崎まつさき、医者/詩文) E 1 0 1 8  
元隣(げんりん・古屋野) → 意春(いしゆん・古屋野こやの、医者) F 1 1 6 5  
元隣(げんりん・松田) → 五松(ごしょう・松田まつだ、国学/俳人) M 1 9 7 9  
元琳(げんりん・長井/工藤) → 球卿(きゅうけい・工藤/長井、藩儒/医者) M 1 6 4 5  
源林公(げんりんこう;諡) → 高慶(たかやす・毛利/久留島、藩主/歌) N 2 6 5 3
- 01807 **玄類**(げんるい・仁木につき、) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、冷泉為久門の歌学者仁木充長みつながと同族?、

[契来し星合の空もかきくもりまだ見ぬ先に袖ぬらすらん](麓の塵;秋198)

- N1811 **顕令**(けんれい;道号・通憲つうけん;法諱、?)-1681 臨濟僧;建仁寺306世、「点雲集」、「顕令和尙語録」著、  
[顕令通憲の号] 横渠/鳥巢/点雲
- N1829 **賢励**(けんれい;法諱) ? - ? 江後期真宗大谷派僧;伊勢下町浄円寺住職、  
1831「御文四帖目第十五通大坂建立章講義」著
- 賢嶺(けんれい;法諱) → 風紫(ふうし;号、真宗僧/俳人) 3 8 7 6  
賢励(けんれい・大賀) → 旭川(ぎよくせん・大賀、藩士/儒者) J 1 6 1 0  
劍嶺(けんれい・片岡) → 眞鉄(まがね・片岡、儒医/仮名研究) 4 0 5 5
- N1812 **元嶺**(げんれい;法諱・円常;道号)?-1722 三河曹洞僧;7歳で出家;嶺雲寺年室門、  
尾張正眼寺26世、「正眼寺歴代住山記」著
- N1813 **元齡**(げんれい;通称・江馬えま、松斎男)1812-8271 大垣藩医、洋学館教授、  
蘭齋の孫/藤渠の弟、叔母に細香;詩;梁川星巖/頼山陽門、「佩文余滴」「文叢小話」著、  
「黄雨楼文集」「黄雨楼詩鈔」、「金粟題画詩鈔」「簡易捷徑最有神益」著  
[元齡(;通称)の名/号]名;桂、号;金粟/黄雨楼主人、
- N1814 **玄齡**(げんれい・田辺たなべ、名;宗毅)1827-190074 周防水上の医者;熊野春齡門、山口で開業/詩歌、  
「昨日の花」「落梅日記」著  
[玄齡(;通称)の別通称/号]別通称;秀藏、号;百枝/宗竹/愛雨窓
- 元礼(げんれい・三浦) → 迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
元礼(げんれい・山本) → 楽所(らくしょ・山本やまもと、藩儒) B 4 8 2 2  
元礼(げんれい・里井) → 孝幹(たかもと・里井、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2  
元礼(げんれい・木原) → 老谷(ろうこく・木原きはら/柴沼、儒者) 5 2 2 8  
元礼(げんれい・太田) → 惟隆(これたか・太田おた、幕府医者/歌) Q 1 9 1 3  
元礼(げんれい・黒瀬) → 元礼(もとみや・黒瀬くろせ、商家/国学者) J 4 4 9 3  
元令(げんれい・阿部) → 玄達(げんたつ・阿部/井上、医者) L 1 8 0 0  
元齡(げんれい・岡) → 雀汀(かてい・岡おか、儒者/詩人) K 1 5 2 2  
元齡(げんれい・西島/下条) → 蘭溪(らんけい・西島にしじま/下条、儒者) B 4 8 8 7  
言霊(げんれい・ことだま) → 富春(とみはる・小神おがみ、神道/歌人) O 3 1 9 3  
彦礼(元礼・赤崎) → 海門(かいもん・赤崎あかさき、儒者/歌) E 1 5 4 5  
源礼(げんれい・松浦) → 道輔(みちすけ・松浦まつうら/安倍、国学者) B 4 1 6 7  
玄鶴齋(げんれいさい) → 其鶴(きかく・松室まつむろ/小倉、国学) V 1 6 2 7
- D1828 **建礼門院徳子**(けんれいもんいんとくこ、平清盛二女)1155-121359 母;時子、高倉天皇の皇后、  
安德天皇の母、1185壇ノ浦で母や安德天皇らと入水;助けられ京で剃髪;  
真如覚と号/洛北大原寂光院に住、「平家物語灌頂卷」入  
建礼門院右京大夫(けんれいもんいんのうききょうのだいふ) → 右京大夫(うききょうのだいふ、歌人) 1 2 0 2  
言霊有功老翁(げんれいゆうこうろうおう) → 道磨(みちまる・田中、国学/歌人) 4 1 1 7  
見櫟(けんれき・松下) → 真山(しんざん・松下/坂上、儒者/医者) E 2 2 3 3  
兼廉(けんれん・広橋) → 兼廉(かねかど・広橋/藤原、廷臣/日記) O 1 5 4 1  
兼蓮(けんれん) → 兼行(かねゆき・藤原/楊梅やまもも、歌人) D 1 5 1 5  
兼連(けんれん・吉田) → 兼敬(かねゆき・吉田/ト部うらべ、神職) D 1 5 1 8  
憲連(けんれん・宅間) → 憲連(のりつら・宅間たくま/西村、幕臣) I 3 5 9 8  
元鍊(げんれん;法諱) → 大拙(だいせつ;道号・元鍊、黄檗僧) T 2 6 8 0  
遣蓮社(けんれんしゃ;法号) → 雲頂(うんちやう;法諱、喚誉慈風/浄土僧) D 1 2 9 6  
謙蓮社(けんれんしゃ;法号) → 仏定(ぶつじやう;法諱、浄土僧) D 3 8 3 6  
建蓮社玄誉晋阿(けんれんしゃげんよしんあ) → 行誠(ぎやうかい;法諱・福田、浄土僧) N 1 6 4 6  
憲蓮社章誉至眞(けんれんしゃしやうよしん) → 了秀(りやうしゅう;法諱、浄土僧) 4 9 6 7  
阮鎌人(げんれんじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
- E1801 **言藪**(げんろ) ? - ? 俳;1691北枝「卯辰集」入  
[雨降りていつまで濡るる木蓮花(もくれんげ)]
- E1885 **元魯**(げんろ;法諱) ? - ? 江中期臨濟僧;白隠慧鶴門、首座、

白隠「槐安国語」校訂・註釈/「槐安国語骨董稿」編

- B1883 **元魯**(げんろ・尚しやう) ? - ? 琉球漢詩文;1843「東遊草」鄭元偉・魏学賢と共編  
玄路(げんろ・竹原/小野)→ 玄路(はるみち・竹原/小野、藩改革/歌人) G 3 6 9 4  
元盧(げんろ;法諱) → 遂翁(すいおう;道号・元盧、臨濟僧) E 2 3 1 8  
元輅(げんろ・石川) → 侃齋(かんさい・石川いしかわ、絵師) D 1 5 6 7  
賢朗(げんろう・建部) → 賢朗(かたあき・建部たけべ/佐々木、幕臣) M 1 5 8 7
- I1843 **元朗**(げんろう;法諱・覺天/颯天かくてん;道号) 1657-1745<sup>89</sup> 彦根黄檗僧;月潭道澄門、1713直指庵3世、  
1724仙台大年寺7世/33山城養雲庵住持、1721「心華剩録」編、「覺天和尚大年寺語録」著
- N1815 **玄楼**(げんろう;道号・奥竜おうれゅう;法諱、俗姓;村上) 1720-1813<sup>長寿94</sup> 志摩鵜方の禅僧;  
初め1728(9歳)臨濟僧、のち32(13歳)曹洞僧;長寿寺齡峰門/諸師に参禅/象山問厚門;嗣法、  
但馬西福寺住寺、1801宇治興聖寺22世;家風辛辣のゆえ[狼玄楼]と称さる、  
1803大坂当陽軒に退隱、「和泥編」「驅獅虫論」「不萌草原」「鉄笛倒吹」「鉄綿団」著、  
「一槌碎瓦」「玄楼禅師臨在家語」外著多数、  
[玄楼(げんろう;道号)の号]号;蓮蔵海、通称;狼玄楼
- N1816 **玄朗**(げんろう;法諱) 1794 - ? 1836<sup>存</sup> 近江彦根真宗本願寺僧;竜泉寺住職、  
歌:村田泰足門、「亀百首」著  
元朗(げんろう・熊本) → 華山(かざん・熊本くまもと/熊ゆう、儒者/詩) L 1 5 7 0  
元朗(げんろう・大武) → 葆光(ほこう・大武おおたけ、儒者) E 3 9 1 4  
元朗(げんろう・永野/富田)→ 春山(しゅんざん・富田、医者/詩人) K 2 1 8 2  
元朗(げんろう・水野) → 元朗(もとあきら・水野みずの、家老/儒者) C 4 4 0 2  
彦郎(げんろう・松岡) → 時懋(ときよし/ときしげ・松岡まつおか、神職/歌) W 3 1 4 8  
拳六(げんろく・最一) → 拳六(げんりゅう・最一もいつ、洒落本作者) E 1 8 6 1
- F1819 **源六**(げんろく・西村にしむら、号;文刻堂/屋号;奥村屋) ?-? 江中期江戸通本町の書肆・地本問屋、  
俳書・双紙出版、1728「金の麿」著、88「其角七部集」編
- N1817 **源六**(げんろく・佐々木ささき、名;雅文) ?-? 江戸中期長州藩士/儒者、「釈菜儀註」著  
源六(げんろく) → 李東(りとう、庄屋/俳人) C 4 9 2 2  
源六(げんろく・川崎) → 千虎(ちとら・川崎、絵/故実家) F 2 8 0 7  
源六(げんろく・石橋) → 桃郷(とうきやう・石崎、旅籠主人/俳人) C 3 1 8 2  
源六(げんろく・内神屋) → 九筋(きゅうせつ・内神屋、商家/俳人) C 1 6 0 8  
源六(げんろく・川崎) → 千虎(ちとら・川崎かわさき、絵師/故実家) F 2 8 0 7  
源六(げんろく・飯塚) → 桃葉(とうよう・飯塚いづか、蒔絵師) S 3 1 9 8  
源六(げんろく・西宮) → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3  
玄禄(玄六げんろく・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3
- N1845 **源六郎**(げんろくろう・高木たかぎ/本姓;源、名;三宜or三宣) ?-? 江後期幕臣;勘定評定所留役、歌人、  
1858(安政5)信濃の千曲川氾濫で稲荷山と杭瀬下神殿との境界不明;幕府の調査;  
その調査役人総勢37名の1人として派遣;調査後に歌を詠む;  
[更級や治田の神にむさむけて里やすかれと祈りつるかな](治田神社に歌碑)  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[春雨の夜のまに晴れて朝日影さすがに梅もにほひそめてき](大江戸倭歌;春140)、  
[いたづらに月日はすぎの古机何今更に塵やはらはん](同;雑1818)  
[天の川としのためしにかへてまたここにも渡せかささぎの橋](同;雑1963、  
弘化三[1846]の洪水に)  
玄六郎(げんろくろう・佐藤) → 行信(ゆきのぶ・佐藤、伊豆諸島蝦夷巡見) F 4 6 2 3  
源六郎(げんろくろう・太田) → 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7  
源六郎(げんろくろう・三宅) → 栄元(ひでもと・三宅みやけ、藩士/剣術家) L 3 7 3 3  
源六郎(げんろくろう・三宅) → 元茂(もとしげ・三宅みやけ/近藤、藩士/剣術) L 4 4 5 2  
源六郎(げんろくろう・寺山) → 杉雨(さんりゅう・寺山てらやま、俳人) L 2 0 7 7  
源六郎(げんろくろう・古橋) → 暉児(てるのり・古橋ふるはし、名主、篤農) F 3 0 2 3  
元魯山人(げんろさんじん) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4

蹇驢道人(けんろうどうじん) → 督宗(とくそう;道号・紹董(じょうとう)、臨濟僧) L 3 1 1 4  
玄和(げんわ・山下) → 玄和(はるかぜ・山下(やました)、医者) G 3 6 1 1  
元和(げんわ・板垣) → 元和(もとかず・板垣(いたがき)、歌人) I 4 4 8 7